令和５年度 第２回 青梅市介護保険運営委員会次第

令和５年７月２１日（金）
午後１時３０分～
青梅市役所議会棟大会議室

１　開　会

２　委嘱状交付

３　あいさつ（副市長）

４　議　題

(1) 協議事項

ア 青梅市地域包括支援センター事業運営業務委託事業者の選定について……【資料１】

イ 第９期青梅市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画策定にかかる調査結果について……【資料２】

ウ 青梅市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画策定部会の設置について……【資料３】

エ 高齢者保健福祉・介護保険事業を取り巻く現状と課題について……【資料４】

(2) 報告事項

ア 令和５年度第１回青梅市介護保険運営委員会議事要旨について……【資料５】

イ 介護保険の実施状況について……【資料６～11】
（①要介護認定について②介護保険料について③受給者および給付費の状況について④相談苦情受理状況⑤事故発生時の報告状況⑥市内介護サービス事業所数⑦地域密着型サービスの利用状況について）

ウ 青梅市地域包括支援センターの主な運営状況について…【資料 12】

エ 地域共生社会推進会議および地域福祉計画の進捗状況について……【資料 13】

５　その他

青梅市介護保険運営委員会委員名簿

（令和５年７月２１日現在）

氏　　名	条例による選出区分	所　属　団　体　等	備考
こ　やま　とみお 小　山　登美夫	被保険者の代表	青梅市高齢者クラブ連合会の代表	
き　むら　せい　じ 木　村　誠　志	被保険者の代表	青梅市民生児童委員合同協議会の代表	
おき　やま　　さとし 沖　山　　哲	被保険者の代表	市民から一般公募	
はし　もと　ま　ち　こ 橋　本　満智子	被保険者の代表	市民から一般公募	
こ　じま　なお　ゆき 小　嶋　直　之	事業者の代表	介護老人福祉施設の代表	
かく　た　あき　ふみ 角　田　昭　文	事業者の代表	地域密着型サービス連絡会の代表	
あい　ずみ　よし　あき 相　墨　欽　章	事業者の代表	青梅市ケアマネジャー連絡会の代表	
さか　もと　　りゅう 坂　本　　竜	事業者の代表	居宅サービス事業者の代表	
つち　だ　だい　すけ 土　田　大　介	学識経験者	青梅市医師会の代表	
もも　せ　すみ　お 百　瀬　澄　雄	学識経験者	青梅市歯科医師会の代表	
た　なか　みつ　ひろ 田　中　三　広	学識経験者	青梅市薬剤師会の代表	
あら　い　かず　お 新　井　一　夫	学識経験者	青梅市接骨師会の代表	
すが　ぬま　　たかし 菅　沼　　隆	学識経験者	大学教授等	
うえ　だ　たく　や 植　田　拓　也	臨時委員	地方独立行政法人　東京都健康長寿医療センター研究所	

資料２

第９期事業計画策定基礎調査結果報告書

令和５年７月

青　梅　市

目 次

Ⅰ 調査概要・・・

２　在宅生活改善調査
３　居所変更実態調査
４　介護人材実態調査

Ⅰ 調査概要

Ⅰ 調査概要

1 目的

日常生活圏域別に、高齢者の生活実態および課題等を把握するため、日常生活圏域ニーズ調査、在宅介護実態調査、介護サービス事業所調査等を実施し、令和５年度に策定する第９期青梅市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の基礎資料とする。

2 調査の方法と対象者

（1）調査方法

郵送配布、郵送回収

（2）調査期間

令和４年 12 月〇日から令和５年１月 20 日まで

（3）調査の種類および対象者・抽出数

	介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	在宅介護実態調査	介護サービス事業所調査
対象者	要介護１～５以外の高齢者	要支援１～要介護５の高齢者のうち、介護認定更新および区分変更対象者	市内の介護サービス事業所および施設
抽出数	3,200	773	147

3 調査項目

（1）介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

調査名	調査項目
【国の統一設問】	1　あなたのご家族や生活状況について 2　からだを動かすことについて 3　食べることについて 4　毎日の生活について 5　地域での活動について 6　たすけあいについて 7　健康について 8　認知症にかかる相談窓口の把握について
【市独自の設問】	9　介護サービスと住まい（暮らし）の意向について 10 生きがいや充実感、週１回以上の活動状況について 11 ボランティア活動について 12 介護ボランティア制度について 13 日常生活での不安・心配について 14 移動支援について 15 認知症の対策について 16 市が充実させるべき取り組みについて 17 フレイルについて

（2）在宅介護実態調査

調査項目
1　在宅限界点の向上のための支援・サービス提供体制 2　仕事と介護の両立に向けた支援・サービスの提供体制 3　保険外の支援・サービスを中心とした地域資源の整備 4　将来の世帯類型の変化に応じた支援・サービスの提供体制 5　医療ニーズの高い在宅療養者を支える支援・サービスの提供体制 6　サービスの未利用の理由など 7　自立支援に必要なサービス 8　サービス料金の支払方法

（3）介護サービス事業所調査

調査項目
1　事業所の概要および運営 2　サービスの提供 3　事業所と地域等の関わり 4　介護老人福祉施設等への質問 5　第９期計画に参入を検討しているサービス 6　地域貢献や災害対策 7　介護保険制度への自由意見 8　在宅生活改善調査 9　居所変更実態調査 10 介護人材実態調査

4 回収状況

	介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	在宅介護実態調査	介護サービス事業所調査
配布数	3,200	773	147
回収数	2,577	419	134
回収率	80.5%	54.2%	91.2%
有効票	2,577	419	134
白票・無効票	0	0	0

5　調査結果の表示方法

① 回答は各質問の回答者総数（N）を基数とした百分率（%）で示しています。なお、小数点以下第２位を四捨五入し小数第１位まで表示しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。

② 複数回答(２つ以上選んでよい設問)が可能な設問の場合、各選択肢ごとに回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。

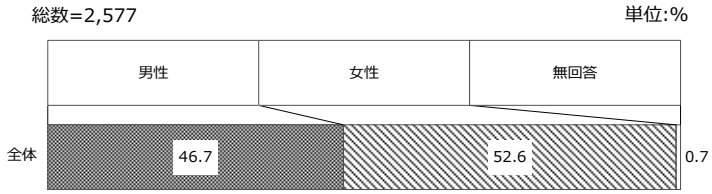
③ 回答が少数である場合の比率については、特定の意向が強く反映される傾向があることに留意してください。

Ⅱ 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

第１章　回答者の属性

１　性別

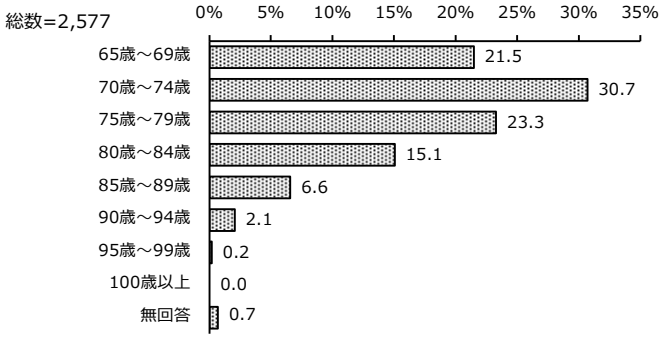
「女性」は 52.6%、「男性」は 46.7%となっています。



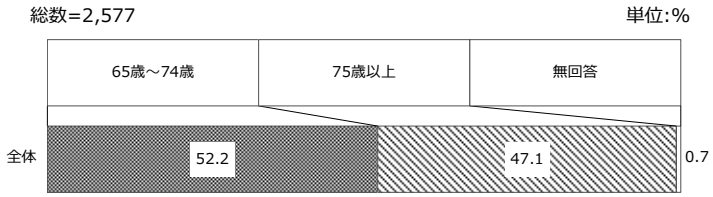
２　年齢

「70 歳～74 歳」が 30.7%で最も多く、「75 歳～79 歳」（23.3%）、「65 歳～69 歳」（21.5%）、「80 歳～84 歳」（15.1%）が続きます。

前期調査（第８期青梅市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画策定にかかる調査報告書を指す。以下同様。）と比較すると、「70 歳～74 歳」の比率が高くなり、「65 歳～69 歳」の比率が低くなっています。



これを「前期高齢者（65 歳～74 歳）」と「後期高齢者（75 歳以上）」に分けてみると、「65 歳～74 歳」は 52.2%、「75 歳以上」は 47.1%となっています。

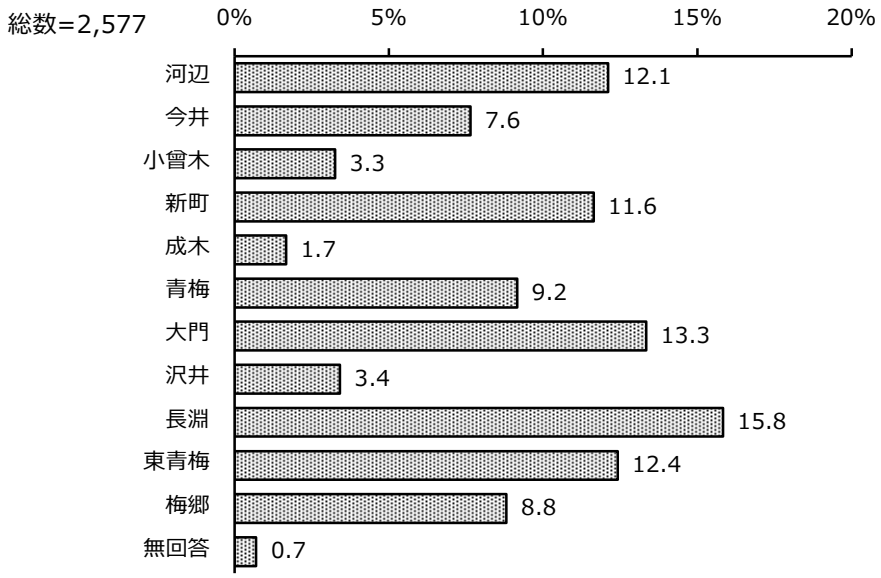


３　居住地区

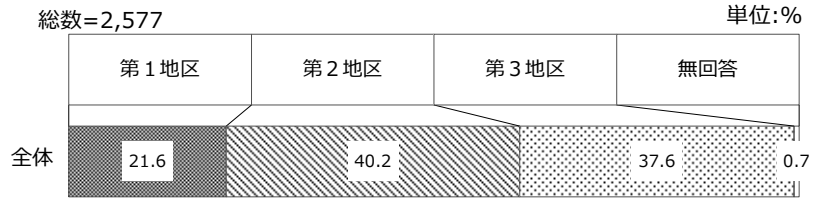
居住地区と日常生活圏域との関係は以下のようになっています。

区　分	地域包括支援センター	地　　区	地区名
第１地区	青梅市地域包括支援センター（青梅市役所　高齢介護課内）	勝沼、西分町、住江町、本町、仲町、上町、森下町、裏宿町、天ヶ瀬町、滝ノ上町、大柳町、日向和田	青梅地区
		東青梅、根ヶ布、師岡町	東青梅地区
第２地区	青梅市地域包括支援センターうめぞの（メディケア梅の園内）	駒木町、長淵、友田町、千ヶ瀬町	長淵地区
		畑中、和田町、梅郷、柚木町	梅郷地区
		二俣尾、沢井、御岳本町、御岳、御岳山	沢井地区
		河辺町	河辺地区
第３地区	青梅市地域包括支援センターすえひろ（青梅すえひろ苑内）	吹上、野上町、大門、塩船、谷野、木野下、今寺	大門地区
		富岡、小曾木、黒沢	小曾木地区
		成木	成木地区
		新町、末広町	新町地区
		藤橋、今井	今井地区

「長淵地区」が 15.8%で最も多く、「大門地区」（13.3%）、「東青梅地区」（12.4%）、「河辺地区」（12.1%）が続きます。

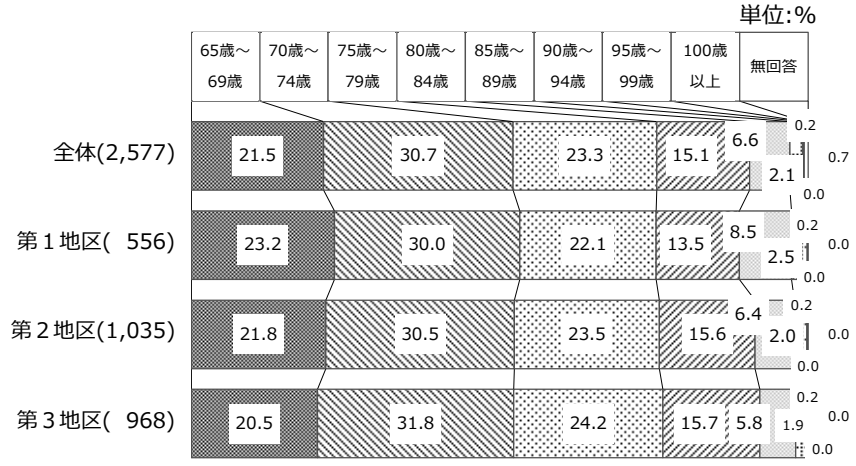


これを日常生活圏域の地区ごとにまとめると、「第２地区」が 40.2%で最も多く、「第３地区」（37.6%）、「第１地区」（21.6%）の順となっています。



※ 日常生活圏域からみた年齢区分

後期高齢者の比率は「第３地区」が最も高く、次いで「第２地区」「第１地区」となっています。



4　事業対象者・要支援認定者

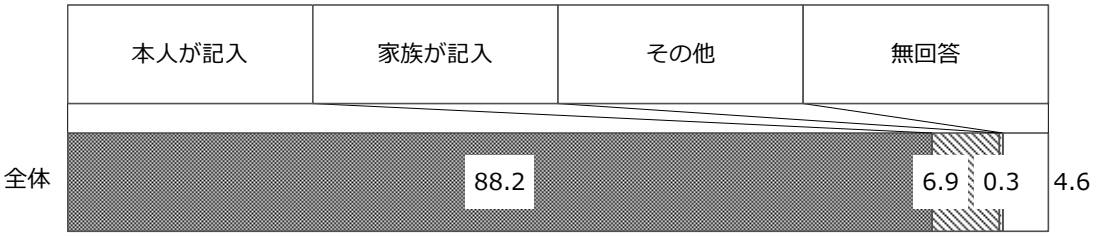
「事業対象者」は 0.2%、「要支援１」は 2.9%。「要支援２」は 2.3%となっています。

		全体	事業対象者	要支援1	要支援2	無回答
全体		2,577	0.2	2.9	2.3	94.6
居住地区	第１地区	556	0.2	3.1	2.7	94.1
	第２地区	1,035	0.3	2.9	2.4	94.4
	第３地区	968	0.1	2.9	1.9	95.1
	無回答	18	-	-	-	100.0

5　記入者

「本人が記入」が 88.2%で最も多く、「家族が記入」（6.9%）、「その他」（0.3%）が続きます。

総数=2,577　　単位:%



第２章　調査結果の詳細

§　国の統一設問

1 あなたのご家族や生活状況について

（1）家族構成

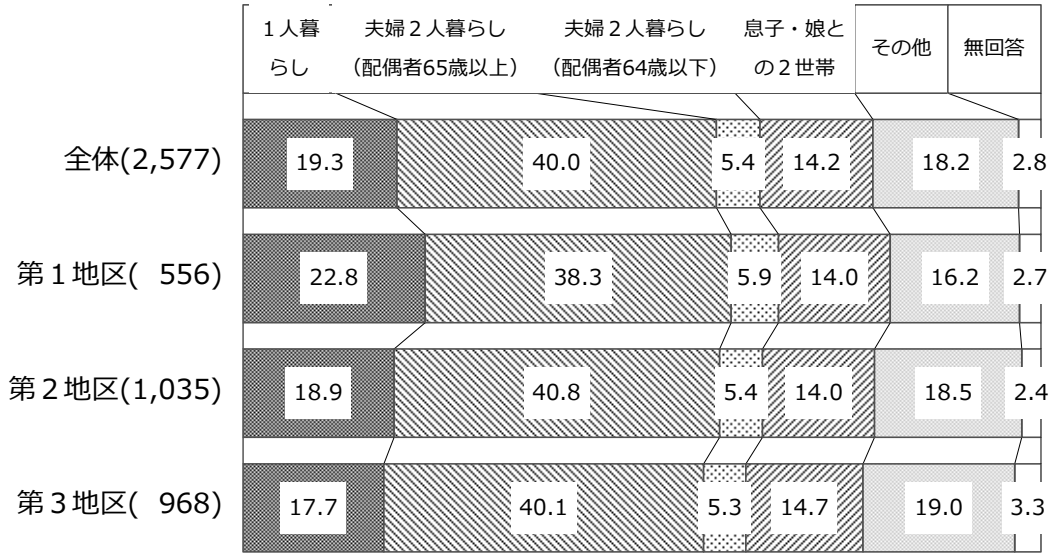
家族構成をお教えください

「夫婦２人暮らし（配偶者 65 歳以上）」が 40.0%で最も多く、「１人暮らし」（19.3%）、「その他」（18.2%）、「息子・娘との２世帯」（14.2%）が続きます。

これを地区別にみると、「第１地区」では「１人暮らし」「夫婦２人暮らし(配偶者 65 歳以上)」の割合が他の地区と比較して高くなっています。

前期調査と比較すると、「夫婦２人暮らし（配偶者 65 歳以上)」、「１人暮らし」の比率が若干高くなっています。

単位:%



地区を 11 区分でみると以下のようになりました。

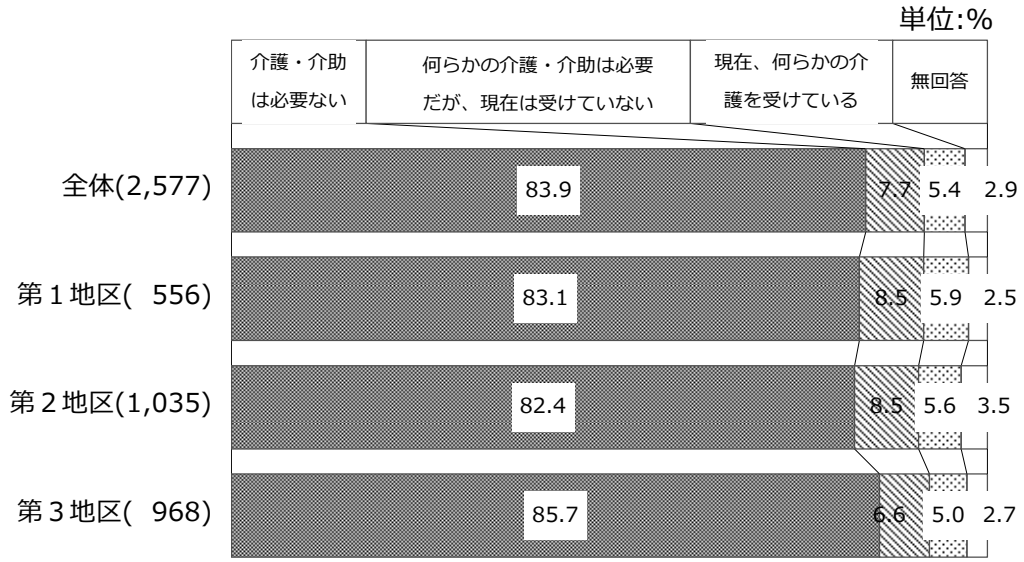
	全体	1人暮らし	夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）	夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）	息子・娘との2世帯	その他	無回答
全体	2,577	497	1,032	140	366	470	72
	100.0	19.3	40.0	5.4	14.2	18.2	2.8
青梅	236	50	88	16	29	43	10
	100.0	21.2	37.3	6.8	12.3	18.2	4.2
東青梅	320	77	125	17	49	47	5
	100.0	24.1	39.1	5.3	15.3	14.7	1.6
長淵	408	82	154	26	52	82	12
	100.0	20.1	37.7	6.4	12.7	20.1	2.9
河辺	312	65	142	14	35	50	6
	100.0	20.8	45.5	4.5	11.2	16.0	1.9
梅郷	227	33	90	13	44	42	5
	100.0	14.5	39.6	5.7	19.4	18.5	2.2
沢井	88	16	36	3	14	17	2
	100.0	18.2	40.9	3.4	15.9	19.3	2.3
大門	344	62	132	17	44	76	13
	100.0	18.0	38.4	4.9	12.8	22.1	3.8
新町	300	57	136	14	41	44	8
	100.0	19.0	45.3	4.7	13.7	14.7	2.7
今井	197	26	72	14	38	43	4
	100.0	13.2	36.5	7.1	19.3	21.8	2.0
小曾木	84	19	30	4	13	12	6
	100.0	22.6	35.7	4.8	15.5	14.3	7.1
成木	43	7	18	2	6	9	1
	100.0	16.3	41.9	4.7	14.0	20.9	2.3
無回答	18	3	9	-	1	5	-
	100.0	16.7	50.0	-	5.6	27.8	-

（2）介護・介助の要否

あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか

「介護・介助は必要ない」が 83.9%で最も多く、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」（7.7%）、「現在、何らかの介護を受けている」（5.4%）が続きます。

地区別では、「現在、何らかの介護を受けている」と回答した割合は「第 1 地区」が最も高く、次いで「第 2 地区」「第 3 地区」の順となっています。



地区を 11 区分でみると以下のようになりました。

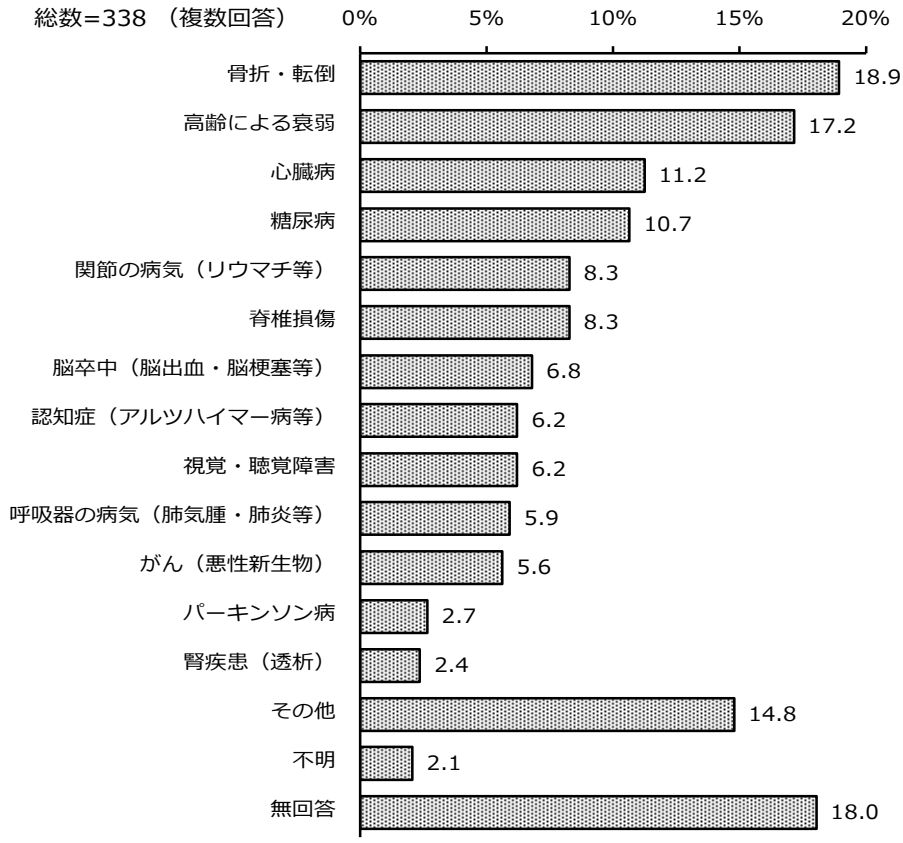
	全体	介護・介助は必要ない	何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない	現在、何らかの介護を受けている	無回答
全体	2,577	2,163	199	139	76
	100.0	83.9	7.7	5.4	2.9
青梅	236	194	21	14	7
	100.0	82.2	8.9	5.9	3.0
東青梅	320	268	26	19	7
	100.0	83.8	8.1	5.9	2.2
長淵	408	345	30	18	15
	100.0	84.6	7.4	4.4	3.7
河辺	312	251	29	19	13
	100.0	80.4	9.3	6.1	4.2
梅郷	227	190	17	16	4
	100.0	83.7	7.5	7.0	1.8
沢井	88	67	12	5	4
	100.0	76.1	13.6	5.7	4.5
大門	344	293	21	17	13
	100.0	85.2	6.1	4.9	3.8
新町	300	261	19	14	6
	100.0	87.0	6.3	4.7	2.0
今井	197	174	14	7	2
	100.0	88.3	7.1	3.6	1.0
小曾木	84	64	7	9	4
	100.0	76.2	8.3	10.7	4.8
成木	43	38	3	1	1
	100.0	88.4	7.0	2.3	2.3
無回答	18	18	-	-	-
	100.0	100.0	-	-	-

（2-1）介護・介助が必要になった原因

【（2）において「1．介護・介助は必要ない」以外の方のみ】
①介護・介助が必要になった主な原因はなんですか（いくつでも）

「骨折・転倒」が 18.9%で最も多く、「高齢による衰弱」（17.2%）、「心臓病」（11.2%）、「糖尿病」（10.7%）が続きます。

前期調査では「骨折・転倒」は２位、「高齢による衰弱」が１位となっていました。



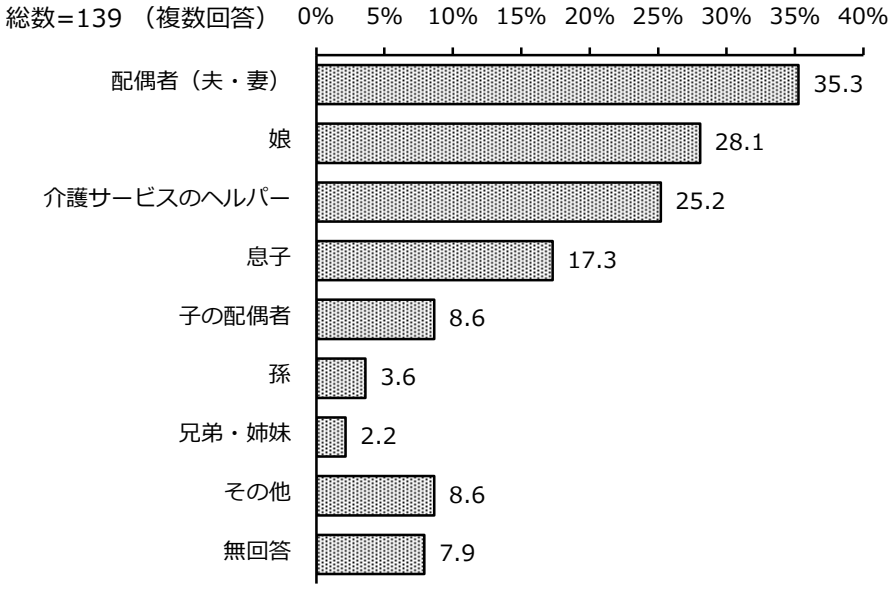
地区別でみると、「第１地区」「第２地区」では「骨折・転倒」が、「第３地区」では「高齢による衰弱」が最も高くなっています。

	全体	脳卒中（脳出血・脳梗塞等）	心臓病	がん（悪性新生物）	呼吸器の病気（肺気腫・肺炎等）	関節の病気（リウマチ等）	認知症（アルツハイマー病等）	パーキンソン病	糖尿病	腎疾患（透析）	視覚・聴覚障害	骨折・転倒	脊椎損傷	高齢による衰弱	その他	不明	無回答
全体	338	6.8	11.2	5.6	5.9	8.3	6.2	2.7	10.7	2.4	6.2	18.9	8.3	17.2	14.8	2.1	18.0
第１地区	80	8.8	11.3	2.5	3.8	5.0	6.3	2.5	12.5	-	2.5	22.5	7.5	11.3	20.0	2.5	17.5
第２地区	146	4.8	8.9	8.2	6.8	6.2	6.8	1.4	6.8	2.7	9.6	20.5	9.6	18.5	15.1	1.4	17.8
第３地区	112	8.0	14.3	4.5	6.3	13.4	5.4	4.5	14.3	3.6	4.5	14.3	7.1	19.6	10.7	2.7	18.8
無回答	-	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*

（2-2）主な介護者・介助者

【（2）において「3. 現在、何らかの介護を受けている」の方のみ】
②主にどなたの介護、介助を受けていますか（いくつでも）

「配偶者（夫・妻）」が 35.3%で最も多く、「娘」（28.1%）、「介護サービスのヘルパー」（25.2%）、「息子」（17.3%）が続きます。



地区別でみると、全体的に「配偶者(夫・妻)」が高く、また「第２地区」では「介護サービスのヘルパー」、「第３地区」では「娘」が他の地区と比較して高くなっています。

		全体	配偶者（夫・妻）	息子	娘	子の配偶者	孫	兄弟・姉妹	介護サービスのヘルパー	その他	無回答
全体		139	35.3	17.3	28.1	8.6	3.6	2.2	25.2	8.6	7.9
居住地区	第１地区	33	30.3	12.1	27.3	9.1	3.0	3.0	21.2	15.2	9.1
	第２地区	58	39.7	19.0	24.1	8.6	3.4	-	32.8	5.2	10.3
	第３地区	48	33.3	18.8	33.3	8.3	4.2	4.2	18.8	8.3	4.2
	無回答	-	*	*	*	*	*	*	*	*	*

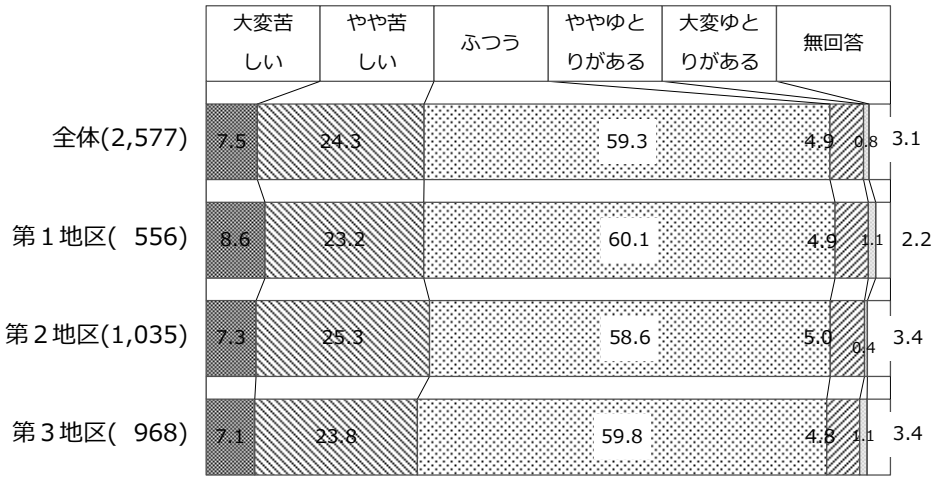
（3）経済の状況

現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか

「ふつう」が 59.3%で最も多く、「やや苦しい」（24.3%）、「大変苦しい」（7.5%）、「ややゆとりがある」（4.9%）が続きます。

地区別でみると、「大変苦しい」「やや苦しい」の合計は「第２地区」が最も高く、次いで「第１地区」「第３地区」となっています。

単位:%



（4）住居形態

お住まいは一戸建て、または集合住宅のどちらですか

「持家（一戸建て）」が 71.8%で最も多く、「持家（集合住宅）」（13.3%）、「民間賃貸住宅（集合住宅）」（5.2%）、「公営賃貸住宅」（3.8%）が続きます。

前期調査と比較すると、「持家（一戸建て）」の比率が下がり、「持家（集合住宅）」が上がっています。

地区別でみると、「第１地区」では他の地区と比較して「持家(集合住宅)」が、「第２地区」では「公営賃貸住宅」が、「第３地区」では「持家(一戸建て)」がそれぞれ他の地区と比較して高くなっています。

		全体	持家（一戸建て）	持家（集合住宅）	公営賃貸住宅	民間賃貸住宅（一戸建て）	民間賃貸住宅（集合住宅）	借家	その他	無回答
全体		2,577	71.8	13.3	3.8	0.4	5.2	1.4	1.3	2.9
居住地区	第１地区	556	61.7	25.4	0.4	1.1	7.0	0.9	1.6	2.0
	第２地区	1,035	71.2	12.0	6.7	0.2	3.9	1.6	1.4	3.1
	第３地区	968	78.0	7.6	2.8	0.2	5.7	1.3	1.1	3.2
	無回答	18	77.8	16.7	-	-	5.6	-	-	-

また、11 区分地区でみると、以下の結果になりました。

	全体	持家（一戸建て）	持家（集合住宅）	公営賃貸住宅	民間賃貸住宅（一戸建て）	民間賃貸住宅（集合住宅）	借家	その他	無回答
全体	2,577	1,849	342	98	10	135	35	34	74
	100.0	71.8	13.3	3.8	0.4	5.2	1.4	1.3	2.9
青梅	236	172	43	2	5	4	1	4	5
	100.0	72.9	18.2	0.8	2.1	1.7	0.4	1.7	2.1
東青梅	320	171	98	-	1	35	4	5	6
	100.0	53.4	30.6	-	0.3	10.9	1.3	1.6	1.9
長淵	408	304	53	8	2	10	6	6	19
	100.0	74.5	13.0	2.0	0.5	2.5	1.5	1.5	4.7
河辺	312	139	69	57	-	27	6	5	9
	100.0	44.6	22.1	18.3	-	8.7	1.9	1.6	2.9
梅郷	227	214	2	4	-	1	3	1	2
	100.0	94.3	0.9	1.8	-	0.4	1.3	0.4	0.9
沢井	88	80	-	-	-	2	2	2	2
	100.0	90.9	-	-	-	2.3	2.3	2.3	2.3
大門	344	257	17	22	2	25	2	6	13
	100.0	74.7	4.9	6.4	0.6	7.3	0.6	1.7	3.8
新町	300	201	57	-	-	22	8	3	9
	100.0	67.0	19.0	-	-	7.3	2.7	1.0	3.0
今井	197	184	-	2	-	6	-	-	5
	100.0	93.4	-	1.0	-	3.0	-	-	2.5
小曾木	84	71	-	3	-	2	2	2	4
	100.0	84.5	-	3.6	-	2.4	2.4	2.4	4.8
成木	43	42	-	-	-	-	1	-	-
	100.0	97.7	-	-	-	-	2.3	-	-
無回答	18	14	3	-	-	1	-	-	-
	100.0	77.8	16.7	-	-	5.6	-	-	-

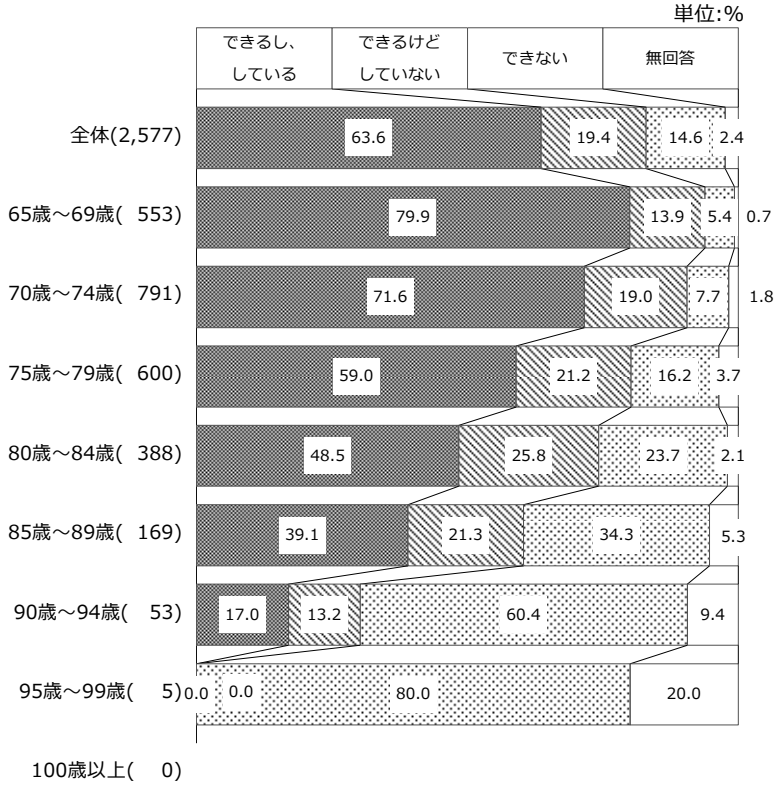
2 からだを動かすことについて

（1）階段の昇り方

階段を手すりや壁をつたわらずに昇っていますか

「できるし、している」が 63.6％で最も多く、「できるけどしていない」（19.4％）、「できない」（14.6％）が続きます。

年齢区分でみると、年齢が上がるにしたがい「できるし、している」の構成比が下がり、「できない」の構成比が上がっています。



地区別では、どの地区も同じような割合で、大きな差は見られません。

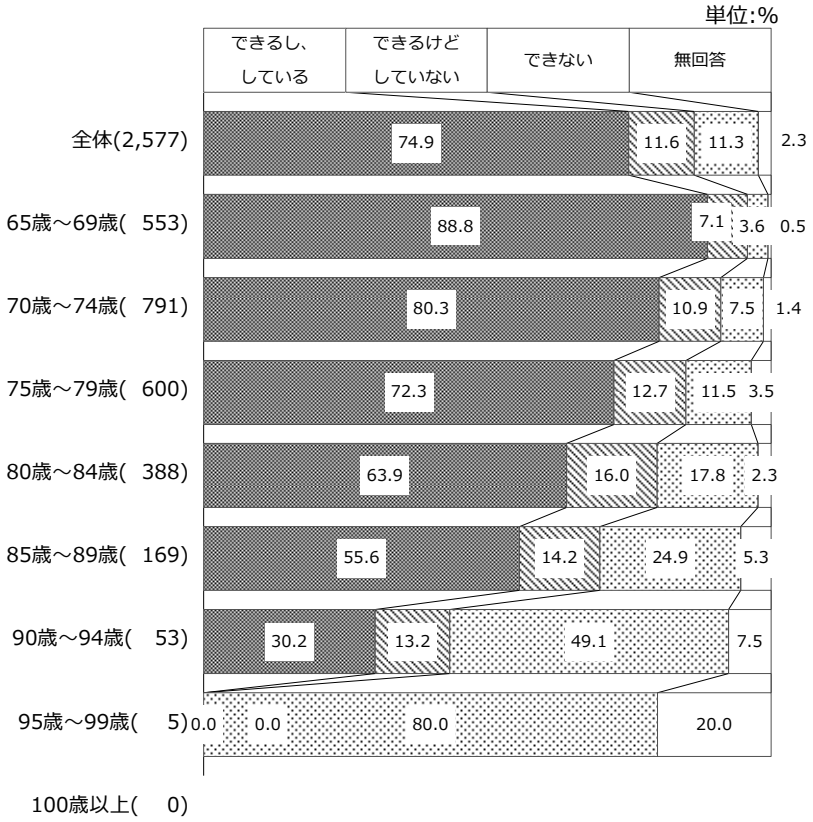
		全体	できるし、している	できるけどしていない	できない	無回答
全体		2,577	63.6	19.4	14.6	2.4
居住地区	第１地区	556	65.5	16.9	16.0	1.6
	第２地区	1,035	63.4	19.2	14.4	3.0
	第３地区	968	62.5	21.1	14.0	2.4
	無回答	18	72.2	16.7	11.1	-

（2）椅子からの立ち上がり

椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか

「できるし、している」が 74.9％で最も多く、「できるけどしていない」（11.6％）、「できない」（11.3％）が続きます。

年齢区分でみると、年齢が上がるにしたがい「できるし、している」の構成比が下がり、「できない」の構成比が上がっています。



地区別では、どの地区も同じような割合で、大きな差は見られません。

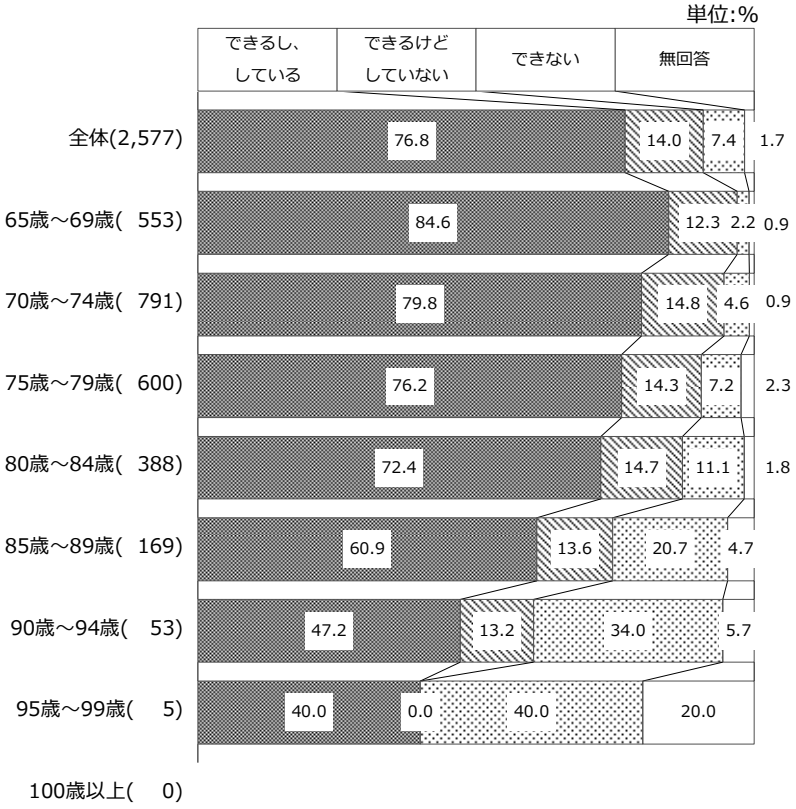
		全体	できるし、している	できるけどしていない	できない	無回答
全体		2,577	74.9	11.6	11.3	2.3
居住地区	第１地区	556	74.6	11.7	12.2	1.4
	第２地区	1,035	74.2	11.4	11.7	2.7
	第３地区	968	75.9	11.5	10.3	2.3
	無回答	18	66.7	22.2	5.6	5.6

（3）歩ける時間

15 分位続けて歩いていますか

「できるし、している」が 76.8%で最も多く、「できるけどしていない」（14.0%）、「できない」（7.4%）が続きます。

年齢区分でみると、年齢が上がるにしたがい「できるし、している」の構成比が下がり、「できない」の構成比が上がっています。



地区別では、どの地区も同じような割合で、大きな差は見られません。

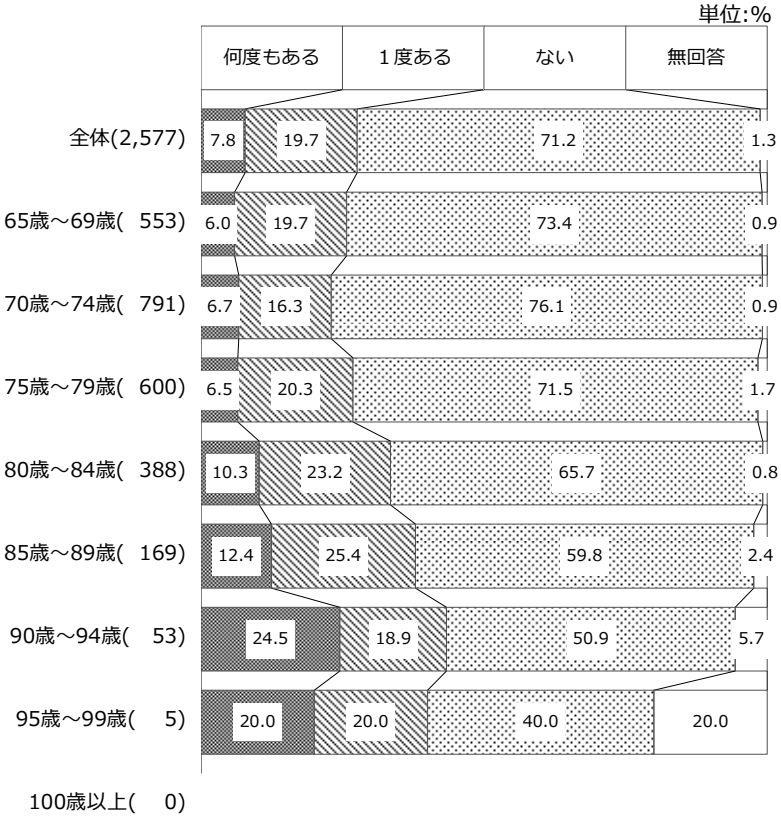
		全体	できるし、している	できるけどしていない	できない	無回答
全体		2,577	76.8	14.0	7.4	1.7
居住地区	第１地区	556	79.5	11.5	7.7	1.3
	第２地区	1,035	76.4	14.2	7.1	2.3
	第３地区	968	75.8	15.2	7.5	1.4
	無回答	18	72.2	16.7	11.1	-

（4）転倒の有無

過去１年間に転んだ経験がありますか

「ない」が 71.2%で最も多く、「１度ある」（19.7%）、「何度もある」（7.8%）が続きます。

年齢区分でみると、年齢が上がるにしたがい「ない」の構成比が下がり、「何度もある」の構成比が上がる傾向にあります。



地区別では、「第１地区」で「１度ある」「何度もある」の割合が、他の地区と比較して若干高くなっています。

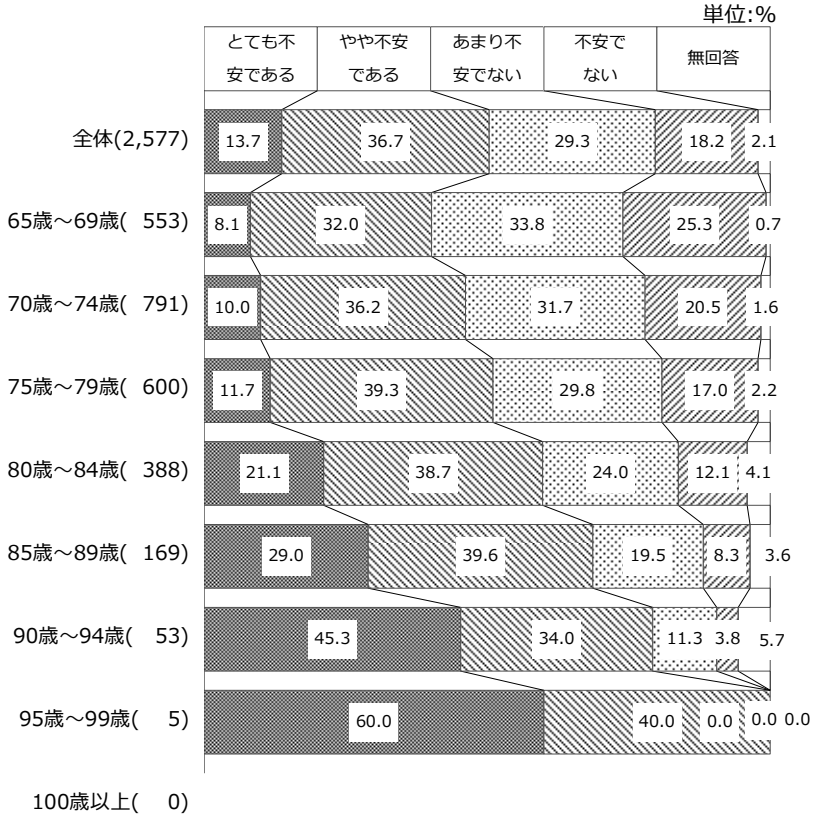
		全体	何度もある	1度ある	ない	無回答
全体		2,577	7.8	19.7	71.2	1.3
居住地区	第１地区	556	8.8	20.3	70.3	0.5
	第２地区	1,035	7.7	18.7	72.1	1.4
	第３地区	968	7.3	20.4	70.8	1.5
	無回答	18	11.1	22.2	66.7	-

（５）転倒に対する不安

転倒に対する不安は大きいですか

「やや不安である」が 36.7%で最も多く、「あまり不安でない」（29.3%）、「不安でない」（18.2%）、「とても不安である」（13.7%）が続きます。

年齢区分でみると、年齢が上がるにしたがい「とても不安である」の構成比が上がり、「不安でない」の構成比が下がっています。



地区別では、「第１地区」で「とても不安である」「やや不安である」の割合が、他の地区と比較して若干高くなっています。

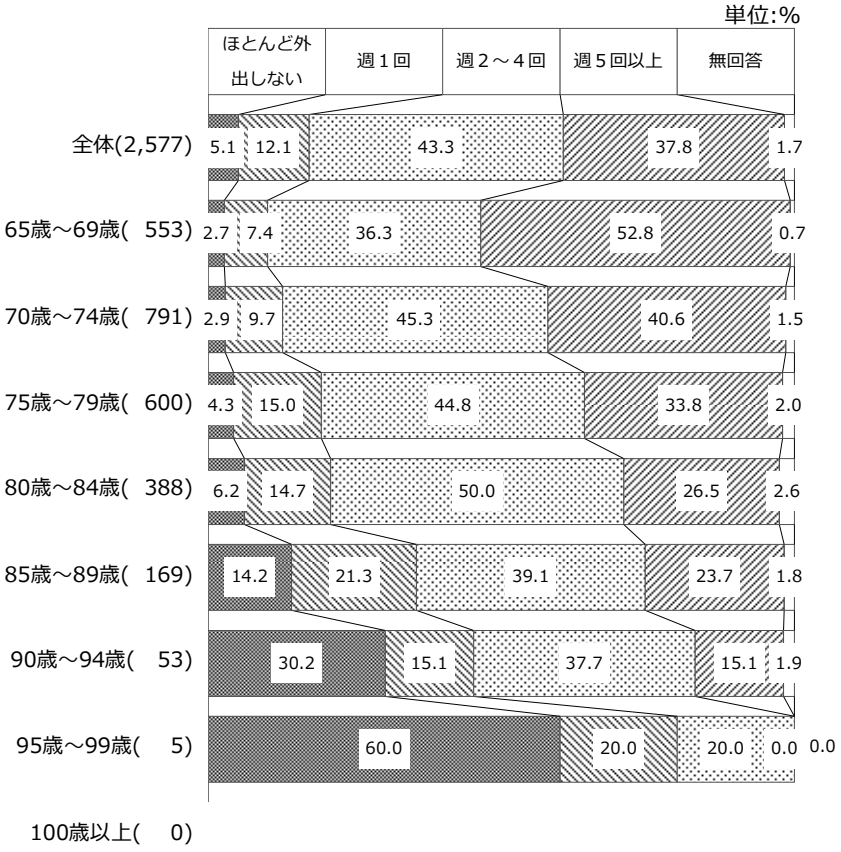
		全体	とても不安である	やや不安である	あまり不安でない	不安でない	無回答
全体		2,577	13.7	36.7	29.3	18.2	2.1
居住地区	第１地区	556	14.7	36.7	29.1	17.4	2.0
	第２地区	1,035	14.0	36.8	28.8	18.4	2.0
	第３地区	968	12.9	36.3	29.9	18.6	2.4
	無回答	18	5.6	50.0	38.9	5.6	-

（６）外出状況

週に１回以上は外出していますか

「週２～４回」が 43.3%で最も多く、「週５回以上」（37.8%）、「週１回」（12.1%）、「ほとんど外出しない」（5.1%）が続きます。

年齢区分でみると、年齢が上がるにしたがい「ほとんど外出しない」の構成比が上がり、「週５回以上」の構成比が下がっています。



地区別では、どの地区も同じような割合で、大きな差は見られません。

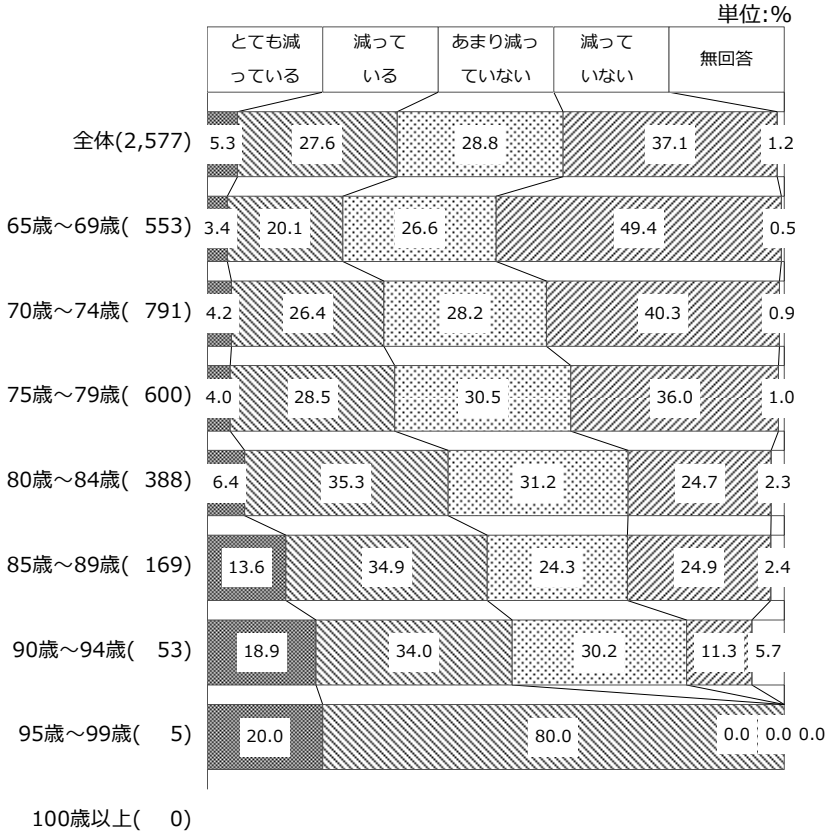
		全体	ほとんど外出しない	週１回	週２～４回	週５回以上	無回答
全体		2,577	5.1	12.1	43.3	37.8	1.7
居住地区	第１地区	556	5.0	11.3	41.0	40.6	2.0
	第２地区	1,035	5.5	13.0	44.3	35.8	1.4
	第３地区	968	4.8	11.6	43.7	38.2	1.8
	無回答	18	5.6	11.1	44.4	33.3	5.6

（7）外出回数の減少

昨年と比べて外出の回数が減っていますか

「減っていない」が 37.1%で最も多く、「あまり減っていない」（28.8%）、「減っている」（27.6%）、「とても減っている」（5.3%）が続きます。

年齢区分でみると、年齢が上がるにしたがい「とても減っている」の構成比が上がり、「減っていない」の構成比が下がっています。



地区別では、「第１地区」で「とても減っている」の割合が、他の地区と比較して若干高くなっています。

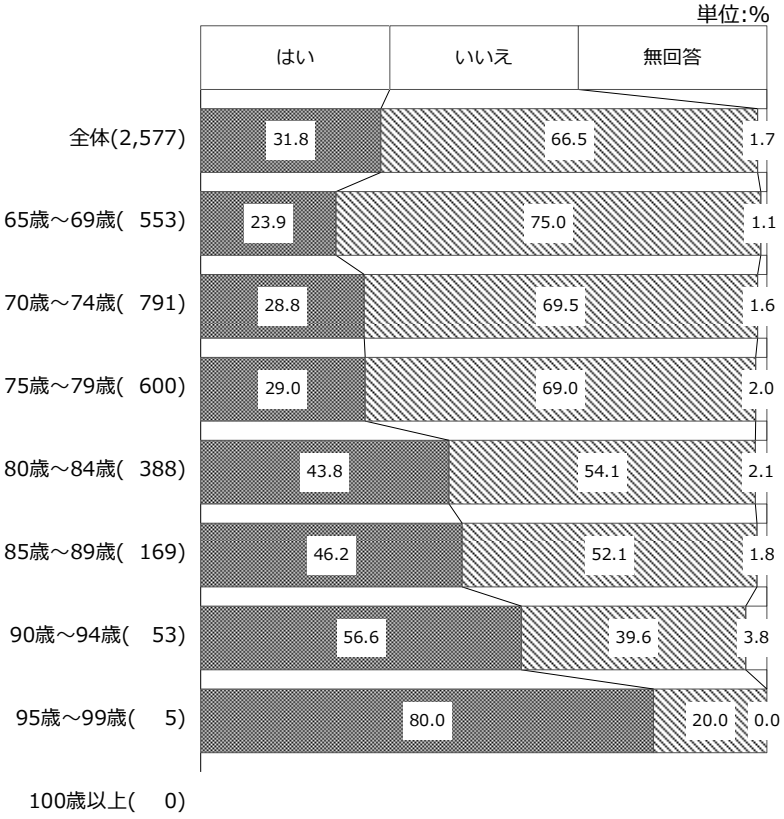
		全体	とても減っている	減っている	あまり減っていない	減っていない	無回答
全体		2,577	5.3	27.6	28.8	37.1	1.2
居住地区	第１地区	556	6.7	27.9	29.3	34.9	1.3
	第２地区	1,035	5.4	27.9	27.3	38.3	1.1
	第３地区	968	4.3	27.4	29.4	37.4	1.4
	無回答	18	5.6	16.7	55.6	22.2	-

（8）外出を控えているか

外出を控えていますか

「いいえ」は 66.5%、「はい」は 31.8%となっています。

年齢区分でみると、年齢が上がるにしたがい「はい」の構成比が上がり、「いいえ」の構成比が下がっています。



地区別では、どの地区も同じような割合で、大きな差は見られません。

		全体	はい	いいえ	無回答
全体		2,577	31.8	66.5	1.7
居住地区	第１地区	556	32.6	65.6	1.8
	第２地区	1,035	30.6	67.8	1.5
	第３地区	968	32.9	65.3	1.9
	無回答	18	22.2	77.8	-

（8－1）外出を控えている理由

【（8）で「1．はい」（外出を控えている）の方のみ】
①外出を控えている理由は、次のどれですか（いくつでも）

「足腰などの痛み」が34.8%で最も多く、「トイレの心配（失禁など）」（12.7%）、「外での楽しみがない」（11.8%）、「交通手段がない」（11.1%）が続きます。

年齢区分でみると、年齢が上がるにしたがい「足腰などの痛み」「交通手段がない」などのの構成比が上がっています。

		全体	病気	障害（脳卒中の後遺症など）	足腰などの痛み	トイレの心配（失禁など）	耳の障害（聞こえの問題など）	目の障害	外での楽しみがない	経済的に出られない	交通手段がない	その他	無回答
	全体	820	11.0	2.6	34.8	12.7	5.0	4.5	11.8	6.6	11.1	48.0	3.0
年齢	65歳～69歳	132	11.4	1.5	17.4	6.1	0.8	2.3	13.6	8.3	3.8	65.2	2.3
	70歳～74歳	228	9.6	2.2	25.9	9.2	3.1	2.2	8.8	7.0	3.1	58.3	4.8
	75歳～79歳	174	10.9	3.4	37.4	14.4	3.4	4.6	14.4	6.9	14.4	46.0	2.3
	80歳～84歳	170	12.4	2.4	42.9	18.8	10.6	6.5	11.8	6.5	17.1	37.6	2.4
	85歳～89歳	78	15.4	5.1	51.3	15.4	5.1	7.7	11.5	3.8	21.8	25.6	3.8
	90歳～94歳	30	3.3	－	66.7	13.3	13.3	10.0	13.3	－	20.0	30.0	－
	95歳～99歳	4	－	－	75.0	25.0	25.0	25.0	25.0	－	50.0	－	－
	100歳以上	－	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
	無回答	4	－	－	50.0	25.0	－	－	－	25.0	－	50.0	－

地区別にみると、「第１地区」では「外での楽しみがない」が、「第２地区」では「耳の障害(聞こえの問題など)」「交通手段がない」が、他の地区と比較して高くなっています。

		全体	病気	障害（脳卒中の後遺症など）	足腰などの痛み	トイレの心配（失禁など）	耳の障害（聞こえの問題など）	目の障害	外での楽しみがない	経済的に出られない	交通手段がない	その他	無回答
	全体	820	11.0	2.6	34.8	12.7	5.0	4.5	11.8	6.6	11.1	48.0	3.0
居住地区	第１地区	181	11.0	2.2	35.9	9.9	3.9	5.5	14.4	5.5	7.7	49.2	1.7
	第２地区	317	13.2	2.2	35.3	12.3	8.5	6.0	10.7	6.9	16.7	43.8	2.8
	第３地区	318	8.8	3.1	33.3	14.5	2.2	2.5	11.6	6.6	7.5	51.6	4.1
	無回答	4	-	-	50.0	25.0	-	-	-	25.0	-	50.0	-

（9）外出時の移動手段

外出する際の移動手段は何ですか（いくつでも）

「徒歩」が 63.4％で最も多く、「自動車（自分で運転）」（50.3％）、「電車」（29.2％）、「自転車」（26.0％）が続きます。

年齢区分でみると、年齢が上がるにしたがい「徒歩」「自動車（自分で運転）」「電車」などのの構成比が下がり、「路線バス」「自動車（人に乗せてもらう）」の構成比が上がっています。

	全体	徒歩	自転車	バイク	自動車（自分で運転）	自動車（人に乗せてもらう）	電車	路線バス	病院や施設のバス	車いす	電動車いす（カート）	歩行器・シルバーカー	タクシー	その他	無回答
全体	2,577	63.4	26.0	2.2	50.3	24.1	29.2	25.2	1.0	0.2	0.2	1.1	8.4	0.5	1.9
65歳～69歳	553	66.7	29.1	3.3	67.5	19.2	35.6	18.4	0.7	－	－	－	5.1	0.5	2.5
70歳～74歳	791	64.7	27.7	2.3	58.7	22.1	29.6	24.0	0.5	0.1	－	0.1	3.8	0.5	1.9
75歳～79歳	600	63.5	24.8	2.7	47.8	23.3	29.7	26.2	0.7	0.3	0.2	1.0	9.3	0.5	1.7
80歳～84歳	388	60.8	23.5	1.0	34.0	26.5	24.7	32.7	1.3	0.3	－	2.3	16.0	0.5	1.0
85歳～89歳	169	55.6	21.9	0.6	15.4	37.9	19.5	34.3	4.7	－	1.2	3.0	17.8	－	1.8
90歳～94歳	53	45.3	7.5	－	7.5	50.9	9.4	15.1	1.9	1.9	1.9	11.3	13.2	3.8	3.8
95歳～99歳	5	60.0	20.0	－	－	80.0	20.0	－	－	－	－	20.0	40.0	－	－
100歳以上	－	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
無回答	18	77.8	38.9	－	61.1	16.7	44.4	38.9	－	－	－	－	11.1	－	－

地区別でみると、「第１地区」では「徒歩」「自転車」「電車」が、「第２地区」では「自動車(人に乗せてもらう)」が、「第３地区」では「自動車(自分で運転)」「路線バス」が、他の地区と比較して高くなっています。

		全体	徒歩	自転車	バイク	自動車（自分で運転）	自動車（人に乗せてもらう）	電車	路線バス	病院や施設のバス	車いす	電動車いす（カート）	歩行器・シルバーカー	タクシー	その他	無回答
全体		2,577	63.4	26.0	2.2	50.3	24.1	29.2	25.2	1.0	0.2	0.2	1.1	8.4	0.5	1.9
居住地区	第１地区	556	71.2	27.0	2.7	40.6	23.9	39.2	24.5	1.4	0.2	0.2	0.9	9.0	0.5	2.0
	第２地区	1,035	62.4	23.2	2.6	49.8	25.1	28.8	24.2	1.1	0.2	0.2	1.6	9.3	0.8	2.0
	第３地区	968	59.6	28.1	1.5	56.3	23.3	23.6	26.4	0.7	0.2	0.1	0.6	7.1	0.3	1.7
	無回答	18	77.8	38.9	-	61.1	16.7	44.4	38.9	-	-	-	-	11.1	-	-

また、11 区分地区でみると、以下の結果になりました。

	全体	徒歩	自転車	バイク	自動車（自分で運転）	自動車（人に乗せてもらう）	電車	路線バス	病院や施設のバス	車いす	電動車いす（カート）	歩行器・シルバーカー	タクシー	その他	無回答
全体	2,577	1,633	669	57	1,297	622	752	649	26	5	4	28	217	14	48
	100.0	63.4	26.0	2.2	50.3	24.1	29.2	25.2	1.0	0.2	0.2	1.1	8.4	0.5	1.9
青梅	236	172	47	7	99	63	108	69	4	1	1	1	22	1	3
	100.0	72.9	19.9	3.0	41.9	26.7	45.8	29.2	1.7	0.4	0.4	0.4	9.3	0.4	1.3
東青梅	320	224	103	8	127	70	110	67	4	-	-	4	28	2	8
	100.0	70.0	32.2	2.5	39.7	21.9	34.4	20.9	1.3	-	-	1.3	8.8	0.6	2.5
長淵	408	257	92	13	207	106	96	120	3	-	-	3	34	5	9
	100.0	63.0	22.5	3.2	50.7	26.0	23.5	29.4	0.7	-	-	0.7	8.3	1.2	2.2
河辺	312	220	116	4	117	70	111	32	4	1	1	11	40	3	6
	100.0	70.5	37.2	1.3	37.5	22.4	35.6	10.3	1.3	0.3	0.3	3.5	12.8	1.0	1.9
梅郷	227	130	27	10	128	61	66	95	3	1	1	3	17	-	4
	100.0	57.3	11.9	4.4	56.4	26.9	29.1	41.9	1.3	0.4	0.4	1.3	7.5	-	1.8
沢井	88	39	5	-	63	23	25	3	1	-	-	-	5	-	2
	100.0	44.3	5.7	-	71.6	26.1	28.4	3.4	1.1	-	-	-	5.7	-	2.3
大門	344	216	107	7	190	79	87	115	2	1	-	2	22	-	7
	100.0	62.8	31.1	2.0	55.2	23.0	25.3	33.4	0.6	0.3	-	0.6	6.4	-	2.0
新町	300	205	113	2	150	67	90	66	2	-	-	2	28	-	3
	100.0	68.3	37.7	0.7	50.0	22.3	30.0	22.0	0.7	-	-	0.7	9.3	-	1.0
今井	197	103	41	2	126	48	36	49	3	1	1	-	14	1	4
	100.0	52.3	20.8	1.0	64.0	24.4	18.3	24.9	1.5	0.5	0.5	-	7.1	0.5	2.0
小曾木	84	38	7	3	48	21	13	16	-	-	-	1	4	2	2
	100.0	45.2	8.3	3.6	57.1	25.0	15.5	19.0	-	-	-	1.2	4.8	2.4	2.4
成木	43	15	4	1	31	11	2	10	-	-	-	1	1	-	-
	100.0	34.9	9.3	2.3	72.1	25.6	4.7	23.3	-	-	-	2.3	2.3	-	-
無回答	18	14	7	-	11	3	8	7	-	-	-	-	2	-	-
	100.0	77.8	38.9	-	61.1	16.7	44.4	38.9	-	-	-	-	11.1	-	-

3 食べることについて

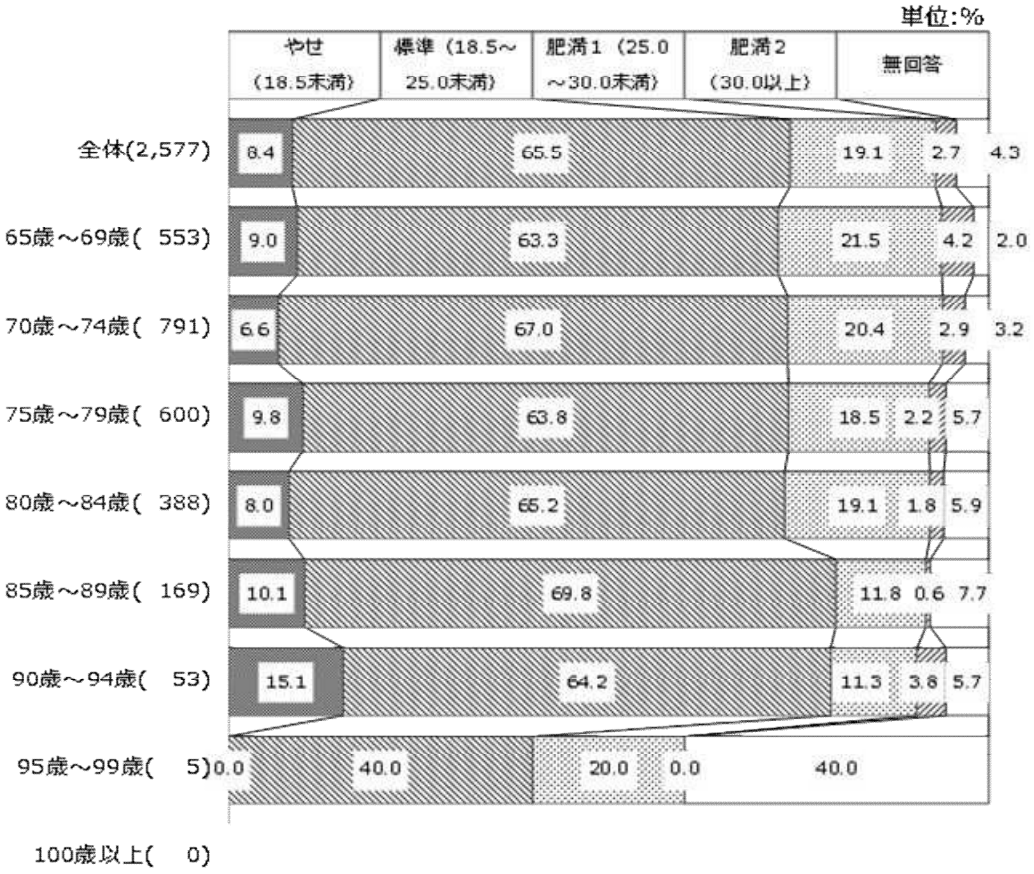
（1）ＢＭＩ

身長・体重

身長と体重の関係からＢＭＩ指数（※）を算出しました。

「標準（18.5～25.0 未満）」が 65.5%で最も多く、「肥満（25.0 以上）」（21.8%）、「やせ（18.5 未満）」（8.4%）が続きます。

年齢区分でみると、年齢が上がるにしたがい、「やせ」の比率が上がり、「肥満」の比率が下がる傾向にあります。



※BMI（Body Mass Index）とは

身長・体重を用いて、[体重(kg)]÷[身長(m)の２乗]で算出される値のことを BMI といいます。これにより、肥満や低体重（やせ）の判定を行います。日本肥満学会の定めた基準では 18.5 未満が「低体重（やせ）」、18.5 以上 25 未満が「普通体重」、25 以上が「肥満」とされています。

地区別では、「第１地区」では「やせ」が、「第３地区」では「標準（18.5～25.0 未満）」が他の地区と比較して高くなっています。

また、「肥満」は「第３地区」が他の地区よりも低くなっています。

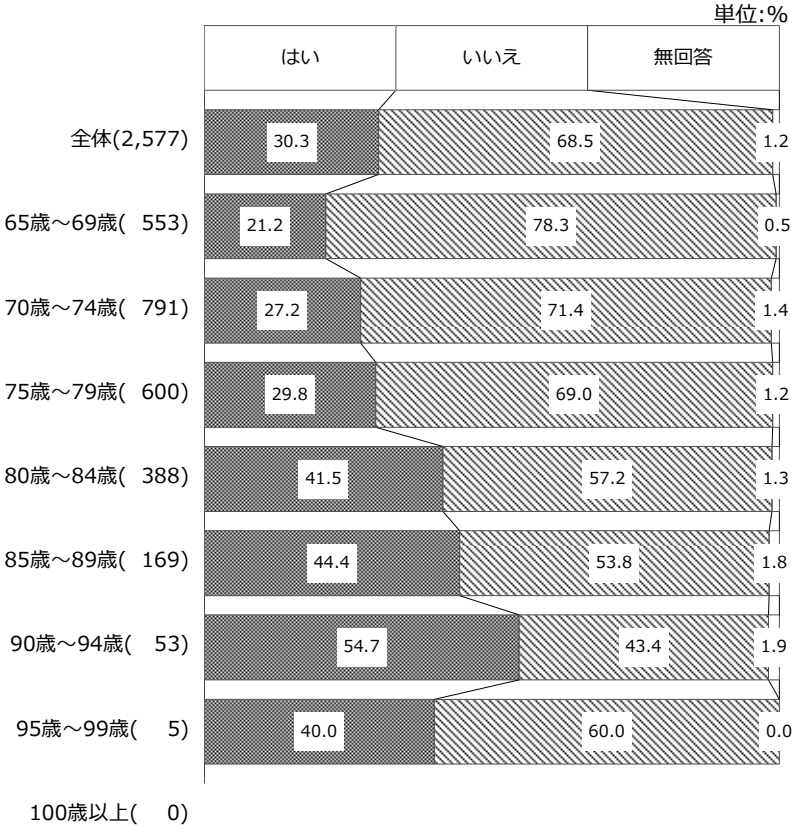
		全体	やせ（～18.5未満）	標準（18.5～25.0未満）	肥満（25.0～）	無回答	平均
全体		2,577	8.4	65.5	21.8	4.3	22.8
居住地区	第１地区	556	9.4	62.9	23.6	4.1	22.9
	第２地区	1,035	8.0	64.0	23.4	4.6	23.0
	第３地区	968	8.5	68.0	19.4	4.1	22.7
	無回答	18	-	94.4	5.6	-	22.2

（2）固いものの食べにくさ

半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか

「いいえ」は 68.5%、「はい」は 30.3%となっています。

年齢区分でみると、年齢が上がるにしたがい、「はい」の比率が上がり、「いいえ」の比率が下がる傾向にあります。



地区別では、どの地区も同じような割合で、大きな差は見られません。

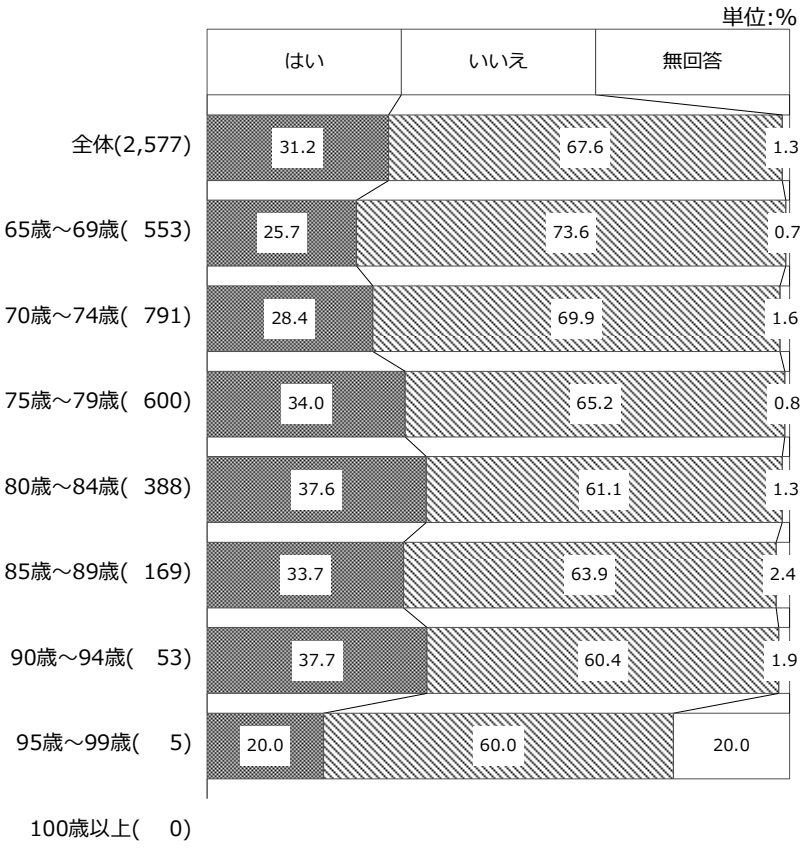
		全体	はい	いいえ	無回答
全体		2,577	30.3	68.5	1.2
居住地区	第１地区	556	31.8	67.1	1.1
	第２地区	1,035	31.1	67.9	1.0
	第３地区	968	28.8	69.7	1.4
	無回答	18	22.2	72.2	5.6

（3）お茶などでむせるか

お茶や汁物等でむせることがありますか

「いいえ」は 67.6%、「はい」は 31.2%となっています。

年齢区分でみると、年齢が上がるにしたがい、「はい」の比率が上がり、「いいえ」の比率が下がる傾向にあります。



地区別では、どの地区も同じような割合で、大きな差は見られません。

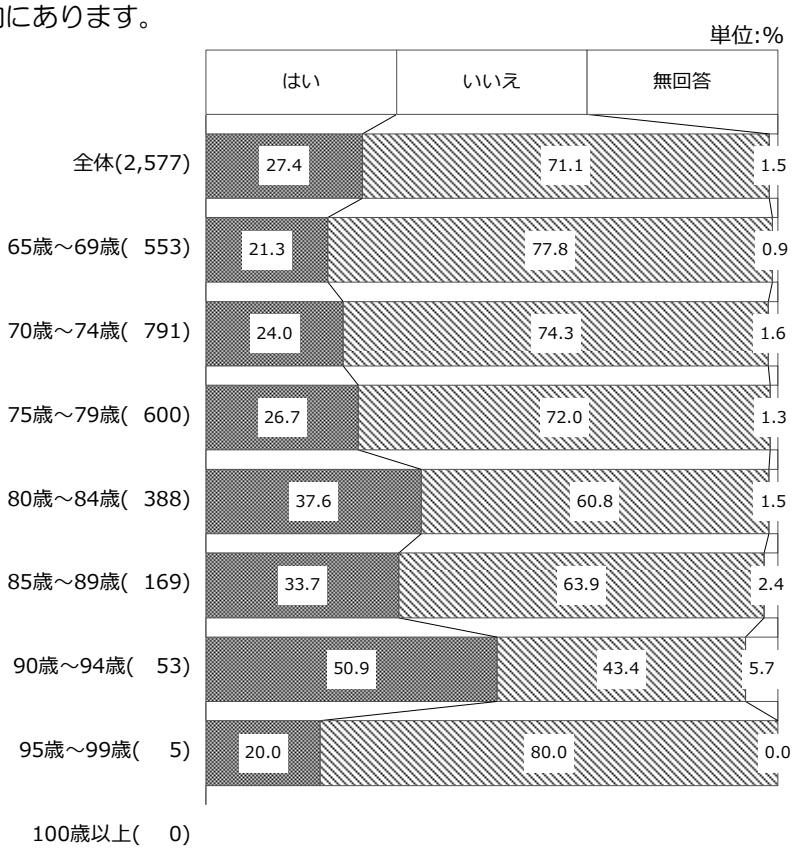
		全体	はい	いいえ	無回答
全体		2,577	31.2	67.6	1.3
居住地区	第１地区	556	31.8	67.1	1.1
	第２地区	1,035	32.6	66.2	1.3
	第３地区	968	29.0	69.5	1.4
	無回答	18	44.4	55.6	-

（4）口の渇き

口の渇きが気になりますか

「いいえ」は 71.1%、「はい」は 27.4%となっています。

年齢区分でみると、年齢が上がるにしたがい、「はい」の比率が上がり、「いいえ」の比率が下がる傾向にあります。



地区別では、どの地区も同じような割合で、大きな差は見られません。

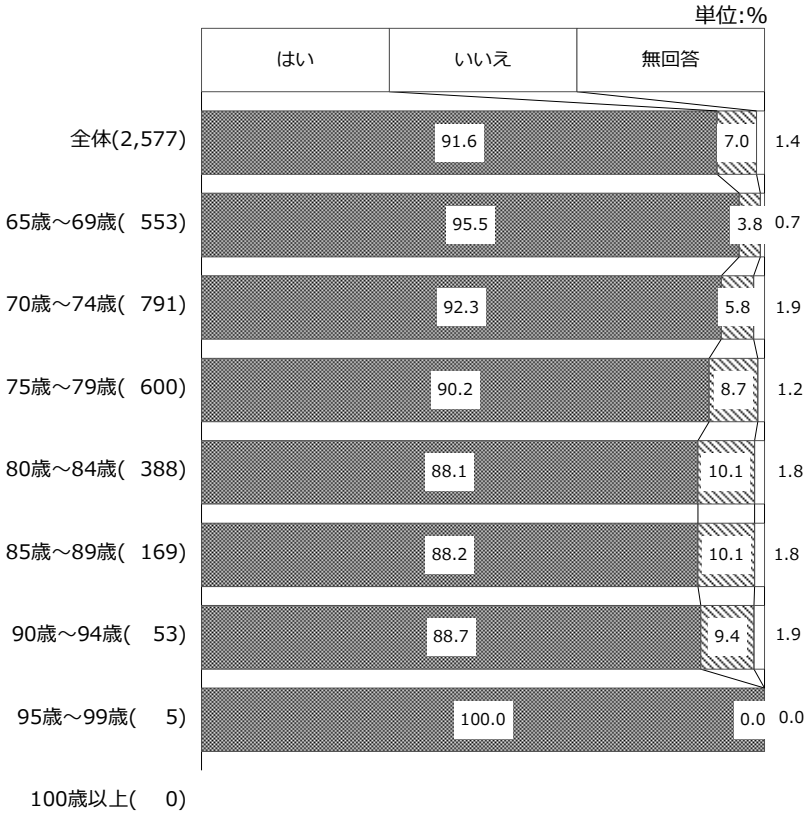
		全体	はい	いいえ	無回答
全体		2,577	27.4	71.1	1.5
居住地区	第１地区	556	27.5	71.2	1.3
	第２地区	1,035	28.3	70.0	1.6
	第３地区	968	26.1	72.3	1.5
	無回答	18	33.3	66.7	-

（5）歯磨き

歯磨き（人にやってもらう場合も含む）を毎日していますか

「はい」は 91.6%、「いいえ」は 7.0%となっています。

年齢区分でみると、年齢が上がるにしたがい、「はい」の比率が下がり、「いいえ」の比率が上がる傾向にあります。



地区別では、どの地区も同じような割合で、大きな差は見られません。

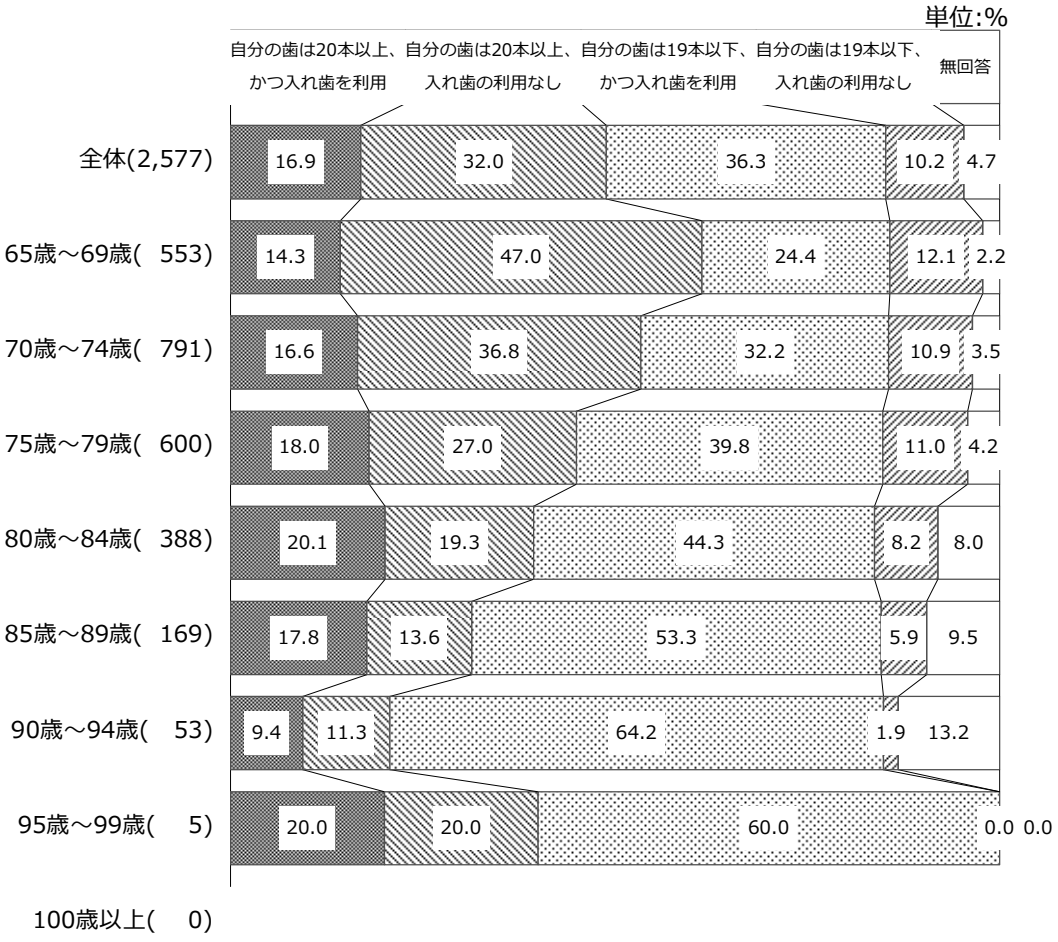
		全体	はい	いいえ	無回答
全体		2,577	91.6	7.0	1.4
居住地区	第１地区	556	90.6	7.6	1.8
	第２地区	1,035	91.6	7.0	1.4
	第３地区	968	91.9	6.8	1.2
	無回答	18	100.0	-	-

（６）歯の数

歯の数と入れ歯の利用状況をお教えください （成人の歯の総本数は、親知らずを含めて 32 本です）

「自分の歯は 19 本以下、かつ入れ歯を利用」が 36.3%で最も多く、「自分の歯は 20 本以上、入れ歯の利用なし」（32.0%）、「自分の歯は 20 本以上、かつ入れ歯を利用」（16.9%）、「自分の歯は 19 本以下、入れ歯の利用なし」（10.2%）が続きます。また、「自分の歯は 19 本以下、かつ入れ歯を利用」と「自分の歯は 20 本以上、かつ入れ歯を利用」を合計した、「入れ歯を利用している」割合は 53.2%です。

年齢区分でみると、年齢が上がるにしたがい、「自分の歯は 20 本以上、入れ歯の利用なし」の比率が下がり、「自分の歯は 19 本以下、入れ歯の利用なし」の比率が上がっています。



地区区分でみると、「入れ歯を利用している」割合は「第２地区」が最も高く、次いで「第３地区」「第１地区」となっています。

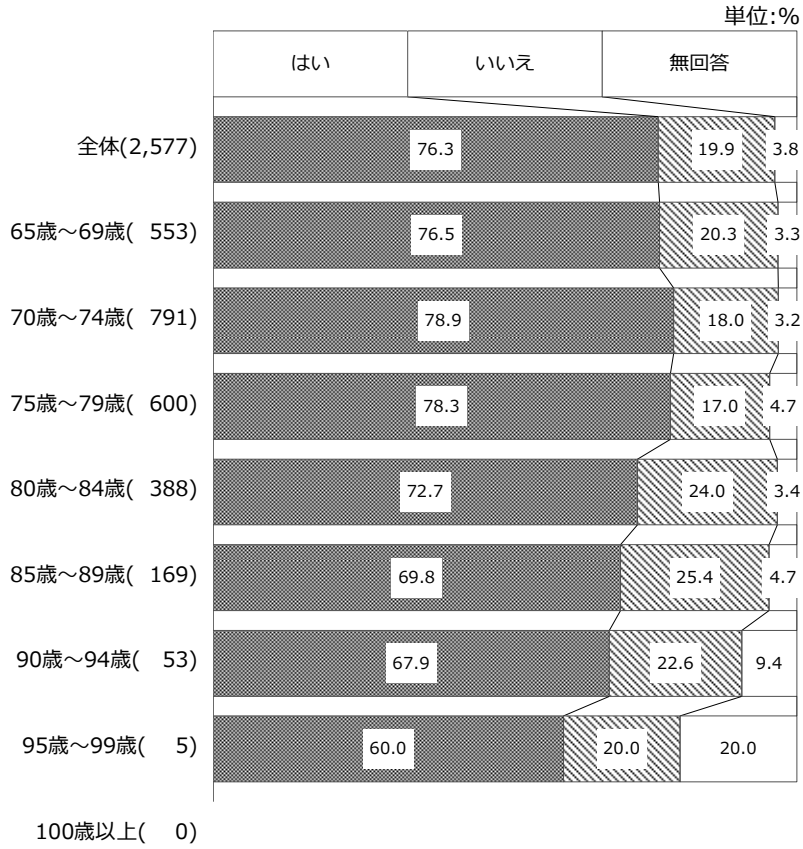
		全体	自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用	自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし	自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用	自分の歯は19本以下、入れ歯の利用なし	無回答
全体		2,577	16.9	32.0	36.3	10.2	4.7
居住地区	第１地区	556	18.5	32.0	31.7	12.9	4.9
	第２地区	1,035	16.5	31.6	38.1	9.9	4.0
	第３地区	968	16.3	32.3	37.0	9.1	5.3
	無回答	18	22.2	33.3	38.9	-	5.6

（6－1）歯の噛み合わせ

①噛み合わせは良いですか

「はい」は 76.3%、「いいえ」は 19.9%となっています。

年齢区分でみると、年齢が上がるにしたがい、「はい」の比率が下がり、「いいえ」の比率が上がる傾向にあります。



地区別では、どの地区も同じような割合で、大きな差は見られません。

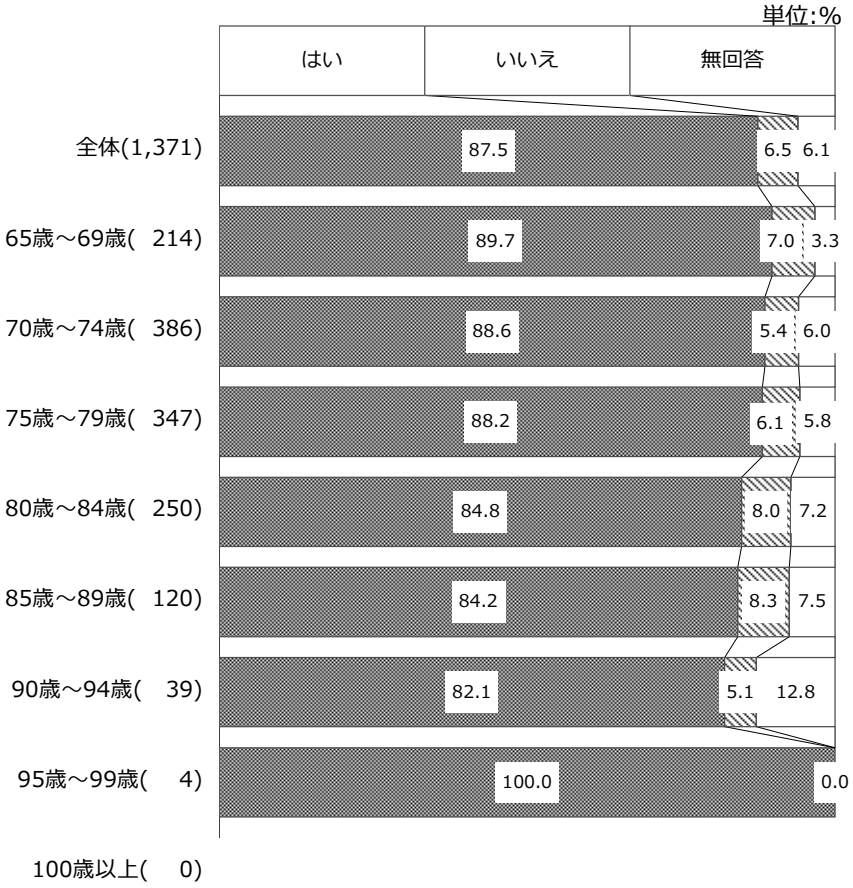
		全体	はい	いいえ	無回答
全体		2,577	76.3	19.9	3.8
居住地区	第１地区	556	75.4	21.4	3.2
	第２地区	1,035	76.5	19.9	3.6
	第３地区	968	77.0	18.6	4.4
	無回答	18	55.6	44.4	-

（6−2）入れ歯の手入れ

②【（6）で「1．自分の歯は 20 本以上、かつ入れ歯を利用」「3．自分の歯は 19 本以下かつ入れ歯を利用」の方のみ】　毎日入れ歯の手入れをしていますか

「はい」は 87.5%、「いいえ」は 6.5%となっています。

年齢区分でみると、年齢が上がるにしたがい、「はい」の比率が下がる傾向にあります。



地区別では、「はい（手入れをしている）」は「第３地区」が最も高く、次いで「第２地区」「第１地区」となっています。

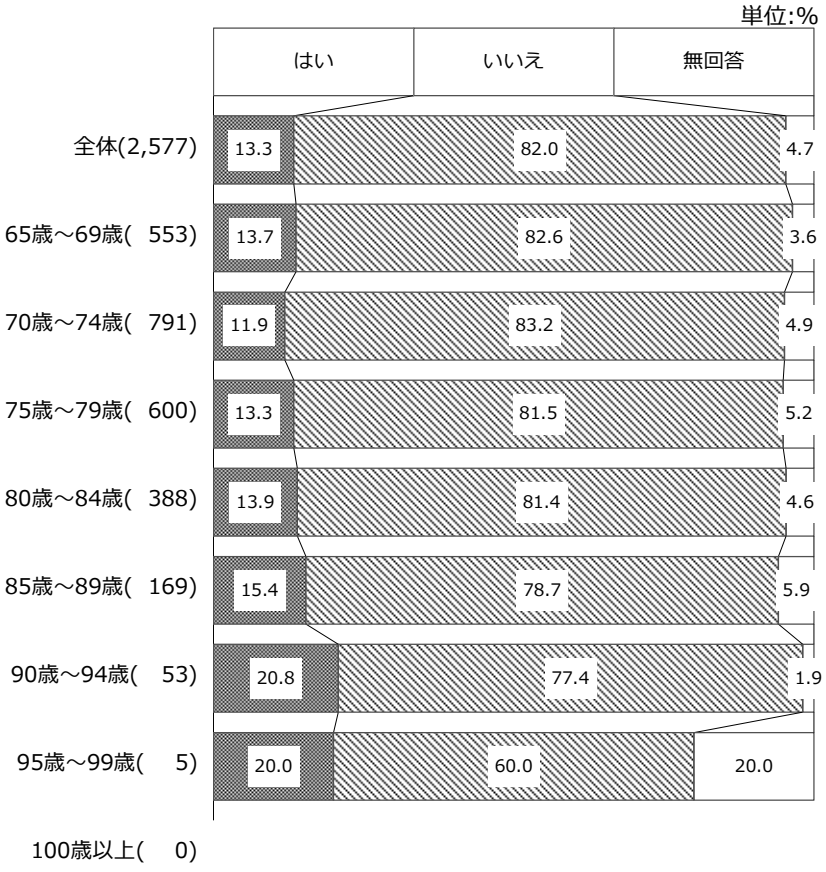
		全体	はい	いいえ	無回答
全体		1,371	87.5	6.5	6.1
居住地区	第１地区	279	84.2	9.0	6.8
	第２地区	565	87.3	6.4	6.4
	第３地区	516	89.3	5.4	5.2
	無回答	11	90.9	-	9.1

（7）体重減少の有無

6か月間で2～3kg 以上の体重減少がありましたか

「いいえ」は 82.0%、「はい」は 13.3%となっています。

年齢区分でみると、年齢が上がるにしたがい、「はい」の比率が下がり、「いいえ」の比率が上がる傾向にあります。



地区別では、「はい（体重減少がある）」は「第１地区」が最も高く、次いで「第２地区」「第３地区」となっています。

		全体	はい	いいえ	無回答
全体		2,577	13.3	82.0	4.7
居住地区	第１地区	556	15.1	79.7	5.2
	第２地区	1,035	13.5	81.4	5.1
	第３地区	968	12.2	83.9	3.9
	無回答	18	11.1	83.3	5.6

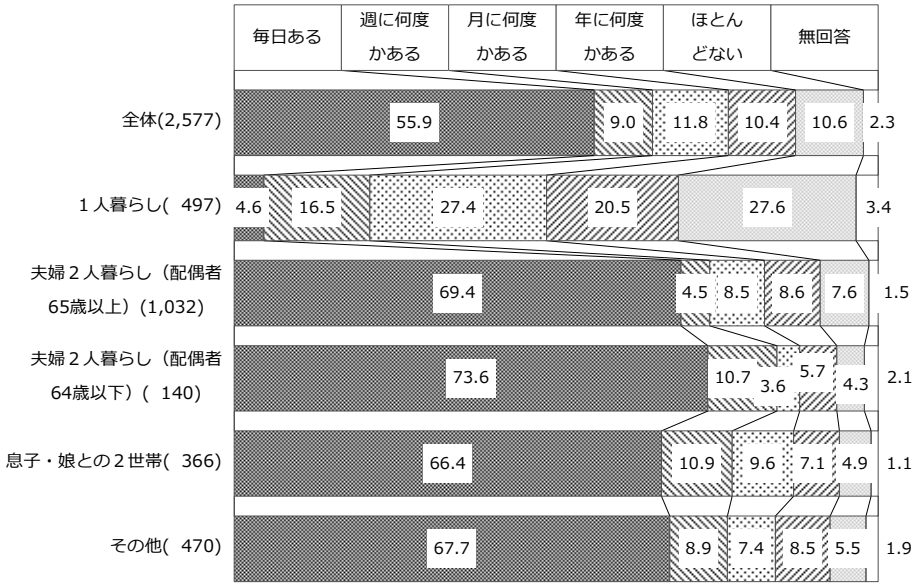
（8）共食の機会

どなたかと食事をともにする機会はありますか

「毎日ある」が 55.9%で最も多く、「月に何度かある」（11.8%）、「ほとんどない」（10.6%）、「年に何度かある」（10.4%）が続きます。

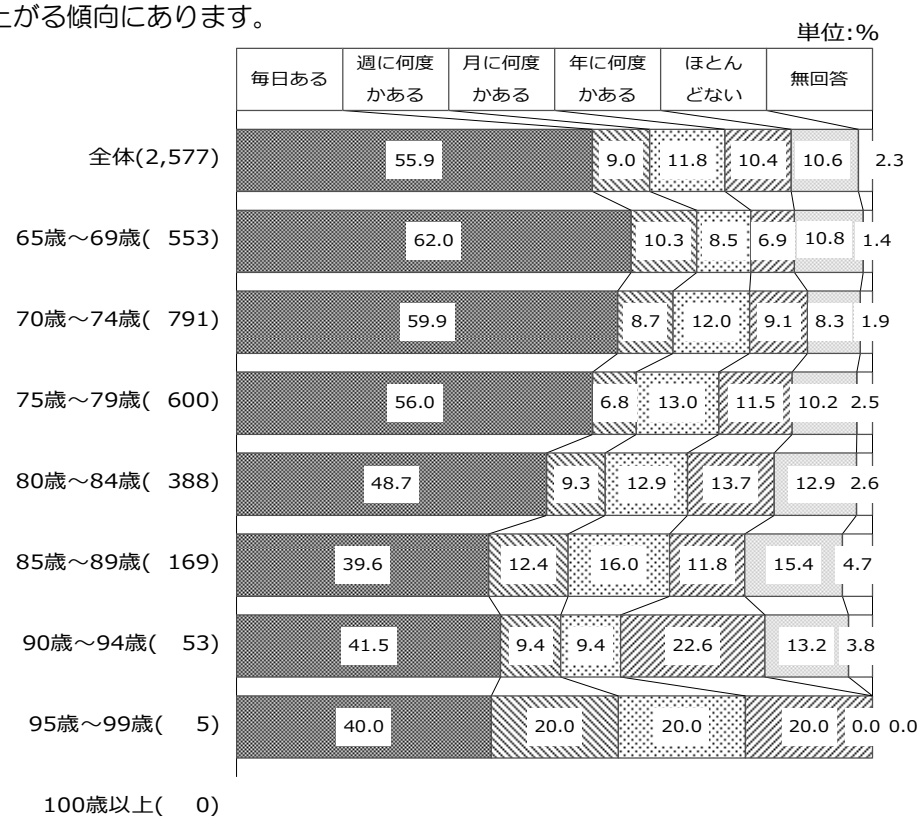
家族構成でみると、「ほとんどない」で「1 人暮らし」の比率が最も高くなっています。

単位:%



年齢区分でみると、年齢が上がるにしたがい、「毎日ある」の比率が下がり、「ほとんどない」の比率が上がる傾向にあります。

単位:%



地区別では、「毎日ある」は「第３地区」が最も高く、次いで「第２地区」「第１地区」となっています。

		全体	毎日ある	週に何度かある	月に何度かある	年に何度かある	ほとんどない	無回答
全体		2,577	55.9	9.0	11.8	10.4	10.6	2.3
居住地区	第１地区	556	53.8	9.0	14.2	9.5	12.2	1.3
	第２地区	1,035	55.9	9.2	11.4	11.5	9.5	2.5
	第３地区	968	57.3	8.8	11.0	9.6	10.7	2.6
	無回答	18	44.4	16.7	5.6	22.2	11.1	-

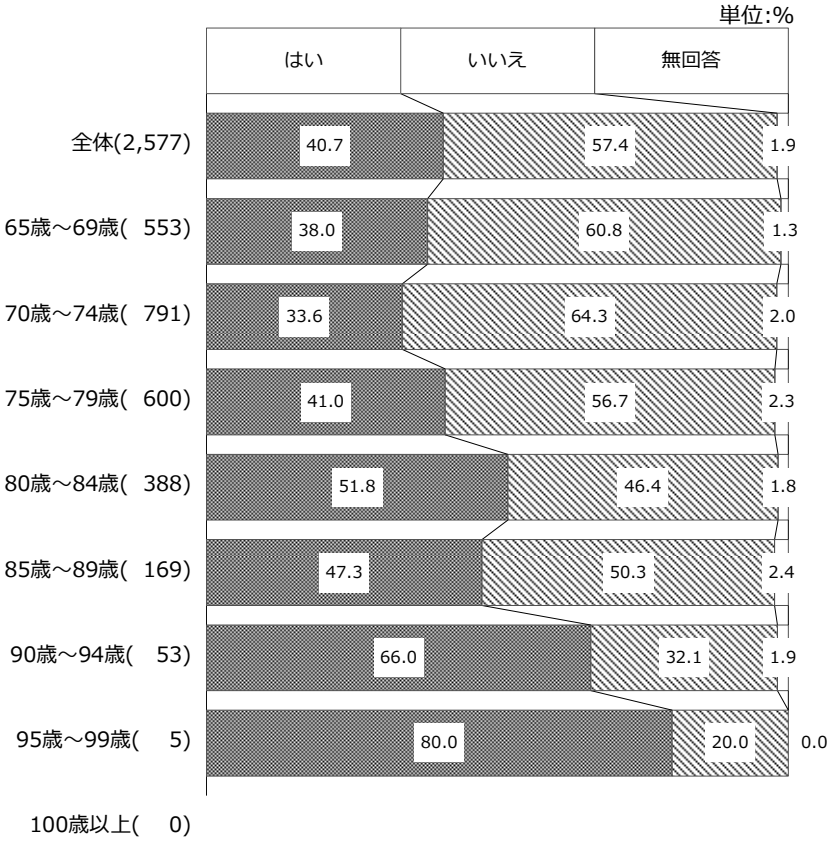
4 毎日の生活について

（1）物忘れの状況

物忘れが多いと感じますか

「いいえ」は 57.4%、「はい」は 40.7%となっています。

年齢区分でみると、年齢が上がるにしたがい、「はい」の比率が上がり、「いいえ」の比率が下がる傾向にあります。



地区別でみると、「第３地区」では「はい(物忘れが多いと感じる)」が他の地区と比較して若干低くなっています。

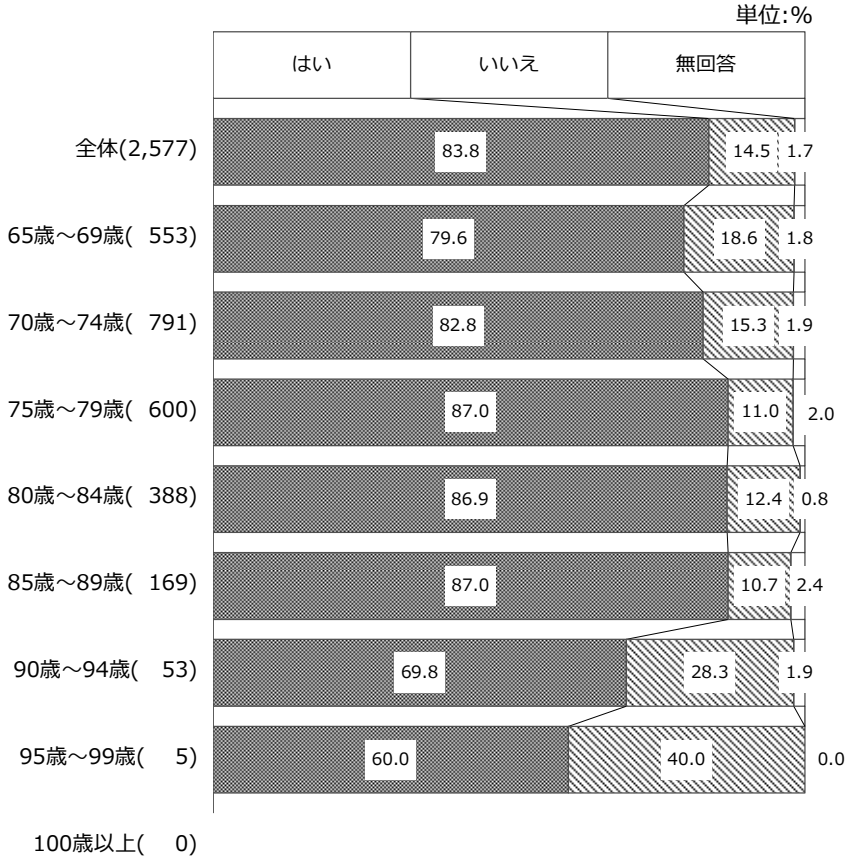
		全体	はい	いいえ	無回答
全体		2,577	40.7	57.4	1.9
居住地区	第１地区	556	41.2	57.0	1.8
	第２地区	1,035	41.7	56.2	2.0
	第３地区	968	39.4	58.8	1.9
	無回答	18	38.9	61.1	-

（2）電話の利用の可否

自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか

「はい」は 83.8%、「いいえ」は 14.5%となっています。

年齢区分でみると、年齢が上がるにしたがい、「はい」の比率が上がり、「いいえ」の比率が下がる傾向にあります。



地区別では、どの地区も同じような割合で、大きな差は見られません。

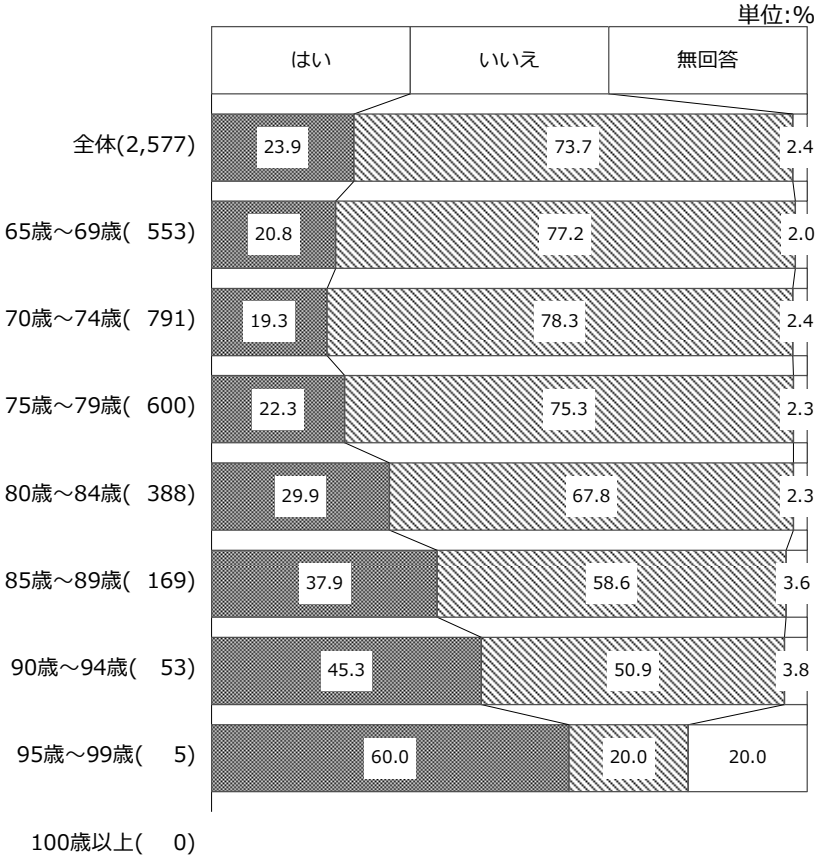
		全体	はい	いいえ	無回答
全体		2,577	83.8	14.5	1.7
居住地区	第１地区	556	82.7	15.3	2.0
	第２地区	1,035	84.2	14.3	1.5
	第３地区	968	83.7	14.5	1.9
	無回答	18	100.0	-	-

（3）日にちの理解

今日が何月何日かわからない時がありますか

「いいえ」は 73.7%、「はい」は 23.9%となっています。

年齢区分でみると、年齢が上がるにしたがい、「はい」の比率が上がり、「いいえ」の比率が下がる傾向にあります。



地区別でみると、「はい(今日が何月何日かわからない時がある)」は「第２地区」が最も高く、次いで「第１地区」「第３地区」となっています。

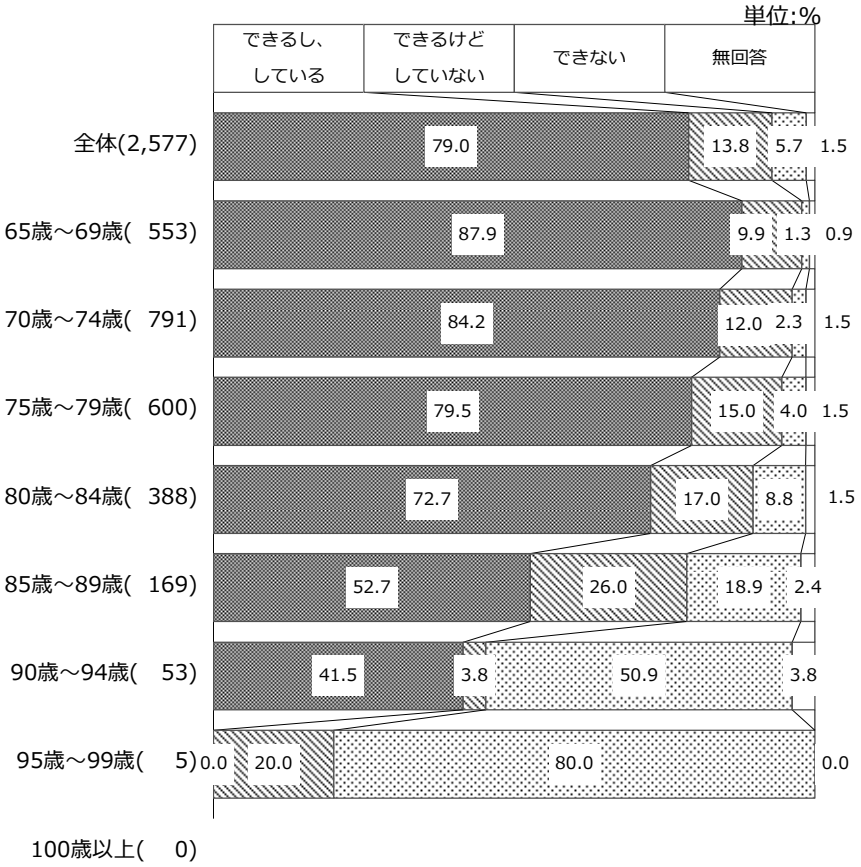
		全体	はい	いいえ	無回答
全体		2,577	23.9	73.7	2.4
居住地区	第１地区	556	23.4	74.5	2.2
	第２地区	1,035	26.5	71.2	2.3
	第３地区	968	21.2	76.1	2.7
	無回答	18	33.3	66.7	-

（4）１人での外出

バスや電車を使って１人で外出していますか（自家用車でも可）

「できるし、している」が 79.0%で最も多く、「できるけどしていない」（13.8%）、「できない」（5.7%）が続きます。

年齢区分でみると、年齢が上がるにしたがい、「できるけどしていない」「できない」の比率が上がり、「できるし、している」の比率が下がっています。



地区別では、どの地区も同じような割合で、大きな差は見られません。

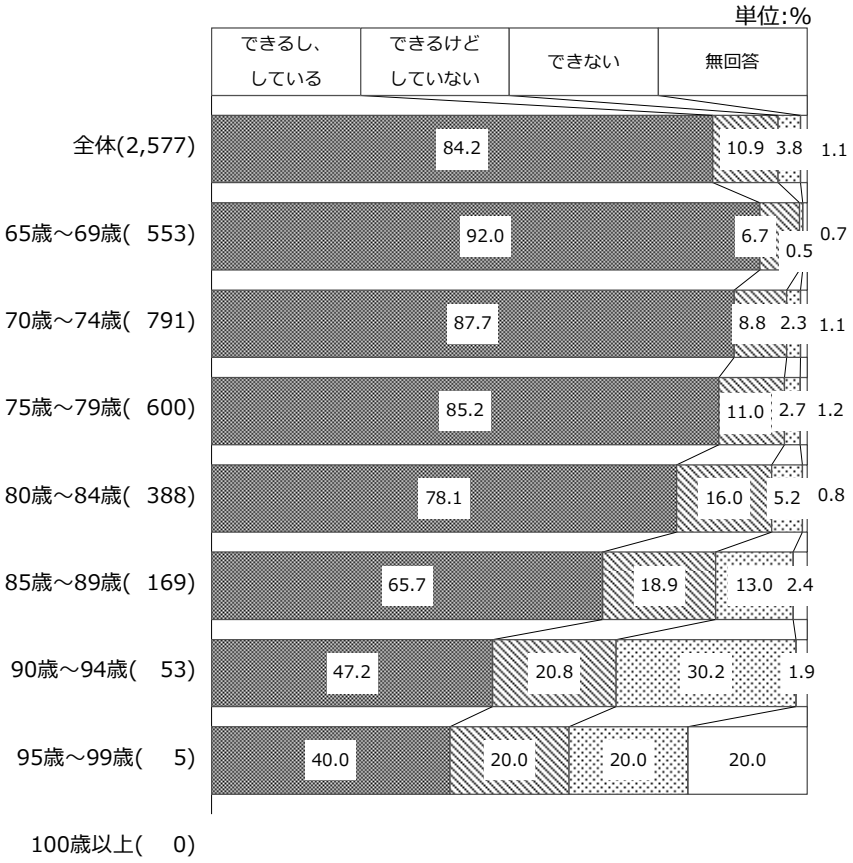
		全体	できるし、している	できるけどしていない	できない	無回答
全体		2,577	79.0	13.8	5.7	1.5
居住地区	第１地区	556	80.4	12.9	5.9	0.7
	第２地区	1,035	78.4	14.0	6.0	1.6
	第３地区	968	78.9	14.0	5.3	1.8
	無回答	18	77.8	16.7	5.6	-

（5）買い物の可否

自分で食品・日用品の買物をしていますか

「できるし、している」が 84.2％で最も多く、「できるけどしていない」（10.9％）、「できない」（3.8％）が続きます。

年齢区分でみると、年齢が上がるにしたがい、「できるけどしていない」「できない」の比率が上がり、「できるし、している」の比率が下がっています。年齢区分でみると、年齢が上がるにしたがい、「できるけどしていない」「できない」の比率が上がり、「できるし、している」の比率が下がっています。



地区別では、どの地区も同じような割合で、大きな差は見られません。

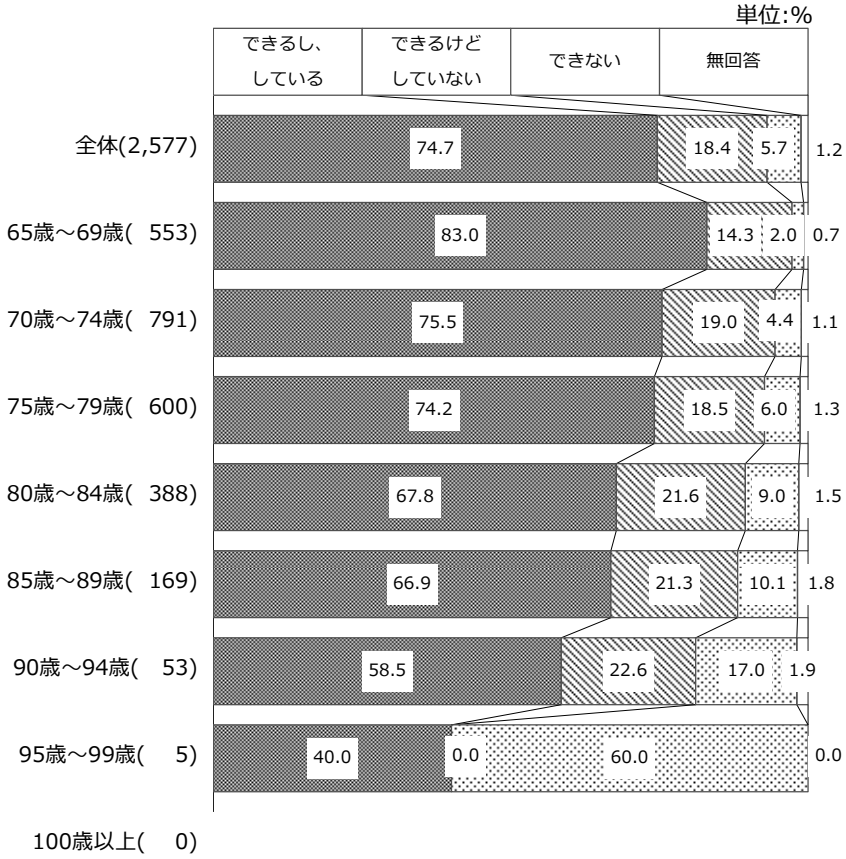
		全体	できるし、している	できるけどしていない	できない	無回答
全体		2,577	84.2	10.9	3.8	1.1
居住地区	第１地区	556	84.5	9.7	5.0	0.7
	第２地区	1,035	83.4	12.1	3.6	1.0
	第３地区	968	84.9	10.3	3.2	1.5
	無回答	18	77.8	16.7	5.6	-

（6）食事の用意

自分で食事の用意をしていますか

「できるし、している」が 74.7%で最も多く、「できるけどしていない」（18.4%）、「できない」（5.7%）が続きます。

「できるし、している」の比率が下がっています。年齢区分でみると、年齢が上がるにしたがい、「できるけどしていない」「できない」の比率が上がり、「できるし、している」の比率が下がっています。



地区別では、どの地区も同じような割合で、大きな差は見られません。

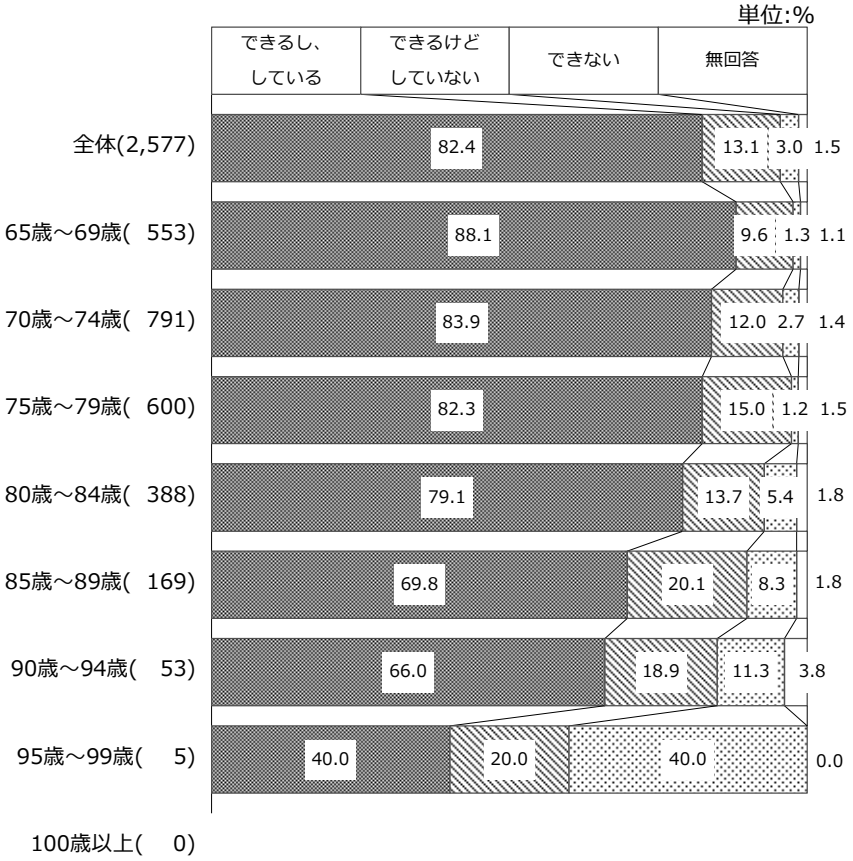
		全体	できるし、している	できるけどしていない	できない	無回答
全体		2,577	74.7	18.4	5.7	1.2
居住地区	第１地区	556	76.1	16.7	6.7	0.5
	第２地区	1,035	74.4	19.3	5.2	1.1
	第３地区	968	74.1	18.5	5.7	1.8
	無回答	18	77.8	16.7	5.6	-

（7）請求書の支払い

自分で請求書の支払いをしていますか

「できるし、している」が 82.4％で最も多く、「できるけどしていない」（13.1％）、「できない」（3.0％）が続きます。

年齢区分でみると、年齢が上がるにしたがい、「できるけどしていない」「できない」の比率が上がり、「できるし、している」の比率が下がる傾向にあります。



地区別では、どの地区も同じような割合で、大きな差は見られません。

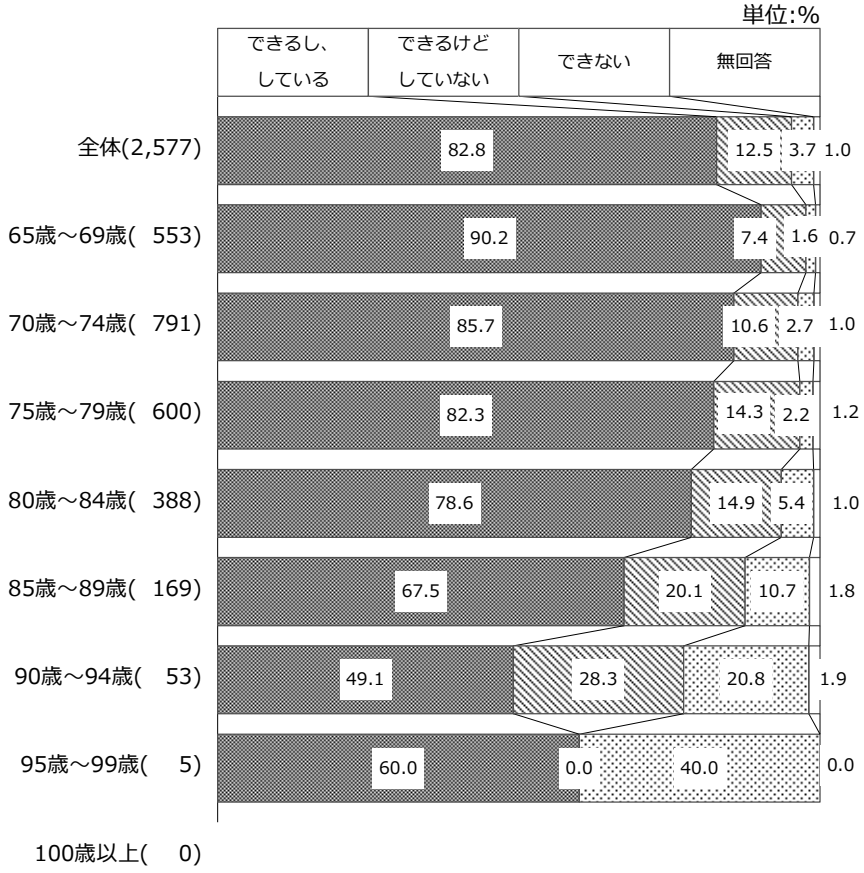
		全体	できるし、している	できるけどしていない	できない	無回答
全体		2,577	82.4	13.1	3.0	1.5
居住地区	第１地区	556	83.6	11.7	3.6	1.1
	第２地区	1,035	81.4	14.7	2.7	1.3
	第３地区	968	82.6	12.3	3.1	2.0
	無回答	18	88.9	11.1	-	-

（8）預貯金の出し入れ

自分で預貯金の出し入れをしていますか

「できるし、している」が 82.8%で最も多く、「できるけどしていない」（12.5%）、「できない」（3.7%）が続きます。

年齢区分でみると、年齢が上がるにしたがい、「できるけどしていない」「できない」の比率が上がり、「できるし、している」の比率が下がる傾向にあります。



地区別では、どの地区も同じような割合で、大きな差は見られません。

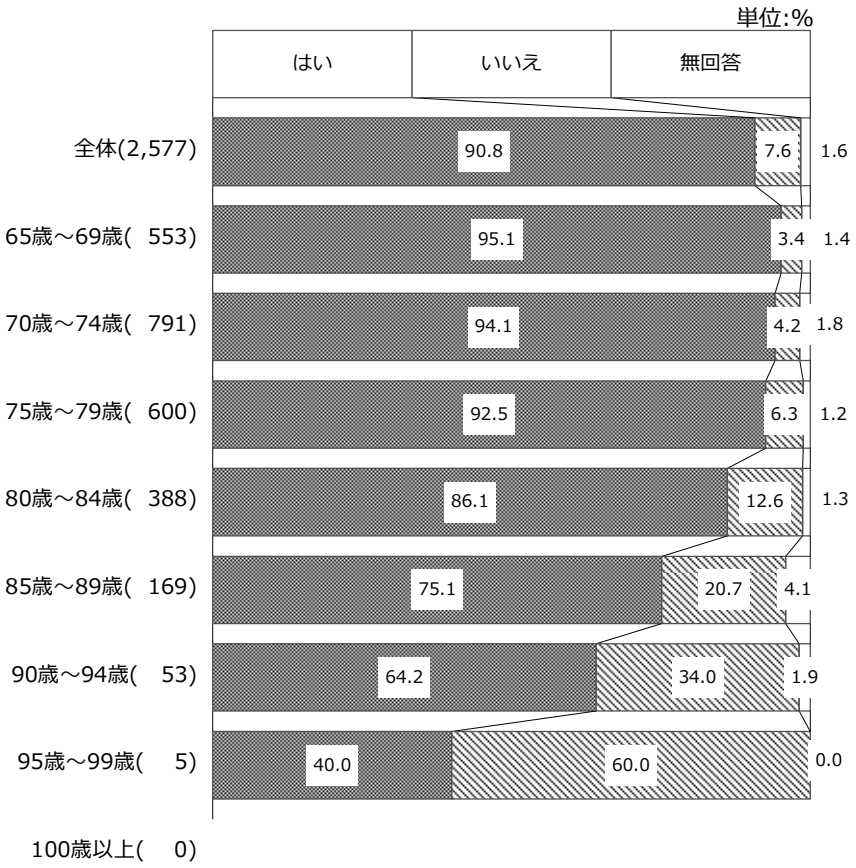
		全体	できるし、している	できるけどしていない	できない	無回答
全体		2,577	82.8	12.5	3.7	1.0
居住地区	第１地区	556	82.9	11.5	4.7	0.9
	第２地区	1,035	82.3	13.1	3.7	0.9
	第３地区	968	83.3	12.2	3.2	1.3
	無回答	18	83.3	16.7	-	-

（9）書類書き

年金などの書類（役所や病院などに出す書類）が書けますか

「はい」は 90.8%、「いいえ」は 7.6%となっています。

年齢区分でみると、年齢が上がるにしたがい、「いいえ」の比率が上がり、「はい」の比率が下がっています。



地区別では、どの地区も同じような割合で、大きな差は見られません。

		全体	はい	いいえ	無回答
全体		2,577	90.8	7.6	1.6
居住地区	第１地区	556	91.0	7.7	1.3
	第２地区	1,035	90.0	8.6	1.4
	第３地区	968	91.4	6.5	2.1
	無回答	18	94.4	5.6	-

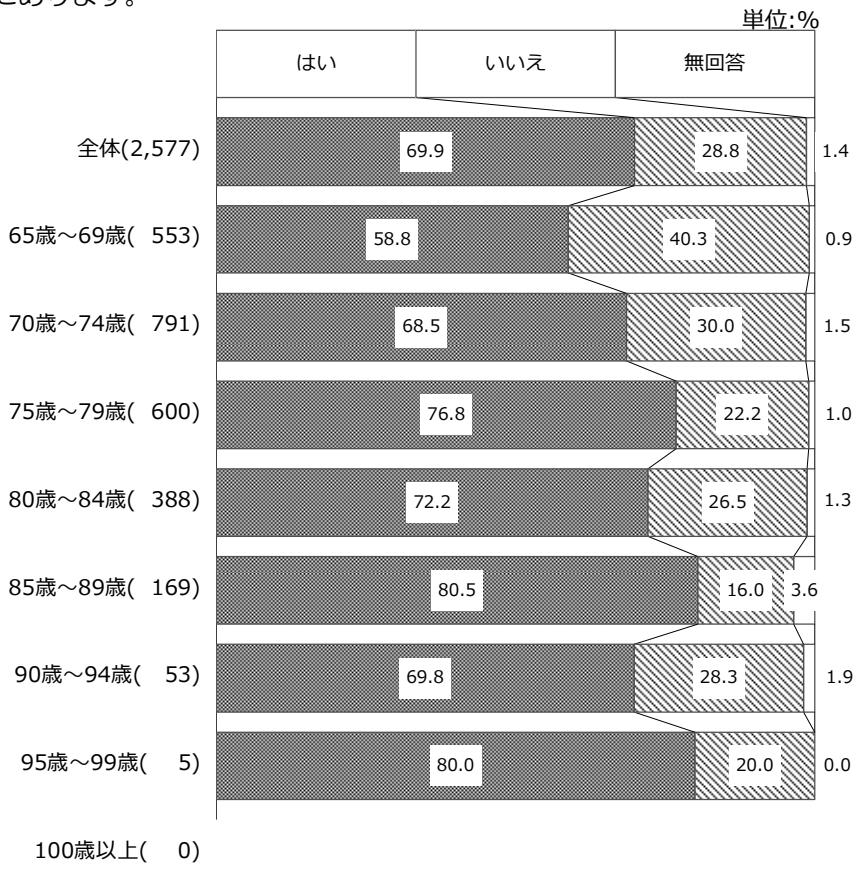
（10）新聞

新聞を読んでいますか

「はい」は 69.9%、「いいえ」は 28.8%となっています。

前期調査と比較すると、「はい」の比率がかなり下がっています。

年齢区分でみると、年齢が上がるにしたがい、「はい」の比率が上がり、「いいえ」の比率が下がる傾向にあります。



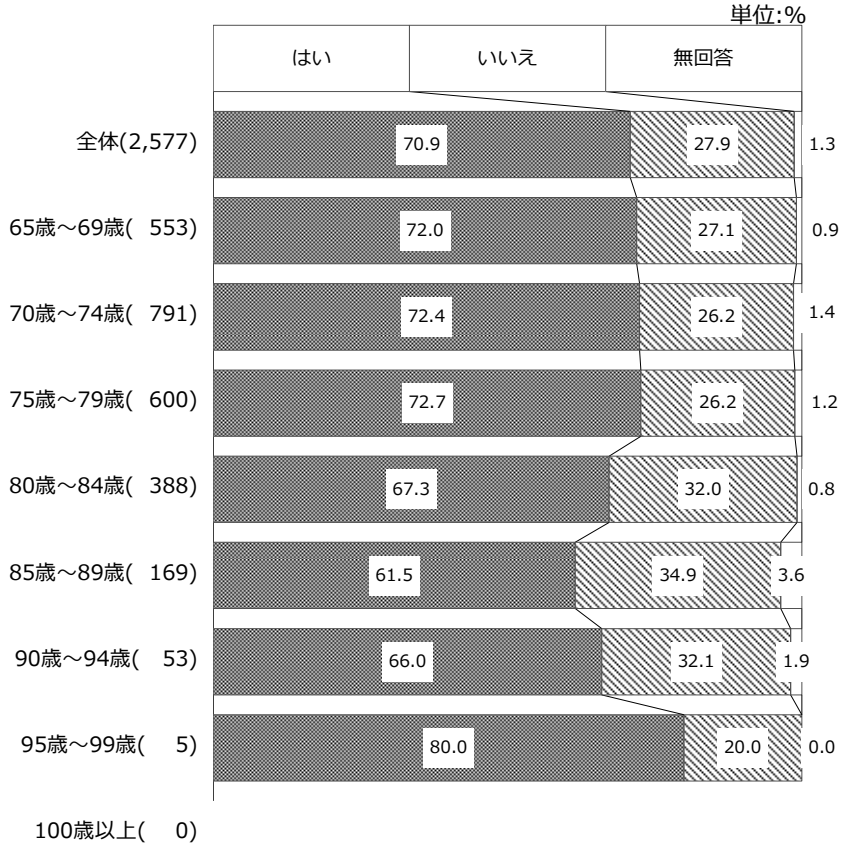
地区別では、どの地区も同じような割合で、大きな差は見られません。

		全体	はい	いいえ	無回答
全体		2,577	69.9	28.8	1.4
居住地区	第１地区	556	70.9	28.1	1.1
	第２地区	1,035	68.1	30.4	1.4
	第３地区	968	70.9	27.7	1.4
	無回答	18	88.9	11.1	-

（11）読書

本や雑誌を読んでいますか

「はい」は 70.9%、「いいえ」は 27.9%となっています。
年齢区分でみると、「79 歳」までは比率が伸びています。



地区別では、どの地区も同じような割合で、大きな差は見られません。

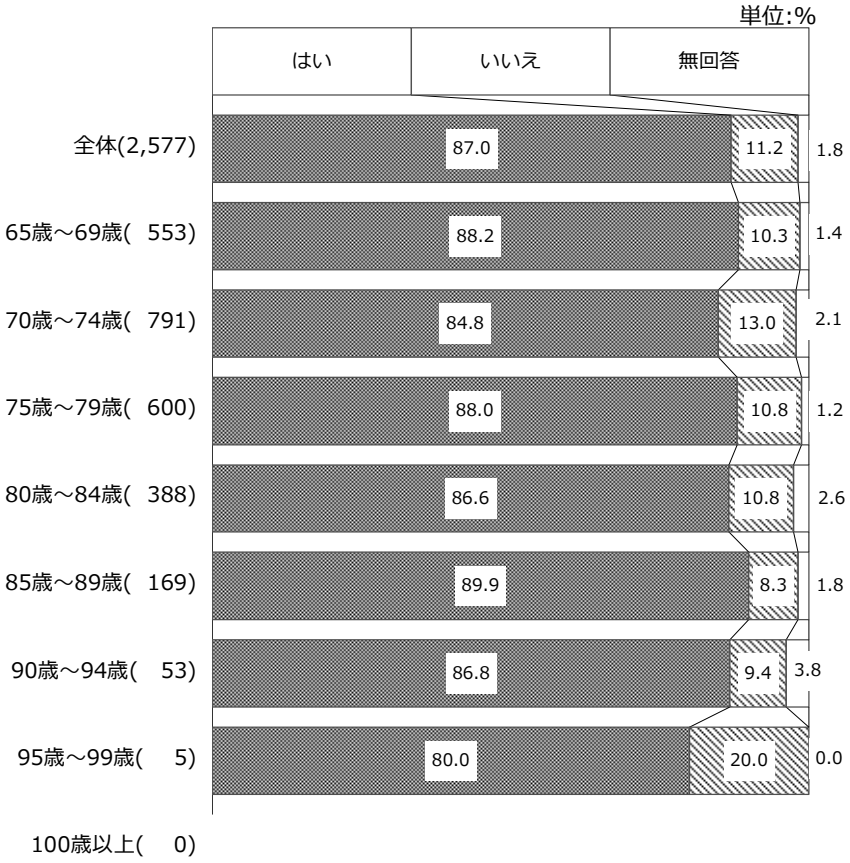
		全体	はい	いいえ	無回答
全体		2,577	70.9	27.9	1.3
居住地区	第１地区	556	73.0	26.1	0.9
	第２地区	1,035	70.1	28.5	1.4
	第３地区	968	70.1	28.4	1.4
	無回答	18	83.3	16.7	-

（12）健康についての関心

健康についての記事や番組に関心がありますか

「はい」は 87.0%、「いいえ」は 11.2%となっています。

年齢区分でみると、年齢が上がるにつれて、「いいえ」の比率が下がる傾向にあります。



地区別では、どの地区も同じような割合で、大きな差は見られません。

		全体	はい	いいえ	無回答
全体		2,577	87.0	11.2	1.8
居住地区	第１地区	556	87.9	10.8	1.3
	第２地区	1,035	86.7	11.3	2.0
	第３地区	968	86.7	11.4	2.0
	無回答	18	94.4	5.6	-

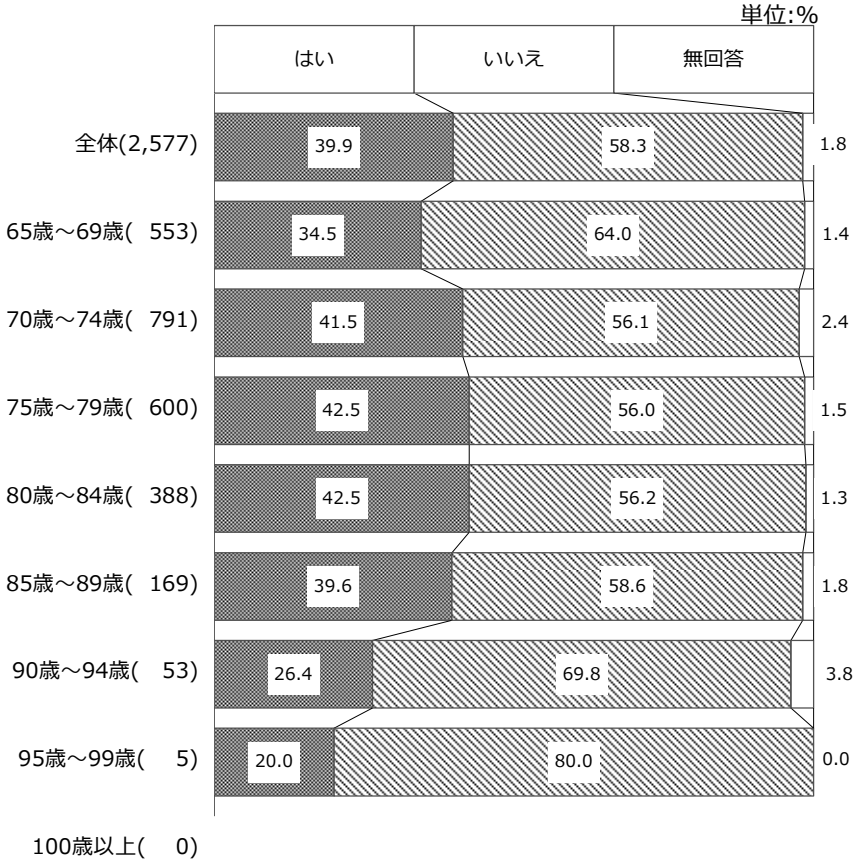
（13）訪問

友人の家を訪ねていますか

「いいえ」は 58.3%、「はい」は 39.9%となっています。

前期調査と比較すると、「はい」の比率がかなり下がっています。

年齢区分でみると、84 歳までは、年齢が上がるにつれて、「はい」の比率が上がる傾向にあります。



地区別では、どの地区も同じような割合で、大きな差は見られません。

		全体	はい	いいえ	無回答
全体		2,577	39.9	58.3	1.8
居住地区	第１地区	556	39.7	59.0	1.3
	第２地区	1,035	40.6	57.7	1.7
	第３地区	968	39.3	58.6	2.2
	無回答	18	38.9	61.1	-

また、11 区分地区でみると、以下の結果になりました。

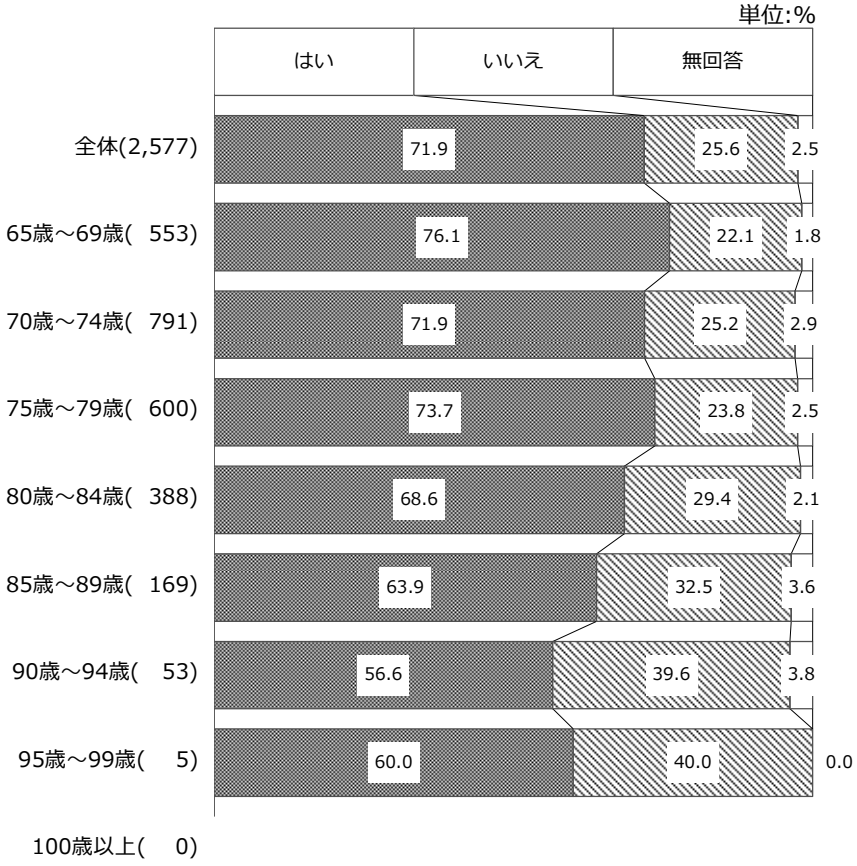
	全体	はい	いいえ	無回答
全体	2,577	1,028	1,503	46
	100.0	39.9	58.3	1.8
青梅	236	104	130	2
	100.0	44.1	55.1	0.8
東青梅	320	117	198	5
	100.0	36.6	61.9	1.6
長淵	408	168	232	8
	100.0	41.2	56.9	2.0
河辺	312	118	190	4
	100.0	37.8	60.9	1.3
梅郷	227	92	130	5
	100.0	40.5	57.3	2.2
沢井	88	42	45	1
	100.0	47.7	51.1	1.1
大門	344	152	183	9
	100.0	44.2	53.2	2.6
新町	300	87	210	3
	100.0	29.0	70.0	1.0
今井	197	74	117	6
	100.0	37.6	59.4	3.0
小曾木	84	44	39	1
	100.0	52.4	46.4	1.2
成木	43	23	18	2
	100.0	53.5	41.9	4.7
無回答	18	7	11	-
	100.0	38.9	61.1	-

（14）相談

家族や友人の相談にのっていますか

「はい」は 71.9%、「いいえ」は 25.6%となっています。

年齢区分でみると、年齢が上がるにつれて、「いいえ」の比率が上がる傾向にあります。



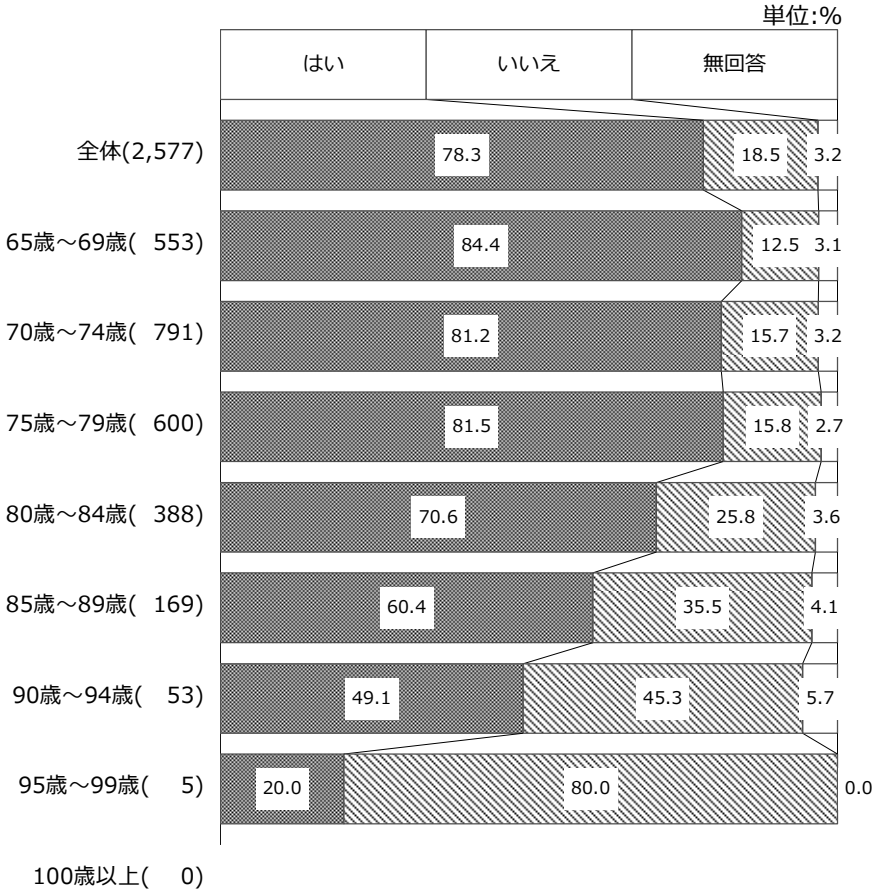
地区別では、どの地区も同じような割合で、大きな差は見られません。

		全体	はい	いいえ	無回答
全体		2,577	71.9	25.6	2.5
居住地区	第１地区	556	73.2	25.5	1.3
	第２地区	1,035	72.2	25.2	2.6
	第３地区	968	70.8	26.1	3.1
	無回答	18	72.2	27.8	-

（15）お見舞い

病人を見舞うことができますか

「はい」は 78.3%、「いいえ」は 18.5%となっています。
前期調査と比較すると、「はい」の比率がかなり下がっています。
年齢区分でみると、年齢が上がるにつれて、「いいえ」の比率が上がっています。



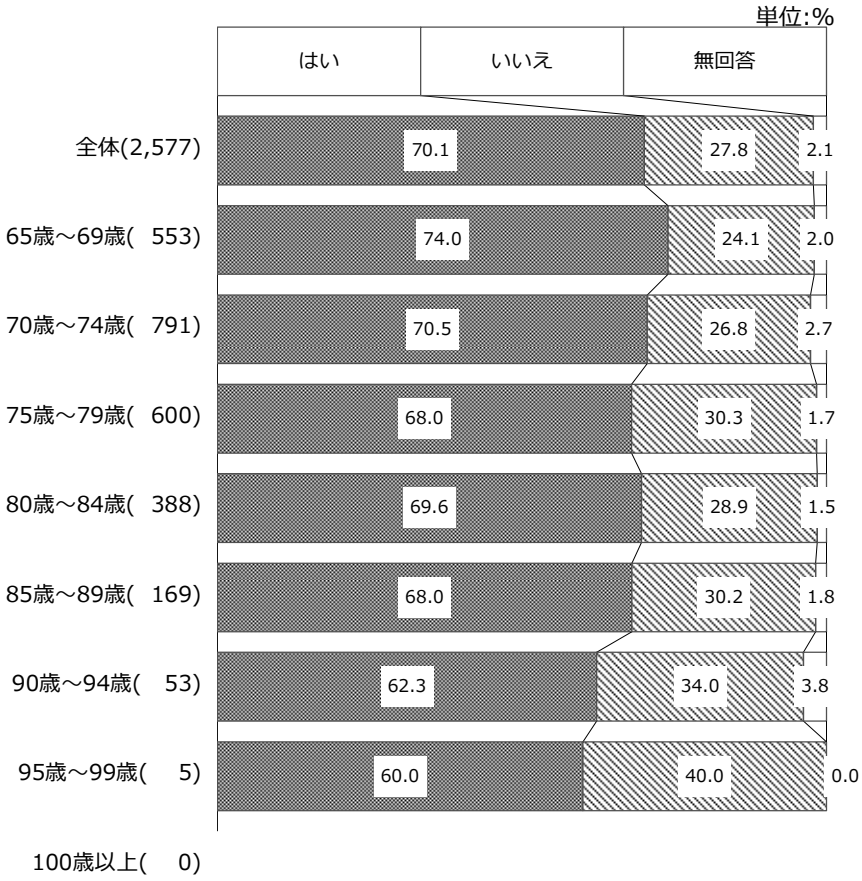
地区別では、どの地区も同じような割合で、大きな差は見られません。

		全体	はい	いいえ	無回答
全体		2,577	78.3	18.5	3.2
居住地区	第１地区	556	77.7	19.4	2.9
	第２地区	1,035	78.5	18.4	3.2
	第３地区	968	78.2	18.4	3.4
	無回答	18	88.9	11.1	-

（16）話しかけ

若い人に自分から話しかけることがありますか

「はい」は 70.1%、「いいえ」は 27.8%となっています。
前期調査と比較すると、「はい」の比率がかなり下がっています。
年齢区分でみると、年齢が上がるにつれて、「いいえ」の比率が上がる傾向にあります。



地区別では、どの地区も同じような割合で、大きな差は見られません。

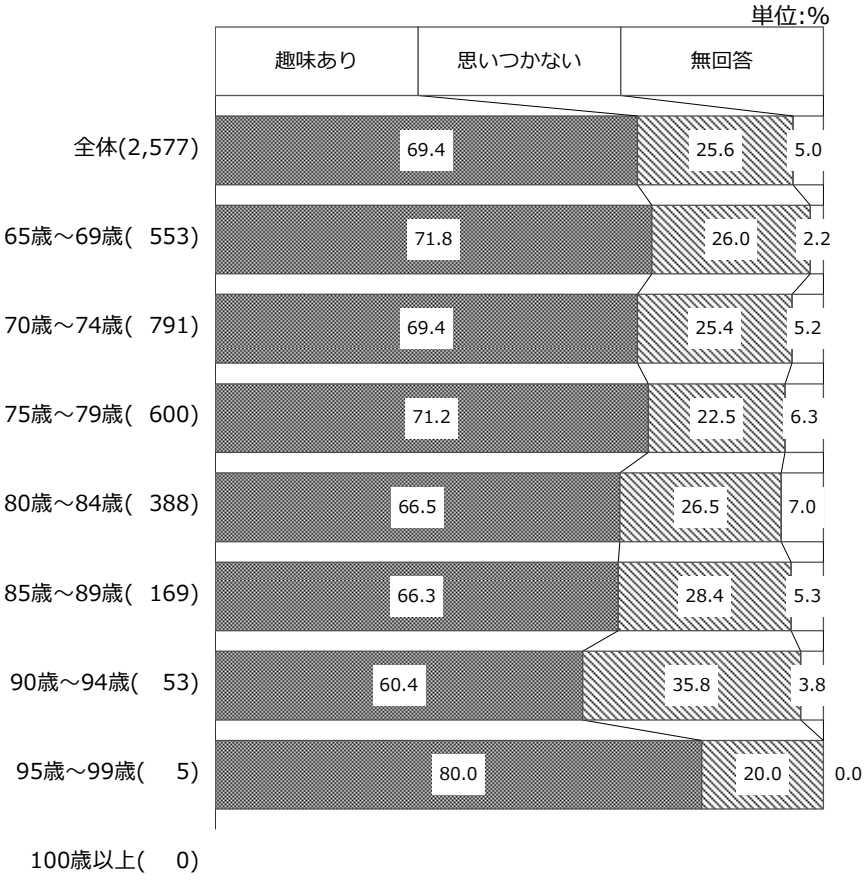
		全体	はい	いいえ	無回答
全体		2,577	70.1	27.8	2.1
居住地区	第１地区	556	69.6	28.6	1.8
	第２地区	1,035	69.3	29.0	1.7
	第３地区	968	71.5	25.9	2.6
	無回答	18	55.6	33.3	11.1

（17）趣味

趣味はありますか

「趣味あり」は 69.4%、「思いつかない」は 25.6%となっています。

年齢区分でみると、年齢が上がるにつれて、「思いつかない」の比率が上がる傾向にあります。



地区別にみると、「第２地区」では「趣味あり」の割合が、他の地区と比較して若干低くなっています。

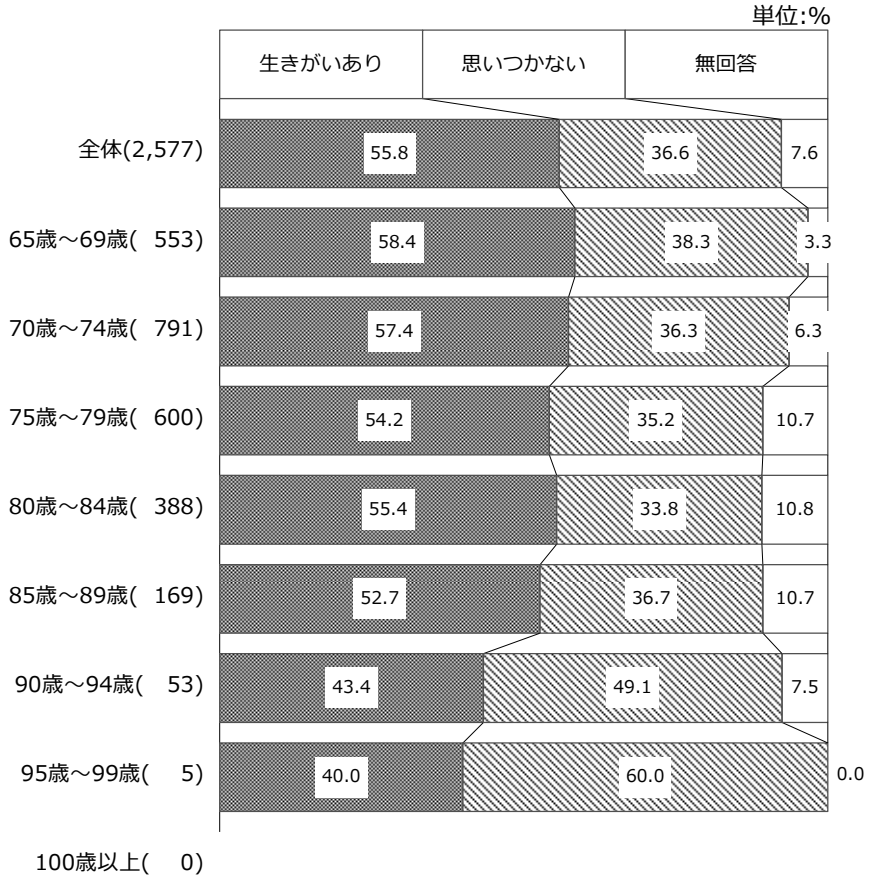
		全体	趣味あり	思いつかない	無回答
全体		2,577	69.4	25.6	5.0
居住地区	第１地区	556	70.9	23.6	5.6
	第２地区	1,035	67.7	27.1	5.1
	第３地区	968	70.7	24.7	4.6
	無回答	18	55.6	44.4	-

（18）生きがい

生きがいはありますか

「生きがいあり」は 55.8%、「思いつかない」は 36.6%となっています。

年齢区分でみると、年齢が上がるにつれて、「生きがいあり」の比率が下がる傾向にあります。



地区別に見ると、「生きがいあり」は「第１地区」で最も高く、次いで「第３地区」「第２地区」となっています。

		全体	生きがいあり	思いつかない	無回答
全体		2,577	55.8	36.6	7.6
居住地区	第１地区	556	60.4	31.5	8.1
	第２地区	1,035	53.0	39.0	7.9
	第３地区	968	56.4	36.5	7.1
	無回答	18	44.4	55.6	-

5 地域での活動について

（1）会・グループ等の参加頻度

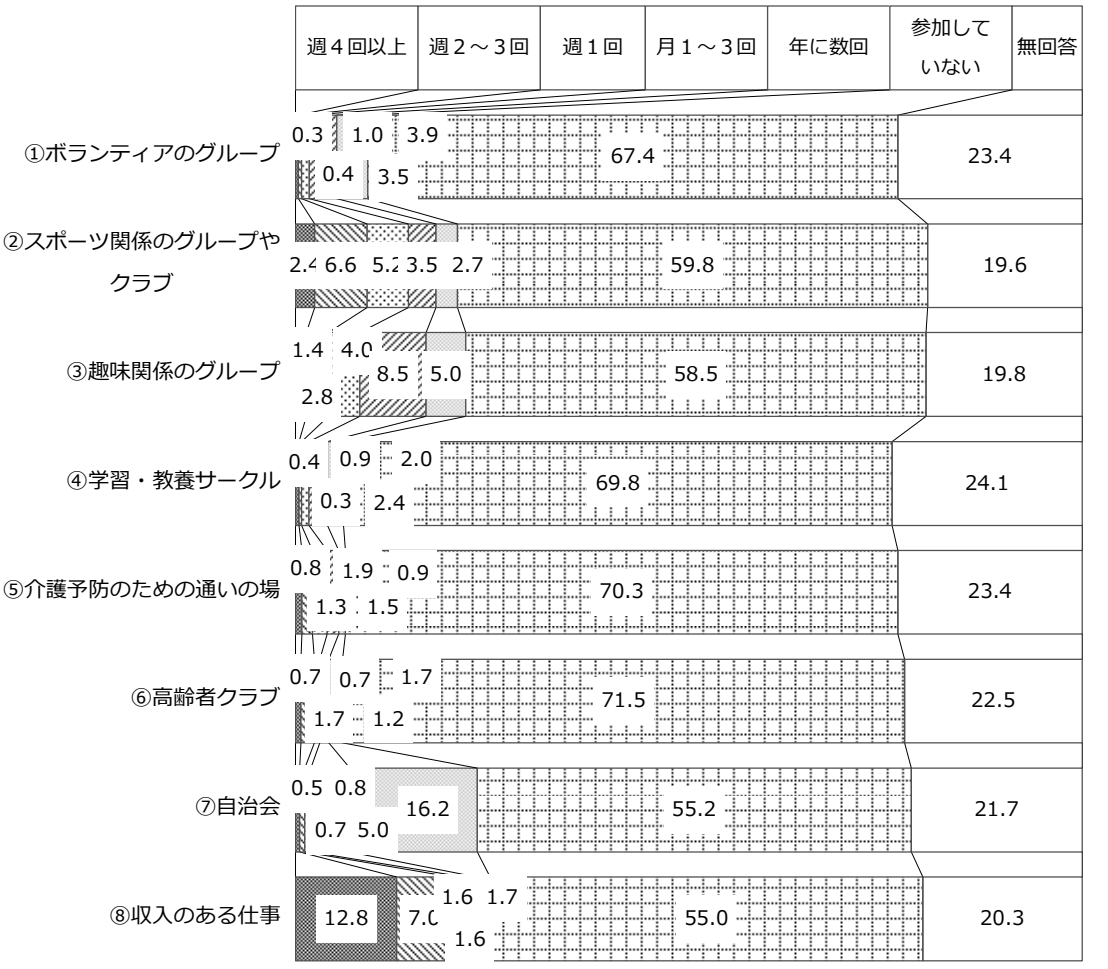
以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか
※① - ⑧それぞれに回答してください

参加率が最も低いのは「高齢者クラブ」で「参加していない」が 71.5%、それに「介護予防のための通いの場」が 70.3%、「学習・教養サークル」が 69.8%で続きます。逆に、「参加していない」が低く、参加率が相対的に高いのは、「収入のある仕事」で 55.0%、それに「自治会」の 55.2%、「趣味関係のグループ」の 58.5%が続きます。

前期調査と比較すると、総じて「参加していない」の比率が上がっています。

総数=2,577

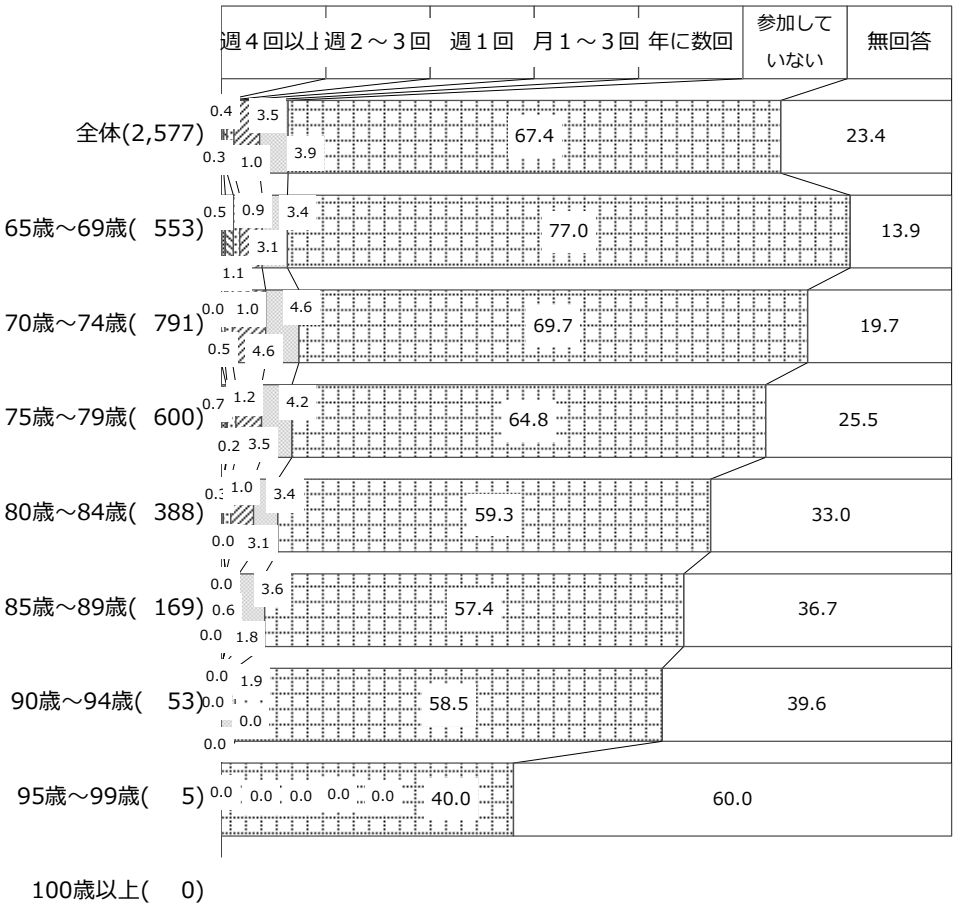
単位:%



①ボランティアのグループ

全体では「週４回以上」～「年に数回」を合わせた「参加している」人は9.2%で、特に「70歳～74歳」の参加率が高くなっています。

単位:%

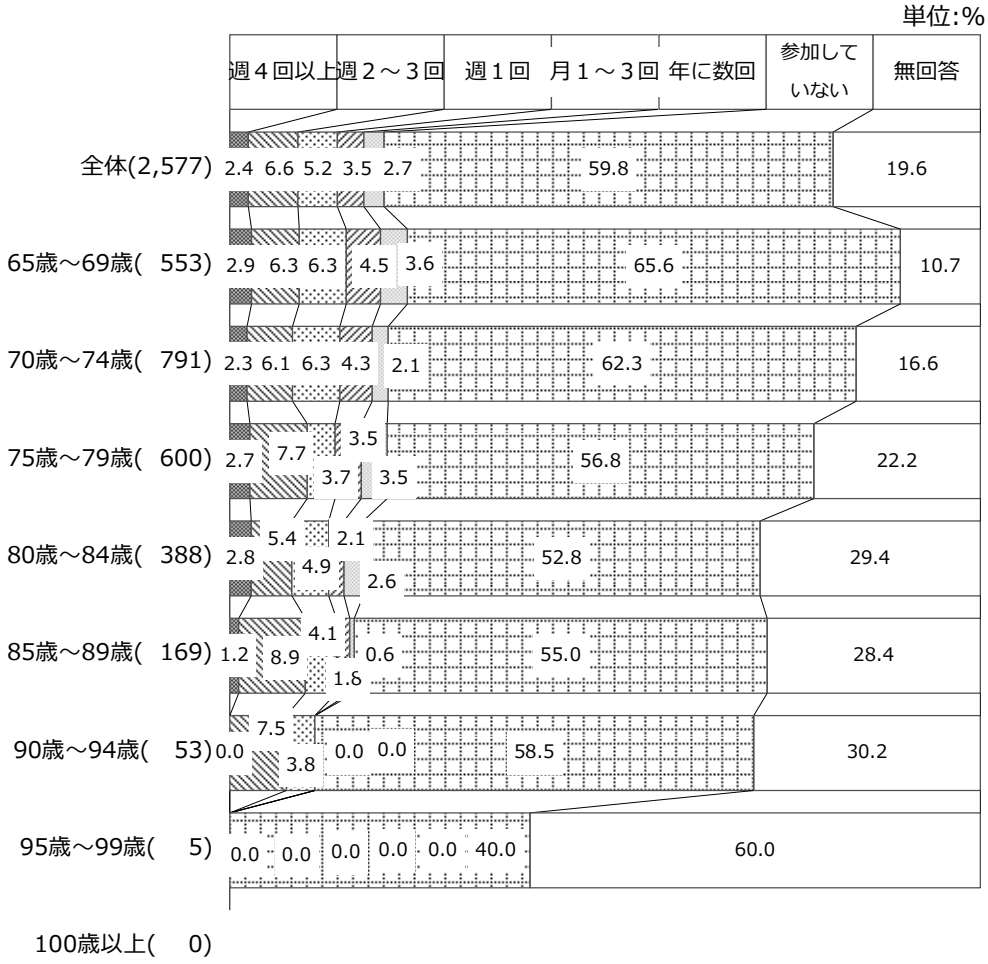


地区別では、「週４回以上」「週２～３回」「週１回」「月１～３回」「年に数回」と回答した人の合計は「第１地区」が最も高く、次いで「第２地区」「第３地区」となっています。

		全体	週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回	参加していない	無回答
全体		2,577	0.3	0.4	1.0	3.5	3.9	67.4	23.4
居住地区	第１地区	556	0.5	0.5	1.3	3.8	4.3	64.0	25.5
	第２地区	1,035	0.3	0.5	1.1	4.3	4.0	67.9	22.0
	第３地区	968	0.3	0.3	0.6	2.5	3.6	68.9	23.8
	無回答	18	-	-	5.6	5.6	5.6	66.7	16.7

② スポーツ関係のグループやクラブ

全体では「週４回以上」～「年に数回」を合わせた「参加している」人は 20.6%で、年齢階層が低いほど参加率が高くなっています。

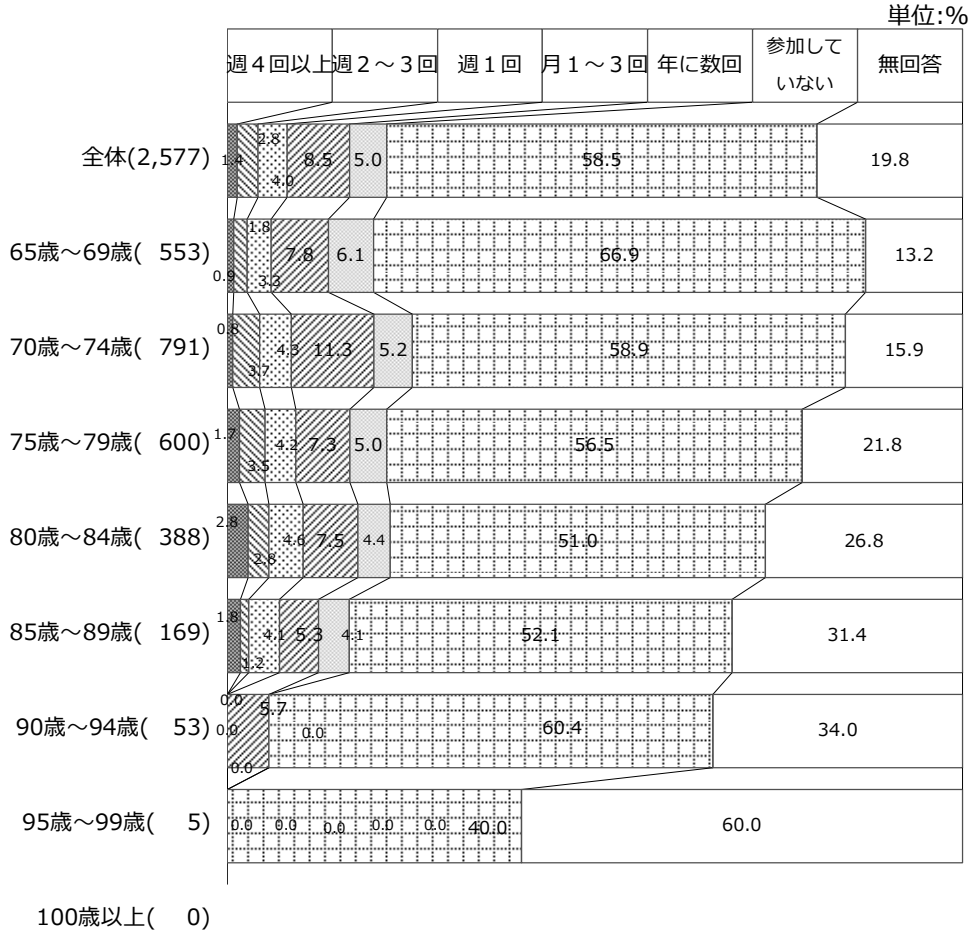


地区別では、「週４回以上」「週２～３回」「週１回」「月１～３回」「年に数回」と回答した人の合計は「第２地区」が最も高く、次いで「第１地区」「第３地区」となっています。

		全体	週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回	参加していない	無回答
全体		2,577	2.4	6.6	5.2	3.5	2.7	59.8	19.6
居住地区	第１地区	556	3.6	7.2	5.0	3.8	2.2	58.1	20.1
	第２地区	1,035	2.6	6.6	5.4	4.0	3.3	59.3	18.8
	第３地区	968	1.7	6.3	5.3	3.0	2.4	61.1	20.4
	無回答	18	-	11.1	-	-	5.6	72.2	11.1

③ 趣味関係のグループ

全体では「週４回以上」～「年に数回」を合わせた「参加している」人は 21.7%で、特に「70 歳～74 歳」の参加率が高くなっています。



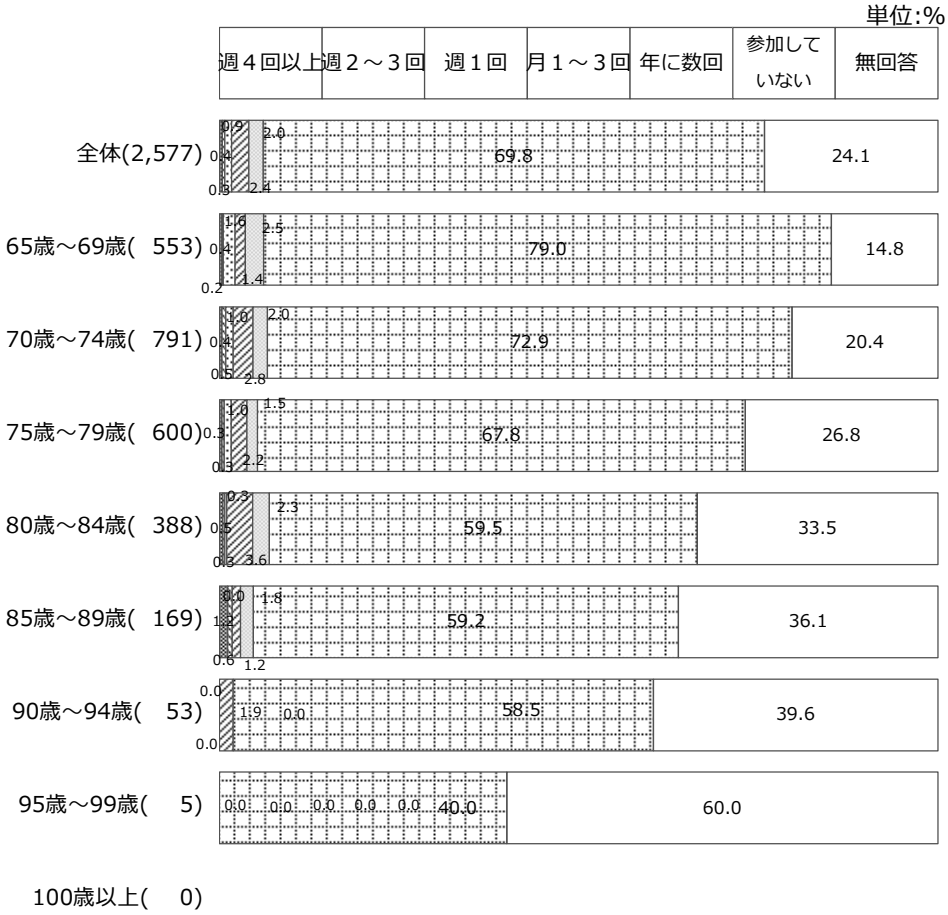
地区別では、「週４回以上」「週２～３回」「週１回」「月１～３回」「年に数回」と回答した人の合計は「第１地区」が最も高く、次いで「第２地区」「第３地区」となっています。

		全体	週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回	参加していない	無回答
全体		2,577	1.4	2.8	4.0	8.5	5.0	58.5	19.8
居住地区	第１地区	556	1.3	2.7	5.2	10.4	5.8	54.3	20.3
	第２地区	1,035	2.0	2.6	3.7	8.9	3.9	59.7	19.2
	第３地区	968	0.7	3.2	3.6	6.9	5.9	59.4	20.2
	無回答	18	-	-	-	5.6	5.6	72.2	16.7

④ 学習・教養サークル

全体では「週４回以上」～「年に数回」を合わせた「参加している」人は 6.1%です。年齢別では、65 歳から 84 歳までの参加率が高くなっています。

単位:%

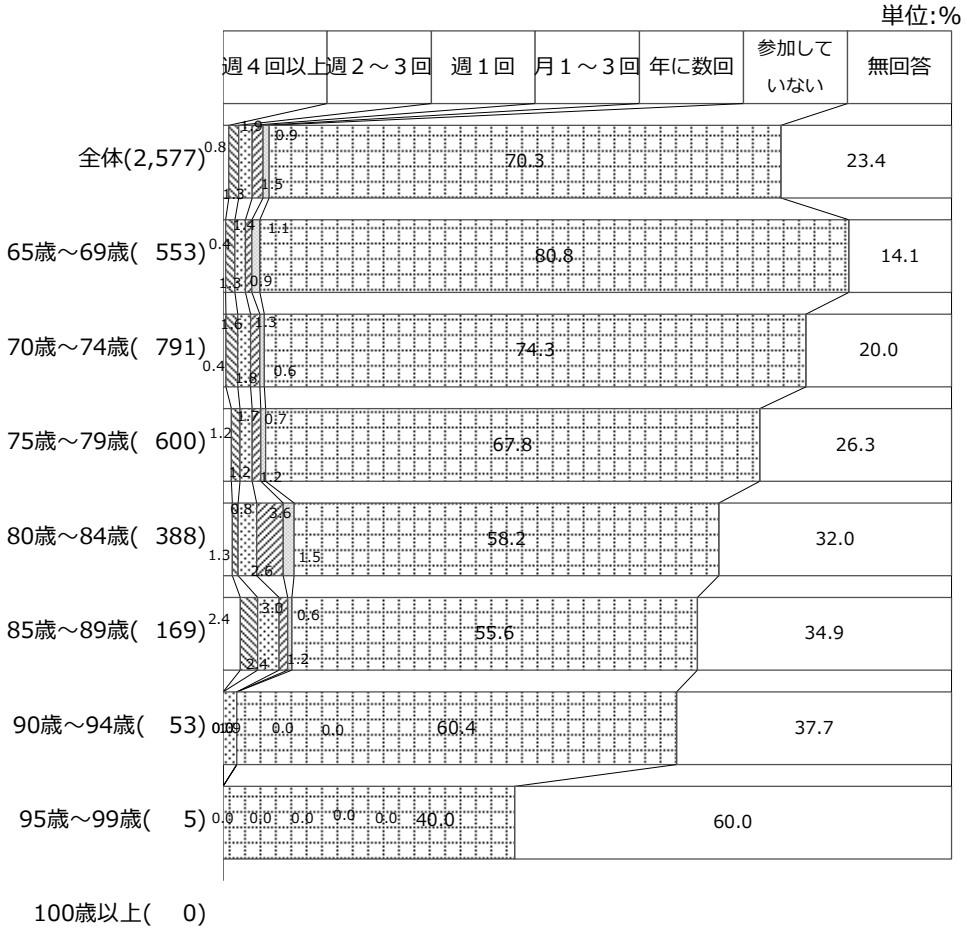


地区別では、「週４回以上」「週２～３回」「週１回」「月１～３回」「年に数回」と回答した人の合計は「第１地区」が最も高く、次いで「第３地区」「第２地区」となっています。

		全体	週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回	参加していない	無回答
全体		2,577	0.4	0.3	0.9	2.4	2.0	69.8	24.1
居住地区	第１地区	556	0.2	0.5	1.4	2.9	3.4	65.1	26.4
	第２地区	1,035	0.6	0.3	1.0	2.0	1.4	71.5	23.3
	第３地区	968	0.4	0.3	0.6	2.4	1.9	70.6	23.9
	無回答	18	-	-	-	5.6	5.6	72.2	16.7

⑤ 健康体操教室、介護予防自主グループなど、介護予防のための通いの場

全体では「週４回以上」～「年に数回」を合わせた「参加している」人は 6.3%で、特に「80 歳～89 歳」の参加率が高くなっています。

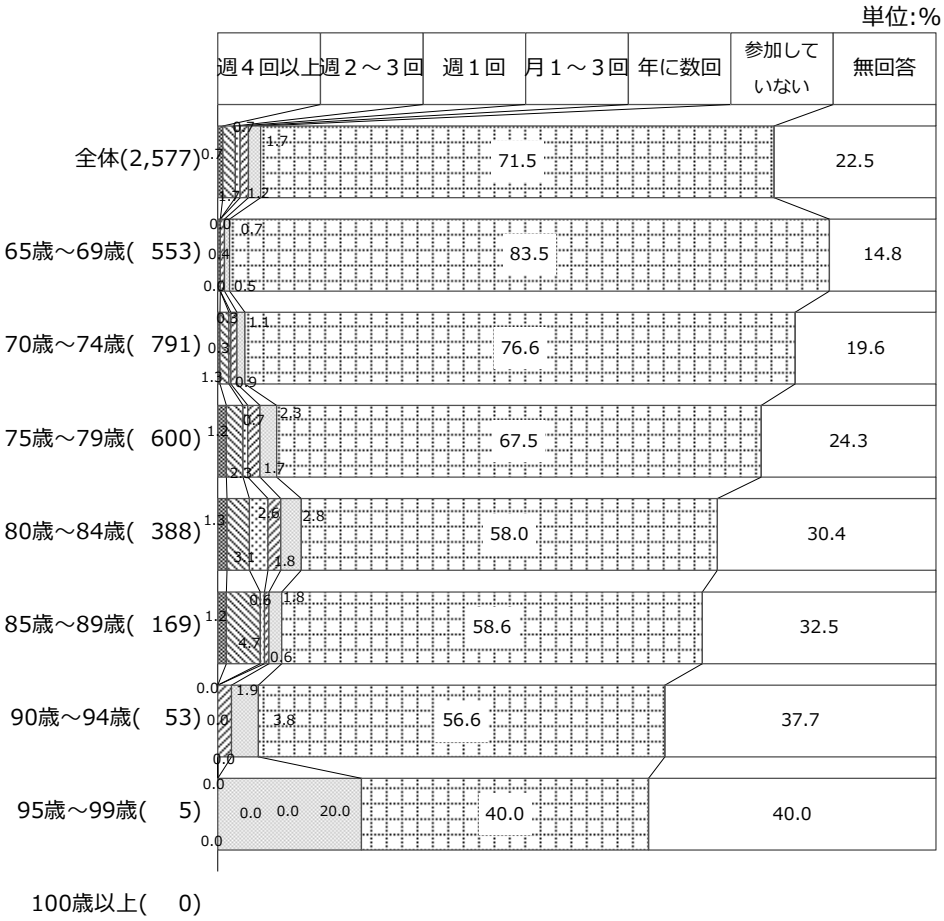


地区別では、「週４回以上」「週２～３回」「週１回」「月１～３回」「年に数回」と回答した人の合計は「第１地区」「第２地区」が同率で最も高く、次いで「第３地区」となっています。

		全体	週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回	参加していない	無回答
全体		2,577	0.8	1.3	1.9	1.5	0.9	70.3	23.4
居住地区	第１地区	556	0.9	2.2	1.6	1.3	0.9	68.0	25.2
	第２地区	1,035	0.9	1.1	2.2	1.7	1.0	70.3	22.8
	第３地区	968	0.7	1.1	1.7	1.3	0.7	71.3	23.1
	無回答	18	-	-	-	-	-	83.3	16.7

⑥ 高齢者クラブ

全体では「週４回以上」～「年に数回」を合わせた「参加している」人は 6.0%で、特に「80 歳～84 歳」の参加率や活動頻度が高くなっています。



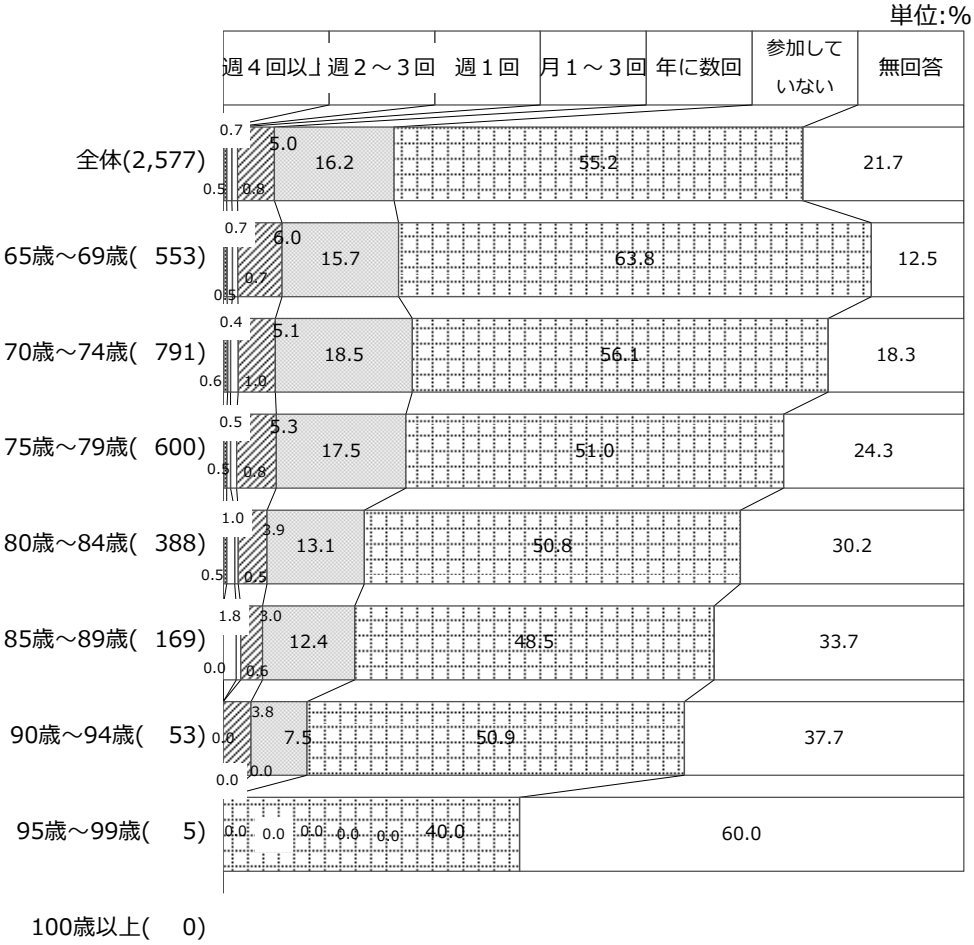
地区別では、「週４回以上」「週２～３回」「週１回」「月１～３回」「年に数回」と回答した人の合計は「第１地区」が最も高く、次いで「第２地区」「第３地区」となっています。

		全体	週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回	参加していない	無回答
全体		2,577	0.7	1.7	0.7	1.2	1.7	71.5	22.5
居住地区	第１地区	556	0.9	2.9	0.2	1.1	2.5	68.2	24.3
	第２地区	1,035	0.8	1.7	1.1	1.0	1.4	72.6	21.4
	第３地区	968	0.5	1.0	0.5	1.3	1.5	72.2	22.8
	無回答	18	-	-	-	5.6	5.6	72.2	16.7

⑦ 自治会

全体では「週４回以上」～「年に数回」を合わせた「参加している」人は 23.1%です。「70 歳～74 歳」をピークとして、そこから年齢が高くなるほど参加率が低くなっています。

単位:%



地区別では、「週４回以上」「週２～３回」「週１回」「月１～３回」「年に数回」と回答した人の合計は「第２地区」が最も高く、次いで「第１地区」「第３地区」となっています。

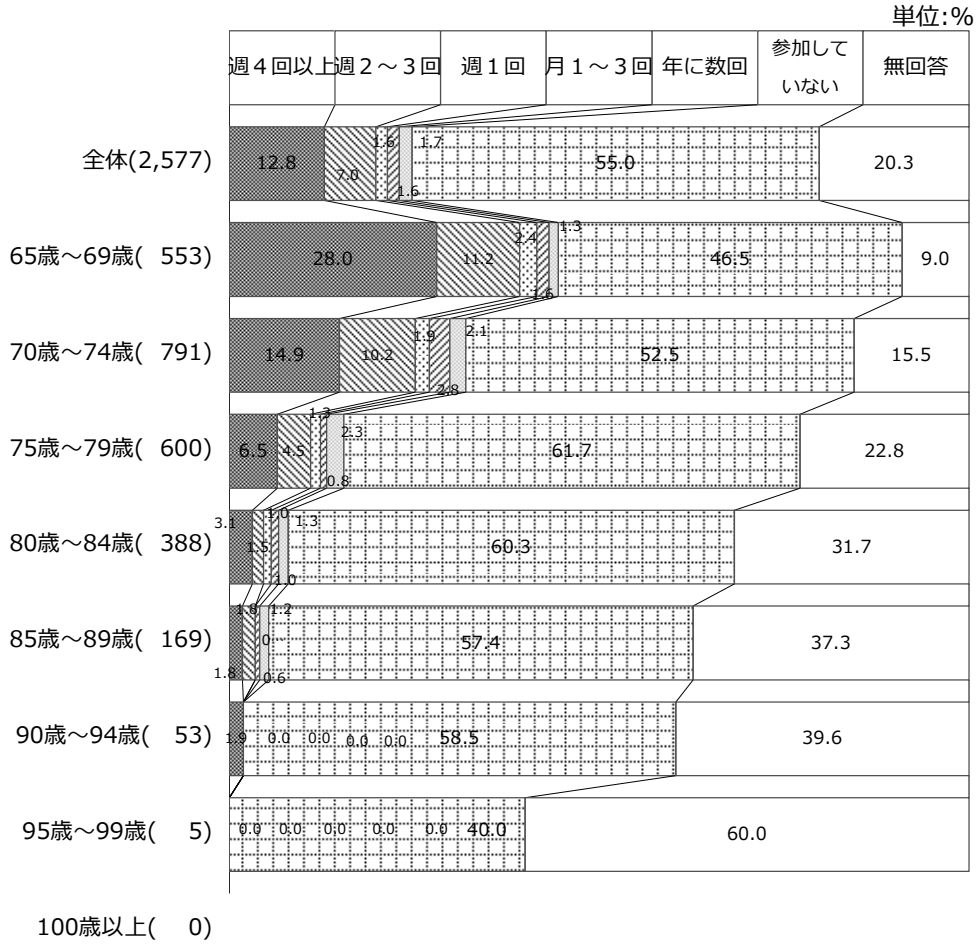
		全体	週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回	参加していない	無回答
全体		2,577	0.5	0.7	0.8	5.0	16.2	55.2	21.7
居住地区	第１地区	556	0.7	1.1	1.6	5.6	14.0	53.8	23.2
	第２地区	1,035	0.4	0.5	0.8	5.4	17.2	54.4	21.4
	第３地区	968	0.5	0.6	0.3	4.1	16.3	56.7	21.4
	無回答	18	-	-	-	5.6	16.7	61.1	16.7

また、11 区分地区でみると、以下の結果になりました。

	全体	週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回	参加していない	無回答
全体	2,577	13	17	20	128	417	1,422	560
	100.0	0.5	0.7	0.8	5.0	16.2	55.2	21.7
青梅	236	1	2	4	16	39	129	45
	100.0	0.4	0.8	1.7	6.8	16.5	54.7	19.1
東青梅	320	3	4	5	15	39	170	84
	100.0	0.9	1.3	1.6	4.7	12.2	53.1	26.3
長淵	408	1	2	2	17	75	220	91
	100.0	0.2	0.5	0.5	4.2	18.4	53.9	22.3
河辺	312	2	1	4	21	30	186	68
	100.0	0.6	0.3	1.3	6.7	9.6	59.6	21.8
梅郷	227	-	2	2	12	48	118	45
	100.0	-	0.9	0.9	5.3	21.1	52.0	19.8
沢井	88	1	-	-	6	25	39	17
	100.0	1.1	-	-	6.8	28.4	44.3	19.3
大門	344	1	1	1	10	58	206	67
	100.0	0.3	0.3	0.3	2.9	16.9	59.9	19.5
新町	300	1	1	-	12	26	188	72
	100.0	0.3	0.3	-	4.0	8.7	62.7	24.0
今井	197	1	1	1	7	41	105	41
	100.0	0.5	0.5	0.5	3.6	20.8	53.3	20.8
小曾木	84	2	2	-	7	17	35	21
	100.0	2.4	2.4	-	8.3	20.2	41.7	25.0
成木	43	-	1	1	4	16	15	6
	100.0	-	2.3	2.3	9.3	37.2	34.9	14.0
無回答	18	-	-	-	1	3	11	3
	100.0	-	-	-	5.6	16.7	61.1	16.7

⑧ 収入のある仕事

全体では「週４回以上」～「年に数回」を合わせた「参加している」人は 24.7%で、年齢階層が低いほど参加率が高くなっています。



地区別では、「週４回以上」「週２～３回」「週１回」と回答した人の合計は「第２地区」が最も高く、次いで「第１地区」「第３地区」となっています。

		全体	週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回	参加していない	無回答
全体		2,577	12.8	7.0	1.6	1.6	1.7	55.0	20.3
居住地区	第１地区	556	13.3	6.8	1.6	2.3	0.9	53.8	21.2
	第２地区	1,035	12.6	7.9	1.4	1.5	2.0	55.5	19.0
	第３地区	968	12.8	6.1	1.7	1.2	2.0	55.1	21.2
	無回答	18	16.7	5.6	-	-	-	66.7	11.1

また、11 区分地区でみると、以下の結果になりました。

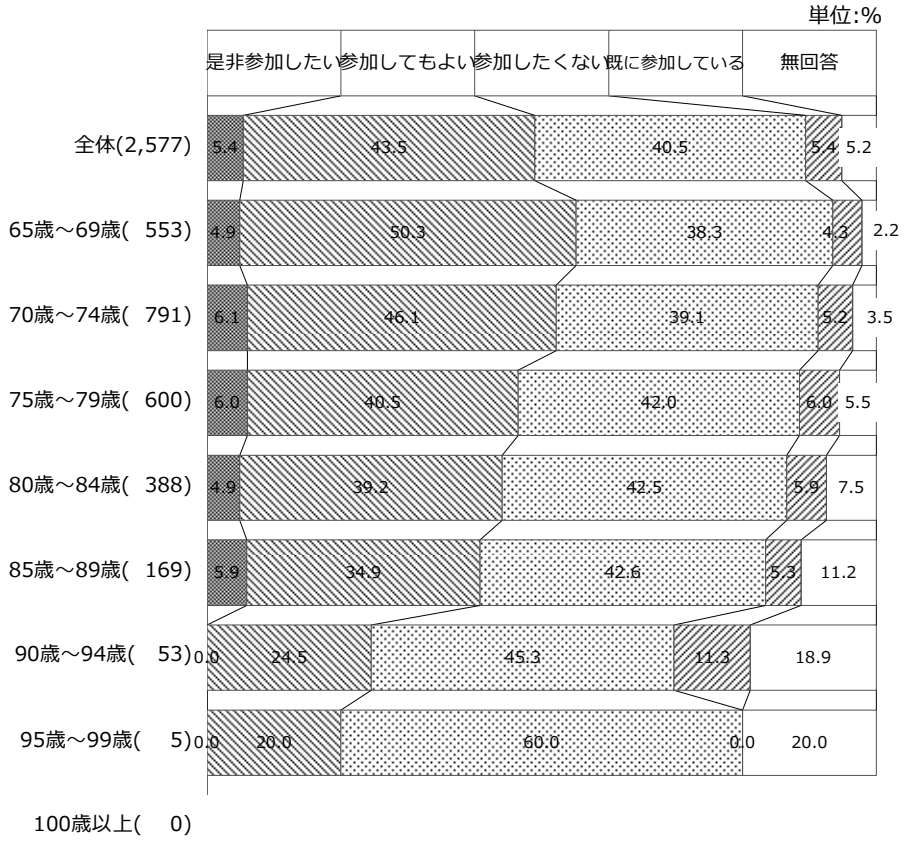
	全体	週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回	参加していない	無回答
全体	2,577	331	180	40	41	45	1,418	522
	100.0	12.8	7.0	1.6	1.6	1.7	55.0	20.3
青梅	236	29	16	3	8	4	133	43
	100.0	12.3	6.8	1.3	3.4	1.7	56.4	18.2
東青梅	320	45	22	6	5	1	166	75
	100.0	14.1	6.9	1.9	1.6	0.3	51.9	23.4
長淵	408	49	35	5	6	11	215	87
	100.0	12.0	8.6	1.2	1.5	2.7	52.7	21.3
河辺	312	47	19	6	4	4	174	58
	100.0	15.1	6.1	1.9	1.3	1.3	55.8	18.6
梅郷	227	22	23	1	5	4	137	35
	100.0	9.7	10.1	0.4	2.2	1.8	60.4	15.4
沢井	88	12	5	3	1	2	48	17
	100.0	13.6	5.7	3.4	1.1	2.3	54.5	19.3
大門	344	39	27	4	3	10	190	71
	100.0	11.3	7.8	1.2	0.9	2.9	55.2	20.6
新町	300	42	18	6	5	6	158	65
	100.0	14.0	6.0	2.0	1.7	2.0	52.7	21.7
今井	197	21	11	2	2	1	118	42
	100.0	10.7	5.6	1.0	1.0	0.5	59.9	21.3
小曾木	84	16	2	3	2	1	42	18
	100.0	19.0	2.4	3.6	2.4	1.2	50.0	21.4
成木	43	6	1	1	-	1	25	9
	100.0	14.0	2.3	2.3	-	2.3	58.1	20.9
無回答	18	3	1	-	-	-	12	2
	100.0	16.7	5.6	-	-	-	66.7	11.1

（2）地域づくりの活動への参加意向

地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか

「参加してもよい」が 43.5%で最も多く、「参加したくない」（40.5%）、「是非参加したい」「既に参加している」（5.4%）が続きます。

年齢階層が高くなるほど、「参加したくない」の比率が高くなっています。



これを地区区分でみると、「既に参加している」「是非参加したい」を合わせると「第１地区」の比率が最も高く、「参加したくない」では「第３地区」の比率が最も高くなっています。

		全体	是非参加したい	参加してもよい	参加したくない	既に参加している	無回答
全体		2,577	5.4	43.5	40.5	5.4	5.2
居住地区	第１地区	556	7.0	41.7	39.4	6.7	5.2
	第２地区	1,035	5.0	45.4	39.0	5.1	5.4
	第３地区	968	5.1	42.3	42.8	5.1	4.9
	無回答	18	-	61.1	33.3	-	5.6

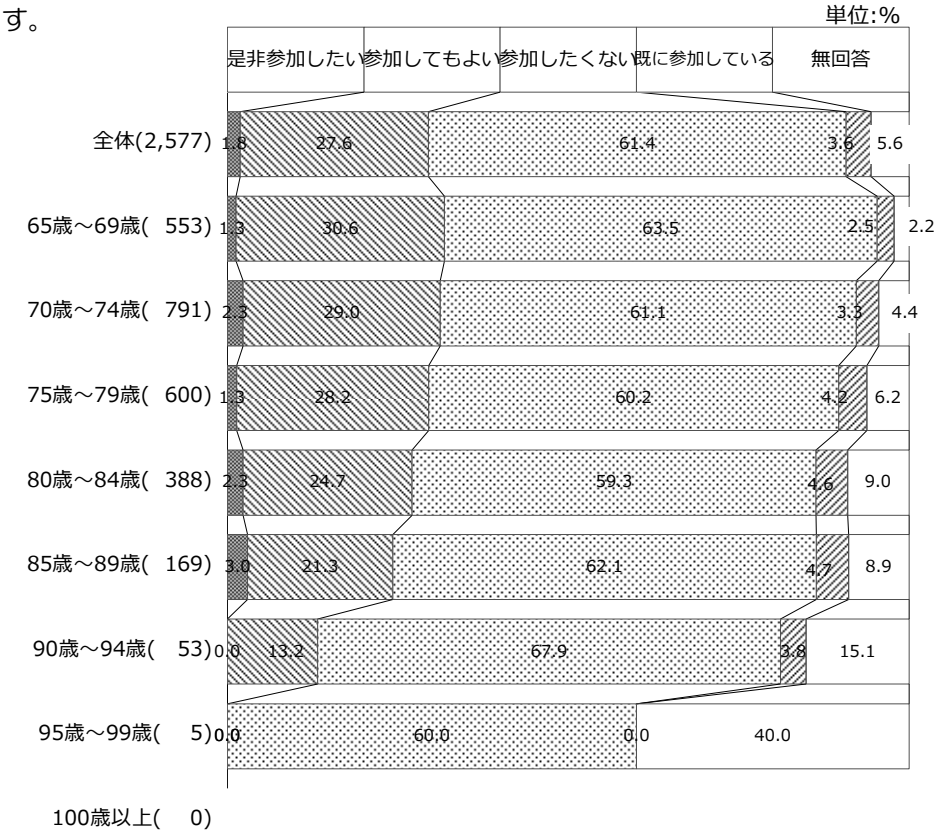
（3）企画・運営者としての地域活動への参加意向

地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思いますか

「参加したくない」が61.4%で最も多く、「参加してもよい」（27.6%）、「既に参加している」（3.6%）、「是非参加したい」（1.8%）が続きます。

年齢階層が高くなるほど、「是非参加したい」「参加してもよい」を合わせた構成比が下がっています。

単位:%



これを地区区分でみると、「是非参加したい」「参加してもよい」を合わせると「第１地区」の比率が最も高く、「参加したくない」では「第３地区」の比率が最も高くなっています。

		全体	是非参加したい	参加してもよい	参加したくない	既に参加している	無回答
全体		2,577	1.8	27.6	61.4	3.6	5.6
居住地区	第１地区	556	2.3	31.1	56.3	4.7	5.6
	第２地区	1,035	1.7	27.1	61.9	3.6	5.7
	第３地区	968	1.7	26.1	63.5	3.1	5.6
	無回答	18	-	33.3	66.7	-	-

6 たすけあいについて

（1）心配事や愚痴を聞いてくれる人

あなたの心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人（いくつでも）

「配偶者」が 54.9%で最も多く、「友人」（43.5%）、「別居の子ども」（36.9%）、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」（33.9%）が続きます。

年齢階層が高くなるほど、「配偶者」「友人」の構成比が低くなり、また、「別居の子ども」「同居の子ども」の構成比が高くなっています。

		全体	配偶者	同居の子ども	別居の子ども	兄弟姉妹・親戚・親・孫	近隣	友人	その他	そのような人はいない	無回答
	全体	2,577	54.9	21.0	36.9	33.9	12.5	43.5	2.4	5.7	1.7
年齢	65歳～69歳	553	64.7	18.4	36.5	36.9	9.9	49.7	3.6	5.4	1.1
	70歳～74歳	791	59.8	18.0	35.0	33.0	11.1	46.5	2.5	6.7	0.9
	75歳～79歳	600	54.0	19.7	36.2	34.7	12.8	43.0	1.7	5.0	2.0
	80歳～84歳	388	49.2	26.8	38.4	34.0	17.8	37.1	2.1	5.2	1.5
	85歳～89歳	169	32.0	28.4	40.8	27.8	16.6	32.5	2.4	4.7	4.1
	90歳～94歳	53	11.3	39.6	45.3	34.0	7.5	22.6	－	5.7	7.5
	95歳～99歳	5	－	40.0	80.0	－	20.0	20.0	－	20.0	－
	100歳以上	－	*	*	*	*	*	*	*	*	*
	無回答	18	55.6	16.7	44.4	22.2	－	38.9	－	16.7	5.6

地区別でみると、全体的に大きな差は見られませんが、「第１地区」では他の地区と比較して「配偶者」「同居の子ども」「別居の子ども」「近隣」の回答割合が低く、「そのような人はいない」が若干高くなっています。

		全体	配偶者	同居の子ども	別居の子ども	兄弟姉妹・親戚・親・孫	近隣	友人	その他	そのような人はいない	無回答
	全体	2,577	54.9	21.0	36.9	33.9	12.5	43.5	2.4	5.7	1.7
居住地区	第１地区	556	54.1	18.5	35.1	33.3	11.3	44.6	3.1	6.8	1.4
	第２地区	1,035	54.6	21.4	37.8	35.6	13.1	42.7	2.5	5.2	2.0
	第３地区	968	55.8	22.0	36.8	32.7	12.7	43.7	2.0	5.5	1.3
	無回答	18	55.6	16.7	44.4	22.2	-	38.9	-	16.7	5.6

（2）心配事や愚痴を聞いてあげる人

反対に、あなたが心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人（いくつでも）

「配偶者」が52.3%で最も多く、「友人」（44.0%）、「別居の子ども」（35.3%）、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」（34.8%）が続きます。

年齢階層が高くなるほど、「配偶者」「友人」の構成比が低くなり、また、「そのような人はいない」の構成比が高くなっています。

		全体	配偶者	同居の子ども	別居の子ども	兄弟姉妹・親戚・親・孫	近隣	友人	その他	そのような人はいない	無回答
	全体	2,577	52.3	18.9	35.3	34.8	14.2	44.0	1.6	7.3	2.6
年齢	65歳～69歳	553	63.7	19.9	38.5	40.5	12.1	50.5	2.5	5.4	1.3
	70歳～74歳	791	57.4	17.6	37.0	36.2	14.2	47.2	2.1	6.8	1.1
	75歳～79歳	600	50.5	18.3	33.8	32.7	14.3	43.8	1.2	6.0	2.8
	80歳～84歳	388	44.8	21.1	32.0	32.5	16.2	36.9	0.8	9.8	3.1
	85歳～89歳	169	28.4	16.6	29.0	27.2	17.8	32.5	－	10.1	8.9
	90歳～94歳	53	11.3	24.5	34.0	30.2	11.3	26.4	－	17.0	11.3
	95歳～99歳	5	－	40.0	40.0	－	－	－	－	40.0	－
	100歳以上	－	*	*	*	*	*	*	*	*	*
	無回答	18	55.6	11.1	38.9	22.2	16.7	44.4	－	5.6	5.6

地区別でみると、全体的に大きな差は見られませんが、「第３地区」では「配偶者」「友人」の回答割合が他の地区よりも高くなっています。

		全体	配偶者	同居の子ども	別居の子ども	兄弟姉妹・親戚・親・孫	近隣	友人	その他	そのような人はいない	無回答
	全体	2,577	52.3	18.9	35.3	34.8	14.2	44.0	1.6	7.3	2.6
居住地区	第１地区	556	52.0	18.3	33.6	34.7	15.6	43.9	2.0	6.8	2.0
	第２地区	1,035	51.0	19.8	35.7	35.7	13.8	43.6	1.6	6.9	3.6
	第３地区	968	53.7	18.3	35.7	34.3	13.8	44.6	1.3	8.0	1.9
	無回答	18	55.6	11.1	38.9	22.2	16.7	44.4	-	5.6	5.6

（3）看病や世話をしてくれる人

あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人（いくつでも）

「配偶者」が60.4%で最も多く、「別居の子ども」（33.3%）、「同居の子ども」（26.4%）、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」（15.7%）が続きます。

年齢階層が高くなるほど、「配偶者」の構成比が下がり、「別居の子ども」「同居の子ども」の構成比が上がっています。

		全体	配偶者	同居の子ども	別居の子ども	兄弟姉妹・親戚・親・孫	近隣	友人	その他	そのような人はいない	無回答
	全体	2,577	60.4	26.4	33.3	15.7	2.1	5.8	0.9	8.0	1.7
年齢	65歳～69歳	553	71.2	22.6	26.8	16.1	1.6	6.7	0.9	8.9	1.1
	70歳～74歳	791	67.4	22.3	32.2	15.8	2.0	5.1	1.4	7.6	1.0
	75歳～79歳	600	57.5	26.3	33.8	17.8	1.5	6.3	0.3	8.5	2.3
	80歳～84歳	388	53.9	33.8	38.7	14.4	3.1	6.4	0.8	6.7	1.3
	85歳～89歳	169	33.1	35.5	41.4	11.8	4.7	4.7	1.8	5.9	4.7
	90歳～94歳	53	18.9	45.3	49.1	15.1	－	3.8	－	9.4	3.8
	95歳～99歳	5	－	40.0	60.0	－	－	－	－	20.0	20.0
	100歳以上	－	*	*	*	*	*	*	*	*	*
	無回答	18	55.6	22.2	22.2	－	－	－	－	16.7	5.6

地区別でみると、「第１地区」では他の地区と比べて「配偶者」「同居の子ども」「別居の子ども」の回答割合が他の地区より低く、「そのような人はいない」が高くなっています。

		全体	配偶者	同居の子ども	別居の子ども	兄弟姉妹・親戚・親・孫	近隣	友人	その他	そのような人はいない	無回答
全体		2,577	60.4	26.4	33.3	15.7	2.1	5.8	0.9	8.0	1.7
居住地区	第１地区	556	57.7	24.5	30.9	16.9	2.5	6.8	1.3	9.7	1.8
	第２地区	1,035	59.8	26.2	35.1	16.7	2.3	4.9	0.9	8.3	1.7
	第３地区	968	62.7	27.8	33.1	14.3	1.7	6.3	0.8	6.4	1.7
	無回答	18	55.6	22.2	22.2	-	-	-	-	16.7	5.6

（4）看病や世話をしてあげる人

反対に、看病や世話をしてあげる人（いくつでも）

「配偶者」が 60.8％で最も多く、「別居の子ども」（26.9％）、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」（22.9％）、「同居の子ども」（22.4％）が続きます。

年齢階層が高くなるほど、「配偶者」の構成比が下がり、「そのような人はいない」の構成比が上がっています。

		全体	配偶者	同居の子ども	別居の子ども	兄弟姉妹・親戚・親・孫	近隣	友人	その他	そのような人はいない	無回答
	全体	2,577	60.8	22.4	26.9	22.9	3.4	8.9	0.9	13.0	3.9
年齢	65歳～69歳	553	72.0	24.4	29.7	28.6	2.5	9.2	0.7	9.8	1.6
	70歳～74歳	791	67.1	20.1	30.2	25.0	3.5	9.4	1.0	11.3	2.1
	75歳～79歳	600	57.8	22.3	29.2	23.8	3.3	10.8	0.5	11.0	4.3
	80歳～84歳	388	53.9	25.3	19.8	17.0	3.6	6.7	0.8	16.5	5.2
	85歳～89歳	169	36.7	17.8	13.6	10.7	5.9	5.9	1.8	24.9	11.2
	90歳～94歳	53	15.1	20.8	15.1	11.3	3.8	1.9	3.8	32.1	15.1
	95歳～99歳	5	－	40.0	－	－	－	－	－	40.0	20.0
	100歳以上	－	*	*	*	*	*	*	*	*	*
	無回答	18	66.7	38.9	33.3	5.6	－	11.1	－	11.1	5.6

地区別でみると、「第１地区」では他の地区と比べて「配偶者」「同居の子ども」の回答割合が他の地区より若干低く、「そのような人はいない」が高くなっています。

		全体	配偶者	同居の子ども	別居の子ども	兄弟姉妹・親戚・親・孫	近隣	友人	その他	そのような人はいない	無回答
	全体	2,577	60.8	22.4	26.9	22.9	3.4	8.9	0.9	13.0	3.9
居住地区	第１地区	556	57.9	19.2	27.7	24.5	3.4	10.4	1.3	15.1	4.1
	第２地区	1,035	60.7	22.5	26.4	22.0	4.1	9.1	0.9	12.8	4.3
	第３地区	968	62.5	23.7	26.8	23.2	2.8	7.7	0.7	12.2	3.3
	無回答	18	66.7	38.9	33.3	5.6	－	11.1	－	11.1	5.6

（5）家族や友人･知人以外で、何かあったときに相談する相手

家族や友人･知人以外で、何かあったときに相談する相手を教えてください（いくつでも）

「医師・歯科医師・看護師」が 25.0%で最も多く、「地域包括支援センター・市役所」（14.6%）、「社会福祉協議会・民生委員」（9.8%）、「自治会・高齢者クラブ」（5.7%）が続きます。

年齢階層が高くなるほど、「社会福祉協議会・民生委員」の構成比が上がっています。

		全体	自治会・高齢者クラブ	社会福祉協議会・民生委員	ケアマネジャー	医師・歯科医師・看護師	地域包括支援センター・市役所	その他	そのような人はいない	無回答
	全体	2,577	5.7	9.8	5.0	25.0	14.6	7.9	44.2	7.4
年齢	65歳～69歳	553	4.5	5.6	2.9	25.3	13.7	9.9	49.2	6.0
	70歳～74歳	791	5.7	7.3	3.9	25.4	13.1	9.6	47.5	6.4
	75歳～79歳	600	5.0	11.5	5.2	22.0	17.7	5.8	41.5	8.7
	80歳～84歳	388	8.0	14.7	6.4	27.8	15.5	6.7	38.9	8.5
	85歳～89歳	169	8.3	14.8	11.2	20.7	13.0	5.3	37.9	9.5
	90歳～94歳	53	5.7	15.1	11.3	49.1	3.8	-	30.2	7.5
	95歳～99歳	5	-	40.0	20.0	20.0	20.0	-	60.0	-
	100歳以上	-	*	*	*	*	*	*	*	*
	無回答	18	-	11.1	5.6	5.6	22.2	11.1	50.0	5.6

地区別でみても、全体的な傾向に変化はありませんが、「第１地区」では「医師・歯科医師・看護師」が他の地区より高く、「第３地区」では「自治会・高齢者クラブ」「社会福祉協議会・民生委員」が他の地区よりも低くなっています。

		全体	自治会・高齢者クラブ	社会福祉協議会・民生委員	ケアマネジャー	医師・歯科医師・看護師	地域包括支援センター・市役所	その他	そのような人はいない	無回答
	全体	2,577	5.7	9.8	5.0	25.0	14.6	7.9	44.2	7.4
居住地区	第１地区	556	7.2	10.8	5.2	29.5	14.2	7.6	41.5	6.8
	第２地区	1,035	5.9	10.8	5.5	23.6	14.6	7.5	45.5	7.6
	第３地区	968	4.9	8.1	4.4	24.3	14.6	8.4	44.3	7.4
	無回答	18	-	11.1	5.6	5.6	22.2	11.1	50.0	5.6

（6）友人・知人と会う頻度

友人・知人と会う頻度はどれくらいですか。

「月に何度かある」が 25.8%で最も多く、「週に何度かある」（24.2%）、「年に何度かある」（20.7%）、「ほとんどない」（20.1%）が続きます。

年齢階層が高くなるほど、「ほとんどない」構成比が上がっています。

		全体	毎日ある	週に何度かある	月に何度かある	年に何度かある	ほとんどない	無回答
	全体	2,577	5.1	24.2	25.8	20.7	20.1	4.1
年齢	65歳～69歳	553	6.1	21.5	23.0	25.0	21.0	3.4
	70歳～74歳	791	5.2	23.6	26.7	22.8	18.5	3.3
	75歳～79歳	600	5.2	23.3	26.8	20.2	20.7	3.8
	80歳～84歳	388	4.6	30.2	26.8	14.4	18.8	5.2
	85歳～89歳	169	4.1	29.0	24.3	16.6	19.5	6.5
	90歳～94歳	53	1.9	17.0	24.5	15.1	32.1	9.4
	95歳～99歳	5	－	－	40.0	－	60.0	－
	100歳以上	－	*	*	*	*	*	*
	無回答	18	－	11.1	38.9	16.7	27.8	5.6

地区別では、「第１地区」「第２地区」では「月に何度かある」が最も高く、「第３地区」では「週に何度かある」の割合が最も高くなっています。

		全体	毎日ある	週に何度かある	月に何度かある	年に何度かある	ほとんどない	無回答
	全体	2,577	5.1	24.2	25.8	20.7	20.1	4.1
居住地区	第１地区	556	4.9	23.0	24.3	19.6	23.9	4.3
	第２地区	1,035	5.2	23.5	27.6	20.5	19.0	4.2
	第３地区	968	5.3	25.8	24.6	21.7	18.8	3.8
	無回答	18	-	11.1	38.9	16.7	27.8	5.6

（7）友人・知人と会った人数

この１か月間、何人の友人・知人と会いましたか。
同じ人には何度会っても１ 人と数えることとします。

「１～２人」が 25.0%で最も多く、「３～５人」（24.1%）、「10 人以上」（20.9%）、「０人（いない）」（17.9%）が続きます。

年齢階層が高くなるほど、「１～２人」の構成比が上がる傾向にあります。

		全体	０人（いない）	１～２人	３～５人	６～９人	１０人以上	無回答
	全体	2,577	17.9	25.0	24.1	9.5	20.9	2.6
年齢	65歳～69歳	553	21.7	22.1	20.1	9.9	23.7	2.5
	70歳～74歳	791	16.8	23.6	22.5	12.9	22.5	1.6
	75歳～79歳	600	18.3	27.0	27.0	6.2	19.0	2.5
	80歳～84歳	388	13.1	27.1	30.4	8.5	17.8	3.1
	85歳～89歳	169	17.8	26.6	18.9	9.5	21.3	5.9
	90歳～94歳	53	18.9	32.1	28.3	3.8	13.2	3.8
	95歳～99歳	5	20.0	40.0	20.0	－	20.0	－
	100歳以上	－	*	*	*	*	*	*
	無回答	18	27.8	22.2	27.8	5.6	11.1	5.6

地区別では、「第２地区」で「6～9 人」「10 人以上」と回答した割合が高くなっています。

		全体	０人（いない）	１～２人	３～５人	６～９人	１０人以上	無回答
	全体	2,577	17.9	25.0	24.1	9.5	20.9	2.6
居住地区	第１地区	556	18.0	26.3	23.2	8.3	21.4	2.9
	第２地区	1,035	17.2	23.9	23.4	10.7	22.2	2.6
	第３地区	968	18.3	25.5	25.4	9.1	19.3	2.4
	無回答	18	27.8	22.2	27.8	5.6	11.1	5.6

（8）よく会う友人・知人との関係

よく会う友人・知人はどんな関係の人ですか。（いくつでも）

「近所・同じ地域の人」が 46.6%で最も多く、「趣味や関心が同じ友人」（33.5%）、「仕事での同僚・元同僚」（31.6%）、「学生時代の友人」（12.5%）が続きます。

年齢階層が高くなるほど、「近所・同じ地域の人」の構成比が上がり、「仕事での同僚・元同僚」の構成比が下がっています。

		全体	近所・同じ地域の人	幼なじみ	学生時代の友人	仕事での同僚・元同僚	趣味や関心が同じ友人	ボランティア等の活動での友人	その他	いない	無回答
	全体	2,577	46.6	7.0	12.5	31.6	33.5	5.6	8.6	12.0	2.6
年齢	65歳～69歳	553	37.3	9.8	17.0	45.9	29.8	6.3	9.2	11.6	2.9
	70歳～74歳	791	43.5	6.2	12.6	38.8	35.4	5.6	9.2	11.4	1.9
	75歳～79歳	600	48.3	7.7	11.8	25.3	34.5	5.5	7.8	12.7	3.2
	80歳～84歳	388	58.2	5.9	10.3	18.0	35.8	5.9	6.4	12.6	1.8
	85歳～89歳	169	55.6	4.1	7.1	13.6	30.8	4.7	9.5	11.8	3.6
	90歳～94歳	53	60.4	－	1.9	7.5	26.4	－	11.3	11.3	5.7
	95歳～99歳	5	60.0	－	－	－	40.0	－	20.0	20.0	－
	100歳以上	－	*	*	*	*	*	*	*	*	*
	無回答	18	33.3	11.1	22.2	22.2	22.2	5.6	11.1	16.7	5.6

地区別では、「第１地区」では「いない」、「第２地区」では「近所・同じ地域の人」、「第３地区」では「仕事での同僚・元同僚」が他の地区よりも若干高くなっています。

		全体	近所・同じ地域の人	幼なじみ	学生時代の友人	仕事での同僚・元同僚	趣味や関心が同じ友人	ボランティア等の活動での友人	その他	いない	無回答
	全体	2,577	46.6	7.0	12.5	31.6	33.5	5.6	8.6	12.0	2.6
居住地区	第１地区	556	44.1	6.8	11.3	30.6	34.0	6.8	7.9	14.6	2.9
	第２地区	1,035	50.0	7.9	13.1	30.7	33.2	5.7	8.4	11.4	2.5
	第３地区	968	44.6	6.1	12.3	33.3	33.7	4.8	9.1	11.1	2.5
	無回答	18	33.3	11.1	22.2	22.2	22.2	5.6	11.1	16.7	5.6

7 健康について

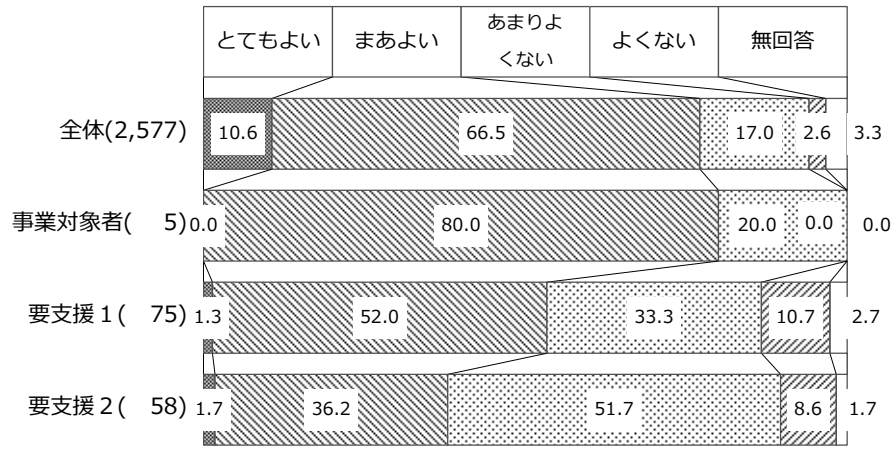
（1）現在の健康状態

現在のあなたの健康状態はいかがですか

「まあよい」が66.5%で最も多く、「あまりよくない」（17.0%）、「とてもよい」（10.6%）、「よくない」（2.6%）が続きます。

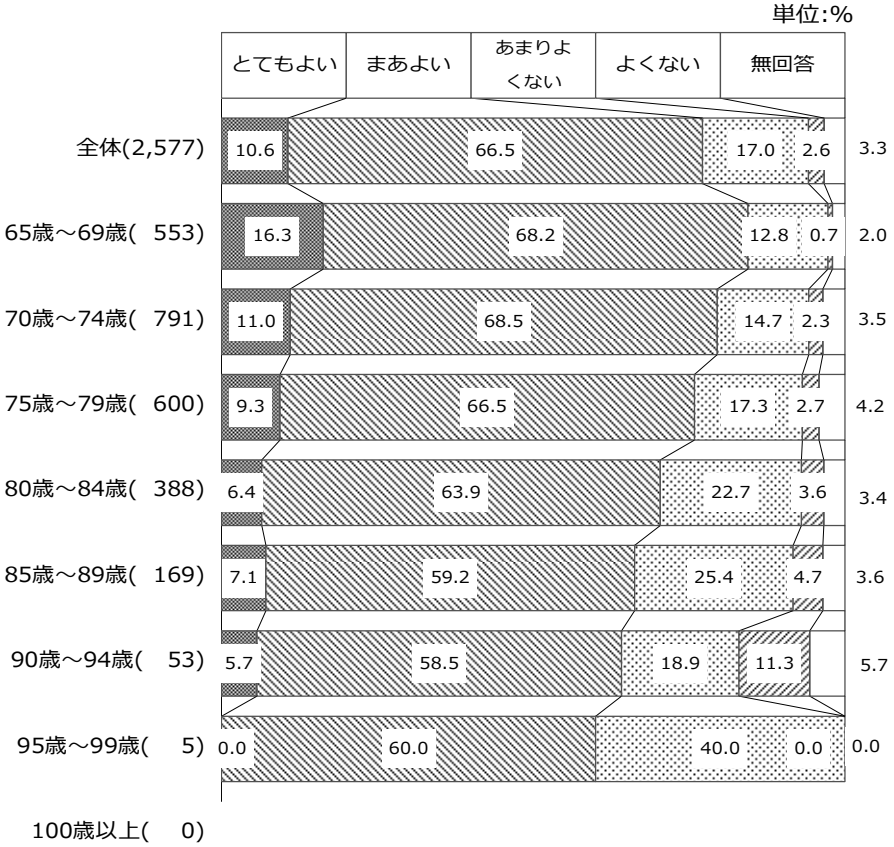
要支援度等でみると、「よくない」の構成比は「要支援２」が最も高く、「要支援１」がつづいています。

単位:%

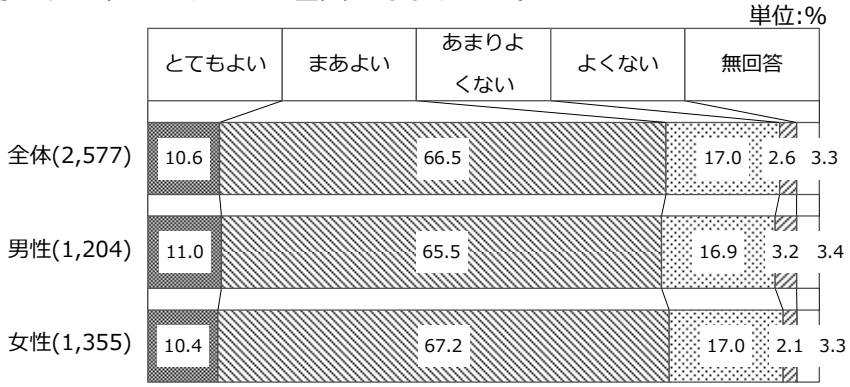


また、年齢階層が上がるほど「あまりよくない」「よくない」と回答した人の割合が増えています。

単位:%



なお、男女別にみてもさほどの差異はありません。



地区別では、「とてもよい」「まあよい」と回答した割合は「第１地区」が最も高く、次いで「第２地区」「第３地区」の順となっています。。

		全体	とてもよい	まあよい	あまりよくない	よくない	無回答
全体		2,577	10.6	66.5	17.0	2.6	3.3
居住地区	第１地区	556	11.7	66.2	16.9	2.3	2.9
	第２地区	1,035	10.0	67.1	16.9	2.9	3.1
	第３地区	968	10.7	65.9	17.0	2.4	3.9
	無回答	18	5.6	77.8	16.7	-	-

（2）幸福度

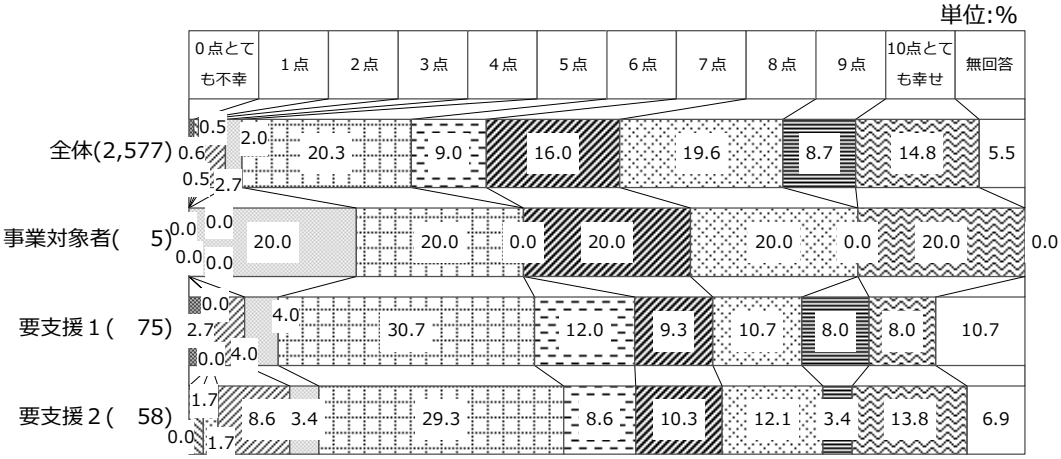
あなたは、現在どの程度幸せですか
（「とても不幸」を０点、「とても幸せ」を 10 点として、ご記入ください）

「５点」が 20.3%で最も多く、「８点」（19.6%）、「７点」（16.0%）、「10 点」（14.8%）が続きます。なお、平均値は 7.1 でした。

前期調査と比較すると、全体的に低下しています。

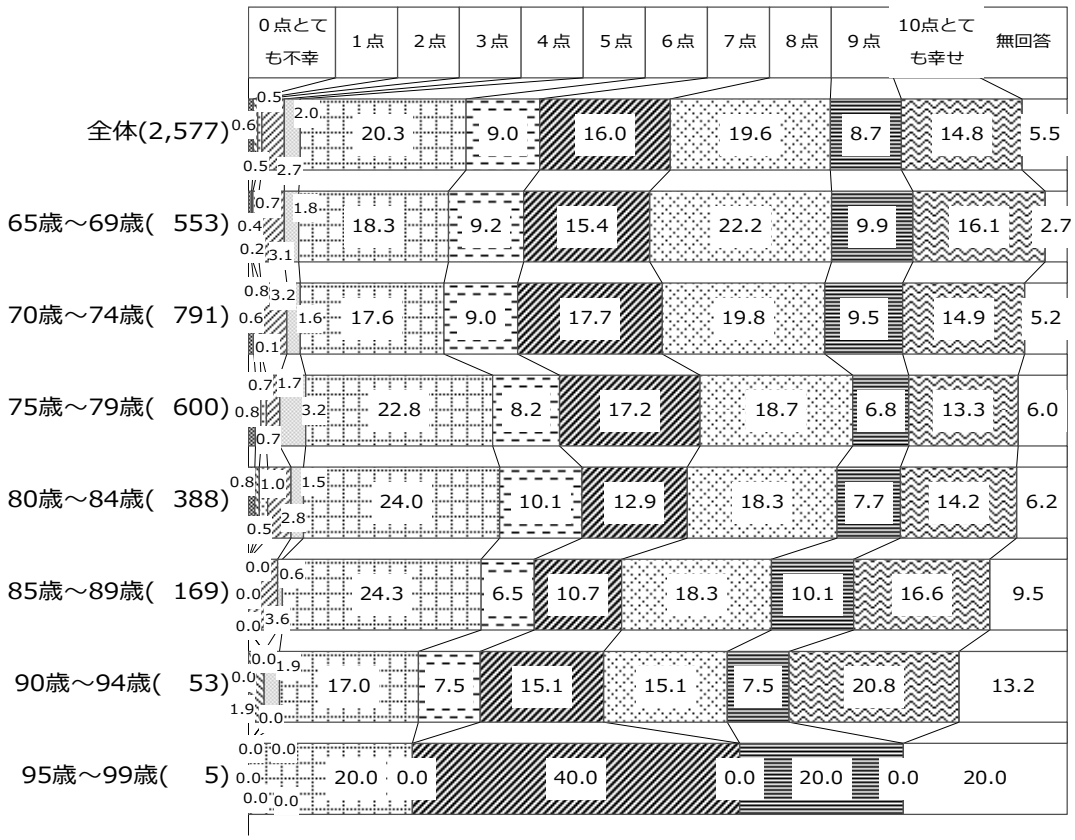
要支援度等でみると、点数は「要支援２」が最も低く、「要支援１」が続いています。

単位:%



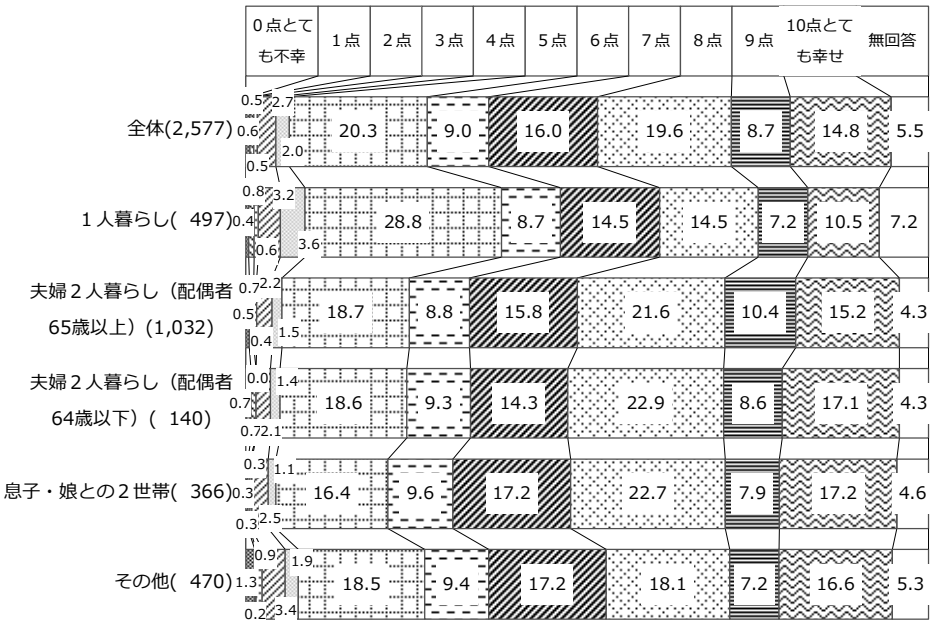
また、75 歳以上では、年齢階層が高くなるほど幸福度が上がっています。

単位:%



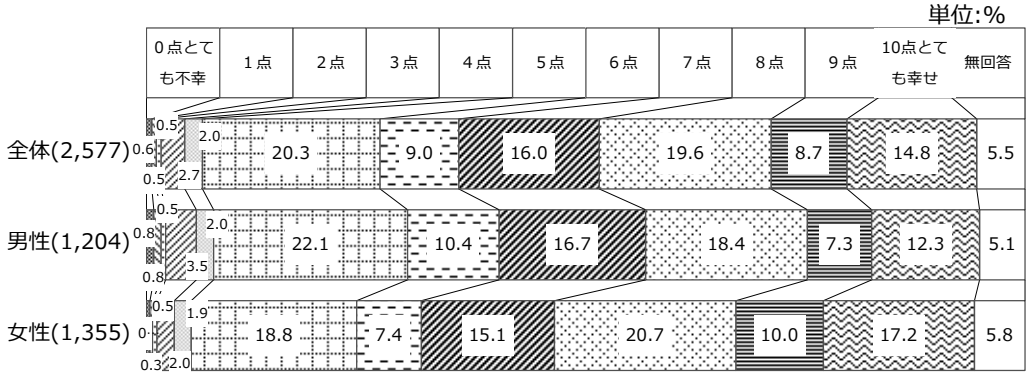
なお、「１人暮らし」では相対的に幸福度が低くなっています。

単位:%



なお、男女別にみると、「男性」の幸福度が低い傾向にあります。

単位:%



地区別では、「５点」～「10 点」と回答した人の割合は「第２地区」が最も高く、次いで「第１地区」「第３地区」となっています。

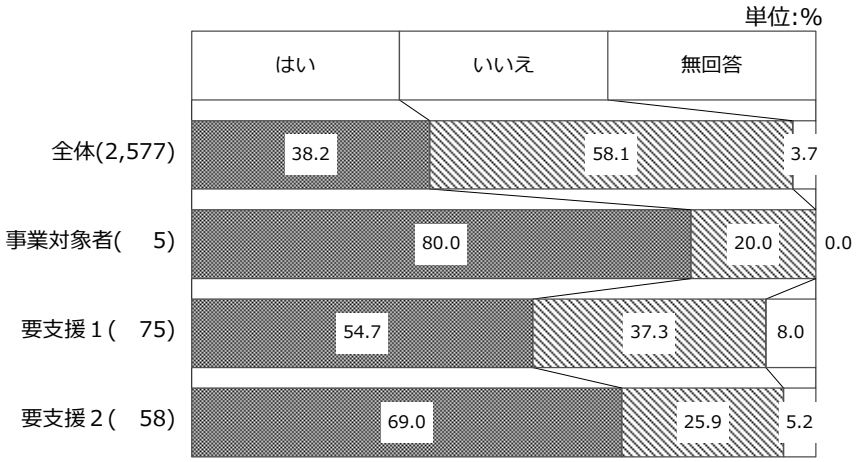
		全体	0点とても不幸	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	10点とても幸せ	無回答
全体		2,577	0.6	0.5	0.5	2.7	2.0	20.3	9.0	16.0	19.6	8.7	14.8	5.5
居住地区	第１地区	556	1.1	0.4	0.4	2.5	2.5	18.3	9.5	13.7	20.9	10.8	14.7	5.2
	第２地区	1,035	0.4	0.8	0.4	3.4	1.3	21.5	8.4	16.6	20.2	7.6	14.6	4.8
	第３地区	968	0.5	0.4	0.7	2.1	2.4	20.2	8.8	16.3	18.3	8.7	15.3	6.3
	無回答	18	-	-	-	5.6	5.6	5.6	33.3	33.3	11.1	-	-	5.6

（3）ゆううつな気持ち

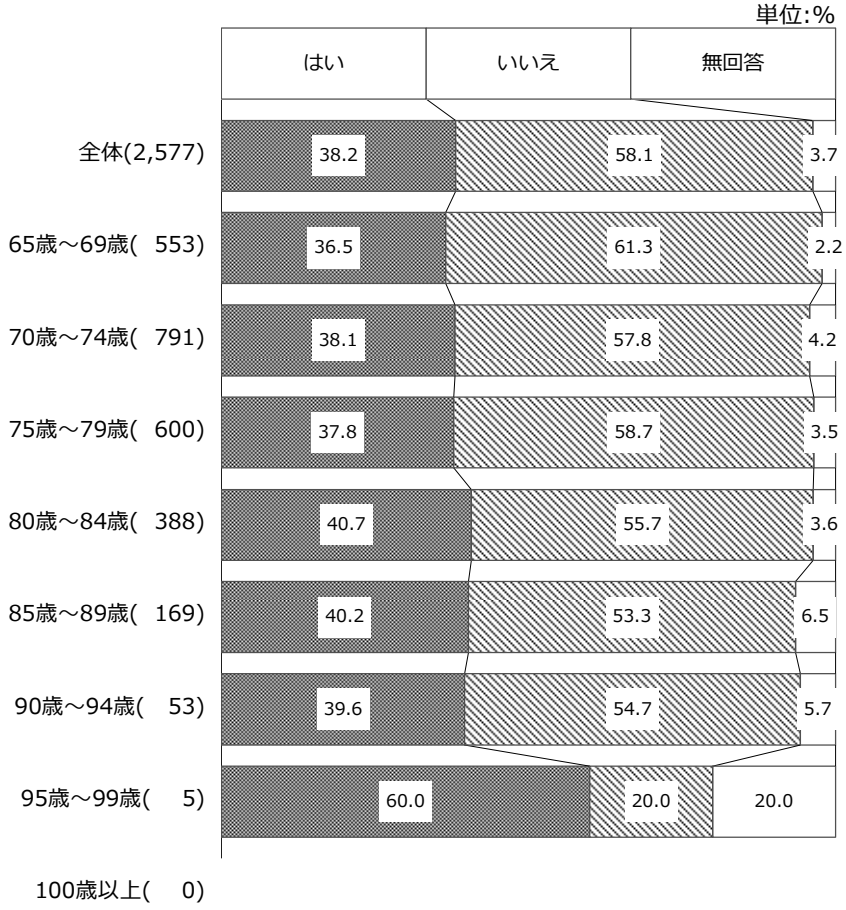
この 1 か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか

「いいえ」は 58.1%、「はい」は 38.2%となっています。

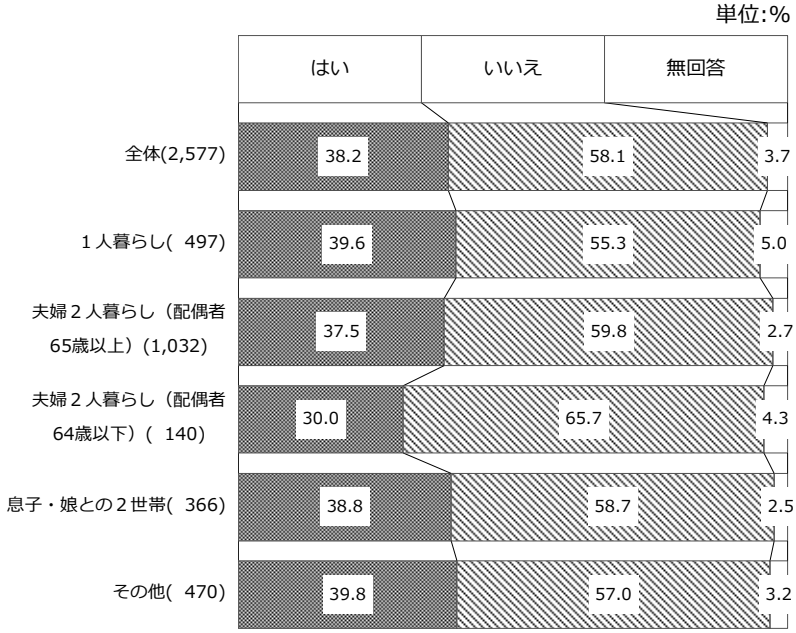
要支援度等でみると、「はい」は「事業対象者」が最も高く、「要支援２」が続いています。



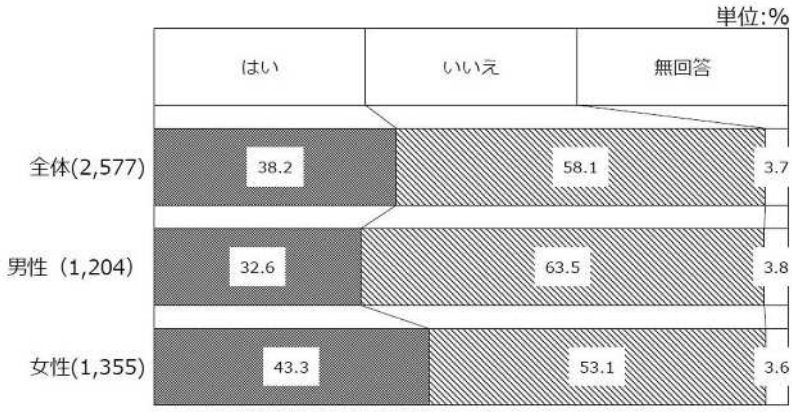
また、80 歳以上になると「はい」の比率が高くなっています。



なお、「夫婦２人暮らし」では「はい」の比率が相対的に低くなっています。



なお、男女別にみると、「女性」の「はい」の比率が高くなっています。



地区別では、「はい」と回答した割合は「第３地区」が最も高く、次いで「第２地区」「第１地区」の順となっています。

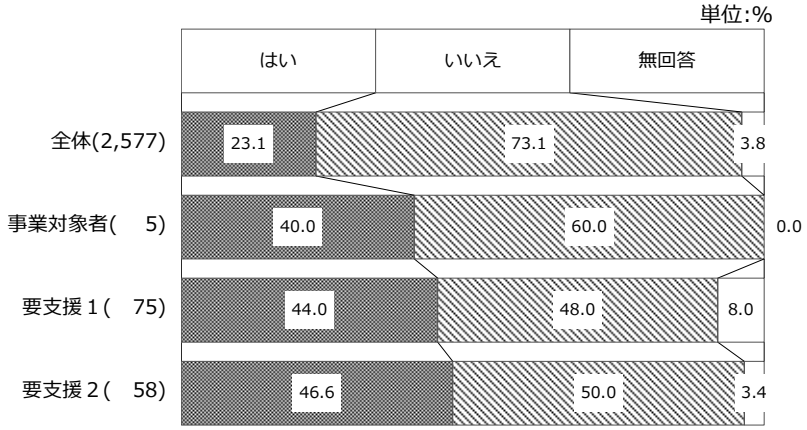
		全体	はい	いいえ	無回答
全体		2,577	38.2	58.1	3.7
居住地区	第１地区	556	37.9	58.3	3.8
	第２地区	1,035	38.2	58.4	3.5
	第３地区	968	38.6	57.4	3.9
	無回答	18	22.2	77.8	-

（4）興味の低下

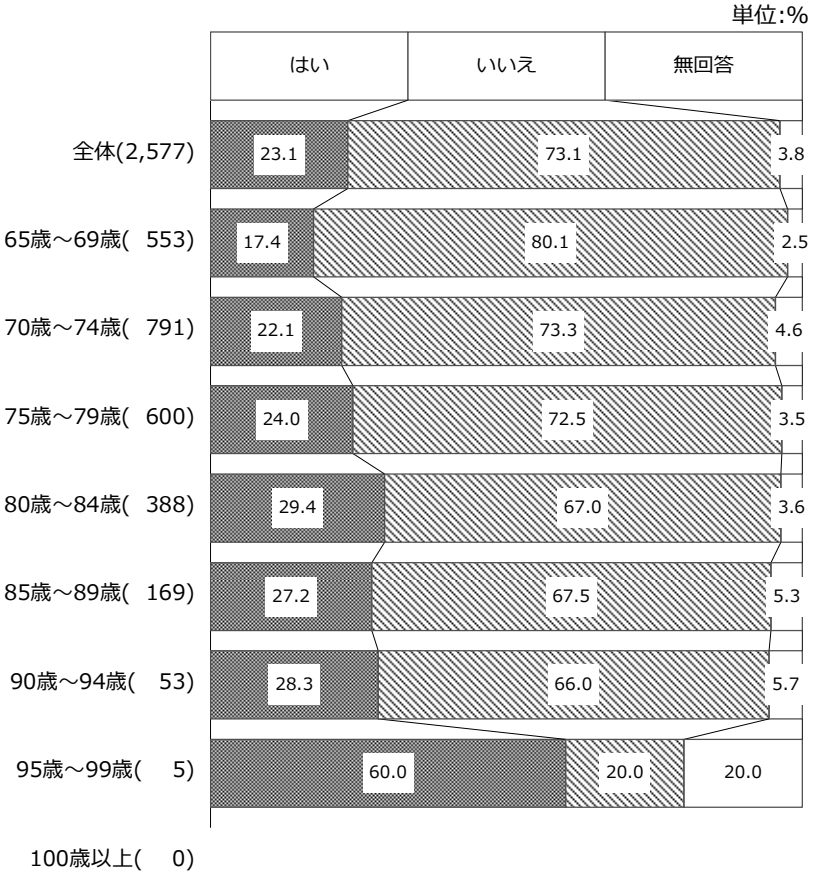
この 1 か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか

「いいえ」は 73.1%、「はい」は 23.1%となっています。

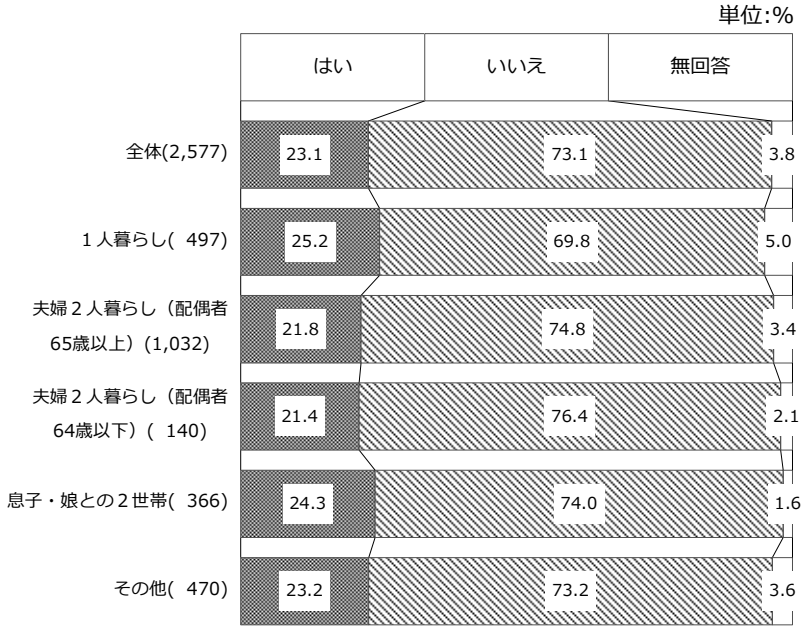
要支援度等でみると、「はい」は「要支援２」が最も高く、「要支援１」が続いています。



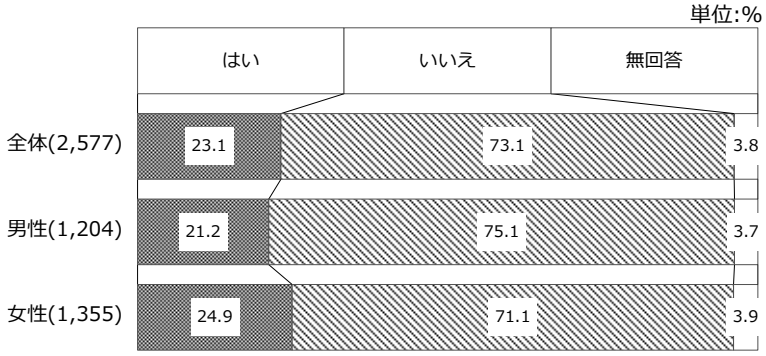
また、年齢階層が高くなるほど「はい」の比率が高くなる傾向にあります。



なお、「はい」でみると「１人暮らし」の比率が高く、「夫婦２人暮らし」の比率が低くなっています。



男女別にみると、「女性」の「はい」の比率が高くなっています。



地区別では、「はい」と回答した割合は「第２地区」が最も高く、次いで「第３地区」「第１地区」の順となっています。

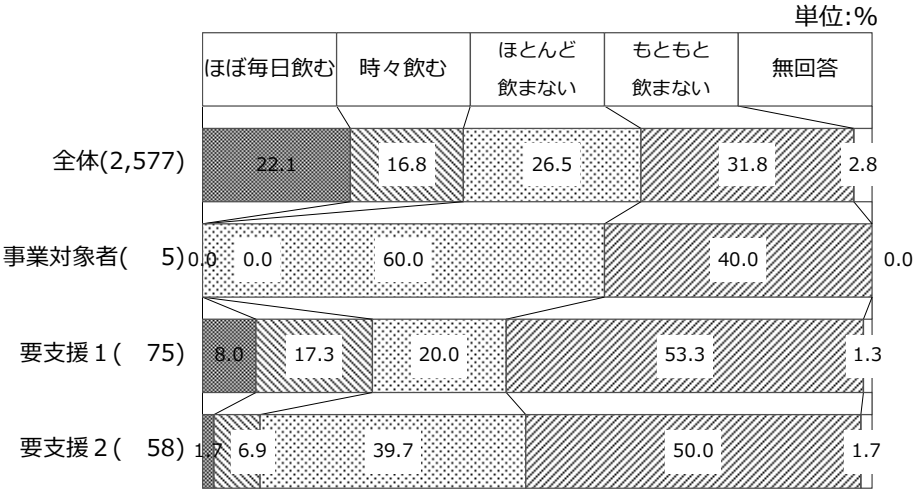
		全体	はい	いいえ	無回答
全体		2,577	23.1	73.1	3.8
居住地区	第１地区	556	21.9	74.5	3.6
	第２地区	1,035	24.4	71.8	3.8
	第３地区	968	22.5	73.5	4.0
	無回答	18	16.7	83.3	-

（5）飲酒

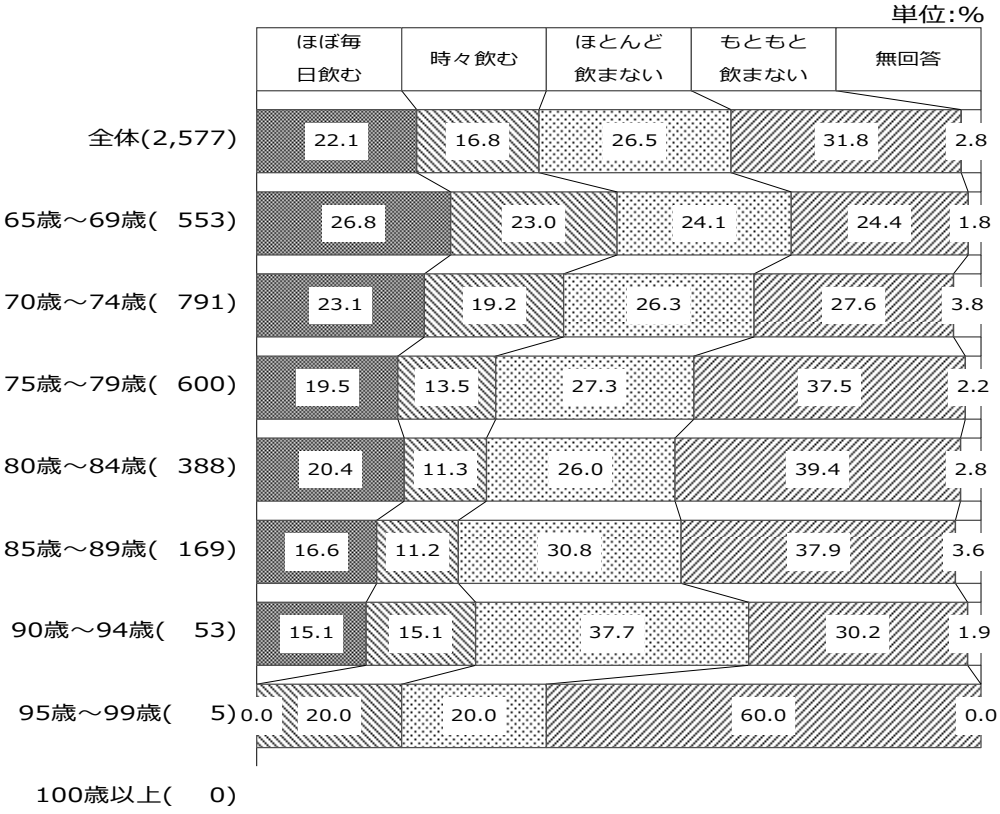
お酒は飲みますか

「もともと飲まない」が 31.8％で最も多く、「ほとんど飲まない」（26.5％）、「ほぼ毎日飲む」（22.1％）、「時々飲む」（16.8％）が続きます。

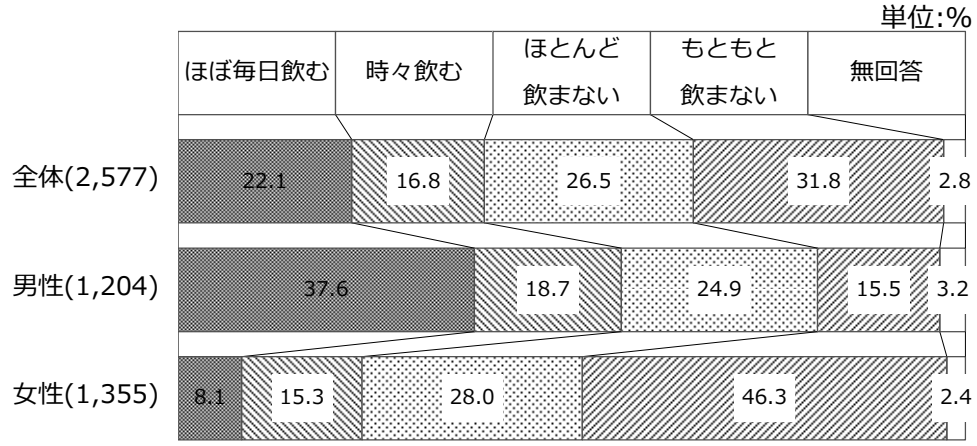
要支援度等でみると、「もともと飲まない」「ほとんど飲まない」を合わせた比率は「事業対象者」が最も高く、「要支援２」が続いています。



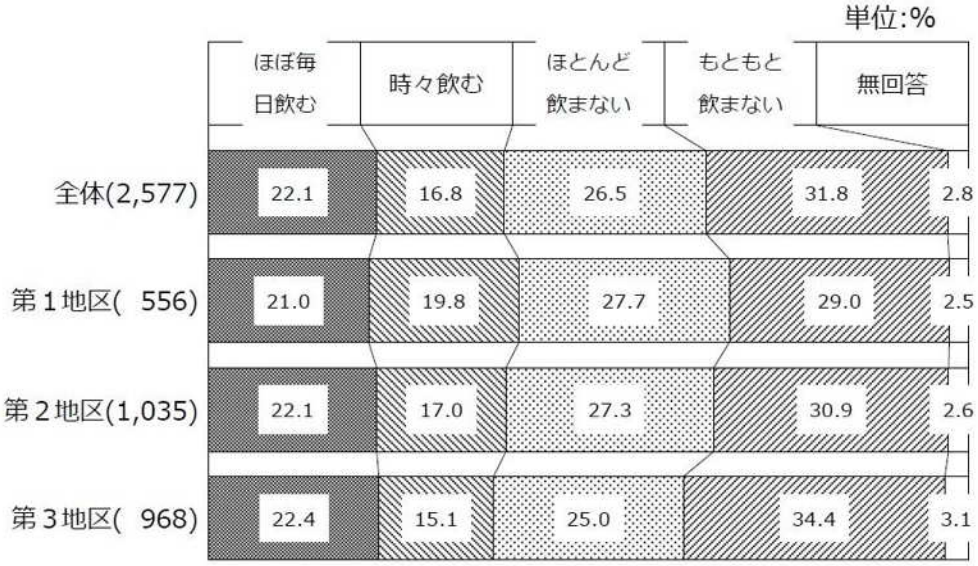
また、年齢階層が高くなるほど飲酒率が低くなる傾向にあります。



男女別にみると、「男性」の飲酒率が高くなっています。



地区別では、「ほぼ毎日飲む」「時々飲む」と回答した割合は「第１地区」が最も高く、次いで「第２地区」「第３地区」の順となっています。

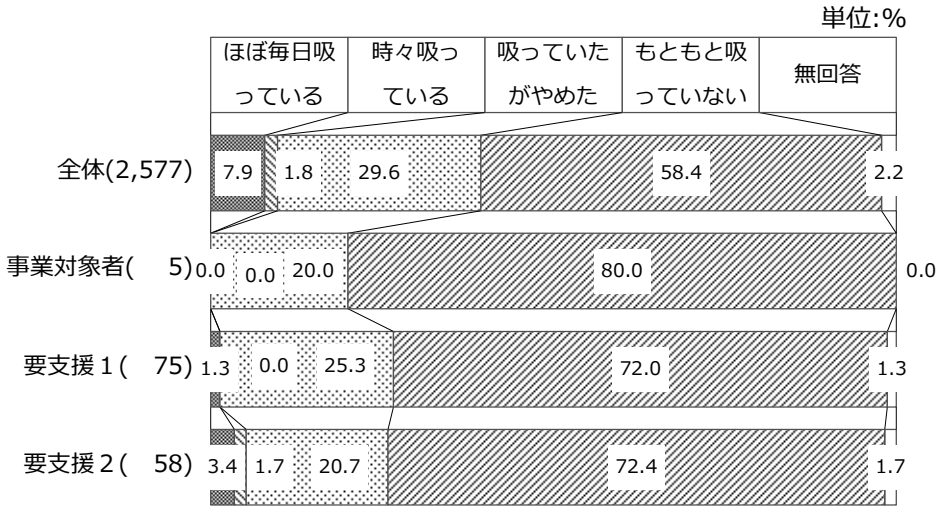


（６）喫煙の有無

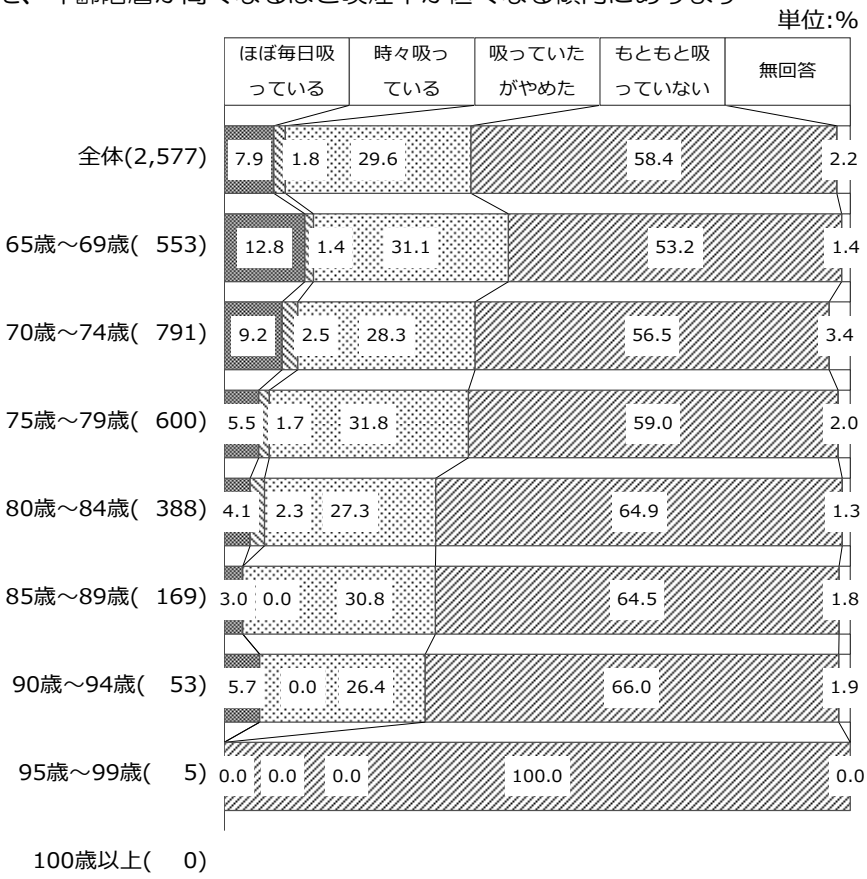
タバコは吸っていますか

「もともと吸っていない」が 58.4%で最も多く、「吸っていたがやめた」（29.6%）、「ほぼ毎日吸っている」（7.9%）、「時々吸っている」（1.8%）が続きます。

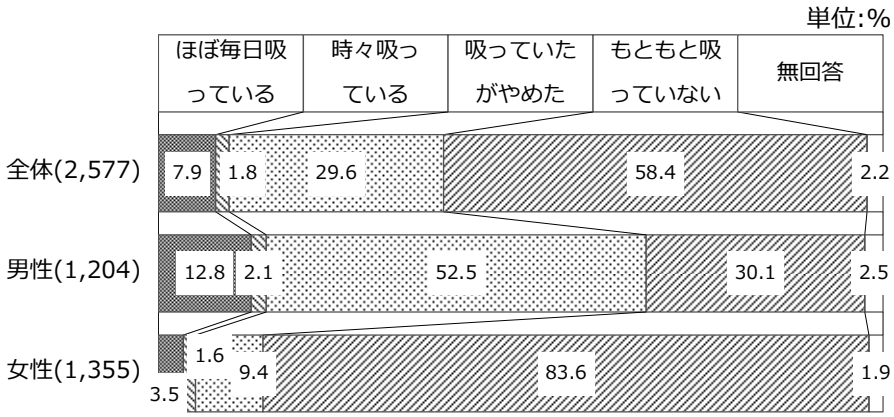
要支援度等でみると、「もともと吸っていない」「吸っていたがやめた」を合わせた比率は「事業対象者」が最も高く、「要支援１」が続いています。



また、年齢階層が高くなるほど喫煙率が低くなる傾向にあります



男女別にみると、「男性」の喫煙率が高くなっています。



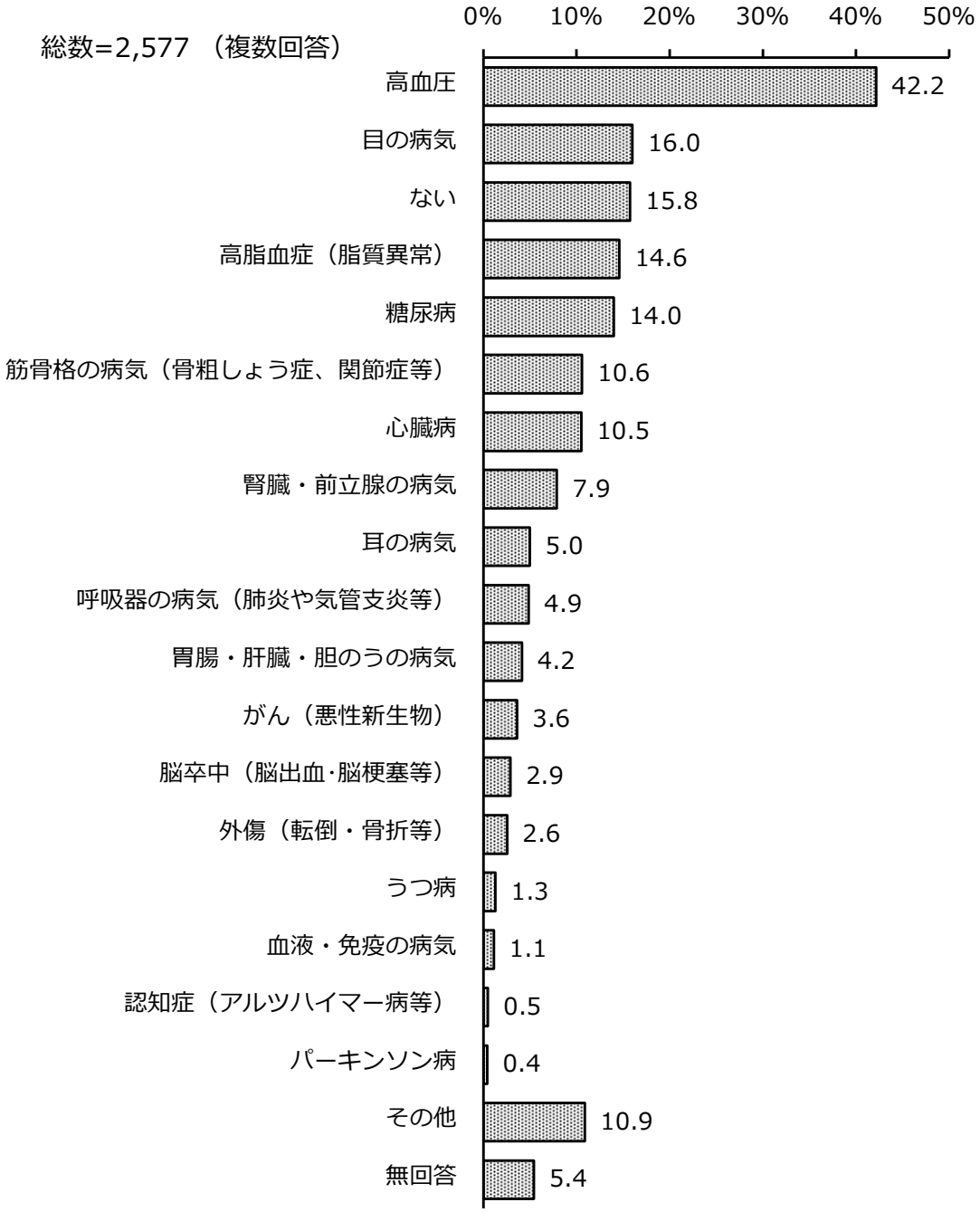
地区別では、「ほぼ毎日吸っている」「時々吸っている」と回答した割合は「第１地区」が最も高く、次いで「第３地区」「第２地区」の順となっています。

		全体	ほぼ毎日吸っている	時々吸っている	吸っていたがやめた	もともと吸っていない	無回答
全体		2,577	7.9	1.8	29.6	58.4	2.2
居住地区	第１地区	556	8.3	2.0	29.5	58.1	2.2
	第２地区	1,035	7.2	1.8	31.3	57.8	1.8
	第３地区	968	8.3	1.8	28.0	59.4	2.6
	無回答	18	16.7	-	27.8	55.6	-

（7）治療中または後遺症のある病気

現在治療中、または後遺症のある病気はありますか（いくつでも）

「高血圧」が 42.2%で最も多く、「目の病気」（16.0%）、「ない」（15.8%）、「高脂血症（脂質異常）」（14.6%）が続きます。



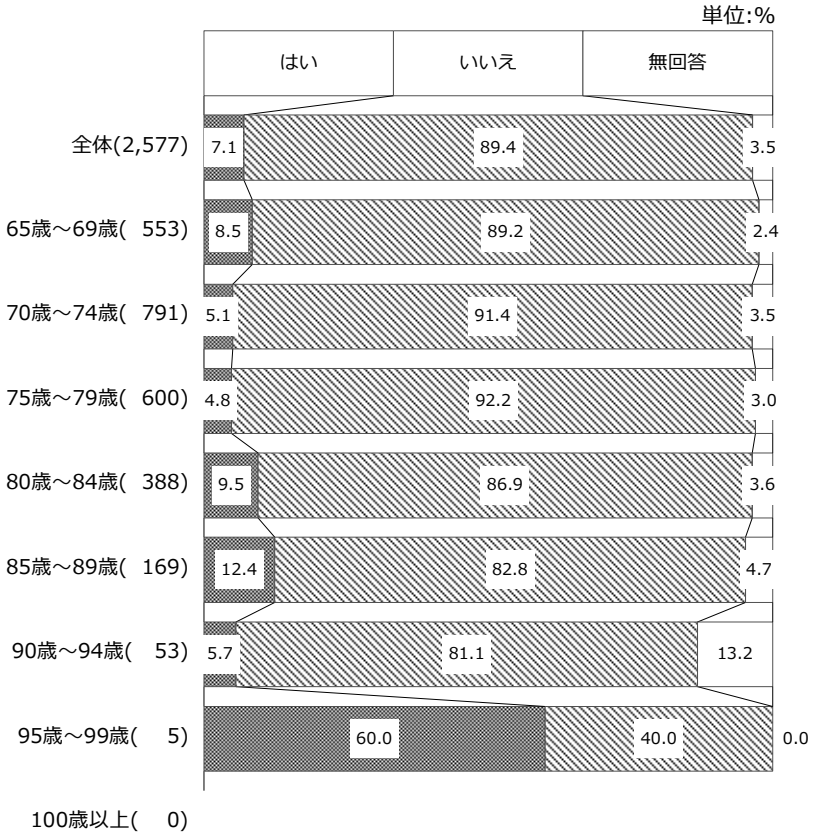
8 認知症にかかる相談窓口の把握について

（1）認知症の症状がある人の存否

認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がいますか

「いいえ」は 89.4%、「はい」は 7.1%となっています。また、「はい」と回答した人の割合は、年齢階層が高くなるにしたがって増える傾向にあります。

なお、認知機能の低下がみられる方（[19 各種リスクの状況 ④ 認知機能] ○○○頁参照）では「はい」が 10.4%となっています。



地区別では、「認知症の症状がある、または家族に認知症の症状がある」と回答した割合は「第２地区」が最も高く、次いで「第３地区」「第 1 地区」の順となっています。

		全体	はい	いいえ	無回答
全体		2,577	7.1	89.4	3.5
居住地区	第１地区	556	6.5	90.6	2.9
	第２地区	1,035	7.2	89.2	3.6
	第３地区	968	7.1	89.3	3.6
	無回答	18	11.1	77.8	11.1

（2）認知症に関する相談窓口の把握

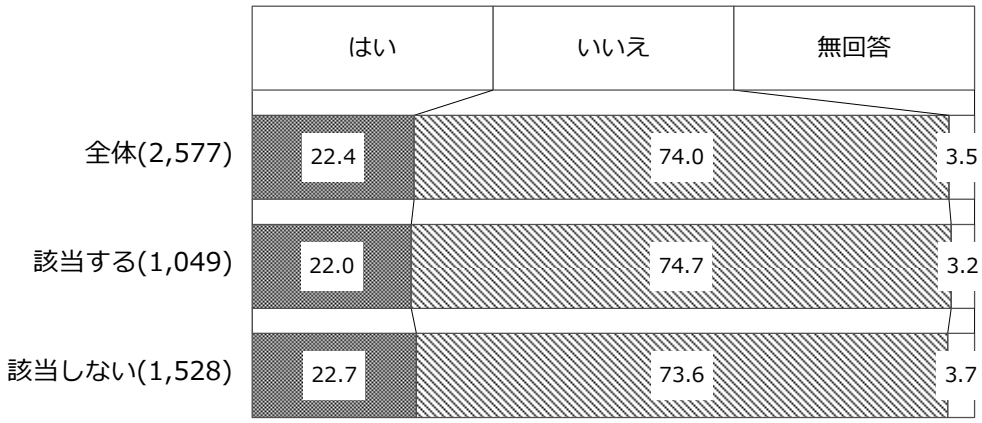
認知症に関する相談窓口を知っていますか

「いいえ」は 74.0%、「はい」は 22.4%となっています。

前期調査と比較すると、「はい」の比率が若干下がっています。

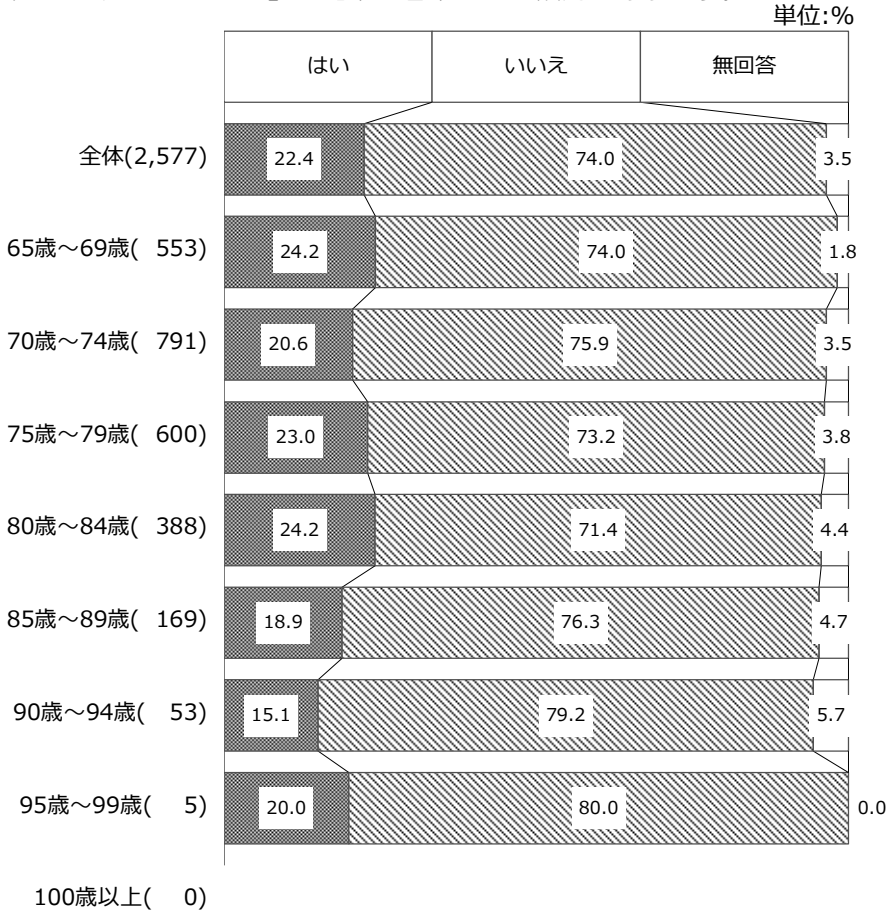
なお、認知機能の低下がみられる方（[19 各種リスクの状況 ④] 208 頁参照）では 「はい」が 22.0%となっています。

単位:%



また、85 歳以上で「はい」の比率が若干下がる傾向にあります。

単位:%



地区別では、「はい(認知症に関する相談窓口を知っている)」の割合は「第２地区」が最も高く、次いで「第１地区」「第３地区」となっています。

		全体	はい	いいえ	無回答
全体		2,577	22.4	74.0	3.5
居住地区	第１地区	556	22.7	74.8	2.5
	第２地区	1,035	24.1	72.7	3.3
	第３地区	968	20.1	75.6	4.2
	無回答	18	44.4	44.4	11.1

9 介護サービスと住まい（暮らし）の意向

（1）介護サービス利用の有無

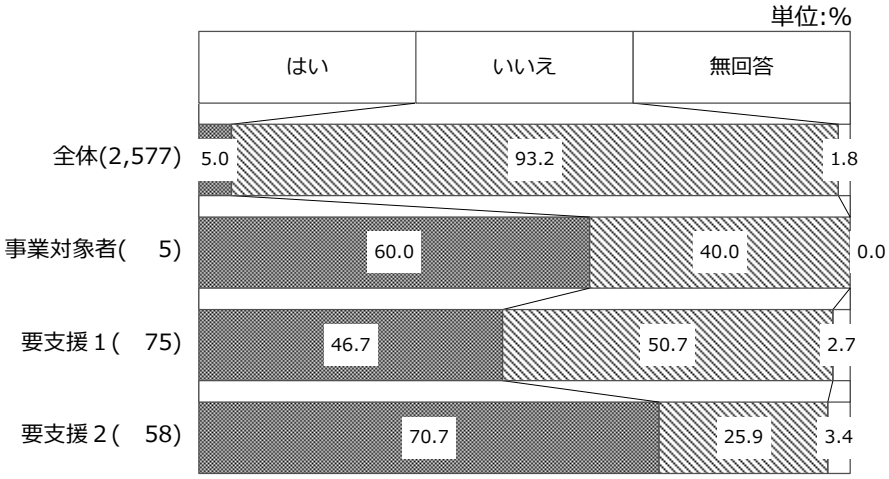
あなたは、介護保険の介護サービスを利用していますか

「いいえ」は 93.2%、「はい」は 5.0%となっています。

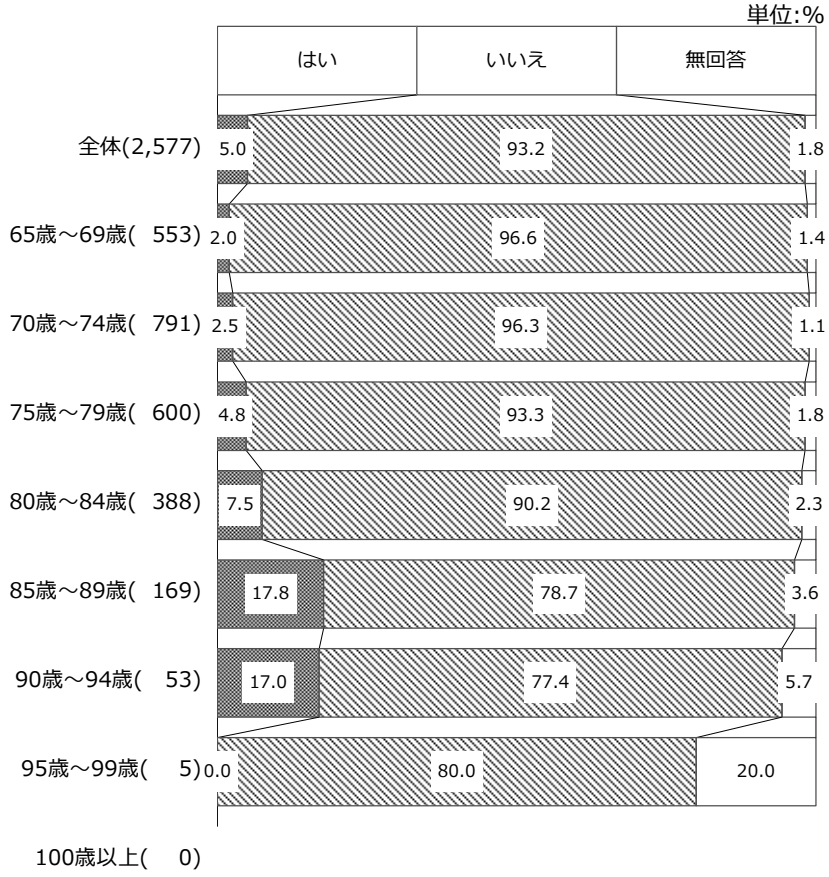
家族構成でみると、「いいえ」の比率が低いのは「1 人暮らし」となっています。

		全体	はい	いいえ	無回答
	全体	2,577	5.0	93.2	1.8
家族構成	１人暮らし	497	8.5	89.3	2.2
	夫婦２人暮らし（配偶者65歳以上）	1,032	4.2	94.3	1.6
	夫婦２人暮らし（配偶者64歳以下）	140	1.4	97.9	0.7
	息子・娘との２世帯	366	5.5	93.2	1.4
	その他	470	4.3	94.3	1.5
	無回答	72	2.8	87.5	9.7

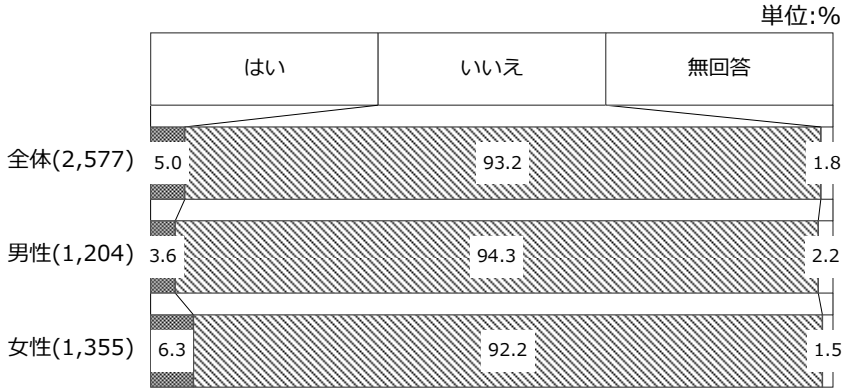
要支援度等でみると、「はい」の比率は「要支援 2」が最も高く、「事業対象者」が続いています。



年齢階層でみると、「はい」の比率は年齢階層が上がるにしたがって上がっています。



男女別にみると、「はい」の比率は「女性」が高くなっています



地区別では、「はい(介護サービスを利用している」の割合は「第１地区」が最も高く、次いで「第２地区」「第３地区」となっています。

		全体	はい	いいえ	無回答
全体		2,577	5.0	93.2	1.8
居住地区	第１地区	556	6.5	92.6	0.9
	第２地区	1,035	5.2	92.6	2.2
	第３地区	968	3.9	94.1	2.0
	無回答	18	5.6	94.4	-

また、11 区分地区でみると、以下の結果になりました。

	全体	はい	いいえ	無回答
全体	2,577	129	2,401	47
	100.0	5.0	93.2	1.8
青梅	236	15	219	2
	100.0	6.4	92.8	0.8
東青梅	320	21	296	3
	100.0	6.6	92.5	0.9
長淵	408	17	382	9
	100.0	4.2	93.6	2.2
河辺	312	21	285	6
	100.0	6.7	91.3	1.9
梅郷	227	11	211	5
	100.0	4.8	93.0	2.2
沢井	88	5	80	3
	100.0	5.7	90.9	3.4
大門	344	12	325	7
	100.0	3.5	94.5	2.0
新町	300	13	282	5
	100.0	4.3	94.0	1.7
今井	197	4	188	5
	100.0	2.0	95.4	2.5
小曾木	84	8	74	2
	100.0	9.5	88.1	2.4
成木	43	1	42	-
	100.0	2.3	97.7	-
無回答	18	1	17	-
	100.0	5.6	94.4	-

① 利用していない理由

【上の設問で「2．いいえ」を選んだ方のみ】
（1－2）現在、介護サービスを利用していない理由は何ですか（あてはまるものすべてに○）

「今のところ自分で身の回りのことをしているため」が 72.4％で最も多く、「今のところサービスを受ける必要がないため」（67.0％）、「要介護・要支援の認定を受けていない（総合事業の対象者でもない）」（53.1％）、「サービスの利用方法がわからないため」（4.1％）が続きます。

家族構成でみると、「今のところ自分で身の回りのことをしているため」の比率は「１人暮らし」が、「今のところサービスを受ける必要がないため」の比率は「夫婦２人暮らし（配偶者 65 歳以上）」が高くなっています。

		全体	要介護・要支援の認定を受けていない（総合事業の対象者でもない）	今のところ自分で身の回りのことをしているため	家族に介護してもらっているため	サービスの利用方法がわからないため	希望するサービスがないため	入院中であるため	今のところサービスを受ける必要がないため	過去にサービスを利用していたが、今は、必要なくなったため	その他	無回答
	全体	2,401	53.1	72.4	2.9	4.1	1.3	0.2	67.0	0.8	1.2	2.9
家族構成	１人暮らし	444	48.0	80.6	1.1	5.2	2.3	－	62.4	0.7	2.3	2.7
	夫婦２人暮らし（配偶者65歳以上）	973	57.0	69.6	2.4	3.5	1.3	0.3	70.2	0.9	0.9	2.7
	夫婦２人暮らし（配偶者64歳以下）	137	48.9	61.3	0.7	2.9	－	－	59.9	－	－	1.5
	息子・娘との２世帯	341	49.9	73.6	6.5	2.3	0.6	－	66.0	0.9	1.2	3.8
	その他	443	55.1	71.6	3.6	5.4	1.1	0.5	68.8	1.1	1.4	3.2
	無回答	63	39.7	81.0	4.8	9.5	3.2	－	58.7	－	－	3.2

要支援度等でみると、「今のところ自分で身の回りのことをしているため」「今のところサービスを受ける必要がないため」の比率は「要支援 1」が最も高く、「要支援２」が続いています。

		全体	要介護・要支援の認定を受けていない（総合事業の対象者でもない）	今のところ自分で身の回りのことをしているため	家族に介護してもらっているため	サービスの利用方法がわからないため	希望するサービスがないため	入院中であるため	今のところサービスを受ける必要がないため	過去にサービスを利用していたが、今は、必要なくなったため	その他	無回答
	全体	2,401	53.1	72.4	2.9	4.1	1.3	0.2	67.0	0.8	1.2	2.9
要介護認定区分	事業対象者	2	50.0	－	－	－	－	－	－	－	50.0	－
	要支援１	38	5.3	68.4	26.3	7.9	2.6	2.6	28.9	7.9	2.6	5.3
	要支援２	15	－	60.0	46.7	13.3	－	－	6.7	13.3	20.0	－
	無回答	2,346	54.2	72.6	2.3	4.0	1.3	0.2	68.1	0.6	1.0	2.9

年齢階層でみると、「今のところ自分で身の回りのことをしているため」は年齢が上がるにしたがい下がり、「今のところサービスを受ける必要がないため」の比率は年齢が上がるにしたがい下がる傾向にあります。

		全体	要介護・要支援の認定を受けていない（総合事業の対象者でもない）	今のところ自分で身の回りのことをしているため	家族に介護してもらっているため	サービスの利用方法がわからないため	希望するサービスがないため	入院中であるため	今のところサービスを受ける必要がないため	過去にサービスを利用していたが、今は、必要なくなったため	その他	無回答
	全体	2,401	53.1	72.4	2.9	4.1	1.3	0.2	67.0	0.8	1.2	2.9
年齢	65歳～69歳	534	55.1	62.7	1.3	3.6	1.7	0.4	67.0	0.2	1.1	2.6
	70歳～74歳	762	54.3	71.3	1.2	3.5	1.3	0.4	72.4	0.5	0.8	2.8
	75歳～79歳	560	54.3	76.4	2.7	4.5	1.3	－	65.9	1.4	0.9	3.8
	80歳～84歳	350	51.4	79.1	4.3	5.7	0.9	－	62.9	0.3	1.4	1.7
	85歳～89歳	133	39.8	81.2	8.3	4.5	0.8	－	57.1	3.8	3.0	3.0
	90歳～94歳	41	41.5	82.9	26.8	2.4	2.4	－	51.2	2.4	7.3	－
	95歳～99歳	4	50.0	50.0	50.0	－	25.0	－	25.0	－	－	－
	100歳以上	－	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
	無回答	17	58.8	64.7	－	5.9	－	－	70.6	－	－	17.6

性別では、「今のところ自分で身の回りのことをしているため」「今のところサービスを受ける必要がないため」で「女性」が、「要介護・要支援の認定を受けていない（総合事業の対象者でもない）」で「男性」が、それぞれ比率が高くなっています。

		全体	要介護・要支援の認定を受けていない（総合事業の対象者でもない）	今のところ自分で身の回りのことをしているため	家族に介護してもらっているため	サービスの利用方法がわからないため	希望するサービスがないため	入院中であるため	今のところサービスを受ける必要がないため	過去にサービスを利用していたが、今は、必要なくなったため	その他	無回答
	全体	2,401	53.1	72.4	2.9	4.1	1.3	0.2	67.0	0.8	1.2	2.9
性別	男性	1,135	53.3	70.1	2.7	3.7	1.4	0.4	65.6	0.7	0.8	2.7
	女性	1,249	52.8	74.5	3.1	4.5	1.3	0.1	68.3	1.0	1.6	2.8
	無回答	17	58.8	64.7	－	5.9	－	－	70.6	－	－	17.6

地区別では、どの地区も同じような割合で、大きな差は見られません。

		全体	要介護・要支援の認定を受けていない（総合事業の対象者でもない）	今のところ自分で身の回りのことをしているため	家族に介護してもらっているため	サービスの利用方法がわからないため	希望するサービスがないため	入院中であるため	今のところサービスを受ける必要がないため	過去にサービスを利用していたが、今は、必要なくなったため	その他	無回答
全体		2,401	53.1	72.4	2.9	4.1	1.3	0.2	67.0	0.8	1.2	2.9
居住地区	第１地区	515	52.2	73.4	3.3	3.9	1.4	－	67.4	0.6	1.7	2.5
	第２地区	958	54.1	71.6	3.0	4.6	1.6	0.3	66.8	1.1	1.3	2.6
	第３地区	911	52.4	72.8	2.6	3.7	1.1	0.2	67.0	0.7	0.9	3.1
	無回答	17	58.8	64.7	－	5.9	－	－	70.6	－	－	17.6

また、11 区分地区でみると、以下の結果になりました。

	全体	要介護・要支援の認定を受けていない（総合事業の対象者でもない）	今のところ自分で身の回りのことをしているため	家族に介護してもらっているため	サービスの利用方法がわからないため	希望するサービスがないため	入院中であるため	今のところサービスを受ける必要がないため	過去にサービスを利用していたが、今は、必要なくなったため	その他	無回答
全体	2,401	1,274	1,738	70	99	32	5	1,609	20	29	69
	100.0	53.1	72.4	2.9	4.1	1.3	0.2	67.0	0.8	1.2	2.9
青梅	219	105	167	10	9	2	-	152	-	3	6
	100.0	47.9	76.3	4.6	4.1	0.9	-	69.4	-	1.4	2.7
東青梅	296	164	211	7	11	5	-	195	3	6	7
	100.0	55.4	71.3	2.4	3.7	1.7	-	65.9	1.0	2.0	2.4
長淵	382	199	275	9	17	6	1	266	3	2	10
	100.0	52.1	72.0	2.4	4.5	1.6	0.3	69.6	0.8	0.5	2.6
河辺	285	159	203	9	15	6	1	187	4	6	6
	100.0	55.8	71.2	3.2	5.3	2.1	0.4	65.6	1.4	2.1	2.1
梅郷	211	115	158	7	10	2	-	133	1	4	5
	100.0	54.5	74.9	3.3	4.7	0.9	-	63.0	0.5	1.9	2.4
沢井	80	45	50	4	2	1	1	54	3	-	4
	100.0	56.3	62.5	5.0	2.5	1.3	1.3	67.5	3.8	-	5.0
大門	325	171	238	8	13	5	1	208	3	-	12
	100.0	52.6	73.2	2.5	4.0	1.5	0.3	64.0	0.9	-	3.7
新町	282	157	200	8	11	4	1	199	-	5	8
	100.0	55.7	70.9	2.8	3.9	1.4	0.4	70.6	-	1.8	2.8
今井	188	93	144	6	7	1	-	122	3	2	6
	100.0	49.5	76.6	3.2	3.7	0.5	-	64.9	1.6	1.1	3.2
小曾木	74	35	53	1	2	-	-	52	-	-	-
	100.0	47.3	71.6	1.4	2.7	-	-	70.3	-	-	-
成木	42	21	28	1	1	-	-	29	-	1	2
	100.0	50.0	66.7	2.4	2.4	-	-	69.0	-	2.4	4.8
無回答	17	10	11	-	1	-	-	12	-	-	3
	100.0	58.8	64.7	-	5.9	-	-	70.6	-	-	17.6

（2）希望介護形態

介護について、あなたはどのような希望をお持ちですか（○は１つ）

「介護サービスを利用しながら自宅で暮らしたい」が 42.6%で最も多く、「家族や近隣、友人に支えられながら自宅で暮らしたい」（18.7%）、「特別養護老人ホームなどに入りたい」（8.1%）が続きます。

前期調査と比較すると、前期よりも自宅志向が強まっています。

これを「家族構成」でみてみると、「家族や近隣、友人に支えられながら自宅で暮らしたい」との回答比率は「１人暮らし」が最も低くなっています。

		全体	家族や近隣、友人に支えられながら自宅で暮らしたい	介護サービスを利用しながら自宅で暮らしたい	特別養護老人ホームなどに入りたい	わからない	その他	無回答
	全体	2,577	18.7	42.6	8.1	23.4	2.0	5.2
家族構成	１人暮らし	497	12.7	39.0	12.7	27.2	2.4	6.0
	夫婦２人暮らし（配偶者65歳以上）	1,032	19.2	44.7	8.1	21.5	1.8	4.7
	夫婦２人暮らし（配偶者64歳以下）	140	22.9	35.7	5.0	29.3	1.4	5.7
	息子・娘との２世帯	366	26.2	46.2	4.1	18.0	1.9	3.6
	その他	470	17.7	42.8	7.2	25.5	2.1	4.7
	無回答	72	15.3	33.3	8.3	25.0	1.4	16.7

要支援等でみると、「介護サービスを利用しながら自宅で暮らしたい」の比率は「要支援２」が最も高く、「事業対象者」が続いています。「家族や近隣、友人に支えられながら自宅で暮らしたい」の比率は「要支援 1」が最も高く、「要支援２」が続いています。

		全体	家族や近隣、友人に支えられながら自宅で暮らしたい	介護サービスを利用しながら自宅で暮らしたい	特別養護老人ホームなどに入りたい	わからない	その他	無回答
	全体	2,577	18.7	42.6	8.1	23.4	2.0	5.2
要介護認定区分	事業対象者	5	－	60.0	40.0	－	－	－
	要支援１	75	20.0	54.7	5.3	12.0	2.7	5.3
	要支援２	58	6.9	60.3	－	13.8	3.4	15.5
	無回答	2,439	19.0	41.8	8.3	24.0	1.9	4.9

年齢階層でみると、「介護サービスを利用しながら自宅で暮らしたい」「家族や近隣、友人に支えられながら自宅で暮らしたい」は年齢が上がるにつれて比率が高まる傾向にあります。

		全体	家族や近隣、友人に支えられながら自宅で暮らしたい	介護サービスを利用しながら自宅で暮らしたい	特別養護老人ホームなどに入りたい	わからない	その他	無回答
	全体	2,577	18.7	42.6	8.1	23.4	2.0	5.2
年齢	65歳～69歳	553	16.6	41.8	8.1	28.0	2.4	3.1
	70歳～74歳	791	17.2	41.2	9.2	26.3	2.4	3.7
	75歳～79歳	600	19.2	44.3	7.7	21.8	1.5	5.5
	80歳～84歳	388	19.1	43.8	8.0	18.6	2.1	8.5
	85歳～89歳	169	24.9	47.9	5.3	13.0	1.2	7.7
	90歳～94歳	53	39.6	30.2	3.8	15.1	－	11.3
	95歳～99歳	5	20.0	40.0	－	20.0	－	20.0
	100歳以上	－	*	*	*	*	*	*
	無回答	18	11.1	38.9	16.7	27.8	－	5.6

男女別では、「介護サービスを利用しながら自宅で暮らしたい」で「女性」が、「家族や近隣、友人に支えられながら自宅で暮らしたい」で「男性」が、それぞれ比率が高くなっています。

		全体	家族や近隣、友人に支えられながら自宅で暮らしたい	介護サービスを利用しながら自宅で暮らしたい	特別養護老人ホームなどに入りたい	わからない	その他	無回答
	全体	2,577	18.7	42.6	8.1	23.4	2.0	5.2
性別	男性	1,204	22.2	37.9	8.2	25.4	1.8	4.5
	女性	1,355	15.8	46.9	7.9	21.5	2.1	5.8
	無回答	18	11.1	38.9	16.7	27.8	－	5.6

なお、地区別にみると、「介護サービスを利用しながら自宅で暮らしたい」で「第１地区」が、「家族や近隣、友人に支えられながら自宅で暮らしたい」で「第２地区」が、それぞれ比率が高くなっています。

		全体	家族や近隣、友人に支えられながら自宅で暮らしたい	介護サービスを利用しながら自宅で暮らしたい	特別養護老人ホームなどに入りたい	わからない	その他	無回答
全体		2,577	18.7	42.6	8.1	23.4	2.0	5.2
居住地区	第１地区	556	17.6	44.8	6.7	24.1	2.3	4.5
	第２地区	1,035	20.7	41.4	8.4	22.0	1.8	5.6
	第３地区	968	17.5	42.8	8.5	24.3	2.0	5.1
	無回答	18	11.1	38.9	16.7	27.8	-	5.6

また、11 区分地区でみると、以下の結果になりました。

	全体	家族や近隣、友人に支えられながら自宅で暮らしたい	介護サービスを利用しながら自宅で暮らしたい	特別養護老人ホームなどに入りたい	わからない	その他	無回答
全体	2,577	483	1,099	209	602	51	133
	100.0	18.7	42.6	8.1	23.4	2.0	5.2
青梅	236	39	112	12	59	4	10
	100.0	16.5	47.5	5.1	25.0	1.7	4.2
東青梅	320	59	137	25	75	9	15
	100.0	18.4	42.8	7.8	23.4	2.8	4.7
長淵	408	81	170	35	84	8	30
	100.0	19.9	41.7	8.6	20.6	2.0	7.4
河辺	312	61	126	33	72	5	15
	100.0	19.6	40.4	10.6	23.1	1.6	4.8
梅郷	227	46	102	12	53	5	9
	100.0	20.3	44.9	5.3	23.3	2.2	4.0
沢井	88	26	31	7	19	1	4
	100.0	29.5	35.2	8.0	21.6	1.1	4.5
大門	344	66	131	38	87	9	13
	100.0	19.2	38.1	11.0	25.3	2.6	3.8
新町	300	43	145	20	68	5	19
	100.0	14.3	48.3	6.7	22.7	1.7	6.3
今井	197	34	86	15	49	2	11
	100.0	17.3	43.7	7.6	24.9	1.0	5.6
小曾木	84	16	37	6	18	3	4
	100.0	19.0	44.0	7.1	21.4	3.6	4.8
成木	43	10	15	3	13	-	2
	100.0	23.3	34.9	7.0	30.2	-	4.7
無回答	18	2	7	3	5	-	1
	100.0	11.1	38.9	16.7	27.8	-	5.6

（3）元気なうちの生活形態

あなたは、元気なうちは、どのようにしたいと思いますか（○は１つ）

「自宅に住み続けたい」が83.8%で最も多く、「子供や兄弟姉妹などの家またはその近くに住みたい」（1.4%）、「有料老人ホームなどの高齢者向け住宅に入居したい」（1.3%）が続きます。

前期調査と比較すると、前期よりも自宅志向が強まっています。

これを「家族構成」でみてみると、「自宅に住み続けたい」との回答比率は「１人暮らし」が最も低くなっています。

		全体	自宅に住み続けたい	子供や兄弟姉妹などの家またはその近くに住みたい	有料老人ホームなどの高齢者向け住宅に入居したい	上記1～3以外の住宅に移りたい（生まれ育ったところ、暖かいところなど）	わからない	特にない	その他	無回答
	全体	2,577	83.8	1.4	1.3	1.1	4.9	3.3	0.6	3.6
家族構成	１人暮らし	497	71.2	1.8	3.0	3.2	7.6	6.6	0.8	5.6
	夫婦２人暮らし（配偶者65歳以上）	1,032	86.7	1.4	0.9	0.5	5.0	2.3	0.2	3.0
	夫婦２人暮らし（配偶者64歳以下）	140	87.9	0.7	－	0.7	2.1	5.0	0.7	2.9
	息子・娘との２世帯	366	90.4	0.8	0.8	0.8	2.5	0.8	0.8	3.0
	その他	470	85.7	1.5	0.9	0.6	4.5	3.6	1.3	1.9
	無回答	72	75.0	1.4	2.8	1.4	2.8	2.8	－	13.9

要支援等でみると、「自宅に住み続けたい」の比率は「要支援２」が最も高く、「要支援１」が続いています。

		全体	自宅に住み続けたい	子供や兄弟姉妹などの家またはその近くに住みたい	有料老人ホームなどの高齢者向け住宅に入居したい	上記1～3以外の住宅に移りたい（生まれ育ったところ、暖かいところなど）	わからない	特にない	その他	無回答
	全体	2,577	83.8	1.4	1.3	1.1	4.9	3.3	0.6	3.6
要介護認定区分	事業対象者	5	40.0	20.0	20.0	－	－	20.0	－	－
	要支援１	75	77.3	1.3	2.7	1.3	8.0	4.0	1.3	4.0
	要支援２	58	84.5	1.7	1.7	1.7	－	1.7	1.7	6.9
	無回答	2,439	84.1	1.3	1.2	1.1	4.9	3.3	0.6	3.5

年齢階層でみると、「自宅に住み続けたい」は、年齢が上がるにしたがい比率が緩やかに下がる傾向にあります。

		全体	自宅に住み続けたい	子供や兄弟姉妹などの家またはその近くに住みたい	有料老人ホームなどの高齢者向け住宅に入居したい	上記1～3以外の住宅に移りたい（生まれ育ったところ、暖かいところなど）	わからない	特にない	その他	無回答
	全体	2,577	83.8	1.4	1.3	1.1	4.9	3.3	0.6	3.6
年齢	65歳～69歳	553	82.8	2.2	1.1	1.8	4.9	3.6	0.5	3.1
	70歳～74歳	791	84.6	1.1	1.3	1.4	4.9	3.3	1.0	2.4
	75歳～79歳	600	84.3	1.7	1.0	0.7	4.5	3.7	0.3	3.8
	80歳～84歳	388	83.2	0.8	1.5	0.5	6.2	2.8	0.3	4.6
	85歳～89歳	169	83.4	－	2.4	1.2	3.0	4.1	0.6	5.3
	90歳～94歳	53	81.1	1.9	1.9	－	3.8	－	1.9	9.4
	95歳～99歳	5	80.0	－	－	－	－	－	－	20.0
	100歳以上	－	*	*	*	*	*	*	*	*
	無回答	18	88.9	－	－	－	5.6	－	－	5.6

男女別では、「自宅に住み続けたい」で「女性」の比率が高くなっています。

		全体	自宅に住み続けたい	子供や兄弟姉妹などの家またはその近くに住みたい	有料老人ホームなどの高齢者向け住宅に入居したい	上記1～3以外の住宅に移りたい（生まれ育ったところ、暖かいところなど）	わからない	特にない	その他	無回答
	全体	2,577	83.8	1.4	1.3	1.1	4.9	3.3	0.6	3.6
性別	男性	1,204	83.0	1.1	1.0	1.7	5.4	4.0	0.3	3.6
	女性	1,355	84.5	1.6	1.5	0.7	4.4	2.8	0.9	3.6
	無回答	18	88.9	－	－	－	5.6	－	－	5.6

なお、地区別にみると、「自宅に住み続けたい」で「第２地区」の比率が高くなっています。

		全体	自宅に住み続けたい	子供や兄弟姉妹などの家またはその近くに住みたい	有料老人ホームなどの高齢者向け住宅に入居したい	上記1～3以外の住宅に移りたい（生まれ育ったところ、暖かいところなど）	わからない	特にない	その他	無回答
全体		2,577	83.8	1.4	1.3	1.1	4.9	3.3	0.6	3.6
居住地区	第１地区	556	82.2	0.7	1.8	1.4	6.1	3.1	0.9	3.8
	第２地区	1,035	84.8	1.6	1.1	0.8	4.6	2.8	0.4	3.9
	第３地区	968	83.6	1.4	1.2	1.3	4.3	4.1	0.7	3.2
	無回答	18	88.9	－	－	－	5.6	－	－	5.6

また、11 区分地区でみると、以下の結果になりました。

	全体	自宅に住み続けたい	子供や兄弟姉妹などの家またはその近くに住みたい	有料老人ホームなどの高齢者向け住宅に入居したい	上記1～3以外の住宅に移りたい（生まれ育ったところ、暖かいところなど）	わからない	特にない	その他	無回答
全体	2,577	2,160	35	33	29	125	86	16	93
	100.0	83.8	1.4	1.3	1.1	4.9	3.3	0.6	3.6
青梅	236	201	2	1	3	11	7	1	10
	100.0	85.2	0.8	0.4	1.3	4.7	3.0	0.4	4.2
東青梅	320	256	2	9	5	23	10	4	11
	100.0	80.0	0.6	2.8	1.6	7.2	3.1	1.3	3.4
長淵	408	345	10	4	4	16	10	1	18
	100.0	84.6	2.5	1.0	1.0	3.9	2.5	0.2	4.4
河辺	312	253	5	4	2	21	11	2	14
	100.0	81.1	1.6	1.3	0.6	6.7	3.5	0.6	4.5
梅郷	227	202	1	2	2	8	6	-	6
	100.0	89.0	0.4	0.9	0.9	3.5	2.6	-	2.6
沢井	88	78	1	1	-	3	2	1	2
	100.0	88.6	1.1	1.1	-	3.4	2.3	1.1	2.3
大門	344	279	6	6	5	12	23	2	11
	100.0	81.1	1.7	1.7	1.5	3.5	6.7	0.6	3.2
新町	300	256	4	3	4	14	9	1	9
	100.0	85.3	1.3	1.0	1.3	4.7	3.0	0.3	3.0
今井	197	164	2	3	2	10	5	2	9
	100.0	83.2	1.0	1.5	1.0	5.1	2.5	1.0	4.6
小曾木	84	70	2	-	2	4	2	2	2
	100.0	83.3	2.4	-	2.4	4.8	2.4	2.4	2.4
成木	43	40	-	-	-	2	1	-	-
	100.0	93.0	-	-	-	4.7	2.3	-	-
無回答	18	16	-	-	-	1	-	-	1
	100.0	88.9	-	-	-	5.6	-	-	5.6

（4）介護が必要になったときの生活形態

あなたは、介護が必要になったときは、どのようにしたいと思いますか（○は１つ）

「現在の住宅（自宅）に住み続けたい」が62.1%で最も多く、「介護保険で入所できる施設（特別養護老人ホーム、認知症グループホームなど）に入所したい」（12.0%）、「有料老人ホームなどの高齢者向け住宅に入居したい」（3.1%）、「子供や親族との同居またはその近くの住宅に移りたい」（1.6%）が続きます。

前期調査と比較すると、前期よりも自宅志向がかなり強まっています。

これを「家族構成」でみてみると、「現在の住宅（自宅）に住み続けたい」との回答比率は「１人暮らし」が最も低くなっています。

		全体	現在の住宅（自宅）に住み続けたい	子供や親族との同居またはその近くの住宅に移りたい	介護保険で入所できる施設（特別養護老人ホーム、認知症グループホームなど）に入所したい	有料老人ホームなどの高齢者向け住宅に入居したい	上記1～4以外の一般の住宅に移りたい（生まれ育ったところ、暖かい土地など）	わからない	その他	無回答
	全体	2,577	62.1	1.6	12.0	3.1	0.6	12.8	1.0	6.8
家族構成	１人暮らし	497	49.1	2.4	13.9	5.2	1.2	17.3	1.2	9.7
	夫婦２人暮らし（配偶者65歳以上）	1,032	65.5	1.2	13.2	2.7	0.4	10.7	0.7	5.7
	夫婦２人暮らし（配偶者64歳以下）	140	67.1	2.1	5.7	3.6	－	17.9	1.4	2.1
	息子・娘との２世帯	366	70.8	2.5	9.6	1.6	1.1	7.1	0.5	6.8
	その他	470	63.6	0.6	11.3	2.1	0.2	14.7	1.5	6.0
	無回答	72	40.3	2.8	12.5	5.6	1.4	18.1	1.4	18.1

要支援等でみると、「現在の住宅（自宅）に住み続けたい」の比率は「要支援１」が最も高く、「要支援２」が続いています。

		全体	現在の住宅（自宅）に住み続けたい	子供や親族との同居またはその近くの住宅に移りたい	介護保険で入所できる施設（特別養護老人ホーム、認知症グループホームなど）に入所したい	有料老人ホームなどの高齢者向け住宅に入居したい	上記1～4以外の一般の住宅に移りたい（生まれ育ったところ、暖かい土地など）	わからない	その他	無回答
	全体	2,577	62.1	1.6	12.0	3.1	0.6	12.8	1.0	6.8
要介護認定区分	事業対象者	5	60.0	－	20.0	－	－	20.0	－	－
	要支援１	75	66.7	1.3	8.0	1.3	1.3	10.7	1.3	9.3
	要支援２	58	65.5	1.7	6.9	3.4	－	8.6	1.7	12.1
	無回答	2,439	61.9	1.6	12.3	3.1	0.6	12.9	0.9	6.6

年齢階層でみると、「現在の住宅（自宅）に住み続けたい」年齢が上がるにしたがい比率が上がっています。

		全体	現在の住宅（自宅）に住み続けたい	子供や親族との同居またはその近くの住宅に移りたい	介護保険で入所できる施設（特別養護老人ホーム、認知症グループホームなど）に入所したい	有料老人ホームなどの高齢者向け住宅に入居したい	上記1～4以外の一般の住宅に移りたい（生まれ育ったところ、暖かい土地など）	わからない	その他	無回答
	全体	2,577	62.1	1.6	12.0	3.1	0.6	12.8	1.0	6.8
年齢	65歳～69歳	553	59.7	2.0	13.4	3.4	1.1	15.4	1.4	3.6
	70歳～74歳	791	61.7	1.1	12.9	2.0	1.1	13.0	1.1	7.0
	75歳～79歳	600	62.7	1.7	12.8	4.0	－	12.2	0.5	6.2
	80歳～84歳	388	63.1	1.0	9.3	2.8	0.3	11.6	1.0	10.8
	85歳～89歳	169	66.9	2.4	7.1	4.1	－	10.1	0.6	8.9
	90歳～94歳	53	67.9	3.8	7.5	3.8	－	9.4	－	7.5
	95歳～99歳	5	80.0	－	－	－	－	－	－	20.0
	100歳以上	－	*	*	*	*	*	*	*	*
	無回答	18	50.0	5.6	27.8	－	－	5.6	－	11.1

男女別では、「現在の住宅（自宅）に住み続けたい」で「男性」の比率が高くなっています。

		全体	現在の住宅（自宅）に住み続けたい	子供や親族との同居またはその近くの住宅に移りたい	介護保険で入所できる施設（特別養護老人ホーム、認知症グループホームなど）に入所したい	有料老人ホームなどの高齢者向け住宅に入居したい	上記1～4以外の一般の住宅に移りたい（生まれ育ったところ、暖かい土地など）	わからない	その他	無回答
	全体	2,577	62.1	1.6	12.0	3.1	0.6	12.8	1.0	6.8
性別	男性	1,204	64.7	1.2	10.3	3.1	1.0	13.9	0.9	4.9
	女性	1,355	60.0	1.8	13.4	3.1	0.3	11.9	1.0	8.5
	無回答	18	50.0	5.6	27.8	－	－	5.6	－	11.1

なお、地区別にみると、「現在の住宅（自宅）に住み続けたい」では「第２地区」の比率が最も高くなっています。

		全体	現在の住宅（自宅）に住み続けたい	子供や親族との同居またはその近くの住宅に移りたい	介護保険で入所できる施設（特別養護老人ホーム、認知症グループホームなど）に入所したい	有料老人ホームなどの高齢者向け住宅に入居したい	上記1～4以外の一般の住宅に移りたい（生まれ育ったところ、暖かい土地など）	わからない	その他	無回答
全体		2,577	62.1	1.6	12.0	3.1	0.6	12.8	1.0	6.8
居住地区	第１地区	556	60.3	0.7	11.2	3.6	0.7	14.7	2.2	6.7
	第２地区	1,035	64.0	1.9	10.5	3.4	0.5	12.4	0.2	7.1
	第３地区	968	61.5	1.7	13.8	2.5	0.7	12.2	1.1	6.5
	無回答	18	50.0	5.6	27.8	-	-	5.6	-	11.1

また、11 区分地区でみると、以下の結果になりました。

	全体	現在の住宅（自宅）に住み続けたい	子供や親族との同居またはその近くの住宅に移りたい	介護保険で入所できる施設（特別養護老人ホーム、認知症グループホームなど）に入所したい	有料老人ホームなどの高齢者向け住宅に入居したい	上記1～4以外の一般の住宅に移りたい（生まれ育ったところ、暖かい土地など）	わからない	その他	無回答
全体	2,577	1,601	41	310	79	16	329	25	176
	100.0	62.1	1.6	12.0	3.1	0.6	12.8	1.0	6.8
青梅	236	155	3	24	9	4	25	2	14
	100.0	65.7	1.3	10.2	3.8	1.7	10.6	0.8	5.9
東青梅	320	180	1	38	11	-	57	10	23
	100.0	56.3	0.3	11.9	3.4	-	17.8	3.1	7.2
長淵	408	265	12	48	12	2	45	1	23
	100.0	65.0	2.9	11.8	2.9	0.5	11.0	0.2	5.6
河辺	312	189	8	28	13	2	40	-	32
	100.0	60.6	2.6	9.0	4.2	0.6	12.8	-	10.3
梅郷	227	152	-	22	8	1	32	1	11
	100.0	67.0	-	9.7	3.5	0.4	14.1	0.4	4.8
沢井	88	56	-	11	2	-	11	-	8
	100.0	63.6	-	12.5	2.3	-	12.5	-	9.1
大門	344	202	5	61	9	1	43	3	20
	100.0	58.7	1.5	17.7	2.6	0.3	12.5	0.9	5.8
新町	300	194	8	35	9	3	30	5	16
	100.0	64.7	2.7	11.7	3.0	1.0	10.0	1.7	5.3
今井	197	110	3	30	4	1	31	-	18
	100.0	55.8	1.5	15.2	2.0	0.5	15.7	-	9.1
小曾木	84	55	-	5	2	2	8	3	9
	100.0	65.5	-	6.0	2.4	2.4	9.5	3.6	10.7
成木	43	34	-	3	-	-	6	-	-
	100.0	79.1	-	7.0	-	-	14.0	-	-
無回答	18	9	1	5	-	-	1	-	2
	100.0	50.0	5.6	27.8	-	-	5.6	-	11.1

① 現在の住宅に住み続けたい理由

上の設問で「現在の住宅（自宅）に住み続けたい」を選んだ方へ。自宅に住み続けたい理由は何ですか（あてはまるものすべてに○）

「現在同居している家族と住み続けたいから」が 51.5%で最も多く、「現在住んでいる地域に愛着があるから」（44.9%）、「新たな環境で生活するのは不安だから」（24.4%）、「現在の自宅や土地を処分したくないから」（20.1%）が続きます。

これを「家族構成」でみてみると、「現在同居している家族と住み続けたいから」の比率は「1 人暮らし」が最も低くなっています。

		全体	現在住んでいる地域に愛着があるから	現在の自宅や土地を処分したくないから	現在同居している家族と住み続けたいから	友人・知人と離れたくないから	新たな環境で生活するのは不安だから	高齢者向け住宅に入居する費用（家賃など）を負担できないから	高齢者だけで住む建物には住みたくないから	無回答
	全体	1,601	44.9	20.1	51.5	13.4	24.4	19.8	14.0	1.7
家族構成	1人暮らし	244	54.1	21.7	1.2	11.5	34.0	23.0	16.4	3.3
	夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）	676	45.6	19.2	53.8	14.1	24.9	19.5	14.9	0.9
	夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）	94	39.4	19.1	59.6	9.6	16.0	21.3	17.0	2.1
	息子・娘との2世帯	259	37.8	18.9	70.7	16.6	21.2	18.1	11.2	1.2
	その他	299	45.2	22.4	67.2	13.4	22.1	19.7	11.7	2.7
	無回答	29	31.0	17.2	58.6	－	10.3	10.3	10.3	3.4

要支援等でみると、「現在同居している家族と住み続けたいから」の比率は「事業対象者」が最も高く、「要支援１」が続いています。

		全体	現在住んでいる地域に愛着があるから	現在の自宅や土地を処分したくないから	現在同居している家族と住み続けたいから	友人・知人と離れたくないから	新たな環境で生活するのは不安だから	高齢者向け住宅に入居する費用（家賃など）を負担できないから	高齢者だけで住む建物には住みたくないから	無回答
	全体	1,601	44.9	20.1	51.5	13.4	24.4	19.8	14.0	1.7
要介護認定区分	事業対象者	3	33.3	－	66.7	－	33.3	－	－	－
	要支援１	50	32.0	16.0	48.0	10.0	26.0	14.0	10.0	2.0
	要支援２	38	34.2	10.5	47.4	18.4	34.2	21.1	13.2	2.6
	無回答	1,510	45.6	20.5	51.7	13.4	24.0	20.0	14.2	1.7

年齢階層でみると、「現在住んでいる地域に愛着があるから」で年齢が上がるにしたがい比率も上がる傾向にあります。

		全体	現在住んでいる地域に愛着があるから	現在の自宅や土地を処分したくないから	現在同居している家族と住み続けたいから	友人・知人と離れたくないから	新たな環境で生活するのは不安だから	高齢者向け住宅に入居する費用（家賃など）を負担できないから	高齢者だけで住む建物には住みたくないから	無回答
	全体	1,601	44.9	20.1	51.5	13.4	24.4	19.8	14.0	1.7
年齢	65歳～69歳	330	39.4	19.7	50.3	12.7	26.7	22.1	14.8	3.0
	70歳～74歳	488	44.5	19.7	53.7	11.5	25.4	19.5	14.8	0.8
	75歳～79歳	376	43.4	20.5	48.9	14.4	21.0	20.7	12.0	1.9
	80歳～84歳	245	51.0	20.8	52.2	15.5	24.9	18.0	11.8	2.4
	85歳～89歳	113	52.2	20.4	53.1	15.9	21.2	15.9	21.2	－
	90歳～94歳	36	47.2	16.7	55.6	13.9	27.8	16.7	11.1	2.8
	95歳～99歳	4	50.0	－	50.0	－	50.0	－	25.0	－
	100歳以上	－	*	*	*	*	*	*	*	*
	無回答	9	66.7	44.4	22.2	22.2	22.2	33.3	－	－

男女別では、「現在同居している家族と住み続けたいから」で「男性」の比率が高くなっています。

		全体	現在住んでいる地域に愛着があるから	現在の自宅や土地を処分したくないから	現在同居している家族と住み続けたいから	友人・知人と離れたくないから	新たな環境で生活するのは不安だから	高齢者向け住宅に入居する費用（家賃など）を負担できないから	高齢者だけで住む建物には住みたくないから	無回答
	全体	1,601	44.9	20.1	51.5	13.4	24.4	19.8	14.0	1.7
性別	男性	779	45.2	22.1	55.7	10.3	20.3	19.4	16.6	2.1
	女性	813	44.4	18.0	47.7	16.4	28.3	20.0	11.7	1.5
	無回答	9	66.7	44.4	22.2	22.2	22.2	33.3	－	－

なお、地区別にみると、「現在同居している家族と住み続けたいから」では「第１地区」の比率が最も高くなっています。

		全体	現在住んでいる地域に愛着があるから	現在の自宅や土地を処分したくないから	現在同居している家族と住み続けたいから	友人・知人と離れたくないから	新たな環境で生活するのは不安だから	高齢者向け住宅に入居する費用（家賃など）を負担できないから	高齢者だけで住む建物には住みたくないから	無回答
全体		1,601	44.9	20.1	51.5	13.4	24.4	19.8	14.0	1.7
居住地区	第１地区	335	47.2	19.4	52.5	15.5	23.9	19.7	15.8	1.5
	第２地区	662	45.2	20.1	52.1	12.2	25.4	22.2	13.7	2.1
	第３地区	595	43.0	20.2	50.6	13.4	23.5	17.0	13.4	1.5
	無回答	9	66.7	44.4	22.2	22.2	22.2	33.3	-	-

また、11 区分地区でみると、以下の結果になりました。

	全体	現在住んでいる地域に愛着があるから	現在の自宅や土地を処分したくないから	現在同居している家族と住み続けたいから	友人・知人と離れたくないから	新たな環境で生活するのは不安だから	高齢者向け住宅に入居する費用（家賃など）を負担できないから	高齢者だけで住む建物には住みたくないから	無回答
全体	1,601	719	322	824	215	390	317	224	28
	100.0	44.9	20.1	51.5	13.4	24.4	19.8	14.0	1.7
青梅	155	77	34	86	31	38	36	28	2
	100.0	49.7	21.9	55.5	20.0	24.5	23.2	18.1	1.3
東青梅	180	81	31	90	21	42	30	25	3
	100.0	45.0	17.2	50.0	11.7	23.3	16.7	13.9	1.7
長淵	265	118	43	131	28	65	62	24	8
	100.0	44.5	16.2	49.4	10.6	24.5	23.4	9.1	3.0
河辺	189	84	30	88	24	47	46	27	2
	100.0	44.4	15.9	46.6	12.7	24.9	24.3	14.3	1.1
梅郷	152	61	46	92	19	37	32	30	4
	100.0	40.1	30.3	60.5	12.5	24.3	21.1	19.7	2.6
沢井	56	36	14	34	10	19	7	10	-
	100.0	64.3	25.0	60.7	17.9	33.9	12.5	17.9	-
大門	202	89	41	99	28	46	40	32	3
	100.0	44.1	20.3	49.0	13.9	22.8	19.8	15.8	1.5
新町	194	77	36	104	22	47	29	27	1
	100.0	39.7	18.6	53.6	11.3	24.2	14.9	13.9	0.5
今井	110	41	23	54	12	23	15	11	3
	100.0	37.3	20.9	49.1	10.9	20.9	13.6	10.0	2.7
小曾木	55	28	14	27	12	18	9	5	-
	100.0	50.9	25.5	49.1	21.8	32.7	16.4	9.1	-
成木	34	21	6	17	6	6	8	5	2
	100.0	61.8	17.6	50.0	17.6	17.6	23.5	14.7	5.9
無回答	9	6	4	2	2	2	3	-	-
	100.0	66.7	44.4	22.2	22.2	22.2	33.3	-	-

（5）自宅で暮らし続けるために必要なサービス

あなたは、介護を受けながら自宅で自分らしく暮らしていくためには、どのようなサービスが必要だと思いますか（あてはまるものすべてに○）

「自宅で食事、排泄、入浴等の介護をしてもらったり、掃除や生活必需品の買い物をしてもらうサービス」が45.8%で最も多く、「定期的に、また緊急時に自宅に訪問してもらい、身の周りの介護や看護をしてもらうサービス（定額制）」（37.9%）、「施設に通ったり、宿泊したり、あるいは施設から自宅への訪問を組み合わせて、身の周りの介護を受けることができるサービス」（30.8%）、「夜間の緊急時に通報を行うことで、必要な身の周りの介護を受けられるサービス」（29.7%）が続きます。

これを「家族構成」でみてみると、「自宅で食事、排泄、入浴等の介護をしてもらったり、掃除や生活必需品の買い物をしてもらうサービス」との回答比率は「息子・娘との２世帯」が最も高くなっています。

		全体	自宅で食事、排泄、入浴等の介護をしてもらったり、掃除や生活必需品の買い物をしてもらうサービス	施設に通い、他の人と一緒にイベントを楽しんだり、運動したりするサービス	2の中で、認知症の方への対応に特化したサービス	定期的に、また緊急時に自宅に訪問してもらい、身の周りの介護や看護をしてもらうサービス（定額制）	夜間の緊急時に通報を行うことで、必要な身の周りの介護を受けられるサービス	施設に通ったり、宿泊したり、あるいは施設から自宅への訪問を組み合わせて、身の周りの介護を受けることができるサービス	6に加えて、看護も受けることができるサービス	認知症の状態にある方たちが、身の周りの介護や見守りがある環境で共同生活を送ることができるサービス	どのようなサービスが必要なのか分からない	無回答
	全体	2,577	45.8	29.1	7.4	37.9	29.7	30.8	24.3	9.5	20.3	7.2
家族構成	１人暮らし	497	37.8	23.7	6.0	34.4	31.8	25.2	20.7	6.6	23.3	9.5
	夫婦２人暮らし（配偶者65歳以上）	1,032	51.4	31.1	8.1	40.0	31.5	33.5	27.0	11.7	17.8	6.3
	夫婦２人暮らし（配偶者64歳以下）	140	51.4	30.7	2.9	38.6	22.9	29.3	15.7	5.0	23.6	3.6
	息子・娘との２世帯	366	45.1	34.2	7.7	34.2	25.1	29.0	22.1	9.8	19.7	6.3
	その他	470	43.0	28.1	8.9	41.1	30.4	33.8	27.4	9.6	21.5	7.0
	無回答	72	33.3	16.7	4.2	29.2	22.2	25.0	15.3	5.6	22.2	18.1

要支援等でみると、自宅で食事、排泄、入浴等の介護をしてもらったり、掃除や生活必需品の買い物をしてもらうサービス」の比率は「要支援２」が最も高く、「定期的に、また緊急時に自宅に訪問してもらい、身の周りの介護や看護をしてもらうサービス（定額制）」の比率は「事業対象者」が最も高くなっています。

		全体	自宅で食事、排泄、入浴等の介護をしてもらったり、掃除や生活必需品の買い物をしてもらうサービス	施設に通い、他の人と一緒にイベントを楽しんだり、運動したりするサービス	２の中で、認知症の方への対応に特化したサービス	定期的に、また緊急時に自宅に訪問してもらい、身の周りの介護や看護をしてもらうサービス（定額制）	夜間の緊急時に通報を行うことで、必要な身の周りの介護を受けられるサービス	施設に通ったり、宿泊したり、あるいは施設から自宅への訪問を組み合わせて、身の周りの介護を受けることができるサービス	６に加えて、看護も受けることができるサービス	認知症の状態にある方たちが、身の周りの介護や見守りがある環境で共同生活を送ることができるサービス	どのようなサービスが必要なのか分からない	無回答
	全体	2,577	45.8	29.1	7.4	37.9	29.7	30.8	24.3	9.5	20.3	7.2
要介護認定区分	事業対象者	5	40.0	20.0	－	40.0	60.0	40.0	40.0	－	－	－
	要支援１	75	40.0	17.3	4.0	33.3	26.7	17.3	22.7	6.7	16.0	12.0
	要支援２	58	41.4	44.8	10.3	29.3	36.2	22.4	15.5	10.3	6.9	6.9
	無回答	2,439	46.1	29.2	7.5	38.3	29.6	31.4	24.5	9.6	20.7	7.1

年齢階層でみると、「自宅で食事、排泄、入浴等の介護をしてもらったり、掃除や生活必需品の買い物をしてもらうサービス」「定期的に、また緊急時に自宅に訪問してもらい、身の周りの介護や看護をしてもらうサービス（定額制）」などの比率が年齢が上がるにしたがい下がる傾向にあります。

		全体	自宅で食事、排泄、入浴等の介護をしてもらったり、掃除や生活必需品の買い物をしてもらうサービス	施設に通い、他の人と一緒にイベントを楽しんだり、運動したりするサービス	2の中で、認知症の方への対応に特化したサービス	定期的に、また緊急時に自宅に訪問してもらい、身の周りの介護や看護をしてもらうサービス（定額制）	夜間の緊急時に通報を行うことで、必要な身の周りの介護を受けられるサービス	施設に通ったり、宿泊したり、あるいは施設から自宅への訪問を組み合わせて、身の周りの介護を受けることができるサービス	6に加えて、看護も受けることができるサービス	認知症の状態にある方たちが、身の周りの介護や見守りがある環境で共同生活を送ることができるサービス	どのようなサービスが必要なのか分からない	無回答
	全体	2,577	45.8	29.1	7.4	37.9	29.7	30.8	24.3	9.5	20.3	7.2
年齢	65歳～69歳	553	52.6	32.9	11.8	42.9	32.5	35.4	27.5	14.1	20.4	3.6
	70歳～74歳	791	45.4	29.8	7.2	37.7	29.0	33.5	26.3	10.2	21.1	5.8
	75歳～79歳	600	44.8	29.3	6.0	38.0	31.5	28.5	22.5	7.7	20.5	8.0
	80歳～84歳	388	41.8	26.0	4.9	33.2	25.5	27.6	20.9	7.2	20.6	11.6
	85歳～89歳	169	43.2	24.3	4.7	33.1	27.2	23.7	21.3	5.9	16.6	10.7
	90歳～94歳	53	32.1	17.0	7.5	32.1	28.3	20.8	17.0	－	17.0	11.3
	95歳～99歳	5	40.0	－	－	60.0	40.0	－	20.0	－	－	20.0
	100歳以上	－	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
	無回答	18	44.4	33.3	11.1	50.0	33.3	27.8	16.7	16.7	11.1	11.1

男女別では、「自宅で食事、排泄、入浴等の介護をしてもらったり、掃除や生活必需品の買い物をしてもらうサービス」の比率は「男性」が、定期的に、また緊急時に自宅に訪問してもらい、身の周りの介護や看護をしてもらうサービス（定額制）」の比率は「女性」が高くなっています。

		全体	自宅で食事、排泄、入浴等の介護をしてもらったり、掃除や生活必需品の買い物をしてもらうサービス	施設に通い、他の人と一緒にイベントを楽しんだり、運動したりするサービス	2の中で、認知症の方への対応に特化したサービス	定期的に、また緊急時に自宅に訪問してもらい、身の周りの介護や看護をしてもらうサービス（定額制）	夜間の緊急時に通報を行うことで、必要な身の周りの介護を受けられるサービス	施設に通ったり、宿泊したり、あるいは施設から自宅への訪問を組み合わせて、身の周りの介護を受けることができるサービス	6に加えて、看護も受けることができるサービス	認知症の状態にある方たちが、身の周りの介護や見守りがある環境で共同生活を送ることができるサービス	どのようなサービスが必要なのか分からない	無回答
	全体	2,577	45.8	29.1	7.4	37.9	29.7	30.8	24.3	9.5	20.3	7.2
性別	男性	1,204	49.3	25.0	4.8	36.3	28.2	27.6	21.2	6.7	22.3	6.3
	女性	1,355	42.8	32.8	9.7	39.2	31.0	33.8	27.1	12.0	18.6	8.0
	無回答	18	44.4	33.3	11.1	50.0	33.3	27.8	16.7	16.7	11.1	11.1

なお、地区別でみると、「自宅で食事、排泄、入浴等の介護をしてもらったり、掃除や生活必需品の買い物をしてもらうサービス」では「第２地区」が、「定期的に、また緊急時に自宅に訪問してもらい、身の周りの介護や看護をしてもらうサービス（定額制）」では「第１地区」が、それぞれ、比率が高くなっています。

		全体	自宅で食事、排泄、入浴等の介護をしてもらったり、掃除や生活必需品の買い物をしてもらうサービス	施設に通い、他の人と一緒にイベントを楽しんだり、運動したりするサービス	２の中で、認知症の方への対応に特化したサービス	定期的に、また緊急時に自宅に訪問してもらい、身の周りの介護や看護をしてもらうサービス（定額制）	夜間の緊急時に通報を行うことで、必要な身の周りの介護を受けられるサービス	施設に通ったり、宿泊したり、あるいは施設から自宅への訪問を組み合わせて、身の周りの介護を受けることができるサービス	６に加えて、看護も受けることができるサービス	認知症の状態にある方たちが、身の周りの介護や見守りがある環境で共同生活を送ることができるサービス	どのようなサービスが必要なのか分からない	無回答
全体		2,577	45.8	29.1	7.4	37.9	29.7	30.8	24.3	9.5	20.3	7.2
居住地区	第１地区	556	46.8	28.8	7.7	39.0	28.2	29.7	23.7	11.3	16.2	7.9
	第２地区	1,035	47.4	29.8	8.1	38.3	32.9	30.9	24.9	8.8	20.5	7.2
	第３地区	968	43.6	28.6	6.4	36.7	27.1	31.5	24.0	9.2	22.5	6.7
	無回答	18	44.4	33.3	11.1	50.0	33.3	27.8	16.7	16.7	11.1	11.1

また、11 区分地区でみると、以下の結果になりました。

	全体	自宅で食事をしてもらうサービス	掃除や生活必需品の買い物の介護をしてもらったり、排泄・入浴等	施設に通い、他の人と一緒にイベントを楽しんだり、運動したりするサービス	2の中で、認知症の方への対応に特化したサービス	定期的に自宅に訪問してもらい、身の周りの介護や看護をしてもらうサービス（定額制）	また緊急時に自宅に訪問してもらい、身の周りの介護や看護をしてもらうサービス	夜間の緊急時に通報を行うことで、必要な身の周りの介護を受けられるサービス	り、あるいは施設から自宅への訪問を組み合わせて、身の周りの介護を受けるこ	6に加えて、看護も受けることができるサービス	認知症の状態にある方たちが、身の周りの介護や見守りがある環境で共同生活を送ることができるサービス	どのようなサービスが必要なのか分からない	無回答
全体	2,577	1,181	751	191	977	766	795	625	246	522	186
	100.0	45.8	29.1	7.4	37.9	29.7	30.8	24.3	9.5	20.3	7.2
青梅	236	109	79	20	96	76	75	61	29	31	19
	100.0	46.2	33.5	8.5	40.7	32.2	31.8	25.8	12.3	13.1	8.1
東青梅	320	151	81	23	121	81	90	71	34	59	25
	100.0	47.2	25.3	7.2	37.8	25.3	28.1	22.2	10.6	18.4	7.8
長淵	408	207	129	34	171	140	146	111	44	81	26
	100.0	50.7	31.6	8.3	41.9	34.3	35.8	27.2	10.8	19.9	6.4
河辺	312	133	91	23	109	99	81	70	20	70	26
	100.0	42.6	29.2	7.4	34.9	31.7	26.0	22.4	6.4	22.4	8.3
梅郷	227	108	65	19	82	70	63	54	14	43	18
	100.0	47.6	28.6	8.4	36.1	30.8	27.8	23.8	6.2	18.9	7.9
沢井	88	43	23	8	34	32	30	23	13	18	5
	100.0	48.9	26.1	9.1	38.6	36.4	34.1	26.1	14.8	20.5	5.7
大門	344	145	95	24	121	103	104	81	31	85	25
	100.0	42.2	27.6	7.0	35.2	29.9	30.2	23.5	9.0	24.7	7.3
新町	300	145	79	18	120	81	100	76	31	61	16
	100.0	48.3	26.3	6.0	40.0	27.0	33.3	25.3	10.3	20.3	5.3
今井	197	83	66	13	69	48	65	46	19	47	8
	100.0	42.1	33.5	6.6	35.0	24.4	33.0	23.4	9.6	23.9	4.1
小曾木	84	30	24	5	28	18	21	17	7	16	13
	100.0	35.7	28.6	6.0	33.3	21.4	25.0	20.2	8.3	19.0	15.5
成木	43	19	13	2	17	12	15	12	1	9	3
	100.0	44.2	30.2	4.7	39.5	27.9	34.9	27.9	2.3	20.9	7.0
無回答	18	8	6	2	9	6	5	3	3	2	2
	100.0	44.4	33.3	11.1	50.0	33.3	27.8	16.7	16.7	11.1	11.1

（6）地域活動への参加意向

上の設問のほかで、あなたが必要だと思うサービスはありますか。（自由記入）

内訳は「個別サービス」39 票（うち「移動手段」18 票、「買い物代行等」「文化活動」「認知症対策」4 票、「声かけ・傾聴」「入浴サービス」3 票、「ケアーマネジメント」3票、「ごみ収集」1 票）、「施設関係」5票（うち「介護施設」3票、「通いの場」2票）、「経済面」5票、「その他」49 票となっています。

以下、主な意見を列挙します。

移動手段
小型バスで良いので、年寄りが気楽に乗れるバスが巡回してくれると嬉しい（気軽に乗れる）、ありがたいと以前から考えていた。手を挙げて止まってくれるとなお良い。
今は車が運転できるので問題ないが、免許証返納した場合、交通手段がない。バスも通ってないので交通手段を考えていただきたい。
受診、買い物等々、用途制限で利用できる近隣への外出のための移動手段。市で運行する市内循環バス（例えば 1 回 50 円、100 円税込で利用できるもの）
月に 2 枚ほどの無料タクシー券があればよいと思う。（ｋｍ数はそんなになくていいが）とにかく、車を手放したら（現在は運転をしている）バスも本数は少なく、タクシーも何々呼んでも来ないことが心配。
安く利用できるタクシーが必要。東青梅駅の北口にエレベーターかエスカレーターが必要。
地域的に交通手段が少ないのでコミュニティバス等を検討してほしい。
買い物代行等
買い物代行を希望する。
付き添っていただいて自分の欲しいものの買物をしたい。
文化活動
施設に通って受けるイベントだけでなく、コンサートや美術鑑賞にも参加できるようなサービスがあれば良いと思う。
図書館の利用度が高い。図書館に自力で行けなくなった場合、リクエストした本の宅配サービスを希望する。借り出し、返却を助けてもらえばずっと読書を楽しむことができる。
認知症
認知症になった時、症状が進行しないような医療を受けられる施設を希望する。介護（認知症以外）が必要な時の施設の充実を希望する。
認知症の人が徘徊した時に市民の協力や見守り等ができ、市全体で徘徊した人が早く見つけられるシステムを希望する。例えば服装等の情報が協力者のネットに配信されるとか、つめ等に住所名前等が印字されているシールが貼れる物を配布できる等である。
徘徊等の場合、スマホ（位置情報）の活用、普段から介護に関してちょっとしたことでも聞ける場所等、誰でもわかるような情報を出すこと。
声かけ・傾聴
一人で生活している時、毎日 10 分くらいでもいいので声掛けに来て欲しい。ボランティア等。
自らの思いや悩みを傾聴してもらえるサービスを希望する。
ケアマネジャー

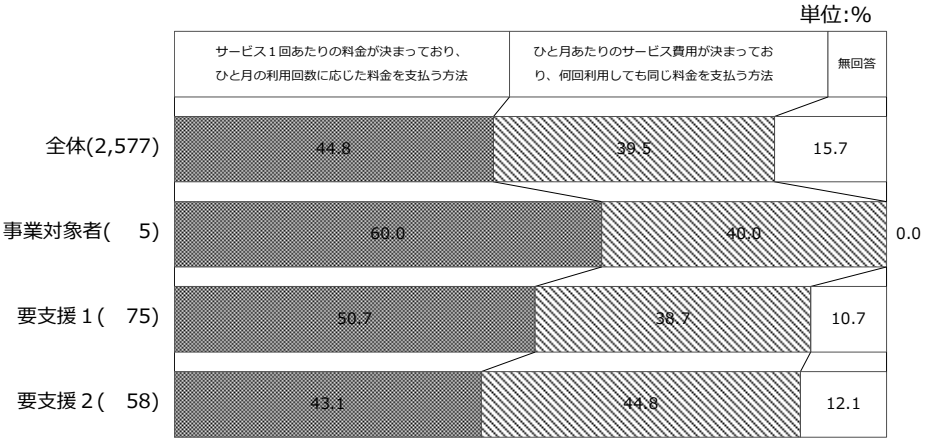
自分が調べられないネット情報や聞きたいことをなんでも相談できることが可能なケアマネージャーが必要だと思う。こちらに越してくる前の地方では非常に綿密に対処していただけるケアマネージャーだったので、その違いに驚いている。こちらが聞きたいことに対してその情報を検索し速やかに連絡してくれるというサービスは基本だと思う。その人の人間性もあると思うが。
ごみ収集
ごみ収集場所まで運んでくれるサービスを希望する。足腰の痛みで歩行が困難だとマンションだと玄関口が階上にあり道路際の収集場所はかなり大変。一軒家も段差や狭い庭先が多くかなり大変。 市の相談窓口の設置と生活支援、何でもお手伝い係りの設置。年齢とともに整理清掃が体力的にも苦手になりがちである。これが数年たちゴミや使用不用の品が乱雑に混ざり合えばゴミ屋敷になるのではないかと考える。わかっていても自身では難しい家の片付けを市で本気で取り組むのはいかがか。
入浴サービス
週２回くらい入浴サービスを願いたい。
施設関係
近隣に、誰でも行って何か（趣味など）ができる施設があるといい。（自由に出入り）元気な人も少し不自由な人も通える図書館や食堂等、ちょっとした運動スペースもあれば尚良い。
生活しやすい環境つくりを求める。利用できる施設が身近にあること。少人数で集まって楽しめる所が点在する方が行動の可能性を続けられる。医療施設、選挙の投票所、保健所も身近にあることを希望する。統廃合は不便を感じる。 歩道橋は車優先ではないか。役所が遠くて年とともに大変である。役所の窓口を身近に置いてほしい。大雪、自然現象への対応は行政の仕事。労働の場にもできるはずである。
必要とまではいかないが、施設の人 20～30 人くらいで季節のバス旅をし、気分転換するなどのイベントを 2～3 年に 1 回くらいはして欲しい。
グループホームのような小規模の施設が地域に数多くある方が良いと思う。
経済面
年金で暮らしていけるホームが必要だと思う。 リースが高すぎる。日用品からパジャマ、歯磨き、ティッシュ、タオルの果てまでリース代約月 50,000 円は高すぎる。どのような設定になっているのか。
サービスというより、介護を受ける年代になった時もっと安心して金銭的にも楽に暮らせるといいと思う。
その他
IT のサポート（ネット、携帯など）を希望する。
既に行われていることかも知れないが、認知症、高齢者、障がい者をそれぞれに括らず、生きづらいと思っている若い人も子供たちも含めて同じ空間にいられて各自が好きなことをやれる場所があるといいと思う。 まずは高齢者の施設と学童保育とが同じ施設にあると良いと思う。 四角い灰色の建物ではなく明るい色のきれいな建物、又は民家や校舎など小さいころから慣れ親しんだ建物を希望する。 認知症でも高齢者でも障がい者でも支援してもらうだけでなく自分が人の役に立てている、喜ばれているという実感を持てるような役割があったら嬉しい。
今の所自分のことは自分でできるし、外出にしても心配ないので具体的にこのサービスが必要だとまだ言えない。
介護保険サービスについて具体的にわからないためイメージできない。
正直なところ自分のこれから先のことはわからない状態である。介護を必要としていらっしゃる方々から広く意見や要望を拾い上げて、よりよいものにしていただくことをお願いしたい。

（7）介護サービス料金支払方法

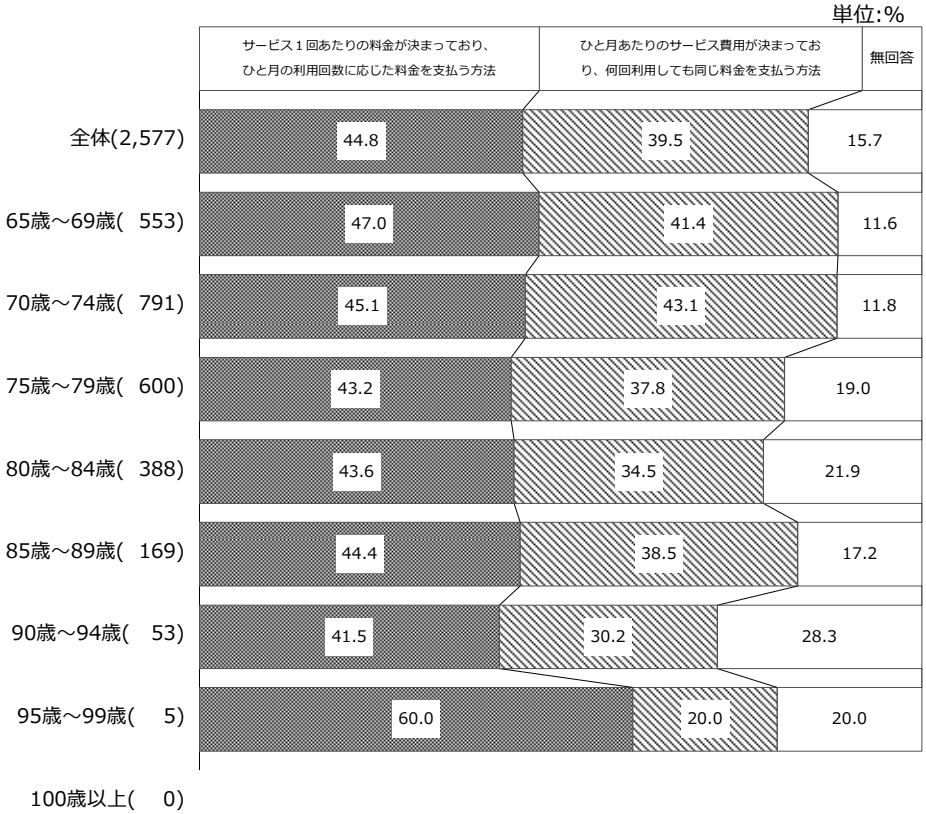
あなたは、介護サービスの料金を支払うとき、次のどの方法が望ましいと考えますか
（○は１つ）

「サービス１回あたりの料金が決まっており、ひと月の利用回数に応じた料金を支払う方法」は44.8%、「ひと月あたりのサービス費用が決まっており、何回利用しても同じ料金を支払う方法」は39.5%となっています。

要支援度等でみてみると、「ひと月あたりのサービス費用が決まっており、何回利用しても同じ料金を支払う方法」の比率は「事業対象者」が最も高く、「要支援１」が続いています。

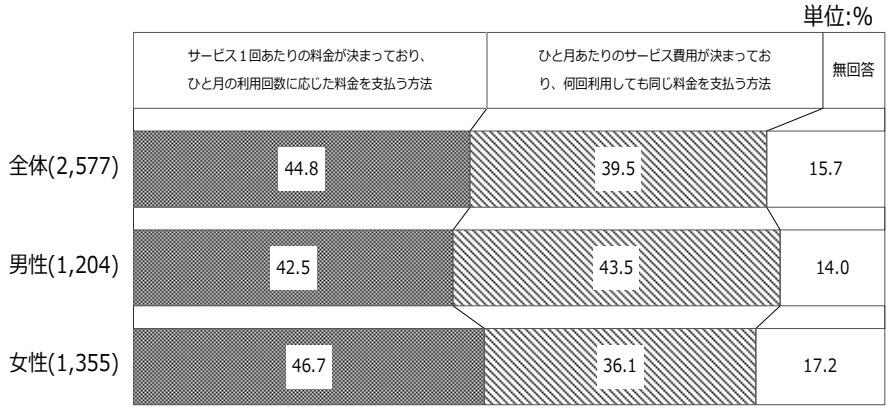


年齢別では、「ひと月あたりのサービス費用が決まっており、何回利用しても同じ料金を支払う方法」の比率は年齢が上がるにしたがい高くなる傾向にあります。



男女別にみると、「サービス１回あたりの料金が決まっており、ひと月の利用回数に応じた料金を支払う方法」の比率は「女性」が「男性」よりも上回っています。

単位:%



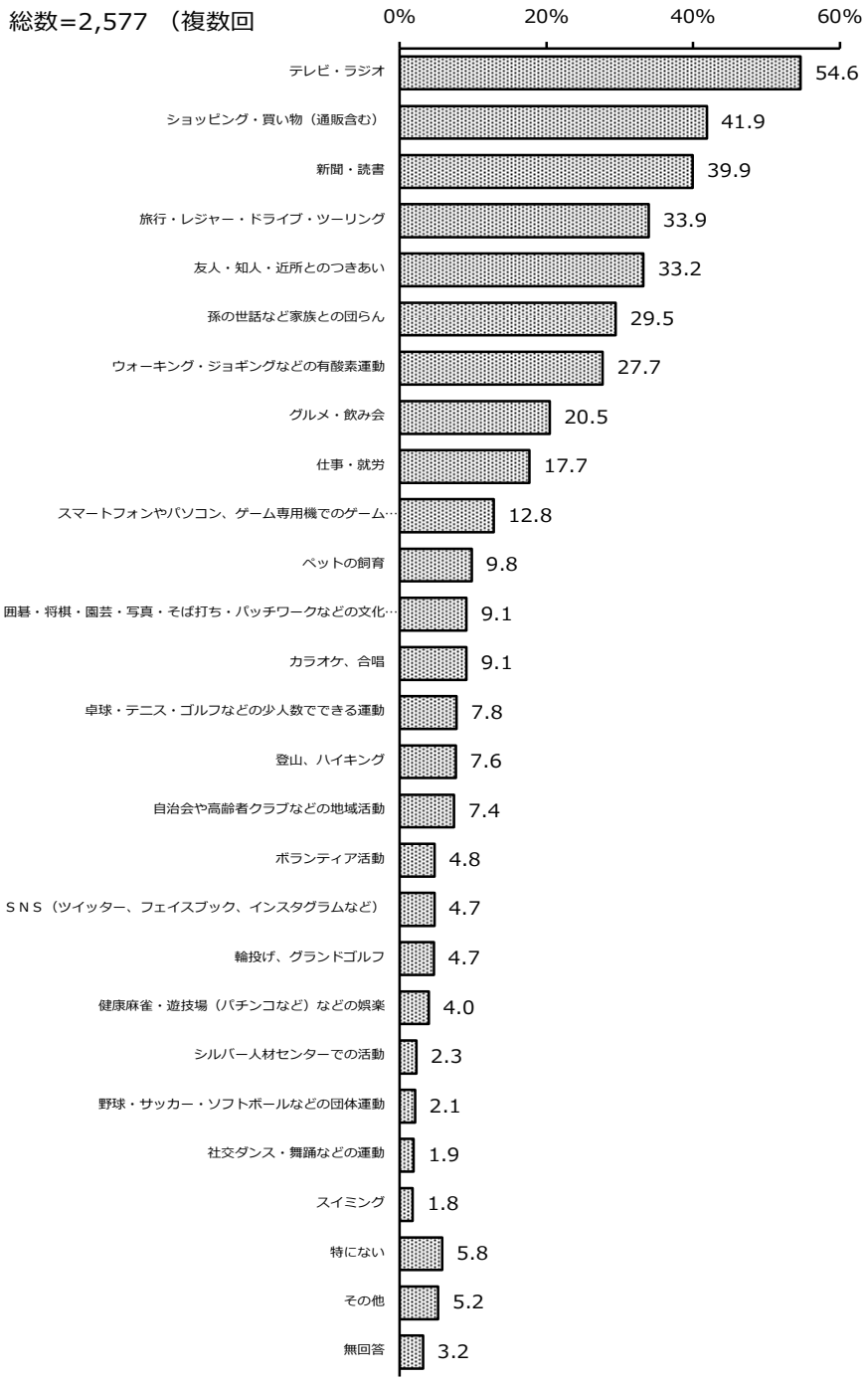
10 生きがいや充実感、週１回以上の活動状況について

（1）どのようなことに充実感や生きがいを感じるか

あなたは、現在、どのようなことに充実感や生きがいを感じていますか
(あてはまるものすべてに○)

「テレビ・ラジオ」が 54.6%で最も多く、「ショッピング・買い物（通販含む)」（41.9%)、「新聞・読書」（39.9%)、「旅行・レジャー・ドライブ・ツーリング」（33.9%）が続きます。

前期調査と比較すると、「新聞・読書」が２位から３位に下がっています。



これを年齢階層別にみると、「ショッピング・買い物（通販含む）」「旅行・レジャー・ドライブ・ツーリング」「孫の世話など家族との団らん」「ウォーキング・ジョギングなどの有酸素運動」などで、年齢が上がるにしたがって回答の割合が低くなる傾向にあります。

		全体	孫の世話など家族との団らん	旅行・レジャー・ドライブ・ツーリング	グルメ・飲み会	テレビ・ラジオ	新聞・読書	SNS（ツイッター、フェイスブック、インスタグラムなど）	スマートフォンやパソコン、ゲーム専用機でのゲーム（ネットワークを使用するものを含む）	ショッピング・買い物（通販含む）	自治会や高齢者クラブなどの地域活動	囲碁・将棋・園芸・写真・そば打ち・パッチワークなどの文化的な活動	ウォーキング・ジョギングなどの有酸素運動	登山、ハイキング	スイミング	カラオケ、合唱	輪投げ、グランドゴルフ	社交ダンス・舞踊などの運動	野球・サッカー・ソフトボールなどの団体運動	卓球・テニス・ゴルフなどの少人数でできる運動	健康麻雀・遊技場（パチンコなど）などの娯楽	ペットの飼育	ボランティア活動	仕事・就労	シルバー人材センターでの活動	友人・知人・近所とのつきあい	特にない	その他	無回答
	全体	2,577	29.5	33.9	20.5	54.6	39.9	4.7	12.8	41.9	7.4	9.1	27.7	7.6	1.8	9.1	4.7	1.9	2.1	7.8	4.0	9.8	4.8	17.7	2.3	33.2	5.8	5.2	3.2
年齢	65歳～69歳	553	35.8	46.3	31.1	53.9	33.8	9.6	19.5	49.0	5.1	9.0	28.8	10.1	1.6	8.3	0.9	1.8	3.1	8.7	4.0	15.0	5.4	33.3	2.2	31.3	3.1	5.6	2.2
	70歳～74歳	791	31.7	42.0	23.5	52.3	35.3	5.6	13.1	44.1	6.3	8.7	34.1	9.7	2.5	9.6	2.3	1.5	2.4	9.6	4.4	10.5	5.4	21.5	4.0	32.5	6.3	5.2	2.7
	75歳～79歳	600	28.7	27.3	14.8	55.7	45.5	2.5	11.8	39.3	8.2	9.2	27.0	6.8	1.8	8.0	6.2	2.7	1.7	7.5	4.2	7.7	4.8	10.8	1.7	34.2	6.2	4.2	3.2
	80歳～84歳	388	24.7	23.2	13.1	58.5	44.3	2.1	9.0	38.1	10.1	9.3	22.7	3.4	1.0	10.6	8.5	1.8	1.5	5.9	3.6	6.7	4.1	6.2	0.3	35.3	7.0	3.1	4.1
	85歳～89歳	169	14.8	13.0	11.8	55.6	50.3	0.6	5.9	32.5	11.2	11.8	13.6	5.3	1.2	10.7	11.8	2.4	-	4.1	2.4	5.3	2.4	5.9	1.8	37.3	6.5	10.7	4.1
	90歳～94歳	53	18.9	7.5	7.5	47.2	37.7	-	-	22.6	7.5	5.7	3.8	1.9	-	7.5	11.3	-	1.9	1.9	-	5.7	-	1.9	-	28.3	9.4	13.2	9.4
	95歳～99歳	5	20.0	-	-	60.0	40.0	-	-	20.0	-	20.0	20.0	-	-	-	-	-	-	-	20.0	20.0	-	-	-	20.0	20.0	-	20.0
	100歳以上	-	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	-	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	-	*
	無回答	18	33.3	33.3	27.8	72.2	61.1	5.6	11.1	38.9	11.1	5.6	44.4	-	-	11.1	5.6	-	5.6	-	5.6	11.1	5.6	5.6	-	27.8	5.6	5.6	5.6

地区別にみると、「第１地区」では「新聞・読書」が第２位、「ショッピング・買い物(通販含む)」が第３位と、他の地区と比べて順位が入れ替わっています。

		全体	孫の世話など家族との団らん	旅行・レジャー・ドライブ・ツーリング	グルメ・飲み会	テレビ・ラジオ	新聞・読書	SNS（ツイッター、フェイスブック、インスタグラムなど）	スマートフォンやパソコン、ゲーム専用機でのゲーム（ネットワークを使用するものを含む）	ショッピング・買い物（通販含む）	自治会や高齢者クラブなどの地域活動	囲碁・将棋・園芸・写真・そば打ち・パッチワークなどの文化的な活動	ウォーキング・ジョギングなどの有酸素運動	登山、ハイキング	スイミング	カラオケ、合唱	輪投げ、グランドゴルフ	社交ダンス・舞踊などの運動	野球・サッカー・ソフトボールなどの団体運動	卓球・テニス・ゴルフなどの少人数でできる運動	健康麻雀・遊技場（パチンコなど）などの娯楽	ペットの飼育	ボランティア活動	仕事・就労	シルバー人材センターでの活動	友人・知人・近所とのつきあい	特にない	その他	無回答
	全体	2,577	29.5	33.9	20.5	54.6	39.9	4.7	12.8	41.9	7.4	9.1	27.7	7.6	1.8	9.1	4.7	1.9	2.1	7.8	4.0	9.8	4.8	17.7	2.3	33.2	5.8	5.2	3.2
居住地区	第１地区	556	27.0	34.5	20.7	53.2	43.7	5.8	13.7	38.7	9.7	12.1	27.7	9.2	2.3	10.4	6.8	2.5	1.4	7.6	3.6	8.1	4.5	17.8	2.0	30.4	6.7	6.3	2.9
	第２地区	1,035	30.0	34.2	20.2	54.9	37.7	5.2	13.1	43.2	7.6	9.2	26.3	7.1	1.8	9.3	4.5	2.0	1.6	7.8	4.5	9.9	4.9	18.6	2.2	36.0	4.8	4.6	3.9
	第３地区	968	30.2	33.3	20.5	54.9	39.8	3.6	12.0	42.4	5.8	7.4	28.8	7.4	1.4	8.2	3.5	1.4	2.9	8.0	3.5	10.7	4.8	16.8	2.5	31.9	6.3	5.3	2.6
	無回答	18	33.3	33.3	27.8	72.2	61.1	5.6	11.1	38.9	11.1	5.6	44.4	-	-	11.1	5.6	-	5.6	-	5.6	11.1	5.6	5.6	-	27.8	5.6	5.6	5.6

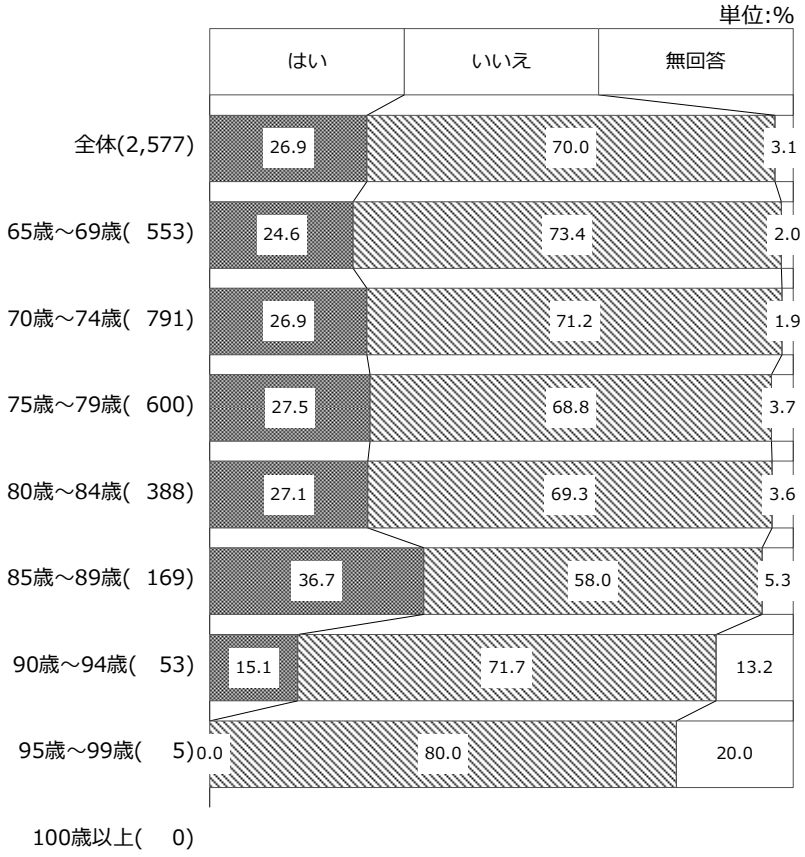
（2-1）所属する団体について

あなたは、週に１回位で集まるような団体、サークル、クラブなど（高齢者だけが所属しているかどうかに限りません）に所属していますか

「いいえ」は 70.0%、「はい」は 26.9%となっています。

前期調査と比較すると、「いいえ」の比率が上がっています。

これを年齢階層別にみると、「85 歳～89 歳」で「はい」と回答した人の割合が特に高くなっています。



地区別では、「はい(団体、サークル、クラブなどに所属している)」の割合は「第１地区」で最も高く、次いで「第２地区」「第３地区」となっています。

		全体	はい	いいえ	無回答
全体		2,577	26.9	70.0	3.1
居住地区	第１地区	556	30.9	66.0	3.1
	第２地区	1,035	27.1	69.9	3.1
	第３地区	968	24.5	72.4	3.1
	無回答	18	22.2	72.2	5.6

（2-2） 団体・活動の種類

【上の設問で「１．はい」とお答えした方のみ】
（２－２）どんな団体、活動ですか(あてはまるものすべてに○)

「はい」「運動や体操の仲間」が 45.9%で最も多く、「趣味の集まり」（32.0%）、「高齢者クラブ」（18.3%）、「自治会」（17.9%）が続きます。

前期調査と比較すると、「カラオケ・合唱グループ」が３位から５位に下がっています。

これを年齢階層別にみると、年齢が上がるにしたがい「運動や体操の仲間」の比率が下がり、「高齢者クラブ」「自治会」の比率が上がる傾向にあります。

		全体	自治会	高齢者クラブ	運動や体操の仲間	茶飲み仲間	カラオケ、合唱グループ	趣味の集まり	その他	無回答
	全体	693	17.9	18.3	45.9	9.5	10.7	32.0	14.1	0.6
年齢	65歳～69歳	136	16.9	3.7	54.4	7.4	7.4	25.7	17.6	0.7
	70歳～74歳	213	13.1	10.8	50.7	8.5	9.4	31.0	13.6	0.5
	75歳～79歳	165	20.6	22.4	44.8	11.5	9.7	37.0	13.3	－
	80歳～84歳	105	25.7	38.1	41.0	13.3	19.0	37.1	10.5	－
	85歳～89歳	62	12.9	29.0	25.8	6.5	12.9	27.4	19.4	3.2
	90歳～94歳	8	25.0	37.5	25.0	12.5	－	37.5	－	－
	95歳～99歳	－	*	*	*	*	*	*	*	*
	100歳以上	－	*	*	*	*	*	*	*	*
	無回答	4	50.0	25.0	25.0	－	－	25.0	－	－

これを地区別でみると、「自治会」では「第１地区」が、「運動や体操の仲間」では「第３地区」が、それぞれ比率が最も高く、それ以外では「第２地区」の比率が最も高くなっています。

		全体	自治会	高齢者クラブ	運動や体操の仲間	茶飲み仲間	カラオケ、合唱グループ	趣味の集まり	その他	無回答
	全体	693	17.9	18.3	45.9	9.5	10.7	32.0	14.1	0.6
居住地区	第１地区	172	20.9	16.3	42.4	9.3	8.1	33.1	16.3	1.2
	第２地区	280	17.1	21.1	46.1	10.7	13.2	33.6	9.6	-
	第３地区	237	16.0	16.5	48.5	8.4	9.7	29.5	18.1	0.8
	無回答	4	50.0	25.0	25.0	-	-	25.0	-	-

11 ボランティア活動について

（1-1）ボランティア活動への参加状況

あなたは、ここ最近、ボランティア活動をしたことがありますか

「いいえ」は 82.0%、「はい」は 14.1%となっています。

年齢階層別にみると、「はい」と回答した割合は「80 歳～84 歳」が最も高くなっていますが、全体的に大きな差はありません。

		全体	はい	いいえ	無回答
	全体	2,577	14.1	82.0	3.9
年齢	65歳～69歳	553	15.4	81.9	2.7
	70歳～74歳	791	14.0	84.1	1.9
	75歳～79歳	600	14.5	82.2	3.3
	80歳～84歳	388	15.5	78.4	6.2
	85歳～89歳	169	9.5	81.1	9.5
	90歳～94歳	53	3.8	83.0	13.2
	95歳～99歳	5	－	80.0	20.0
	100歳以上	－	*	*	*
	無回答	18	11.1	77.8	11.1

地区別でみると、「はい(最近ボランティア活動をしたことがある)」の比率が相対的に高いのは「第２地区」となっています。

		全体	はい	いいえ	無回答
	全体	2,577	14.1	82.0	3.9
居住地区	第１地区	556	14.6	81.7	3.8
	第２地区	1,035	15.2	81.1	3.8
	第３地区	968	12.7	83.4	3.9
	無回答	18	11.1	77.8	11.1

（1-2）活動の種類

【上の設問で「１．はい」を選んだ方のみ】
どんな活動ですか(あてはまるものすべてに○)

「道路・河川・公園などの清掃活動」が 38.3%で最も多く、「見守り活動」（19.3%）、「高齢者や障害者に対するボランティア活動」（15.7%）、「子供や青少年に対するボランティア活動」（13.8%）が続きます。

年齢階層別にみると、「道路・河川・公園などの清掃活動」では年齢が上がるにしたがい比率が高まる傾向にあります。

		全体	見守り活動	高齢者や障害者に対するボランティア活動	子供や青少年に対するボランティア活動	災害ボランティア活動	道路・河川・公園などの清掃活動	文化・芸術に関する活動（支援・指導含む）	スポーツに関する活動（支援・指導含む）	国際交流・国際協力活動	その他	無回答
	全体	363	19.3	15.7	13.8	2.8	38.3	9.6	11.3	3.0	17.9	1.1
年齢	65歳～69歳	85	12.9	18.8	21.2	5.9	29.4	10.6	15.3	3.5	16.5	-
	70歳～74歳	111	20.7	17.1	17.1	2.7	32.4	9.0	11.7	5.4	18.9	0.9
	75歳～79歳	87	19.5	9.2	8.0	2.3	46.0	6.9	10.3	-	24.1	1.1
	80歳～84歳	60	25.0	15.0	8.3	-	53.3	11.7	10.0	1.7	10.0	-
	85歳～89歳	16	6.3	25.0	-	-	31.3	12.5	-	6.3	18.8	12.5
	90歳～94歳	2	50.0	-	-	-	-	50.0	-	-	-	-
	95歳～99歳	-	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
	100歳以上	-	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
	無回答	2	100.0	50.0	50.0	-	50.0	-	-	-	-	-

地区別にみると、「第１地区」では「文化・芸術に関する活動(支援・指導含む)」が、「第３地区」では「道路・河川・公園などの清掃活動」「見守り活動」「高齢者や障害者に対するボランティア活動」が、他の地区と比較して高くなっています。

		全体	見守り活動	高齢者や障害者に対するボランティア活動	子供や青少年に対するボランティア活動	災害ボランティア活動	道路・河川・公園などの清掃活動	文化・芸術に関する活動（支援・指導含む）	スポーツに関する活動（支援・指導含む）	国際交流・国際協力活動	その他	無回答
	全体	363	19.3	15.7	13.8	2.8	38.3	9.6	11.3	3.0	17.9	1.1
居住地区	第１地区	81	17.3	17.3	14.8	4.9	33.3	17.3	13.6	3.7	17.3	-
	第２地区	157	18.5	12.7	14.0	1.3	38.2	7.6	8.3	3.8	19.1	0.6
	第３地区	123	20.3	17.9	12.2	3.3	41.5	7.3	13.8	1.6	17.1	2.4
	無回答	2	100.0	50.0	50.0	-	50.0	-	-	-	-	-

（1-3）活動を行う際に望むこと

【上の設問で「1．はい」を選んだ方のみ】
（1－3）あなたがボランティア活動を行う際に望むことは何ですか
(あてはまるものすべてに○)

「人との交流」が 68.6%で最も多く、「生きがい」（44.1%）、「健康づくり」（38.3%）、「報酬」（5.2%）が続きます。

年齢階層別にみると、年齢階層が上がるにしたがい、「人との交流」の比率は下がり、「健康づくり」の比率は上がる傾向にあります。

		全体	生きがい	報酬	健康づくり	人との交流	その他	無回答
	全体	363	44.1	5.2	38.3	68.6	9.4	7.4
年齢	65歳～69歳	85	45.9	8.2	23.5	74.1	11.8	7.1
	70歳～74歳	111	40.5	4.5	38.7	70.3	9.9	3.6
	75歳～79歳	87	44.8	4.6	44.8	65.5	3.4	10.3
	80歳～84歳	60	48.3	1.7	53.3	66.7	10.0	10.0
	85歳～89歳	16	31.3	6.3	25.0	50.0	25.0	12.5
	90歳～94歳	2	100.0	50.0	－	100.0	－	－
	95歳～99歳	－	*	*	*	*	*	*
	100歳以上	－	*	*	*	*	*	*
	無回答	2	50.0	－	50.0	50.0	－	－

これを地区別でみると、「人との交流」では「第１地区」が、「生きがい」では「第２地区」が、「健康づくり」では「第３地区」の比率が最も高くなっています。

		全体	生きがい	報酬	健康づくり	人との交流	その他	無回答
	全体	363	44.1	5.2	38.3	68.6	9.4	7.4
居住地区	第１地区	81	40.7	3.7	40.7	72.8	9.9	6.2
	第２地区	157	45.9	5.1	31.8	66.2	8.9	6.4
	第３地区	123	43.9	6.5	44.7	69.1	9.8	9.8
	無回答	2	50.0	-	50.0	50.0	-	-

12 介護ボランティア制度について

（1）ボランティアポイントの使い道

市では、高齢者へのボランティア活動を行った場合、買い物などに利用できるポイントが得られる登録制の介護ボランティア制度（※）導入を検討しています。

※介護ボランティア制度とは、介護支援に関わるボランティア活動（高齢者の話し相手や、見守り 活動、外出の付き添い、施設での軽作業等）を行った高齢者に対して、活動実績に応じてお金に変えることが可能なポイントが与えられる制度で、施設の利用券や買い物などに利用できるものです。

地域に貢献することで喜びを感じながら、活動される方ご自身の健康維持にもつながります。活動内容や、ポイントで何が可能となるかは、実施している自治体によって様々です。

ボランティア活動によって得られるポイントについて、あなたはどのような使いみちがあったら良いと思いますか（あてはまるものすべてに○）

「商店での買い物の割引き」が 49.0%で最も多く、「市税や介護保険料等の支払い」（28.0%）、「現金への換金」（26.1%）、「施設利用料の割引き」（20.6%）が続きます。

年齢階層別にみると、全体的な傾向には差がありませんが、「65 歳～69 歳」では「電子マネーへチャージ」と回答した割合が特に高くなっています。

		全体	商店での買い物の割引き	施設利用料の割引き	市税や介護保険料等の支払い	現金への換金	ギフトカード等の金券と交換	電子マネーへチャージ	その他	無回答
	全体	2,577	49.0	20.6	28.0	26.1	15.4	14.2	3.3	19.2
年齢	65歳～69歳	553	51.9	25.5	39.4	37.8	21.0	28.2	2.7	8.9
	70歳～74歳	791	50.1	23.0	30.2	29.0	17.1	16.2	3.3	13.3
	75歳～79歳	600	50.5	18.8	25.5	22.7	12.3	8.2	3.2	22.8
	80歳～84歳	388	45.9	15.2	19.8	16.2	12.1	5.2	3.4	31.2
	85歳～89歳	169	43.2	15.4	13.6	13.6	8.3	4.7	4.7	32.5
	90歳～94歳	53	34.0	13.2	15.1	15.1	13.2	3.8	1.9	43.4
	95歳～99歳	5	－	－	20.0	20.0	－	－	20.0	40.0
	100歳以上	－	*	*	*	*	*	*	*	*
	無回答	18	38.9	16.7	16.7	16.7	22.2	11.1	16.7	22.2

地区別では、「第２地区」が若干高い傾向がありますが、全体と比較して大きな差は見られません。

		全体	商店での買い物の割引き	施設利用料の割引き	市税や介護保険料等の支払い	現金への換金	ギフトカード等の金券と交換	電子マネーへチャージ	その他	無回答
全体		2,577	49.0	20.6	28.0	26.1	15.4	14.2	3.3	19.2
居住地区	第１地区	556	47.3	19.8	29.0	26.1	16.4	15.1	3.1	20.9
	第２地区	1,035	50.1	21.6	29.0	27.4	14.6	15.4	2.8	17.5
	第３地区	968	48.9	20.0	26.7	24.8	15.6	12.4	3.8	20.1
	無回答	18	38.9	16.7	16.7	16.7	22.2	11.1	16.7	22.2

（2-1）介護ボランティア活動・利用意向

あなたは、介護ボランティアとして登録して活動してみたい、またはボランティアによるサービスを利用してみたいですか（あてはまるものに○）

「サービスは利用してみてもよいが、ボランティア活動はやりたくない」が 11.5%で最も多く、「(制度の担い手として）ボランティア活動をやってみてもよい」（10.3%)、「(受け手として）ボランティアによるサービスを利用してみてもよい」（6.7%)、「ボランティア活動はやってみてもよいが、サービスは利用したくない」（3.9%）が続きます。

年齢階層別にみると、年齢が低いほど「(制度の担い手として)ボランティア活動を積極的にやってみたい」「(制度の担い手として)ボランティア活動をやってみてもよい」と回答した割合が高くなっています。また、90 歳以上では、「いずれも利用したくない」と回答した割合が高くなっています。

		全体	(制度の担い手として）ボランティア活動を積極的にやってみたい	(制度の担い手として）ボランティア活動をやってみてもよい	(受け手として）ボランティアによるサービスを積極的に利用したい	(受け手として）ボランティアによるサービスを利用してみてもよい	ボランティア活動はやってみてもよいが、サービスは利用したくない	サービスは利用してみてもよいが、ボランティア活動はやりたくない	いずれも利用したくない	無回答
	全体	2,577	0.9	10.3	0.9	6.7	3.9	11.5	38.9	26.9
年齢	65歳～69歳	553	0.9	16.8	0.7	5.8	4.7	12.3	38.5	20.3
	70歳～74歳	791	0.9	12.4	0.6	6.8	4.4	11.1	39.2	24.5
	75歳～79歳	600	0.8	8.5	1.2	6.5	5.3	11.3	37.8	28.5
	80歳～84歳	388	0.8	4.4	1.3	7.2	1.3	10.1	39.9	35.1
	85歳～89歳	169	1.2	2.4	1.2	10.1	1.2	16.0	37.3	30.8
	90歳～94歳	53	－	－	－	3.8	－	7.5	47.2	41.5
	95歳～99歳	5	－	－	－	－	－	20.0	60.0	20.0
	100歳以上	－	*	*	*	*	*	*	*	*
	無回答	18	－	16.7	－	－	5.6	11.1	38.9	27.8

地区別でみると、「（制度の担い手として）ボランティア活動を積極的にやってみたい」「（制度の担い手として）ボランティア活動をやってみてもよい」を合わせた比率では、「第１地区」の 12.8%が最も多く、「第２地区」「第３地区」の順となっています。

「（受け手として）ボランティアによるサービスを積極的に利用したい」「（受け手として）ボランティアによるサービスを利用してみてもよい」を合わせた比率では、「第２地区」の 7.9%が最も多く、「第１地区」「第３地区」の順となっています。

		全体	（制度の担い手として）ボランティア活動を積極的にやってみたい	（制度の担い手として）ボランティア活動をやってみてもよい	（受け手として）ボランティアによるサービスを積極的に利用したい	（受け手として）ボランティアによるサービスを利用してみてもよい	ボランティア活動はやってみてもよいが、サービスは利用したくない	サービスは利用してみてもよいが、ボランティア活動はやりたくない	いずれも利用したくない	無回答
全体		2,577	0.9	10.3	0.9	6.7	3.9	11.5	38.9	26.9
居住地区	第１地区	556	1.6	11.2	1.3	6.3	3.1	10.1	38.3	28.2
	第２地区	1,035	0.5	12.1	1.1	6.8	4.0	11.6	37.3	26.8
	第３地区	968	0.8	7.9	0.5	6.9	4.3	12.3	41.0	26.2
	無回答	18	-	16.7	-	-	5.6	11.1	38.9	27.8

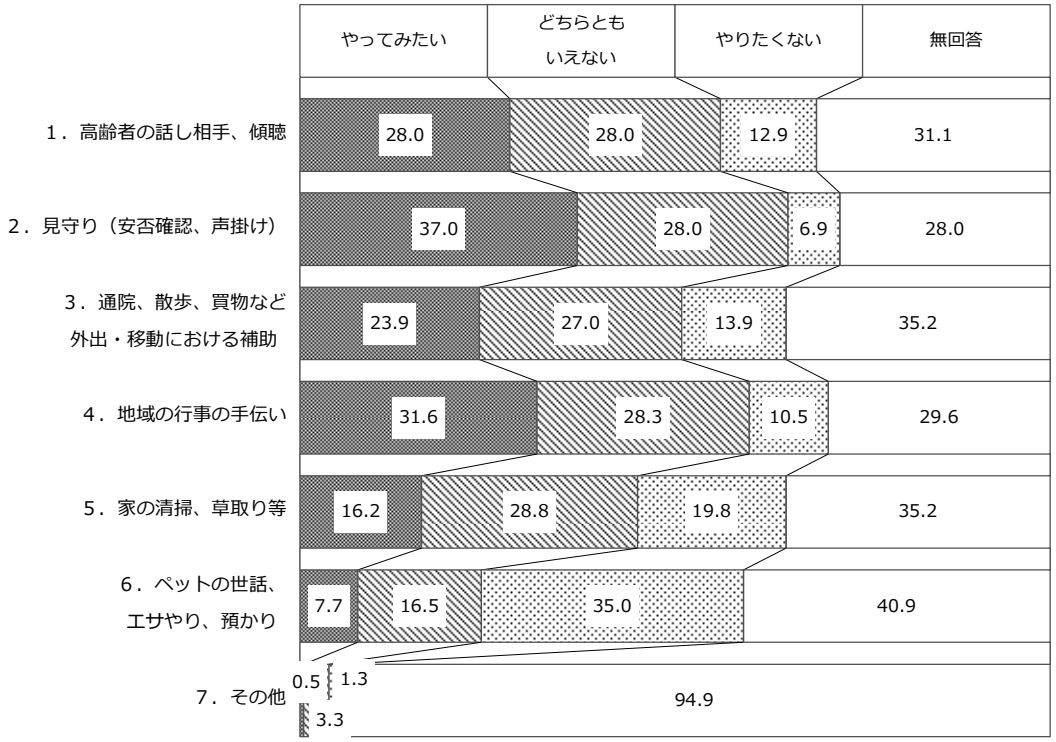
（2-2） やってみたい介護ボランティアの内容

「（制度の担い手として）ボランティア活動を積極的にやってみたい」、「（制度の担い手として）ボランティア活動をやってみてもよい」、「ボランティア活動はやってみてもよいが、サービスは利用したくない」を選んだ方にお聞きします。やってみたい介護ボランティアの内容はありますか（あてはまるものに○）

【在宅の高齢者へのボランティア活動】

「やってみたい」では「見守り（安否確認、声掛け）」「地域の行事の手伝い」が 30%を超えて多く、「やりたくない」では「ペットの世話、エサやり、預かり」（35.0%）、「家の清掃、草取り等」（19.8%）が多くなっています。

総数=389　　単位:%



1．高齢者の話し相手、傾聴

年齢階層別にみると、「75 歳～79 歳」、「80 歳～84 歳」で「やってみたい」と回答した割合が高くなっています。

		全体	やってみたい	どちらともいえない	やりたくない	無回答
	全体	389	28.0	28.0	12.9	31.1
年齢	65歳～69歳	124	28.2	33.9	16.9	21.0
	70歳～74歳	140	27.9	30.7	11.4	30.0
	75歳～79歳	88	31.8	18.2	9.1	40.9
	80歳～84歳	25	24.0	8.0	20.0	48.0
	85歳～89歳	8	12.5	25.0	－	62.5
	90歳～94歳	－	＊	＊	＊	＊
	95歳～99歳	－	＊	＊	＊	＊
	100歳以上	－	＊	＊	＊	＊
	無回答	4	－	100.0	－	－

地区別でみると、「第１地区」で「やってみたい」の比率が最も高くなっています。

		全体	やってみたい	どちらともいえない	やりたくない	無回答
	全体	389	28.0	28.0	12.9	31.1
居住地区	第１地区	88	39.8	27.3	11.4	21.6
	第２地区	171	24.0	25.7	14.6	35.7
	第３地区	126	26.2	29.4	11.9	32.5
	無回答	4	-	100.0	-	-

2．見守り（安否確認、声掛け）

年齢階層別にみると、全体的に「やってみたい」と回答した割合が高くなっています。

		全体	やってみたい	どちらともいえない	やりたくない	無回答
	全体	389	37.0	28.0	6.9	28.0
年齢	65歳～69歳	124	40.3	34.7	8.9	16.1
	70歳～74歳	140	37.9	26.4	5.0	30.7
	75歳～79歳	88	34.1	23.9	6.8	35.2
	80歳～84歳	25	36.0	24.0	8.0	32.0
	85歳～89歳	8	－	－	12.5	87.5
	90歳～94歳	－	*	*	*	*
	95歳～99歳	－	*	*	*	*
	100歳以上	－	*	*	*	*
	無回答	4	50.0	50.0	－	－

地区別でみると、「第１地区」で「やってみたい」の比率が最も高くなっています。

		全体	やってみたい	どちらともいえない	やりたくない	無回答
	全体	389	37.0	28.0	6.9	28.0
居住地区	第１地区	88	43.2	21.6	9.1	26.1
	第２地区	171	33.9	29.2	6.4	30.4
	第３地区	126	36.5	30.2	6.3	27.0
	無回答	4	50.0	50.0	-	-

３．通院、散歩、買物など外出・移動における補助

年齢階層別にみると、年齢が上がるにしたがい、「やってみたい」と回答した割合が低くなっています。

		全体	やってみたい	どちらともいえない	やりたくない	無回答
	全体	389	23.9	27.0	13.9	35.2
年齢	65歳～69歳	124	27.4	35.5	18.5	18.5
	70歳～74歳	140	27.1	25.7	10.0	37.1
	75歳～79歳	88	18.2	19.3	14.8	47.7
	80歳～84歳	25	16.0	20.0	12.0	52.0
	85歳～89歳	8	－	－	12.5	87.5
	90歳～94歳	－	*	*	*	*
	95歳～99歳	－	*	*	*	*
	100歳以上	－	*	*	*	*
	無回答	4	25.0	75.0	－	－

地区別でみると、「第１地区」で「やってみたい」の比率が最も高くなっています。

		全体	やってみたい	どちらともいえない	やりたくない	無回答
	全体	389	23.9	27.0	13.9	35.2
居住地区	第１地区	88	28.4	27.3	13.6	30.7
	第２地区	171	24.6	26.3	13.5	35.7
	第３地区	126	19.8	26.2	15.1	38.9
	無回答	4	25.0	75.0	-	-

4．地域の行事の手伝い

年齢階層別にみると、年齢が上がるにしたがい、「やってみたい」と回答した割合が高くなる傾向にありますが、「65 歳～69 歳」は「どちらともいえない」が最も高くなっています。

		全体	やってみたい	どちらともいえない	やりたくない	無回答
	全体	389	31.6	28.3	10.5	29.6
年齢	65歳～69歳	124	29.8	36.3	13.7	20.2
	70歳～74歳	140	32.1	29.3	8.6	30.0
	75歳～79歳	88	33.0	18.2	11.4	37.5
	80歳～84歳	25	32.0	20.0	4.0	44.0
	85歳～89歳	8	37.5	－	12.5	50.0
	90歳～94歳	－	＊	＊	＊	＊
	95歳～99歳	－	＊	＊	＊	＊
	100歳以上	－	＊	＊	＊	＊
	無回答	4	25.0	75.0	－	－

地区別でみると、「第１地区」で「やってみたい」の比率が最も高くなっています。

		全体	やってみたい	どちらともいえない	やりたくない	無回答
	全体	389	31.6	28.3	10.5	29.6
居住地区	第１地区	88	36.4	25.0	12.5	26.1
	第２地区	171	30.4	29.2	9.4	31.0
	第３地区	126	30.2	27.8	11.1	31.0
	無回答	4	25.0	75.0	-	-

5．家の清掃、草取り等

年齢階層別にみると、全体的に「やりたくない」が「やってみたい」を上回っています。

		全体	やってみたい	どちらともいえない	やりたくない	無回答
	全体	389	16.2	28.8	19.8	35.2
年齢	65歳～69歳	124	16.1	41.1	24.2	18.5
	70歳～74歳	140	15.7	25.7	16.4	42.1
	75歳～79歳	88	18.2	18.2	20.5	43.2
	80歳～84歳	25	8.0	32.0	12.0	48.0
	85歳～89歳	8	25.0	－	12.5	62.5
	90歳～94歳	－	＊	＊	＊	＊
	95歳～99歳	－	＊	＊	＊	＊
	100歳以上	－	＊	＊	＊	＊
	無回答	4	25.0	25.0	50.0	－

地区別でみると、「第２地区」で「やってみたい」の比率が最も高くなっています。

		全体	やってみたい	どちらともいえない	やりたくない	無回答
全体		389	16.2	28.8	19.8	35.2
居住地区	第１地区	88	13.6	25.0	26.1	35.2
	第２地区	171	18.7	30.4	15.2	35.7
	第３地区	126	14.3	29.4	20.6	35.7
	無回答	4	25.0	25.0	50.0	-

６．ペットの世話、エサやり、預かり

年齢階層別にみると、全体的に「やりたくない」が「やってみたい」「どちらともいえない」を上回っています。

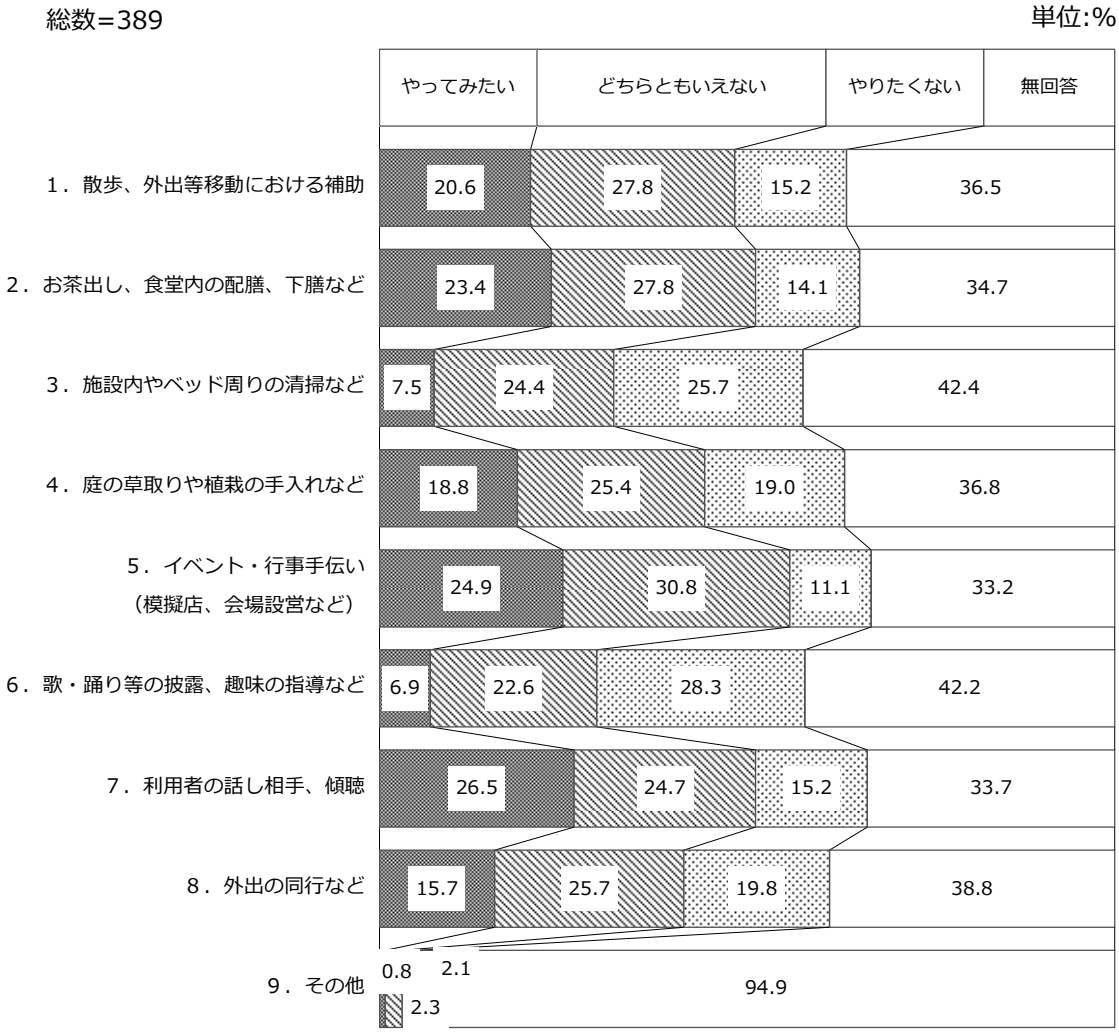
		全体	やってみたい	どちらともいえない	やりたくない	無回答
	全体	389	7.7	16.5	35.0	40.9
年齢	65歳～69歳	124	8.1	23.4	46.0	22.6
	70歳～74歳	140	10.0	16.4	29.3	44.3
	75歳～79歳	88	4.5	9.1	33.0	53.4
	80歳～84歳	25	4.0	12.0	24.0	60.0
	85歳～89歳	8	-	-	12.5	87.5
	90歳～94歳	-	*	*	*	*
	95歳～99歳	-	*	*	*	*
	100歳以上	-	*	*	*	*
	無回答	4	25.0	25.0	50.0	-

地区別でみると、「第１地区」で「やってみたい」の比率が最も高くなっています。

		全体	やってみたい	どちらともいえない	やりたくない	無回答
	全体	389	7.7	16.5	35.0	40.9
居住地区	第１地区	88	10.2	11.4	38.6	39.8
	第２地区	171	7.6	15.8	33.3	43.3
	第３地区	126	5.6	20.6	34.1	39.7
	無回答	4	25.0	25.0	50.0	-

【介護施設でのボランティア活動】

「やってみたい」では「利用者の話し相手、傾聴」（26.5%）、「イベント・行事手伝い（模擬店、会場設営など）」（24.9%）などが多く、「やりたくない」では「歌・踊り等の披露、趣味の指導など」（28.3%）、「施設内やベッド周りの清掃など」（25.7%）が多くなっています。



1．散歩、外出等移動における補助

年齢階層別にみると、「65 歳～69 歳」「70 歳～74 歳」では「どちらともいえない」の割合が、「75 歳～79 歳」「80 歳～84 歳」では「やってみたい」の割合が高くなっています。

		全体	やってみたい	どちらともいえない	やりたくない	無回答
	全体	389	20.6	27.8	15.2	36.5
年齢	65歳～69歳	124	22.6	41.1	21.0	15.3
	70歳～74歳	140	17.9	27.9	12.9	41.4
	75歳～79歳	88	21.6	14.8	12.5	51.1
	80歳～84歳	25	24.0	12.0	12.0	52.0
	85歳～89歳	8	12.5	－	－	87.5
	90歳～94歳	－	*	*	*	*
	95歳～99歳	－	*	*	*	*
	100歳以上	－	*	*	*	*
	無回答	4	25.0	50.0	25.0	－

地区別でみると、「第２地区」で「やってみたい」の比率が最も高くなっています。

		全体	やってみたい	どちらともいえない	やりたくない	無回答
全体		389	20.6	27.8	15.2	36.5
居住地区	第１地区	88	20.5	26.1	17.0	36.4
	第２地区	171	22.2	25.1	15.8	36.8
	第３地区	126	18.3	31.7	12.7	37.3
	無回答	4	25.0	50.0	25.0	-

2．お茶出し、食堂内の配膳、下膳など

年齢階層別にみると、年齢が低いほど「どちらともいえない」の割合が高くなっています。

		全体	やってみたい	どちらともいえない	やりたくない	無回答
	全体	389	23.4	27.8	14.1	34.7
年齢	65歳～69歳	124	29.0	40.3	16.1	14.5
	70歳～74歳	140	22.9	27.1	12.1	37.9
	75歳～79歳	88	18.2	18.2	13.6	50.0
	80歳～84歳	25	20.0	8.0	20.0	52.0
	85歳～89歳	8	12.5	-	-	87.5
	90歳～94歳	-	*	*	*	*
	95歳～99歳	-	*	*	*	*
	100歳以上	-	*	*	*	*
	無回答	4	25.0	50.0	25.0	-

地区別でみると、「第１地区」で「やってみたい」の比率が最も高くなっています。

		全体	やってみたい	どちらともいえない	やりたくない	無回答
	全体	389	23.4	27.8	14.1	34.7
居住地区	第１地区	88	23.9	21.6	19.3	35.2
	第２地区	171	22.8	26.9	15.2	35.1
	第３地区	126	23.8	32.5	8.7	34.9
	無回答	4	25.0	50.0	25.0	-

３．施設内やベッド周りの清掃など

年齢階層別にみると、年齢が低いほど「やりたくない」と回答した割合が高くなっています。

		全体	やってみたい	どちらともいえない	やりたくない	無回答
	全体	389	7.5	24.4	25.7	42.4
年齢	65歳～69歳	124	9.7	31.5	36.3	22.6
	70歳～74歳	140	7.9	22.1	24.3	45.7
	75歳～79歳	88	5.7	20.5	18.2	55.7
	80歳～84歳	25	4.0	16.0	16.0	64.0
	85歳～89歳	8	－	－	－	100.0
	90歳～94歳	－	＊	＊	＊	＊
	95歳～99歳	－	＊	＊	＊	＊
	100歳以上	－	＊	＊	＊	＊
	無回答	4	－	75.0	25.0	－

地区別でみると、「第３地区」で「やってみたい」の比率が最も高くなっています。

		全体	やってみたい	どちらともいえない	やりたくない	無回答
	全体	389	7.5	24.4	25.7	42.4
居住地区	第１地区	88	4.5	19.3	33.0	43.2
	第２地区	171	8.2	24.6	24.0	43.3
	第３地区	126	8.7	26.2	23.0	42.1
	無回答	4	-	75.0	25.0	-

4．庭の草取りや植栽の手入れなど

年齢階層別にみると、全体では「どちらともいえない」が最も高くなっていますが、「70 歳～74 歳」では「やりたくない」が高く、「75 歳～79 歳」では「やってみたい」「どちらともいえない」が同率となっている等、ばらつきが見られます。

		全体	やってみたい	どちらともいえない	やりたくない	無回答
全体		389	18.8	25.4	19.0	36.8
年齢	65歳～69歳	124	21.0	35.5	21.8	21.8
	70歳～74歳	140	16.4	19.3	21.4	42.9
	75歳～79歳	88	20.5	20.5	14.8	44.3
	80歳～84歳	25	8.0	36.0	12.0	44.0
	85歳～89歳	8	25.0	-	-	75.0
	90歳～94歳	-	*	*	*	*
	95歳～99歳	-	*	*	*	*
	100歳以上	-	*	*	*	*
	無回答	4	50.0	25.0	25.0	-

地区別でみると、「第３地区」で「やってみたい」の比率が最も高くなっています。

		全体	やってみたい	どちらともいえない	やりたくない	無回答
全体		389	18.8	25.4	19.0	36.8
居住地区	第１地区	88	17.0	14.8	28.4	39.8
	第２地区	171	18.1	25.7	16.4	39.8
	第３地区	126	19.8	32.5	15.9	31.7
	無回答	4	50.0	25.0	25.0	-

5．イベント・行事手伝い（模擬店、会場設営など

年齢階層別にみると、全体的に「どちらともいえない」が最も高くなっており、年齢が上がるほど「やってみたい」と回答した割合が低くなる傾向があります。

		全体	やってみたい	どちらともいえない	やりたくない	無回答
	全体	389	24.9	30.8	11.1	33.2
年齢	65歳～69歳	124	29.8	39.5	12.9	17.7
	70歳～74歳	140	23.6	30.7	10.0	35.7
	75歳～79歳	88	21.6	21.6	13.6	43.2
	80歳～84歳	25	16.0	28.0	4.0	52.0
	85歳～89歳	8	25.0	－	－	75.0
	90歳～94歳	－	*	*	*	*
	95歳～99歳	－	*	*	*	*
	100歳以上	－	*	*	*	*
	無回答	4	50.0	50.0	－	－

地区別でみると、「第３地区」で「やってみたい」の比率が最も高くなっています。

		全体	やってみたい	どちらともいえない	やりたくない	無回答
	全体	389	24.9	30.8	11.1	33.2
居住地区	第１地区	88	25.0	30.7	13.6	30.7
	第２地区	171	23.4	29.2	11.1	36.3
	第３地区	126	26.2	32.5	9.5	31.7
	無回答	4	50.0	50.0	-	-

6．歌・踊り等の披露、趣味の指導など

年齢階層別にみると、「65 歳～69 歳」では「どちらともいえない」が、それ以外の年齢層では「やりたくない」が最も高くなっています。

		全体	やってみたい	どちらともいえない	やりたくない	無回答
	全体	389	6.9	22.6	28.3	42.2
年齢	65歳～69歳	124	5.6	35.5	34.7	24.2
	70歳～74歳	140	7.9	17.9	28.6	45.7
	75歳～79歳	88	6.8	14.8	23.9	54.5
	80歳～84歳	25	8.0	12.0	20.0	60.0
	85歳～89歳	8	12.5	－	－	87.5
	90歳～94歳	－	*	*	*	*
	95歳～99歳	－	*	*	*	*
	100歳以上	－	*	*	*	*
	無回答	4	－	75.0	25.0	－

地区別でみると、「第１地区」で「やってみたい」の比率が最も高くなっています。

		全体	やってみたい	どちらともいえない	やりたくない	無回答
全体		389	6.9	22.6	28.3	42.2
居住地区	第１地区	88	9.1	20.5	28.4	42.0
	第２地区	171	6.4	20.5	29.8	43.3
	第３地区	126	6.3	25.4	26.2	42.1
	無回答	4	-	75.0	25.0	-

7．利用者の話し相手、傾聴

年齢階層別にみると、「75 歳～79 歳」「85 歳～89 歳」では「やってみたい」と回答した割合が最も高くなっています。

		全体	やってみたい	どちらともいえない	やりたくない	無回答
	全体	389	26.5	24.7	15.2	33.7
年齢	65歳～69歳	124	32.3	32.3	17.7	17.7
	70歳～74歳	140	24.3	24.3	15.7	35.7
	75歳～79歳	88	26.1	14.8	13.6	45.5
	80歳～84歳	25	16.0	16.0	12.0	56.0
	85歳～89歳	8	25.0	12.5	－	62.5
	90歳～94歳	－	*	*	*	*
	95歳～99歳	－	*	*	*	*
	100歳以上	－	*	*	*	*
	無回答	4	－	100.0	－	－

地区別でみると、「第１地区」で「やってみたい」の比率が最も高くなっています。

		全体	やってみたい	どちらともいえない	やりたくない	無回答
	全体	389	26.5	24.7	15.2	33.7
居住地区	第１地区	88	34.1	15.9	21.6	28.4
	第２地区	171	24.0	23.4	14.6	38.0
	第３地区	126	25.4	30.2	11.9	32.5
	無回答	4	-	100.0	-	-

8．外出の同行など

年齢階層別にみると、全体的に「どちらともいえない」と回答した割合が高くなっています。

		全体	やってみたい	どちらともいえない	やりたくない	無回答
	全体	389	15.7	25.7	19.8	38.8
年齢	65歳～69歳	124	19.4	33.1	27.4	20.2
	70歳～74歳	140	12.9	26.4	17.1	43.6
	75歳～79歳	88	14.8	17.0	17.0	51.1
	80歳～84歳	25	20.0	20.0	12.0	48.0
	85歳～89歳	8	－	－	－	100.0
	90歳～94歳	－	*	*	*	*
	95歳～99歳	－	*	*	*	*
	100歳以上	－	*	*	*	*
	無回答	4	25.0	50.0	25.0	－

地区別でみると、「第１地区」で「やってみたい」の比率が最も高くなっています。

		全体	やってみたい	どちらともいえない	やりたくない	無回答
	全体	389	15.7	25.7	19.8	38.8
居住地区	第１地区	88	22.7	25.0	18.2	34.1
	第２地区	171	14.0	23.4	20.5	42.1
	第３地区	126	12.7	28.6	19.8	38.9
	無回答	4	25.0	50.0	25.0	-

（2-3） ボランティアにやってもらいたいこと

「（受け手として）ボランティアによるサービスを積極的に利用したい」、「（受け手として）ボランティアによるサービスを利用してみてもよい」、「サービスは利用してみてもよいが、ボランティア活動はやりたくない」を選んだ方にお聞きします。ボランティアにやってもらいたいことはありますか(あてはまるものすべてに○)

「見守り（安否確認、声掛け）」が 33.1％で最も多く、「通院、散歩、買物など外出・移動における補助」（32.5％）、「庭の草取りや植栽の手入れなど」（25.2％）、「家の清掃」（18.3％）が続きます。

年齢階層別にみると、「見守り（安否確認、声掛け）」「話し相手」などで年齢が上がるにしたがい比率が高くなる傾向がみられる。

		全体	話し相手	見守り（安否確認、声掛け）	通院、散歩、買物など外出・移動における補助	地域の行事の手伝い	家の清掃	ペットの世話、エサやり、預かり	庭の草取りや植栽の手入れなど	趣味の指導など	その他	無回答
	全体	492	15.7	33.1	32.5	3.5	18.3	1.4	25.2	5.1	4.1	20.7
年齢	65歳～69歳	104	13.5	40.4	29.8	6.7	27.9	1.9	26.9	6.7	1.0	15.4
	70歳～74歳	147	18.4	34.7	37.4	0.7	17.0	2.0	21.1	6.8	4.8	19.7
	75歳～79歳	114	14.0	31.6	27.2	4.4	13.2	－	21.9	3.5	7.0	24.6
	80歳～84歳	72	12.5	15.3	37.5	1.4	20.8	－	33.3	4.2	2.8	25.0
	85歳～89歳	46	17.4	39.1	30.4	6.5	10.9	4.3	30.4	2.2	4.3	19.6
	90歳～94歳	6	33.3	50.0	33.3	－	16.7	－	33.3	－	－	16.7
	95歳～99歳	1	－	100.0	－	－	－	－	－	－	－	－
	100歳以上	－	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
	無回答	2	50.0	50.0	－	－	－	－	－	－	－	50.0

これを地区別でみると、「見守り（安否確認、声掛け）」では「第１地区」が、「通院、散歩、買物など外出・移動における補助」では「第３地区」が、それぞれ、比率が最も高くなっています。

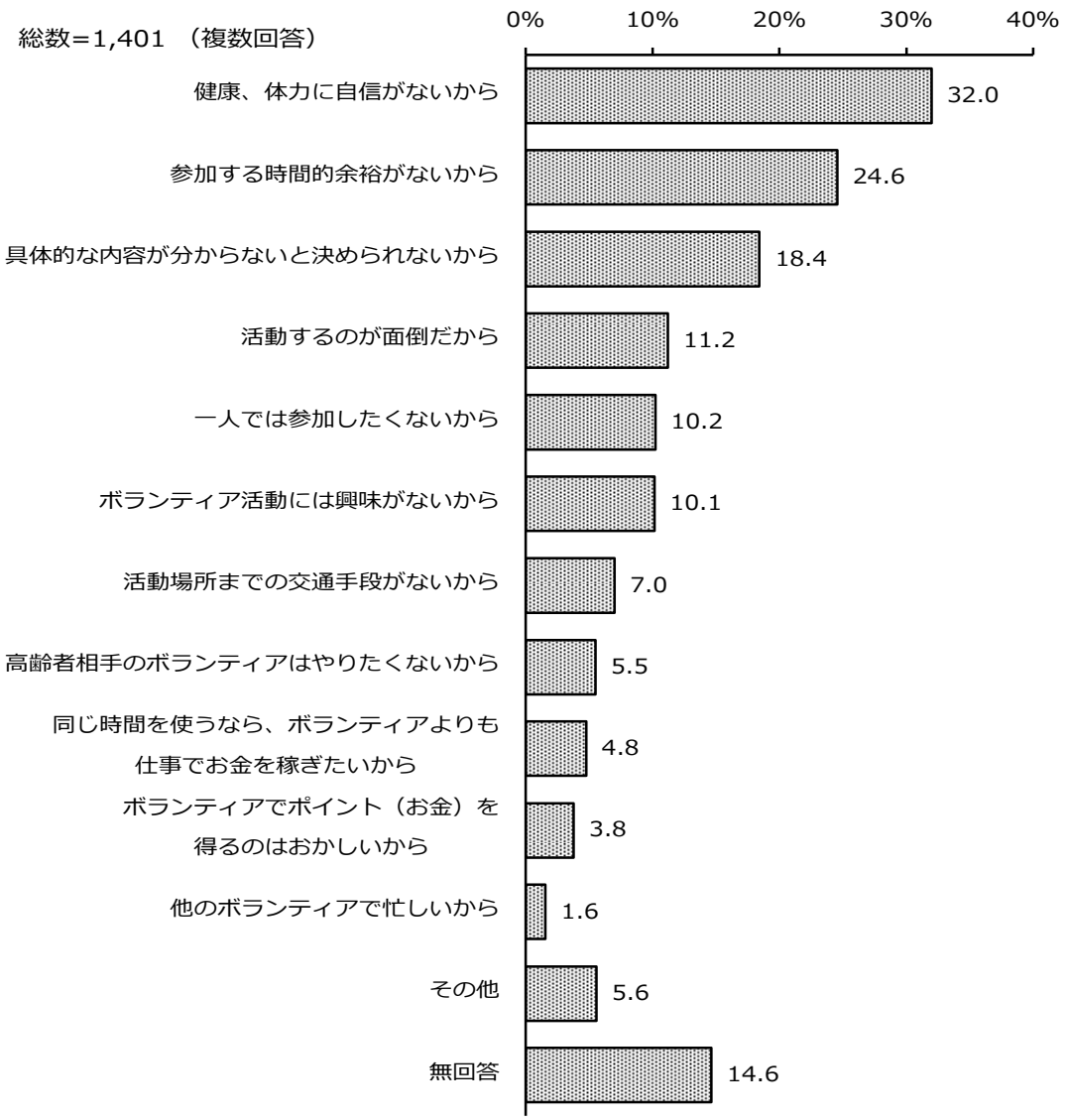
		全体	話し相手	見守り（安否確認、声掛け）	通院、散歩、買物など外出・移動における補助	地域の行事の手伝い	家の清掃	ペットの世話、エサやり、預かり	庭の草取りや植栽の手入れなど	趣味の指導など	その他	無回答
	全体	492	15.7	33.1	32.5	3.5	18.3	1.4	25.2	5.1	4.1	20.7
居住地区	第１地区	98	10.2	35.7	26.5	4.1	17.3	-	18.4	8.2	6.1	20.4
	第２地区	201	19.9	32.8	31.8	4.0	17.4	1.5	26.9	6.0	2.0	20.9
	第３地区	191	13.6	31.9	36.6	2.6	19.9	2.1	27.2	2.6	5.2	20.4
	無回答	2	50.0	50.0	-	-	-	-	-	-	-	50.0

（2-4） 活動したくない、または利用したくない理由

「ボランティア活動はやってみてもよいが、サービスは利用したくない」、「サービスは利用してみてもよいが、ボランティア活動はやりたくない」、「いずれも利用したくない」を選んだ方にお聞きします。活動したくない、または利用したくない理由は、次のうちどれですか
（○はそれぞれ３つまで）

【介護ボランティアの担い手として活動したくない理由】

「健康、体力に自信がないから」が 32.0％で最も多く、「参加する時間的余裕がないから」（24.6％）、「具体的な内容が分からないと決められないから」（18.4％）、「活動するのが面倒だから」（11.2％）が続きます。



年齢階層別にみると、年齢が上がるにしたがい「健康、体力に自信がないから」で比率が高くなり、「参加する時間的余裕がないから」で比率が低くなる傾向があります。

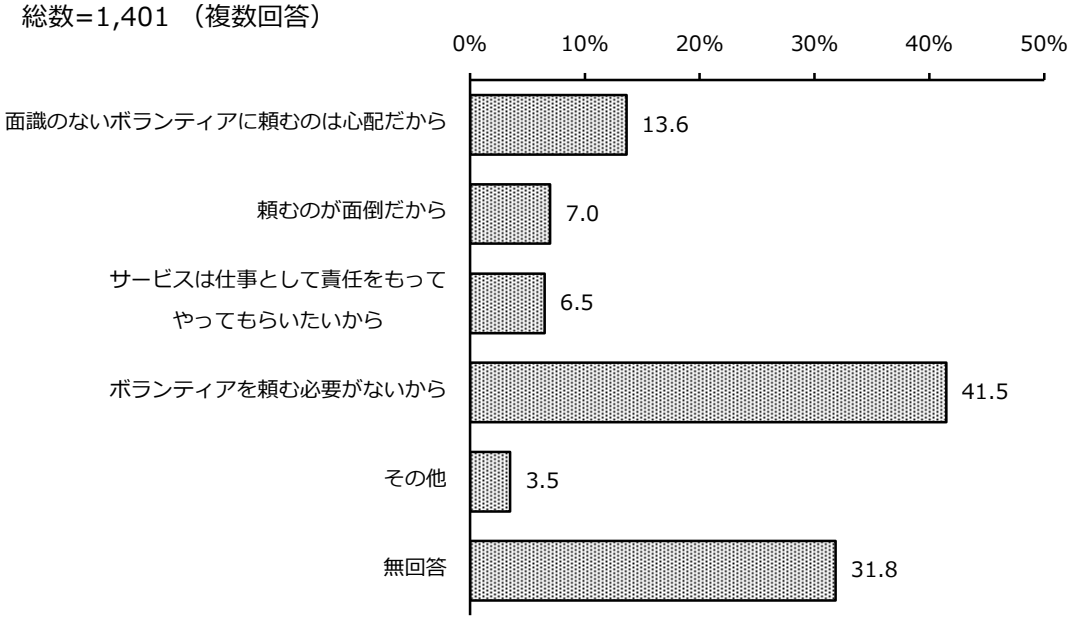
		全体	参加する時間的余裕がないから	他のボランティアで忙しいから	高齢者相手のボランティアはやりたくないから	一人では参加したくないから	具体的な内容が分からないと決められないから	健康、体力に自信がないから	活動場所までの交通手段がないから	ボランティア活動には興味がないから	同じ時間を使うなら、ボランティアよりも仕事でお金を稼ぎたいから	ボランティアでポイント（お金）を得るのはおかしいから	活動するのが面倒だから	その他	無回答
	全体	1,401	24.6	1.6	5.5	10.2	18.4	32.0	7.0	10.1	4.8	3.8	11.2	5.6	14.6
年齢	65歳～69歳	307	39.1	2.3	5.2	10.4	25.7	20.8	3.9	11.7	8.8	5.5	11.7	6.5	9.4
	70歳～74歳	433	27.5	1.6	6.5	11.3	16.6	29.3	6.5	12.2	6.7	4.2	11.3	6.0	12.5
	75歳～79歳	327	19.0	1.8	6.1	11.3	20.8	34.3	8.0	9.8	2.4	3.7	11.6	3.1	15.9
	80歳～84歳	199	10.6	0.5	4.0	8.5	12.1	44.7	9.0	8.0	1.0	1.5	12.1	4.0	23.1
	85歳～89歳	92	19.6	1.1	4.3	6.5	13.0	32.6	15.2	3.3	1.1	2.2	6.5	10.9	20.7
	90歳～94歳	29	6.9	－	－	－	－	75.9	－	3.4	－	3.4	－	10.3	13.8
	95歳～99歳	4	－	－	－	25.0	－	100.0	－	－	－	－	25.0	－	－
	100歳以上	－	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	－
	無回答	10	20.0	－	10.0	10.0	30.0	－	－	10.0	－	－	30.0	10.0	10.0

これを地区別でみると、「健康、体力に自信がないから」「参加する時間的余裕がないから」では「第１地区」が、「具体的な内容が分からないと決められないから」で「第３地区」が、それぞれ、比率が最も高くなっています。

		全体	参加する時間的余裕がないから	他のボランティアで忙しいから	高齢者相手のボランティアはやりたくないから	一人では参加したくないから	具体的な内容が分からないと決められないから	健康、体力に自信がないから	活動場所までの交通手段がないから	ボランティア活動には興味がないから	同じ時間を使うなら、ボランティアよりも仕事でお金を稼ぎたいから	ボランティアでポイント（お金）を得るのはおかしいから	活動するのが面倒だから	その他	無回答
	全体	1,401	24.6	1.6	5.5	10.2	18.4	32.0	7.0	10.1	4.8	3.8	11.2	5.6	14.6
居住地区	第１地区	286	25.5	2.1	5.9	9.4	17.8	35.0	5.9	10.1	4.9	3.8	9.8	6.6	14.0
	第２地区	547	24.1	1.8	6.4	9.9	17.6	32.0	7.3	9.5	6.0	3.7	12.2	4.8	14.8
	第３地区	558	24.6	1.1	4.3	10.9	19.4	31.0	7.3	10.8	3.6	3.9	10.6	5.7	14.9
	無回答	10	20.0	-	10.0	10.0	30.0	-	-	10.0	-	-	30.0	10.0	10.0

【介護ボランティアにサービスを頼みたくない理由】

「面識のないボランティアに頼むのは心配だから」が 13.6%で最も多く、「頼むのが面倒だから」（7.0%）、「サービスは仕事として責任をもってやってもらいたいから」（6.5%）が続きます。



年齢階層別にみても、有意的傾向はみられません。

		全体	サービスは仕事として責任をもってやってもらいたいから	面識のないボランティアに頼むのは心配だから	頼むのが面倒だから	ボランティアを頼む必要がないから	その他	無回答
	全体	1,401	6.5	13.6	7.0	41.5	3.5	31.8
年齢	65歳～69歳	307	7.2	16.3	6.8	45.6	2.9	26.1
	70歳～74歳	433	8.1	15.2	7.4	42.0	3.0	28.9
	75歳～79歳	327	6.1	12.5	6.1	39.4	3.7	35.8
	80歳～84歳	199	3.5	10.6	8.5	38.2	2.0	38.7
	85歳～89歳	92	4.3	8.7	4.3	39.1	6.5	40.2
	90歳～94歳	29	6.9	10.3	10.3	41.4	10.3	24.1
	95歳～99歳	4	－	25.0	25.0	－	25.0	25.0
	100歳以上	－	*	*	*	*	*	*
	無回答	10	10.0	10.0	－	60.0	10.0	20.0

これを地区別でみると、「ボランティアを頼む必要がないから」では「第２地区」の比率が最も高くなっています。

		全体	サービスは仕事として責任をもってやってもらいたいから	面識のないボランティアに頼むのは心配だから	頼むのが面倒だから	ボランティアを頼む必要がないから	その他	無回答
全体		1,401	6.5	13.6	7.0	41.5	3.5	31.8
居住地区	第１地区	286	8.4	14.3	8.0	37.1	3.5	31.8
	第２地区	547	5.3	12.2	6.4	45.2	3.5	31.3
	第３地区	558	6.6	14.7	7.2	39.8	3.4	32.6
	無回答	10	10.0	10.0	-	60.0	10.0	20.0

13 日常生活での不安・心配について

（1）日常生活での不安・心配内容

あなたは、日常生活の中で不安を感じたり心配になったりすることがありますか
(あてはまるものすべてに○)

「ご自身や家族の健康」が63.3%で最も多く、「地震や台風などの自然災害」（33.4%）、「生活費や医療・介護などの費用」（30.2%）、「家族の介護（老老介護など）」（16.9%）が続きます。「家族の介護（老老介護など）」は前回調査よりも比率が高くなってきています。

これを「家族構成」でみると、「夫婦２人暮らし（配偶者65歳以上）」では「ご自身や家族の健康」と回答した割合が、「１人暮らし」では「独居・孤独死への不安」と回答した割合が特に高くなっています。

		全体	ご自身や家族の健康	車の運転	生活費や医療・介護などの費用	不審な電話・悪質なセールス・特殊詐欺	日常の金銭管理	住まい	食事	掃除や洗濯などの家事	地震や台風などの自然災害	近所との人間関係や地域とのつながり	家族の介護（老老介護など）	独居・孤独死への不安	葬儀・墓の管理・財産相続・身の回りの生前整理	買い物や通院の手段	特にない	その他	無回答
	全体	2,577	63.3	15.7	30.2	15.1	4.3	7.6	6.9	6.1	33.4	5.1	16.9	7.6	16.8	11.0	14.5	1.5	5.2
家族構成	１人暮らし	497	45.9	9.9	28.2	15.9	4.6	10.7	10.1	8.0	29.8	6.0	1.2	24.3	16.5	10.9	15.9	0.6	6.4
	夫婦２人暮らし（配偶者65歳以上）	1,032	71.3	20.8	31.1	15.3	3.7	7.0	5.8	6.8	35.1	5.3	27.3	5.0	18.1	12.2	12.3	1.6	3.5
	夫婦２人暮らし（配偶者64歳以下）	140	57.9	11.4	24.3	10.0	5.0	5.7	2.9	－	30.0	2.9	10.0	2.1	15.0	3.6	25.0	－	5.0
	息子・娘との２世帯	366	64.2	11.7	32.0	16.4	4.6	6.0	6.0	5.7	33.9	5.2	10.4	1.4	10.7	10.9	16.1	0.8	5.5
	その他	470	66.6	14.9	31.5	15.1	4.0	7.7	6.4	4.5	35.5	4.0	18.7	2.6	19.4	10.2	13.6	3.0	5.3
	無回答	72	51.4	15.3	23.6	9.7	9.7	6.9	16.7	5.6	26.4	5.6	11.1	4.2	16.7	15.3	13.9	2.8	20.8

要支援等別では、各項目で「事業対象者」の構成比が相対的に高くなる傾向にあります。

		全体	ご自身や家族の健康	車の運転	生活費や医療・介護などの費用	不審な電話・悪質なセールス・特殊詐欺	日常の金銭管理	住まい	食事	掃除や洗濯などの家事	地震や台風などの自然災害	近所との人間関係や地域とのつながり	家族の介護（老老介護など）	独居・孤独死への不安	葬儀・墓の管理・財産相続・身の回りの生前整理	買い物や通院の手段	特にない	その他	無回答
	全体	2,577	63.3	15.7	30.2	15.1	4.3	7.6	6.9	6.1	33.4	5.1	16.9	7.6	16.8	11.0	14.5	1.5	5.2
要支援度別	事業対象者	5	100.0	－	40.0	－	－	－	60.0	40.0	60.0	－	40.0	40.0	40.0	40.0	－	－	－
	要支援１	75	58.7	5.3	26.7	18.7	8.0	8.0	14.7	17.3	26.7	6.7	20.0	8.0	8.0	34.7	12.0	1.3	5.3
	要支援２	58	65.5	6.9	44.8	27.6	6.9	5.2	19.0	20.7	41.4	5.2	13.8	10.3	29.3	22.4	8.6	－	6.9
	無回答	2,439	63.3	16.2	29.9	14.7	4.1	7.7	6.3	5.3	33.4	5.0	16.9	7.5	16.7	10.0	14.8	1.6	5.2

健康状態別では、「とてもよい」と「よくない」を比較すると、「ご自身や家族の健康」「生活費や医療・介護などの費用」「日常の金銭管理」「食事」「掃除や洗濯などの家事」「家族の介護(老老介護など)」「買い物や通院の手段」の項目について、回答に大きな差が出ています。

		全体	ご自身や家族の健康	車の運転	生活費や医療・介護などの費用	不審な電話・悪質なセールス・特殊詐欺	日常の金銭管理	住まい	食事	掃除や洗濯などの家事	地震や台風などの自然災害	近所との人間関係や地域とのつながり	家族の介護（老老介護など）	独居・孤独死への不安	葬儀・墓の管理・財産相続・身の回りの生前整理	買い物や通院の手段	特にない	その他	無回答
	全体	2,577	63.3	15.7	30.2	15.1	4.3	7.6	6.9	6.1	33.4	5.1	16.9	7.6	16.8	11.0	14.5	1.5	5.2
健康状態	とてもよい	274	41.2	11.3	22.3	10.2	3.3	5.8	3.3	4.4	22.3	2.6	9.9	4.4	12.8	4.4	30.3	0.7	6.2
	まあよい	1,714	63.7	16.3	27.7	14.6	3.7	7.1	5.5	4.2	35.6	5.0	15.7	7.1	15.9	9.2	14.8	1.7	4.3
	あまりよくない	437	76.7	17.8	43.2	18.8	6.9	12.1	14.2	13.3	33.9	7.6	25.4	11.7	23.6	20.4	6.2	1.1	4.1
	よくない	66	72.7	9.1	43.9	18.2	12.1	7.6	13.6	16.7	19.7	6.1	28.8	9.1	21.2	19.7	1.5	3.0	9.1
	無回答	86	50.0	11.6	27.9	18.6	－	－	3.5	3.5	33.7	2.3	11.6	5.8	9.3	14.0	10.5	1.2	23.3

年齢構成でみると、「不審な電話・悪質なセールス・特殊詐欺」「食事」で年齢が上がるにつれて比率が上がる傾向にあります。また、「生活費や医療・介護などの費用」については、「85 歳～89 歳」「90 歳～94 歳」では低くなっています。

	全体	ご自身や家族の健康	車の運転	生活費や医療・介護などの費用	不審な電話・悪質なセールス・特殊詐欺	日常の金銭管理	住まい	食事	掃除や洗濯などの家事	地震や台風などの自然災害	近所との人間関係や地域とのつながり	家族の介護（老老介護など）	独居・孤独死への不安	葬儀・墓の管理・財産相続・身の回りの生前整理	買い物や通院の手段	特にない	その他	無回答
全体	2,577	63.3	15.7	30.2	15.1	4.3	7.6	6.9	6.1	33.4	5.1	16.9	7.6	16.8	11.0	14.5	1.5	5.2
65歳～69歳	553	61.7	15.9	29.7	13.9	4.7	8.1	3.1	4.5	36.3	5.1	15.4	7.8	17.5	5.4	15.9	1.4	2.7
70歳～74歳	791	64.5	19.3	32.2	14.0	3.9	9.0	6.3	4.4	33.2	4.2	17.6	7.6	16.6	8.2	14.9	1.5	3.8
75歳～79歳	600	64.2	17.0	29.0	13.2	3.8	5.7	7.3	5.8	32.2	6.7	15.7	7.2	16.8	12.0	12.8	1.8	7.2
80歳～84歳	388	63.7	11.6	32.0	21.1	5.4	8.2	11.3	9.3	33.2	4.4	20.9	6.7	14.9	17.5	13.7	0.8	6.2
85歳～89歳	169	60.4	5.9	24.3	15.4	4.1	5.9	7.7	8.9	29.6	4.7	16.0	10.7	18.3	20.7	13.6	1.8	10.1
90歳～94歳	53	56.6	3.8	20.8	24.5	1.9	1.9	15.1	15.1	34.0	7.5	9.4	5.7	15.1	17.0	18.9	3.8	9.4
95歳～99歳	5	60.0	－	－	－	－	－	20.0	20.0	40.0	－	－	－	－	20.0	20.0	－	－
100歳以上	－	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	－	*	*	*	*
無回答	18	66.7	22.2	44.4	5.6	11.1	16.7	5.6	5.6	33.3	5.6	27.8	16.7	33.3	22.2	22.2	－	5.6

地区別では、回答の傾向に特段大きな差は見られません。

		全体	ご自身や家族の健康	車の運転	生活費や医療・介護などの費用	不審な電話・悪質なセールス・特殊詐欺	日常の金銭管理	住まい	食事	掃除や洗濯などの家事	地震や台風などの自然災害	近所との人間関係や地域とのつながり	家族の介護（老老介護など）	独居・孤独死への不安	葬儀・墓の管理・財産相続・身の回りの生前整理	買い物や通院の手段	特にない	その他	無回答
	全体	2,577	63.3	15.7	30.2	15.1	4.3	7.6	6.9	6.1	33.4	5.1	16.9	7.6	16.8	11.0	14.5	1.5	5.2
居住地区	第１地区	556	60.3	12.2	29.3	14.9	4.5	8.3	6.1	5.8	32.6	5.4	16.2	8.1	19.4	10.1	16.2	0.9	5.8
	第２地区	1,035	64.7	15.3	30.8	15.2	4.3	6.9	7.5	6.9	34.5	5.5	16.4	8.6	15.0	11.8	13.3	1.9	4.8
	第３地区	968	63.3	18.0	29.6	15.3	4.0	7.9	6.7	5.4	32.9	4.4	17.7	6.1	16.8	10.5	14.7	1.4	5.4
	無回答	18	66.7	22.2	44.4	5.6	11.1	16.7	5.6	5.6	33.3	5.6	27.8	16.7	33.3	22.2	22.2	-	5.6

（2）どのような手助けがあればよいか

現在のお住まいで生活を続けていく上で、地域でどのような手助けがあれば助かると思いますか(あてはまるものすべてに○)

「安否確認の声かけ」が 21.6%で最も多く、「ちょっとした力仕事」（21.0%）、「スーパーや病院などの送迎バス」（19.1%）、「通院の送迎や外出の手助け」（14.6%）が続きます。

これを「家族構成」でみると、「夫婦２人暮らし（配偶者 65 歳以上）」「１人暮らし」では、「安否確認の声かけ」「ちょっとした力仕事」の比率が高くなっています。

		全体	安否確認の声かけ	ちょっとした買い物やゴミ出し	食事づくりや掃除・洗濯の手伝い	ちょっとした力仕事	通院の送迎や外出の手助け	スーパーや病院などの送迎バス	食料品・日用品の移動販売	特にない	その他	無回答
	全体	2,577	21.6	7.3	6.0	21.0	14.6	19.1	12.3	43.8	2.3	7.6
家族構成	１人暮らし	497	24.5	8.0	6.6	25.8	11.9	13.5	10.1	39.0	2.0	8.5
	夫婦２人暮らし（配偶者65歳以上）	1,032	24.8	8.2	6.3	22.9	15.4	23.1	14.2	40.7	2.3	6.7
	夫婦２人暮らし（配偶者64歳以下）	140	20.0	6.4	5.0	13.6	8.6	16.4	7.9	58.6	－	5.7
	息子・娘との２世帯	366	16.4	4.6	4.6	16.1	16.4	18.6	12.3	50.5	1.9	7.4
	その他	470	18.1	8.1	6.2	19.1	16.8	19.1	13.4	46.8	3.4	6.2
	無回答	72	6.9	－	5.6	13.9	9.7	9.7	2.8	37.5	1.4	29.2

要支援等別では、全体平均と比較して、全体的に高い回答割合となっています。中でも、「スーパーや病院などの送迎バス」「食事づくりや掃除・洗濯の手伝い」「ちょっとした力仕事」「通院の送迎や外出の手助け」は特に高くなっています。

		全体	安否確認の声かけ	ちょっとした買い物やゴミ出し	食事づくりや掃除・洗濯の手伝い	ちょっとした力仕事	通院の送迎や外出の手助け	スーパーや病院などの送迎バス	食料品・日用品の移動販売	特にない	その他	無回答
	全体	2,577	21.6	7.3	6.0	21.0	14.6	19.1	12.3	43.8	2.3	7.6
要支援度別	事業対象者	5	20.0	20.0	40.0	40.0	20.0	60.0	20.0	20.0	－	－
	要支援１	75	22.7	10.7	5.3	21.3	29.3	24.0	16.0	28.0	－	13.3
	要支援２	58	29.3	15.5	17.2	36.2	32.8	29.3	17.2	19.0	1.7	13.8
	無回答	2,439	21.4	7.0	5.7	20.6	13.7	18.7	12.1	44.9	2.3	7.3

健康状態別では、「よくない」に近いほど、あてはまる手助けの割合が上昇しています。

		全体	安否確認の声かけ	ちょっとした買い物やゴミ出し	食事づくりや掃除・洗濯の手伝い	ちょっとした力仕事	通院の送迎や外出の手助け	スーパーや病院などの送迎バス	食料品・日用品の移動販売	特にない	その他	無回答
	全体	2,577	21.6	7.3	6.0	21.0	14.6	19.1	12.3	43.8	2.3	7.6
健康状態	とてもよい	274	19.7	7.7	4.7	11.3	10.2	13.1	13.1	58.4	2.6	5.5
	まあよい	1,714	21.5	6.8	5.1	20.5	13.0	18.1	10.9	45.5	2.2	7.1
	あまりよくない	437	23.6	8.5	9.6	29.1	23.8	24.9	16.7	32.0	2.3	6.6
	よくない	66	21.2	18.2	18.2	28.8	24.2	27.3	19.7	28.8	3.0	16.7
	無回答	86	19.8	2.3	1.2	16.3	7.0	22.1	11.6	33.7	1.2	22.1

年齢構成でみると、「安否確認の声かけ」「ちょっとした力仕事」「通院の送迎や外出の手助け」「スーパーや病院などの送迎バス」で年齢が上がるにつれて比率が上がる傾向にあります。

		全体	安否確認の声かけ	ちょっとした買い物やゴミ出し	食事づくりや掃除・洗濯の手伝い	ちょっとした力仕事	通院の送迎や外出の手助け	スーパーや病院などの送迎バス	食料品・日用品の移動販売	特にない	その他	無回答
	全体	2,577	21.6	7.3	6.0	21.0	14.6	19.1	12.3	43.8	2.3	7.6
年齢	65歳～69歳	553	20.3	8.5	6.7	19.0	12.5	17.9	13.0	51.9	1.8	4.5
	70歳～74歳	791	22.4	7.8	6.1	20.9	14.3	18.8	12.3	45.9	2.1	5.8
	75歳～79歳	600	20.7	5.2	4.7	21.5	12.3	17.5	11.5	43.3	3.0	8.7
	80歳～84歳	388	20.6	5.9	4.9	21.1	18.6	22.7	10.6	37.4	2.1	11.1
	85歳～89歳	169	26.0	10.1	8.3	26.0	20.7	23.7	15.4	27.8	0.6	13.0
	90歳～94歳	53	26.4	9.4	15.1	24.5	17.0	15.1	17.0	37.7	5.7	9.4
	95歳～99歳	5	40.0	40.0	－	40.0	40.0	－	－	－	－	－
	100歳以上	－	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
	無回答	18	16.7	11.1	5.6	11.1	11.1	22.2	22.2	33.3	5.6	16.7

地区別では、回答の傾向に特段大きな差は見られません。

		全体	安否確認の声かけ	ちょっとした買い物やゴミ出し	食事づくりや掃除・洗濯の手伝い	ちょっとした力仕事	通院の送迎や外出の手助け	スーパーや病院などの送迎バス	食料品・日用品の移動販売	特にない	その他	無回答
	全体	2,577	21.6	7.3	6.0	21.0	14.6	19.1	12.3	43.8	2.3	7.6
居住地区	第１地区	556	21.0	9.0	6.7	21.2	16.0	21.6	13.1	40.5	3.1	7.9
	第２地区	1,035	23.0	7.7	6.8	22.1	13.4	17.8	12.8	44.5	2.1	7.7
	第３地区	968	20.5	5.9	4.9	19.9	15.1	19.1	11.3	45.0	1.9	7.1
	無回答	18	16.7	11.1	5.6	11.1	11.1	22.2	22.2	33.3	5.6	16.7

また、11 区分地区でみると、以下の結果になりました。

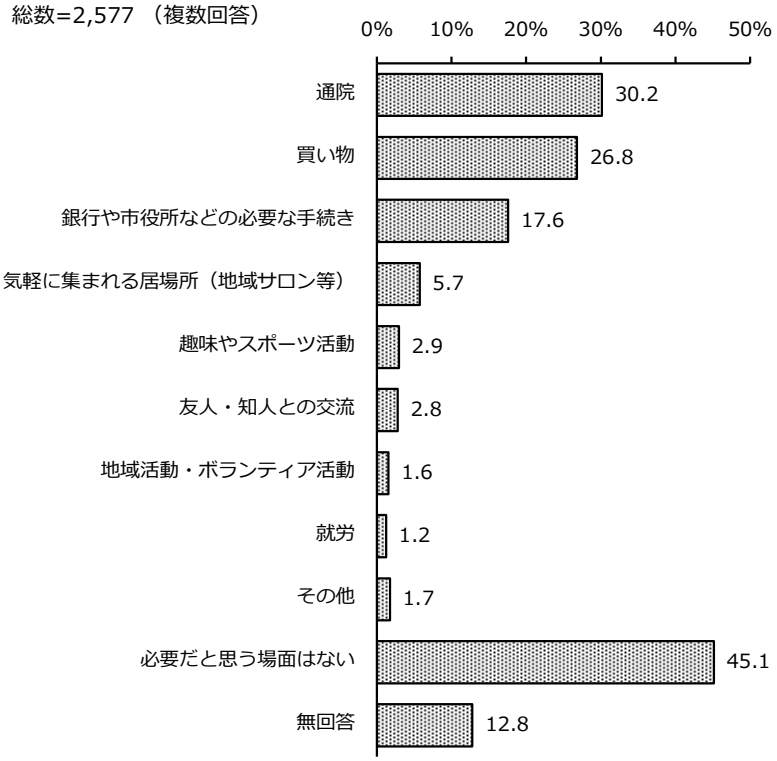
	全体	安否確認の声かけ	ちょっとした買い物やゴミ出し	食事づくりや掃除・洗濯の手伝い	ちょっとした力仕事	通院の送迎や外出の手助け	スーパーや病院などの送迎バス	食料品・日用品の移動販売	特にない	その他	無回答
全体	2,577	556	189	155	542	376	493	318	1,128	58	196
	100.0	21.6	7.3	6.0	21.0	14.6	19.1	12.3	43.8	2.3	7.6
青梅	236	47	19	14	59	35	56	36	86	8	21
	100.0	19.9	8.1	5.9	25.0	14.8	23.7	15.3	36.4	3.4	8.9
東青梅	320	70	31	23	59	54	64	37	139	9	23
	100.0	21.9	9.7	7.2	18.4	16.9	20.0	11.6	43.4	2.8	7.2
長淵	408	92	34	28	95	59	86	58	173	10	29
	100.0	22.5	8.3	6.9	23.3	14.5	21.1	14.2	42.4	2.5	7.1
河辺	312	67	28	24	69	38	36	19	151	6	28
	100.0	21.5	9.0	7.7	22.1	12.2	11.5	6.1	48.4	1.9	9.0
梅郷	227	53	12	12	45	27	41	33	104	4	15
	100.0	23.3	5.3	5.3	19.8	11.9	18.1	14.5	45.8	1.8	6.6
沢井	88	26	6	6	20	15	21	22	33	2	8
	100.0	29.5	6.8	6.8	22.7	17.0	23.9	25.0	37.5	2.3	9.1
大門	344	73	14	19	71	47	52	39	158	7	30
	100.0	21.2	4.1	5.5	20.6	13.7	15.1	11.3	45.9	2.0	8.7
新町	300	55	22	16	53	45	55	23	137	7	20
	100.0	18.3	7.3	5.3	17.7	15.0	18.3	7.7	45.7	2.3	6.7
今井	197	39	13	8	46	31	40	22	97	2	9
	100.0	19.8	6.6	4.1	23.4	15.7	20.3	11.2	49.2	1.0	4.6
小曾木	84	16	4	3	15	15	24	18	28	1	9
	100.0	19.0	4.8	3.6	17.9	17.9	28.6	21.4	33.3	1.2	10.7
成木	43	15	4	1	8	8	14	7	16	1	1
	100.0	34.9	9.3	2.3	18.6	18.6	32.6	16.3	37.2	2.3	2.3
無回答	18	3	2	1	2	2	4	4	6	1	3
	100.0	16.7	11.1	5.6	11.1	11.1	22.2	22.2	33.3	5.6	16.7

14 移動支援について

（1-1）移動支援が必要だと思う場面

移動支援が必要だと思う場面は何ですか(あてはまるものすべてに○)

「通院」が 30.2%で最も多く、「買い物」（26.8%）、「銀行や市役所などの必要な手続き」（17.6%）、「気軽に集まれる居場所（地域サロン等）」（5.7%）が続きます。



年齢構成でみると、「通院」「買い物」「銀行や市役所などの必要な手続き」で年齢が上がるにつれて比率が上がる傾向にあります。

		全体	買い物	通院	友人・知人との交流	趣味やスポーツ活動	気軽に集まれる居場所（地域サロン等）	地域活動・ボランティア活動	就労	銀行や市役所などの必要な手続き	その他	必要だと思う場面はない	無回答
	全体	2,577	26.8	30.2	2.8	2.9	5.7	1.6	1.2	17.6	1.7	45.1	12.8
年齢	65歳～69歳	553	23.1	23.3	2.7	3.6	4.9	1.6	1.6	17.0	1.3	59.7	6.0
	70歳～74歳	791	25.4	29.6	2.7	2.8	6.1	1.8	2.0	16.7	2.1	47.3	11.9
	75歳～79歳	600	26.8	29.7	2.7	2.7	6.3	1.3	0.8	17.0	2.7	42.5	14.2
	80歳～84歳	388	30.2	34.3	2.8	2.6	5.4	2.1	－	17.8	0.5	35.1	19.3
	85歳～89歳	169	33.1	43.8	4.1	3.6	7.1	0.6	0.6	24.9	0.6	26.6	17.2
	90歳～94歳	53	37.7	37.7	3.8	3.8	1.9	－	1.9	22.6	－	26.4	20.8
	95歳～99歳	5	40.0	80.0	－	－	－	－	－	20.0	20.0	－	20.0
	100歳以上	－	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
	無回答	18	33.3	27.8	－	－	5.6	－	－	5.6	5.6	50.0	11.1

地区別では、全体的に大きな差は見られませんが、「通院」では「第３地区」の比率が、「買い物」では「第１地区」の比率が最も高くなっています。

		全体	買い物	通院	友人・知人との交流	趣味やスポーツ活動	気軽に集まれる居場所（地域サロン等）	地域活動・ボランティア活動	就労	銀行や市役所などの必要な手続き	その他	必要だと思う場面はない	無回答
全体		2,577	26.8	30.2	2.8	2.9	5.7	1.6	1.2	17.6	1.7	45.1	12.8
居住地区	第１地区	556	28.2	28.4	2.7	4.0	6.8	1.8	1.8	15.8	2.3	43.9	12.1
	第２地区	1,035	26.6	30.6	2.9	2.7	6.1	1.3	0.8	17.7	1.0	46.0	13.2
	第３地区	968	26.1	30.7	2.8	2.7	4.8	1.8	1.4	18.7	2.2	44.8	12.8
	無回答	18	33.3	27.8	-	-	5.6	-	-	5.6	5.6	50.0	11.1

また、11 区分地区でみると、以下の結果になりました。

	全体	買い物	通院	友人・知人との交流	趣味やスポーツ活動	気軽に集まれる居場所（地域サロン等）	地域活動・ボランティア活動	就労	銀行や市役所などの必要な手続き	その他	必要だと思う場面はない	無回答
全体	2,577	691	777	72	76	148	40	32	453	45	1,163	330
	100.0	26.8	30.2	2.8	2.9	5.7	1.6	1.2	17.6	1.7	45.1	12.8
青梅	236	74	71	5	7	17	3	3	40	6	99	26
	100.0	31.4	30.1	2.1	3.0	7.2	1.3	1.3	16.9	2.5	41.9	11.0
東青梅	320	83	87	10	15	21	7	7	48	7	145	41
	100.0	25.9	27.2	3.1	4.7	6.6	2.2	2.2	15.0	2.2	45.3	12.8
長淵	408	114	117	12	10	33	8	2	69	6	192	54
	100.0	27.9	28.7	2.9	2.5	8.1	2.0	0.5	16.9	1.5	47.1	13.2
河辺	312	70	95	5	4	10	1	4	57	3	147	42
	100.0	22.4	30.4	1.6	1.3	3.2	0.3	1.3	18.3	1.0	47.1	13.5
梅郷	227	59	76	6	8	9	-	1	40	-	107	25
	100.0	26.0	33.5	2.6	3.5	4.0	-	0.4	17.6	-	47.1	11.0
沢井	88	32	29	7	6	11	4	1	17	1	30	16
	100.0	36.4	33.0	8.0	6.8	12.5	4.5	1.1	19.3	1.1	34.1	18.2
大門	344	82	95	7	9	20	7	10	58	9	153	47
	100.0	23.8	27.6	2.0	2.6	5.8	2.0	2.9	16.9	2.6	44.5	13.7
新町	300	78	98	6	8	14	4	1	58	7	136	33
	100.0	26.0	32.7	2.0	2.7	4.7	1.3	0.3	19.3	2.3	45.3	11.0
今井	197	48	60	9	6	10	5	3	44	4	94	22
	100.0	24.4	30.5	4.6	3.0	5.1	2.5	1.5	22.3	2.0	47.7	11.2
小曾木	84	31	29	2	1	1	1	-	12	-	35	15
	100.0	36.9	34.5	2.4	1.2	1.2	1.2	-	14.3	-	41.7	17.9
成木	43	14	15	3	2	1	-	-	9	1	16	7
	100.0	32.6	34.9	7.0	4.7	2.3	-	-	20.9	2.3	37.2	16.3
無回答	18	6	5	-	-	1	-	-	1	1	9	2
	100.0	33.3	27.8	-	-	5.6	-	-	5.6	5.6	50.0	11.1

（1-2） 移動支援を必要とする理由

前の設問（1）で「必要だと思う場面はない」以外を選んだ方にお聞きします。
（1－2）移動支援を必要とする理由は何ですか(あてはまるものすべてに○)

「今はよいが、将来的に不安」が68.9%で最も多く、「徒歩や自転車しか移動手段がなく、遠い目的地への移動が困難」（20.1%）、「運転免許証を返納した」（16.6%）、「身体等に問題があり外出が難しい」（13.3%）が続きます。

年齢構成でみると、「徒歩や自転車しか移動手段がなく、遠い目的地への移動が困難」「運転免許証を返納した」「身体等に問題があり外出が難しい」で年齢が上がるにつれて比率が上がる傾向にあります。

		全体	身体等に問題があり外出が難しい	運転免許証を返納した	運賃や自家用車の維持費等、経済的な負担	徒歩や自転車しか移動手段がなく、遠い目的地への移動が困難	今はよいが、将来的に不安	その他	無回答
	全体	1,084	13.3	16.6	6.9	20.1	68.9	1.4	13.6
年齢	65歳～69歳	190	6.3	5.8	5.3	15.8	71.6	2.1	19.5
	70歳～74歳	323	9.6	11.8	7.1	14.9	74.9	0.9	14.9
	75歳～79歳	260	10.0	19.2	8.8	20.8	76.2	1.2	8.5
	80歳～84歳	177	20.9	23.2	8.5	27.7	62.7	1.7	10.7
	85歳～89歳	95	26.3	31.6	1.1	30.5	43.2	2.1	16.8
	90歳～94歳	28	42.9	25.0	10.7	10.7	42.9	－	14.3
	95歳～99歳	4	－	25.0	－	75.0	－	－	25.0
	100歳以上	－	*	*	*	*	*	*	*
	無回答	7	14.3	28.6	－	28.6	100.0	－	－

これを地区別でみると、「徒歩や自転車しか移動手段がなく、遠い目的地への移動が困難」「運転免許証を返納した」では「第３地区」の、「身体等に問題があり外出が難しい」では「第１地区」の比率が最も高くなっています。

		全体	身体等に問題があり外出が難しい	運転免許証を返納した	運賃や自家用車の維持費等、経済的な負担	徒歩や自転車しか移動手段がなく、遠い目的地への移動が困難	今はよいが、将来的に不安	その他	無回答
	全体	1,084	13.3	16.6	6.9	20.1	68.9	1.4	13.6
居住地区	第１地区	245	16.7	16.3	4.1	19.2	73.5	1.6	10.6
	第２地区	422	12.8	15.4	9.7	19.4	65.6	1.7	16.6
	第３地区	410	11.7	17.8	5.9	21.2	69.0	1.0	12.4
	無回答	7	14.3	28.6	-	28.6	100.0	-	-

また、11 区分地区でみると、以下の結果になりました。

	全体	身体等に問題があり外出が難しい	運転免許証を返納した	運賃や自家用車の維持費等、経済的な負担	徒歩や自転車しか移動手段がなく、遠い目的地への移動が困難	今はよいが、将来的に不安	その他	無回答
全体	1,084	144	180	75	218	747	15	147
	100.0	13.3	16.6	6.9	20.1	68.9	1.4	13.6
青梅	111	20	19	4	21	85	-	9
	100.0	18.0	17.1	3.6	18.9	76.6	-	8.1
東青梅	134	21	21	6	26	95	4	17
	100.0	15.7	15.7	4.5	19.4	70.9	3.0	12.7
長淵	162	16	23	16	37	105	3	30
	100.0	9.9	14.2	9.9	22.8	64.8	1.9	18.5
河辺	123	18	19	13	32	80	2	19
	100.0	14.6	15.4	10.6	26.0	65.0	1.6	15.4
梅郷	95	15	17	5	10	63	-	16
	100.0	15.8	17.9	5.3	10.5	66.3	-	16.8
沢井	42	5	6	7	3	29	2	5
	100.0	11.9	14.3	16.7	7.1	69.0	4.8	11.9
大門	144	13	24	6	30	99	1	23
	100.0	9.0	16.7	4.2	20.8	68.8	0.7	16.0
新町	131	18	26	11	31	90	1	14
	100.0	13.7	19.8	8.4	23.7	68.7	0.8	10.7
今井	81	13	11	6	13	56	1	9
	100.0	16.0	13.6	7.4	16.0	69.1	1.2	11.1
小曾木	34	4	8	-	10	24	-	3
	100.0	11.8	23.5	-	29.4	70.6	-	8.8
成木	20	-	4	1	3	14	1	2
	100.0	-	20.0	5.0	15.0	70.0	5.0	10.0
無回答	7	1	2	-	2	7	-	-
	100.0	14.3	28.6	-	28.6	100.0	-	-

（2）移動支援で必要だと思うもの

地域で支えあうための移動支援で必要だと思うものは何ですか(あてはまるものすべてに○)

「送迎車による移動支援（外出先での介助や付き添いを含まない）」が 24.7%で最も多く、「送迎車による移動支援（外出先での介助や付き添いを含む）」（21.8%）、「移動スーパーの拡充」（20.4%）、「その他」（2.9%）が続きます。

年齢構成でみると、年齢が上がるにしたがって「特に希望しない」と回答した割合が低下しています。

		全体	送迎車による移動支援（外出先での介助や付き添いを含まない）	送迎車による移動支援（外出先での介助や付き添いを含む）	移動スーパーの拡充	その他	特に希望しない	無回答
	全体	2,577	24.7	21.8	20.4	2.9	32.1	16.6
年齢	65歳～69歳	553	25.3	25.1	21.9	2.7	34.9	11.2
	70歳～74歳	791	27.1	22.9	21.5	2.7	31.9	13.8
	75歳～79歳	600	23.2	19.7	18.7	4.2	32.3	18.7
	80歳～84歳	388	19.1	17.8	21.1	2.3	30.9	23.7
	85歳～89歳	169	30.8	20.1	15.4	1.8	29.0	20.1
	90歳～94歳	53	18.9	22.6	22.6	3.8	26.4	28.3
	95歳～99歳	5	20.0	40.0	-	-	40.0	-
	100歳以上	-	*	*	*	*	*	*
	無回答	18	33.3	38.9	16.7	-	11.1	22.2

これを地区別でみると、「送迎車による移動支援（外出先での介助や付き添いを含まない）」では「第３地区」が、「送迎車による移動支援（外出先での介助や付き添いを含む）」「移動スーパーの拡充」では「第１地区」が、比率で最も高くなっています。

		全体	送迎車による移動支援（外出先での介助や付き添いを含まない）	送迎車による移動支援（外出先での介助や付き添いを含む）	移動スーパーの拡充	その他	特に希望しない	無回答
	全体	2,577	24.7	21.8	20.4	2.9	32.1	16.6
居住地区	第１地区	556	23.0	23.0	22.5	2.7	30.9	17.8
	第２地区	1,035	24.9	22.8	22.0	2.9	32.0	15.6
	第３地区	968	25.2	19.7	17.6	3.1	33.2	16.9
	無回答	18	33.3	38.9	16.7	-	11.1	22.2

また、11 区分地区でみると、以下の結果になりました。

	全体	送迎車による移動支援（外出先での介助や付き添いを含まない）	送迎車による移動支援（外出先での介助や付き添いを含む）	移動スーパーの拡充	その他	特に希望しない	無回答
全体	2,577	636	562	526	75	826	428
	100.0	24.7	21.8	20.4	2.9	32.1	16.6
青梅	236	66	61	70	8	57	33
	100.0	28.0	25.8	29.7	3.4	24.2	14.0
東青梅	320	62	67	55	7	115	66
	100.0	19.4	20.9	17.2	2.2	35.9	20.6
長淵	408	111	83	97	10	131	60
	100.0	27.2	20.3	23.8	2.5	32.1	14.7
河辺	312	66	80	41	13	115	44
	100.0	21.2	25.6	13.1	4.2	36.9	14.1
梅郷	227	54	52	57	4	65	45
	100.0	23.8	22.9	25.1	1.8	28.6	19.8
沢井	88	27	21	33	3	20	12
	100.0	30.7	23.9	37.5	3.4	22.7	13.6
大門	344	60	71	58	9	123	70
	100.0	17.4	20.6	16.9	2.6	35.8	20.3
新町	300	95	64	39	8	98	39
	100.0	31.7	21.3	13.0	2.7	32.7	13.0
今井	197	50	37	30	8	73	30
	100.0	25.4	18.8	15.2	4.1	37.1	15.2
小曾木	84	21	8	29	2	18	20
	100.0	25.0	9.5	34.5	2.4	21.4	23.8
成木	43	18	11	14	3	9	5
	100.0	41.9	25.6	32.6	7.0	20.9	11.6
無回答	18	6	7	3	-	2	4
	100.0	33.3	38.9	16.7	-	11.1	22.2

15 認知症の対策について

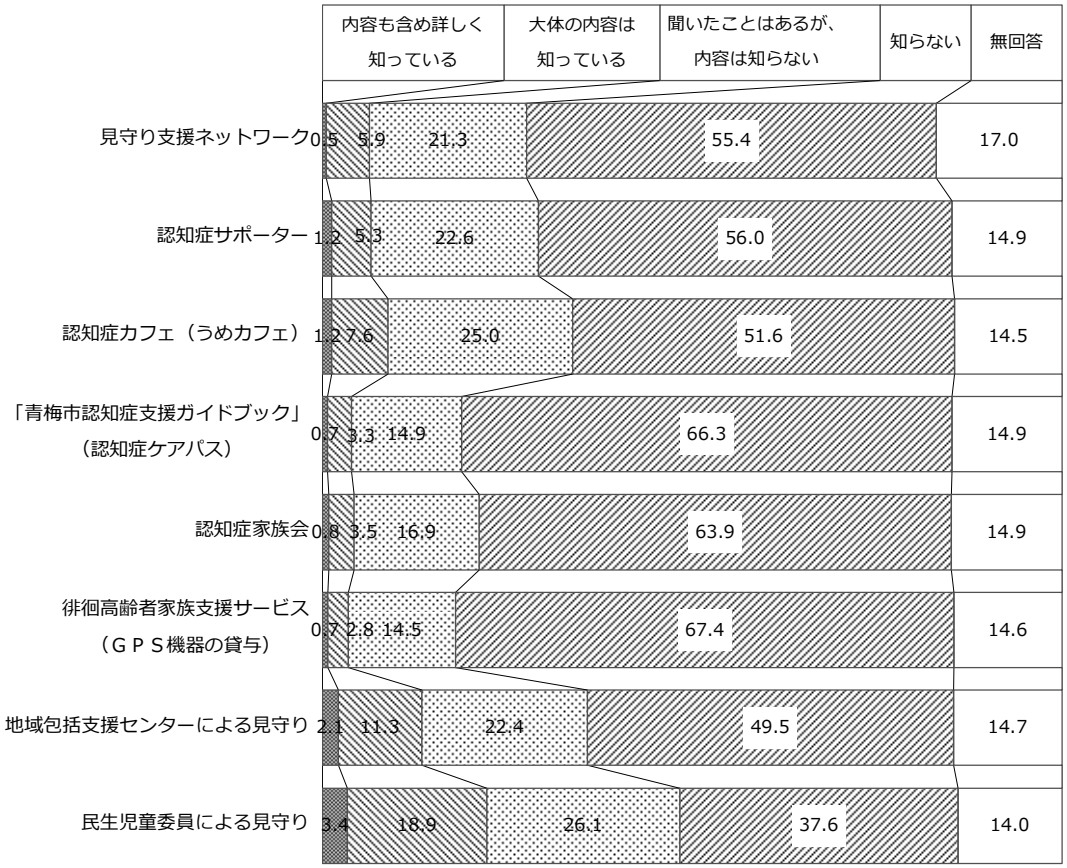
（1）市の認知症の対策とその認知状況

現在、市では、次の事業を行っていますが、以下について該当するものを選んでください

「内容も含め詳しく知っている」と「大体の内容は知っている」とを合わせると、「民生児童委員による見守り」が 22.2%で最も多く、「地域包括支援センターによる見守り」（13.4%）、「認知症カフェ（うめカフェ）」（8.8%）が続きます。

「知らない」と「聞いたことはあるが、内容は知らない」とを合わせると、「徘徊高齢者家族支援サービス（ＧＰＳ機器の貸与）」が 81.9%で最も多く、「「青梅市認知症支援ガイドブック」（認知症ケアパス）」（81.2%）、「認知症家族会」（80.8%）が続きます。

総数=2,577　　単位:%



① 見守り支援ネットワーク

「知らない」が 55.4%で最も多く、「聞いたことはあるが、内容は知らない」（21.3%）、「大体の内容は知っている」（5.9%）、「内容も含め詳しく知っている」（0.5%）が続きます。

家族構成別でみると「夫婦２人暮らし（配偶者 65 歳以上）」において「大体の内容は知っている」「内容も含め詳しく知っている」の割合が最も高くなっています。

		全体	内容も含め詳しく知っている	大体の内容は知っている	聞いたことはあるが、内容は知らない	知らない	無回答
	全体	2,577	0.5	5.9	21.3	55.4	17.0
家族構成別	１人暮らし	497	0.2	6.0	16.3	54.1	23.3
	夫婦２人暮らし（配偶者65歳以上）	1,032	0.3	5.8	23.0	57.1	13.9
	夫婦２人暮らし（配偶者64歳以下）	140	0.7	7.1	22.1	53.6	16.4
	息子・娘との２世帯	366	0.8	4.9	23.5	53.6	17.2
	その他	470	1.1	5.7	21.7	57.0	14.5
	無回答	72	－	8.3	15.3	41.7	34.7

年齢階層別では、「75 歳～79 歳」で「大体の内容は知っている」「内容も含め詳しく知っている」の割合が最も高くなっています。

		全体	内容も含め詳しく知っている	大体の内容は知っている	聞いたことはあるが、内容は知らない	知らない	無回答
	全体	2,577	0.5	5.9	21.3	55.4	17.0
年齢	65歳～69歳	553	0.9	5.6	23.1	62.2	8.1
	70歳～74歳	791	0.5	6.4	21.7	58.2	13.1
	75歳～79歳	600	0.3	6.7	21.2	51.3	20.5
	80歳～84歳	388	0.5	4.6	19.6	51.8	23.5
	85歳～89歳	169	－	3.0	20.1	45.6	31.4
	90歳～94歳	53	－	3.8	13.2	52.8	30.2
	95歳～99歳	5	－	－	－	40.0	60.0
	100歳以上	－	*	*	*	*	*
	無回答	18	－	22.2	22.2	38.9	16.7

地区別では、「第１地区」で「大体の内容は知っている」「内容も含め詳しく知っている」の割合が最も高くなっています。

		全体	内容も含め詳しく知っている	大体の内容は知っている	聞いたことはあるが、内容は知らない	知らない	無回答
全体		2,577	0.5	5.9	21.3	55.4	17.0
居住地区	第１地区	556	0.7	6.7	21.9	54.0	16.7
	第２地区	1,035	0.6	5.3	20.7	55.7	17.7
	第３地区	968	0.3	5.7	21.5	56.1	16.4
	無回答	18	-	22.2	22.2	38.9	16.7

② 認知症サポーター

「知らない」が 56.0%で最も多く、「聞いたことはあるが、内容は知らない」（22.6%）、「大体の内容は知っている」（5.3%）、「内容も含め詳しく知っている」（1.2%）が続きます。

家族構成別では、大きな差は見られませんが「息子・娘との２世帯」で「大体の内容は知っている」「内容も含め詳しく知っている」の割合が他よりも若干高くなっています。

		全体	内容も含め詳しく知っている	大体の内容は知っている	聞いたことはあるが、内容は知らない	知らない	無回答
	全体	2,577	1.2	5.3	22.6	56.0	14.9
家族構成別	１人暮らし	497	1.4	5.0	19.7	51.9	21.9
	夫婦２人暮らし（配偶者65歳以上）	1,032	1.3	5.1	23.6	58.0	11.9
	夫婦２人暮らし（配偶者64歳以下）	140	－	5.0	22.1	60.0	12.9
	息子・娘との２世帯	366	1.4	5.2	26.0	52.2	15.3
	その他	470	1.3	6.0	21.5	59.4	11.9
	無回答	72	1.4	6.9	19.4	43.1	29.2

年齢階層別では、大きな差は見られませんが「90 歳～94 歳」で「大体の内容は知っている」の割合が高くなっています。

		全体	内容も含め詳しく知っている	大体の内容は知っている	聞いたことはあるが、内容は知らない	知らない	無回答
	全体	2,577	1.2	5.3	22.6	56.0	14.9
年齢	65歳～69歳	553	2.0	4.7	25.7	60.8	6.9
	70歳～74歳	791	1.0	6.1	24.3	58.0	10.6
	75歳～79歳	600	1.7	5.2	21.7	53.7	17.8
	80歳～84歳	388	0.3	5.4	19.8	52.6	21.9
	85歳～89歳	169	－	2.4	18.9	50.3	28.4
	90歳～94歳	53	－	9.4	15.1	47.2	28.3
	95歳～99歳	5	－	－	－	40.0	60.0
	100歳以上	－	*	*	*	*	*
	無回答	18	11.1	11.1	11.1	50.0	16.7

地区別では、「第１地区」「第２地区」で「大体の内容は知っている」「内容も含め詳しく知っている」の割合が、「第３地区」に比べて高くなっています。

		全体	内容も含め詳しく知っている	大体の内容は知っている	聞いたことはあるが、内容は知らない	知らない	無回答
全体		2,577	1.2	5.3	22.6	56.0	14.9
居住地区	第１地区	556	0.9	6.3	22.3	55.9	14.6
	第２地区	1,035	1.5	5.7	24.6	53.6	14.5
	第３地区	968	0.9	4.2	20.9	58.6	15.4
	無回答	18	11.1	11.1	11.1	50.0	16.7

③ 認知症カフェ（うめカフェ）

「知らない」が51.6%で最も多く、「聞いたことはあるが、内容は知らない」（25.0%）、「大体の内容は知っている」（7.6%）、「内容も含め詳しく知っている」（1.2%）が続きます。「参加していない」が67.4%を占めています。

家族構成別では、「息子・娘との２世帯」で「大体の内容は知っている」「内容も含め詳しく知っている」の割合が他よりも若干高くなっています。

また、「夫婦２人暮らし（配偶者 64 歳以下）」では「知らない」の比率が高くなっています。

		全体	内容も含め詳しく知っている	大体の内容は知っている	聞いたことはあるが、内容は知らない	知らない	無回答
	全体	2,577	1.2	7.6	25.0	51.6	14.5
家族構成別	１人暮らし	497	1.4	8.2	22.1	46.9	21.3
	夫婦２人暮らし（配偶者65歳以上）	1,032	1.0	8.1	27.8	51.4	11.7
	夫婦２人暮らし（配偶者64歳以下）	140	－	4.3	16.4	66.4	12.9
	息子・娘との２世帯	366	1.6	8.2	24.9	51.4	13.9
	その他	470	1.7	6.4	24.5	55.5	11.9
	無回答	72	1.4	6.9	25.0	36.1	30.6

年齢階層別では「90 歳～94 歳」で「内容も含め詳しく知っている」「大体の内容は知っている」の割合が高くなっています。

		全体	内容も含め詳しく知っている	大体の内容は知っている	聞いたことはあるが、内容は知らない	知らない	無回答
	全体	2,577	1.2	7.6	25.0	51.6	14.5
年齢	65歳～69歳	553	1.3	6.0	25.1	60.6	7.1
	70歳～74歳	791	1.0	8.1	28.3	52.5	10.1
	75歳～79歳	600	1.5	9.3	26.5	44.8	17.8
	80歳～84歳	388	0.5	5.7	20.1	53.1	20.6
	85歳～89歳	169	1.2	8.9	18.9	42.6	28.4
	90歳～94歳	53	1.9	11.3	13.2	47.2	26.4
	95歳～99歳	5	－	－	－	40.0	60.0
	100歳以上	－	*	*	*	*	*
	無回答	18	16.7	－	27.8	38.9	16.7

地区別では、「第２地区」で「大体の内容は知っている」「内容も含め詳しく知っている」の割合が最も高くなっています。

		全体	内容も含め詳しく知っている	大体の内容は知っている	聞いたことはあるが、内容は知らない	知らない	無回答
全体		2,577	1.2	7.6	25.0	51.6	14.5
居住地区	第１地区	556	0.9	6.8	25.2	52.9	14.2
	第２地区	1,035	1.5	9.0	26.1	49.2	14.2
	第３地区	968	0.8	6.7	23.7	53.8	15.0
	無回答	18	16.7	-	27.8	38.9	16.7

④「青梅市認知症支援ガイドブック」（認知症ケアパス）

「知らない」が66.3%で最も多く、「聞いたことはあるが、内容は知らない」（14.9%）、「大体の内容は知っている」（3.3%）、「内容も含め詳しく知っている」（0.7%）が続きます。「参加していない」が67.4%を占めています。

家族構成別では、大きな差はありませんが「１人暮らし」で「大体の内容は知っている」「内容も含め詳しく知っている」の割合が他よりも若干高くなっています。

、

		全体	内容も含め詳しく知っている	大体の内容は知っている	聞いたことはあるが、内容は知らない	知らない	無回答
	全体	2,577	0.7	3.3	14.9	66.3	14.9
家族構成別	１人暮らし	497	1.0	3.4	12.7	62.0	20.9
	夫婦２人暮らし（配偶者65歳以上）	1,032	0.6	3.3	15.6	68.0	12.5
	夫婦２人暮らし（配偶者64歳以下）	140	－	2.1	12.9	72.9	12.1
	息子・娘との２世帯	366	0.5	3.3	18.3	62.8	15.0
	その他	470	0.9	3.6	13.6	70.0	11.9
	無回答	72	－	1.4	15.3	52.8	30.6

年齢階層別では「90 歳～94 歳」で「内容も含め詳しく知っている」「大体の内容は知っている」の割合が高くなっています。

		全体	内容も含め詳しく知っている	大体の内容は知っている	聞いたことはあるが、内容は知らない	知らない	無回答
	全体	2,577	0.7	3.3	14.9	66.3	14.9
年齢	65歳～69歳	553	1.3	2.9	15.6	73.2	7.1
	70歳～74歳	791	0.4	3.2	15.5	69.8	11.1
	75歳～79歳	600	0.5	3.8	15.0	63.2	17.5
	80歳～84歳	388	0.5	3.6	13.9	60.3	21.6
	85歳～89歳	169	－	1.8	12.4	57.4	28.4
	90歳～94歳	53	1.9	3.8	9.4	60.4	24.5
	95歳～99歳	5	－	－	－	40.0	60.0
	100歳以上	－	*	*	*	*	*
	無回答	18	5.6	5.6	27.8	44.4	16.7

地区別では、「第２地区」で「大体の内容は知っている」「内容も含め詳しく知っている」の割合が最も高くなっています。

		全体	内容も含め詳しく知っている	大体の内容は知っている	聞いたことはあるが、内容は知らない	知らない	無回答
全体		2,577	0.7	3.3	14.9	66.3	14.9
居住地区	第１地区	556	0.5	2.9	14.4	67.8	14.4
	第２地区	1,035	1.0	3.5	16.8	64.2	14.6
	第３地区	968	0.3	3.2	12.9	68.2	15.4
	無回答	18	5.6	5.6	27.8	44.4	16.7

⑤ 認知症家族会

「知らない」が 63.9%で最も多く、「聞いたことはあるが、内容は知らない」（16.9%）、「大体の内容は知っている」（3.5%）、「内容も含め詳しく知っている」（0.8%）が続きます。

家族構成別では、大きな差はありませんが「１人暮らし」で「大体の内容は知っている」「内容も含め詳しく知っている」の割合が他よりも若干高くなっています。

		全体	内容も含め詳しく知っている	大体の内容は知っている	聞いたことはあるが、内容は知らない	知らない	無回答
	全体	2,577	0.8	3.5	16.9	63.9	14.9
家族構成別	１人暮らし	497	0.8	3.4	14.3	60.0	21.5
	夫婦２人暮らし（配偶者65歳以上）	1,032	0.9	3.2	18.5	65.2	12.2
	夫婦２人暮らし（配偶者64歳以下）	140	－	2.1	12.9	71.4	13.6
	息子・娘との２世帯	366	0.8	3.0	18.9	62.3	15.0
	その他	470	1.1	4.3	16.0	66.8	11.9
	無回答	72	－	6.9	16.7	45.8	30.6

年齢階層別では「65 歳～69 歳」で「内容も含め詳しく知っている」「大体の内容は知っている」の割合が高くなっています。

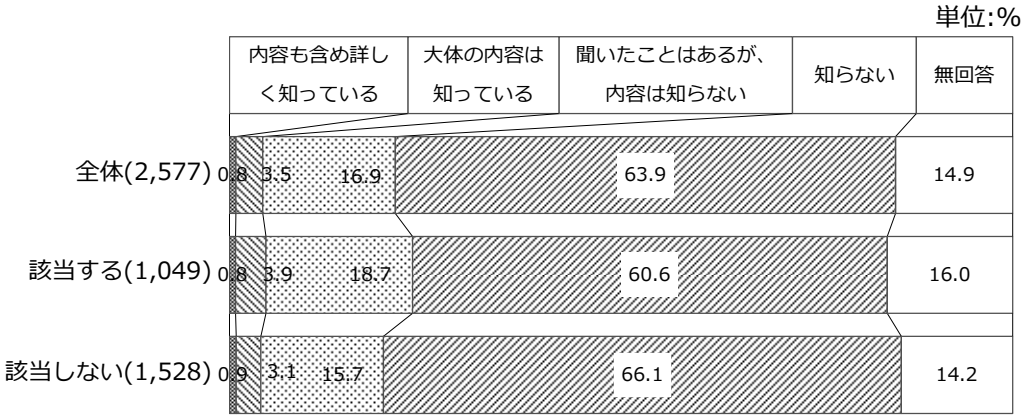
		全体	内容も含め詳しく知っている	大体の内容は知っている	聞いたことはあるが、内容は知らない	知らない	無回答
	全体	2,577	0.8	3.5	16.9	63.9	14.9
年齢	65歳～69歳	553	1.1	4.2	17.4	70.3	7.1
	70歳～74歳	791	0.5	2.7	18.6	67.6	10.6
	75歳～79歳	600	1.3	3.3	17.0	60.0	18.3
	80歳～84歳	388	－	4.6	14.2	59.3	21.9
	85歳～89歳	169	0.6	3.0	13.6	54.4	28.4
	90歳～94歳	53	－	1.9	18.9	54.7	24.5
	95歳～99歳	5	－	－	－	40.0	60.0
	100歳以上	－	*	*	*	*	*
	無回答	18	11.1	5.6	16.7	50.0	16.7

地区別では、「第１地区」で「大体の内容は知っている」「内容も含め詳しく知っている」の割合が最も高くなっています。

		全体	内容も含め詳しく知っている	大体の内容は知っている	聞いたことはあるが、内容は知らない	知らない	無回答
全体		2,577	0.8	3.5	16.9	63.9	14.9
居住地区	第１地区	556	1.1	4.1	18.9	61.7	14.2
	第２地区	1,035	0.9	3.4	17.5	63.4	14.9
	第３地区	968	0.4	3.1	15.2	65.9	15.4
	無回答	18	11.1	5.6	16.7	50.0	16.7

※ 認知機能の低下がみられる方（[19 各種リスクの状況 ④ 認知機能] 208 頁参照）からみた「市で行っている事業の認知／認知症家族会」

「認知機能の低下がみられる方」に「該当する方」は、「該当しない方」と比べて、「認知症家族会」について「内容も含め詳しく知っている」「大体の内容は知っている」と回答した人の割合が3.7%高くなっています。



⑥ 徘徊高齢者家族支援サービス（ＧＰＳ機器の貸与）

「知らない」が67.4%で最も多く、「聞いたことはあるが、内容は知らない」（14.5%）、「大体の内容は知っている」（2.8%）、「内容も含め詳しく知っている」（0.7%）が続きます。

年齢階層が高くなるほど、「知らない」の比率が下がる傾向にあります。

家族構成別では、大きな差はありませんが「１人暮らし」で「大体の内容は知っている」「内容も含め詳しく知っている」の割合が他よりも若干高くなっています。

		全体	内容も含め詳しく知っている	大体の内容は知っている	聞いたことはあるが、内容は知らない	知らない	無回答
	全体	2,577	0.7	2.8	14.5	67.4	14.6
家族構成別	１人暮らし	497	1.0	3.0	12.5	62.6	20.9
	夫婦２人暮らし（配偶者65歳以上）	1,032	0.5	3.0	16.0	68.5	12.0
	夫婦２人暮らし（配偶者64歳以下）	140	－	1.4	11.4	74.3	12.9
	息子・娘との２世帯	366	0.8	1.6	16.1	66.4	15.0
	その他	470	1.1	3.2	13.4	70.6	11.7
	無回答	72	－	4.2	12.5	55.6	27.8

年齢階層別では「90 歳～94 歳」で「内容も含め詳しく知っている」「大体の内容は知っている」の割合が高くなっています。

		全体	内容も含め詳しく知っている	大体の内容は知っている	聞いたことはあるが、内容は知らない	知らない	無回答
	全体	2,577	0.7	2.8	14.5	67.4	14.6
年齢	65歳～69歳	553	0.9	2.7	16.8	72.7	6.9
	70歳～74歳	791	0.5	3.2	13.7	72.3	10.4
	75歳～79歳	600	1.0	2.3	16.0	63.3	17.3
	80歳～84歳	388	0.3	3.1	12.6	62.6	21.4
	85歳～89歳	169	－	1.8	11.8	57.4	29.0
	90歳～94歳	53	1.9	1.9	11.3	58.5	26.4
	95歳～99歳	5	－	－	－	40.0	60.0
	100歳以上	－	*	*	*	*	*
	無回答	18	5.6	11.1	11.1	55.6	16.7

地区別では、「第２地区」で「大体の内容は知っている」「内容も含め詳しく知っている」の割合が最も高くなっています。

		全体	内容も含め詳しく知っている	大体の内容は知っている	聞いたことはあるが、内容は知らない	知らない	無回答
全体		2,577	0.7	2.8	14.5	67.4	14.6
居住地区	第１地区	556	0.9	2.2	14.4	68.3	14.2
	第２地区	1,035	0.7	3.3	15.7	66.0	14.4
	第３地区	968	0.5	2.5	13.4	68.6	15.0
	無回答	18	5.6	11.1	11.1	55.6	16.7

⑦ 地域包括支援センターによる見守り

「知らない」が 49.5%で最も多く、「聞いたことはあるが、内容は知らない」（22.4%）、「大体の内容は知っている」（11.3%）、「内容も含め詳しく知っている」（2.1%）が続きます。

家族構成別では、大きな差はありませんが「夫婦２人暮らし（配偶者 65 歳以上）」「息子・娘との２世帯」で「大体の内容は知っている」「内容も含め詳しく知っている」の割合が他よりも若干高くなっています。

		全体	内容も含め詳しく知っている	大体の内容は知っている	聞いたことはあるが、内容は知らない	知らない	無回答
	全体	2,577	2.1	11.3	22.4	49.5	14.7
家族構成別	１人暮らし	497	1.6	9.9	20.3	46.9	21.3
	夫婦２人暮らし（配偶者65歳以上）	1,032	2.2	11.7	23.4	50.9	11.8
	夫婦２人暮らし（配偶者64歳以下）	140	0.7	10.0	20.7	55.0	13.6
	息子・娘との２世帯	366	2.7	11.2	20.2	50.8	15.0
	その他	470	2.6	13.2	25.1	47.4	11.7
	無回答	72	1.4	5.6	19.4	44.4	29.2

年齢階層別では「65 歳～69 歳」で「内容も含め詳しく知っている」の割合が高くなっています。

		全体	内容も含め詳しく知っている	大体の内容は知っている	聞いたことはあるが、内容は知らない	知らない	無回答
	全体	2,577	2.1	11.3	22.4	49.5	14.7
年齢	65歳～69歳	553	3.6	11.6	26.2	51.4	7.2
	70歳～74歳	791	1.6	10.1	21.7	55.4	11.1
	75歳～79歳	600	3.2	11.8	21.8	46.3	16.8
	80歳～84歳	388	0.5	12.6	22.7	43.3	20.9
	85歳～89歳	169	－	8.3	16.6	46.7	28.4
	90歳～94歳	53	－	15.1	20.8	37.7	26.4
	95歳～99歳	5	－	20.0	20.0	－	60.0
	100歳以上	－	*	*	*	*	*
	無回答	18	5.6	22.2	5.6	50.0	16.7

地区別では、「第２地区」で「大体の内容は知っている」「内容も含め詳しく知っている」の割合が最も高くなっています。

		全体	内容も含め詳しく知っている	大体の内容は知っている	聞いたことはあるが、内容は知らない	知らない	無回答
全体		2,577	2.1	11.3	22.4	49.5	14.7
居住地区	第１地区	556	1.6	8.3	21.9	53.8	14.4
	第２地区	1,035	2.5	12.8	23.7	46.8	14.3
	第３地区	968	2.0	11.3	21.6	50.0	15.2
	無回答	18	5.6	22.2	5.6	50.0	16.7

⑧ 民生児童委員による見守り

「知らない」が 37.6%で最も多く、「聞いたことはあるが、内容は知らない」（26.1%）、「大体の内容は知っている」（18.9%）、「内容も含め詳しく知っている」（3.4%）が続きます。

家族構成別では、「夫婦２人暮らし（配偶者 65 歳以上）」で「大体の内容は知っている」「内容も含め詳しく知っている」の割合が最も高くなっています。

		全体	内容も含め詳しく知っている	大体の内容は知っている	聞いたことはあるが、内容は知らない	知らない	無回答
	全体	2,577	3.4	18.9	26.1	37.6	14.0
家族構成別	１人暮らし	497	2.6	19.1	21.7	36.8	19.7
	夫婦２人暮らし（配偶者65歳以上）	1,032	4.0	20.5	26.6	37.2	11.6
	夫婦２人暮らし（配偶者64歳以下）	140	1.4	12.9	30.0	42.9	12.9
	息子・娘との２世帯	366	4.1	16.9	27.9	37.2	13.9
	その他	470	3.0	18.1	28.7	38.7	11.5
	無回答	72	2.8	19.4	13.9	34.7	29.2

年齢階層別では「75 歳～79 歳」で「内容も含め詳しく知っている」「大体の内容は知っている」の割合が高くなっています。

		全体	内容も含め詳しく知っている	大体の内容は知っている	聞いたことはあるが、内容は知らない	知らない	無回答
	全体	2,577	3.4	18.9	26.1	37.6	14.0
年齢	65歳～69歳	553	3.6	15.4	30.6	43.4	7.1
	70歳～74歳	791	2.7	17.7	27.4	41.5	10.7
	75歳～79歳	600	4.2	22.0	23.7	33.8	16.3
	80歳～84歳	388	3.1	22.2	24.7	29.6	20.4
	85歳～89歳	169	2.4	17.8	18.9	35.5	25.4
	90歳～94歳	53	7.5	15.1	20.8	34.0	22.6
	95歳～99歳	5	－	－	20.0	20.0	60.0
	100歳以上	－	*	*	*	*	*
	無回答	18	5.6	27.8	22.2	27.8	16.7

地区別では、「第２地区」で「大体の内容は知っている」「内容も含め詳しく知っている」の割合が最も高くなっています。

		全体	内容も含め詳しく知っている	大体の内容は知っている	聞いたことはあるが、内容は知らない	知らない	無回答
全体		2,577	3.4	18.9	26.1	37.6	14.0
居住地区	第１地区	556	3.1	19.1	26.8	37.9	13.1
	第２地区	1,035	3.9	18.6	26.5	36.8	14.2
	第３地区	968	3.0	18.8	25.3	38.5	14.4
	無回答	18	5.6	27.8	22.2	27.8	16.7

（2）認知症の人が在宅で暮らすために必要なもの

認知症の人が、安心して在宅で暮らせるために必要なものは何だと思われますか
(○は３つまで)

「介護する人の負担を減らす取組み」が 50.4％で最も多く、「認知症の人が利用できる介護サービスの充実」（47.0%）、「心配事を気軽に相談できる場所」（36.6%）、「近所の人の認知症への正しい理解」（21.7%）が続きます。

認知能力に低下がみられる方（[19 各種リスクの状況 ④ 認知機能] 208 頁参照）に「該当する」方の比率が、「該当しない」方と比べて、比率が高くなっているのは「介護する人の負担を減らす取組み」「認知症の人が利用できる介護サービスの充実」などとなっています。

		全体	心配事を気軽に相談できる場所	介護する人の負担を減らす取組み	近所の人の認知症への正しい理解	近所で認知症の人や家族を見守る体制作り	行方不明になった高齢者の早期発見の取組み	認知症の人がいきがいを感じられる取組み	認知症の人が利用できる介護サービスの充実	特にない	その他	無回答
	全体	2,577	36.6	50.4	21.7	17.9	14.2	15.7	47.0	6.2	1.1	11.8
認知機能の低下	該当する	1,049	35.7	51.4	21.3	17.3	14.5	17.3	47.7	5.1	1.5	12.9
	該当しない	1,528	37.2	49.8	21.9	18.2	14.1	14.7	46.5	6.9	0.9	11.0
	無回答	-	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*

家族構成別では、全体的に大きな差はありませんが、「１人暮らし」のみ「介護する人の負担を減らす取組み」の割合が少なくなっています。

		全体	心配事を気軽に相談できる場所	介護する人の負担を減らす取組み	近所の人の認知症への正しい理解	近所で認知症の人や家族を見守る体制作り	行方不明になった高齢者の早期発見の取組み	認知症の人がいきがいを感じられる取組み	認知症の人が利用できる介護サービスの充実	特にない	その他	無回答
	全体	2,577	36.6	50.4	21.7	17.9	14.2	15.7	47.0	6.2	1.1	11.8
家族構成別	１人暮らし	497	34.8	37.8	22.1	15.9	11.3	14.3	40.8	10.1	1.0	15.3
	夫婦２人暮らし（配偶者65歳以上）	1,032	38.6	54.2	21.3	18.5	15.7	15.8	49.3	4.5	1.6	9.3
	夫婦２人暮らし（配偶者64歳以下）	140	35.7	50.0	21.4	22.9	15.7	14.3	40.0	7.1	0.7	10.7
	息子・娘との２世帯	366	36.9	53.6	22.4	18.0	14.2	17.2	47.5	6.8	0.3	11.2
	その他	470	35.3	54.5	21.9	18.7	14.5	16.8	51.7	4.7	0.9	11.7
	無回答	72	30.6	43.1	18.1	5.6	9.7	12.5	34.7	8.3	1.4	27.8

年齢階層別では、年齢が高くなるにしたがって「介護する人の負担を減らす取組み」「認知症の人が利用できる介護サービスの充実」の比率が低くなる傾向にあります。

		全体	心配事を気軽に相談できる場所	介護する人の負担を減らす取組み	近所の人の認知症への正しい理解	近所で認知症の人や家族を見守る体制作り	行方不明になった高齢者の早期発見の取組み	認知症の人がいきがいを感じられる取組み	認知症の人が利用できる介護サービスの充実	特にない	その他	無回答
	全体	2,577	36.6	50.4	21.7	17.9	14.2	15.7	47.0	6.2	1.1	11.8
年齢	65歳～69歳	553	37.3	59.5	19.2	17.9	14.6	16.3	53.0	7.1	0.9	7.1
	70歳～74歳	791	35.3	55.1	21.7	20.1	13.4	14.9	50.1	4.9	1.4	9.9
	75歳～79歳	600	36.8	48.8	21.2	16.5	15.3	15.7	45.8	6.3	1.2	12.5
	80歳～84歳	388	39.2	40.2	25.3	16.2	13.7	16.8	40.2	7.0	1.0	16.2
	85歳～89歳	169	33.1	32.5	21.9	13.6	14.2	17.8	36.1	5.9	0.6	21.3
	90歳～94歳	53	39.6	34.0	24.5	22.6	18.9	11.3	32.1	11.3	－	15.1
	95歳～99歳	5	60.0	60.0	20.0	－	－	20.0	20.0	－	－	40.0
	100歳以上	－	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
	無回答	18	33.3	55.6	22.2	27.8	5.6	5.6	61.1	－	5.6	11.1

これを地区別でみると、「介護する人の負担を減らす取組み」「認知症の人が利用できる介護サービスの充実」では「第１地区」の比率が最も高く、「第２地区」が続いています。

「心配事を気軽に相談できる場所」では「第３地区」の比率が最も高く、「第２地区」が続いています。

		全体	心配事を気軽に相談できる場所	介護する人の負担を減らす取組み	近所の人の認知症への正しい理解	近所で認知症の人や家族を見守る体制作り	行方不明になった高齢者の早期発見の取組み	認知症の人がいきがいを感じられる取組み	認知症の人が利用できる介護サービスの充実	特にない	その他	無回答
	全体	2,577	36.6	50.4	21.7	17.9	14.2	15.7	47.0	6.2	1.1	11.8
居住地区	第１地区	556	34.7	53.2	23.0	16.9	16.4	16.2	48.6	5.2	2.0	10.3
	第２地区	1,035	36.6	50.1	21.1	19.6	12.3	15.2	46.8	6.5	0.8	12.2
	第３地区	968	37.8	49.1	21.5	16.3	15.3	16.2	46.0	6.5	0.9	12.2
	無回答	18	33.3	55.6	22.2	27.8	5.6	5.6	61.1	-	5.6	11.1

（3）認知症の人やその家族のためにできること

認知症の人やその家族のために、地域においてあなたができることは何ですか
（○は３つまで）

「自分自身の認知症予防を心がける」が 66.0%で最も多く、「日頃から地域でのコミュニケーションを大切にする」（26.8%）、「認知症に関する講座を受け、認知症の正しい知識を得ること」（24.7%）、「近所で困っている人に声をかける（話し相手になる）」（23.6%）が続きます。

家族構成別では「夫婦２人暮らし(配偶者 65 歳以上)」「息子・娘との２世帯」では、全体的に平均を上回る高い値となっています。

		全体	認知症に関する講座を受け、認知症の正しい知識を得ること	近所で困っている人に声をかける（話し相手になる）	日頃から地域でのコミュニケーションを大切にする	認知症サポーターになる	自分自身の認知症予防を心がける	高齢者施設でのボランティア活動（話し相手やレクリエーション補助など）	行方不明になった認知症高齢者を探す協力	認知症家族会に対する協力	特にない	その他	無回答
	全体	2,577	24.7	23.6	26.8	1.2	66.0	2.3	7.4	5.4	9.9	1.0	11.1
家族構成別	１人暮らし	497	21.9	22.5	21.5	1.2	58.6	3.8	6.8	3.8	11.9	1.6	14.3
	夫婦２人暮らし（配偶者65歳以上）	1,032	25.5	24.1	28.8	1.3	68.9	1.8	7.3	5.3	9.6	1.2	9.5
	夫婦２人暮らし（配偶者64歳以下）	140	27.9	17.9	20.7	2.9	62.1	2.9	9.3	4.3	12.9	0.7	10.7
	息子・娘との２世帯	366	24.9	27.0	30.9	1.4	68.3	1.9	6.8	7.4	8.5	0.3	10.9
	その他	470	25.5	24.0	28.3	0.6	69.1	1.9	8.3	5.5	8.7	0.4	9.4
	無回答	72	20.8	12.5	16.7	－	51.4	2.8	5.6	8.3	11.1	2.8	25.0

年齢構成では、「自分自身の認知症予防を心がける」「認知症に関する講座を受け、認知症の正しい知識を得ること」で年齢が高くなるほど比率が下がってくる傾向にあります。

		全体	認知症に関する講座を受け、認知症の正しい知識を得ること	近所で困っている人に声をかける（話し相手になる）	日頃から地域でのコミュニケーションを大切にする	認知症サポーターになる	自分自身の認知症予防を心がける	高齢者施設でのボランティア活動（話し相手やレクリエーション補助など）	行方不明になった認知症高齢者を探す協力	認知症家族会に対する協力	特にない	その他	無回答
	全体	2,577	24.7	23.6	26.8	1.2	66.0	2.3	7.4	5.4	9.9	1.0	11.1
年齢	65歳～69歳	553	27.5	22.6	26.2	2.0	66.2	2.5	5.8	3.6	12.8	0.9	7.8
	70歳～74歳	791	27.2	25.5	28.4	1.3	66.2	2.3	8.0	5.7	9.1	1.0	9.2
	75歳～79歳	600	24.2	24.8	25.3	1.7	70.5	2.3	7.5	5.8	8.8	0.7	10.5
	80歳～84歳	388	21.6	21.9	28.1	－	66.5	2.3	8.0	7.2	7.7	1.0	14.9
	85歳～89歳	169	18.3	18.9	25.4	－	54.4	3.0	6.5	3.6	10.1	3.0	21.3
	90歳～94歳	53	11.3	24.5	18.9	－	43.4	－	13.2	5.7	20.8	－	17.0
	95歳～99歳	5	－	－	20.0	－	40.0	－	－	－	－	－	40.0
	100歳以上	－	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
	無回答	18	22.2	5.6	33.3	－	72.2	－	5.6	11.1	11.1	－	11.1

これを地区別でみると、「自分自身の認知症予防を心がける」では「第３地区」の比率が最も高く、「第１地区」が続いています。「日頃から地域でのコミュニケーションを大切にする」では「第２地区」の比率が最も高く、「第３地区」が続いています。「認知症に関する講座を受け、認知症の正しい知識を得ること」「ボランティアを頼む必要がないから」では「第１地区」の比率が最も高く、「第２地区」が続いています。

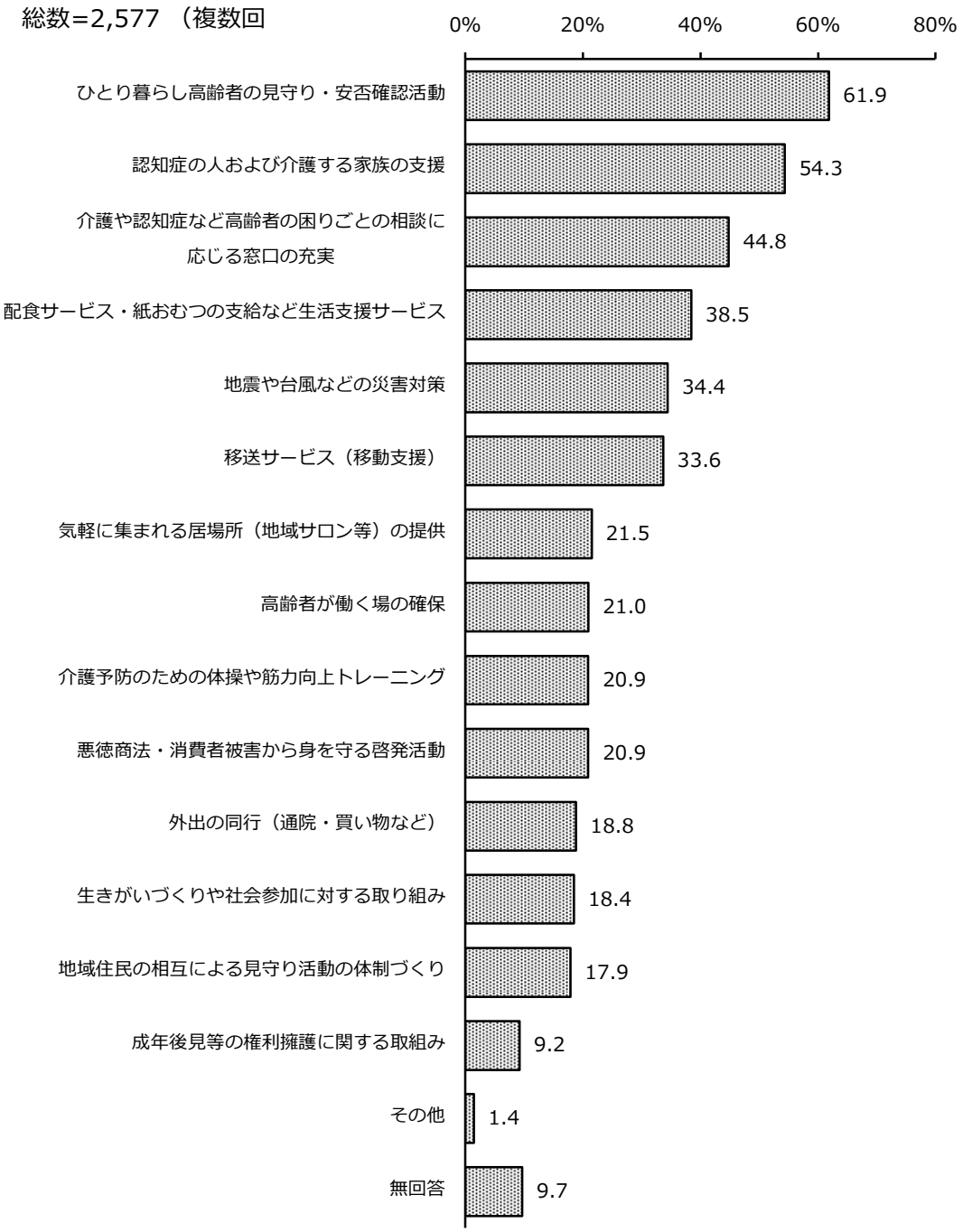
		全体	認知症に関する講座を受け、認知症の正	近所で困っている人に声をかける（話し相手になる）	日頃から地域でのコミュニケーションを大切にする	認知症サポーターになる	自分自身の認知症予防を心がける	高齢者施設でのボランティア活動（話し相手やレクリエーション補助など）	行方不明になった認知症高齢者を探す協力	認知症家族会に対する協力	特にない	その他	無回答
	全体	2,577	24.7	23.6	26.8	1.2	66.0	2.3	7.4	5.4	9.9	1.0	11.1
居住地区	第１地区	556	26.3	23.0	25.5	1.3	65.8	2.7	8.3	5.6	9.2	1.4	10.6
	第２地区	1,035	24.8	24.0	28.0	1.7	64.1	2.0	6.4	5.1	10.3	1.0	11.8
	第３地区	968	23.8	23.8	26.1	0.6	68.1	2.5	8.0	5.5	9.9	0.8	10.6
	無回答	18	22.2	5.6	33.3	-	72.2	-	5.6	11.1	11.1	-	11.1

16 市が充実させるべき取り組みについて

（1）市が充実させるべき高齢者施策

市が充実させるべきと思う高齢者施策は次のうちどれですか(あてはまるものすべてに○)

「ひとり暮らし高齢者の見守り・安否確認活動」が 61.9%で最も多く、「認知症の人および介護する家族の支援」（54.3%）、「介護や認知症など高齢者の困りごとの相談に応じる窓口の充実」（44.8%）、「配食サービス・紙おむつの支給など生活支援サービス」（38.5%）が続きます。



年齢構成では、「ひとり暮らし高齢者の見守り・安否確認活動」「認知症の人および介護する家族の支援」「介護や認知症など高齢者の困りごとの相談に応じる窓口の充実」「配食サービス・紙おむつの支給など生活支援サービス」など多くの項目で、年齢が高くなるほど比率が下がる傾向にあります。

		全体	ひとり暮らし高齢者の見守り・安否確認活動	認知症の人および介護する家族の支援	生きがいづくりや社会参加に対する取り組み	介護予防のための体操や筋力向上トレーニング	介護や認知症など高齢者の困りごとの相談に応じる窓口の充実	配食サービス・紙おむつの支給など生活支援サービス	高齢者が働く場の確保	成年後見等の権利擁護に関する取組み	悪徳商法・消費者被害から身を守る啓発活動	地域住民の相互による見守り活動の体制づくり	外出の同行（通院・買い物など）	移送サービス（移動支援）	気軽に集まれる居場所（地域サロン等）の提供	地震や台風などの災害対策	その他	無回答
	全体	2,577	61.9	54.3	18.4	20.9	44.8	38.5	21.0	9.2	20.9	17.9	18.8	33.6	21.5	34.4	1.4	9.7
年齢	65歳～69歳	553	68.4	63.5	24.4	26.6	47.2	43.4	34.2	13.2	22.8	21.0	23.0	40.7	22.8	38.5	1.8	5.4
	70歳～74歳	791	63.5	58.0	19.0	21.0	43.5	38.3	23.1	9.7	21.0	16.9	17.4	35.0	23.1	32.9	1.6	8.1
	75歳～79歳	600	60.5	49.5	13.5	19.7	47.2	39.8	16.2	7.7	18.8	17.5	17.0	30.7	21.5	32.8	1.2	9.8
	80歳～84歳	388	57.7	48.7	18.0	16.0	43.0	34.3	11.6	6.4	21.9	17.3	17.3	27.3	19.1	36.1	1.3	13.4
	85歳～89歳	169	47.9	40.8	17.8	19.5	39.6	32.5	8.9	5.3	18.3	14.2	23.1	30.8	17.8	30.2	1.2	18.9
	90歳～94歳	53	56.6	39.6	13.2	17.0	35.8	24.5	15.1	9.4	26.4	17.0	15.1	26.4	9.4	37.7	-	18.9
	95歳～99歳	5	40.0	60.0	-	40.0	40.0	20.0	-	-	-	-	40.0	20.0	-	20.0	-	20.0
	100歳以上	-	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	-	*	*	*
	無回答	18	77.8	61.1	11.1	11.1	66.7	38.9	16.7	16.7	22.2	33.3	11.1	44.4	38.9	27.8	-	5.6

これを地区別でみると、「ひとり暮らし高齢者の見守り・安否確認活動」では「第２地区」の比率が最も高く、「第３地区」が続いています。「認知症の人および介護する家族の支援」では「第２地区」の比率が最も高く、「第１地区」が続いています。「介護や認知症など高齢者の困りごとの相談に応じる窓口の充実」では「第２地区」の比率が最も高く、「第１地区」が続いています。

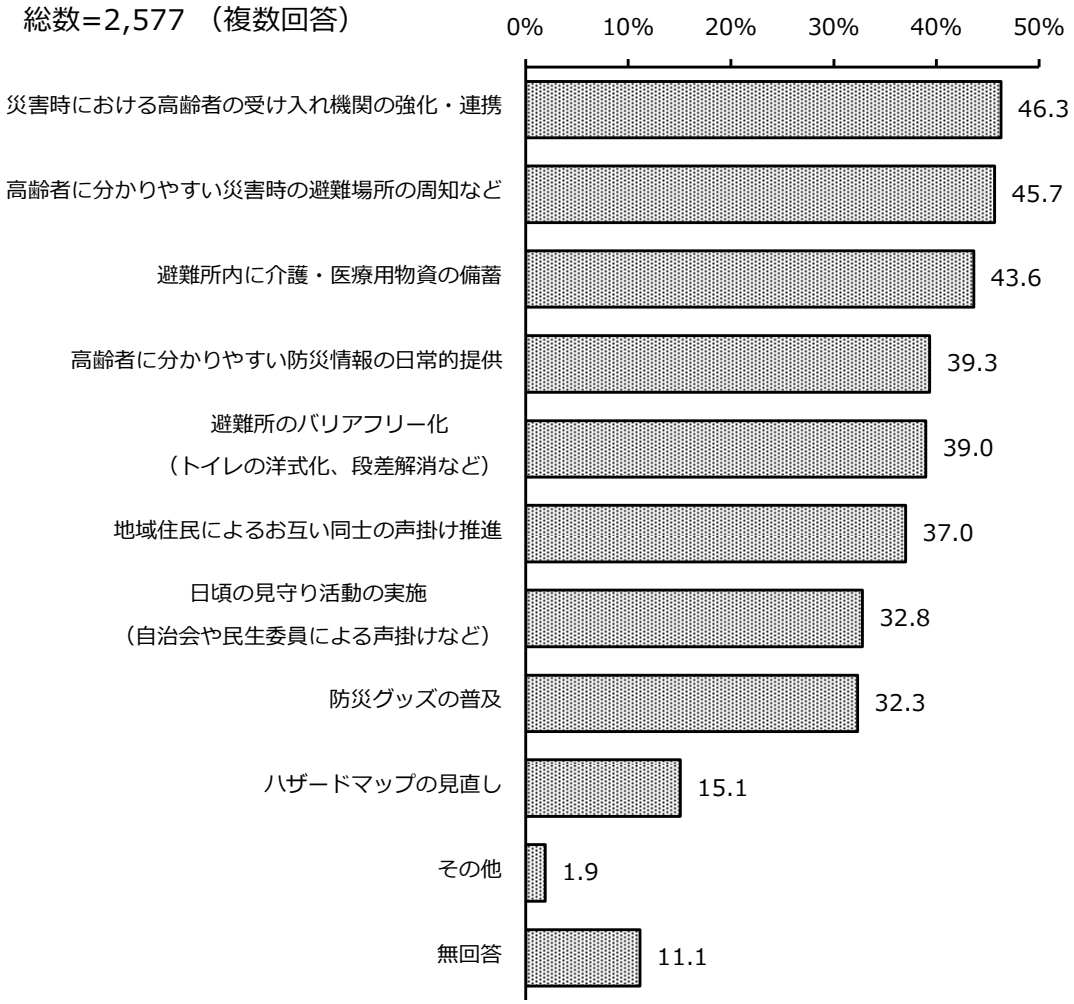
		全体	ひとり暮らし高齢者の見守り・安否確認活動	認知症の人および介護する家族の支援	生きがいづくりや社会参加に対する取り組み	介護予防のための体操や筋力向上トレーニング	介護や認知症など高齢者の困りごとの相談に応じる窓口の充実	配食サービス・紙おむつの支給など生活支援サービス	高齢者が働く場の確保	成年後見等の権利擁護に関する取組み	悪徳商法・消費者被害から身を守る啓発活動	地域住民の相互による見守り活動の体制づくり	外出の同行（通院・買い物など）	移送サービス（移動支援）	気軽に集まれる居場所（地域サロン等）の提供	地震や台風などの災害対策	その他	無回答
	全体	2,577	61.9	54.3	18.4	20.9	44.8	38.5	21.0	9.2	20.9	17.9	18.8	33.6	21.5	34.4	1.4	9.7
居住地区	第１地区	556	59.4	54.1	21.6	22.5	46.9	37.8	20.3	10.4	21.6	18.0	18.2	34.5	25.2	33.3	1.6	9.5
	第２地区	1,035	62.5	56.0	18.1	20.3	45.6	41.1	21.7	8.8	22.2	20.2	20.6	34.3	21.7	36.1	1.4	9.4
	第３地区	968	62.3	52.5	17.1	20.9	42.4	36.1	20.6	8.9	19.1	15.1	17.5	32.2	18.8	33.4	1.3	10.1
	無回答	18	77.8	61.1	11.1	11.1	66.7	38.9	16.7	16.7	22.2	33.3	11.1	44.4	38.9	27.8	-	5.6

（2）市が行うべき災害対策

市が行うべき災害対策は次のうちどれですか（あてはまるものすべてに○）

「災害時における高齢者の受け入れ機関の強化・連携」が 46.3%で最も多く、「高齢者に分かりやすい災害時の避難場所の周知など」（45.7%）、「避難所内に介護・医療用物資の備蓄」（43.6%）、「高齢者に分かりやすい防災情報の日常的提供」（39.3%）が続きます。

前期調査と比較すると、「災害時における高齢者の受け入れ機関の強化・連携」が２位から１位に上がり、「高齢者に分かりやすい災害時の避難場所の周知など」と逆転しています。



年齢構成では、「災害時における高齢者の受け入れ機関の強化・連携」「高齢者に分かりやすい災害時の避難場所の周知など」などで、年齢が上がるにしたがい比率が下がる傾向にあります。また、「地域住民によるお互い同士の声掛け推進」「日頃の見守り活動の実施(自治会や民生委員による声掛けなど)」では、年齢とともに比率が上がる傾向が見られます。

		全体	地域住民によるお互い同士の声掛け推進	日頃の見守り活動の実施（自治会や民生委員による声掛けなど）	避難所のバリアフリー化（トイレの洋式化、段差解消など）	高齢者に分かりやすい防災情報の日常的提供	避難所内に介護・医療用物資の備蓄	高齢者に分かりやすい災害時の避難場所の周知など	防災グッズの普及	災害時における高齢者の受け入れ機関の強化・連携	ハザードマップの見直し	その他	無回答
	全体	2,577	37.0	32.8	39.0	39.3	43.6	45.7	32.3	46.3	15.1	1.9	11.1
年齢	65歳～69歳	553	34.9	29.1	41.6	39.6	54.1	44.8	41.0	50.6	19.0	2.0	5.6
	70歳～74歳	791	34.9	29.3	38.2	39.6	43.4	44.4	33.9	47.3	16.4	2.7	8.8
	75歳～79歳	600	39.3	34.3	39.7	41.0	39.7	46.7	30.3	44.0	13.7	1.5	12.0
	80歳～84歳	388	39.4	38.9	38.9	38.1	40.7	49.7	27.3	45.6	11.6	1.5	16.5
	85歳～89歳	169	39.6	40.2	34.3	34.9	34.3	42.6	18.9	40.8	7.7	1.2	20.7
	90歳～94歳	53	41.5	35.8	32.1	37.7	37.7	41.5	20.8	32.1	17.0	－	20.8
	95歳～99歳	5	－	20.0	40.0	20.0	40.0	40.0	20.0	20.0	20.0	－	40.0
	100歳以上	－	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
	無回答	18	33.3	38.9	33.3	44.4	33.3	50.0	33.3	61.1	16.7	－	11.1

これを地区別でみると、「災害時における高齢者の受け入れ機関の強化・連携」「高齢者に分かりやすい災害時の避難場所の周知など」では「第１地区」の比率が最も高く、「第２地区」が続いています。「避難所内に介護・医療用物資の備蓄」では「第２地区」の比率が最も高く、「第１地区」が続いています。

		全体	地域住民によるお互い同士の声掛け推進	日頃の見守り活動の実施（自治会や民生委員による声掛けなど）	避難所のバリアフリー化（トイレの洋式化、段差解消など）	高齢者に分かりやすい防災情報の日常的提供	避難所内に介護・医療用物資の備蓄	高齢者に分かりやすい災害時の避難場所の周知など	防災グッズの普及	災害時における高齢者の受け入れ機関の強化・連携	ハザードマップの見直し	その他	無回答
全体		2,577	37.0	32.8	39.0	39.3	43.6	45.7	32.3	46.3	15.1	1.9	11.1
居住地区	第１地区	556	36.3	33.6	39.2	39.2	43.2	47.7	31.5	47.7	14.0	2.5	10.8
	第２地区	1,035	39.6	35.5	39.1	40.3	44.7	46.1	33.1	46.3	17.0	1.6	11.6
	第３地区	968	34.6	29.3	38.7	38.3	42.9	44.0	31.9	45.2	13.5	1.9	10.8
	無回答	18	33.3	38.9	33.3	44.4	33.3	50.0	33.3	61.1	16.7	-	11.1

17 フレイルについて

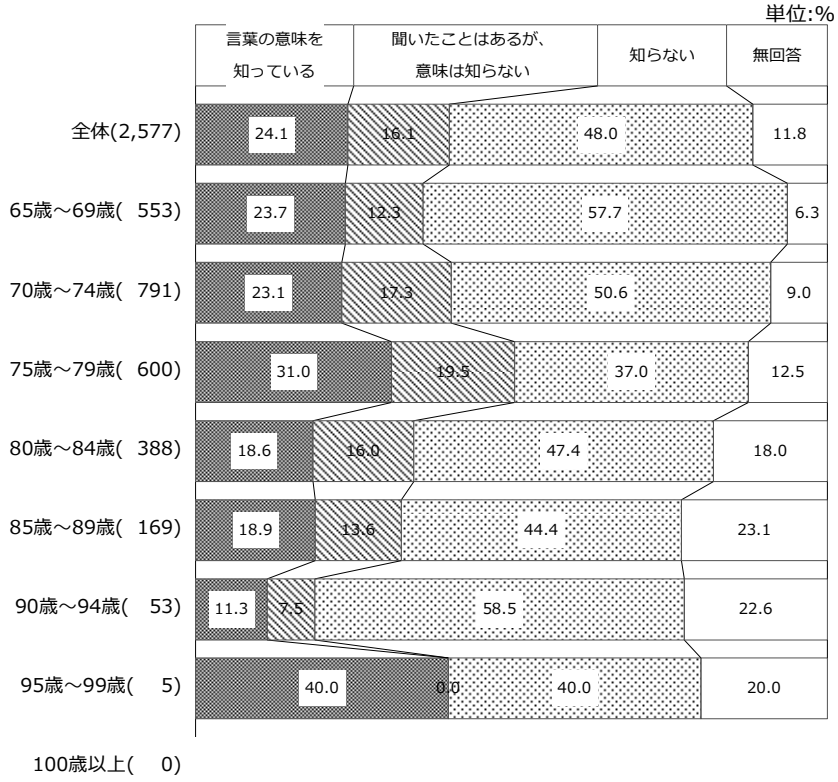
（1）「フレイル」という言葉の認知状況

「フレイル」という言葉を知っていますか

「知らない」が 48.0%で最も多く、「言葉の意味を知っている」（24.1%）、「聞いたことはあるが、意味は知らない」（16.1%）が続きます。

前期調査と比較すると、「言葉の意味を知っている」の比率がかなり上がっています。

年齢階層別では、特に「75 歳～79 歳」と「95 歳～99 歳」で「言葉の意味を知っている」の比率が高くなっています。



地区別では、「第１地区」で「言葉の意味を知っている」の割合が最も高くなっています。

		全体	言葉の意味を知っている	聞いたことはあるが、意味は知らない	知らない	無回答
全体		2,577	24.1	16.1	48.0	11.8
居住地区	第１地区	556	28.8	14.6	44.8	11.9
	第２地区	1,035	23.8	15.9	48.3	12.0
	第３地区	968	21.3	17.0	50.0	11.7
	無回答	18	50.0	16.7	27.8	5.6

（2）フレイルや介護状態にならないために取り組んでいること

あなたは、フレイルや介護状態にならないために自身で取り組んでいることはありますか
（あてはまるものすべてに○）

「健康診断の受診」が 66.5%で最も多く、「ウォーキング」（45.1%）、「趣味」（39.8%）、「歯科検診の受診」（39.0%）が続きます。

前期調査と比較すると、「ウォーキング」の順位が３位から２位に上がっています。

なお、これを年齢階層別にみると、「健康診断の受診」「歯科検診の受診」「ウォーキング」「ジム通い（スポーツジム）」「仕事」「趣味」「社会貢献・ボランティア」「人付き合い」では年齢階層が上がるにつれて比率が下がっていく傾向にあるのに対し、「認知症検査の受診」「栄養改善（低栄養予防）」では年齢階層が上がるにつれて比率が上がる傾向にあります。

	全体	健康診断の受診	歯科検診の受診	認知症検査の受診	体操	栄養改善（低栄養予防）	ウォーキング	ジム通い（スポーツジム）	脳トレ	仕事	趣味	社会貢献・ボランティア	人付き合い	その他	特になし	無回答
全体	2,577	66.5	39.0	8.7	25.2	17.1	45.1	5.0	22.4	21.3	39.8	7.1	32.4	1.7	5.7	8.8
65歳～69歳	553	67.6	39.8	5.2	21.2	14.6	46.7	7.6	21.0	36.3	43.0	8.7	31.1	2.0	7.8	3.4
70歳～74歳	791	68.8	42.7	6.1	26.3	16.2	49.8	6.1	20.6	27.3	42.2	8.3	31.7	1.4	5.4	6.8
75歳～79歳	600	68.2	39.2	9.3	27.2	19.7	48.0	4.3	23.7	13.8	41.7	6.7	34.8	1.7	4.5	9.5
80歳～84歳	388	62.4	36.1	16.5	29.1	16.8	40.2	1.8	26.5	8.0	36.6	5.4	33.2	1.3	6.2	12.9
85歳～89歳	169	57.4	29.0	11.2	20.7	18.3	27.2	1.8	20.7	7.1	26.6	4.1	31.4	3.6	3.6	21.3
90歳～94歳	53	60.4	26.4	9.4	17.0	26.4	20.8	－	20.8	7.5	18.9	1.9	28.3	1.9	5.7	15.1
95歳～99歳	5	40.0	－	－	20.0	－	20.0	－	20.0	－	20.0	－	20.0	－	20.0	20.0
100歳以上	－	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
無回答	18	72.2	50.0	11.1	22.2	16.7	38.9	11.1	27.8	11.1	27.8	5.6	33.3	－	5.6	11.1

これを地区別でみると、「健康診断の受診」では「第２地区」の比率が最も高く、「第３地区」が続いています。「ウォーキング」では「第１地区」の比率が最も高く、「第３地区」が続いています。「趣味」では「第１地区」の比率が最も高く、「第２地区」が続いています。

		全体	健康診断の受診	歯科検診の受診	認知症検査の受診	体操	栄養改善（低栄養予防）	ウォーキング	ジム通い（スポーツジム）	脳トレ	仕事	趣味	社会貢献・ボランティア	人付き合い	その他	特になし	無回答
全体		2,577	66.5	39.0	8.7	25.2	17.1	45.1	5.0	22.4	21.3	39.8	7.1	32.4	1.7	5.7	8.8
居住地区	第１地区	556	64.9	42.3	9.2	28.2	18.5	48.2	5.8	23.4	22.1	46.4	7.7	34.9	2.7	6.1	8.5
	第２地区	1,035	67.5	38.5	8.0	23.6	16.9	42.9	4.9	21.3	22.4	38.2	8.0	32.9	1.4	5.7	9.1
	第３地区	968	66.1	37.5	9.0	25.3	16.4	45.7	4.4	22.8	19.8	37.9	5.9	30.6	1.4	5.6	8.7
	無回答	18	72.2	50.0	11.1	22.2	16.7	38.9	11.1	27.8	11.1	27.8	5.6	33.3	-	5.6	11.1

（3）今後もっと取り組みたいこと

今後、もっと取り組みたいことはありますか（あてはまるものすべてに○）

「健康診断の受診」が 35.5%で最も多く、「ウォーキング」（33.0%）、「趣味」（28.0%）、「歯科検診の受診」（22.4%）が続きます。

なお、これを年齢階層別にみると、「ウォーキング」「趣味」「社会貢献・ボランティア」「ジム通い(スポーツジム)」「仕事」では年齢階層が上がるにつれて比率が下がっていく傾向にあります。

	全体	健康診断の受診	歯科検診の受診	認知症検査の受診	体操	栄養改善（低栄養予防）	ウォーキング	ジム通い（スポーツジム）	脳トレ	仕事	趣味	社会貢献・ボランティア	人付き合い	その他	特になし	無回答
全体	2,577	35.5	22.4	19.1	17.9	12.8	33.0	4.7	19.0	11.5	28.0	6.4	21.4	1.0	16.4	13.0
65歳～69歳	553	33.6	22.8	18.1	18.4	11.4	33.3	6.5	19.5	20.3	34.0	8.9	21.0	1.4	18.4	5.8
70歳～74歳	791	34.9	24.0	19.8	19.0	12.1	37.7	5.6	18.7	13.8	29.6	7.7	22.4	0.6	14.3	10.7
75歳～79歳	600	36.2	21.5	19.0	16.3	12.8	31.7	4.0	19.8	7.7	25.8	5.5	20.3	1.3	17.0	14.0
80歳～84歳	388	40.2	21.9	22.2	20.4	16.5	32.5	3.4	20.4	5.4	25.8	3.4	24.5	0.8	15.7	18.0
85歳～89歳	169	33.1	21.3	15.4	13.6	13.0	23.7	0.6	13.6	3.0	18.9	3.6	16.6	－	17.8	26.6
90歳～94歳	53	37.7	20.8	11.3	11.3	15.1	15.1	－	15.1	5.7	20.8	1.9	18.9	1.9	20.8	24.5
95歳～99歳	5	20.0	－	－	－	－	20.0	－	－	－	20.0	－	20.0	－	20.0	40.0
100歳以上	－	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
無回答	18	11.1	5.6	22.2	22.2	5.6	16.7	16.7	22.2	5.6	5.6	11.1	11.1	－	16.7	22.2

これを地区別でみると、「健康診断の受診」では「第３地区」の比率が最も高く、「第２地区」が続いています。「ウォーキング」では「第３地区」の比率が最も高く、「第２地区」が続いています。「趣味」では「第３地区」の比率が最も高く、「第２地区」が続いています。

		全体	健康診断の受診	歯科検診の受診	認知症検査の受診	体操	栄養改善（低栄養予防）	ウォーキング	ジム通い（スポーツジム）	脳トレ	仕事	趣味	社会貢献・ボランティア	人付き合い	その他	特になし	無回答
全体		2,577	35.5	22.4	19.1	17.9	12.8	33.0	4.7	19.0	11.5	28.0	6.4	21.4	1.0	16.4	13.0
居住地区	第１地区	556	34.4	25.5	18.3	18.5	16.0	30.4	4.0	19.1	11.3	28.2	7.4	23.0	1.8	17.3	12.2
	第２地区	1,035	35.0	22.0	18.7	17.9	11.8	34.3	4.9	18.7	11.1	28.4	6.2	20.8	1.1	16.3	12.9
	第３地区	968	37.1	21.4	19.9	17.6	12.3	33.4	4.6	19.1	12.2	27.9	6.0	21.3	0.4	16.0	13.3
	無回答	18	11.1	5.6	22.2	22.2	5.6	16.7	16.7	22.2	5.6	5.6	11.1	11.1	-	16.7	22.2

18 自由記入

今後の青梅市の高齢者施策についてのご意見等があれば、ご自由にご記入ください。

青梅市の高齢者施策について自由に意見等を募ると 355 人の方から意見が寄せられました。

（単位：件）

健康・保健・医療・介護予防について	32	相談体制について	9
暮らし・安全・生活支援について	98	情報提供体制について	16
地域活動・社会参加・生きがいについて	53	政策一般に関するものについて	24
介護保険について	36	その他	87

健康・保健・医療・介護予防について
健康診断の内容が少ないように思われる。レントゲン、視力、聴力、これを項目に入れてほしい。
後期高齢者医療保険、高すぎます。80 才で主人の 2 か月に 1 回入る年金に比べると高い。
医者と市が連携して即、必要なサポートをして貰えるような仕組みを考えて欲しい。
傷病で入院した時とその後寝たきりにならないための取り組みを充実させてほしい。従事者の心構え、取り組み方の向上も大切だと思う。
かかりつけの医療機関の認知症に対する理解や知識不足を感じたことが多くある。 たとえ後期高齢者であっても安易に診断して処方せずに経験や知識が乏しいのなら専門医を紹介するなどの体制を整えてもらいたいと思う。
認知症の初期に気付けば改善でき、自立生活もできるとのことを聞き、早期に発見して治療、手当ができる施策が欲しい。そうすれば、ひいては青梅市の老人医療費も減らせる。私たちも好んでお世話になるわけではない。早急にお願いしたい。
高齢者の増加に伴い介護予防と高齢者が地域で生活できる支援を積極的に推進していただきたい。
介護予防の筋力向上トレーニング用として、健康遊具（肩伸ばし・前屈等５種類あるもの）を公園に設置してほしい。
散歩、ウォーキングを体力づくりのために心がけている。腰痛があるため少し休みたいと感じることが多くなった。公園の中道の橋（川沿い等）に、一人かけの椅子を置いてもらえたらと思う。
暮らし・安全・生活支援について
高齢者は生活資金が大変なので自分も働いているが、収入も少なく年金を加えても生活が苦しいので生活保護のための金額を支給してもらいたい。
家族が入院や入所で年金では足りない支出が続いている。まだ先が長いのでお金の不安が一番ある。補助金などが出ればいいが、課税世帯には何もない。この先が不安である。
年金が減少しつつある今、先日支給されたい買い物券は本当に助かった。今後もこのような支援があれば良いと思う。
近隣高齢者の方たちからよく聞く話では、「スーパーなどなくなり買い物ができず歩ける範囲で出かけるが途中一休みする場所がない。公園のベンチは汚れていてガタついていて座れない」とのこと。 市内「休息場所」や「公衆トイレ整備」などもう一歩きめ細かく心配りがあったら有り難いと思う。
外出するのに（散歩、買い物、近隣との付き合い）生活道路が穴だらけでは不安を除けない。 道路（幹線道路）が狭く（ないところや段差が大きい）自転車移動に困難が多い。裏道は坂が多く難しい。
分かりやすい道路標示や情報の発信をお願いしたい。（文字の大きさ、矢印の表示の明確さ）
現在 86 才ですが、34 歳の時に事故で背髄損傷、自己管理で通している。排尿、自己導尿（カテーテル）、排便３日おきに下剤服用。今後の不安を感じる。見守り、支援体制があればありがたい。
一人暮らしのため、室内の電気が切れると取り替えが大変になってきた。取り替えをしてくれるととても助かる。
８０才以上の一人暮らし、所得制限なしで指定収集袋、市議会にかけてもらいたい。沢井にはコンビニもなく JA、郵便局もないので金銭の出し入れに行くのに大変である。移動支援をお願いしたい。

歩行困難になったり、一人暮らしに将来なった場合、移動スーパーが自宅近くまで来てくれたらとてもありがたい。安否確認にも繋がると思う。
地域の交通手段が悪い。坂が多い。バス停が遠く、バス便が少ない。小型のバスまたは乗り合いタクシーのようなシステムを作り住宅傍まで来て欲しい。免許証を返納すると移動手段がなく通院、買い物ができなくなる。
高齢者の入浴施設について。地域の人と積極的に交流したい。そのためにもっと日帰り温泉券（助成券）を増やしていただきたい。
高齢者向け食堂の充実を求む。
高齢者を介護する人や家族の負担を減らす支援を充実していればと思う。
家の（賃貸アパート）立ち退きを言われ部屋探しをしているけど苦労している。年金をそんなにもらってないので、市の助けがあればよいと思う。
なるべく最期を自宅で迎えられるような仕組みを作って欲しい。
地域活動・社会参加・生きがい等について
令和３年１０月２３日に青梅市高齢者憲章が制定された。高齢者同士の集まりだけでなく、老若男女が気軽に一堂に会するイベントが開催されるのを願う。高齢者が心安らかに、心豊かに安全な生活ができますよう祈り願っている。
高齢者が集い、楽しく過ごす施設が少なくなった。憩いの場がもっと多くあれば良いと思う。
高齢者サロン等、イメージが高齢者のみ対象でネガティブな感じがする。若い人から高齢者までがともに集まるような場があったら良いと思う。
自分の住まいの身近な場所に、例えば自治会館等で月１回くらいで良いと思うが、高齢者が集まりお互いに負担にならないほどに飲み物持参でおしゃべりをできると、楽しいひと時を過ごせるのではないか。
市民センターや図書館などを減らすことは絶対にやめてほしい。地域での人が集まる場でもあり、人との交流の場で、より充実してほしいと思う。エレベーターをつけるなど、バリアフリー化など必要だと思う。
市民センターの会議室や体育館が有料になることで活動をやめた団体もある。健康でいるためには軽い運動や人と会う機会が必要だと思う。そのためにも以前のようにセンターの会議室、体育館を無料にして欲しい。
文化・芸術的な活動と発表ができるホール・施設を充実させたい。
最近高齢者クラブ（老人会）が」自治会単位で閉会している現状を耳にする、が会長の担い手がないのが理由と聞く。組織として老人会が成り立って行かないと一人世帯、老年世帯の人が家に引きこもる状況になるのではと懸念する。
介護に関してボランティアに頼る制度はほどほどにした方が良い。本来介護は行政が公費を持って手厚くするべきものである。何のための介護保険制度なのか。
自治会で声かけ活動等の回数を増やす。高齢者になれば自治会に入っている方が良いと思うが「高齢者で自治会活動に参加できないから」と自治会をやめる人がいる。もっと高齢者に自治会の重要性をPR して欲しい。また、若人が自治会に入らない人が多い（メリットがないと）。もっと自治会に入会してもらうような PR 等を自治会だけでなく市としても行ってほしい。
体育館の使用をもっと簡単に使えるようにしてほしい。
身近なところに高齢者向きに収入が得られる仕事があればと思う。（年金だけでは安くて生活ができない）
フレイルになる前の健康な高齢者への就労支援。スーパー等では 65 歳定年となり、パート、アルバイトでも 65 歳以上人は雇ってもらえない（64 歳にはできるが 65 歳ではできないことなどないのに）。65～70 前半の健康な高齢者は働きたい人が多いと思う。使用する企業に助成金を出す等優遇措置を取って雇用を促進するよう図ってほしい。
温水プール、温泉入浴施設を作ってほしい。
介護保険について
認定調査の手続きが分かりにくい。週３日透析へ行っているのでなかなか日にちが取れない。 同居している家族が食事、身の回りの世話を行っていて本人はまったくしておらず同居家族の仕事や学業もあり休日も休むことなく大変。本人よりも同居家族の方が先のことが心配。

要介護の基準をなるべく広く認定して欲しい。本人が元気であることを強調して介護認定されないケースが多いと聞く。
脚が不自由なのに要支援２という言葉で車椅子が借りられない。残念である。その人に合う判断にしてください。
介護保険料が高い。高齢者の健康保険料も高く年金者にはつらい。
できれば最後まで自宅において過ごしたいが、訪問看護・リハビリステーションを利用できるようになりたい。しかも多数ある中から自分にあった業者を選ぶことができるとありがたい。ケアマネージャーもしかりである。合わない人と長く付き合うのは困難だと思う。
特別養護老人ホーム入居基準の緩和、利用料金の引き下げを望む。
ひとりになり最晩年家を処分し低価格の老人ホームに入りたいと思う。市営の老人ホームが欲しい。
何処の施設も高額と聞きます。国民年金の収入だけで入れる施設はあるのだろうか。介護保険は使えるのだろうかと不安ばかりです。お金の心配のない施設を作ってほしい。
高齢になるにしたがって健康度合いの個人差は広がるので、70 才以上の高齢者にはより個人差に応じたケアプランメニューを充実させるべきである。また、収入差も同様に大きくなるので収入に応じた支払い負担能力別に有料メニューもあって良いのではないか。
相談体制について
困りごとが出てからでないとわからない。どこに相談したらいいかを教えてくれる窓口が欲しい。
総合的な相談ができる場所の充実を望む。
役所に行った時話しことばをもう少しわかりやすく、ゆっくりと話してもらえると良いと思う時があった（私自身耳の聞こえが悪くて）。
情報提供体制について
各センターで介護保険等の内容説明等の勉強会を催してほしい。
現在は健康で生活しているが、今後認知症にならない生活習慣、トレーニング方法等まとめた冊子等配布してもらいたい。
ネット社会に対応できるように講習、資料の発行等を実施検討をお願いしたい。
一人暮らしの自分がある日突然介護が必要になるか、または自宅で一人で生活していて徐々に動けなくなるのかわからない。どちらの時でも、自分が判断できなくなるのではないかと心配である。前もって、施設の種類、どうなれば入所できるのか、申し込みの方法を知りたい。
今後市の方でやってほしいこと。認知症に関することについて機会を設けてほしい。公な資格を取得したいと考えているのでそのような勉強会（有料でも可）を実施してほしい。
政策一般に関するものについて
年々増加する高齢者に対しての援助に伴う経費の財源が心配である。
子供たちへの支援はとても充実しているが、年配者への支援はどんどん少なくなってきている。（生活金への補助、医療費）早く死ねと言ってるのと同じである。
もう少し高齢者が生活しやすい市にしてほしい。道路が暗い、線が薄い、歩道の街路樹の手入れがされていない。市役所職員の対応が「高齢者向き」の丁寧さがないなど。
高齢者への思いやり及び尊厳を大切にする教育の充実を望む。
歩道において自転車走行者、特に小学生、中学生が暴走して何度も怖い思いをした。学校教育の一環に組み入れることを望む。
その他
調査内容は充実して素晴らしいものだと思うが、高齢者の方には設問がわかりにくい部分および回答箇所が多すぎる。内容を精査した方が良いと思う。
90 歳を超える高齢者には内容が多すぎて回答が大変だった。
記入するのにも座って時間をなかなか作れず遅くなってしまった。少しの空き時間でも回答できるように、スマホでできたらよかった。
少し長いアンケートだった。もっと簡略にしていただきたい。数回にわたって記入した。無記名なら楽々記入できそうだ。
このアンケートがどのように生かされたのか知りたい。
パンフレットや広報でお年寄りを疎外することなくあたたかく接する意味の標語等を作ってほしい。（コロナもありスーパーやお店でおろおろする老人を見る）目が冷たくなっている。優しい街を目指して欲しい。またそういうものを目につくように貼るか店頭等に置いてもらうこともどうだろうか。

19 各種リスクの状況

（1）リスクの高い方の判定基準

① 運動機能の低下

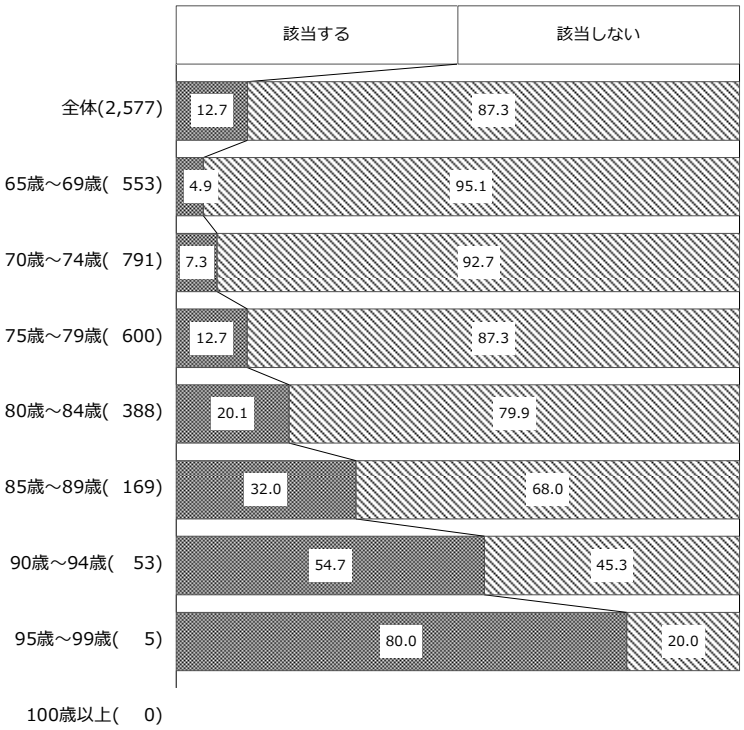
次の５設問の回答中、３問以上該当する方を、運動機能の低下がみられる方と考える。

1	階段を手すりや壁をつたわらずに昇っていますか	「3.できない」と回答
2	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	「3.できない」と回答
3	15 分位続けて歩いていますか	「3.できない」と回答
4	過去 1 年間に転んだ経験がありますか	「1.何度もある」あるいは「2.1 度ある」と回答
5	転倒に対する不安は大きいですか	「1.とても不安である」あるいは「２.やや不安である」と回答

結果として、運動機能が低下しているとみられる回答が 12.7%ありました。

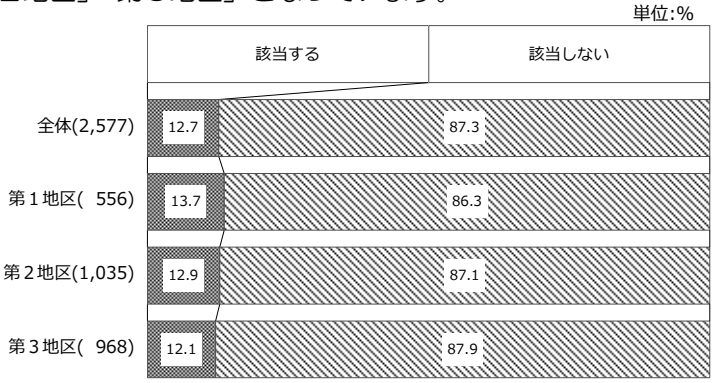
年齢階層が高くなるほど、比率が高くなっています。

単位:%



地区別では「該当する(運動機能が低下しているとみられる)」割合は「第１地区」が最も高く、次いで「第２地区」「第３地区」となっています。

単位:%



② 口腔機能の低下

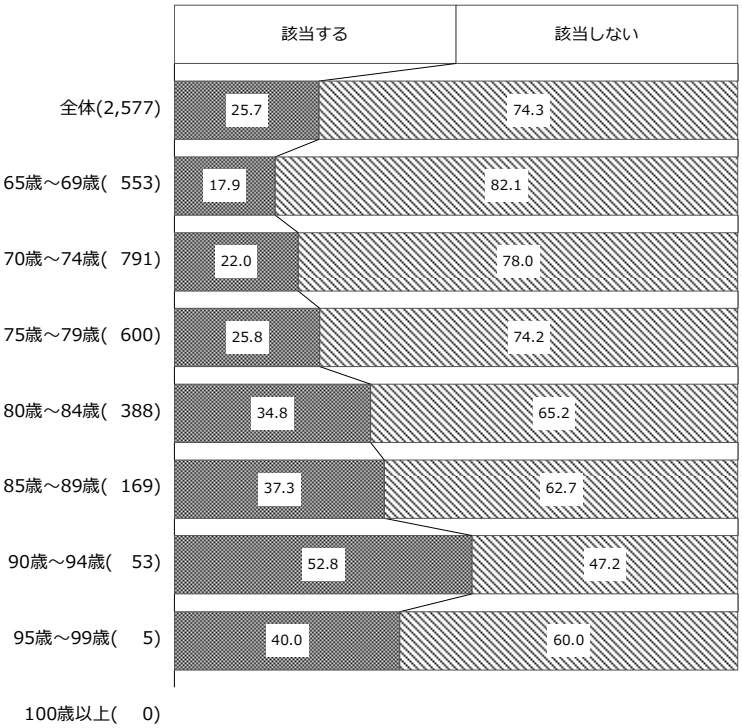
次の３設問の回答中、２問以上該当する方を、口腔機能の低下がみられる方と考える。

１	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	「１.はい」と回答
２	お茶や汁物等でむせることがありますか	「１.はい」と回答
３	口の渇きが気になりますか	「１.はい」と回答

結果として、口腔機能が低下しているとみられる回答が 25.7%ありました。

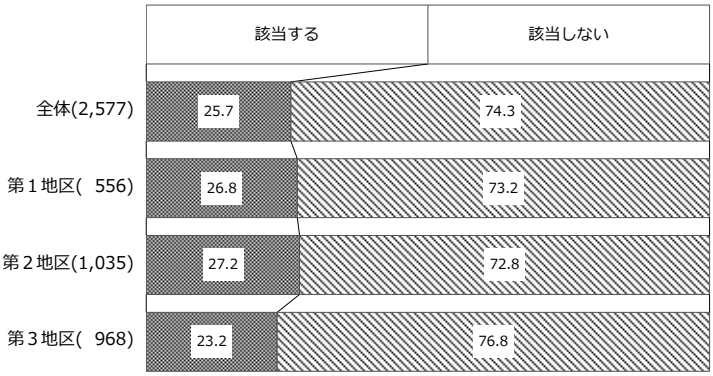
年齢階層が高くなるほど、比率が高くなる傾向にあります。

単位:%



地区別では「該当する(口腔機能が低下しているとみられる)」割合は「第２地区」が最も高く、次いで「第１地区」「第３地区」となっています。

単位:%



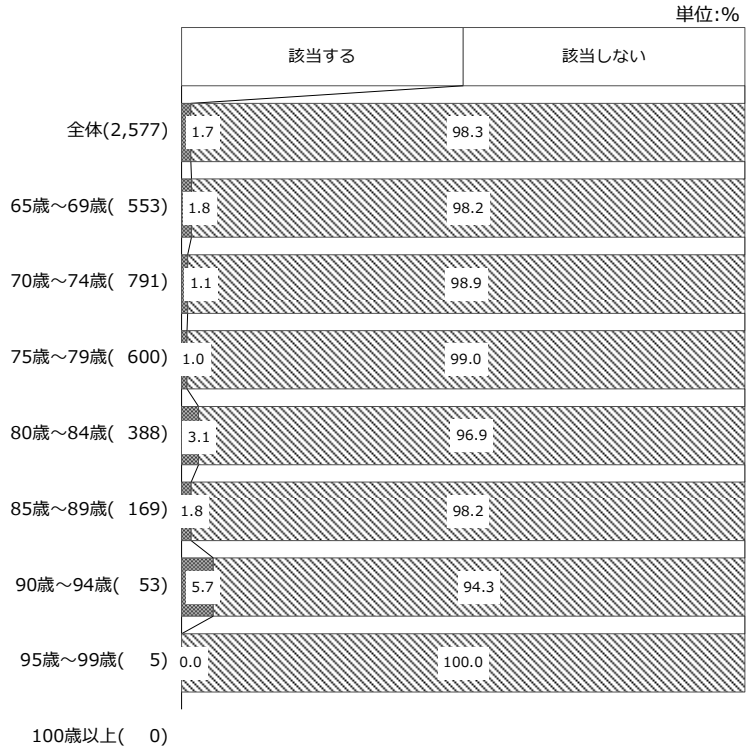
③ 低栄養

次の２設問の回答中、２問とも該当する方を、低栄養の傾向のある方と考える。

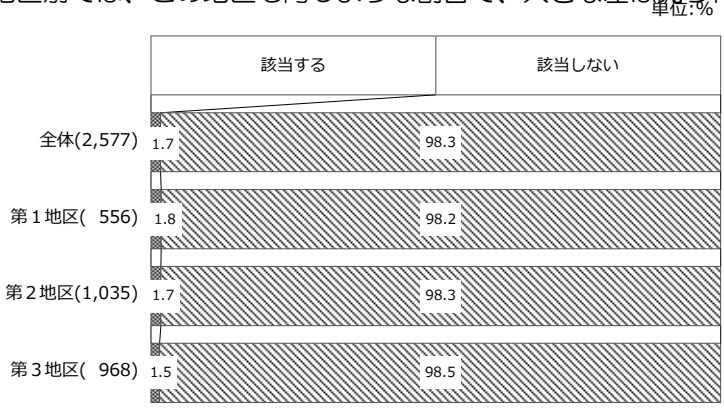
1	６か月間で２～３kg以上の体重減少がありましたか	「１.はい」と回答
2	BMI	18.5 未満

結果として、低栄養の傾向があるとみられる回答が 1.7%ありました。

年齢階層との相関関係はとくには見られませんでした。



地区別では、どの地区も同じような割合で、大きな差は見られません。



④ 認知機能

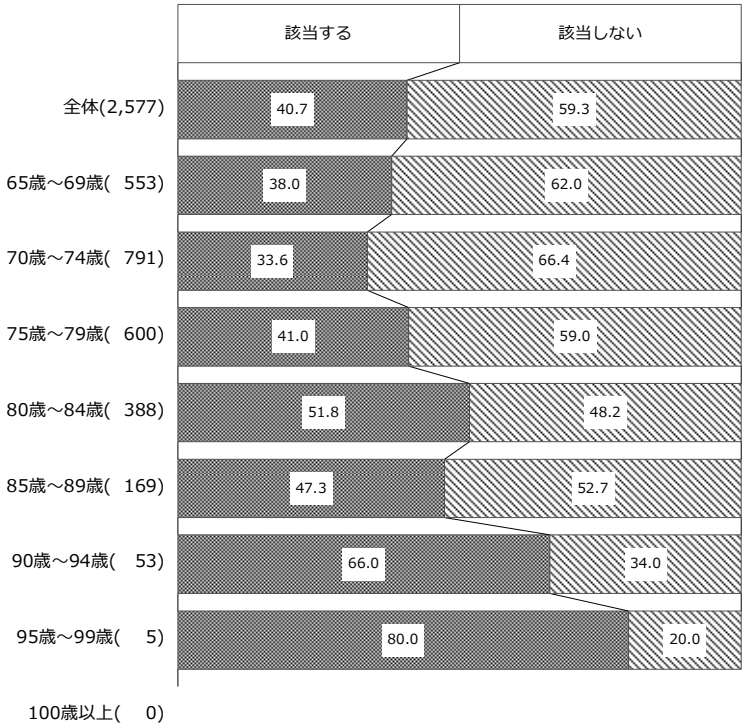
次の設問の回答中、該当する方を、認知機能の低下がみられる方と考える。

1	物忘れが多いと感じますか	「1.はい」と回答

結果として、認知機能が低下しているとみられる回答が 40.7%ありました。

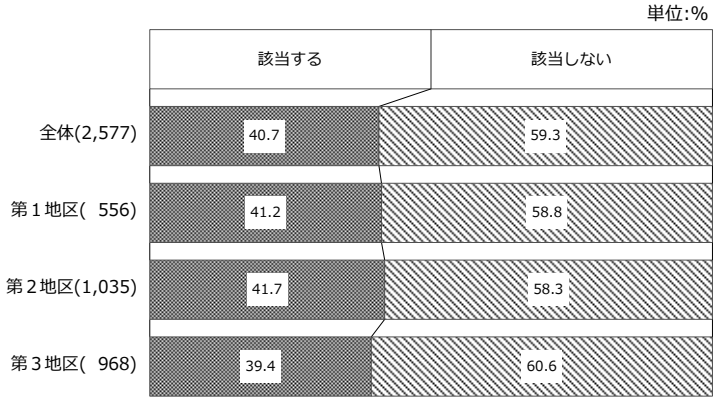
年齢階層が高くなるほど、比率が高くなる傾向にあります。

単位:%



地区別でみると、「第３地区」では「該当する(認知機能の低下がみられる)」が他の地区と比較して若干低くなっています。

単位:%



Ⅲ 在宅介護実態調査

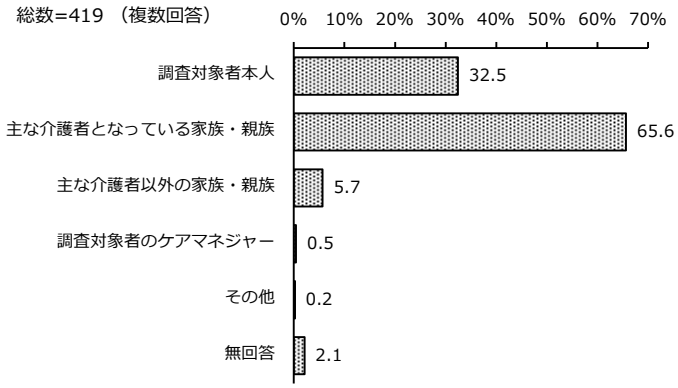
第１章　集計結果

１ 前提

（1）記入者

回答をされる方は、どなたですか

「主な介護者となっている家族・親族」が65.6％で最も多く、「調査対象者本人」（32.5%）、「主な介護者以外の家族・親族」（5.7%）、「調査対象者のケアマネジャー」（0.5%）が続きます。

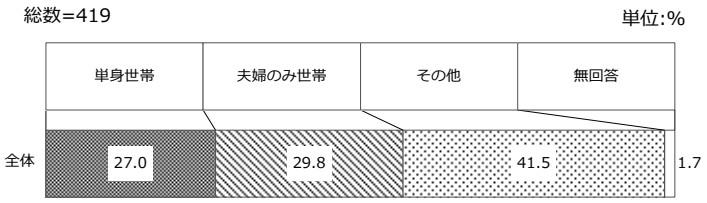


２ 本人・主な介護者の回答・記入項目

（1）世帯類型

世帯類型について、ご回答ください（１つを選択）

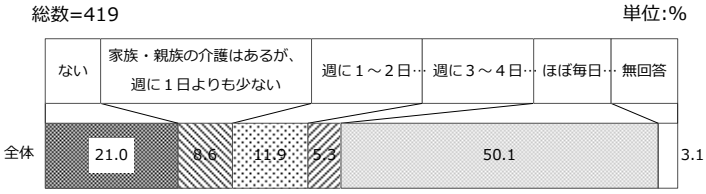
「夫婦のみ世帯」（29.8%）、「単身世帯」（27.0%）が続きます。



（2）介護の回数

ご家族やご親族の方からの介護は、週にどのくらいありますか（同居していない子どもや親族等からの介護を含む）（１つを選択）

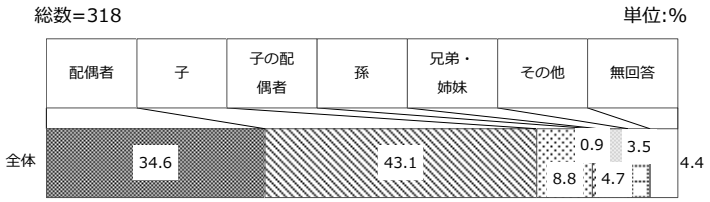
「ほぼ毎日ある」が50.1％で最も多く、「ない」（21.0%）、「週に１～２日ある」（11.9%）、「家族・親族の介護はあるが、週に１日よりも少ない」（8.6%）が続きます。



（3）主な介護者

主な介護者の方は、どなたですか（１つを選択）

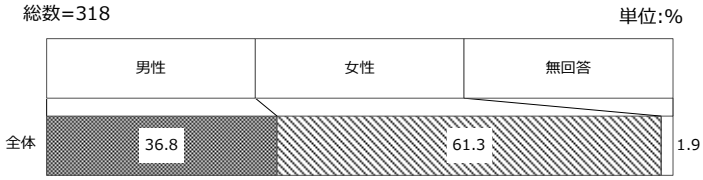
「子」が 43.1％で最も多く、「配偶者」（34.6%）、「子の配偶者」（8.8%）、「兄弟・姉妹」（4.7%）が続きます。



（4）主な介護者の性別

主な介護者の方の性別について、ご回答ください（１つを選択）

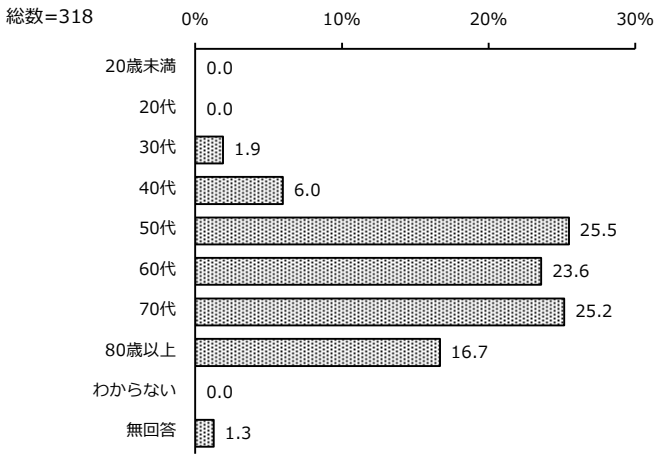
「女性」は 61.3%、「男性」は 36.8%となっています。



（5）主な介護者の年齢

主な介護者の方の年齢について、ご回答ください（１つを選択）

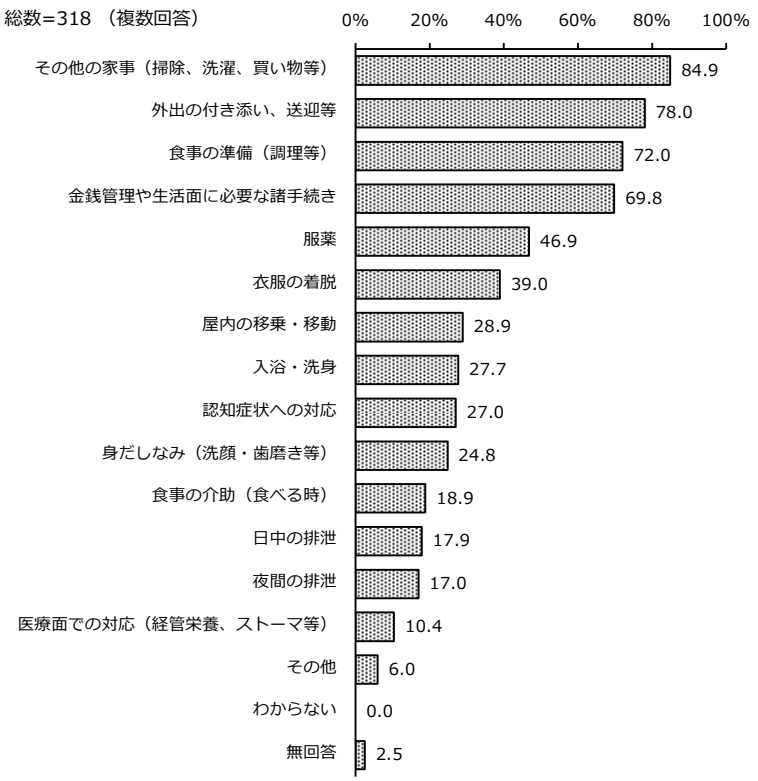
「50 代」が 25.5％で最も多く、「70 代」（25.2%）、「60 代」（23.6%）、「80 歳以上」（16.7%）が続きます。



（6）主な介護者が行っている介護等

現在、主な介護者の方が行っている介護等について、ご回答ください（複数選択可）

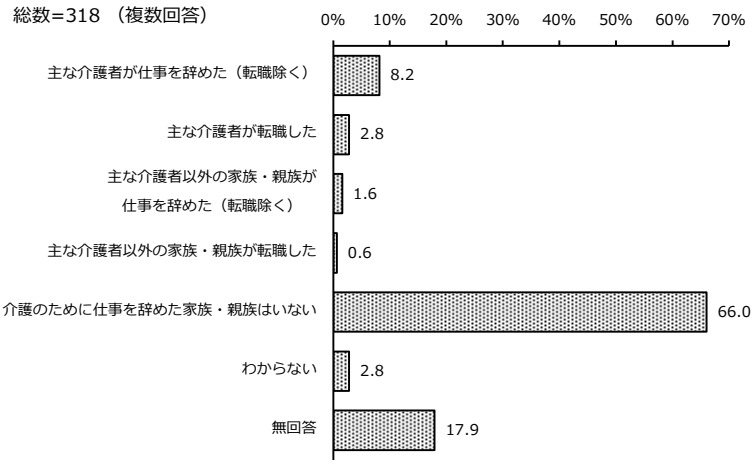
「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が 84.9％で最も多く、「外出の付き添い、送迎等」（78.0％）、「食事の準備（調理等）」（72.0％）、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」（69.8％）が続きます。



（7）介護を主な理由として仕事を辞めた方の有無

ご家族やご親族の中で、ご本人（認定調査対象者）の介護を主な理由として、過去 1 年の間に仕事を辞めた方はいますか（現在働いているかどうかや、現在の勤務形態は問いません）（複数選択可）

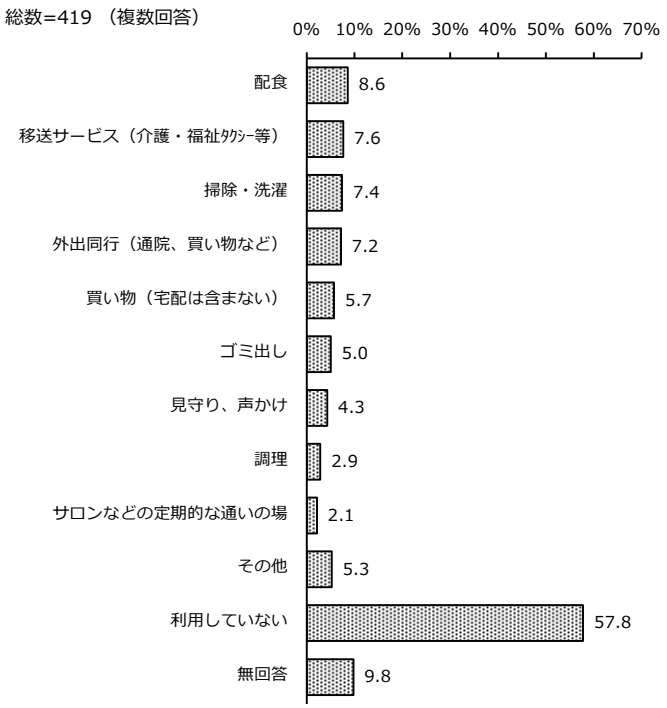
「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）」が 8.2％で最も多く、「主な介護者が転職した」（2.8％）、「主な介護者以外の家族・親族が仕事を辞めた（転職除く）」（1.6％）、「主な介護者以外の家族・親族が転職した」（0.6％）が続きます。



（8）利用している介護保険サービス以外の支援・サービス

現在、利用している、「介護保険サービス以外」の支援・サービスについて、ご回答ください（複数選択可）

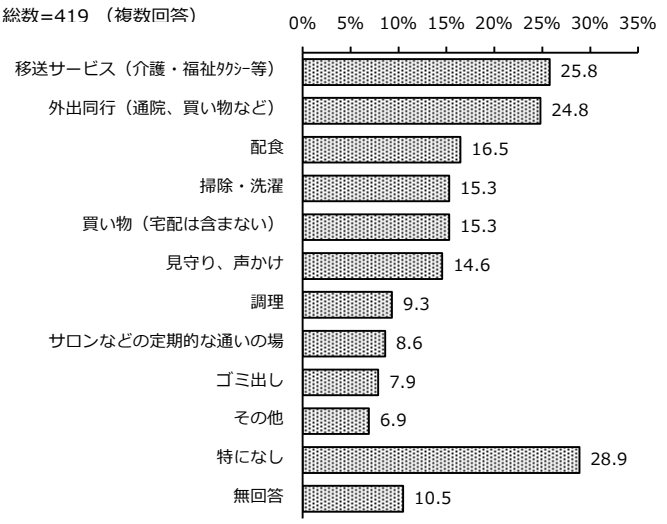
「配食」が 8.6%で最も多く、「移送サービス（介護・福祉ﾀｸｼｰ等）」（7.6%）、「掃除・洗濯」（7.4%）、「外出同行（通院、買い物など）」（7.2%）が続きます。



（9）今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス

今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（現在利用しているが、さらなる充実が必要と感じる支援・サービスを含む）について、ご回答ください（複数選択可）

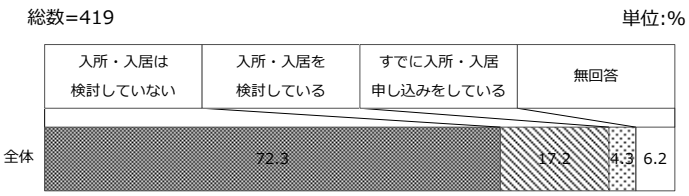
「移送サービス（介護・福祉ﾀｸｼｰ等）」が 25.8%で最も多く、「外出同行（通院、買い物など）」（24.8%）、「配食」（16.5%）、「掃除・洗濯」（15.3%）が続きます。



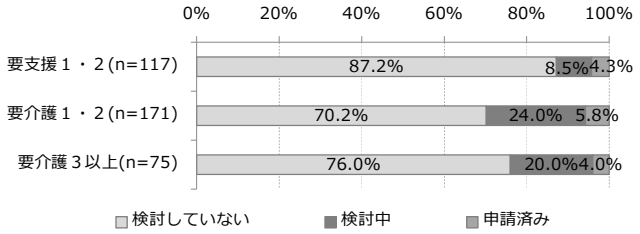
（10）施設等への入所・入居の検討状況

現時点での、施設等への入所・入居の検討状況について、ご回答ください（１つを選択）

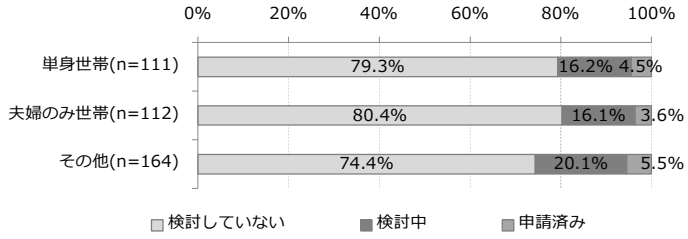
「入所・入居は検討していない」が72.3%で最も多く、「入所・入居を検討している」（17.2%）、「すでに入所・入居申し込みをしている」（4.3%）が続きます。



要支援・要介護度別にみると以下のようになりました。



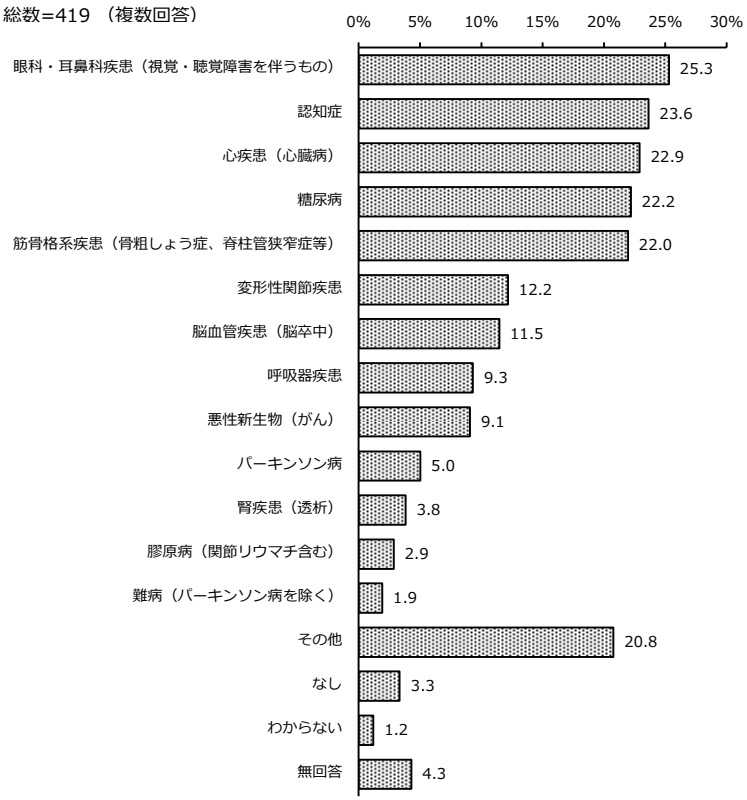
また、世帯類型別の結果は次の通りです。



（11）傷病

ご本人（認定調査対象者）が、現在抱えている傷病について、ご回答ください（複数選択可）

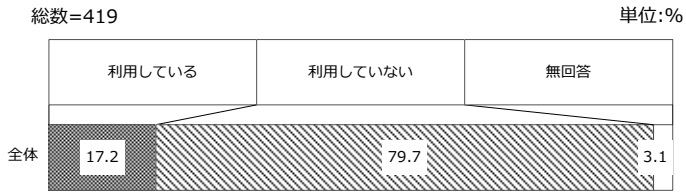
「眼科・耳鼻科疾患（視覚・聴覚障害を伴うもの）」が 25.3%で最も多く、「認知症」（23.6%）、「心疾患（心臓病）」（22.9%）、「糖尿病」（22.2%）が続きます。



（12）訪問診療利用の有無

ご本人（認定調査対象者）は、現在、訪問診療を利用していますか（１つを選択）

「利用していない」は 79.7%、「利用している」は 17.2%となっています。



（13）介護保険サービス利用の有無

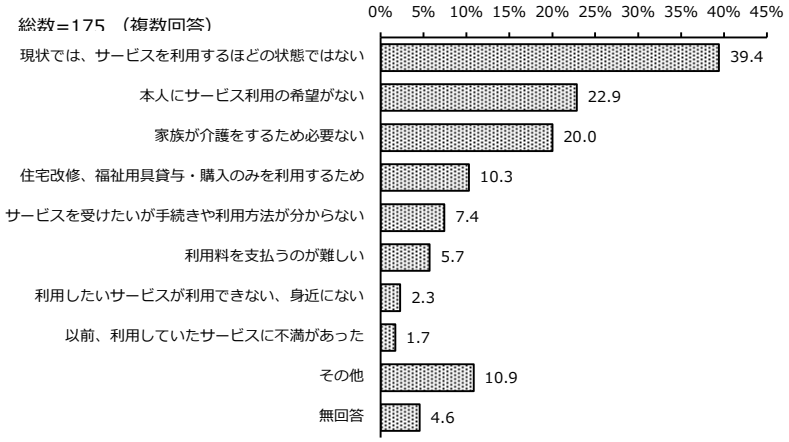
現在、（住宅改修、福祉用具貸与・購入以外の）介護保険サービスを利用していますか
（１つを選択）

「利用している」は55.4%、「利用していない」は41.8%となっています。

（14）利用していない理由

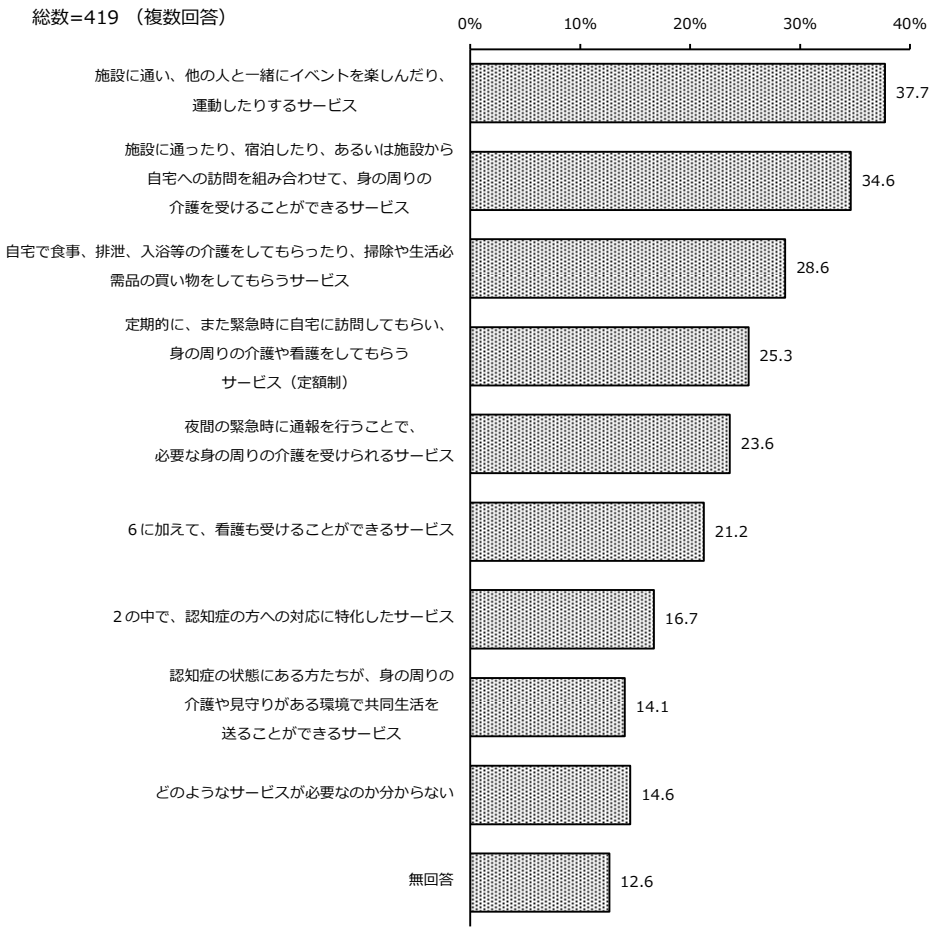
「利用していない」を回答した場合は、回答してください。
介護保険サービスを利用していない理由は何ですか（複数選択可）

「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が39.4%で最も多く、「本人にサービス利用の希望がない」（22.9%）、「家族が介護をするため必要ない」（20.0%）、「住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため」（10.3%）が続きます。



（15）介護サービスを利用しながら在宅生活を続けるために必要なサービス

あなたは、介護を受けながら自宅で自分らしく暮らしていくためには、どのようなサービスが必要だと思いますか（複数選択可）

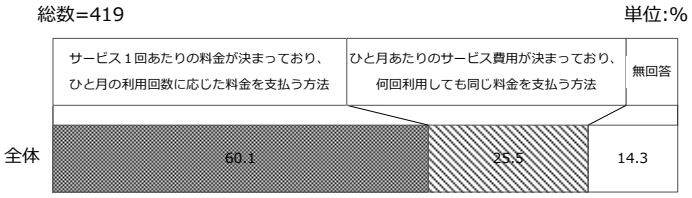


「施設に通い、他の人と一緒にイベントを楽しんだり、運動したりするサービス」が37.7％で最も多く、「施設に通ったり、宿泊したり、あるいは施設から自宅への訪問を組み合わせて、身の周りの介護を受けることができるサービス」（34.6％）、「自宅で食事、排泄、入浴等の介護をしてもらったり、掃除や生活必需品の買い物をしてもらうサービス」（28.6％）、「定期的に、また緊急時に自宅に訪問してもらい、身の周りの介護や看護をしてもらうサービス（定額制）」（25.3％）が続きます。

（16）介護サービス料の支払方法

あなたは、介護サービスの料金を支払うとき、次のどの方法が望ましいと思いますか
（１つを選択

「サービス１回あたりの料金が決まっており、ひと月の利用回数に応じた料金を支払う方法」は 60.1%、「ひと月あたりのサービス費用が決まっており、何回利用しても同じ料金を支払う方法」は 25.5%となっています。

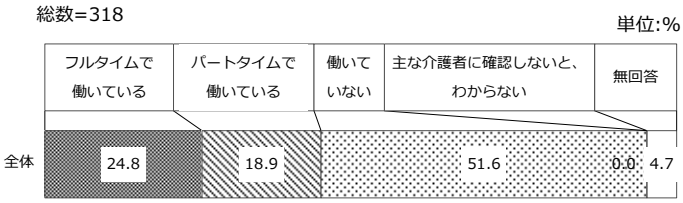


3 家族・親族からの介護がある場合の「主な介護者」による回答・記入項目

（1）主な介護者の現在の勤務形態

主な介護者の方の現在の勤務形態について、ご回答ください（１つを選択）

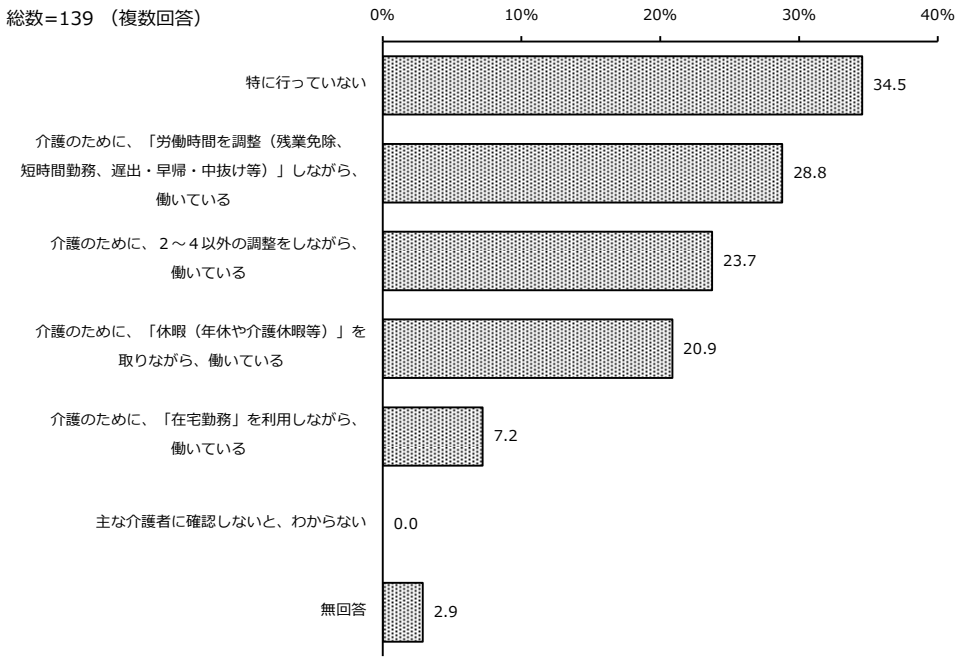
「働いていない」が 51.6%で最も多く、「フルタイムで働いている」（24.8%）、「パートタイムで働いている」（18.9%）が続きます。



（2）介護をするにあたっての働き方の調整

「フルタイムで働いている」「パートタイムで働いている」と回答した方にお伺いします。主な介護者の方は、介護をするにあたって、何か働き方についての調整等をしていますか（複数選択可）

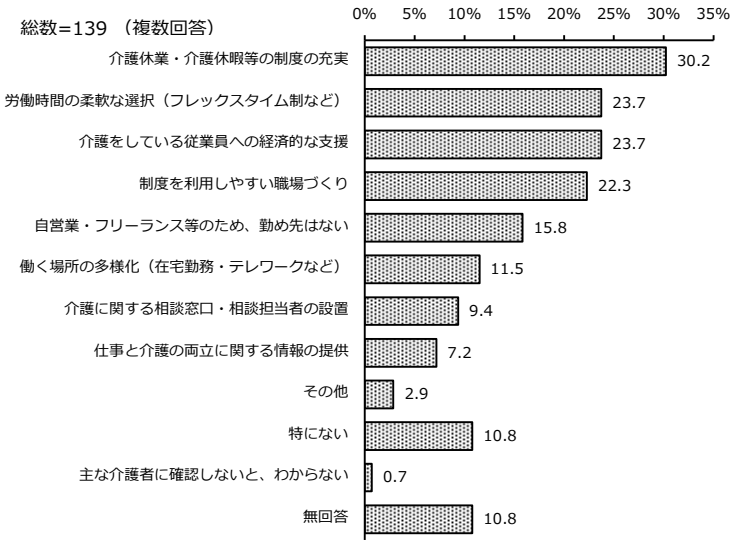
「特に行っていない」が 34.5%で最も多く、「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」（28.8%）、「介護のために、２～４以外の調整をしながら、働いている」（23.7%）、「介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている」（20.9%）が続きます。



（3）仕事と介護の両立に必要な支援

「フルタイムで働いている」「パートタイムで働いている」と回答した方にお伺いします。主な介護者の方は、勤め先からどのような支援があれば、仕事と介護の両立に効果があると思いますか（３つまで選択可）

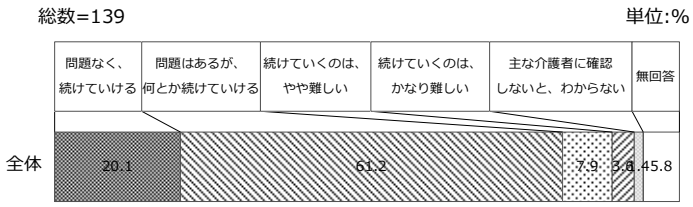
「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が 30.2%で最も多く、「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」「介護をしている従業員への経済的な支援」（23.7%）、「制度を利用しやすい職場づくり」（22.3%）が続きます。



（4）働きながら介護を続けることができるか

「フルタイムで働いている」「パートタイムで働いている」と回答した方にお伺いします。主な介護者の方は、今後も働きながら介護を続けていけそうですか（１つを選択）

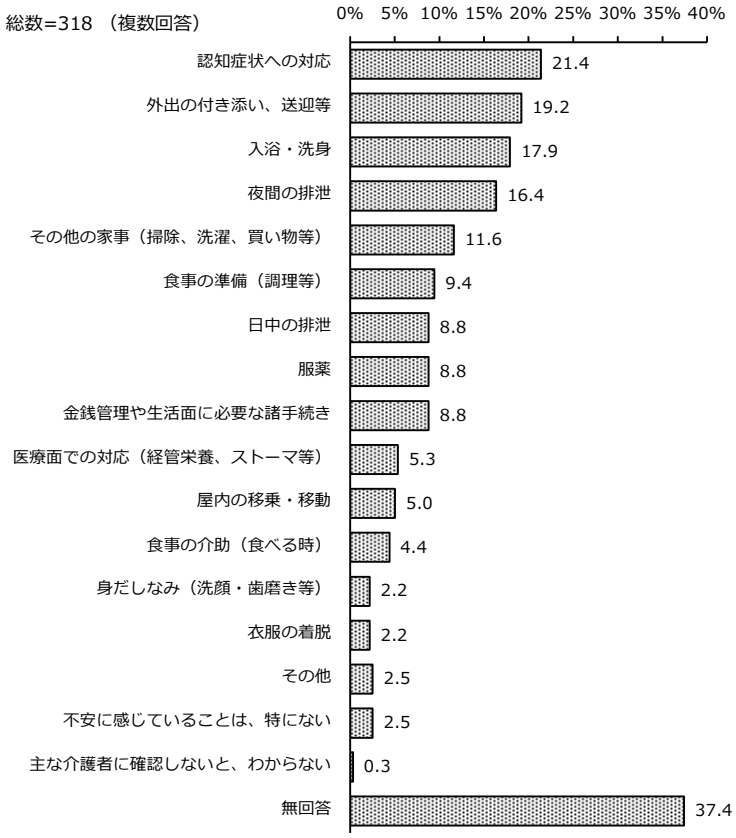
「問題はあるが、何とか続けていける」が 61.2%で最も多く、「問題なく、続けていける」（20.1%）、「続けていくのは、やや難しい」（7.9%）、「続けていくのは、かなり難しい」（3.6%）が続きます。



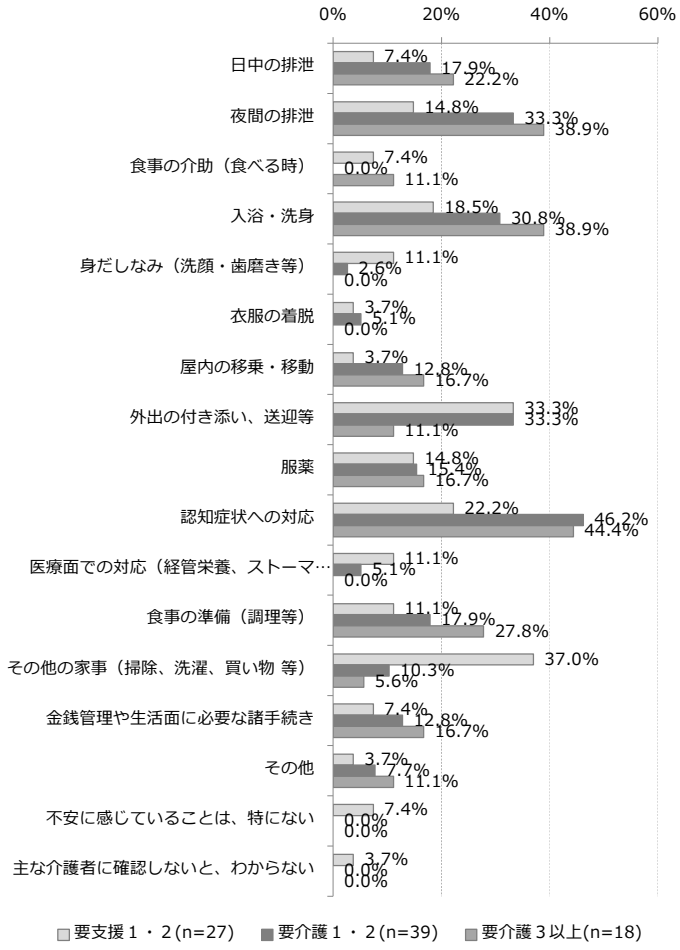
（5）不安に感じる介護等

現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者の方が不安に感じる介護等について、ご回答ください（現状で行っているか否かは問いません）（３つまで選択可）

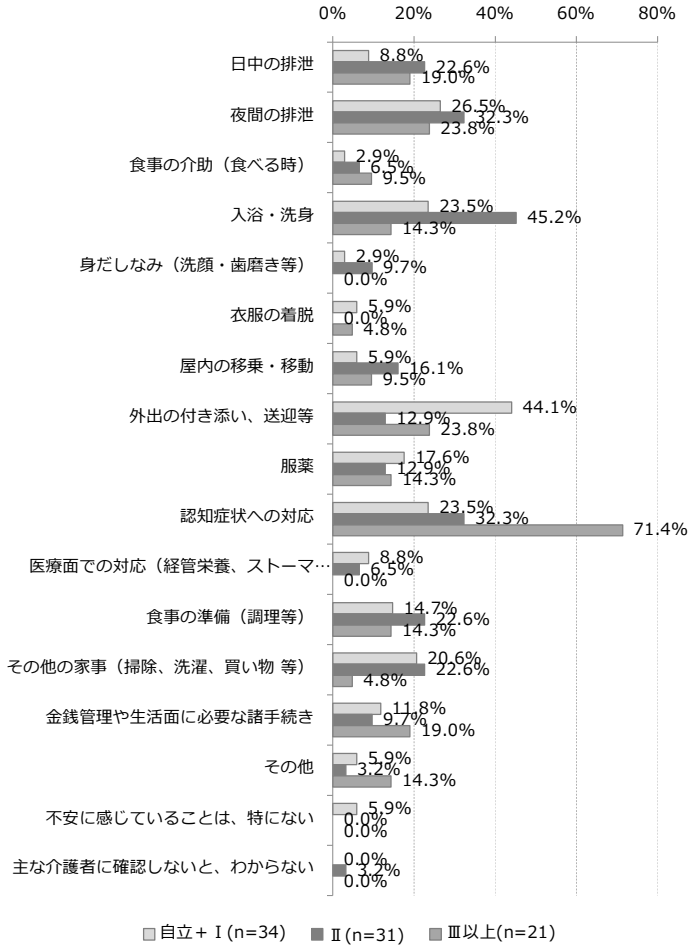
「認知症状への対応」が21.4%で最も多く、「外出の付き添い、送迎等」（19.2％）、「入浴・洗身」（17.9％）、「夜間の排泄」（16.4%）が続きます。



要支援・要介護度別にみると、以下のようになりました。



認知症高齢者自立度別では以下の通りです。



第２章　支援・サービスの提供体制の検討

１　在宅限界点の向上のための支援・サービスの提供体制の検討

1.1　集計・分析の狙い

○　ここでは、在宅限界点の向上に向けて必要となる支援・サービスを検討するために、「在宅生活の継続」と「介護者不安の軽減」の２つの視点からの集計を行っています。

○　それぞれ、「どのようなサービス利用パターンの場合」に、「在宅生活を継続することができると考えているのか」、もしくは「介護者の不安が軽減されているのか」を分析するために、「サービス利用パターン」とのクロス集計を行っています。

○　なお、「サービス利用パターン」は、「サービス利用の組み合わせ」と「サービス利用の回数」の２つからなります。

○　また、在宅限界点についての分析を行うという主旨から、多くの集計は要介護３以上、もしくは認知症高齢者の日常生活自立度Ⅲ以上の方に限定して集計をしています。

(1) 基礎集計

集計結果と着目すべきポイント

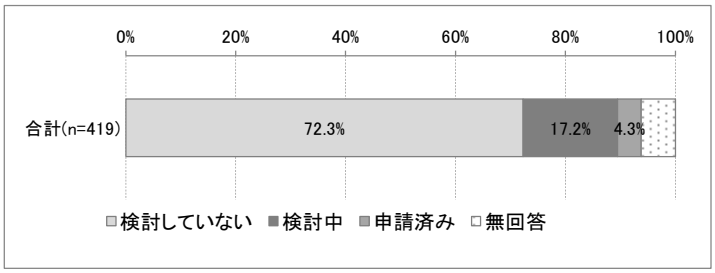
○　施設等の検討状況に係る、基礎的な集計を行っています（図表 1-1～図表 1-3）。

○　要介護度の重度化に伴う、施設等検討状況の変化や世帯類型ごとの施設等検討状況についてその状況を確認してください。

【施設等検討の状況】

「検討していない」の割合が最も高く 72.3%となっている。次いで、「検討中（17.2%）」、「申請済み（4.3%）」となっている。

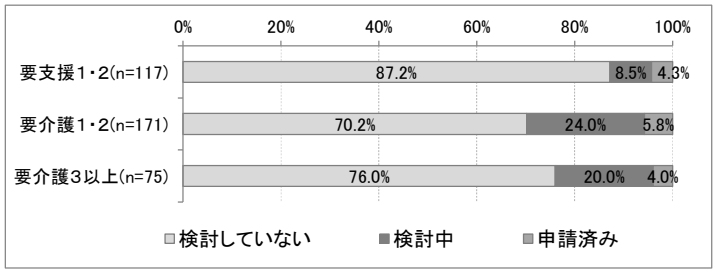
図表 1-1　施設等検討の状況



【要介護度別・施設等検討の状況】

施設等の検討状況を二次判定結果別にみると、「要支援１・２」では「検討していない」が 87.2%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が 8.5%、「申請済み」が 4.3%となっている。「要介護１・２」では「検討していない」が 70.2%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が 24.0%、「申請済み」が 5.8%となっている。「要介護３以上」では「検討していない」が 76.0%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が 20.0%、「申請済み」が 4.0%となっている。

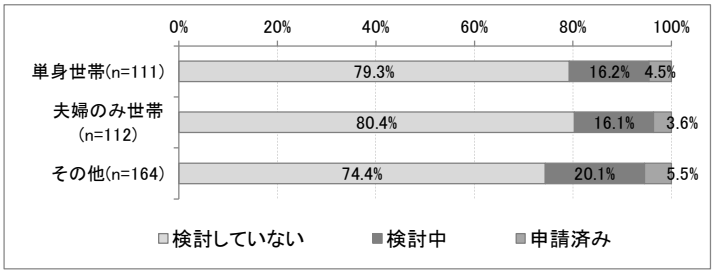
図表 1-2　要介護度別・施設等検討の状況<*>



【世帯類型別・施設等検討の状況】

施設等の検討状況を世帯類型別にみると、「単身世帯」では「検討していない」が 79.3%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が 16.2%、「申請済み」が 4.5%となっている。「夫婦のみ世帯」では「検討していない」が 80.4%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が 16.1%、「申請済み」が 3.6%となっている。「その他」では「検討していない」が 74.4%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が 20.1%、「申請済み」が 5.5%となっている。

図表 1-3　世帯類型別・施設等検討の状況



⑵ 要介護度・認知症自立度の重度化に伴う「主な介護者が不安に感じる介護」の変化

【着目すべきポイント】

○　要介護度と認知症自立度の重度化に伴う「主な介護者が不安に感じる介護」の変化について、集計分析をしています（図表 1-4、図表 1-5）。

○　ここでの「主な介護者が不安に感じる介護」とは、「現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者が不安に感じる介護等」のことです。なお、ここで選択される介護は、現状で行っている介護であるか否かは問われていません。

○　ここから、要介護度・認知症自立度別の、主な介護者が不安に感じる介護等を把握することができます。

○　また、主な介護者の不安が相対的に大きな介護や、重度化に伴い主な介護者の不安が大きくなる介護等に着目することで、在宅限界点に大きな影響を与えると考えられる「主な介護者が不安に感じる介護」を推測することも可能になります。

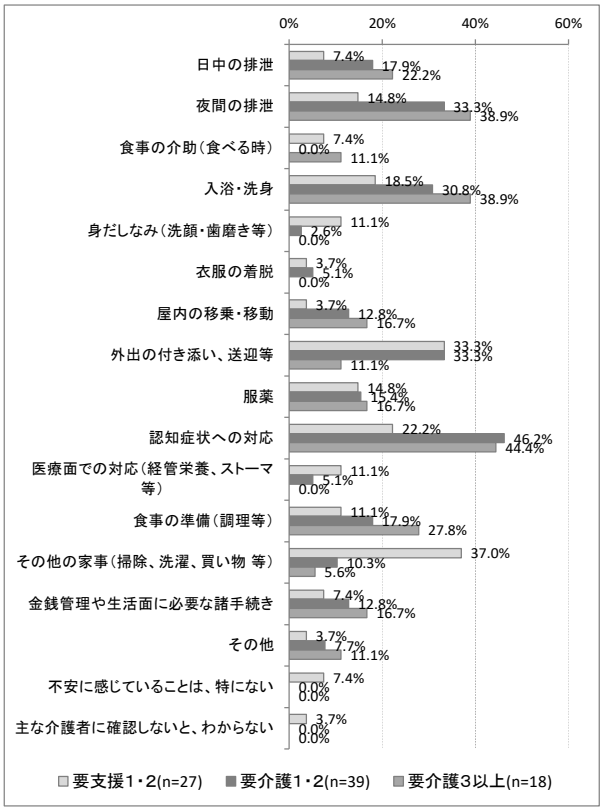
【留意事項】

○　なお、「医療面での対応（経管栄養、ストーマ等）」については、特に、実際に行われている割合が低い可能性が高いと考えられます。したがって、仮に選択した回答者が少ない場合でも、実際に医療ニーズのある要介護者を介護しているケースでは、主な介護者の不安は大きいことも考えられます。

○　そのような観点から、在宅限界点に与える影響が過小評価される項目もあると考えられることから、注意が必要です。

【要介護度別・介護者が不安に感じる介護】

介護者が不安に感じる介護を二次判定結果別にみると、「要支援１・２」では「その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）」が 37.0%ともっとも割合が高く、次いで「外出の付き添い、送迎等」が 33.3%、「認知症状への対応」が 22.2%となっている。「要介護１・２」では「認知症状への対応」が 46.2%ともっとも割合が高く、次いで「夜間の排泄」、「外出の付き添い、送迎等」が 33.3%、「入浴・洗身」が 30.8%となっている。「要介護３以上」では「認知症状への対応」が 44.4%ともっとも割合が高く、次いで「夜間の排泄」、「入浴・洗身」が 38.9%、「食事の準備（調理等）」が 27.8%となっている。

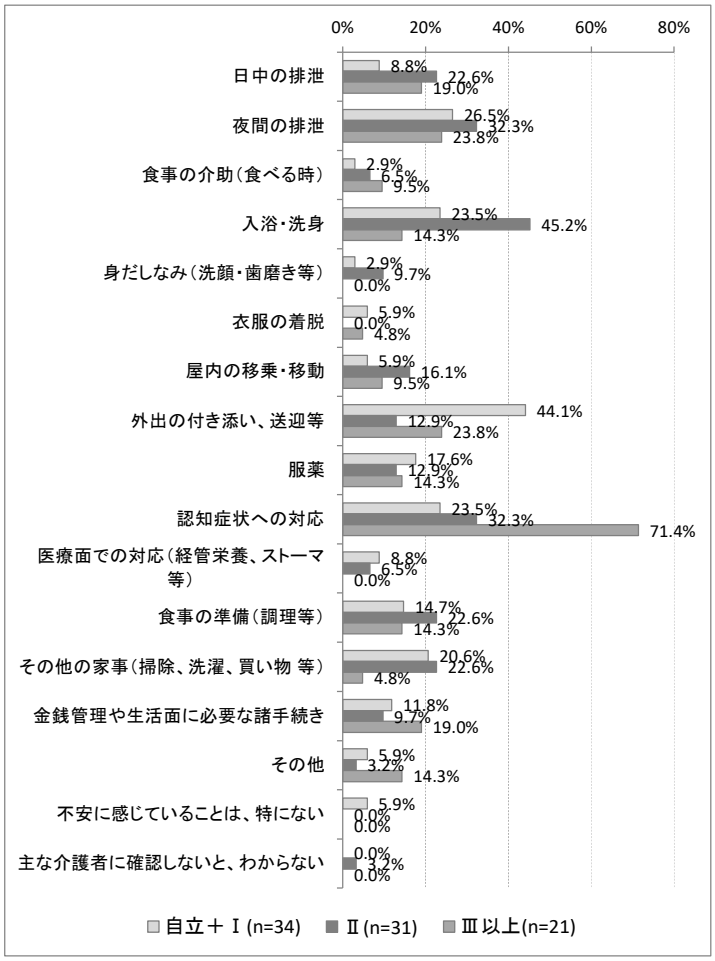


図表 1-4　要介護度別・介護者が不安に感じる介護

【認知症自立度別・介護者が不安に感じる介護】

介護者が不安に感じる介護を認知症高齢者自立度別にみると、「自立＋Ⅰ」では「外出の付き添い、送迎等」が 44.1%ともっとも割合が高く、次いで「夜間の排泄」が 26.5%、「入浴・洗身」、「認知症状への対応」が 23.5%となっている。「Ⅱ」では「入浴・洗身」が 45.2%ともっとも割合が高く、次いで「夜間の排泄」、「認知症状への対応」が 32.3%、「日中の排泄」、「食事の準備（調理等）」、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）」が 22.6%となっている。「Ⅲ以上」では「認知症状への対応」が 71.4%ともっとも割合が高く、次いで「夜間の排泄」、「外出の付き添い、送迎等」が 23.8%、「日中の排泄」、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が 19.0%となっている。

図表 1-5　認知症自立度別・介護者が不安に感じる介護



⑶ 要介護度・認知症自立度の重度化に伴う「サービス利用の組み合わせ」の変化

【着目すべきポイント】

○　ここでは、要介護度・認知症自立度別の「サービス利用の組み合わせ」について、集計分析をしています（図表 1-6、図表 1-7）。

○　特に、重度化に伴い、どのようなサービス利用の組み合わせが増加しているかに着目することで、現在在宅で生活をする中重度の要介護者が、どのような組み合わせのサービス利用を増加させることで在宅生活を維持しているかを把握することができます。

○　さらに、例えば今後の中重度の要介護者の増加に伴い、どのような「サービス利用の組み合わせ」のニーズが大きくなると考えられるかを推測することも可能になります。

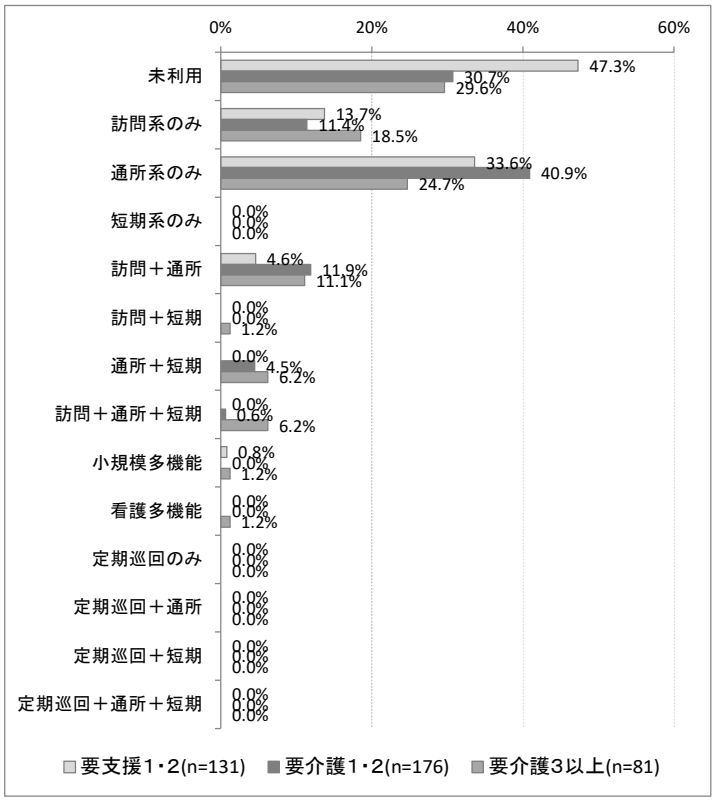
【留意事項】

○　ただし、現在利用しているサービスが「地域目標を達成するためのサービス」であるとは限らない点には注意が必要です。

【要介護度別・サービス利用の組み合わせ】

サービス利用の組み合わせを二次判定結果別にみると、「要支援１・２」では「未利用」が 47.3%ともっとも割合が高く、次いで「通所系のみ」が 33.6%、「訪問系のみ」が 13.7%となっている。「要介護１・２」では「通所系のみ」が 40.9%ともっとも割合が高く、次いで「未利用」が 30.7%、「訪問＋通所」が 11.9%となっている。「要介護３以上」では「未利用」が 29.6%ともっとも割合が高く、次いで「通所系のみ」が 24.7%、「訪問系のみ」が 18.5%となっている。

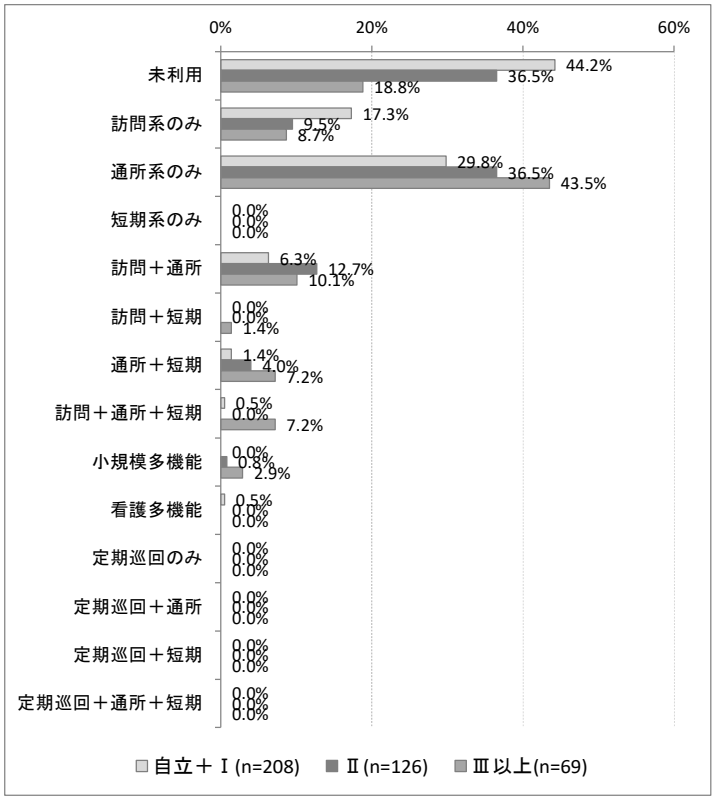
図表 1-6　要介護度別・サービス利用の組み合わせ



【認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ】

サービス利用の組み合わせを認知症高齢者自立度別にみると、「自立＋Ⅰ」では「未利用」が 44.2%ともっとも割合が高く、次いで「通所系のみ」が 29.8%、「訪問系のみ」が 17.3%となっている。「Ⅱ」では「未利用」、「通所系のみ」が 36.5%ともっとも割合が高く、次いで「訪問＋通所」が 12.7%、「訪問系のみ」が 9.5%となっている。「Ⅲ以上」では「通所系のみ」が 43.5%ともっとも割合が高く、次いで「未利用」が 18.8%、「訪問＋通所」が 10.1%となっている。

図表 1-7　認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ



【着目すべきポイント】

○　ここでは、要介護度・認知症自立度別の「サービス利用の組み合わせ」について、組み合わせのパターンを簡略化した集計分析をしています（図表 1-8、図表 1-9）。

○　具体的には、サービス利用の組み合わせを、「訪問系のみ」のサービス利用と、レスパイト機能をもつ「通所系」および「短期系」のみのサービス利用、さらにその２つを組み合わせた「訪問系を含むサービス利用」の３種類（未利用除く）に分類したものです。

○　組み合わせのパターンが細分化された集計分析（図表 1-6、図表 1-7）と比較して、上記のような視点から、重度化に伴う「サービス利用の組み合わせ」の変化の傾向等を分かりやすく示すことを目的としたものです。

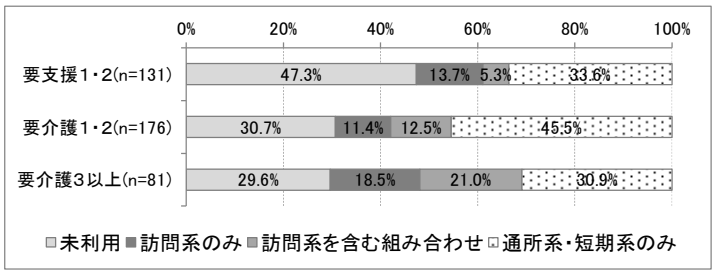
○　前掲の集計分析（図表 1-6、図表 1-7）と同様に、重度化に伴い、どのようなサービス利用の組み合わせが増加しているかに着目することで、現在在宅で生活をする中重度の要介護者が、どのような組み合わせのサービス利用を増加させることで在宅生活を維持しているかを把握することができます。

○　また、中重度の要介護者の増加に伴い、どのような「サービス利用の組み合わせ」のニーズが大きくなると考えられるかを推測することも可能になります。

【要介護度別・サービス利用の組み合わせ】

サービス利用の組み合わせを二次判定結果別にみると、「要支援１・２」では「未利用」が 47.3%ともっとも割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が 33.6%、「訪問系のみ」が 13.7%となっている。「要介護１・２」では「通所系・短期系のみ」が 45.5%ともっとも割合が高く、次いで「未利用」が 30.7%、「訪問系を含む組み合わせ」が 12.5%となっている。「要介護３以上」では「通所系・短期系のみ」が 30.9%ともっとも割合が高く、次いで「未利用」が 29.6%、「訪問系を含む組み合わせ」が 21.0%となっている。

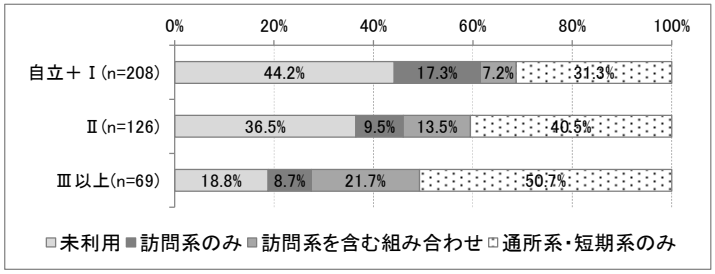
図表 1-8　要介護度別・サービス利用の組み合わせ



【認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ】

サービス利用の組み合わせを認知症高齢者自立度別にみると、「自立＋Ⅰ」では「未利用」が 44.2%ともっとも割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が 31.3%、「訪問系のみ」が 17.3%となっている。「Ⅱ」では「通所系・短期系のみ」が 40.5%ともっとも割合が高く、次いで「未利用」が 36.5%、「訪問系を含む組み合わせ」が 13.5%となっている。「Ⅲ以上」では「通所系・短期系のみ」が 50.7%ともっとも割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が 21.7%、「未利用」が 18.8%となっている。

図表 1-9　認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ



⑷　「サービス利用の組み合わせ」と「施設等検討の状況」の関係

【着目すべきポイント】

○　ここでは、「サービス利用の組み合わせ」と「施設等検討の状況」の関係について、集計分析をしています。それぞれ、要介護３以上と要介護４以上、認知症自立度Ⅲ以上に分けて集計分析を行っています。

○　「施設等検討の状況」について「入所・入居は検討していない」の割合を高めることは、在宅介護実態調査で想定する「アウトカム」の１つです。

○　ここでは「サービス利用の組み合わせ」との関係を集計分析することで、地域目標を達成するためのサービス整備方針の検討につなげることなどを想定しています。

○　図表 1-10～図表 1-12 は、「サービス利用の組み合わせ」別に「施設等検討の状況」の割合を集計分析したもので、特に「サービス利用の組み合わせ」ごとの「施設等検討の状況」の比較が容易です。

○　また、図表 1-13～図表 1-15 は、表側と表頭を逆にして集計したもので、「施設等検討の状況」別の「サービス利用の組み合わせ」をみることができます。これにより、例えば施設等への入所・入居を「検討していない」ケースのような「適切な在宅生活の継続を実現している」と考えられる要介護者について、実際に「どのような組み合わせのサービスを利用しているか」を把握することができます。

○　したがって、例えば「検討中」や「申請済み」と比較して、「検討していない」ケースで多くみられるような「サービス利用の組み合わせ」を推進するような支援・サービスの整備を進めていくことで、在宅限界点の向上につながることなどが期待されます。

【留意事項】

○　ただし、このような「サービス利用の組み合わせ」については、ケアマネジメントに直結する内容でもあることから、ここでの集計分析結果やその解釈については、ケアマネジャー等を含む専門職と

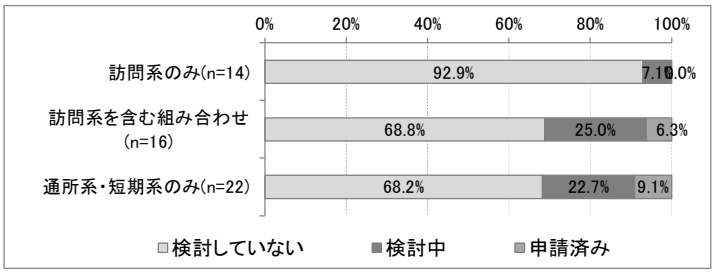
の議論を交えながら、地域ごとにその効果等についての考察を深めていくことが重要となります。

○　例えば、「□□のサービスを利用しているケースでは、「検討していない」の割合が高い」といった傾向がみられたとしても、「何故、□□のサービスを利用しているケースでは、「検討していない」の割合が高いのか」といった解釈には、地域の特性や専門職の知見等を踏まえた個別の議論を行うことが必要になります。

【サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護３以上）】

施設等の検討状況をサービス利用の組み合わせ別にみると、「訪問系のみ」では「検討していない」が92.9%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が 7.1%、「申請済み」が 0.0%となっている。「訪問系を含む組み合わせ」では「検討していない」が 68.8%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が 25.0%、「申請済み」が 6.3%となっている。「通所系・短期系のみ」では「検討していない」が 68.2%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が 22.7%、「申請済み」が 9.1%となっている。

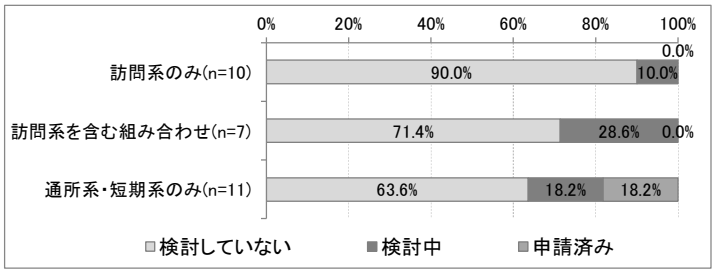
図表 1-10　サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護３以上）



【サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護４以上）】

施設等の検討状況をサービス利用の組み合わせ別にみると、「訪問系のみ」では「検討していない」が90.0%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が 10.0%、「申請済み」が 0.0%となっている。「訪問系を含む組み合わせ」では「検討していない」が 71.4%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が 28.6%、「申請済み」が 0.0%となっている。「通所系・短期系のみ」では「検討していない」が 63.6%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」、「申請済み」が 18.2%となっている。

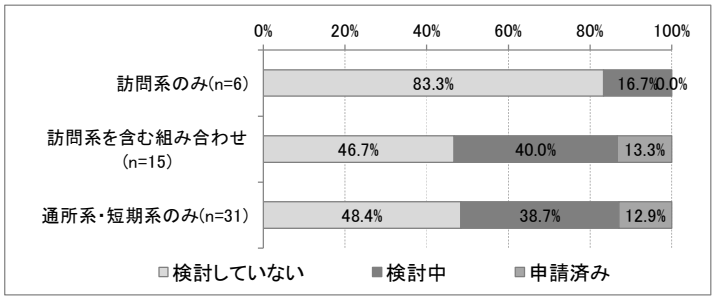
図表 1-11　サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護４以上）



【サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（認知症Ⅲ以上）】

施設等の検討状況をサービス利用の組み合わせ別にみると、「訪問系のみ」では「検討していない」が83.3%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が 16.7%、「申請済み」が 0.0%となっている。「訪問系を含む組み合わせ」では「検討していない」が 46.7%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が 40.0%、「申請済み」が 13.3%となっている。「通所系・短期系のみ」では「検討していない」が 48.4%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が 38.7%、「申請済み」が 12.9%となっている。

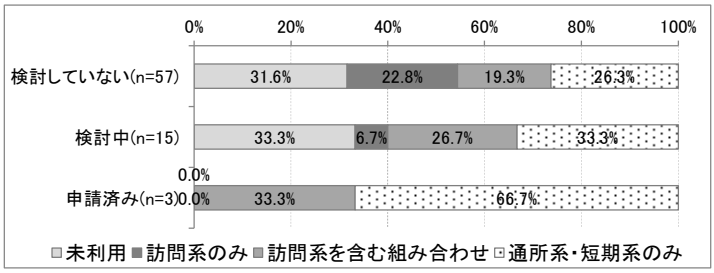
図表 1-12　サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（認知症Ⅲ以上）



【サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護３以上）】

サービス利用の組み合わせを施設等の検討状況別にみると、「検討していない」では「未利用」が31.6%ともっとも割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が 26.3%、「訪問系のみ」が 22.8%となっている。「検討中」では「未利用」、「通所系・短期系のみ」が 33.3%ともっとも割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が 26.7%、「訪問系のみ」が 6.7%となっている。「申請済み」では「通所系・短期系のみ」が 66.7%ともっとも割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が 33.3%、「未利用」、「訪問系のみ」が 0.0%となっている。

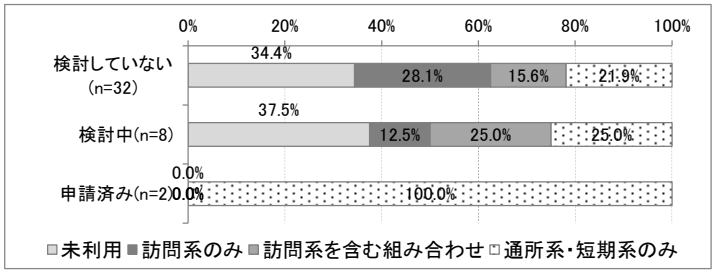
図表 1-13　サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護３以上）



【サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護４以上）】

サービス利用の組み合わせを施設等の検討状況別にみると、「検討していない」では「未利用」が34.4%ともっとも割合が高く、次いで「訪問系のみ」が 28.1%、「通所系・短期系のみ」が 21.9%となっている。「検討中」では「未利用」が 37.5%ともっとも割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」、「通所系・短期系のみ」が 25.0%、「訪問系のみ」が 12.5%となっている。「申請済み」では「通所系・短期系のみ」が 100.0%ともっとも割合が高く、次いで「未利用」、「訪問系のみ」、「訪問系を含む組み合わせ」が 0.0%となっている。

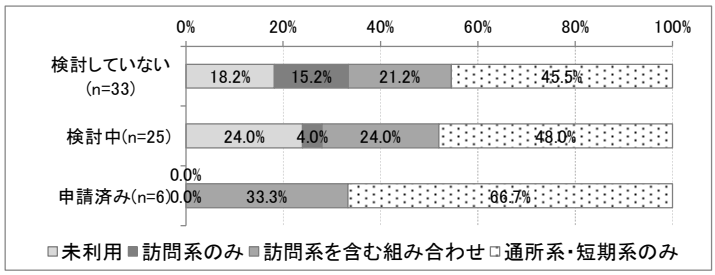
図表 1-14　サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護４以上）



【サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（認知症Ⅲ以上）】

サービス利用の組み合わせを施設等の検討状況別にみると、「検討していない」では「通所系・短期系のみ」が 45.5%ともっとも割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が 21.2%、「未利用」が18.2%となっている。「検討中」では「通所系・短期系のみ」が 48.0%ともっとも割合が高く、次いで「未利用」、「訪問系を含む組み合わせ」が 24.0%、「訪問系のみ」が 4.0%となっている。「申請済み」では「通所系・短期系のみ」が 66.7%ともっとも割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が33.3%、「未利用」、「訪問系のみ」が 0.0%となっている。

図表 1-15　サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（認知症Ⅲ以上）



⑸ 「サービス利用の組み合わせ」と「主な介護者が不安に感じる介護」の関係

【着目すべきポイント】

○　ここでは、「サービス利用の組み合わせ」と「主な介護者が不安に感じる介護」の関係について、集計分析をしています（図表 1-16、図表 1-17）。それぞれ、要介護３以上と認知症自立度Ⅲ以上に分けて集計分析を行っています。

○　「在宅生活の継続に向けてポイントとなる介護（主な介護者の不安が大きな介護 等）」について、「主な介護者が不安に感じる」割合を下げることは、在宅介護実態調査で想定する「アウトカム」の１つです。

○　ここでは「サービス利用の組み合わせ」との関係を集計分析することで、地域目標を達成するためのサービス整備方針の検討につなげることなどを想定しています。

○　したがって、「主な介護者の不安」が比較的小さくなるような「サービス利用の組み合わせ」を推進するようなサービス整備を進めていくことで、在宅限界点の向上につながることなどが期待されます。

【留意事項】

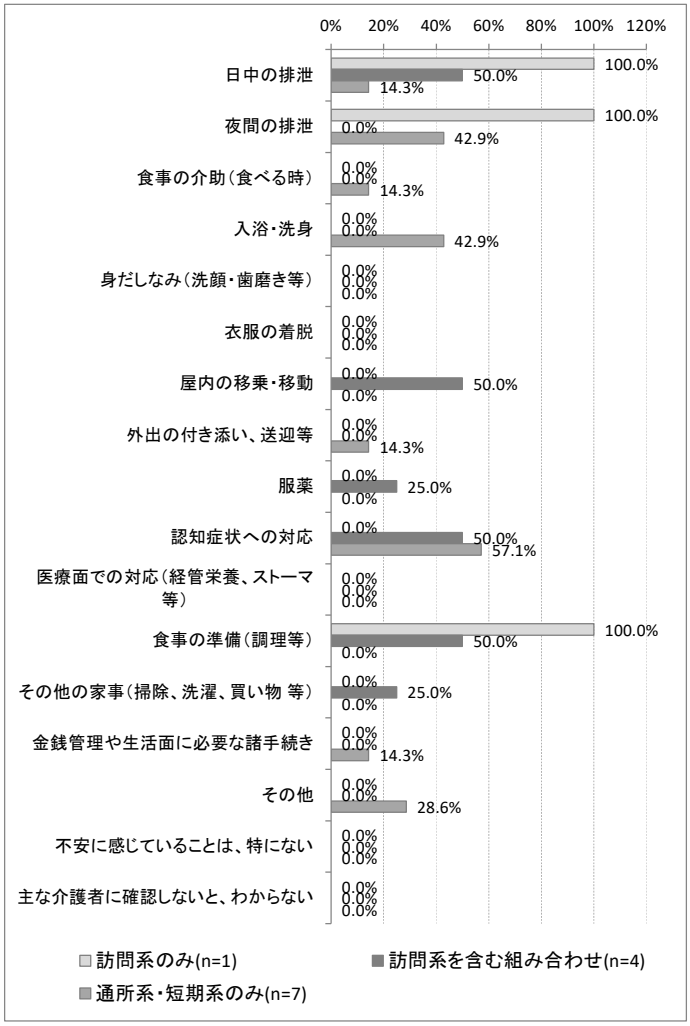
○　ただし、このような「サービス利用の組み合わせ」については、ケアマネジメントに直結する内容でもあることから、ここでの集計分析結果やその解釈については、ケアマネジャー等を含む専門職との議論・考察を交えながら、地域ごとにその効果等についての議論を深めていくことが重要となります。

○　例えば、「□□のサービスを利用しているケースでは、○○の介護について「主な介護者が不安に感じる」割合が低い」といった傾向がみられたとしても、「何故、□□のサービスを利用しているケースでは、○○の介護について「主な介護者が不安に感じる」割合が低いのか」といった解釈には、地域の特性や専門職の知見等を踏まえた個別の議論を行うことが必要になります。

【サービス利用の組み合わせ別・介護者が不安を感じる介護（要介護３以上）】

介護者が不安に感じる介護をサービス利用の組み合わせ別にみると、「訪問系のみ」では「日中の排泄」、「夜間の排泄」、「食事の準備（調理等）」が 100.0%ともっとも割合が高く、次いで「食事の介助（食べる時）」、「入浴・洗身」、「身だしなみ（洗顔・歯磨き等）」、「衣服の着脱」、「屋内の移乗・移動」、「外出の付き添い、送迎等」、「服薬」、「認知症状への対応」、「医療面での対応（経管栄養、ストーマ等）」、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）」、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」、「その他」、「不安に感じていることは、特にない」、「主な介護者に確認しないと、わからない」が 0.0%となっている。「訪問系を含む組み合わせ」では「日中の排泄」、「屋内の移乗・移動」、「認知症状への対応」、「食事の準備（調理等）」が 50.0%ともっとも割合が高く、次いで「服薬」、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）」が 25.0%、「夜間の排泄」、「食事の介助（食べる時）」、「入浴・洗身」、「身だしなみ（洗顔・歯磨き等）」、「衣服の着脱」、「外出の付き添い、送迎等」、「医療面での対応（経管栄養、ストーマ等）」、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」、「その他」、「不安に感じていることは、特にない」、「主な介護者に確認しないと、わからない」が 0.0%となっている。「通所系・短期系のみ」では「認知症状への対応」が 57.1%ともっとも割合が高く、次いで「夜間の排泄」、「入浴・洗身」が 42.9%、「その他」が 28.6%となっている。

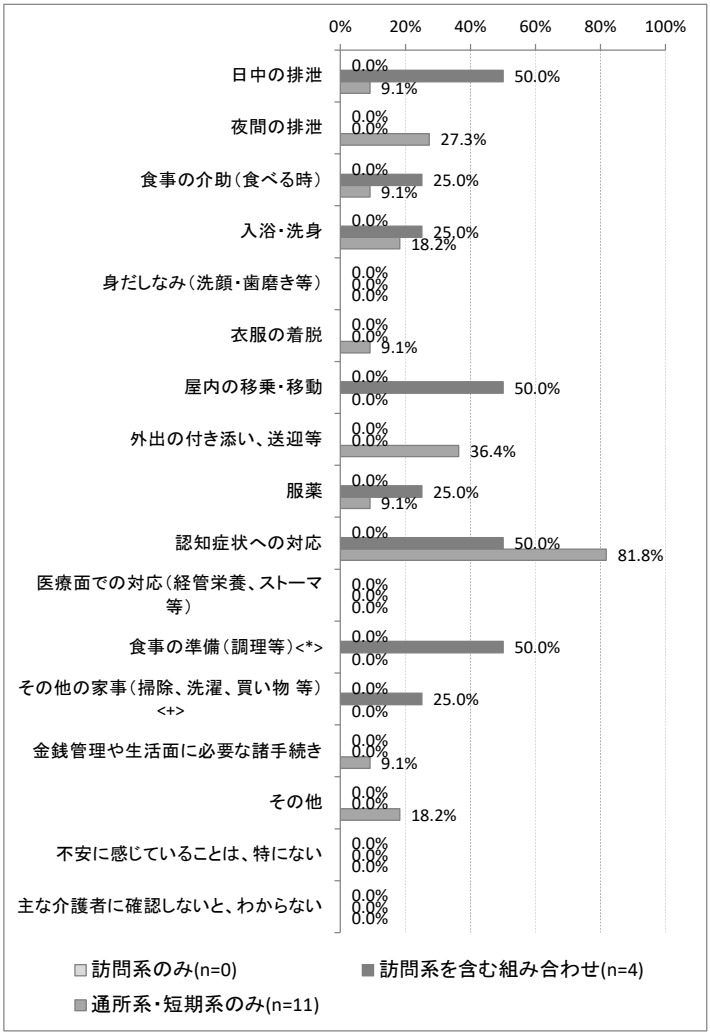
図表 1-16　サービス利用の組み合わせ別・介護者が不安を感じる介護（要介護３以上）



【サービス利用の組み合わせ別・介護者が不安を感じる介護（認知症Ⅲ以上）】

介護者が不安に感じる介護をサービス利用の組み合わせ別にみると、「訪問系のみ」はサンプルがなかった。「訪問系を含む組み合わせ」では「日中の排泄」、「屋内の移乗・移動」、「認知症状への対応」、「食事の準備（調理等）」が 50.0%ともっとも割合が高く、次いで「食事の介助（食べる時）」、「入浴・洗身」、「服薬」、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）」が 25.0%、「夜間の排泄」、「身だしなみ（洗顔・歯磨き等）」、「衣服の着脱」、「外出の付き添い、送迎等」、「医療面での対応（経管栄養、ストーマ等）」、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」、「その他」、「不安に感じていることは、特にない」、「主な介護者に確認しないと、わからない」が 0.0%となっている。「通所系・短期系のみ」では「認知症状への対応」が 81.8%ともっとも割合が高く、次いで「外出の付き添い、送迎等」が 36.4%、「夜間の排泄」が 27.3%となっている。

図表 1-17　サービス利用の組み合わせ別・介護者が不安を感じる介護（認知症Ⅲ以上）



⑹ 「サービス利用の回数」と「施設等検討の状況」の関係

【着目すべきポイント】

○ ⑷では、「サービス利用の組み合わせ」と「施設等検討の状況」の関係を分析しましたが、ここでは「サービス利用の回数」と「施設等検討の状況」について、集計分析を行っています。それぞれ、要介護３以上と認知症自立度Ⅲ以上に分けて集計分析を行っています。

○ 「施設等検討の状況」について「入所・入居は検討していない」の割合を高めることは、在宅介護実態調査で想定する「アウトカム」の１つです。

○ ここでは「サービス利用の回数」との関係を集計分析することで、地域目標を達成するためのサービス整備方針の検討につなげることなどを想定しています。

○ 図表 1-18 と図表 1-19 が訪問系、図表 1-20 と図表 1-21 通所系、図表 1-22 と図表 1-23 が短期系について集計分析した結果です。

○ 「サービス利用の回数」の増加に伴い、施設等への入所・入居を「検討していない」割合が高くなるような支援・サービスの整備を進めていくことで、在宅限界点の向上につながることなどが期待されます。

【留意事項】

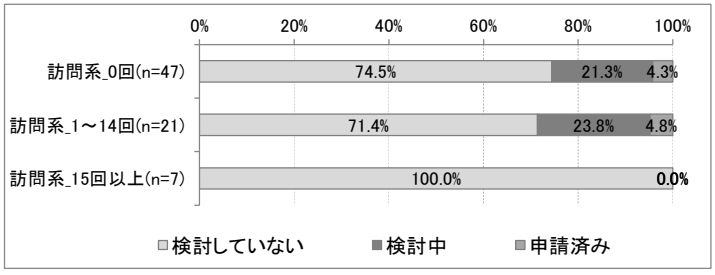
○ ⑷の「サービス利用の組み合わせ」と、ここでの「サービス利用の回数」の２つの分析結果を参考に、在宅限界点の向上に資するサービス整備方針の検討につなげていくことが重要です。

○ ⑷の「サービス利用の組み合わせ」と同様、ケアマネジメントに直結する内容であることから、ここでの集計分析結果やその解釈については、ケアマネジャー等を含む専門職との議論・考察を交えながら、地域ごとにその効果等についての議論を深めていくことが重要となります。

【サービス利用回数と施設等検討の状況（訪問系、要介護３以上）】

施設等の検討状況を訪問系の利用回数別にみると、「訪問系_0 回」では「検討していない」が 74.5%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が 21.3%、「申請済み」が 4.3%となっている。「訪問系_1～14 回」では「検討していない」が 71.4%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が 23.8%、「申請済み」が 4.8%となっている。「訪問系_15 回以上」では「検討していない」が 100.0%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」、「申請済み」が 0.0%となっている。

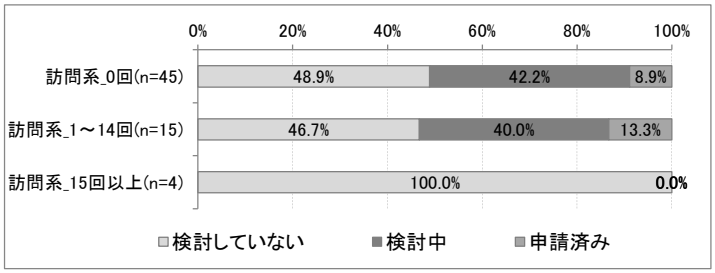
図表 1-18　サービス利用回数と施設等検討の状況（訪問系、要介護３以上）



【サービス利用回数と施設等検討の状況（訪問系、認知症Ⅲ以上）】

施設等の検討状況を訪問系の利用回数別にみると、「訪問系_0 回」では「検討していない」が 48.9%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が 42.2%、「申請済み」が 8.9%となっている。「訪問系_1～14 回」では「検討していない」が 46.7%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が 40.0%、「申請済み」が 13.3%となっている。「訪問系_15 回以上」では「検討していない」が 100.0%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」、「申請済み」が 0.0%となっている。

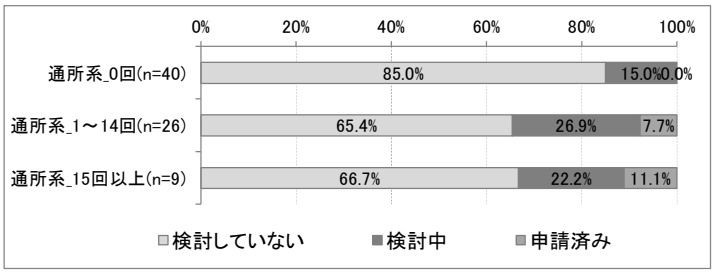
図表 1-19　サービス利用回数と施設等検討の状況（訪問系、認知症Ⅲ以上）



【サービス利用回数と施設等検討の状況（通所系、要介護３以上）】

施設等の検討状況を通所系の利用回数別にみると、「通所系_0 回」では「検討していない」が 85.0%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が 15.0%、「申請済み」が 0.0%となっている。「通所系_1～14 回」では「検討していない」が 65.4%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が 26.9%、「申請済み」が 7.7%となっている。「通所系_15 回以上」では「検討していない」が 66.7%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が 22.2%、「申請済み」が 11.1%となっている。

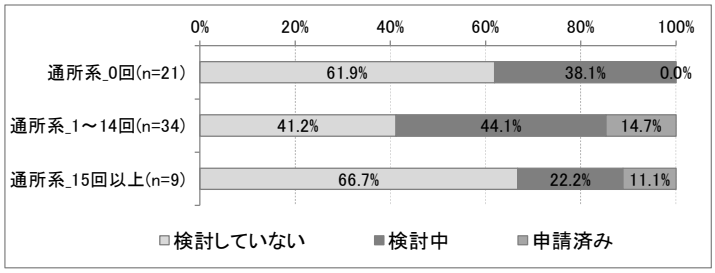
図表 1-20　サービス利用回数と施設等検討の状況（通所系、要介護３以上）



【サービス利用回数と施設等検討の状況（通所系、認知症Ⅲ以上）】

施設等の検討状況を通所系の利用回数別にみると、「通所系_0 回」では「検討していない」が 61.9%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が 38.1%、「申請済み」が 0.0%となっている。「通所系_1～14 回」では「検討中」が 44.1%ともっとも割合が高く、次いで「検討していない」が 41.2%、「申請済み」が 14.7%となっている。「通所系_15 回以上」では「検討していない」が 66.7%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が 22.2%、「申請済み」が 11.1%となっている。

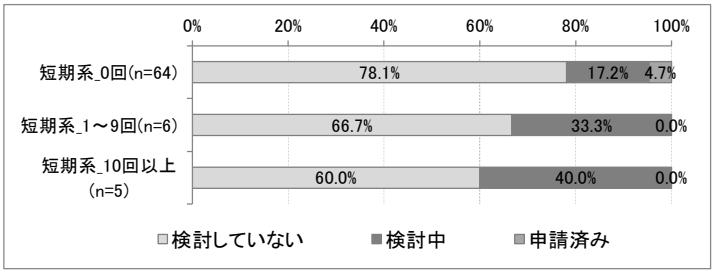
図表 1-21　サービス利用回数と施設等検討の状況（通所系、認知症Ⅲ以上）



【サービス利用回数と施設等検討の状況（短期系、要介護３以上）】

施設等の検討状況を短期系の利用回数別にみると、「短期系_0 回」では「検討していない」が 78.1%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が 17.2%、「申請済み」が 4.7%となっている。「短期系_1～9 回」では「検討していない」が 66.7%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が 33.3%、「申請済み」が 0.0%となっている。「短期系_10 回以上」では「検討していない」が 60.0%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が 40.0%、「申請済み」が 0.0%となっている。

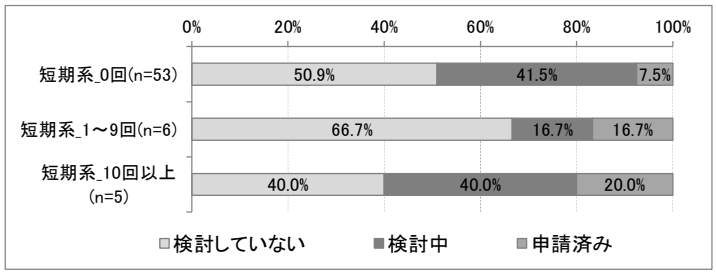
図表 1-22　サービス利用回数と施設等検討の状況（短期系、要介護３以上）



【サービス利用回数と施設等検討の状況（短期系、認知症Ⅲ以上）】

施設等の検討状況を短期系の利用回数別にみると、「短期系_0 回」では「検討していない」が 50.9%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が 41.5%、「申請済み」が 7.5%となっている。「短期系_1～9 回」では「検討していない」が 66.7%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」、「申請済み」が 16.7%となっている。「短期系_10 回以上」では「検討していない」、「検討中」が 40.0%ともっとも割合が高く、次いで「申請済み」が 20.0%となっている。

図表 1-23　サービス利用回数と施設等検討の状況（短期系、認知症Ⅲ以上）



⑺ 「サービス利用の回数」と「主な介護者が不安に感じる介護」の関係

【着目すべきポイント】

○ ⑸では、「サービス利用の組み合わせ」と「主な介護者が不安に感じる介護」の関係を分析しましたが、ここでは「サービス利用の回数」と「主な介護者が不安に感じる介護」について、集計分析を行っています。

○ 「在宅生活の継続に向けてポイントとなる介護（主な介護者の不安が大きな介護 等）」について、「主な介護者が不安に感じる」割合を下げることは、在宅介護実態調査で想定する「アウトカム」の１つです。が短期系について集計分析した結果です。それぞれ、要介護３以上と認知症自立度Ⅲ以上に分けて集計分析を行っています。

○ 「サービス利用の回数」の増加に伴い、「主な介護者が不安に感じる」割合が低くなるような支援・

○ ここでは「サービス利用の回数」との関係を集計分析することで、地域目標を達成するためのサービス整備方針の検討につなげることなどを想定しています。

○ 図表 1-24 と図表 1-25 が訪問系、図表 1-26 と図表 1-27 が通所系、図表 1-28 と図表 1-29 サービスの整備を進めていくことで、在宅限界点の向上につながることなどが期待されます。

【留意事項】

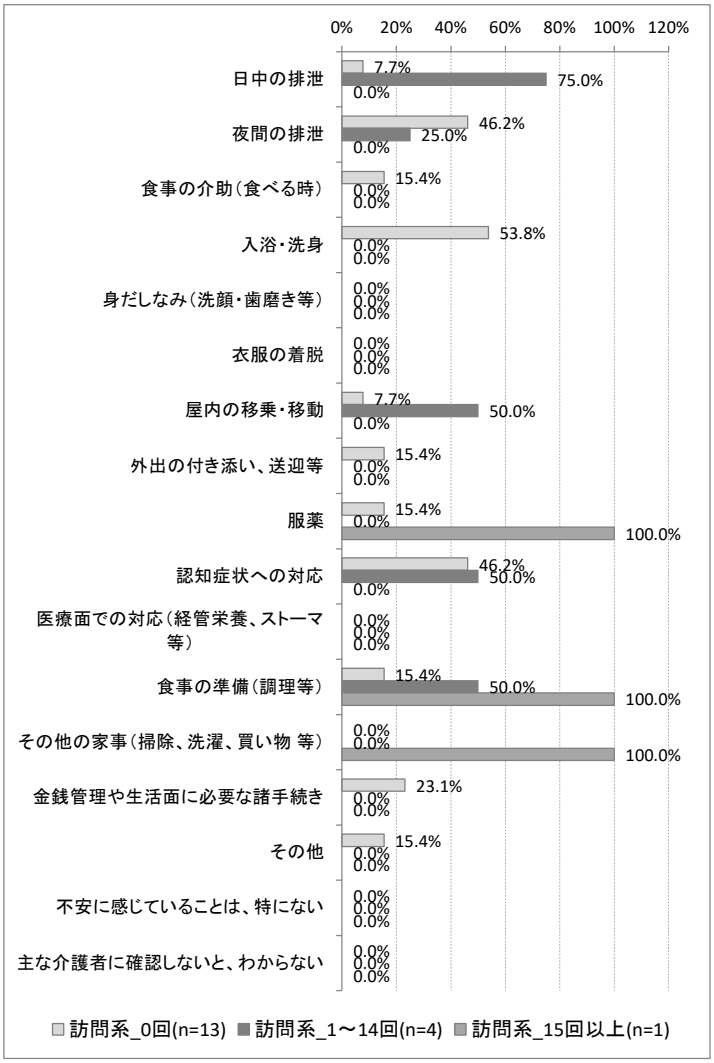
○ ⑸の「サービス利用の組み合わせ」と、ここでの「サービス利用の回数」の２つの分析結果を参考に、介護者不安の軽減に資するサービス整備方針の検討につなげていくことが重要です。

○ ⑸の「サービス利用の組み合わせ」と同様、ケアマネジメントに直結する内容であることから、ここでの集計分析結果やその解釈については、ケアマネジャー等を含む専門職との議論・考察を交えながら、地域ごとにその効果等についての議論を深めていくことが重要となります。

【サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（訪問系、要介護３以上）】

介護者が不安に感じる介護を訪問系の利用回数別にみると、「訪問系_0 回」では「入浴・洗身」が 53.8%ともっとも割合が高く、次いで「夜間の排泄」、「認知症状への対応」が 46.2%、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が 23.1%となっている。「訪問系_1～14 回」では「日中の排泄」が 75.0%ともっとも割合が高く、次いで「屋内の移乗・移動」、「認知症状への対応」、「食事の準備（調理等）」が 50.0%、「夜間の排泄」が 25.0%となっている。「訪問系_15 回以上」では「服薬」、「食事の準備（調理等）」、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）」が 100.0%ともっとも割合が高く、次いで「日中の排泄」、「夜間の排泄」、「食事の介助（食べる時）」、「入浴・洗身」、「身だしなみ（洗顔・歯磨き等）」、「衣服の着脱」、「屋内の移乗・移動」、「外出の付き添い、送迎等」、「認知症状への対応」、「医療面での対応（経管栄養、ストーマ 等）」、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」、「その他」、「不安に感じていることは、特にない」、「主な介護者に確認しないと、わからない」が 0.0%となっている。

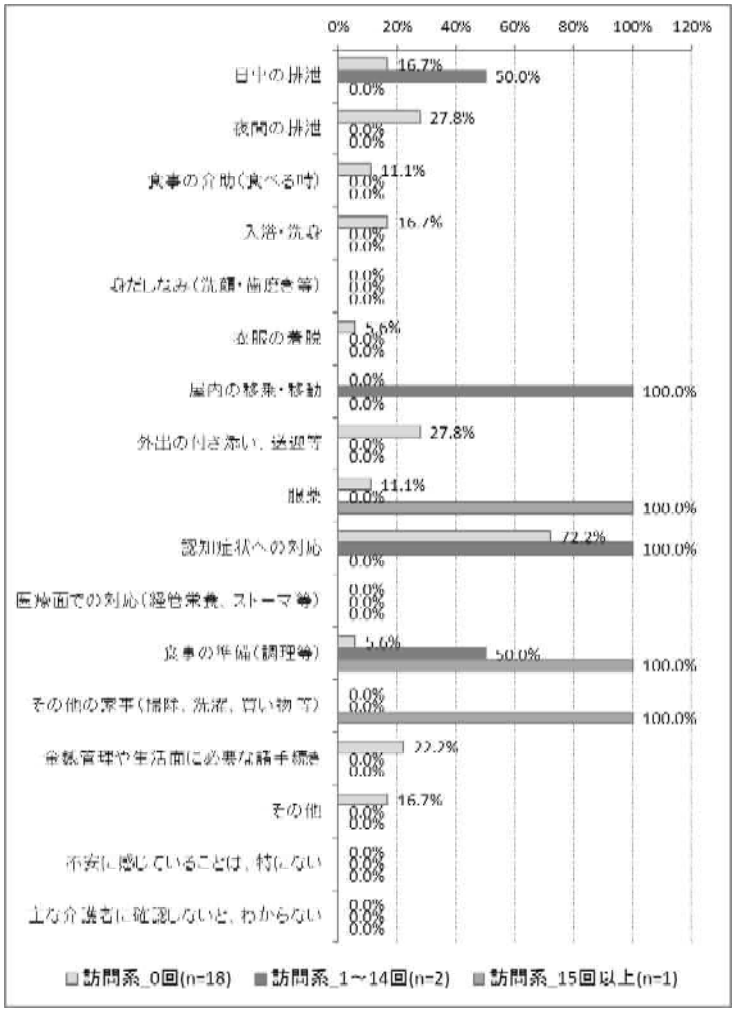
図表 1-24　サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（訪問系、要介護３以上）



【サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（訪問系、認知症Ⅲ以上）】

介護者が不安に感じる介護を訪問系の利用回数別にみると、「訪問系_0 回」では「認知症状への対応」が 72.2%ともっとも割合が高く、次いで「夜間の排泄」、「外出の付き添い、送迎等」が 27.8%、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が 22.2%となっている。「訪問系_1～14 回」では「屋内の移乗・移動」、「認知症状への対応」が 100.0%ともっとも割合が高く、次いで「日中の排泄」、「食事の準備（調理等）」が 50.0%、「夜間の排泄」、「食事の介助（食べる時）」、「入浴・洗身」、「身だしなみ（洗顔・歯磨き等）」、「衣服の着脱」、「外出の付き添い、送迎等」、「服薬」、「医療面での対応（経管栄養、ストーマ 等）」、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）」、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」、「その他」、「不安に感じていることは、特にない」、「主な介護者に確認しないと、わからない」が 0.0%となっている。「訪問系_15 回以上」では「服薬」、「食事の準備（調理等）」、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）」が 100.0%ともっとも割合が高く、次いで「日中の排泄」、「夜間の排泄」、「食事の介助（食べる時）」、「入浴・洗身」、「身だしなみ（洗顔・歯磨き等）」、「衣服の着脱」、「屋内の移乗・移動」、「外出の付き添い、送迎等」、「認知症状への対応」、「医療面での対応（経管栄養、ストーマ 等）」、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」、「その他」、「不安に感じていることは、特にない」、「主な介護者に確認しないと、わからない」が 0.0%となっている。

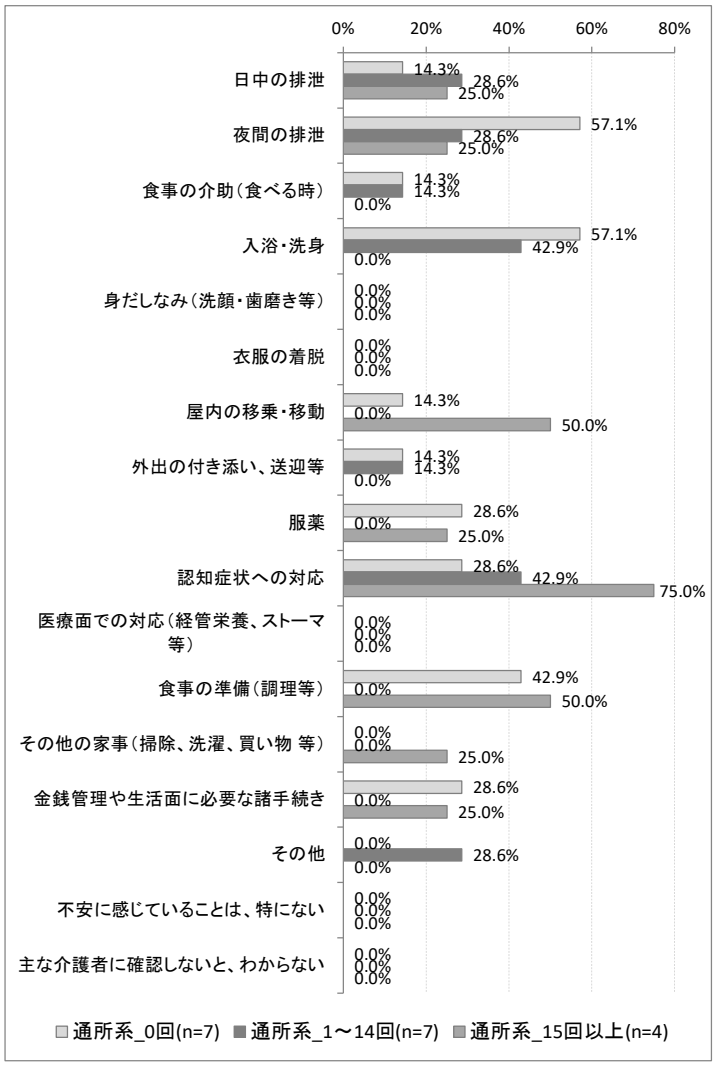
図表 1-25　サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（訪問系、認知症Ⅲ以上）



【サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（通所系、要介護３以上）】

介護者が不安に感じる介護を通所系の利用回数別にみると、「通所系_0 回」では「夜間の排泄」、「入浴・洗身」が 57.1%ともっとも割合が高く、次いで「食事の準備（調理等）」が 42.9%、「服薬」、「認知症状への対応」、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が 28.6%となっている。「通所系_1～14 回」では「入浴・洗身」、「認知症状への対応」が 42.9%ともっとも割合が高く、次いで「日中の排泄」、「夜間の排泄」、「その他」が 28.6%、「食事の介助（食べる時）」、「外出の付き添い、送迎等」が 14.3%となっている。「通所系_15 回以上」では「認知症状への対応」が 75.0%ともっとも割合が高く、次いで「屋内の移乗・移動」、「食事の準備（調理等）」が 50.0%、「日中の排泄」、「夜間の排泄」、「服薬」、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）」、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が 25.0%となっている。

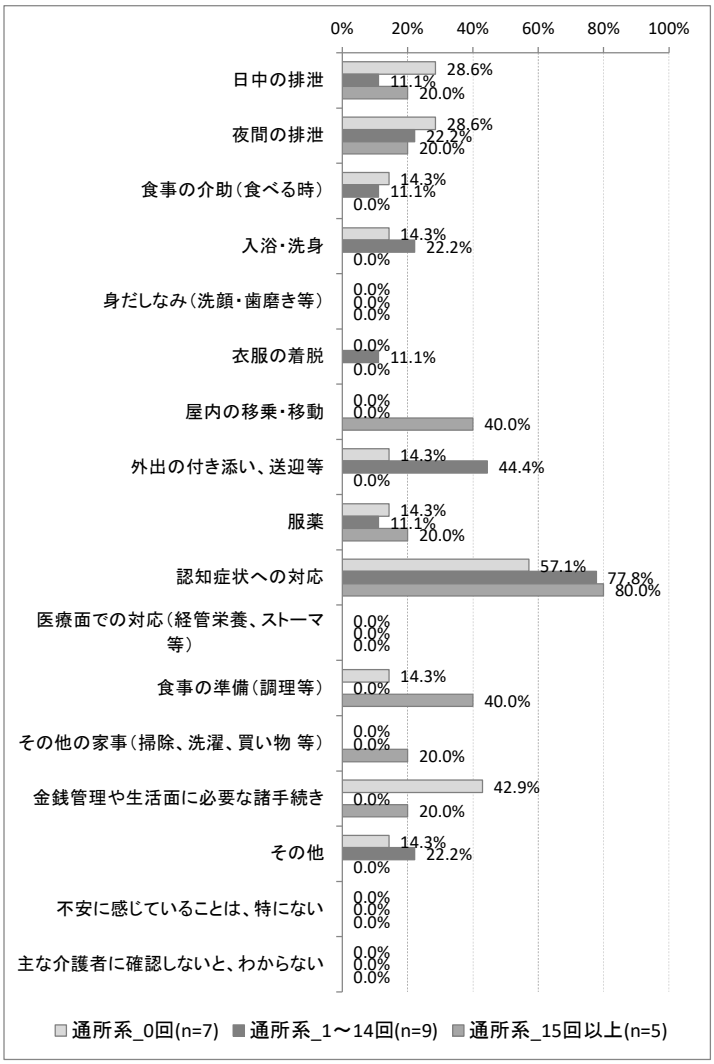
図表 1-26　サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（通所系、要介護３以上）



【サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（通所系、認知症Ⅲ以上）】

介護者が不安に感じる介護を通所系の利用回数別にみると、「通所系_0 回」では「認知症状への対応」が 57.1%ともっとも割合が高く、次いで「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が 42.9%、「日中の排泄」、「夜間の排泄」が 28.6%となっている。「通所系_1～14 回」では「認知症状への対応」が 77.8%ともっとも割合が高く、次いで「外出の付き添い、送迎等」が 44.4%、「夜間の排泄」、「入浴・洗身」、「その他」が 22.2%となっている。「通所系_15 回以上」では「認知症状への対応」が 80.0%ともっとも割合が高く、次いで「屋内の移乗・移動」、「食事の準備（調理等）」が 40.0%、「日中の排泄」、「夜間の排泄」、「服薬」、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）」、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が 20.0%となっている。

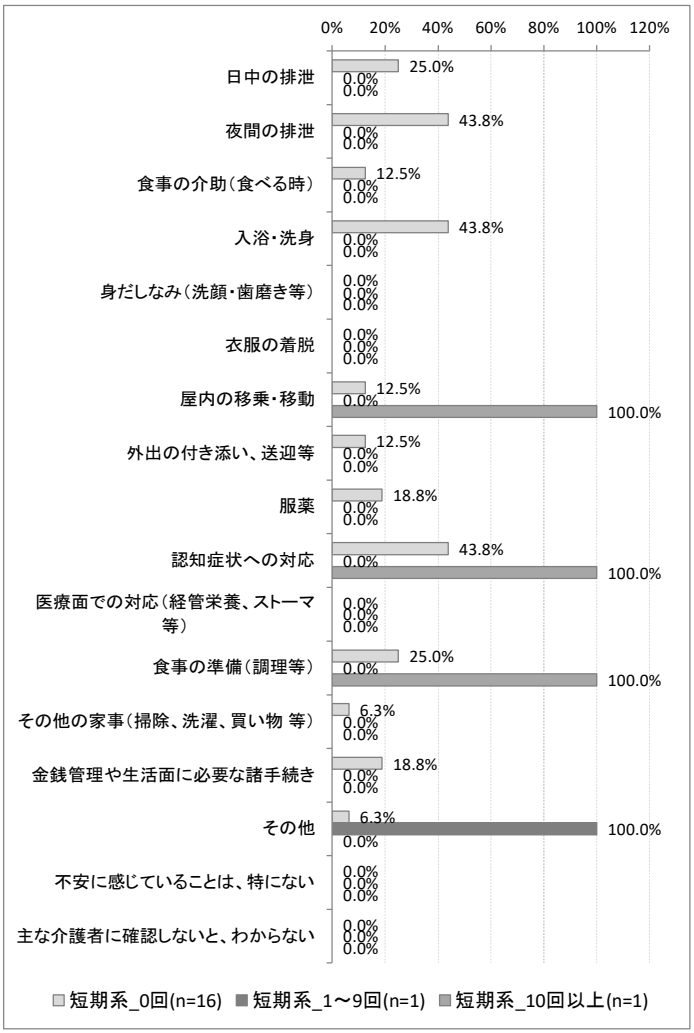
図表 1-27　サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（通所系、認知症Ⅲ以上）



【サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（短期系、要介護３以上）】

介護者が不安に感じる介護を短期系の利用回数別にみると、「短期系_0 回」では「夜間の排泄」、「入浴・洗身」、「認知症状への対応」が 43.8%ともっとも割合が高く、次いで「日中の排泄」、「食事の準備（調理等）」が 25.0%、「服薬」、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が 18.8%となっている。「短期系_1～9 回」では「その他」が 100.0%ともっとも割合が高く、次いで「日中の排泄」、「夜間の排泄」、「食事の介助（食べる時）」、「入浴・洗身」、「身だしなみ（洗顔・歯磨き等）」、「衣服の着脱」、「屋内の移乗・移動」、「外出の付き添い、送迎等」、「服薬」、「認知症状への対応」、「医療面での対応（経管栄養、ストーマ 等）」、「食事の準備（調理等）」、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）」、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」、「不安に感じていることは、特にない」、「主な介護者に確認しないと、わからない」が 0.0%となっている。「短期系_10 回以上」では「屋内の移乗・移動」、「認知症状への対応」、「食事の準備（調理等）」が 100.0%ともっとも割合が高く、次いで「日中の排泄」、「夜間の排泄」、「食事の介助（食べる時）」、「入浴・洗身」、「身だしなみ（洗顔・歯磨き等）」、「衣服の着脱」、「外出の付き添い、送迎等」、「服薬」、「医療面での対応（経管栄養、ストーマ 等）」、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）」、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」、「その他」、「不安に感じていることは、特にない」、「主な介護者に確認しないと、わからない」が 0.0%となっている。

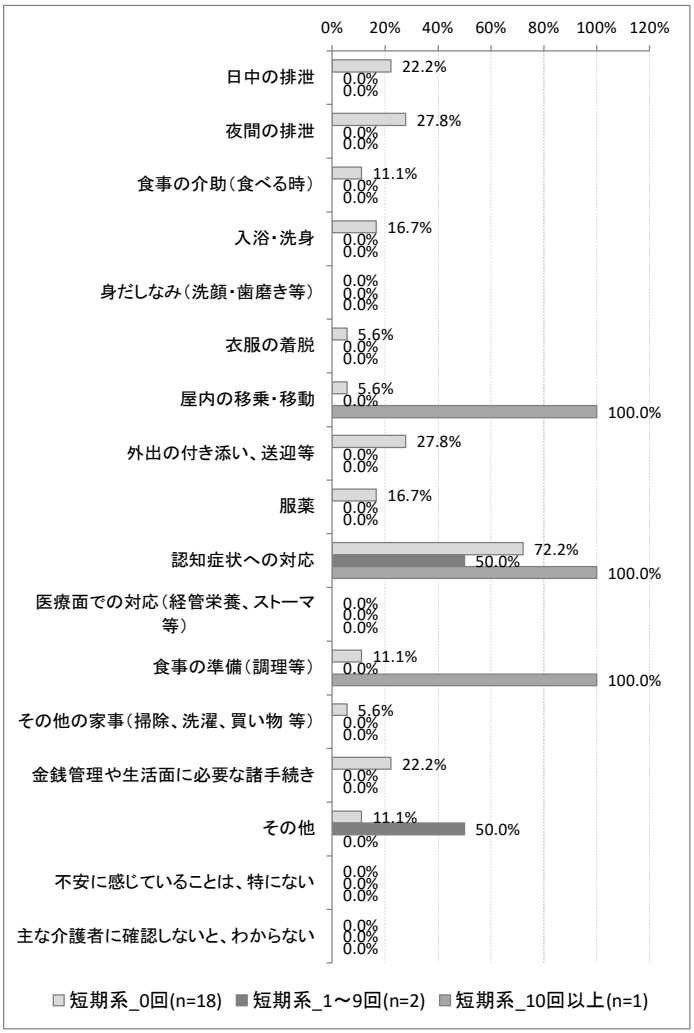
図表 1-28　サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（短期系、要介護３以上）



【サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（短期系、認知症Ⅲ以上）】

介護者が不安に感じる介護を短期系の利用回数別にみると、「短期系_0 回」では「認知症状への対応」が 72.2%ともっとも割合が高く、次いで「夜間の排泄」、「外出の付き添い、送迎等」が 27.8%、「日中の排泄」、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が 22.2%となっている。「短期系_1～9 回」では「認知症状への対応」、「その他」が 50.0%ともっとも割合が高く、次いで「日中の排泄」、「夜間の排泄」、「食事の介助（食べる時）」、「入浴・洗身」、「身だしなみ（洗顔・歯磨き等）」、「衣服の着脱」、「屋内の移乗・移動」、「外出の付き添い、送迎等」、「服薬」、「医療面での対応（経管栄養、ストーマ 等）」、「食事の準備（調理等）」、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）」、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」、「不安に感じていることは、特にない」、「主な介護者に確認しないと、わからない」が 0.0%となっている。「短期系_10 回以上」では「屋内の移乗・移動」、「認知症状への対応」、「食事の準備（調理等）」が 100.0%ともっとも割合が高く、次いで「日中の排泄」、「夜間の排泄」、「食事の介助（食べる時）」、「入浴・洗身」、「身だしなみ（洗顔・歯磨き等）」、「衣服の着脱」、「外出の付き添い、送迎等」、「服薬」、「医療面での対応（経管栄養、ストーマ 等）」、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）」、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」、「その他」、「不安に感じていることは、特にない」、「主な介護者に確認しないと、わからない」が 0.0%となっている。

図表 1-29　サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（短期系、認知症Ⅲ以上）



2　仕事と介護の両立に向けた支援・サービスの提供体制の検討

2.1　集計・分析の狙い

○　ここでは、介護者の就労継続見込みの向上に向けて必要となる支援・サービスを検討するために、「主な介護者の就労状況」と「主な介護者の就労継続見込み」の２つの視点からの集計を行っています。

○　具体的には、「就労している介護者（フルタイム勤務、パートタイム勤務）」と「就労していない介護者」の違いに着目し、就労している介護者の属性や介護状況の特徴別に、必要な支援を集計・分析しています。

○　さらに、「どのようなサービス利用」や「働き方の調整・職場の支援」を受けている場合に、「就労を継続することができる」という見込みを持つことができるのかを分析するために、主な介護者の「就労継続見込み」と、「主な介護者が行っている介護」や「介護保険サービスの利用の有無」、「介護のための働き方の調整」などとのクロス集計を行っています。

○　上記の視点からの分析では、要介護度や認知症高齢者の日常生活自立度といった要介護者の状態別の分析も加え、要介護者の自立度が重くなっても、在宅生活や就労を継続できる支援のあり方を検討しています。

2.2　集計結果と着目すべきポイント

(1) 基本集計

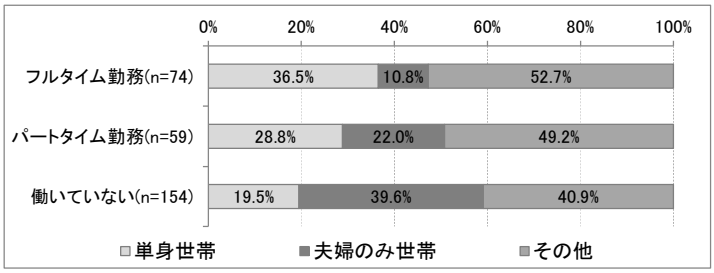
○　主な介護者の就労状況（フルタイム勤務・パートタイム勤務・働いていない）別に、世帯や介護者の特徴などの基礎的な集計を行っています。

○　主な介護者の属性や、要介護者の要介護度・認知症自立度について、就労状況別にその状況を確認してください。

【就労状況別・世帯類型】

世帯類型を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「その他」が 52.7%ともっとも割合が高く、次いで「単身世帯」が 36.5%、「夫婦のみ世帯」が 10.8%となっている。「パートタイム勤務」では「その他」が 49.2%ともっとも割合が高く、次いで「単身世帯」が 28.8%、「夫婦のみ世帯」が 22.0%となっている。「働いていない」では「その他」が 40.9%ともっとも割合が高く、次いで「夫婦のみ世帯」が 39.6%、「単身世帯」が 19.5%となっている。

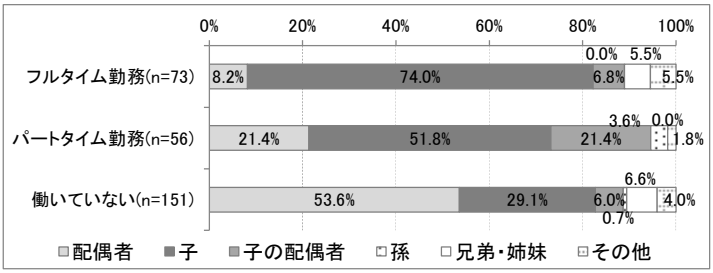
図表 2-1　就労状況別・世帯類型



【就労状況別・主な介護者の本人との関係】

主な介護者を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「子」が 74.0%ともっとも割合が高く、次いで「配偶者」が 8.2%、「子の配偶者」が 6.8%となっている。「パートタイム勤務」では「子」が 51.8%ともっとも割合が高く、次いで「配偶者」、「子の配偶者」が 21.4%、「孫」が 3.6%となっている。「働いていない」では「配偶者」が 53.6%ともっとも割合が高く、次いで「子」が 29.1%、「兄弟・姉妹」が 6.6%となっている。

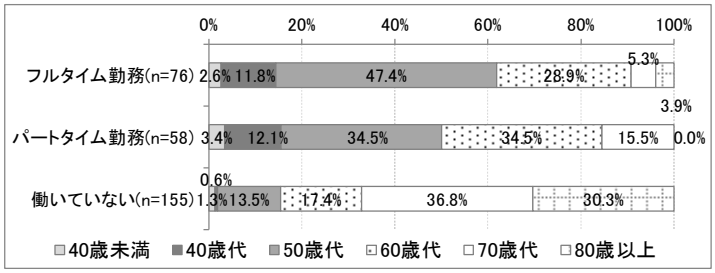
図表 2-2　就労状況別・主な介護者の本人との関係



【就労状況別・主な介護者の年齢】

介護者の年齢を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「50 歳代」が 47.4%ともっとも割合が高く、次いで「60 歳代」が 28.9%、「40 歳代」が 11.8%となっている。「パートタイム勤務」では「50 歳代」、「60 歳代」が 34.5%ともっとも割合が高く、次いで「70 歳代」が 15.5%、「40 歳代」が 12.1%となっている。「働いていない」では「70 歳代」が 36.8%ともっとも割合が高く、次いで「80 歳以上」が 30.3%、「60 歳代」が 17.4%となっている。

図表 2-3　就労状況別・主な介護者の年齢



【就労状況別・主な介護者の性別】

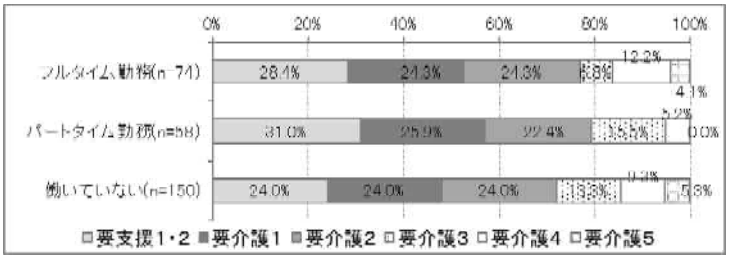
介護者の性別を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「男性」、「女性」が 50.0%ともっとも割合が高くなっている。「パートタイム勤務」では「女性」が 84.2%ともっとも割合が高く、次いで「男性」が 15.8%となっている。「働いていない」では「女性」が 62.8%ともっとも割合が高く、次いで「男性」が 37.2%となっている。

図表 2-4　就労状況別・主な介護者の性別

【就労状況別・要介護度】

二次判定結果を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「要支援１・２」が 28.4%ともっとも割合が高く、次いで「要介護１」、「要介護２」が 24.3%、「要介護４」が 12.2%となっている。「パートタイム勤務」では「要支援１・２」が 31.0%ともっとも割合が高く、次いで「要介護１」が 25.9%、「要介護２」が 22.4%となっている。「働いていない」では「要支援１・２」、「要介護１」、「要介護２」が 24.0%ともっとも割合が高く、次いで「要介護３」が 13.3%、「要介護４」が 9.3%となっている。

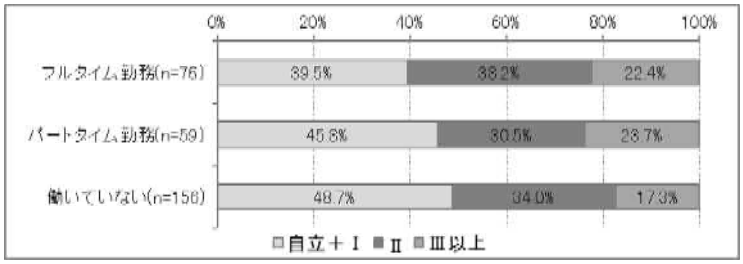
図表 2-5　就労状況別・要介護度



【就労状況別・認知症自立度】

認知症高齢者自立度を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「自立＋Ⅰ」が 39.5%ともっとも割合が高く、次いで「Ⅱ」が 38.2%、「Ⅲ以上」が 22.4%となっている。「パートタイム勤務」では「自立＋Ⅰ」が 45.8%ともっとも割合が高く、次いで「Ⅱ」が 30.5%、「Ⅲ以上」が 23.7%となっている。「働いていない」では「自立＋Ⅰ」が 48.7%ともっとも割合が高く、次いで「Ⅱ」が 34.0%、「Ⅲ以上」が 17.3%となっている。

図表 2-6　就労状況別・認知症自立度



⑵ 就労状況別の、主な介護者が行っている介護と就労継続見込み

【着目すべきポイント】

○　ここでは、「主な介護者が行っている介護」と「今後の就労継続見込み」について、主な介護者の就労状況別に集計分析をしています（図表 2-8、図表 2-9）。

○　「主な介護者が行っている介護」について、例えば、「働いていない」人と比較して、「フルタイム勤務」や「パートタイム勤務」で少ない介護は、働いている介護者が、他の介護者や介護サービスの支援を必要としているものと考えられます。

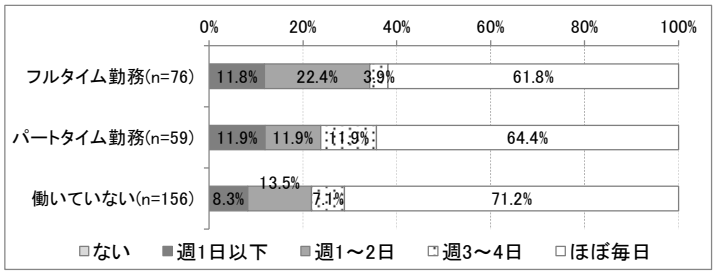
○　「今後の就労継続見込み」については、「就労状況」との関係に加え、「要介護度」や「認知症自立度」別についても、集計分析を行っています。これにより、要介護者の重度化に伴って就労継続見込みを困難と考える人が増加するかどうかを把握することができます。

○　なお、就労継続見込みの分析においては、「問題なく、続けていける」の割合と、「問題なく、続けていける」と「問題はあるが、何とか続けていける」をあわせた「続けていける」と考えている人の割合の２つの指標に着目しています（図表 2-10、図表 2-11）。

【就労状況別・家族等による介護の頻度】

ご家族等の介護の頻度を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「ほぼ毎日」が 61.8%ともっとも割合が高く、次いで「週 1～2 日」が 22.4%、「週 1 日以下」が 11.8%となっている。「パートタイム勤務」では「ほぼ毎日」が 64.4%ともっとも割合が高く、次いで「週 1 日以下」、「週 1～2 日」、「週 3～4 日」が 11.9%、「ない」が 0.0%となっている。「働いていない」では「ほぼ毎日」が 71.2%ともっとも割合が高く、次いで「週 1～2 日」が 13.5%、「週 1 日以下」が 8.3%となっている。

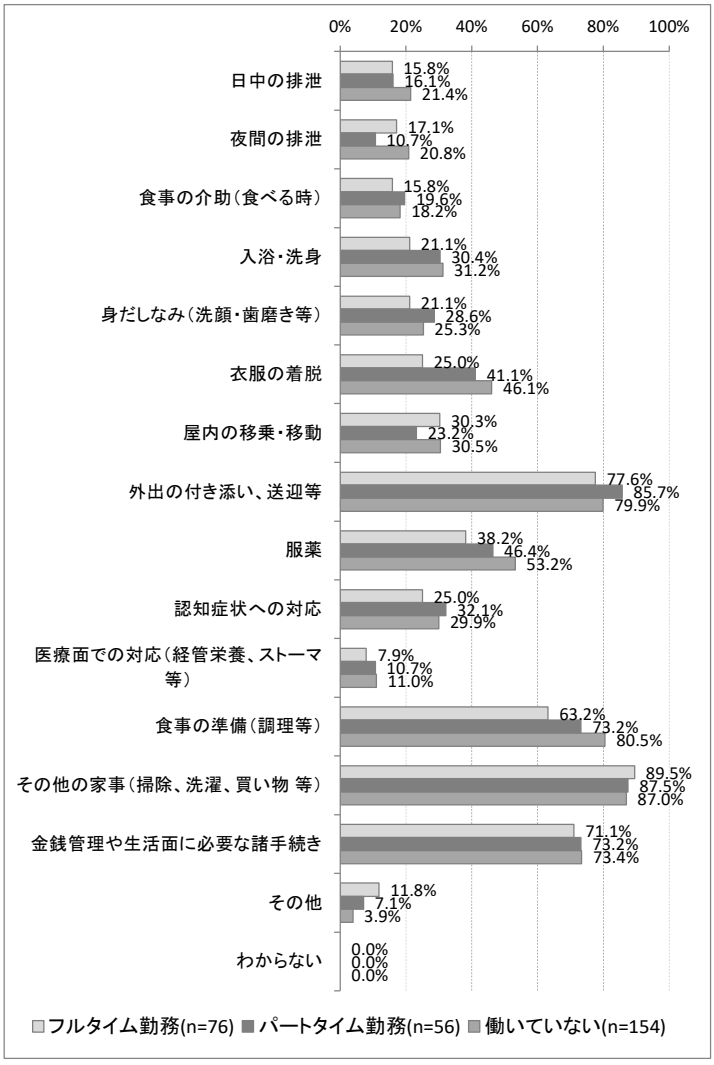
図表 2-7　就労状況別・家族等による介護の頻度



【就労状況別・主な介護者が行っている介護】

介護者が行っている介護を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）」が 89.5%ともっとも割合が高く、次いで「外出の付き添い、送迎等」が 77.6%、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が 71.1%となっている。「パートタイム勤務」では「その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）」が 87.5%ともっとも割合が高く、次いで「外出の付き添い、送迎等」が 85.7%、「食事の準備（調理等）」、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が 73.2%となっている。「働いていない」では「その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）」が 87.0%ともっとも割合が高く、次いで「食事の準備（調理等）」が 80.5%、「外出の付き添い、送迎等」が 79.9%となっている。

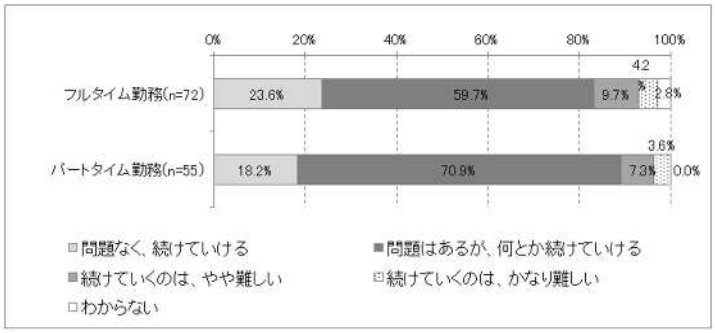
図表 2-8　就労状況別・主な介護者が行っている介護



【就労状況別・就労継続見込み】

介護者の就労継続の可否に係る意識を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「問題はあるが、何とか続けていける」が 59.7%ともっとも割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」が 23.6%、「続けていくのは、やや難しい」が 9.7%となっている。「パートタイム勤務」では「問題はあるが、何とか続けていける」が 70.9%ともっとも割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」が 18.2%、「続けていくのは、やや難しい」が 7.3%となっている。

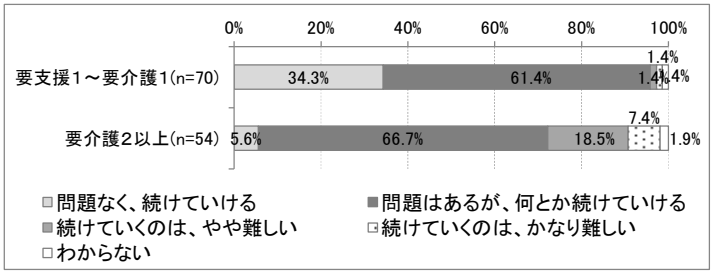
図表 2-9　就労状況別・就労継続見込み



【要介護度別・就労継続見込み（フルタイム勤務＋パートタイム勤務）】

介護者の就労継続の可否に係る意識を二次判定結果別にみると、「要支援１～要介護１」では「問題はあるが、何とか続けていける」が 61.4%ともっとも割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」が 34.3%、「続けていくのは、やや難しい」、「続けていくのは、かなり難しい」、「わからない」が 1.4%となっている。「要介護２以上」では「問題はあるが、何とか続けていける」が 66.7%ともっとも割合が高く、次いで「続けていくのは、やや難しい」が 18.5%、「続けていくのは、かなり難しい」が 7.4%となっている。

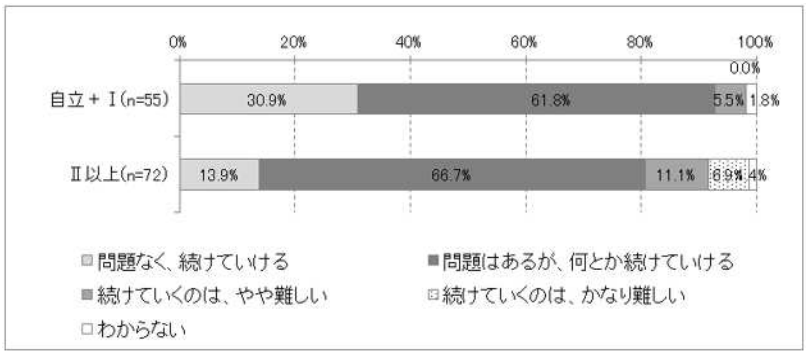
図表 2-10　要介護度別・就労継続見込み（フルタイム勤務＋パートタイム勤務）〈***〉



【認知症自立度別・就労継続見込み（フルタイム勤務＋パートタイム勤務）】

介護者の就労継続の可否に係る意識を認知症高齢者自立度別にみると、「自立＋Ⅰ」では「問題はあるが、何とか続けていける」が 61.8%ともっとも割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」が 30.9%、「続けていくのは、やや難しい」が 5.5%となっている。「Ⅱ以上」では「問題はあるが、何とか続けていける」が 66.7%ともっとも割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」が 13.9%、「続けていくのは、やや難しい」が 11.1%となっている。

図表 2-11　認知症自立度別・就労継続見込み（フルタイム勤務＋パートタイム勤務）



⑶　「介護保険サービスの利用状況」・「主な介護者が不安に感じる介護」と「就労継続見込み」の関係

【着目すべきポイント】

○　ここでは、「介護保険サービスの利用状況」と「主な介護者が不安に感じる介護」について、主な介護者の就労状況別及び就労継続見込み別に集計分析をしています（図表 2-12～図表 2-15）。

○　「介護保険サービスの利用状況」と「就労継続見込み」の関係についての集計分析から、サービス利用による就労継続見込みへの影響を把握することができます。さらに、サービスを利用していない人の「サービス未利用の理由」について、就労継続が困難と考える人が、そうでない人と比較して特徴がみられる理由に着目することで、必要なサービス利用がなされているかどうかを推測することができます。

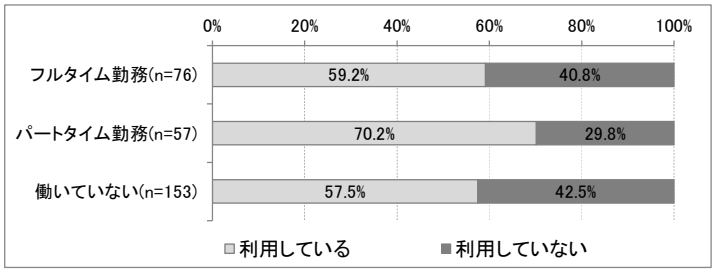
○　例えば、就労継続が困難と考える人において、サービスを「利用していない」割合が高く、かつサービスを利用していない理由として、「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が低い割合にとどまっている場合には、サービス利用の必要性が低くないにも関わらず、サービスの利用がなされていないことになります（図表 2-13、図表 2-14）。

○　「主な介護者が不安に感じる介護」については、就労継続見込みの困難化に伴い、どのような介護等で不安が増加しているかに着目することで、在宅生活を継続しながらの就労継続について、介護者がその可否を判断するポイントとなる可能性がある介護等を把握することができます。

【就労状況別・介護保険サービス利用の有無】

介護保険サービスの利用の有無を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「利用している」が 59.2%ともっとも割合が高く、次いで「利用していない」が 40.8%となっている。「パートタイム勤務」では「利用している」が 70.2%ともっとも割合が高く、次いで「利用していない」が 29.8%となっている。「働いていない」では「利用している」が 57.5%ともっとも割合が高く、次いで「利用していない」が 42.5%となっている。

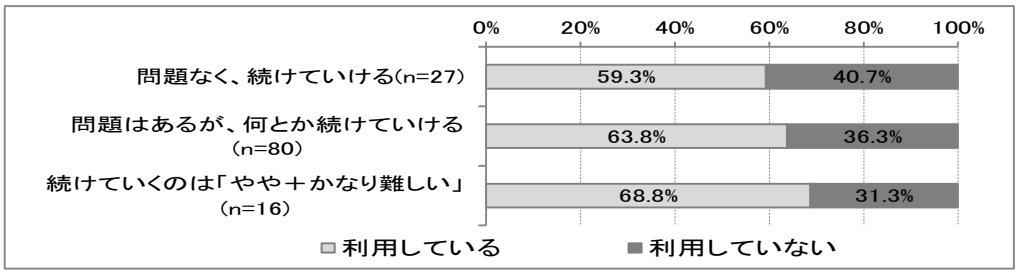
図表 2-12　就労状況別・介護保険サービス利用の有無



【就労継続見込み別・介護保険サービス利用の有無（フルタイム勤務＋パートタイム勤務)】

介護保険サービスの利用の有無を介護者の就労継続の可否に係る意識別にみると、「問題なく、続けていける」では「利用している」が 59.3%ともっとも割合が高く、次いで「利用していない」が 40.7%となっている。「問題はあるが、何とか続けていける」では「利用している」が 63.8%ともっとも割合が高く、次いで「利用していない」が 36.3%となっている。「続けていくのは「やや＋かなり難しい」」では「利用している」が 68.8%ともっとも割合が高く、次いで「利用していない」が 31.3%となっている。

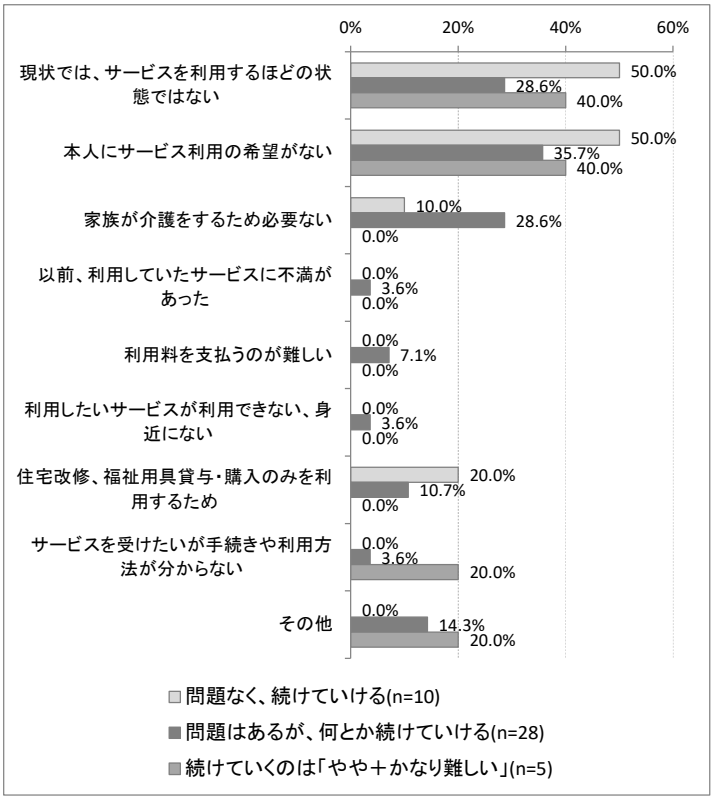
図表 2-13　就労継続見込み別・介護保険サービス利用の有無（フルタイム勤務＋パートタイム勤務）



【就労継続見込み別・サービス未利用の理由（フルタイム勤務＋パート勤務）】

未利用の理由を介護者の就労継続の可否に係る意識別にみると、「問題なく、続けていける」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」、「本人にサービス利用の希望がない」が 50.0%ともっとも割合が高く、次いで「住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため」が 20.0%、「家族が介護をするため必要ない」が 10.0%となっている。「問題はあるが、何とか続けていける」では「本人にサービス利用の希望がない」が 35.7%ともっとも割合が高く、次いで「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」、「家族が介護をするため必要ない」が 28.6%、「その他」が 14.3%となっている。「続けていくのは「やや＋かなり難しい」」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」、「本人にサービス利用の希望がない」が 40.0%ともっとも割合が高く、次いで「サービスを受けたいが手続きや利用方法が分からない」、「その他」が 20.0%、「家族が介護をするため必要ない」、「以前、利用していたサービスに不満があった」、「利用料を支払うのが難しい」、「利用したいサービスが利用できない、身近にない」、「住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため」が 0.0%となっている。

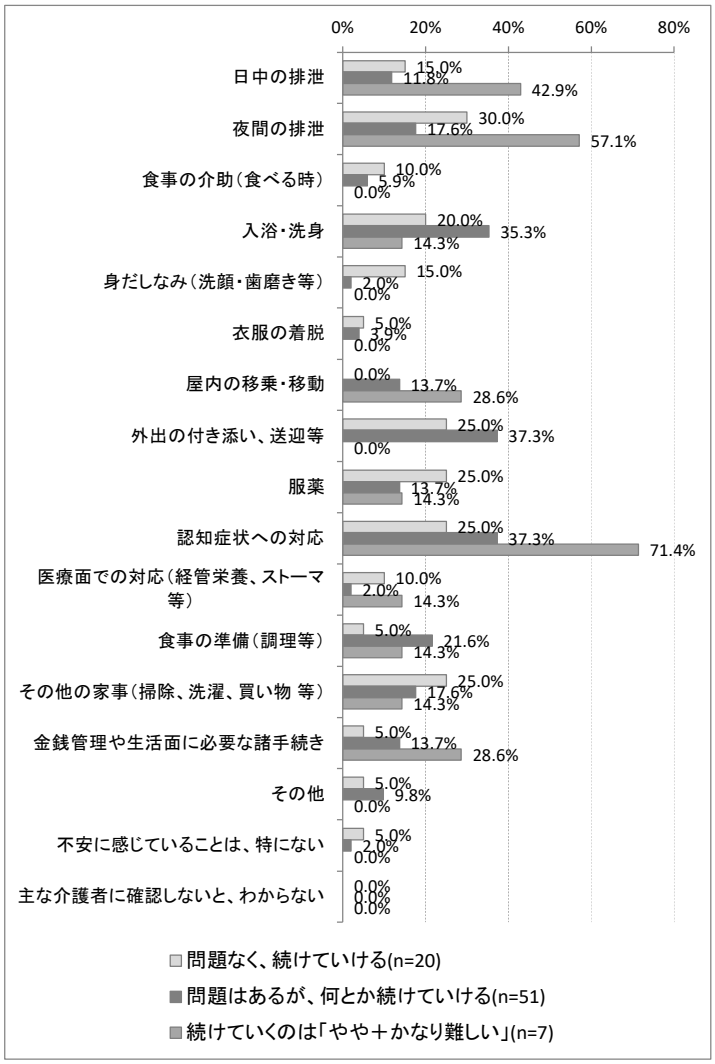
図表 2-14　就労継続見込み別・サービス未利用の理由（フルタイム勤務＋パート勤務）



【就労継続見込み別・介護者が不安に感じる介護（フルタイム勤務＋パートタイム勤務）】

介護者が不安に感じる介護を介護者の就労継続の可否に係る意識別にみると、「問題なく、続けていける」では「夜間の排泄」が 30.0%ともっとも割合が高く、次いで「外出の付き添い、送迎等」、「服薬」、「認知症状への対応」、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）」が 25.0%、「入浴・洗身」が 20.0%となっている。「問題はあるが、何とか続けていける」では「外出の付き添い、送迎等」、「認知症状への対応」が 37.3%ともっとも割合が高く、次いで「入浴・洗身」が 35.3%、「食事の準備（調理等）」が 21.6%となっている。「続けていくのは「やや＋かなり難しい」」では「認知症状への対応」が 71.4%ともっとも割合が高く、次いで「夜間の排泄」が 57.1%、「日中の排泄」が 42.9%となっている。

図表 2-15　就労継続見込み別・介護者が不安に感じる介護（フルタイム勤務＋パートタイム勤務）



⑷ 「サービス利用の組み合わせ」と「就労継続見込み」の関係

【着目すべきポイント】

○ ここでは、「サービス利用の組み合わせ」について、組み合わせのパターンを簡略化し、主な介護者の就労状況別及び就労継続見込み別に集計分析をしています。さらに、訪問系サービスについては、要介護２以上、認知症自立度Ⅱ以上に分けて集計分析を行っています（図表 2-16～図表 2-18）。

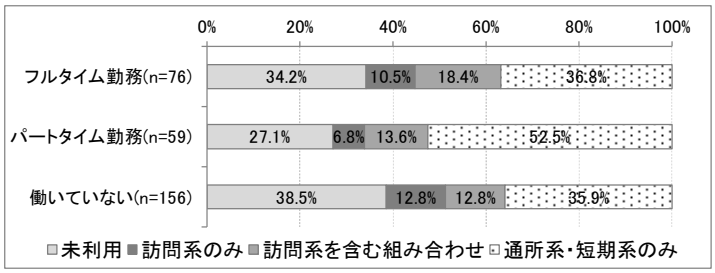
○ ここから、主な介護者の就労状況によって、「サービス利用の組み合わせ」に差がみられるかどうかを把握することができます。

○ また、「訪問系サービスの利用の有無」と「就労継続見込み」の関係を集計分析することで、訪問系サービスの利用が、就労継続見込みの「問題なく、続けていける」「問題はあるが、何とか続けていける」の割合に影響を与えているかどうかを推測することが可能です。

【就労状況別・サービス利用の組み合わせ】

サービス利用の組み合わせを介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「通所系・短期系のみ」が 36.8%ともっとも割合が高く、次いで「未利用」が 34.2%、「訪問系を含む組み合わせ」が 18.4%となっている。「パートタイム勤務」では「通所系・短期系のみ」が 52.5%ともっとも割合が高く、次いで「未利用」が 27.1%、「訪問系を含む組み合わせ」が 13.6%となっている。「働いていない」では「未利用」が 38.5%ともっとも割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が 35.9%、「訪問系のみ」、「訪問系を含む組み合わせ」が 12.8%となっている

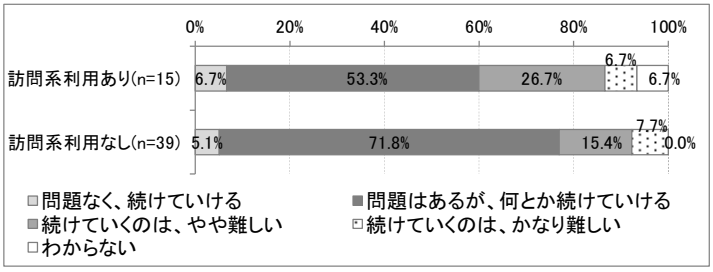
図表 2-16　就労状況別・サービス利用の組み合わせ



【サービス利用の組み合わせ別・就労継続見込み（要介護２以上、フルタイム勤務＋パートタイム勤務)】

介護者の就労継続の可否に係る意識を訪問系の利用の有無別にみると、「訪問系利用あり」では「問題はあるが、何とか続けていける」が 53.3%ともっとも割合が高く、次いで「続けていくのは、やや難しい」が 26.7%、「問題なく、続けていける」、「続けていくのは、かなり難しい」、「わからない」が 6.7%となっている。「訪問系利用なし」では「問題はあるが、何とか続けていける」が 71.8%ともっとも割合が高く、次いで「続けていくのは、やや難しい」が 15.4%、「続けていくのは、かなり難しい」が 7.7%となっている。

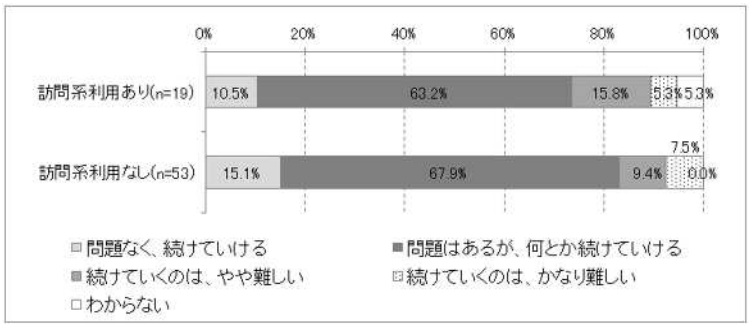
図表 2-17　サービス利用の組み合わせ別・就労継続見込み（要介護２以上、フルタイム勤務＋パートタイム勤務）



+【サービス利用の組み合わせ別・就労継続見込み（認知症自立度Ⅱ以上、フルタイム勤務＋パートタイム勤務)】

介護者の就労継続の可否に係る意識を訪問系の利用の有無別にみると、「訪問系利用あり」では「問題はあるが、何とか続けていける」が 63.2%ともっとも割合が高く、次いで「続けていくのは、やや難しい」が 15.8%、「問題なく、続けていける」が 10.5%となっている。「訪問系利用なし」では「問題はあるが、何とか続けていける」が 67.9%ともっとも割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」が 15.1%、「続けていくのは、やや難しい」が 9.4%となっている。

図表 2-18　サービス利用の組み合わせ別・就労継続見込み（認知症自立度Ⅱ以上、フルタイム勤務＋パートタイム勤務）



⑸ 就労状況別の、保険外の支援・サービスの利用状況と、施設等検討の状況

【着目すべきポイント】

○　ここでは、「保険外の支援・サービスの利用状況」、「訪問診療の利用の有無」、「施設等検討の状況」について、主な介護者の就労状況別及び就労継続見込み別に集計分析をしています（図表 2-19～図表 2-22）。

○　「利用している保険外の支援・サービス」と、「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」の差をみることにより、働いている介護者が必要と感じているが、実際には利用されていない生活支援サービスを把握することができます。

○　また、「訪問診療の利用の有無」と就労状況との関係を集計分析することで、訪問診療の利用が就労状況により異なるかどうかを把握することができます。

○　「施設等検討の状況」については、働いていない介護者に比べて、働いている介護者では、施設入所を必要と感じているかどうか分析することを目的としています。

○　さらに、要介護２以上の中重度者については、就労継続見込みについて「続けていくのは、やや難しい」「続けていくのは、かなり難しい」と考える人のうち、どの程度の人が施設を検討しているかに着目しています。これにより、在宅での仕事と介護の両立が困難となった場合の対応として、施設対応の必要性と、在宅サービスや働き方の調整による対応の必要性のそれぞれについて、把握することができます。

【留意事項】

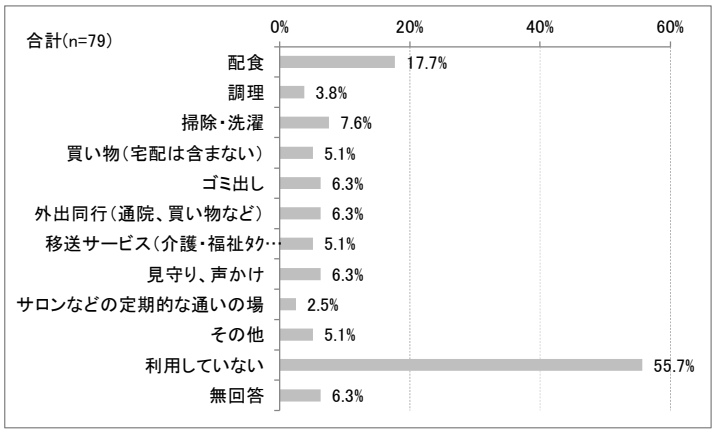
○　ここでの「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」とは、保険外の支援・サービスに限定されるものではありません。必要となる支援・サービスの整備方法については、必ずしも保険外のサービスに限定せず、幅広い視点から検討を進めることが重要です。

○　アンケート調査の中で「必要な支援・サービス」を回答して頂くと、「無くても大丈夫であるが、無いよりはあった方が良い」といった回答も含まれることが想定されることから、回答結果は実際のニーズよりもやや過大となる可能性があります。

【利用している保険外の支援・サービス（フルタイム勤務）】

「利用していない」の割合が最も高く55.7%となっている。次いで、「配食（17.7%）」、「掃除・洗濯（7.6%）」となっている。

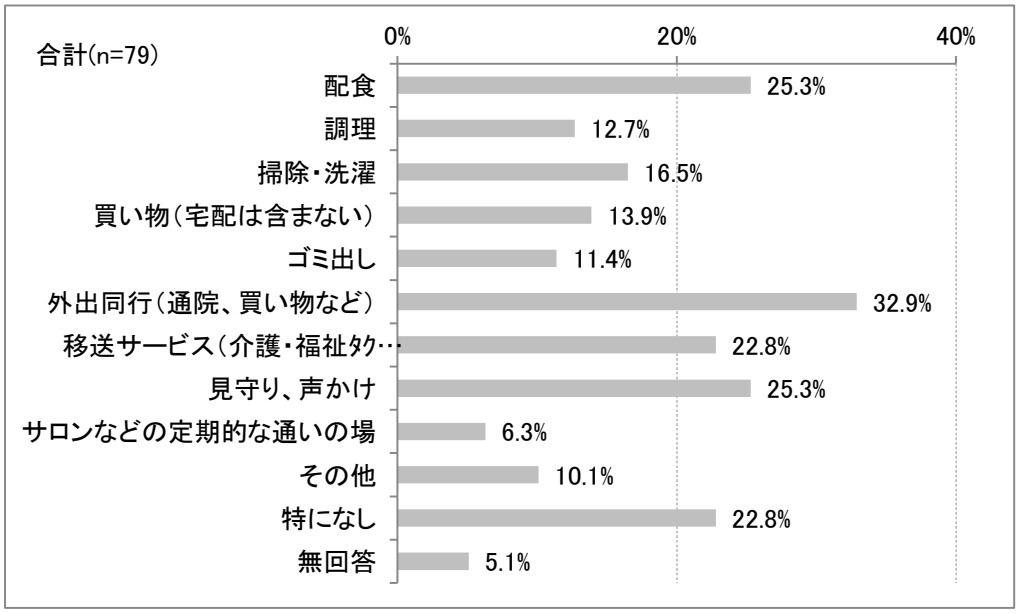
図表 2-19_1　利用している保険外の支援・サービス（フルタイム勤務）



【在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（フルタイム勤務）】

「外出同行（通院、買い物など）」の割合が最も高く 32.9%となっている。次いで、「配食（25.3%）」、「見守り、声かけ（25.3%）」、「移送サービス（介護・福祉ﾀｸｼｰ等）（22.8%）」、「特になし（22.8%）」となっている。

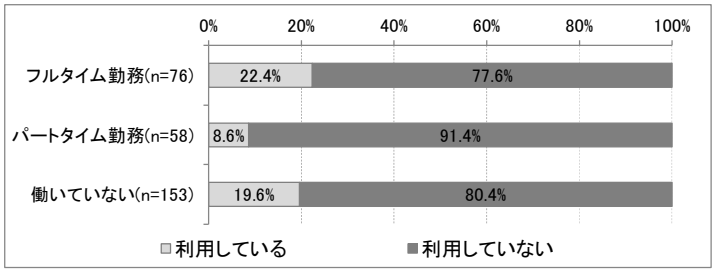
図表 2-19_2　在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（フルタイム勤務）



【就労状況別・訪問診療の利用の有無】

訪問診療の利用の有無を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「利用していない」が 77.6%ともっとも割合が高く、次いで「利用している」が 22.4%となっている。「パートタイム勤務」では「利用していない」が 91.4%ともっとも割合が高く、次いで「利用している」が 8.6%となっている。「働いていない」では「利用していない」が 80.4%ともっとも割合が高く、次いで「利用している」が 19.6%となっている。

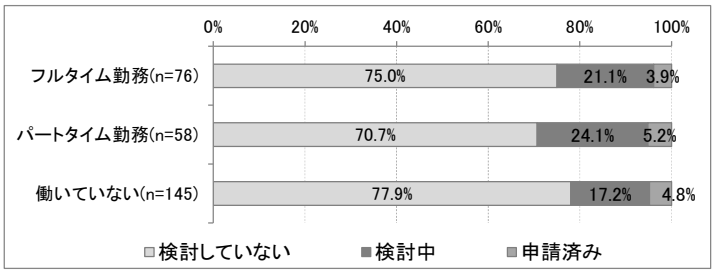
図表 2-20　就労状況別・訪問診療の利用の有無<+>



【就労状況別・施設等検討の状況】

施設等の検討状況を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「検討していない」が75.0%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が21.1%、「申請済み」が3.9%となっている。「パートタイム勤務」では「検討していない」が70.7%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が24.1%、「申請済み」が5.2%となっている。「働いていない」では「検討していない」が77.9%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が17.2%、「申請済み」が4.8%となっている。

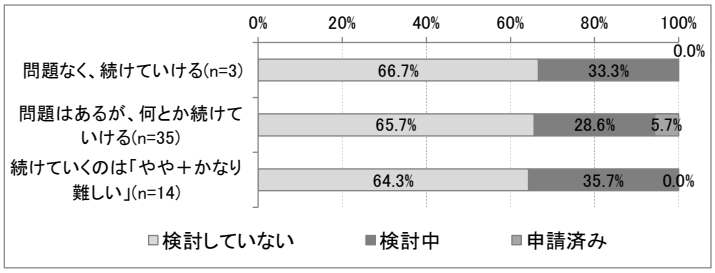
図表 2-21　就労状況別・施設等検討の状況



【就労継続見込み別・施設等検討の状況（要介護２以上、フルタイム勤務＋パートタイム勤務）】

施設等の検討状況を介護者の就労継続の可否に係る意識別にみると、「問題なく、続けていける」では「検討していない」が66.7%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が33.3%、「申請済み」が0.0%となっている。「問題はあるが、何とか続けていける」では「検討していない」が65.7%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が28.6%、「申請済み」が5.7%となっている。「続けていくのは「やや＋かなり難しい」」では「検討していない」が64.3%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が35.7%、「申請済み」が0.0%となっている。

図表 2-22　就労継続見込み別・施設等検討の状況（要介護２以上、フルタイム勤務＋パートタイム勤務）



⑹ 就労状況別の、介護のための働き方の調整と効果的な勤め先からの支援

【着目すべきポイント】

○　ここでは、「介護のための働き方の調整」と、「効果的な勤め先からの支援」について、主な介護者の就労状況別及び就労継続見込み別に集計分析をしています（図表 2-23～図表 2-26）。

○　就労継続見込みによって、介護のために働き方を調整している割合や、効果的と考える勤め先の支援内容がどのように変化するかに着目して集計分析をしています。

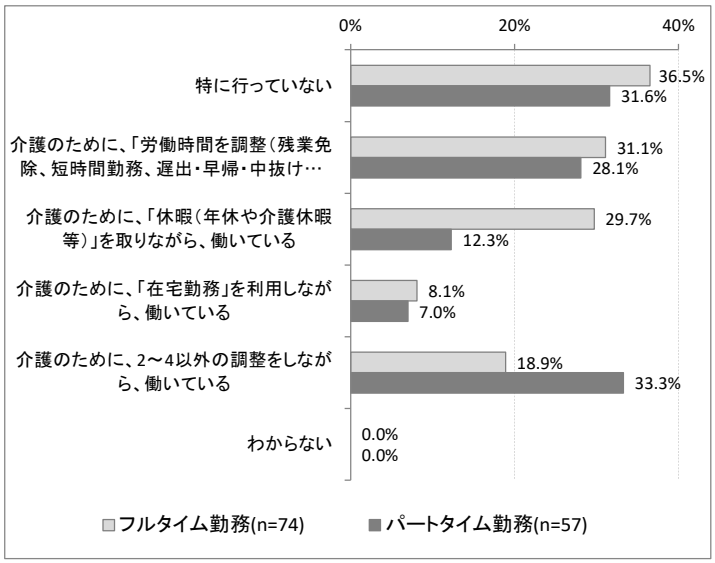
○　ただし、「問題なく、続けていける」とする人において、働き方の調整を「特に行っていない」割合、もしくは効果的な勤め先の支援として「特にない」が高いケースは、職場が恒常的な長時間労働や、休暇取得が困難といった状況にはなく、介護のために特段働き方の調整や勤め先からの支援を行わなくても、両立可能な職場であることが考えられます。

○　このように、職場の状況や業務の内容によっても、必要な調整や支援の内容が異なることに留意することが必要です。

【就労状況別・介護のための働き方の調整】

介護者の働き方の調整の状況を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「特に行っていない」が 36.5%ともっとも割合が高く、次いで「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」が 31.1%、「介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている」が 29.7%となっている。「パートタイム勤務」では「介護のために、2～4 以外の調整をしながら、働いている」が 33.3%ともっとも割合が高く、次いで「特に行っていない」が 31.6%、「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」が 28.1%となっている。

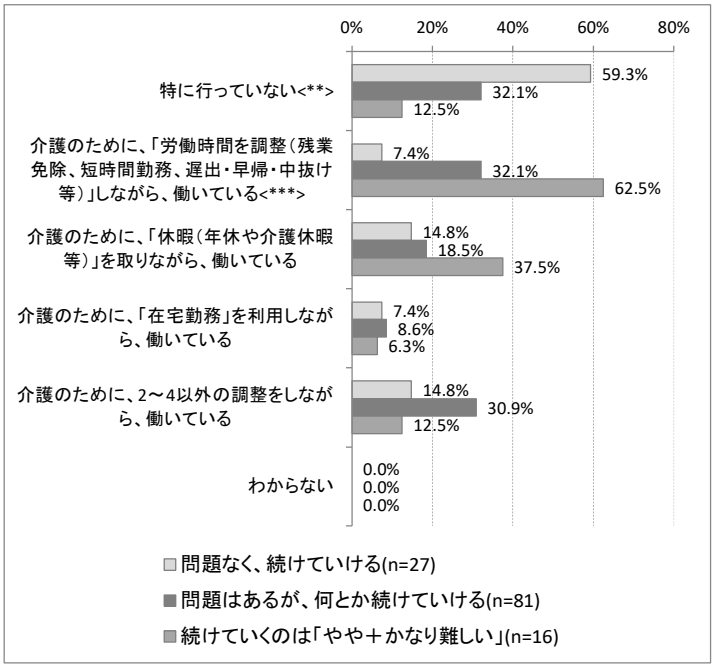
図表 2-23　就労状況別・介護のための働き方の調整



【就労継続見込み別・介護のための働き方の調整（フルタイム勤務＋パートタイム勤務）】

介護者の働き方の調整の状況を介護者の就労継続の可否に係る意識別にみると、「問題なく、続けていける」では「特に行っていない」が 59.3%ともっとも割合が高く、次いで「介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている」、「介護のために、2～4 以外の調整をしながら、働いている」が 14.8%、「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」、「介護のために、「在宅勤務」を利用しながら、働いている」が 7.4%となっている。「問題はあるが、何とか続けていける」では「特に行っていない」、「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」が 32.1%ともっとも割合が高く、次いで「介護のために、2～4 以外の調整をしながら、働いている」が 30.9%、「介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている」が 18.5%となっている。「続けていくのは「やや＋かなり難しい」」では「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」が 62.5%ともっとも割合が高く、次いで「介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている」が 37.5%、「特に行っていない」、「介護のために、2～4 以外の調整をしながら、働いている」が 12.5%となっている。

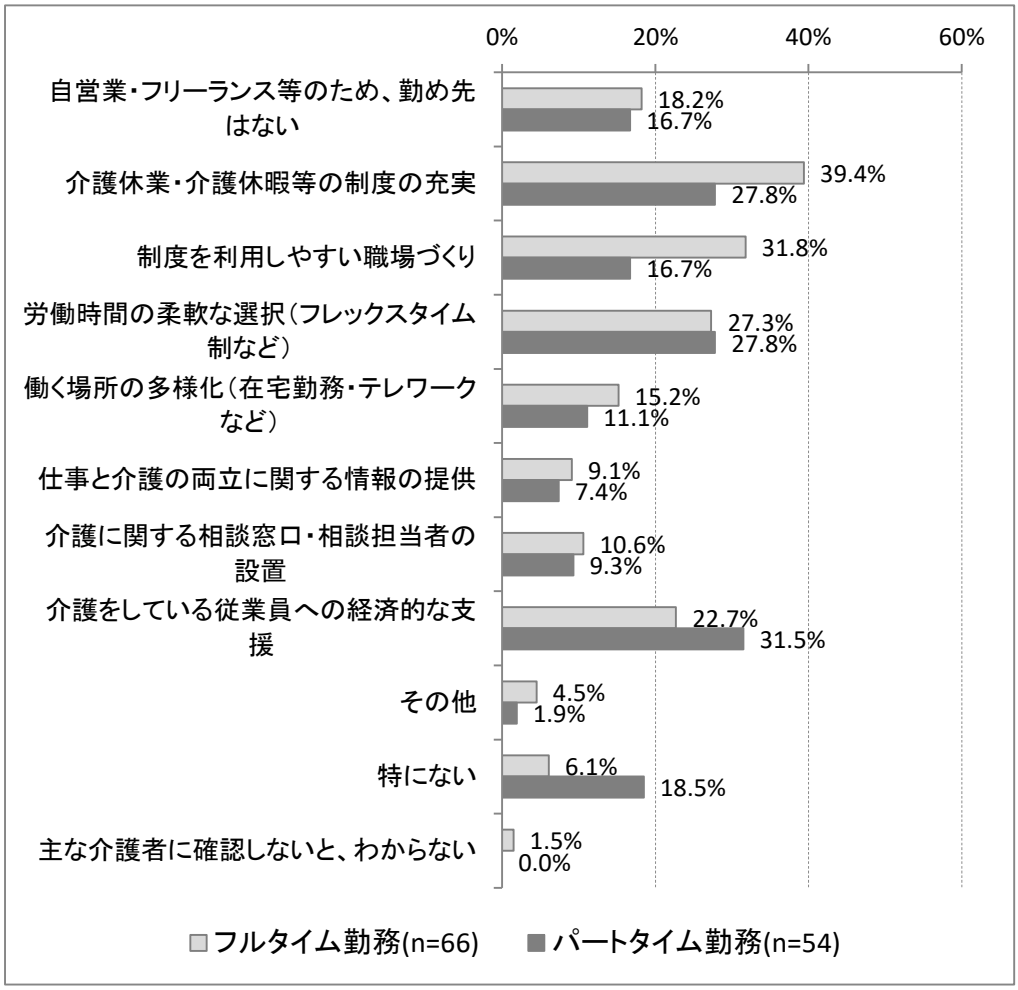
図表 2-24　就労継続見込み別・介護のための働き方の調整（フルタイム勤務＋パートタイム勤務）



【就労状況別・効果的な勤め先からの支援】

効果的な勤め先からの支援を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が 39.4%ともっとも割合が高く、次いで「制度を利用しやすい職場づくり」が 31.8%、「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」が 27.3%となっている。「パートタイム勤務」では「介護をしている従業員への経済的な支援」が 31.5%ともっとも割合が高く、次いで「介護休業・介護休暇等の制度の充実」、「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」が 27.8%、「特にない」が 18.5%となっている。

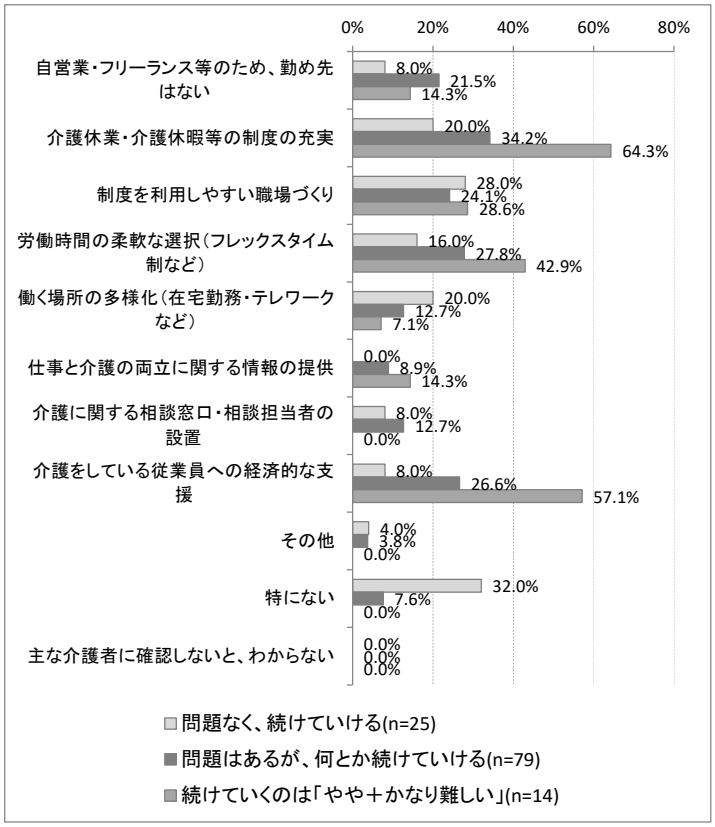
図表 2-25　就労状況別・効果的な勤め先からの支援



【就労継続見込み別・効果的な勤め先からの支援（フルタイム勤務＋パートタイム勤務）】

効果的な勤め先からの支援を介護者の就労継続の可否に係る意識別にみると、「問題なく、続けていける」では「特にない」が 32.0%ともっとも割合が高く、次いで「制度を利用しやすい職場づくり」が 28.0%、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」、「働く場所の多様化（在宅勤務・テレワークなど）」が 20.0%となっている。「問題はあるが、何とか続けていける」では「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が 34.2%ともっとも割合が高く、次いで「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」が 27.8%、「介護をしている従業員への経済的な支援」が 26.6%となっている。「続けていくのは「やや＋かなり難しい」」では「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が 64.3%ともっとも割合が高く、次いで「介護をしている従業員への経済的な支援」が 57.1%、「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」が 42.9%となっている。

図表 2-26　就労継続見込み別・効果的な勤め先からの支援（フルタイム勤務＋パートタイム勤務）



3　保険外の支援・サービスを中心とした地域資源の整備の検討

3.1　集計・分析の狙い

○　ここでは、在宅限界点の向上に向けて必要となる支援・サービスを検討するために、特に「保険外の支援・サービス」に焦点を当てた集計を行っています。ここで把握された現状やニーズは、生活支援体制整備事業の推進のために活用していくことなどが考えられます。

○　具体的には、「現在利用している保険外の支援・サービス」と「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（現在利用しているが、さらなる充実が必要と感じる支援・サービスを含む）」について、要介護度別や世帯類型別のクロス集計を行い、現在の利用状況の把握と今後さらに充実が必要となる支援・サービスについての分析を行います。

○　なお、調査の中では、総合事業に基づく支援・サービスは介護保険サービスに含めるとともに、「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」については、介護保険サービスか保険外の支援・サービスであるかは区別していません。

3.2　集計結果と着目すべきポイント

(1) 基礎集計

【着目すべきポイント】

○　「保険外の支援・サービスの利用状況」と、「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」について、集計分析をしています（図表 3-1、図表 3-2）。

○　例えば、「保険外の支援・サービスの利用状況」については、現状の把握のみでなく、保険外の支援・サービスの利用促進の取組に係るアウトプットとして、その「利用割合」を設定することで、経年的にその成果をモニタリングしていくことも可能になると考えられます。

○　さらに、「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」からは、在宅限界点の向上という地域目標の達成に向けて、その地域において特に重要となる支援・サービスの種類を把握することができます。

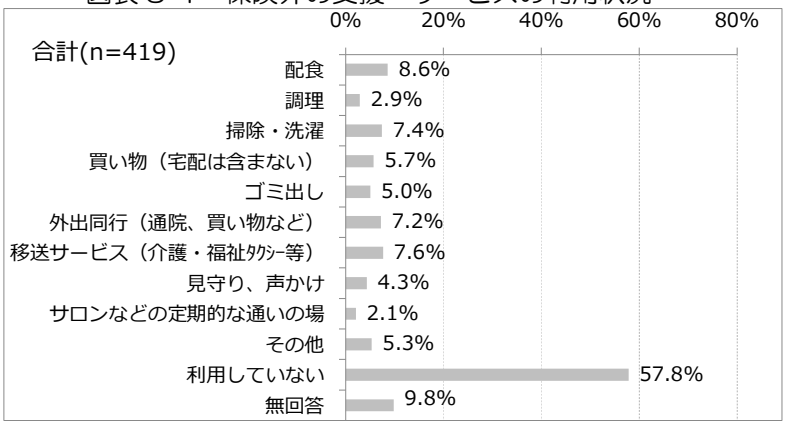
【留意事項】

○　ここでの「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」とは、保険外の支援・サービスに限定されるものではありません。必要となる支援・サービスの整備方法については、必ずしも保険外のサービスに限定せず、幅広い視点から検討を進めることが重要です。

【保険外の支援・サービスの利用状況】

「利用していない」の割合が最も高く 57.8%となっている。次いで、「配食（8.6%）」、「移送サービス（介護・福祉ﾀｸｼｰ等）（7.6%）」となっている。

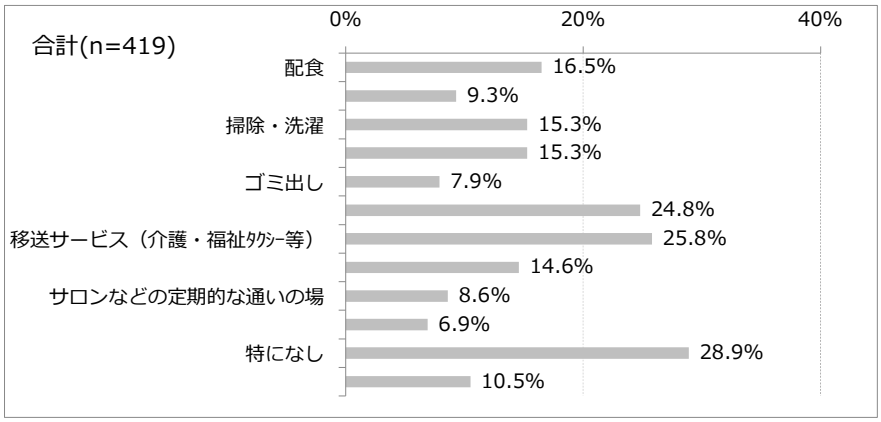
図表 3-1　保険外の支援・サービスの利用状況



【在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス】

「特になし」の割合が最も高く 28.9%となっている。次いで、「移送サービス（介護・福祉ﾀｸｼｰ等）（25.8%）」、「外出同行（通院、買い物など）（24.8%）」となっている。

図表 3-2　在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス



⑵ 世帯類型別の、保険外の支援・サービスの利用状況と必要と感じる支援・サービス

【着目すべきポイント】

○　世帯類型別に「保険外の支援・サービスの利用状況」と、「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」について、集計分析をしています（図表 3-3、図表 3-4）。

○　「保険外の支援・サービスの利用割合」については、世帯類型別の割合をアウトプット指標としてモニタリングしていくも考えられます。

○　また、「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」については、世帯類型別に異なる傾向がみられた場合は、世帯類型に応じたアプローチを検討していくことが重要になると考えられます。

【留意事項】

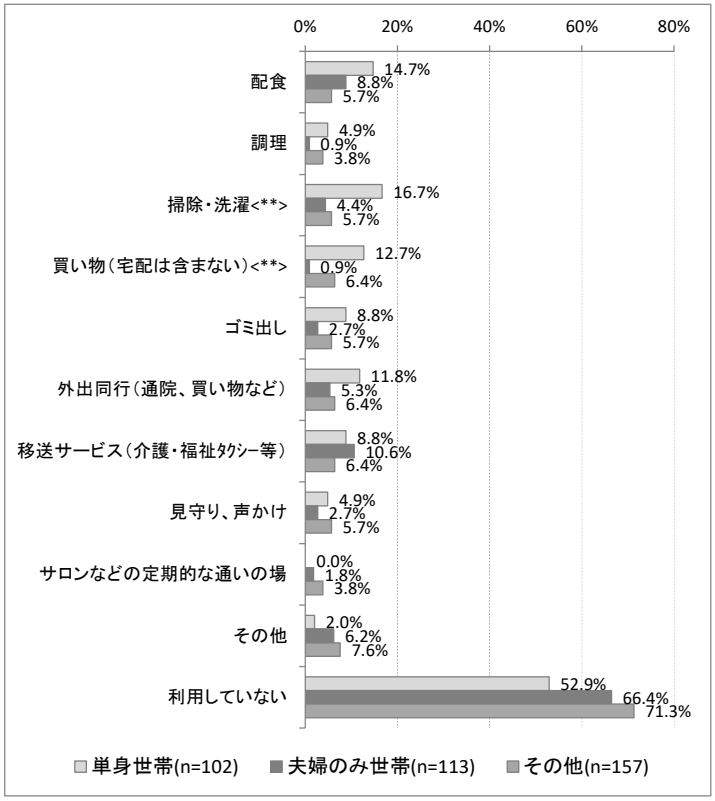
○　アンケート調査の中で「必要な支援・サービス」を回答して頂くと、「無くても大丈夫であるが、無いよりはあった方が良い」といった回答も含まれることが想定されることから、回答結果は実際のニーズよりもやや過大となる可能性があります。

○　「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」については、特に「複数の支援・サービスを比較して、より優先順位の高い支援・サービスを明らかにする」といった視点でみることが重要です。

【世帯類型別・保険外の支援・サービスの利用状況】

保険外の支援・サービスの利用状況を世帯類型別にみると、「単身世帯」では「利用していない」が52.9%ともっとも割合が高く、次いで「掃除・洗濯」が 16.7%、「配食」が 14.7%となっている。「夫婦のみ世帯」では「利用していない」が 66.4%ともっとも割合が高く、次いで「移送サービス（介護・福祉ﾀｸｼｰ等）」が 10.6%、「配食」が 8.8%となっている。「その他」では「利用していない」が 71.3%ともっとも割合が高く、次いで「その他」が 7.6%、「買い物（宅配は含まない）」、「外出同行（通院、買い物など）」、「移送サービス（介護・福祉ﾀｸｼｰ等）」が 6.4%となっている。

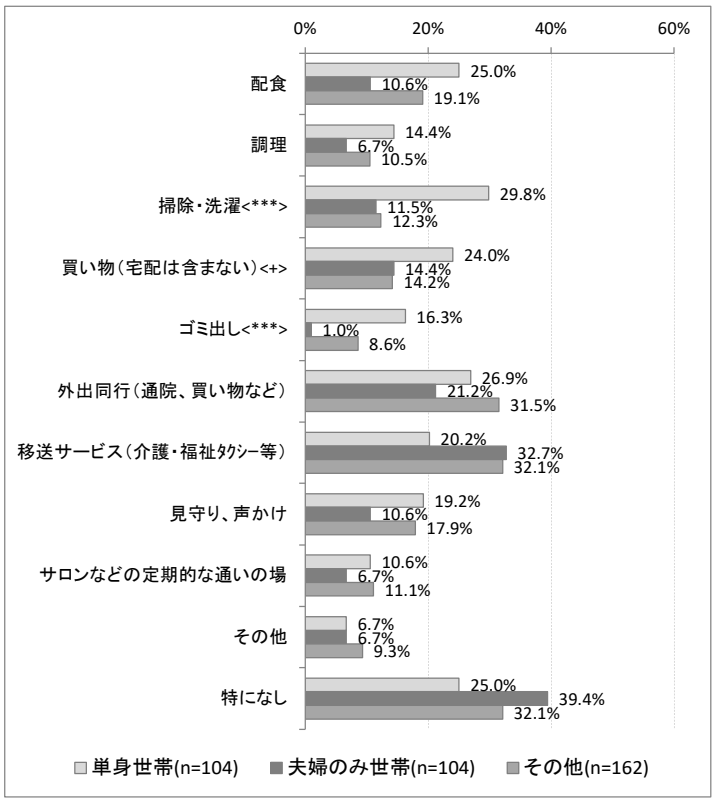
図表 3-3　世帯類型別・保険外の支援・サービスの利用状況



【世帯類型別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス】

保険外の支援・サービスの必要性を世帯類型別にみると、「単身世帯」では「掃除・洗濯」が 29.8%ともっとも割合が高く、次いで「外出同行（通院、買い物など）」が 26.9%、「配食」、「特になし」が 25.0%となっている。「夫婦のみ世帯」では「特になし」が 39.4%ともっとも割合が高く、次いで「移送サービス（介護・福祉ﾀｸｼｰ等）」が 32.7%、「外出同行（通院、買い物など）」が 21.2%となっている。「その他」では「移送サービス（介護・福祉ﾀｸｼｰ等）」、「特になし」が 32.1%ともっとも割合が高く、次いで「外出同行（通院、買い物など）」が 31.5%、「配食」が 19.1%となっている。

図表 3-4　世帯類型別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス



⑶　「世帯類型」×「要介護度」×「保険外の支援・サービスの利用状況」

【着目すべきポイント】

○　世帯類型別・要介護度別に「保険外の支援・サービスの利用状況」について、集計分析をしています（図表 3-5～図表 3-8）。

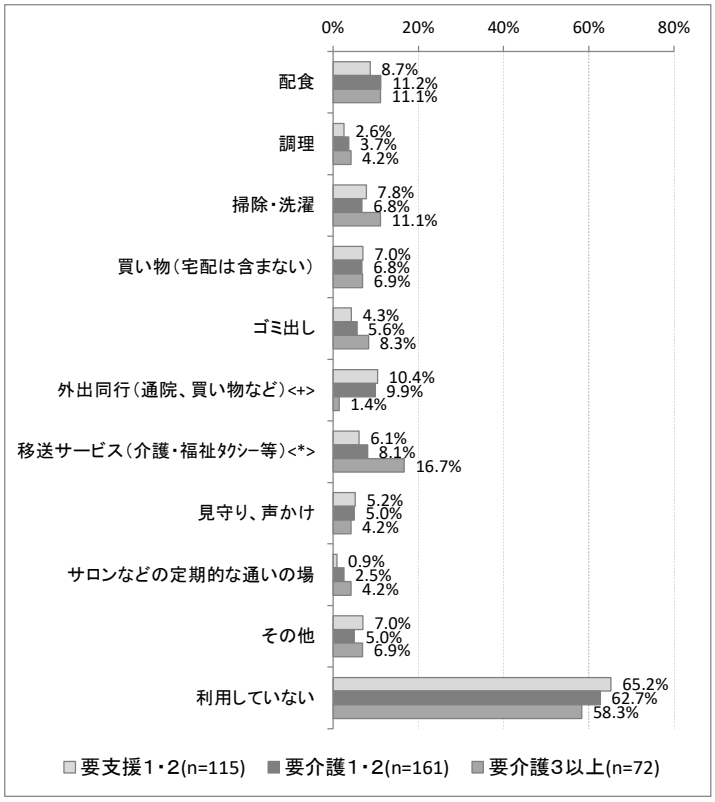
○　利用割合の低い世帯類型であっても、要介護度の重度化に伴い利用割合が増加している支援・サービスがあることも考えられます。

○　介護保険サービスと同様、重度化に伴い、どのような支援・サービスの利用割合が増加しているかに着目することで、現在在宅で生活をする中重度の要介護者が、どのような支援・サービス利用を増加させることで在宅生活を維持しているかを把握することができます。

【要介護度別・保険外の支援・サービスの利用状況】

保険外の支援・サービスの利用状況を二次判定結果別にみると、「要支援１・２」では「利用していない」が 65.2%ともっとも割合が高く、次いで「外出同行（通院、買い物など）」が 10.4%、「配食」が 8.7%となっている。「要介護１・２」では「利用していない」が 62.7%ともっとも割合が高く、次いで「配食」が 11.2%、「外出同行（通院、買い物など）」が 9.9%となっている。「要介護３以上」では「利用していない」が 58.3%ともっとも割合が高く、次いで「移送サービス（介護・福祉ﾀｸｼｰ等）」が 16.7%、「配食」、「掃除・洗濯」が 11.1%となっている。

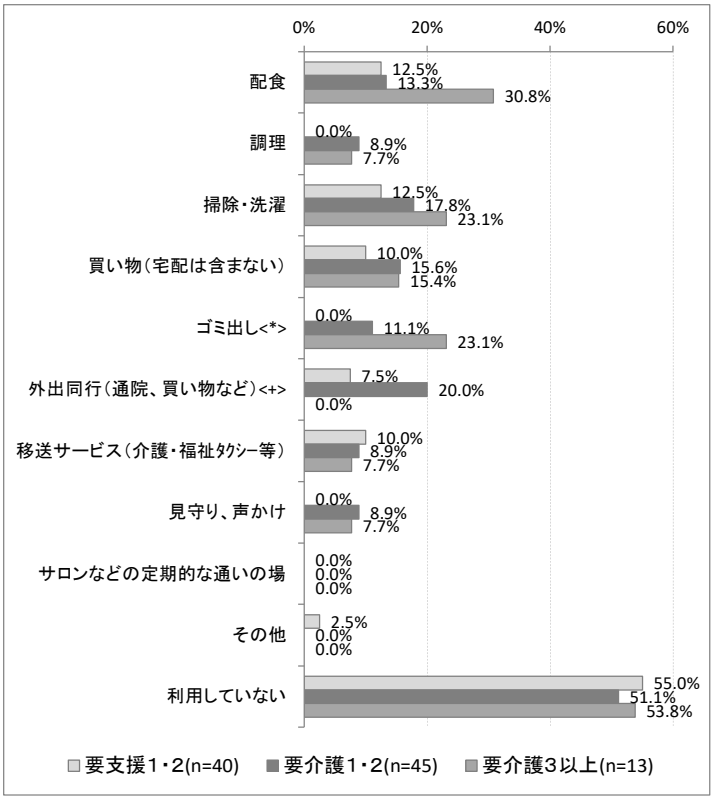
図表 3-5　要介護度別・保険外の支援・サービスの利用状況



【要介護度別・保険外の支援・サービスの利用状況（単身世帯）】

保険外の支援・サービスの利用状況を二次判定結果別にみると、「要支援１・２」では「利用していない」が 55.0%ともっとも割合が高く、次いで「配食」、「掃除・洗濯」が 12.5%、「買い物（宅配は含まない）」、「移送サービス（介護・福祉ﾀｸｼｰ等）」が 10.0%となっている。「要介護１・２」では「利用していない」が 51.1%ともっとも割合が高く、次いで「外出同行（通院、買い物など）」が 20.0%、「掃除・洗濯」が 17.8%となっている。「要介護３以上」では「利用していない」が 53.8%ともっとも割合が高く、次いで「配食」が 30.8%、「掃除・洗濯」、「ゴミ出し」が 23.1%となっている.。

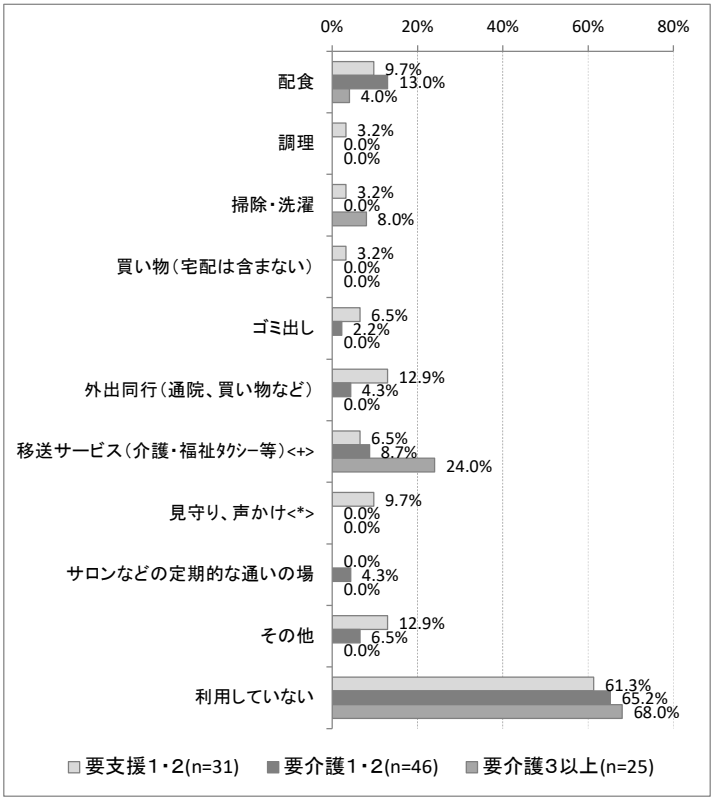
図表 3-6　要介護度別・保険外の支援・サービスの利用状況（単身世帯）



【要介護度別・保険外の支援・サービスの利用状況（夫婦のみ世帯）】

保険外の支援・サービスの利用状況を二次判定結果別にみると、「要支援１・２」では「利用していない」が 61.3%ともっとも割合が高く、次いで「外出同行（通院、買い物など）」、「その他」が 12.9%、「配食」、「見守り、声かけ」が 9.7%となっている。「要介護１・２」では「利用していない」が 65.2%ともっとも割合が高く、次いで「配食」が 13.0%、「移送サービス（介護・福祉ﾀｸｼｰ等）」が 8.7%となっている。「要介護３以上」では「利用していない」が 68.0%ともっとも割合が高く、次いで「移送サービス（介護・福祉ﾀｸｼｰ等）」が 24.0%、「掃除・洗濯」が 8.0%となっている。

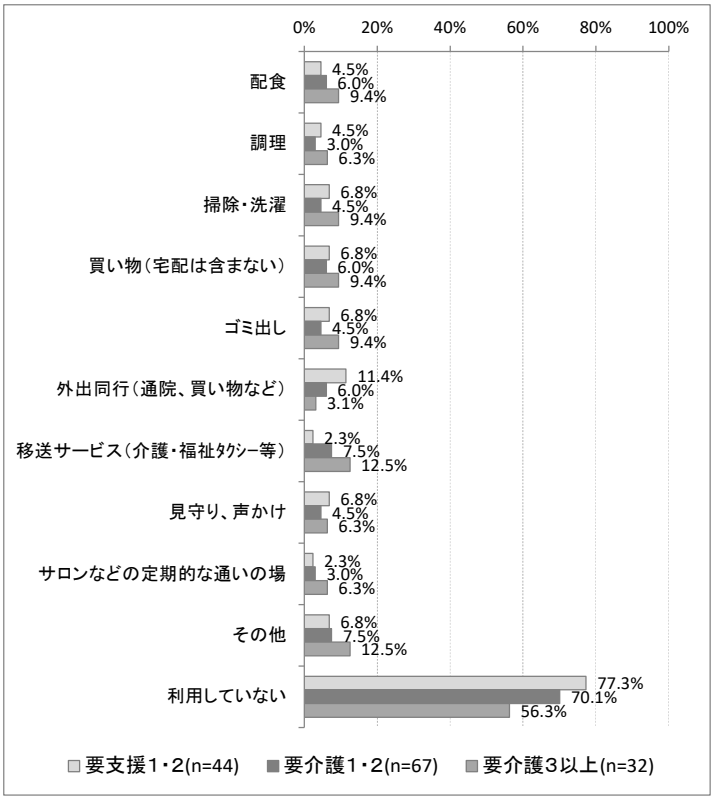
図表 3-7　要介護度別・保険外の支援・サービスの利用状況（夫婦のみ世帯）



【要介護度別・保険外の支援・サービスの利用状況（その他世帯）】

保険外の支援・サービスの利用状況を二次判定結果別にみると、「要支援１・２」では「利用していない」が 77.3%ともっとも割合が高く、次いで「外出同行（通院、買い物など）」が 11.4%、「掃除・洗濯」、「買い物（宅配は含まない）」、「ゴミ出し」、「見守り、声かけ」、「その他」が 6.8%となっている。「要介護１・２」では「利用していない」が 70.1%ともっとも割合が高く、次いで「移送サービス（介護・福祉ﾀｸｼｰ等）」、「その他」が 7.5%、「配食」、「買い物（宅配は含まない）」、「外出同行（通院、買い物など）」が 6.0%となっている。「要介護３以上」では「利用していない」が 56.3%ともっとも割合が高く、次いで「移送サービス（介護・福祉ﾀｸｼｰ等）」、「その他」が 12.5%、「配食」、「掃除・洗濯」、「買い物（宅配は含まない）」、「ゴミ出し」が 9.4%となっている。

図表 3-8　要介護度別・保険外の支援・サービスの利用状況（その他世帯）



⑷ 「世帯類型」×「要介護度」×「必要と感じる支援・サービス」

【着目すべきポイント】

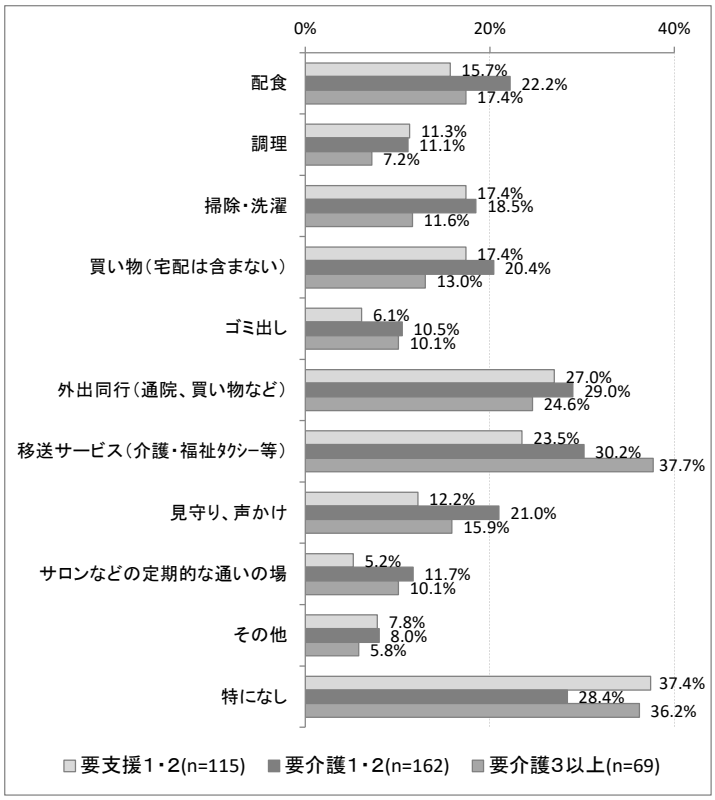
○ 世帯類型別・要介護度別に「必要と感じる支援・サービス」について、集計分析をしています（図表 3-9～図表 3-12）。

○ 特に、各世帯類型の要介護度別のニーズに着目しながら、各地域の実情に応じた取組を推進していくことが必要です。

【要介護度別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス】

保険外の支援・サービスの必要性を二次判定結果別にみると、「要支援１・２」では「特になし」が 37.4%ともっとも割合が高く、次いで「外出同行（通院、買い物など）」が 27.0%、「移送サービス（介護・福祉ﾀｸｼｰ等）」が 23.5%となっている。「要介護１・２」では「移送サービス（介護・福祉ﾀｸｼｰ等）」が 30.2%ともっとも割合が高く、次いで「外出同行（通院、買い物など）」が 29.0%、「特になし」が 28.4%となっている。「要介護３以上」では「移送サービス（介護・福祉ﾀｸｼｰ等）」が 37.7%ともっとも割合が高く、次いで「特になし」が 36.2%、「外出同行（通院、買い物など）」が 24.6%となっている。

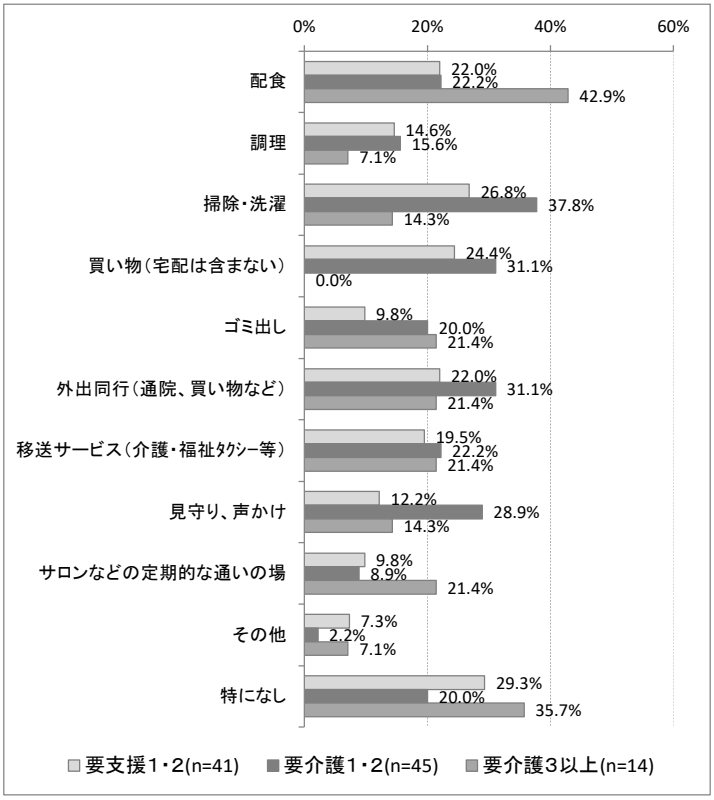
図表 3-9　要介護度別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス



【要介護度別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（単身世帯）】

保険外の支援・サービスの必要性を二次判定結果別にみると、「要支援１・２」では「特になし」が29.3%ともっとも割合が高く、次いで「掃除・洗濯」が 26.8%、「買い物（宅配は含まない）」が24.4%となっている。「要介護１・２」では「掃除・洗濯」が 37.8%ともっとも割合が高く、次いで「買い物（宅配は含まない）」、「外出同行（通院、買い物など）」が 31.1%、「見守り、声かけ」が28.9%となっている。「要介護３以上」では「配食」が 42.9%ともっとも割合が高く、次いで「特になし」が 35.7%、「ゴミ出し」、「外出同行（通院、買い物など）」、「移送サービス（介護・福祉ﾀｸｼｰ等）」、「サロンなどの定期的な通いの場」が 21.4%となっている。

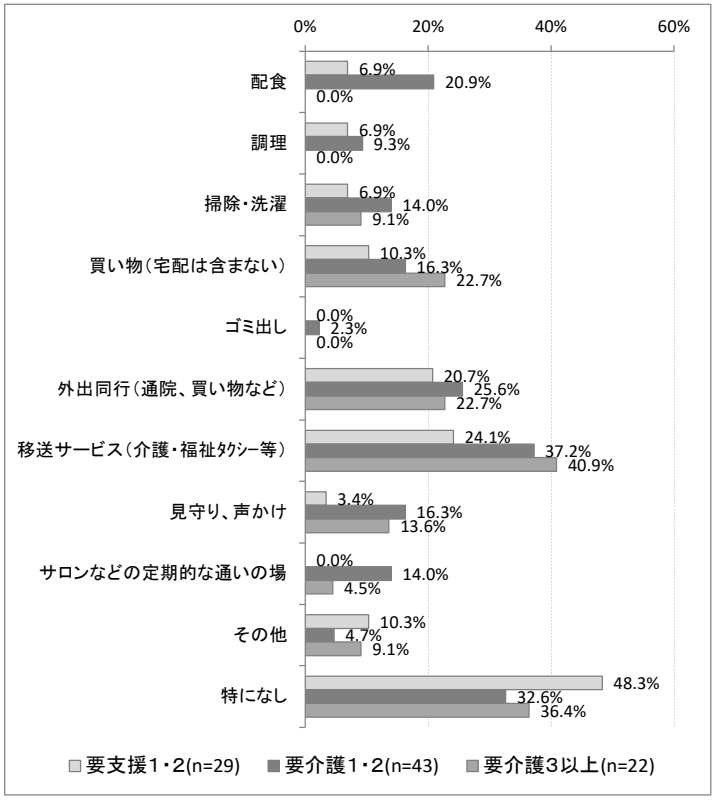
図表 3-10　要介護度別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（単身世帯）



【要介護度別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（夫婦のみ世帯）】

保険外の支援・サービスの必要性を二次判定結果別にみると、「要支援１・２」では「特になし」が48.3%ともっとも割合が高く、次いで「移送サービス（介護・福祉ﾀｸｼｰ等）」が 24.1%、「外出同行（通院、買い物など）」が 20.7%となっている。「要介護１・２」では「移送サービス（介護・福祉ﾀｸｼｰ等）」が 37.2%ともっとも割合が高く、次いで「特になし」が 32.6%、「外出同行（通院、買い物など）」が 25.6%となっている。「要介護３以上」では「移送サービス（介護・福祉ﾀｸｼｰ等）」が 40.9%ともっとも割合が高く、次いで「特になし」が 36.4%、「買い物（宅配は含まない）」、「外出同行（通院、買い物など）」が 22.7%となっている。

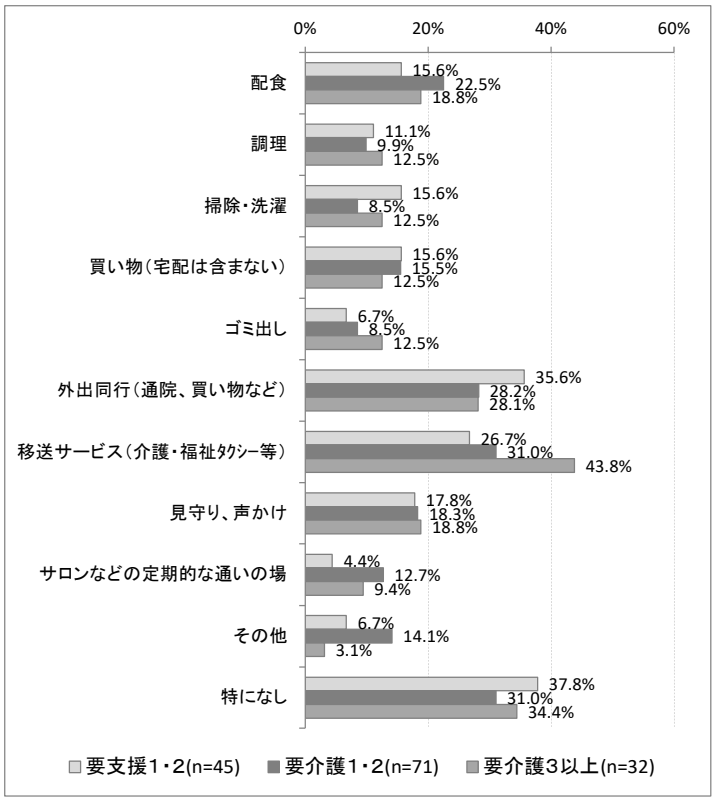
図表 3-11　要介護度別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（夫婦のみ世帯）



【要介護度別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（その他世帯）】

保険外の支援・サービスの必要性を二次判定結果別にみると、「要支援１・２」では「特になし」が37.8%ともっとも割合が高く、次いで「外出同行（通院、買い物など）」が 35.6%、「移送サービス（介護・福祉ﾀｸｼｰ等）」が 26.7%となっている。「要介護１・２」では「移送サービス（介護・福祉ﾀｸｼｰ等）」、「特になし」が 31.0%ともっとも割合が高く、次いで「外出同行（通院、買い物など）」が 28.2%、「配食」が 22.5%となっている。「要介護３以上」では「移送サービス（介護・福祉ﾀｸｼｰ等）」が 43.8%ともっとも割合が高く、次いで「特になし」が 34.4%、「外出同行（通院、買い物など）」が 28.1%となっている。

図表 3-12　要介護度別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（その他世帯）



4　将来の世帯類型の変化に応じた支援・サービスの提供体制の検討

4.1　集計・分析の狙い

○　ここでは、在宅限界点の向上のための、将来の世帯類型の変化に応じた支援・サービスの提供体制の検討につなげるため、特に世帯類型別の「サービス利用の特徴」や「施設等検討の状況」に焦点を当てた集計を行っています。

○　具体的には、世帯類型別の「家族等による介護の頻度」、「サービス利用の組み合わせ」、「施設等検討の状況」などの分析を行います。

○　将来の高齢世帯の世帯類型の構成は、地域ごとに異なりますので、それぞれ地域の実情に応じた支援・サービスの検討につなげていくことが重要となります。

4.2　集計結果と着目すべきポイント

(1) 基礎集計

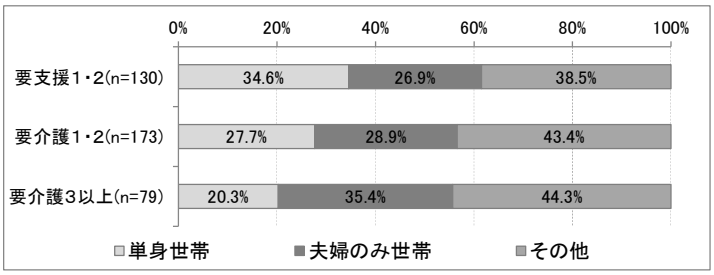
○　「要介護度別の世帯類型の割合」および「世帯類型別の要介護度の割合」を集計しています（図表 4-1、図表 4-2）。

○　要介護度の重度化に伴う、世帯類型の変化などを確認してください。

【要介護度別・世帯類型】

世帯類型を二次判定結果別にみると、「要支援１・２」では「その他」が 38.5%ともっとも割合が高く、次いで「単身世帯」が 34.6%、「夫婦のみ世帯」が 26.9%となっている。「要介護１・２」では「その他」が 43.4%ともっとも割合が高く、次いで「夫婦のみ世帯」が 28.9%、「単身世帯」が 27.7%となっている。「要介護３以上」では「その他」が 44.3%ともっとも割合が高く、次いで「夫婦のみ世帯」が 35.4%、「単身世帯」が 20.3%となっている。

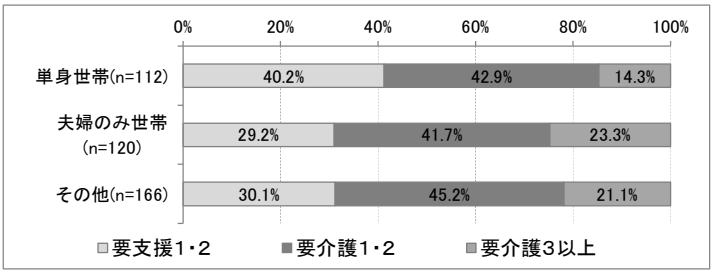
図表 4-1　要介護度別・世帯類型



【世帯類型別・要介護度】

二次判定結果を世帯類型別にみると、「単身世帯」では「要介護１・２」が 42.9%ともっとも割合が高く、次いで「要支援１・２」が 40.2%、「要介護３以上」が 14.3%となっている。「夫婦のみ世帯」では「要介護１・２」が 41.7%ともっとも割合が高く、次いで「要支援１・２」が 29.2%、「要介護３以上」が 23.3%となっている。「その他」では「要介護１・２」が 45.2%ともっとも割合が高く、次いで「要支援１・２」が 30.1%、「要介護３以上」が 21.1%となっている。

図表 4-2　世帯類型別・要介護度



⑵ 「要介護度別・世帯類型別」の「家族等による介護の頻度」

【着目すべきポイント】

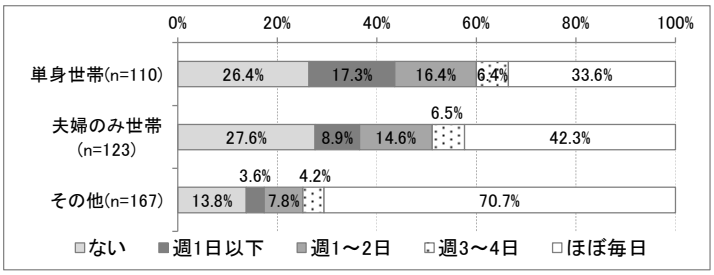
○ 図表 4-3 では、「世帯類型別」の「家族等による介護の頻度」の割合を集計しています。また、図表 4-4～図表 4-6 では、世帯類型別に「要介護度別」の「家族等による介護の頻度」を集計しています。

○ 「単身世帯」については、同居の家族等はいなくても、近居の家族等による介護が行われているケースも多いと考えられます。中重度の単身世帯のうち、家族等の介護がない中で在宅生活を送っているケースがどの程度あるかなど、現状についてご確認ください。

【世帯類型別・家族等による介護の頻度】

ご家族等の介護の頻度を世帯類型別にみると、「単身世帯」では「ほぼ毎日」が 33.6%ともっとも割合が高く、次いで「ない」が 26.4%、「週 1 日以下」が 17.3%となっている。「夫婦のみ世帯」では「ほぼ毎日」が 42.3%ともっとも割合が高く、次いで「ない」が 27.6%、「週 1～2 日」が 14.6%となっている。「その他」では「ほぼ毎日」が 70.7%ともっとも割合が高く、次いで「ない」が 13.8%、「週 1～2 日」が 7.8%となっている。

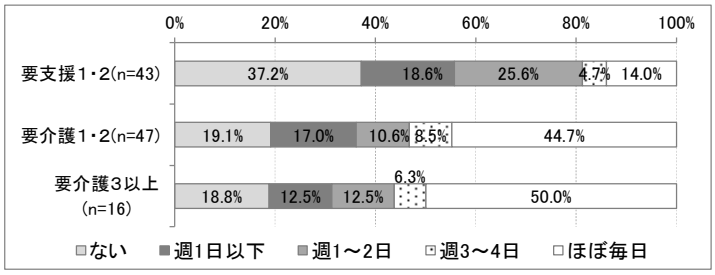
図表 4-3　世帯類型別・家族等による介護の頻度



【要介護度別・家族等による介護の頻度（単身世帯）】

ご家族等の介護の頻度を二次判定結果別にみると、「要支援１・２」では「ない」が 37.2%ともっとも割合が高く、次いで「週 1～2 日」が 25.6%、「週 1 日以下」が 18.6%となっている。「要介護１・２」では「ほぼ毎日」が 44.7%ともっとも割合が高く、次いで「ない」が 19.1%、「週 1 日以下」が 17.0%となっている。「要介護３以上」では「ほぼ毎日」が 50.0%ともっとも割合が高く、次いで「ない」が 18.8%、「週 1 日以下」、「週 1～2 日」が 12.5%となっている。

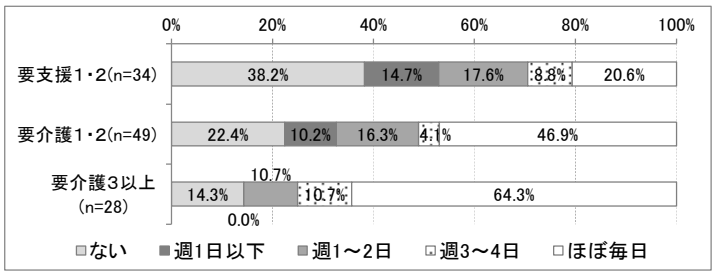
図表 4-4　要介護度別・家族等による介護の頻度（単身世帯）



【要介護度別・家族等による介護の頻度（夫婦のみ世帯）】

ご家族等の介護の頻度を二次判定結果別にみると、「要支援１・２」では「ない」が 38.2%ともっとも割合が高く、次いで「ほぼ毎日」が 20.6%、「週 1～2 日」が 17.6%となっている。「要介護１・２」では「ほぼ毎日」が 46.9%ともっとも割合が高く、次いで「ない」が 22.4%、「週 1～2 日」が 16.3%となっている。「要介護３以上」では「ほぼ毎日」が 64.3%ともっとも割合が高く、次いで「ない」が 14.3%、「週 1～2 日」、「週 3～4 日」が 10.7%となっている。

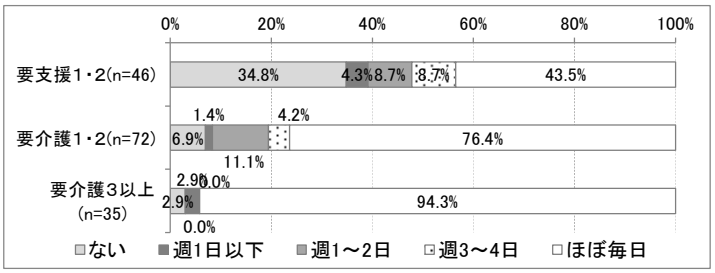
図表 4-5　要介護度別・家族等による介護の頻度（夫婦のみ世帯）



【要介護度別・家族等による介護の頻度（その他世帯）】

ご家族等の介護の頻度を二次判定結果別にみると、「要支援１・２」では「ほぼ毎日」が 43.5%ともっとも割合が高く、次いで「ない」が 34.8%、「週 1～2 日」、「週 3～4 日」が 8.7%となっている。「要介護１・２」では「ほぼ毎日」が 76.4%ともっとも割合が高く、次いで「週 1～2 日」が 11.1%、「ない」が 6.9%となっている。「要介護３以上」では「ほぼ毎日」が 94.3%ともっとも割合が高く、次いで「ない」、「週 1 日以下」が 2.9%、「週 1～2 日」、「週 3～4 日」が 0.0%となっている。

図表 4-6　要介護度別・家族等による介護の頻度（その他世帯）



⑶ 「要介護度別・認知症自立度別」の「世帯類型別のサービス利用の組み合わせ」

【着目すべきポイント】

○ 要介護度別・認知症自立度別の「世帯類型別のサービス利用の組み合わせ」について、集計分析をしています（図表 4-7～図表 4-12）。

○ サービス利用の組み合わせは、「訪問系のみ」のサービス利用と、レスパイト機能をもつ「通所系」および「短期系」のみのサービス利用、さらにその２つを組み合わせた「訪問系を含むサービス利用」の３種類（未利用除く）に簡略化したものを使用しています。

○ 重度化に伴い、どのようなサービス利用の組み合わせが増加しているかに着目することで、現在在宅で生活をする中重度の要介護者が、どのような組み合わせのサービス利用を増加させることで在宅生活を維持しているかを、世帯類型別に把握することができます。

○ また、世帯類型別の要介護者の増加に伴い、どのような「サービス利用の組み合わせ」のニーズが大きくなると考えられるかを推測することも可能になります。

○ 例えば、特に今後「要介護度が中重度の単身世帯」が増加すると見込まれる場合は、単身世帯の要介護者が要介護度の重度化に伴いどのようなサービス利用の組み合わせを増加させているかに着目し、推測することなどが考えられます。

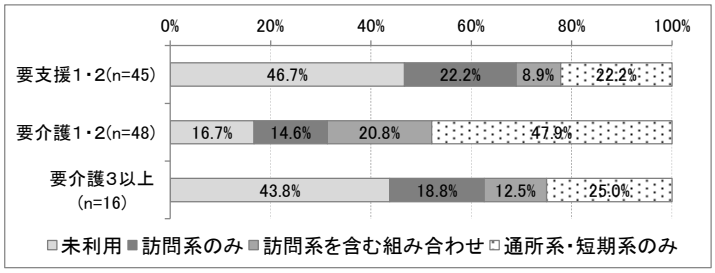
【留意事項】

○ ただし、現在利用しているサービスが「地域目標を達成するためのサービス」であるとは限らない点には注意が必要です。

【要介護度別・サービス利用の組み合わせ（単身世帯）】

サービス利用の組み合わせを二次判定結果別にみると、「要支援１・２」では「未利用」が 46.7%ともっとも割合が高く、次いで「訪問系のみ」、「通所系・短期系のみ」が 22.2%、「訪問系を含む組み合わせ」が 8.9%となっている。「要介護１・２」では「通所系・短期系のみ」が 47.9%ともっとも割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が 20.8%、「未利用」が 16.7%となっている。「要介護３以上」では「未利用」が 43.8%ともっとも割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が 25.0%、「訪問系のみ」が 18.8%となっている。

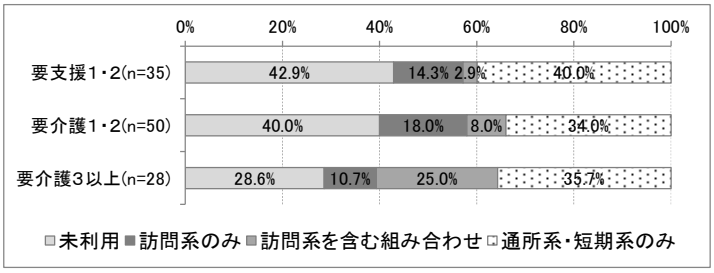
図表 4-7　要介護度別・サービス利用の組み合わせ（単身世帯）



【要介護度別・サービス利用の組み合わせ（夫婦のみ世帯）】

サービス利用の組み合わせを二次判定結果別にみると、「要支援１・２」では「未利用」が 42.9%ともっとも割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が 40.0%、「訪問系のみ」が 14.3%となっている。「要介護１・２」では「未利用」が 40.0%ともっとも割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が 34.0%、「訪問系のみ」が 18.0%となっている。「要介護３以上」では「通所系・短期系のみ」が 35.7%ともっとも割合が高く、次いで「未利用」が 28.6%、「訪問系を含む組み合わせ」が 25.0%となっている。

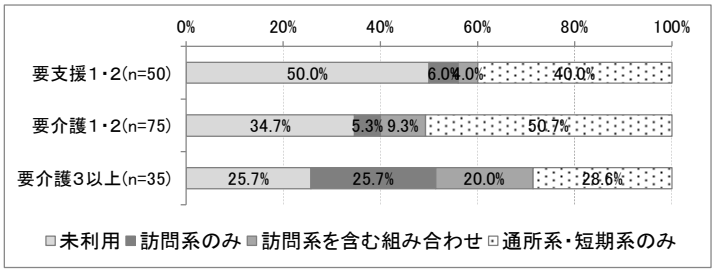
図表 4-8　要介護度別・サービス利用の組み合わせ（夫婦のみ世帯）



【要介護度別・サービス利用の組み合わせ（その他世帯）】

サービス利用の組み合わせを二次判定結果別にみると、「要支援１・２」では「未利用」が 50.0%ともっとも割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が 40.0%、「訪問系のみ」が 6.0%となっている。「要介護１・２」では「通所系・短期系のみ」が 50.7%ともっとも割合が高く、次いで「未利用」が 34.7%、「訪問系を含む組み合わせ」が 9.3%となっている。「要介護３以上」では「通所系・短期系のみ」が 28.6%ともっとも割合が高く、次いで「未利用」、「訪問系のみ」が 25.7%、「訪問系を含む組み合わせ」が 20.0%となっている。

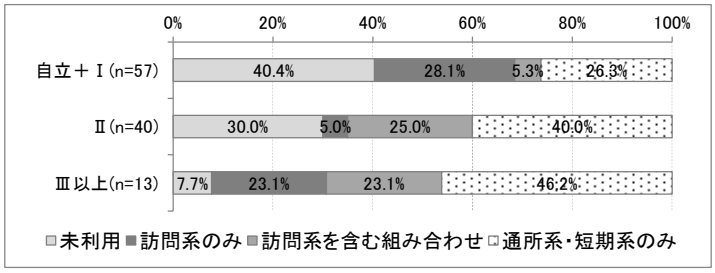
図表 4-9　要介護度別・サービス利用の組み合わせ（その他世帯）



【認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ（単身世帯）】

サービス利用の組み合わせを認知症高齢者自立度別にみると、「自立＋Ⅰ」では「未利用」が 40.4%ともっとも割合が高く、次いで「訪問系のみ」が 28.1%、「通所系・短期系のみ」が 26.3%となっている。「Ⅱ」では「通所系・短期系のみ」が 40.0%ともっとも割合が高く、次いで「未利用」が 30.0%、「訪問系を含む組み合わせ」が 25.0%となっている。「Ⅲ以上」では「通所系・短期系のみ」が 46.2%ともっとも割合が高く、次いで「訪問系のみ」、「訪問系を含む組み合わせ」が 23.1%、「未利用」が 7.7%となっている。

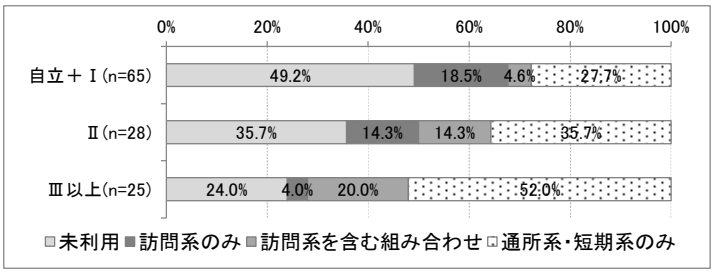
図表 4-10　認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ（単身世帯）



【認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ（夫婦のみ世帯）】

サービス利用の組み合わせを認知症高齢者自立度別にみると、「自立＋Ⅰ」では「未利用」が 49.2%ともっとも割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が 27.7%、「訪問系のみ」が 18.5%となっている。「Ⅱ」では「未利用」、「通所系・短期系のみ」が 35.7%ともっとも割合が高く、次いで「訪問系のみ」、「訪問系を含む組み合わせ」が 14.3%となっている。「Ⅲ以上」では「通所系・短期系のみ」が 52.0%ともっとも割合が高く、次いで「未利用」が 24.0%、「訪問系を含む組み合わせ」が 20.0%となっている。

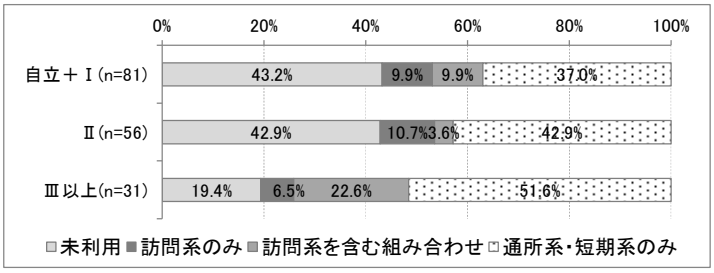
図表 4-11　認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ（夫婦のみ世帯）



【認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ（その他世帯）】

サービス利用の組み合わせを認知症高齢者自立度別にみると、「自立＋Ⅰ」では「未利用」が 43.2%ともっとも割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が 37.0%、「訪問系のみ」、「訪問系を含む組み合わせ」が 9.9%となっている。「Ⅱ」では「未利用」、「通所系・短期系のみ」が 42.9%ともっとも割合が高く、次いで「訪問系のみ」が 10.7%、「訪問系を含む組み合わせ」が 3.6%となっている。「Ⅲ以上」では「通所系・短期系のみ」が 51.6%ともっとも割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が 22.6%、「未利用」が 19.4%となっている。

図表 4-12　認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ（その他世帯）



⑷ 「要介護度別・認知症自立度別別」の「世帯類型別の施設等検討の状況」

【着目すべきポイント】

○ ここでは、「要介護度別・認知症自立度別」の「世帯類型別の施設等検討の状況」について、集計分析をしています（図表 4-13～図表 4-19）。

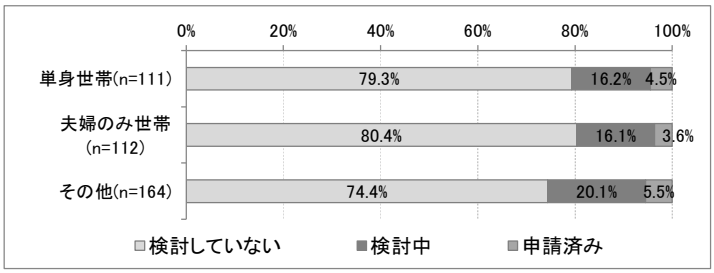
○ 「施設等検討の状況」について「入所・入居は検討していない」の割合を高めることは、在宅介護実態調査で想定する「アウトカム」の１つです。

○ ここでは「世帯類型」ごとの特徴を集計分析することで、地域目標を達成するためのサービス整備方針の検討につなげることなどを想定しています。

【世帯類型別・施設等検討の状況（全要介護度）】

施設等の検討状況を世帯類型別にみると、「単身世帯」では「検討していない」が 79.3%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が 16.2%、「申請済み」が 4.5%となっている。「夫婦のみ世帯」では「検討していない」が 80.4%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が 16.1%、「申請済み」が 3.6%となっている。「その他」では「検討していない」が 74.4%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が 20.1%、「申請済み」が 5.5%となっている。

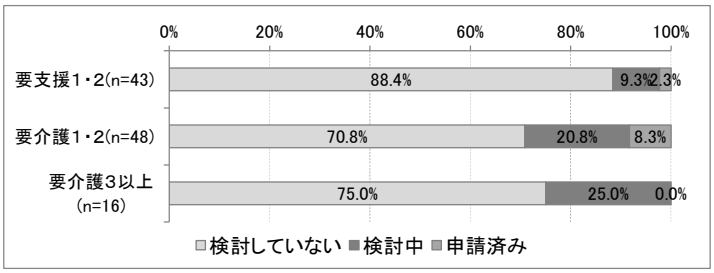
図表 4-13　世帯類型別・施設等検討の状況（全要介護度）



【要介護度別・施設等検討の状況（単身世帯）】

施設等の検討状況を二次判定結果別にみると、「要支援１・２」では「検討していない」が 88.4%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が 9.3%、「申請済み」が 2.3%となっている。「要介護１・２」では「検討していない」が 70.8%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が 20.8%、「申請済み」が 8.3%となっている。「要介護３以上」では「検討していない」が 75.0%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が 25.0%、「申請済み」が 0.0%となっている。

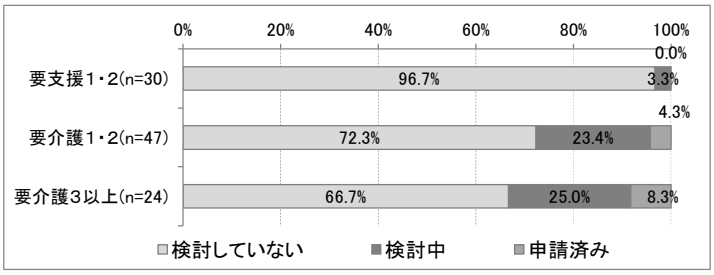
図表 4-14　要介護度別・施設等検討の状況（単身世帯）



【要介護度別・施設等検討の状況（夫婦のみ世帯）】

施設等の検討状況を二次判定結果別にみると、「要支援１・２」では「検討していない」が 96.7%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が 3.3%、「申請済み」が 0.0%となっている。「要介護１・２」では「検討していない」が 72.3%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が 23.4%、「申請済み」が 4.3%となっている。「要介護３以上」では「検討していない」が 66.7%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が 25.0%、「申請済み」が 8.3%となっている。

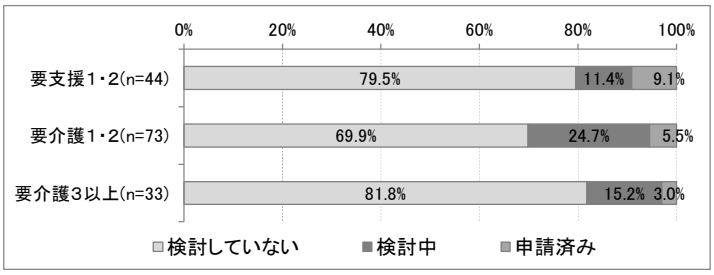
図表 4-15　要介護度別・施設等検討の状況（夫婦のみ世帯）〈*〉



【要介護度別・施設等検討の状況（その他世帯）】

施設等の検討状況を二次判定結果別にみると、「要支援１・２」では「検討していない」が 79.5%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が 11.4%、「申請済み」が 9.1%となっている。「要介護１・２」では「検討していない」が 69.9%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が 24.7%、「申請済み」が 5.5%となっている。「要介護３以上」では「検討していない」が 81.8%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が 15.2%、「申請済み」が 3.0%となっている。

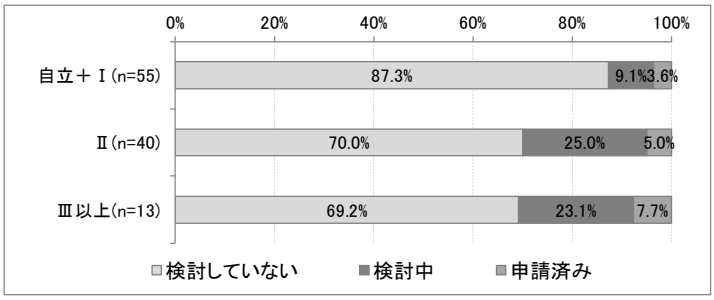
図表 4-16　要介護度別・施設等検討の状況（その他世帯）



【認知症自立度別・施設等検討の状況（単身世帯）】

施設等の検討状況を認知症高齢者自立度別にみると、「自立＋Ⅰ」では「検討していない」が 87.3%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が 9.1%、「申請済み」が 3.6%となっている。「Ⅱ」では「検討していない」が 70.0%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が 25.0%、「申請済み」が 5.0%となっている。「Ⅲ以上」では「検討していない」が 69.2%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が 23.1%、「申請済み」が 7.7%となっている。

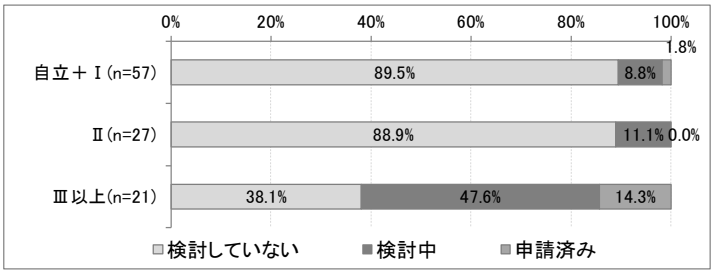
図表 4-17　認知症自立度別・施設等検討の状況（単身世帯）



【認知症自立度別・施設等検討の状況（夫婦のみ世帯）】

施設等の検討状況を認知症高齢者自立度別にみると、「自立＋Ⅰ」では「検討していない」が 89.5%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が 8.8%、「申請済み」が 1.8%となっている。「Ⅱ」では「検討していない」が 88.9%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が 11.1%、「申請済み」が 0.0%となっている。「Ⅲ以上」では「検討中」が 47.6%ともっとも割合が高く、次いで「検討していない」が 38.1%、「申請済み」が 14.3%となっている。

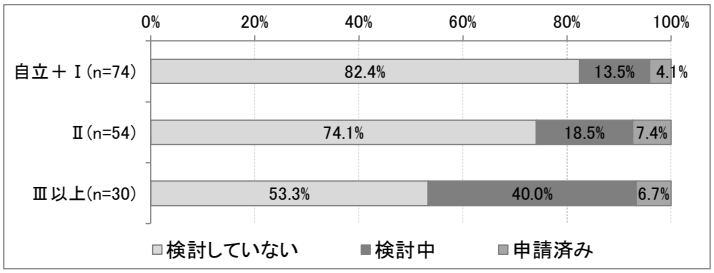
図表 4-18　認知症自立度別・施設等検討の状況（夫婦のみ世帯）



【認知症自立度別・施設等検討の状況（その他の世帯）】

施設等の検討状況を認知症高齢者自立度別にみると、「自立＋Ⅰ」では「検討していない」が 82.4%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が 13.5%、「申請済み」が 4.1%となっている。「Ⅱ」では「検討していない」が 74.1%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が 18.5%、「申請済み」が 7.4%となっている。「Ⅲ以上」では「検討していない」が 53.3%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が 40.0%、「申請済み」が 6.7%となっている。

図表 4-19　認知症自立度別・施設等検討の状況（その他の世帯）



5　医療ニーズの高い在宅療養者を支える支援・サービスの提供体制の検討

5.1　集計・分析の狙い

○　ここでは、医療ニーズの高い在宅療養者を支える支援・サービスの検討につなげるための集計を行います。

○　具体的には、世帯類型別・要介護度別の「主な介護者が行っている介護」や「訪問診療の利用の有無」、「訪問診療の利用の有無別のサービス利用の組み合わせ」などの分析を行います。

5.2　集計結果と着目すべきポイント

(1) 基礎集計

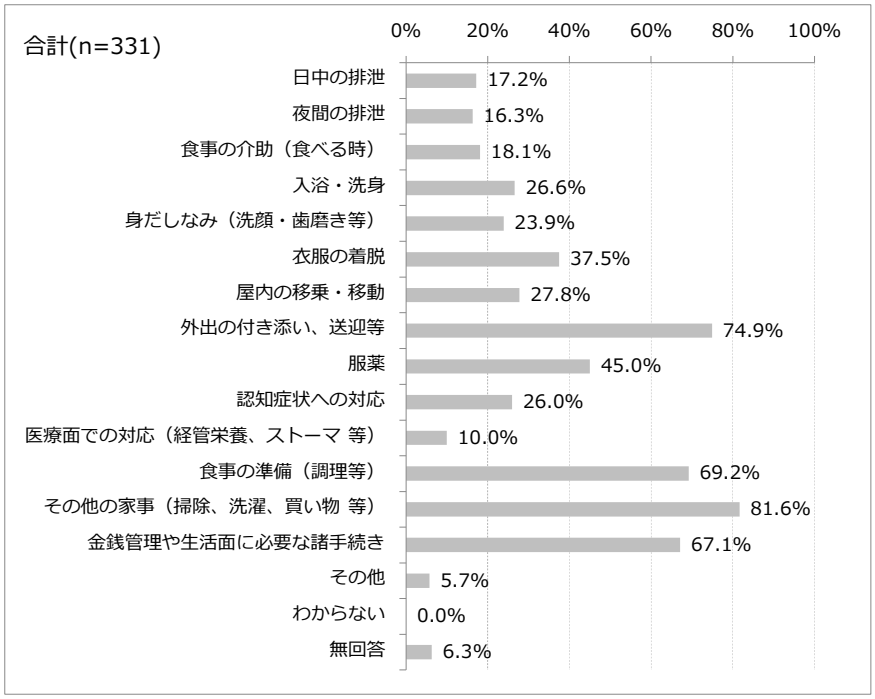
○　「主な介護者が行っている介護」について、要介護度別・世帯類型別の集計を行っています（図表 5-1～図表 5-3）。

○　ここでは、特に「医療面での対応（経管栄養、ストーマ等）」に着目し、家族等の主な介護者が「医療面での対応」を行っている割合を把握することができます。

【主な介護者が行っている介護】

「その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）」の割合が最も高く 81.6%となっている。次いで、「外出の付き添い、送迎等（74.9%）」、「食事の準備（調理等）（69.2%）」となっている。

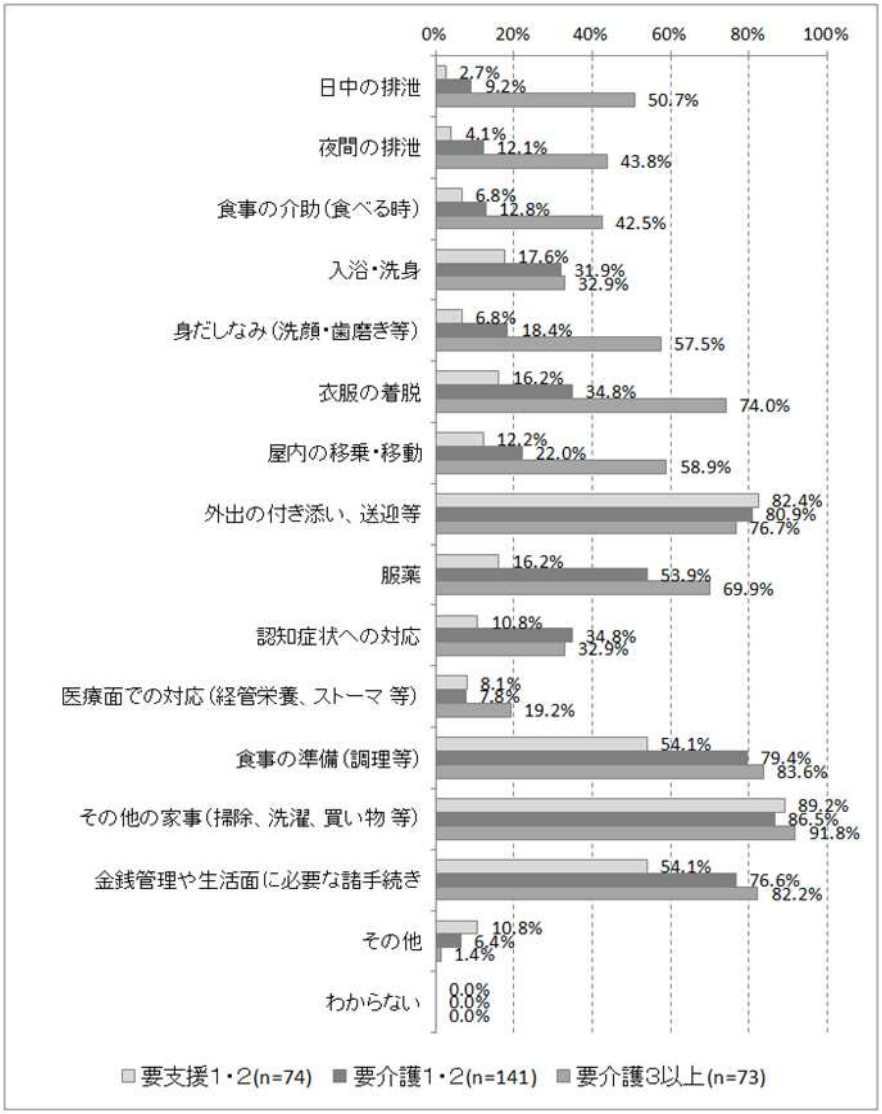
図表 5-1　主な介護者が行っている介護



【要介護度別・主な介護者が行っている介護】

介護者が行っている介護を二次判定結果別にみると、「要支援１・２」では「その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）」が 89.2%ともっとも割合が高く、次いで「外出の付き添い、送迎等」が 82.4%、「食事の準備（調理等）」、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が 54.1%となっている。「要介護１・２」では「その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）」が 86.5%ともっとも割合が高く、次いで「外出の付き添い、送迎等」が 80.9%、「食事の準備（調理等）」が 79.4%となっている。「要介護３以上」では「その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）」が 91.8%ともっとも割合が高く、次いで「食事の準備（調理等）」が 83.6%、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が 82.2%となっている。

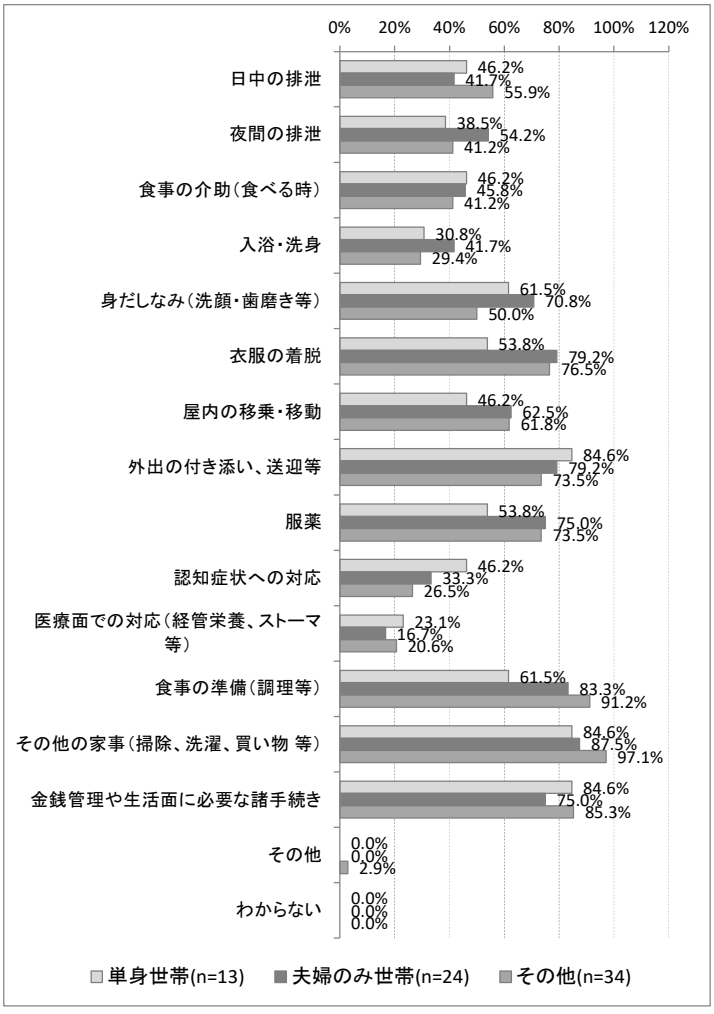
図表 5-2　要介護度別・主な介護者が行っている介護



【世帯類型別・主な介護者が行っている介護（要介護３以上）】

介護者が行っている介護を世帯類型別にみると、「単身世帯」では「外出の付き添い、送迎等」、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）」、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が 84.6%ともっとも割合が高く、次いで「身だしなみ（洗顔・歯磨き等）」、「食事の準備（調理等）」が 61.5%、「衣服の着脱」、「服薬」が 53.8%となっている。「夫婦のみ世帯」では「その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）」が 87.5%ともっとも割合が高く、次いで「食事の準備（調理等）」が 83.3%、「衣服の着脱」、「外出の付き添い、送迎等」が 79.2%となっている。「その他」では「その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）」が 97.1%ともっとも割合が高く、次いで「食事の準備（調理等）」が 91.2%、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が 85.3%となっている。

図表 5-3　世帯類型別・主な介護者が行っている介護（要介護３以上）



⑵ 訪問診療の利用割合

【着目すべきポイント】

○ 「訪問診療の利用の有無」について、世帯類型別・要介護度別の集計を行っています（図表 5-4～図表 5-6）。

○ 特に、「要介護度別の訪問診療の利用割合」を「将来の要介護度別の在宅療養者数」に乗じることで、「将来の在宅における訪問診療の利用者数」の粗推計を行うことも可能です。

【留意事項】

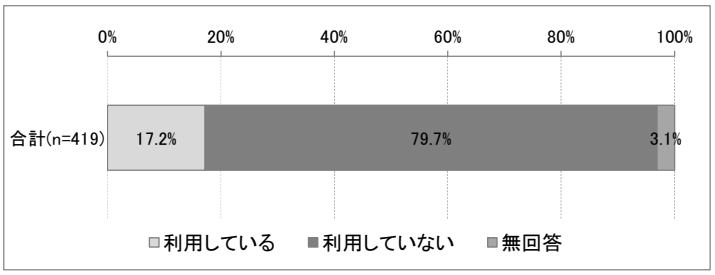
○ ここでの「訪問診療」には、訪問歯科診療や居宅療養管理指導等は含まれていません。

○ また、上述の「将来の在宅における訪問診療の利用者数」を推計方法は、現在の訪問診療の利用割合を前提としたものであり、地域の状況の変化によっては誤差が大きくなることが想定されます。粗推計のための手法である点については、注意が必要です。

【訪問診療の利用の有無】

「利用していない」の割合が最も高く 79.7%となっている。次いで、「利用している（17.2%）」となっている。

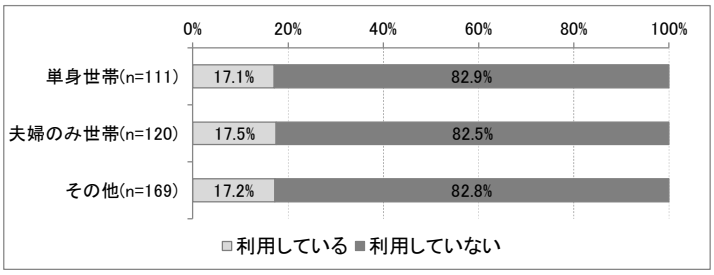
図表 5-4 訪問診療の利用の有無



【世帯類型別・訪問診療の利用割合】

訪問診療の利用の有無を世帯類型別にみると、「単身世帯」では「利用していない」が 82.9%ともっとも割合が高く、次いで「利用している」が 17.1%となっている。「夫婦のみ世帯」では「利用していない」が 82.5%ともっとも割合が高く、次いで「利用している」が 17.5%となっている。「その他」では「利用していない」が 82.8%ともっとも割合が高く、次いで「利用している」が 17.2%となっている。

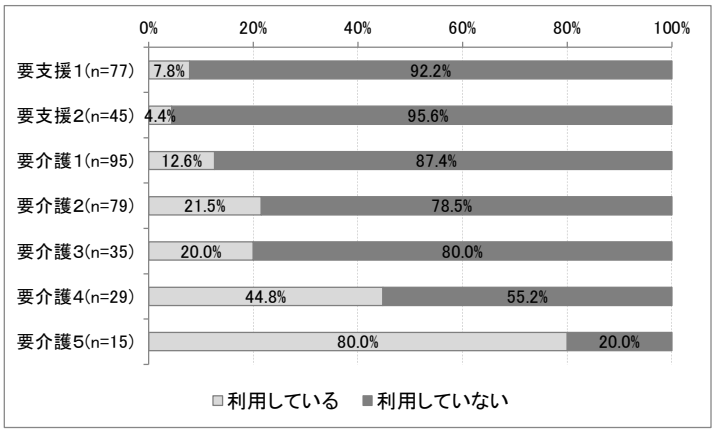
図表 5-5　世帯類型別・訪問診療の利用割合



【要介護度別・訪問診療の利用割合】

訪問診療の利用の有無を二次判定結果別にみると、「要支援１」では「利用していない」が 92.2%ともっとも割合が高く、次いで「利用している」が 7.8%となっている。「要支援２」では「利用していない」が 95.6%ともっとも割合が高く、次いで「利用している」が 4.4%となっている。「要介護１」では「利用していない」が 87.4%ともっとも割合が高く、次いで「利用している」が 12.6%となっている。「要介護２」では「利用していない」が 78.5%ともっとも割合が高く、次いで「利用している」が 21.5%となっている。「要介護３」では「利用していない」が 80.0%ともっとも割合が高く、次いで「利用している」が 20.0%となっている。「要介護４」では「利用していない」が 55.2%ともっとも割合が高く、次いで「利用している」が 44.8%となっている。「要介護５」では「利用している」が 80.0%ともっとも割合が高く、次いで「利用していない」が 20.0%となっている。

図表 5-6　要介護度別・訪問診療の利用割合



⑶ 訪問診療の利用の有無別のサービス利用の組み合わせ

【着目すべきポイント】

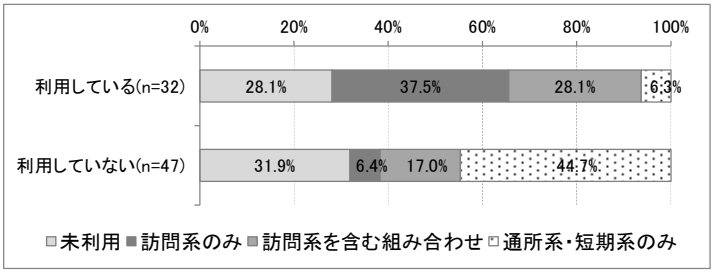
○　訪問診療の利用の有無別に、要介護３以上の「サービス利用の組み合わせ」を集計しています（図表 5-7）。

○　特に、今後在宅で療養生活を送る医療ニーズの高い中重度の要介護者の増加が見込まれる地域では、今後どのようなサービスに対する利用ニーズが高まるかを予測することにもつながります。

【訪問診療の利用の有無別・サービス利用の組み合わせ（要介護３以上）】

サービス利用の組み合わせを訪問診療の利用の有無別にみると、「利用している」では「訪問系のみ」が 37.5%ともっとも割合が高く、次いで「未利用」、「訪問系を含む組み合わせ」が 28.1%、「通所系・短期系のみ」が 6.3%となっている。「利用していない」では「通所系・短期系のみ」が 44.7%ともっとも割合が高く、次いで「未利用」が 31.9%、「訪問系を含む組み合わせ」が 17.0%となっている。

図表 5-7　訪問診療の利用の有無別・サービス利用の組み合わせ（要介護３以上）



⑷ 訪問診療の利用の有無別の訪問系・通所系・短期系サービスの利用の有無

【着目すべきポイント】

○　訪問診療の利用の有無別に、要介護３以上について、訪問系・通所系・短期系のそれぞれのサービス利用の有無を集計しています（図表 5-8～図表 5-10）。

○　地域によっては、例えば「医療ニーズの高い要介護者」の受け入れが可能なショートステイが十分に整っていない場合に、訪問診療の利用の有無で短期系の利用割合が大きく異なることも想定されます。

【留意事項】

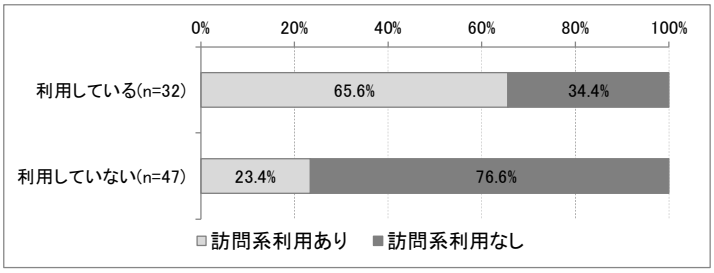
○　上記の例のように、訪問診療の利用の有無で短期系の利用割合が大きく異なる場合についても、必ずしも「「医療ニーズの高い要介護者」の受け入れが可能なショートステイが十分に整っていない」ことに原因があるとは限りません。

○　集計分析結果の解釈は、地域の実情等に照らし合わせながら、専門職を含む関係者間での議論・考察を経て行うことが必要です。

【訪問診療の利用の有無別・サービスの利用の有無（訪問系、要介護３以上）】

訪問系の利用の有無を訪問診療の利用の有無別にみると、「利用している」では「訪問系利用あり」が 65.6%ともっとも割合が高く、次いで「訪問系利用なし」が 34.4%となっている。「利用していない」では「訪問系利用なし」が 76.6%ともっとも割合が高く、次いで「訪問系利用あり」が 23.4%となっている。

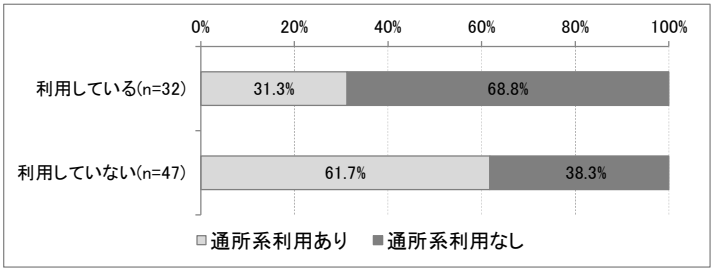
図表 5-8　訪問診療の利用の有無別・サービスの利用の有無（訪問系、要介護３以上）



【訪問診療の利用の有無別・サービスの利用の有無（通所系、要介護３以上）】

通所系の利用の有無（定期巡回を除く）を訪問診療の利用の有無別にみると、「利用している」では「通所系利用なし」が 68.8%ともっとも割合が高く、次いで「通所系利用あり」が 31.3%となっている。「利用していない」では「通所系利用あり」が 61.7%ともっとも割合が高く、次いで「通所系利用なし」が 38.3%となっている。

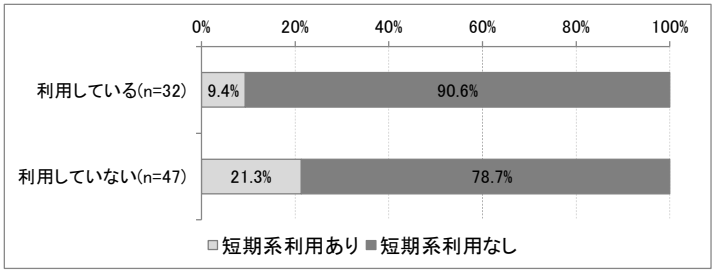
図表 5-9　訪問診療の利用の有無別・サービスの利用の有無（通所系、要介護３以上）



【訪問診療の利用の有無別・サービス利用の有無（短期系、要介護３以上）】

短期系の利用の有無（定期巡回を除く）を訪問診療の利用の有無別にみると、「利用している」では「短期系利用なし」が 90.6%ともっとも割合が高く、次いで「短期系利用あり」が 9.4%となっている。「利用していない」では「短期系利用なし」が 78.7%ともっとも割合が高く、次いで「短期系利用あり」が 21.3%となっている。

図表 5-10　訪問診療の利用の有無別・サービス利用の有無（短期系、要介護３以上）



6　サービス未利用の理由など

6.1　集計・分析の狙い

○　ここでは、各地域において支援・サービスの提供体制の構築を含む各種の取組を検討する際に、参考になると考えられるいくつかの集計結果を整理しています。

○　主要なデータは、テーマ１～テーマ５において整理をしていますが、ここで整理する集計結果も必要に応じてご活用ください。

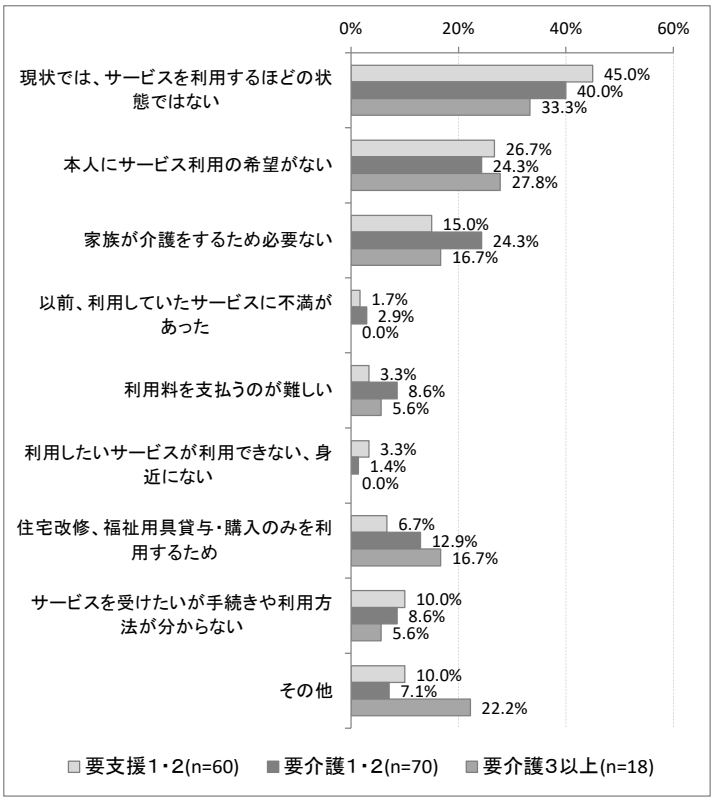
6.2　集計結果（参考）

(1) 要介護度別・世帯類型別のサービス未利用の理由

【要介護度別のサービス未利用の理由】

未利用の理由を二次判定結果別にみると、「要支援１・２」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が 45.0%ともっとも割合が高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」が 26.7%、「家族が介護をするため必要ない」が 15.0%となっている。「要介護１・２」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が 40.0%ともっとも割合が高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」、「家族が介護をするため必要ない」が 24.3%、「住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため」が 12.9%となっている。「要介護３以上」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が 33.3%ともっとも割合が高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」が 27.8%、「その他」が 22.2%となっている。

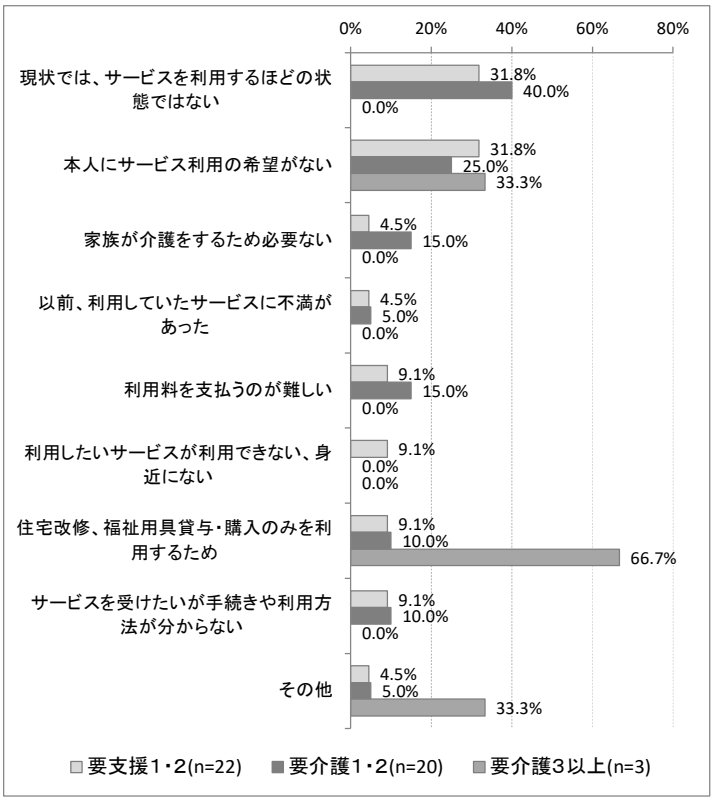
図表 6-1　要介護度別のサービス未利用の理由



【要介護度別のサービス未利用の理由（単身世帯）】

未利用の理由を二次判定結果別にみると、「要支援１・２」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」、「本人にサービス利用の希望がない」が 31.8%ともっとも割合が高く、次いで「利用料を支払うのが難しい」、「利用したいサービスが利用できない、身近にない」、「住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため」、「サービスを受けたいが手続きや利用方法が分からない」が 9.1%、「家族が介護をするため必要ない」、「以前、利用していたサービスに不満があった」、「その他」が 4.5%となっている。「要介護１・２」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が 40.0%ともっとも割合が高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」が 25.0%、「家族が介護をするため必要ない」、「利用料を支払うのが難しい」が 15.0%となっている。「要介護３以上」では「住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため」が 66.7%ともっとも割合が高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」、「その他」が 33.3%、「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」、「家族が介護をするため必要ない」、「以前、利用していたサービスに不満があった」、「利用料を支払うのが難しい」、「利用したいサービスが利用できない、身近にない」、「サービスを受けたいが手続きや利用方法が分からない」が 0.0%となっている。

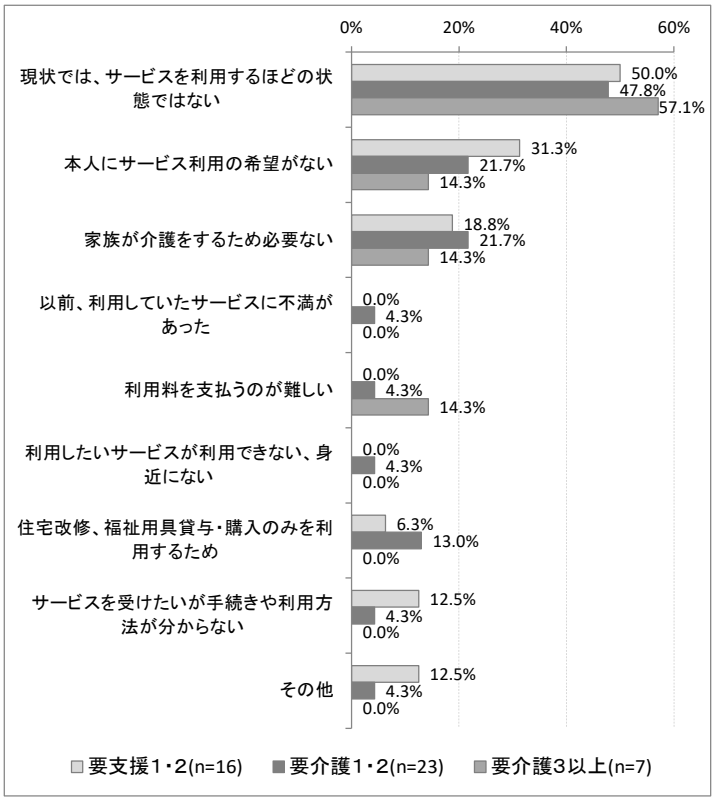
図表 6-2　要介護度別のサービス未利用の理由（単身世帯）



【要介護度別のサービス未利用の理由（夫婦のみ世帯）】

未利用の理由を二次判定結果別にみると、「要支援１・２」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が 50.0%ともっとも割合が高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」が 31.3%、「家族が介護をするため必要ない」が 18.8%となっている。「要介護１・２」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が 47.8%ともっとも割合が高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」、「家族が介護をするため必要ない」が 21.7%、「住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため」が 13.0%となっている。「要介護３以上」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が 57.1%ともっとも割合が高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」、「家族が介護をするため必要ない」、「利用料を支払うのが難しい」が 14.3%、「以前、利用していたサービスに不満があった」、「利用したいサービスが利用できない、身近にない」、「住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため」、「サービスを受けたいが手続きや利用方法が分からない」、「その他」が 0.0%となっている。

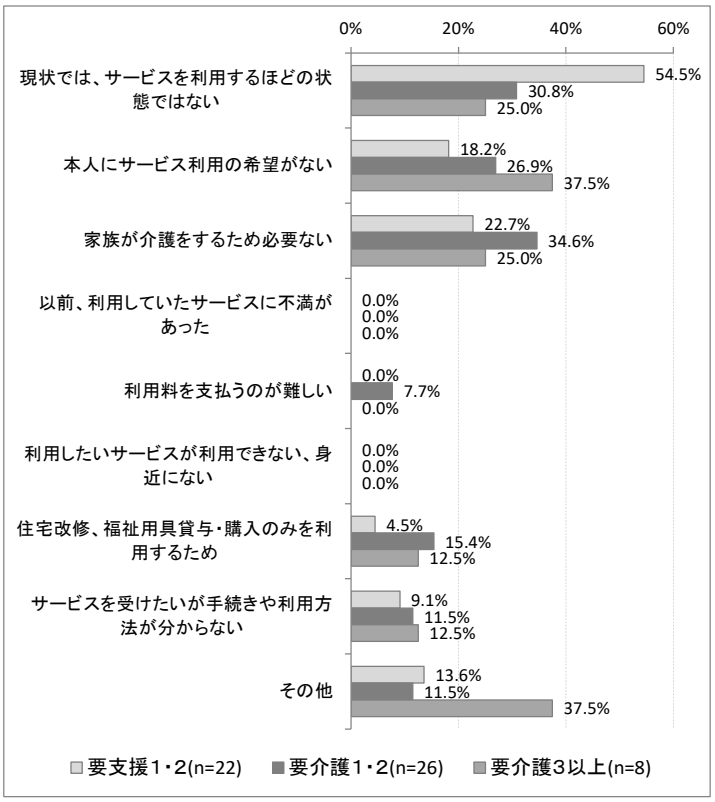
図表 6-3　要介護度別のサービス未利用の理由（夫婦のみ世帯）



【要介護度別のサービス未利用の理由（その他世帯）】

未利用の理由を二次判定結果別にみると、「要支援１・２」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が 54.5%ともっとも割合が高く、次いで「家族が介護をするため必要ない」が 22.7%、「本人にサービス利用の希望がない」が 18.2%となっている。「要介護１・２」では「家族が介護をするため必要ない」が 34.6%ともっとも割合が高く、次いで「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が 30.8%、「本人にサービス利用の希望がない」が 26.9%となっている。「要介護３以上」では「本人にサービス利用の希望がない」、「その他」が 37.5%ともっとも割合が高く、次いで「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」、「家族が介護をするため必要ない」が 25.0%、「住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため」、「サービスを受けたいが手続きや利用方法が分からない」が 12.5%となっている。

図表 6-4　要介護度別のサービス未利用の理由（その他世帯）

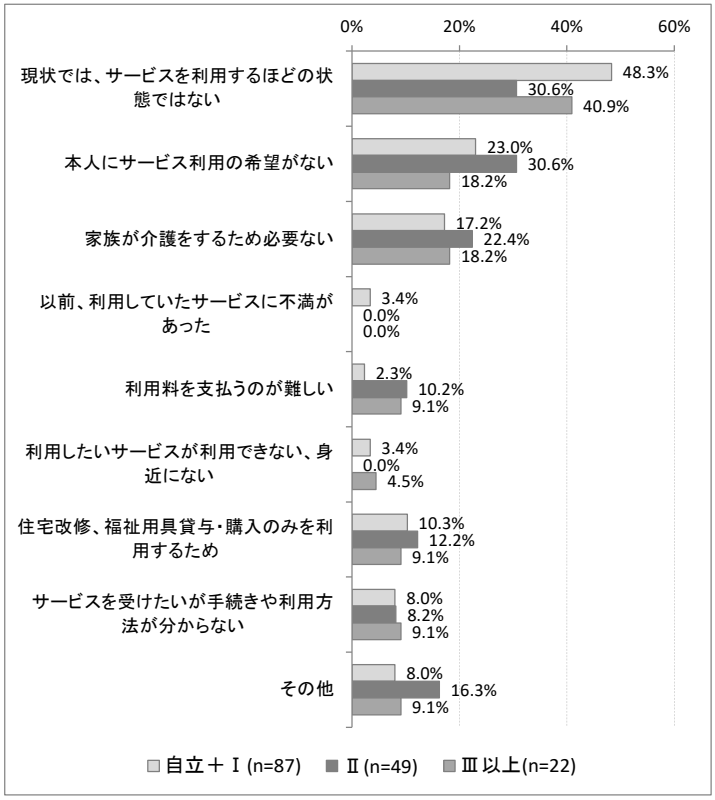


⑵ 認知症自立度別・世帯類型別のサービス未利用の理由

【認知症自立度別のサービス未利用の理由】

未利用の理由を認知症高齢者自立度別にみると、「自立＋Ⅰ」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が 48.3%ともっとも割合が高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」が 23.0%、「家族が介護をするため必要ない」が 17.2%となっている。「Ⅱ」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」、「本人にサービス利用の希望がない」が 30.6%ともっとも割合が高く、次いで「家族が介護をするため必要ない」が 22.4%、「その他」が 16.3%となっている。「Ⅲ以上」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が 40.9%ともっとも割合が高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」、「家族が介護をするため必要ない」が 18.2%、「利用料を支払うのが難しい」、「住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため」、「サービスを受けたいが手続きや利用方法が分からない」、「その他」が 9.1%となっている。

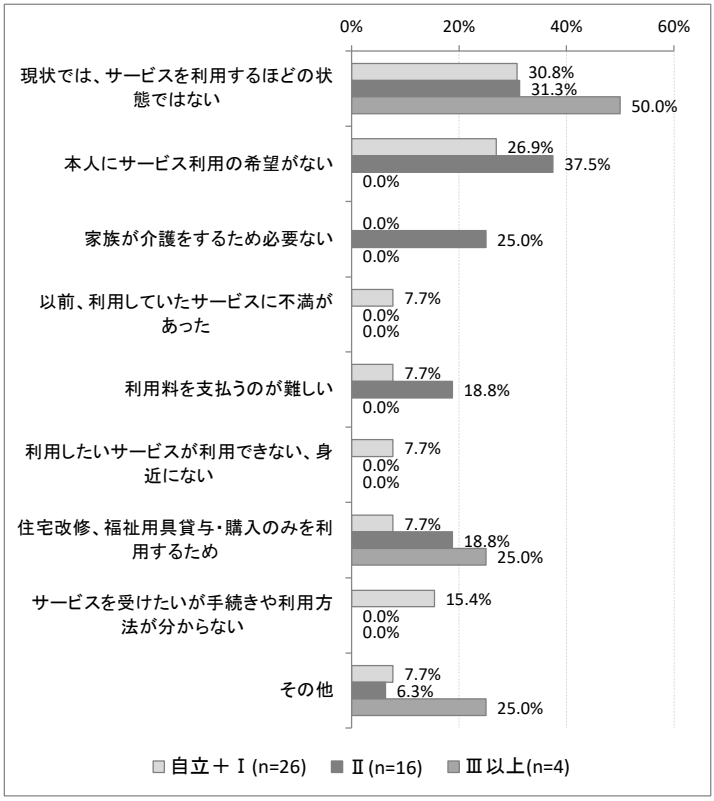
図表 6-5　認知症自立度別のサービス未利用の理由



【認知症自立度別のサービス未利用の理由（単身世帯）】

未利用の理由を認知症高齢者自立度別にみると、「自立＋Ⅰ」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が 30.8%ともっとも割合が高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」が 26.9%、「サービスを受けたいが手続きや利用方法が分からない」が 15.4%となっている。「Ⅱ」では「本人にサービス利用の希望がない」が 37.5%ともっとも割合が高く、次いで「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が 31.3%、「家族が介護をするため必要ない」が 25.0%となっている。「Ⅲ以上」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が 50.0%ともっとも割合が高く、次いで「住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため」、「その他」が 25.0%、「本人にサービス利用の希望がない」、「家族が介護をするため必要ない」、「以前、利用していたサービスに不満があった」、「利用料を支払うのが難しい」、「利用したいサービスが利用できない、身近にない」、「サービスを受けたいが手続きや利用方法が分からない」が 0.0%となっている。

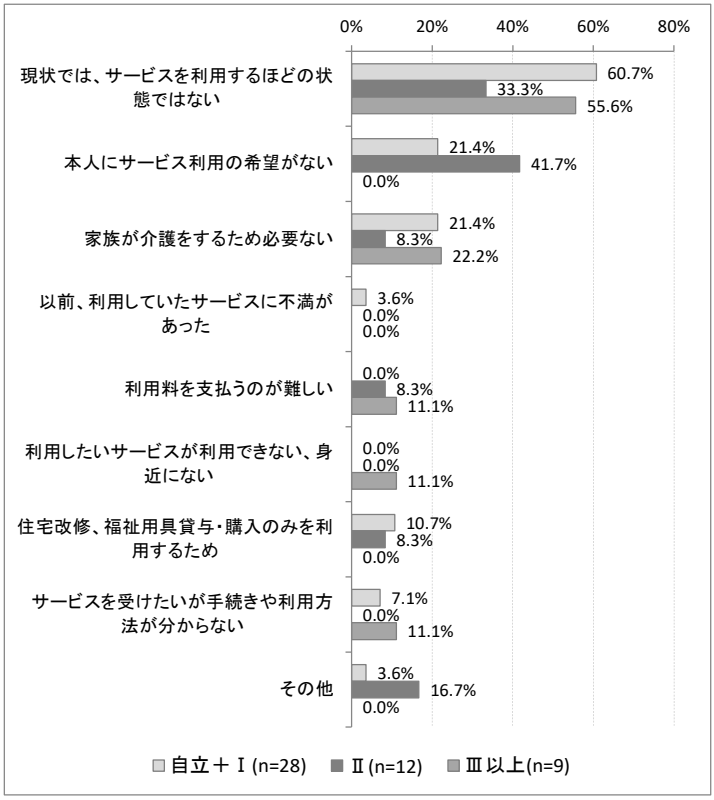
図表 6-6　認知症自立度別のサービス未利用の理由（単身世帯）



【認知症自立度別のサービス未利用の理由（夫婦のみ世帯）】

未利用の理由を認知症高齢者自立度別にみると、「自立＋Ⅰ」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が 60.7%ともっとも割合が高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」、「家族が介護をするため必要ない」が 21.4%、「住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため」が 10.7%となっている。「Ⅱ」では「本人にサービス利用の希望がない」が 41.7%ともっとも割合が高く、次いで「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が 33.3%、「その他」が 16.7%となっている。「Ⅲ以上」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が 55.6%ともっとも割合が高く、次いで「家族が介護をするため必要ない」が 22.2%、「利用料を支払うのが難しい」、「利用したいサービスが利用できない、身近にない」、「サービスを受けたいが手続きや利用方法が分からない」が 11.1%となっている。

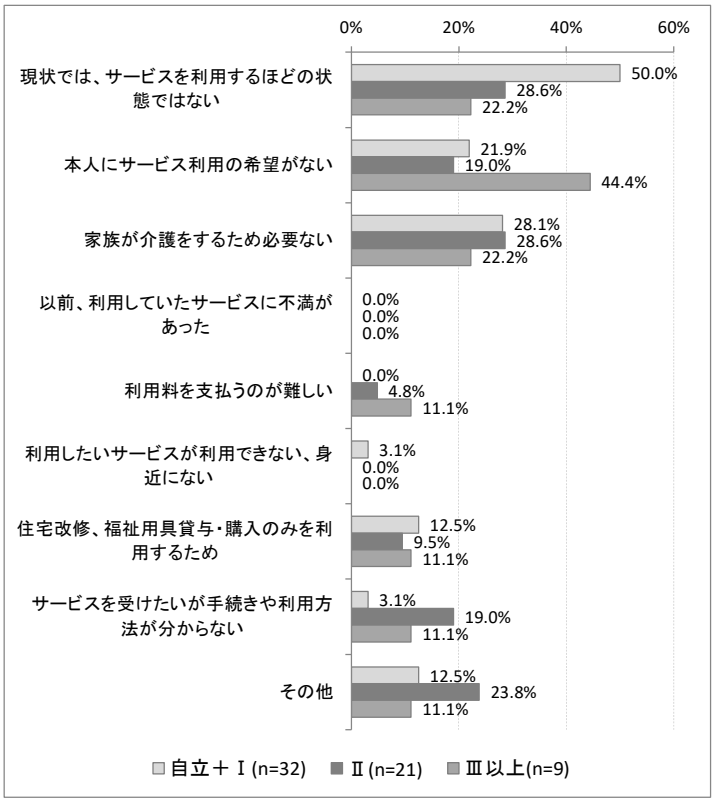
図表 6-7　認知症自立度別のサービス未利用の理由（夫婦のみ世帯）



【認知症自立度別のサービス未利用の理由（その他世帯）】

未利用の理由を認知症高齢者自立度別にみると、「自立＋Ⅰ」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が 50.0%ともっとも割合が高く、次いで「家族が介護をするため必要ない」が 28.1%、「本人にサービス利用の希望がない」が 21.9%となっている。「Ⅱ」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」、「家族が介護をするため必要ない」が 28.6%ともっとも割合が高く、次いで「その他」が 23.8%、「本人にサービス利用の希望がない」、「サービスを受けたいが手続きや利用方法が分からない」が 19.0%となっている。「Ⅲ以上」では「本人にサービス利用の希望がない」が 44.4%ともっとも割合が高く、次いで「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」、「家族が介護をするため必要ない」が 22.2%、「利用料を支払うのが難しい」、「住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため」、「サービスを受けたいが手続きや利用方法が分からない」、「その他」が 11.1%となっている。

図表 6-8　認知症自立度別のサービス未利用の理由（その他世帯）

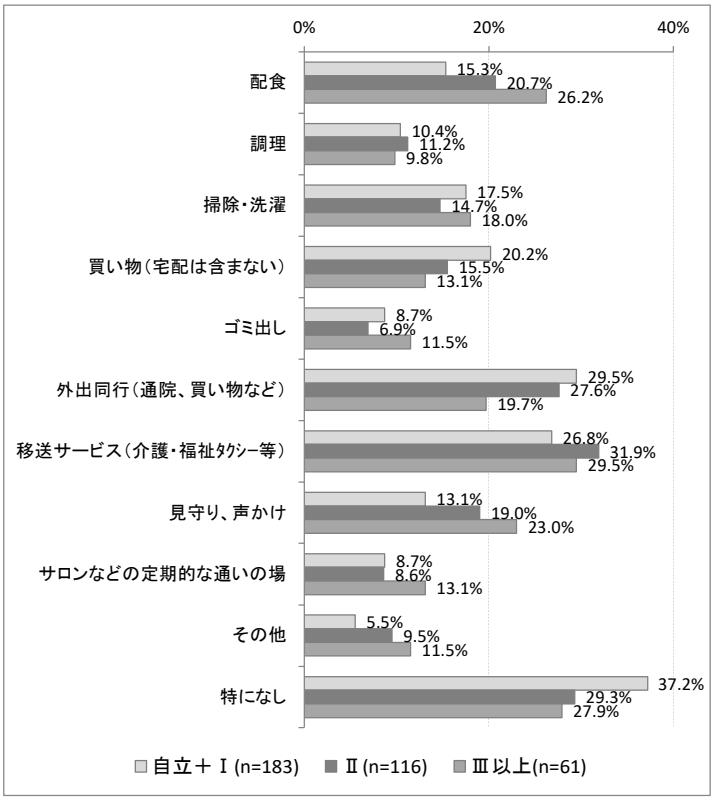


⑶ 認知症自立度別の今後の在宅生活に必要と感じる支援・サービス

【認知症自立度別の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス】

保険外の支援・サービスの必要性を認知症高齢者自立度別にみると、「自立＋Ⅰ」では「特になし」が37.2%ともっとも割合が高く、次いで「外出同行（通院、買い物など）」が 29.5%、「移送サービス（介護・福祉ﾀｸｼｰ等）」が 26.8%となっている。「Ⅱ」では「移送サービス（介護・福祉ﾀｸｼｰ等）」が31.9%ともっとも割合が高く、次いで「特になし」が 29.3%、「外出同行（通院、買い物など）」が27.6%となっている。「Ⅲ以上」では「移送サービス（介護・福祉ﾀｸｼｰ等）」が 29.5%ともっとも割合が高く、次いで「特になし」が 27.9%、「配食」が 26.2%となっている。

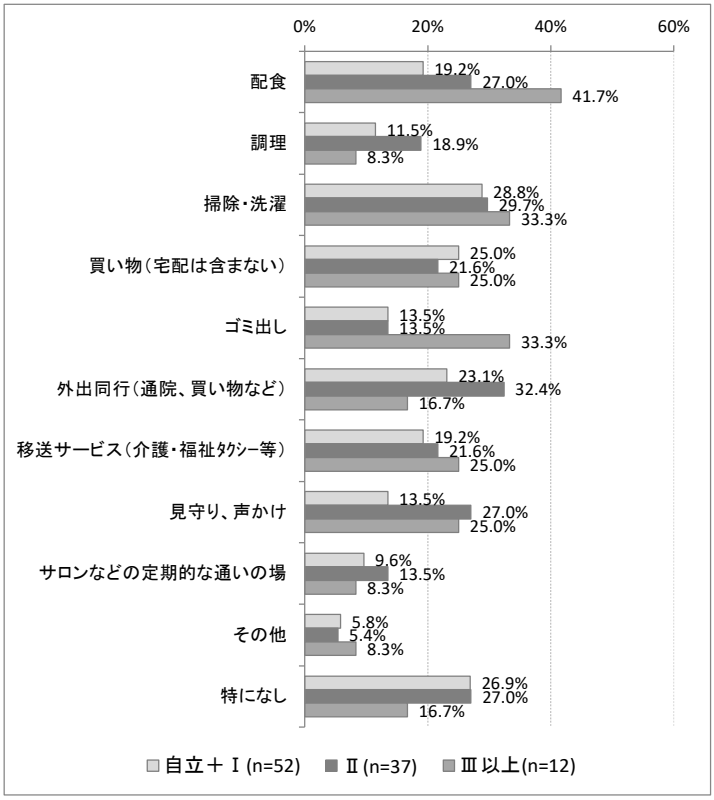
図表 6-9　認知症自立度別の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス



【認知症自立度別の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（単身世帯）】

保険外の支援・サービスの必要性を認知症高齢者自立度別にみると、「自立＋Ⅰ」では「掃除・洗濯」が 28.8%ともっとも割合が高く、次いで「特になし」が 26.9%、「買い物（宅配は含まない）」が 25.0%となっている。「Ⅱ」では「外出同行（通院、買い物など）」が 32.4%ともっとも割合が高く、次いで「掃除・洗濯」が 29.7%、「配食」、「見守り、声かけ」、「特になし」が 27.0%となっている。「Ⅲ以上」では「配食」が 41.7%ともっとも割合が高く、次いで「掃除・洗濯」、「ゴミ出し」が 33.3%、「買い物（宅配は含まない）」、「移送サービス（介護・福祉ﾀｸｼｰ等）」、「見守り、声かけ」が 25.0%となっている。

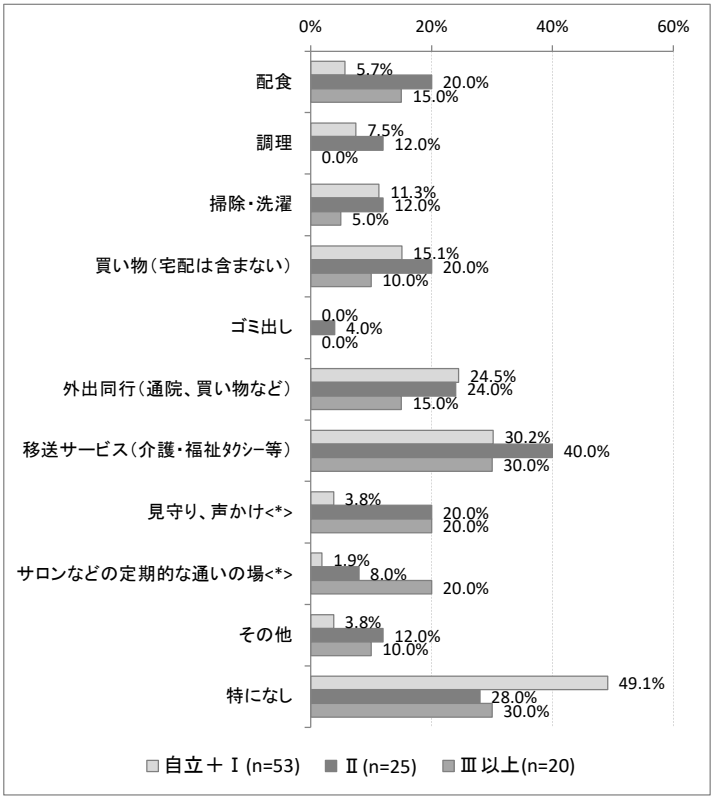
図表 6-10　認知症自立度別の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（単身世帯）



【認知症自立度別の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（夫婦のみ世帯）】

保険外の支援・サービスの必要性を認知症高齢者自立度別にみると、「自立＋Ⅰ」では「特になし」が49.1%ともっとも割合が高く、次いで「移送サービス（介護・福祉ﾀｸｼｰ等）」が 30.2%、「外出同行（通院、買い物など）」が 24.5%となっている。「Ⅱ」では「移送サービス（介護・福祉ﾀｸｼｰ等）」が40.0%ともっとも割合が高く、次いで「特になし」が 28.0%、「外出同行（通院、買い物など）」が24.0%となっている。「Ⅲ以上」では「移送サービス（介護・福祉ﾀｸｼｰ等）」、「特になし」が 30.0%ともっとも割合が高く、次いで「見守り、声かけ」、「サロンなどの定期的な通いの場」が 20.0%、「配食」、「外出同行（通院、買い物など）」が 15.0%となっている。

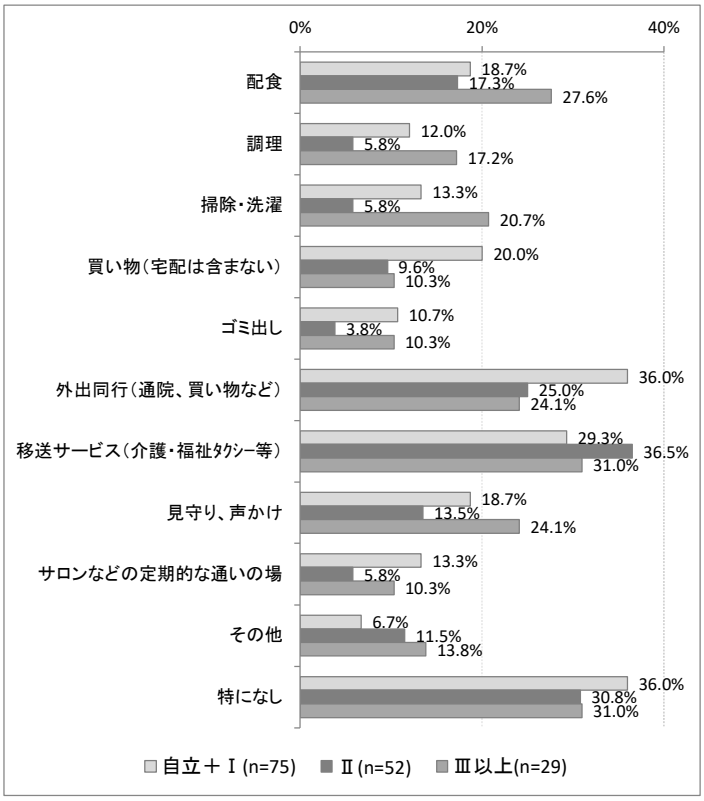
図表 6-11　認知症自立度別の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（夫婦のみ世帯）



【認知症自立度別の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（その他世帯）】

保険外の支援・サービスの必要性を認知症高齢者自立度別にみると、「自立＋Ⅰ」では「外出同行（通院、買い物など）」、「特になし」が 36.0%ともっとも割合が高く、次いで「移送サービス（介護・福祉ﾀｸｼｰ等）」が 29.3%、「買い物（宅配は含まない）」が 20.0%となっている。「Ⅱ」では「移送サービス（介護・福祉ﾀｸｼｰ等）」が 36.5%ともっとも割合が高く、次いで「特になし」が 30.8%、「外出同行（通院、買い物など）」が 25.0%となっている。「Ⅲ以上」では「移送サービス（介護・福祉ﾀｸｼｰ等）」、「特になし」が 31.0%ともっとも割合が高く、次いで「配食」が 27.6%、「外出同行（通院、買い物など）」、「見守り、声かけ」が 24.1%となっている。

図表 6-12　認知症自立度別の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（その他世帯）

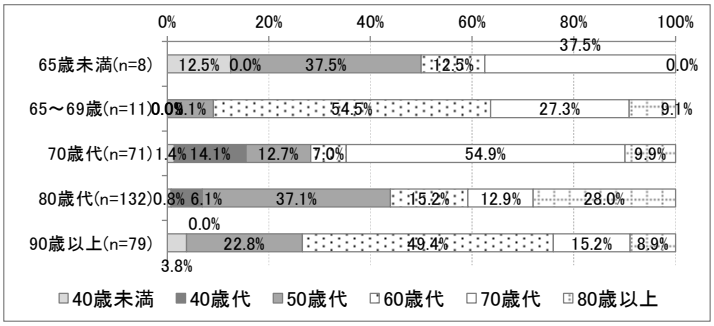


⑷ 本人の年齢別・主な介護者の年齢

【本人の年齢別・主な介護者の年齢】

介護者の年齢を本人年齢別にみると、「65 歳未満」では「50 歳代」、「70 歳代」が 37.5%ともっとも割合が高く、次いで「40 歳未満」、「60 歳代」が 12.5%、「40 歳代」、「80 歳以上」が 0.0%となっている。「65～69 歳」では「60 歳代」が 54.5%ともっとも割合が高く、次いで「70 歳代」が 27.3%、「50 歳代」、「80 歳以上」が 9.1%となっている。「70 歳代」では「70 歳代」が 54.9%ともっとも割合が高く、次いで「40 歳代」が 14.1%、「50 歳代」が 12.7%となっている。「80 歳代」では「50 歳代」が 37.1%ともっとも割合が高く、次いで「80 歳以上」が 28.0%、「60 歳代」が 15.2%となっている。「90 歳以上」では「60 歳代」が 49.4%ともっとも割合が高く、次いで「50 歳代」が 22.8%、「70 歳代」が 15.2%となっている..。

図表 6-13　本人の年齢別・主な介護者の年齢<***>

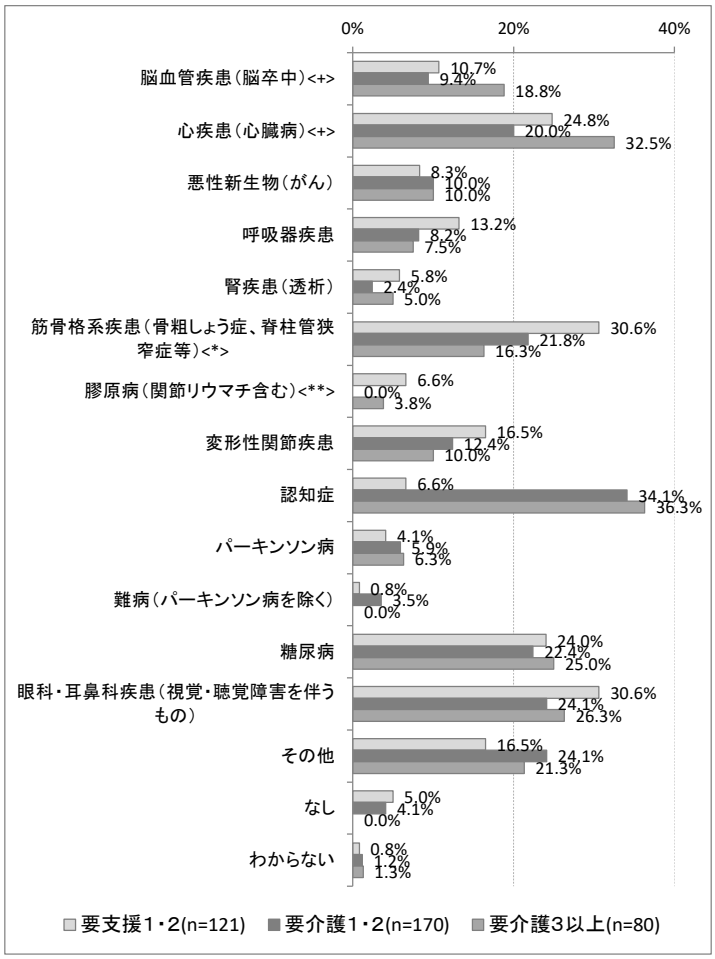


⑸ 要介護度別の抱えている傷病

【要介護度別・抱えている傷病】

抱えている傷病を二次判定結果別にみると、「要支援１・２」では「筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等）」、「眼科・耳鼻科疾患（視覚・聴覚障害を伴うもの）」が 30.6%ともっとも割合が高く、次いで「心疾患（心臓病）」が 24.8%、「糖尿病」が 24.0%となっている。「要介護１・２」では「認知症」が 34.1%ともっとも割合が高く、次いで「眼科・耳鼻科疾患（視覚・聴覚障害を伴うもの）」、「その他」が 24.1%、「糖尿病」が 22.4%となっている。「要介護３以上」では「認知症」が 36.3%ともっとも割合が高く、次いで「心疾患（心臓病）」が 32.5%、「眼科・耳鼻科疾患（視覚・聴覚障害を伴うもの）」が 26.3%となっている..。

図表 6-14　要介護度別・抱えている傷病

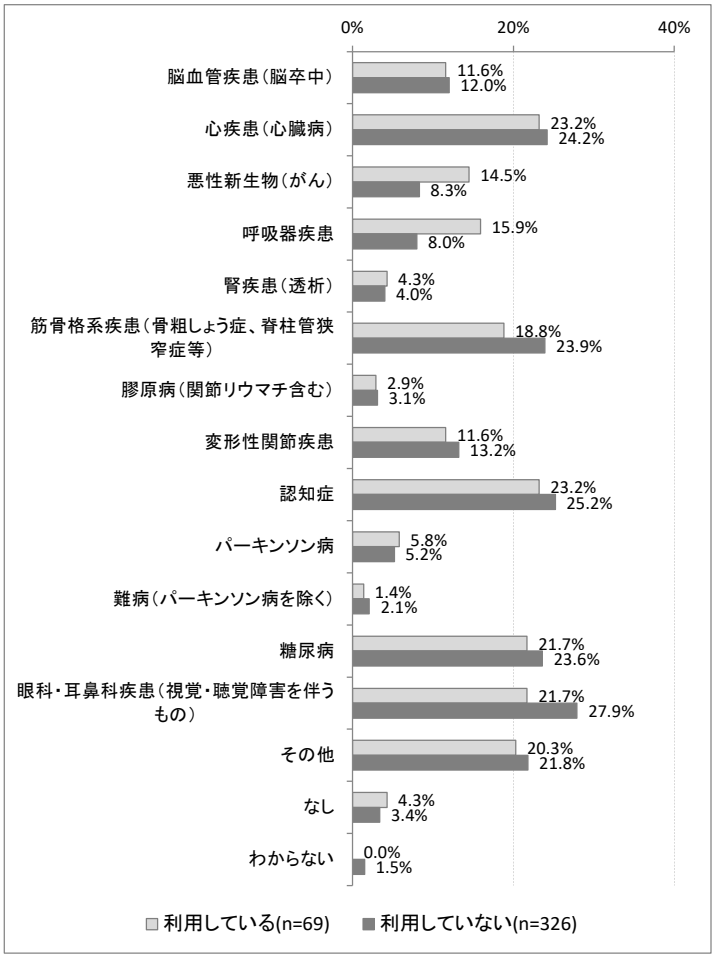


⑹ 訪問診療の利用の有無別の抱えている傷病

【訪問診療の利用の有無別・抱えている傷病】

抱えている傷病を訪問診療の利用の有無別にみると、「利用している」では「心疾患（心臓病）」、「認知症」が 23.2%ともっとも割合が高く、次いで「糖尿病」、「眼科・耳鼻科疾患（視覚・聴覚障害を伴うもの）」が 21.7%、「その他」が 20.3%となっている。「利用していない」では「眼科・耳鼻科疾患（視覚・聴覚障害を伴うもの）」が 27.9%ともっとも割合が高く、次いで「認知症」が 25.2%、「心疾患（心臓病）」が 24.2%となっている。

図表 6-15　訪問診療の利用の有無別・抱えている傷病



資料３

青梅市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画策定部会の設置について

条例による選出区分から２名ずつ選出した委員と他２名の計８名で構成する。

①被保険者の代表・・・２名（　　）（　　）

②事業者の代表・・・・２名（　　）（　　）

③学識経験者・・・・・２名（　　）（　　）

④その他・・・・・・・２名（　　）（　　）

［参考］

１　青梅市介護保険条例

（介護保険運営委員会）
第 11 条
２　委員会は、市長の諮問に応じ、次に掲げる事項について調査審議し、答申する。
(2) 介護保険事業計画および高齢者保健福祉計画の策定に関すること。

２　青梅市介護保険規則

（部会の設置）
第 52 条の４　会長は、条例第 11 条第２項各号に規定する事項を調査審議するため、部会を設置することができる。

資料４

第３編　高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画

第１章　高齢者保健福祉・介護保険事業を取り巻く現状と課題（抜粋）

青梅市地域福祉計画　全体構成の考え方（案）

構成案	資料作成時期	分量（目安）
第1編　総論 　第1章　計画の策定にあたって 　第2章　計画改定の考え方 　第3章　基本統計からみる市の現状 　第4章　計画の全体像 　第5章　計画の進行管理	骨子案	20　頁程度
第2編　地域福祉計画 　第1章　地域福祉を取り巻く現状と課題 　第2章　計画の基本的な考え方と施策体系 　第3章　取り組み内容	骨子案 骨子案 素案	70　頁程度
第3編　高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画 　第1章　高齢者保健福祉・介護保険事業を取り巻く現状と課題 　第2章　計画の基本的な考え方と施策体系 　第3章　計画の取り組み内容 　第4章　介護保険サービスの事業量見込みと介護保険料の設定	骨子案 骨子案 素案 素案	100 頁程度
第4編　障害者計画・障害福祉計画・障害児福祉計画 　第1章　障害者・児福祉を取り巻く現状と課題 　第2章　計画の基本的な考え方と施策体系 　第3章　計画の取り組み内容 　第4章　障害福祉・障害児福祉サービスの事業量見込み	骨子案 骨子案 素案 素案	70　頁程度
資料編		30　頁程度

（骨子案は 7 月中目途、素案は 11 月中目途）

第１編　総論

第１章　計画の策定にあたって

１　計画策定の背景・趣旨

現行計画策定以降の地域福祉に係る以下を掲載。

- 国の主な動向（社会福祉法等の一部改正、成年後見制度利用促進法、再犯防止推進法、 孤独・孤立対策の重点計画、生活困窮者自立支援のあり方など）

２　計画の位置づけ

３計画+成年後見・再犯防止の根拠法を掲載。

- 社会福祉法第107条の規定に基づく「市町村地域福祉計画」
- 再犯の防止等の推進に関する法律第８条第１項に規定する「地方再犯防止推進計画」
- 成年後見制度の利用の促進に関する法律第14条第１項に規定する「市町村成年後見制度利用促進基本計画」
- 老人福祉法第20条の81の規定に基づく「市町村老人福祉計画」
- 介護保険法第117条２の規定に基づく「市町村介護保険事業計画」
- 障害者基本法第11条３の規定に基づく「市町村障害者計画」
- 障害者総合支援法第88条に基づく「市町村障害福祉計画」、児童福祉法第33条の20に基づく「市町村障害児福祉計画」

市政における位置付けを掲載。

- 総合長期計画との整合性
- 福祉分野の最上位計画として制度の狭間の問題なども包括する計画
- 各種保健福祉計画（高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画、障害者基本計画、障害福祉計画・障害児福祉計画、子育ち・子育てワイワイプラン）を横断的につなぐ
- 健康づくり推進プランとの調和
- 社会福祉協議会「地域福祉活動計画」との連携

３　計画期間

令和６（2024）年度から令和10（2028）年度までの５か年を計画期間。

音声コード

４　計画策定の体制

（１）アンケート調査
（２）各種会議、委員会
（３）パブリックコメント

第２章　計画改定の考え方

地域福祉・地域共生社会等福祉共通の市の考え方を掲載。

１　地域共生社会とは

２　地域福祉とは

３　本市が取り組む重層的支援体制整備事業

第３章　データからみる市の現状

以下の統計を掲載

- 人口（年齢３区分別）・世帯の推移
- 地区別の人口・世帯の状況
- 障害者手帳所持者の推移
- 生活保護世帯・人員および保護率の推移
- ボランティア・市民活動団体 団体数・会員数の推移
- 自治会への加入状況

第４章　計画の全体像

各計画の体系を提示

- 第５期青梅市地域福祉計画
- 第９期青梅市高齢者保健福祉計画・青梅市介護保険事業計画
- 第６期青梅市障害者計画、第７期青梅市障害福祉計画、第３期青梅市障害児福祉計画

音声コード

第５章　計画の進行管理

１　協働による計画の推進

地域福祉の主体として、市（行政）、社会福祉協議会、事業者・関係機関、市民に期待する役割などを掲載。

地域活動（自治会など）、商店・会社・企業、士業、医療機関、学校・大学など、他に主体となり得る存在について、委員会で協議。

２　計画の評価と進行管理

評価指標の設定、進行管理体制を掲載。

第2編　地域福祉計画

第１章　地域福祉を取り巻く現状と課題

その他統計、アンケート結果、現行計画の評価を取りまとめ、課題を掲載。

第２章　計画の基本的な考え方と施策体系

計画の理念、基本目標、施策体系を掲載。

【現行の基本理念】

市民一人ひとりが住み慣れた地域で共に暮らしていける地域社会の実現

～「お互いさま」でみんながつながり、誰もが自分らしく暮らせるまち　青梅～

第３章　取り組み内容

体系に沿って、施策を記載

- 体系の一部を成年後見制度利用促進基本計画、再犯防止計画として位置づけ

音声コード

第３編　高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画

第１章　高齢者保健福祉・介護保険事業を取り巻く現状と課題

１　計画策定の背景

平成12年に開始した介護保険制度は開始から約25年を迎え、高齢化の一層の進行、地域課題の多様化といった社会情勢にあわせて制度改正が行われる中で運用されてきました。平成24年から開始した第５期介護保険事業計画においては「2025年を見据えた地域包括ケアシステム」の考え方が提示され、その後も制度改正を通して介護予防・健康づくりや地域との共生の視点が深められてきました。今期計画である第９期計画は、2025年（令和７年）を計画期間中に迎える計画であり、地域包括ケアシステムの実現及びその一層の深化が求められています。

本市では令和３年に、市制施行70周年という節目の年を迎えることを契機として、いつまでも生きがいをもって暮らせるまちの実現に向け「青梅市高齢者憲章」を制定し、令和３年10月23日開催の市制施行70周年記念式典において発表を行いました。憲章では、高齢者が健康づくりに取り組み、地域で参加・活躍する中で、自立・共生して暮らす、高齢者が輝くまちを目指すことが掲げられています。

第９期青梅市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画（以下、「高齢・介護計画」という。）は、地域包括ケアシステムの実現及び一層の深化と高齢者憲章の具現化を図り、本市の高齢者施策を総合的に推進するための計画として策定します。

第９期の介護保険制度改正の主な内容について

第９期計画の策定に向けた国の基本方針（７月）をもとに記載

音声コード

２　高齢者の人口・世帯に関する統計の状況

（１）高齢者人口の推移

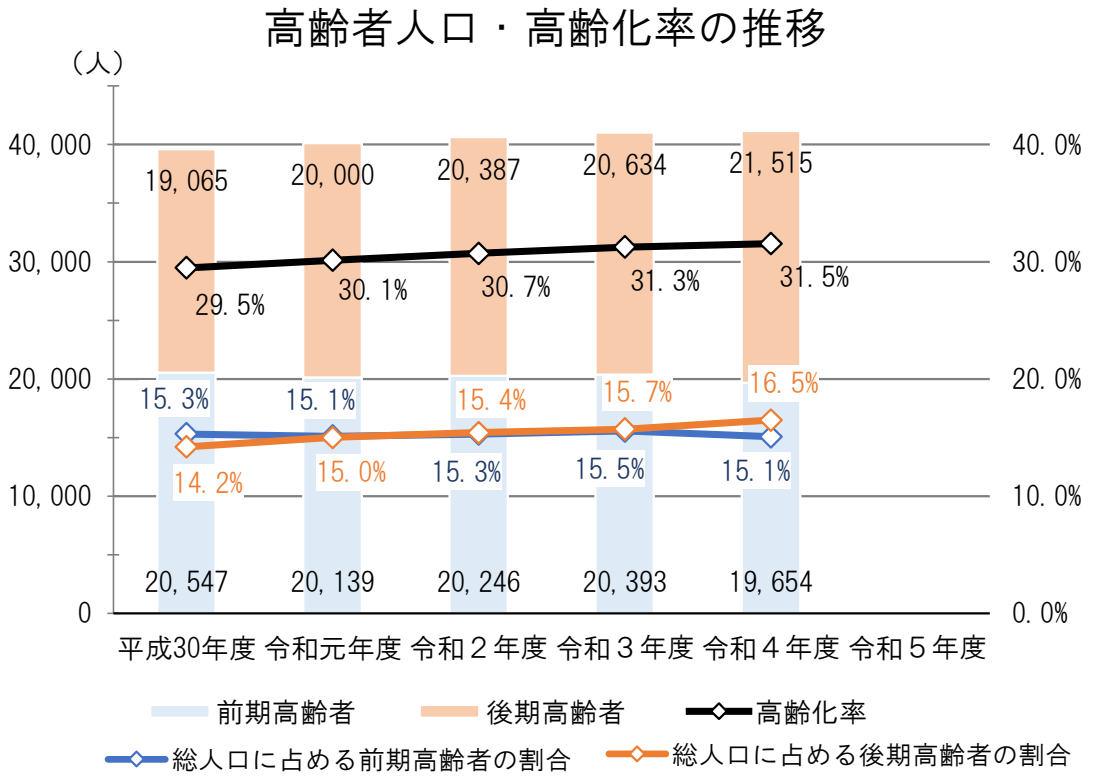
本市の総人口は減少傾向で推移しており、令和５年度には〇〇人となっています。

一方で、65歳以上の高齢者人口は年々増加しており、平成30年度の39,612人（高齢化率29.5%）から、令和５年度の〇〇人（）

また、前期高齢者人口が減少する中で後期高齢者人口の増加が顕著となっており、平成30年に19,065人（総人口に占める後期高齢者の割合は14.2%）であったものが令和５年度には〇〇人（）と〇〇倍に増加しています。

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
総人口	134,316	133,283	132,291	131,242	130,492	
高齢者総数	39,612	40,139	40,633	41,027	41,169	
前期高齢者（65～74歳）	20,547	20,139	20,246	20,393	19,654	
後期高齢者（75歳以上）	19,065	20,000	20,387	20,634	21,515	
高齢化率	29.5%	30.1%	30.7%	31.3%	31.5%	
総人口に占める前期高齢者の割合	15.3%	15.1%	15.3%	15.5%	15.1%	
総人口に占める後期高齢者の割合	14.2%	15.0%	15.4%	15.7%	16.5%	

資料：住民基本台帳（外国人登録含む）（各年10月１日現在）



音声コード

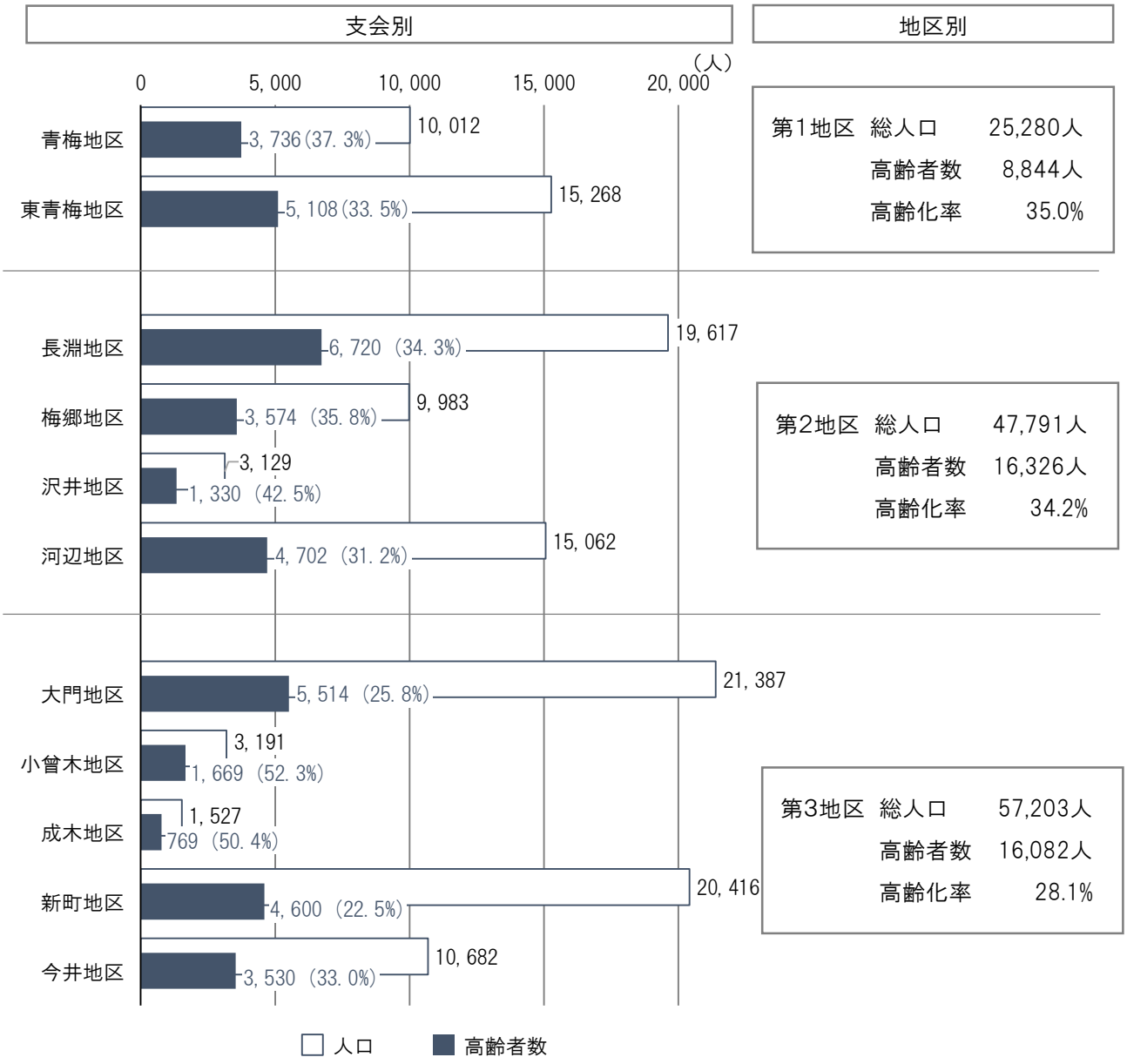
（２）地区別高齢者数・高齢化率

本市では、日常生活圏域を３つの圏域に設定しています。（参照ページ記載）

地区別（圏域別）でみると、第２地区では、高齢者数が16,326人と最も多くなっています。一方、第１地区では、総人口が25,280人と最も少ないこともあり、高齢者数も8,844人と最も少なくなっていますが、高齢化率は35.0％と最も高くなっています。

また、支会別でみると、高齢者数が最も多くなっているのは長淵地区の6,720人で、高齢化率が最も高くなっているのは小曾木地区の52.3％です。

人口・高齢者数・高齢化率



資料：住民基本台帳（外国人登録含む）（令和５年１月１日現在）

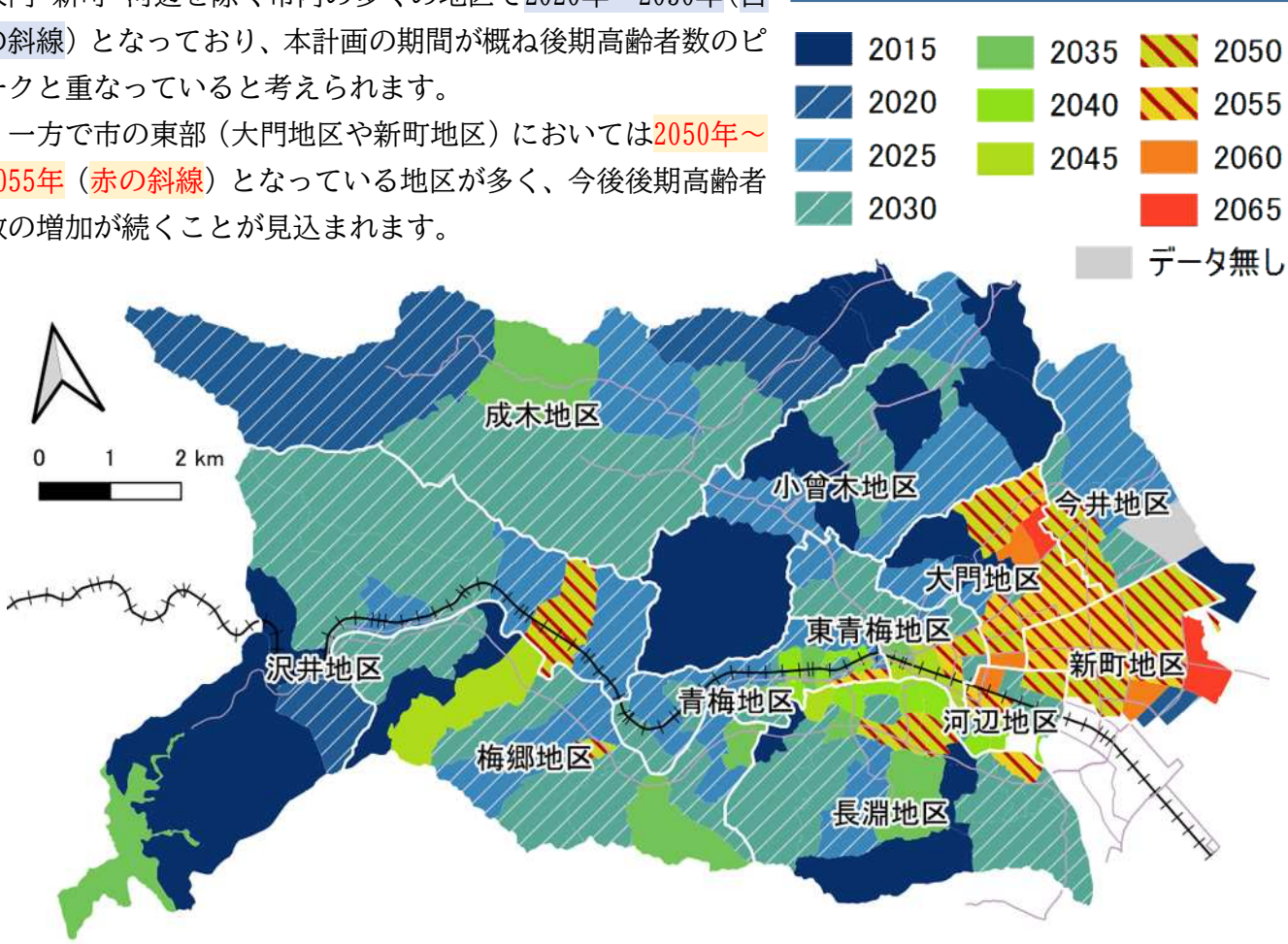
※（　　）内は高齢化率

音声コード

（３）地区別（支会別）高齢者推計人口の状況

後期高齢者人口が最大になる年について地区別にみると、大門･新町･河辺を除く市内の多くの地区で2020年～2030年（白の斜線）となっており、本計画の期間が概ね後期高齢者数のピークと重なっていると考えられます。

一方で市の東部（大門地区や新町地区）においては2050年～2055年（赤の斜線）となっている地区が多く、今後後期高齢者数の増加が続くことが見込まれます。

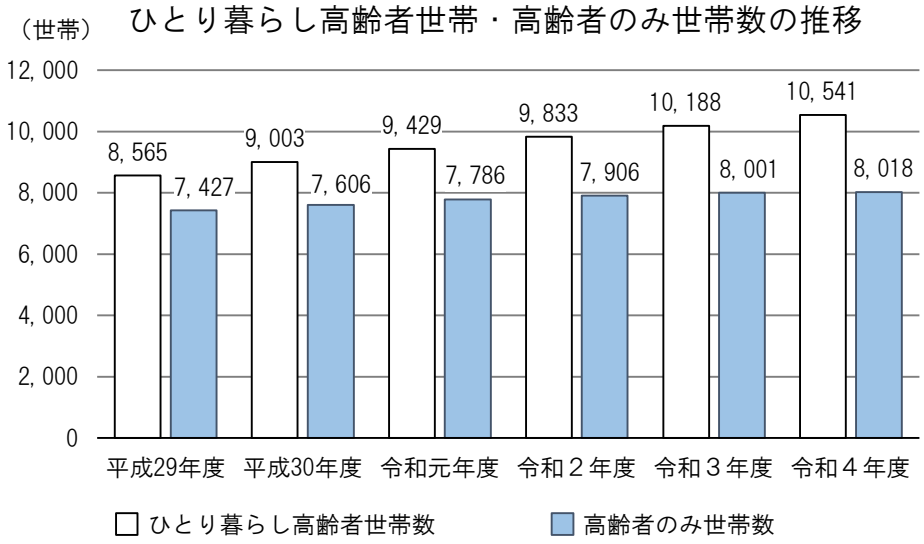


資料：「全国小地域別将来人口推計システム（http://arcg.is/1LqC6qN，井上孝）」
「国土数値情報（国土交通省）」をもとに作成

音声コード

（４）ひとり暮らし高齢者世帯・高齢者のみ世帯数の推移

令和４年度の本市の高齢者世帯数は、ひとり暮らし高齢者世帯が10,541世帯、高齢者のみ世帯が8,018世帯で、共に年々増加しています。



資料：住民基本台帳（各年度は２月１日現在、令和４年度のみ３月１日現在）

※高齢者のみ世帯とは、世帯の全員が65歳以上の世帯のうち、ひとり暮らし高齢者世帯を除いたもの。

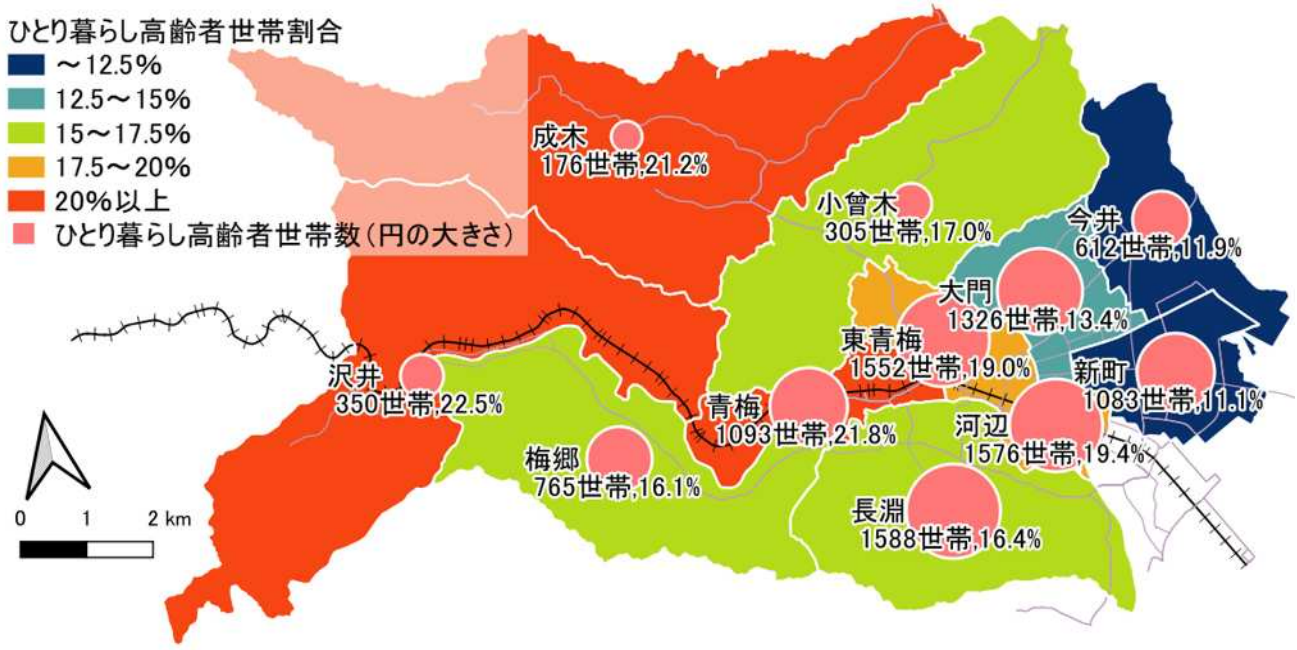
音声コード

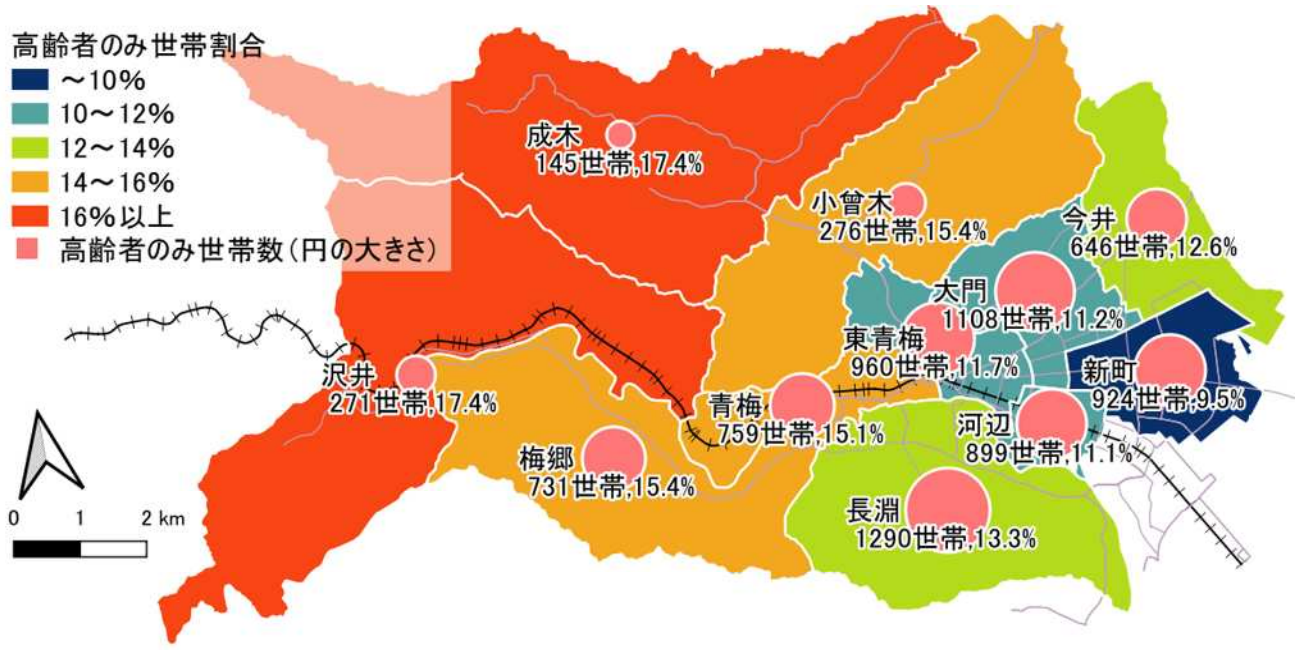
（５）地区別ひとり暮らし高齢者世帯・高齢者のみ世帯の数と割合

ひとり暮らし高齢者世帯・高齢者のみ世帯について地区別にみると、青梅地区・東青梅地区・河辺地区では、ひとり暮らし高齢者世帯数・割合が高くなっています。

新町地区・大門地区ではひとり暮らし高齢者世帯・高齢者のみ世帯共に割合は低いものの数が多くなっています。

成木地区・沢井地区ではひとり暮らし高齢者世帯・高齢者のみ世帯共に割合が高く、数は少なくなっています。





（令和４年10月現在）

音声コード

３　アンケート調査の実施概要

（１）各調査の実施概要

区分	介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	在宅介護実態調査	介護サービス事業所調査
対象者	65 歳以上の市内在住者（施設入所者および介護認定要介護１から５までの被保険者を除く）	要支援・要介護認定を受けている方で、更新申請・区分変更申請で認定調査を受けた在宅の方	市内の介護サービス事業所および施設
調査方法	郵送による配布・回収	対象者のうち、自宅訪問により聞き取りに協力いただけた方を対象にアンケート調査（回収は郵送）	電子メール、電子申請システムおよび郵送によるアンケート調査
調査内容（概要）	・日常生活の状況 ・身体機能の状況 ・市の高齢者施策の推進	・日常生活の状況 ・在宅生活の継続に向け必要な支援	・事業所の運営状況、意向 ・地域との関わり ・人材確保の状況 ・サービス利用者の状況
（項目）	1　家族や生活状況 2　からだを動かすこと 3　食べること 4　毎日の生活 5　地域での活動 6　たすけあい 7　健康 8　認知症にかかる相談窓口の把握 9　介護サービスと住まい（暮らし）の意向 10　生きがいや充実感、週１回以上の活動状況 11　ボランティア活動 12　介護ボランティア制度 13　日常生活での不安・心配 14　移動支援 15　認知症の対策 16　市が充実させるべき取り組み 17　フレイル 18　自由意見	1　在宅限界点の向上のための支援・サービス提供体制 2　仕事と介護の両立に向けた支援・サービスの提供体制 3　保険外の支援・サービスを中心とした地域資源の整備 4　将来の世帯類型の変化に応じた支援・サービスの提供体制 5　医療ニーズの高い在宅療養者を支える支援・サービスの提供体制 6　サービスの未利用の理由など 7　自立支援に必要なサービス 8　サービス料金の支払方法	1　事業所の概要および運営 2　サービスの提供 3　事業所と地域等の関わり 4　介護老人福祉施設等への質問 5　第９期計画に参入を検討しているサービス 6　地域貢献や災害対策 7　介護保険制度への自由意見 8　在宅生活改善調査 9　居所変更実態調査 10　介護人材実態調査

音声コード

（２）介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の回答者属性

（３）在宅介護実態調査の回答者属性

（４）介護サービス事業所調査の回答者属性

音声コード

４－１　健康づくり・介護予防に関する高齢者の現状

（１）65歳健康寿命

健康寿命とは、健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間を言います。

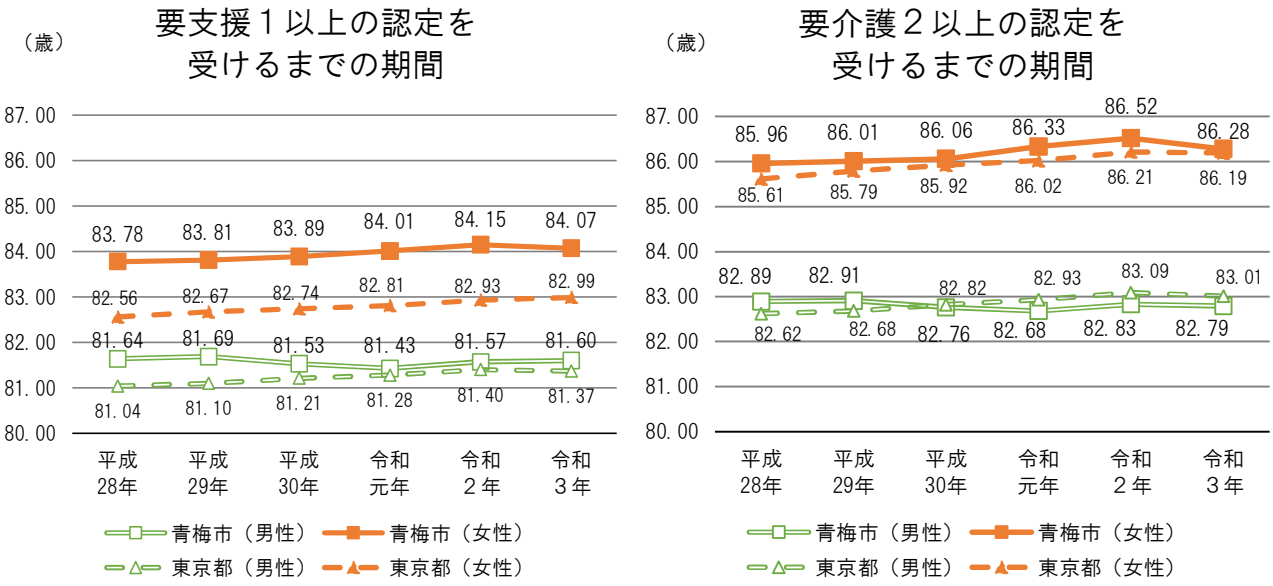
東京都では、健康寿命について、65 歳の人が何らかの障害のために要介護認定を受けるまでの状態を「健康」と考え、その障害のために認定を受ける年齢を平均的に表すものを、東京保健所長会方式の 65 歳健康寿命として算出しています。

算出方法は、65 歳の人が要支援・要介護の認定を受けるまでの平均自立期間（※）を足したものであり、介護保険の要介護・要支援度を用いて「要支援１以上の認定を受けるまでの平均自立期間で算出した場合」と、「要介護２以上の認定を受けるまでの平均自立期間で算出した場合」の２つのパターンで算出しています。

本市と東京都を比較すると、「要支援１」の女性については本市が東京都を上回って推移しています。「要支援１」の男性については、平成29年以前では本市が東京都を0.6歳程度上回っていましたが、令和元年以降その差は0.2歳程度まで小さくなっています。

「要介護２」については、概ね東京都と同水準で推移しています。

※平均自立期間：要介護認定を受けるまでの期間の平均、健康と考える期間



資料：東京都都内各市区町村の 65 歳健康寿命

音声コード

（２）各種健康リスクの判定結果（日常生活圏域ニーズ調査）

（３）フレイル予防に取り組んでいることと今後取り組みたいこと（日常生活圏域ニーズ調査）

音声コード

４－２　生きがいづくり・社会参加に関する高齢者の現状

（１）高齢者の就業状況

令和２年国勢調査の本市の高齢者就業者が就業者総数に占める割合は16.5%で、東京都と比較して３ポイント程度、全国と比較しても1.5ポイント程度高い水準となっています。

平成27年国勢調査と比較すると、65～74歳就業者・75歳以上就業者それぞれの就業者総数に占める割合は、いずれも東京都や全国を上回るペースで増加しています。

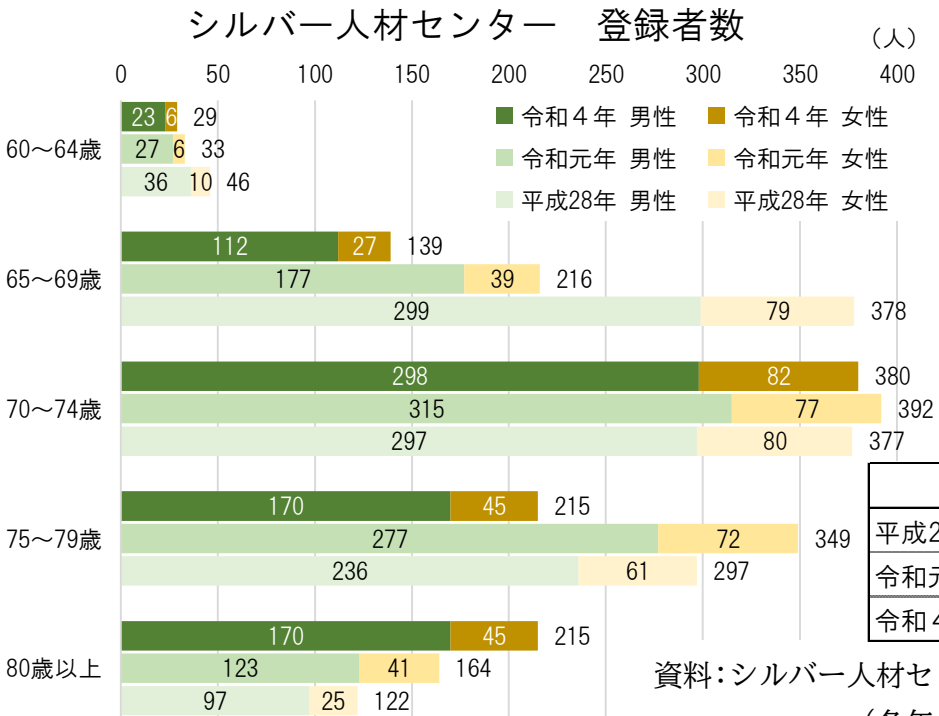
区分	青梅市	東京都	全国
就業者総数（15歳以上）	56,528	5,962,306	57,643,225
高齢者就業者数（65歳以上）	9,338（+1,828）	796,132（+54,344）	8,724,474（+1,198,895）
（就業者総数に占める割合）	16.5%（+3.2）	13.4%（+0.9）	15.1%（+2.1）
65～74歳就業者数	7,188（+1,029）	576,476（+8,694）	6,697,603（+757,982）
（就業者総数に占める割合）	12.7%（+1.8）	9.7%（+0.1）	11.6%（+1.3）
75歳以上就業者数	2,150（+799）	219,656（+45,650）	2,026,871（+440,913）
（就業者総数に占める割合）	3.8%（+1.4）	3.7%（+0.8）	3.5%（+0.8）

資料：国勢調査（令和２年）　（カッコ内は平成27年との差、割合の変化の単位はポイント）

（２）シルバー人材センター

シルバー人材センターの登録者数は、令和元年から令和４年にかけて80歳以上で増加している一方、65～69歳・75～79歳の区分で大きく減少しています。

就業率については令和元年から1.9ポイント上昇し73.0%となっています。



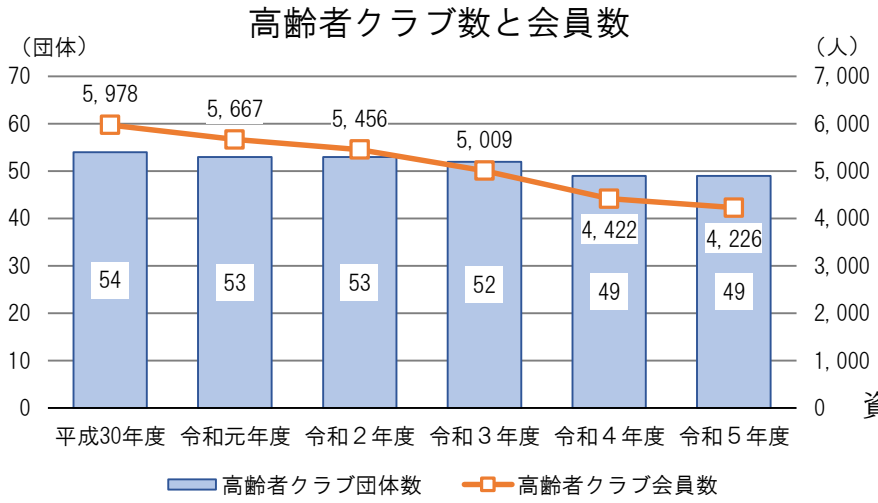
	就業率
平成28年	71.6%
令和元年	71.1%
令和４年	73.0%

資料：シルバー人材センター事業報告
（各年３月31日現在）

音声コード

（３）高齢者クラブ

高齢者クラブ（おおむね60歳以上の市民が加入している団体）のクラブ団体数・会員数はともに減少傾向にあります。会員数については、特に令和２年から令和４年の期間で各年500人程度の大きな減少がみられます。

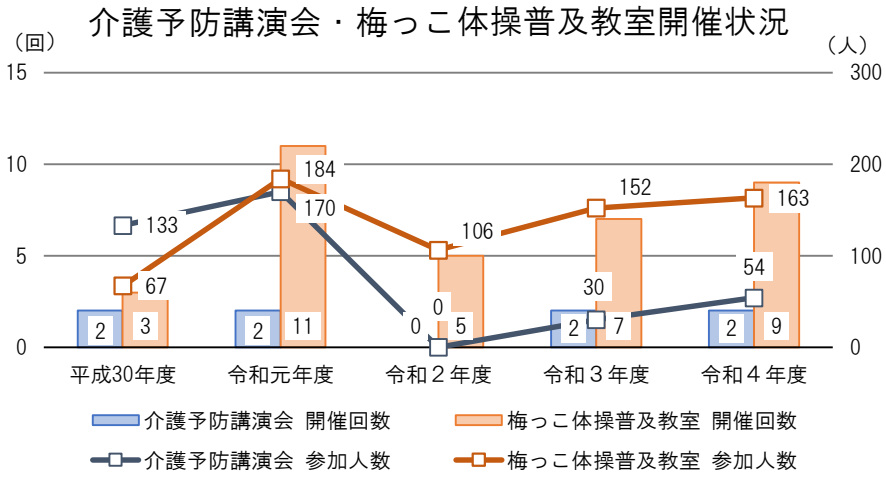


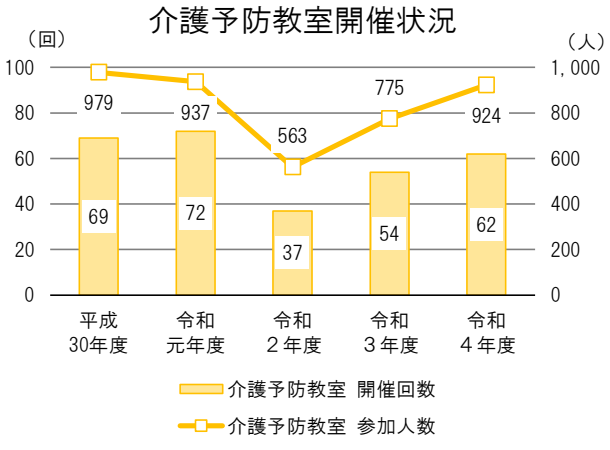
資料：行政報告
（各年４月１日現在）

（４）介護予防に向けた「通いの場」

介護予防に向けた「通いの場」の開催状況についてみると、介護予防講演会・梅っこ体操普及教室・介護予防教室についてはいずれも令和２年度に減少した後、回復傾向にあります。

自主グループの数については令和３年度から令和４年度で６箇所減少し、21箇所となっています。





	自主グループの数
平成30年度	22箇所
令和元年度	23箇所
令和２年度	26箇所
令和３年度	27箇所
令和４年度	21箇所

資料：行政報告

音声コード

（５）地域活動への参加状況（日常生活圏域ニーズ調査）

（６）ボランティア活動に望むこと（日常生活圏域ニーズ調査）

音声コード

（７）在宅での介護ボランティアの内容に関する意向とニーズ（日常生活圏域ニーズ調査）

（８）事業所調査より、ボランティアの受け入れについて

音声コード

４－３　安全・安心に暮らせるまちづくりに関する高齢者の現状

（１）市が行うべき災害対策（日常生活圏域ニーズ調査）

（２）取り組むべき災害対策（事業所調査）

音声コード

（３）災害対策への協力意向（事業所調査）

音声コード

４－４　住み慣れた地域で暮らし続けることに関する高齢者の現状

（１）在宅生活継続に向けて必要なサービス（在宅介護実態調査）

（２）介護者が不安に感じる介護（在宅介護実態調査）

音声コード

（３）元気なうち／介護が必要になったときの住まいの希望（日常生活圏域ニーズ調査）

音声コード

（４）自宅で暮らしていくために必要なサービス（日常生活圏域ニーズ調査）

音声コード

（５）サービス利用者において在宅生活の維持が難しくなっている理由（事業所調査）

（６）生活改善に必要だと思われるサービス（事業所調査）

音声コード

４－５　見守り施策・認知症施策に関する高齢者の現状

（１）認知症高齢者の状況

（分析中）

音声コード

（２）市で行っている見守り施策・認知症施策の認知度（日常生活圏域ニーズ調査）

（３）認知症の人が安心して在宅で暮らせるために必要なもの（日常生活圏域ニーズ調査）

音声コード

４－６　介護保険サービスの利用に関する高齢者の現状

４－７　介護人材・介護サービスの提供体制に関する地域の現状

５　調査結果等からみえる現状・課題

前述４－１～４－７の項目を文章で整理。８月会議にてお示し

第２章　計画の基本的な考え方と施策体系

計画の理念、基本目標、施策体系を掲載。

【現行の基本理念】

福祉が充実したまち

第３章　取り組み内容

体系に沿って、施策を記載

第４章　介護保険サービスの事業量見込みと介護保険料の設定

音声コード

第４編　障害者計画・障害福祉計画・障害児福祉計画

第１章　障害者・児福祉を取り巻く現状と課題

その他統計、アンケート結果、現行計画の評価を取りまとめ、課題を掲載。

第２章　計画の基本的な考え方と施策体系

計画の理念、基本目標、施策体系を掲載。

【現行の基本理念】

味わいのある人生を歩もう
～だれもがその人らしく暮らせる共生のまち青梅～

第３章　取り組み内容

体系に沿って、施策を記載

第４章　障害福祉・障害児福祉サービスの事業量見込み

１　障害福祉計画

- 成果目標の設定
- サービス等の見込量およびその確保策

２　障害児福祉計画

- 成果目標の設定
- サービス等の見込量およびその確保策

資料編

音声コード

資料５

令和５年度　第１回介護保険運営委員会　議事要旨（案）

１　開催日時　令和５年４月２８日（金曜日）13 時 30 分～15 時 00 分

２　出席委員

小山登美夫、木村誠志、沖山哲、橋本満智子、小嶋直之、角田昭文、相墨欽章、坂本竜、土田大介、百瀬澄雄、田中三広、新井一夫、菅沼隆

（敬称略・順不同）

議　　事

＜開会＞

事務局　：皆様、本日はお忙しいところ、御出席いただきまして、ありがとうございます。

定刻になりましたので、令和５年度第１回の「青梅市介護保険運営委員会」を開催させていただきます。

事務局　：それでは、次第にしたがって進めさせていただきます。

まず次第の２、委嘱状の交付でございます。

次第裏面の名簿を御覧ください。

名簿の並び順とは異なりますが、座席の順番で土田委員から百瀬委員、田中委員と時計回りに委嘱状の交付をさせていただきます。

私が名前をお呼びしますので、こちらまでお進みいただければと存じます。

なお、委嘱期間につきましては、令和７年３月 31 日までとなりますのでよろしくお願いいたします。

＜委嘱状交付＞

事務局　：続きまして、浜中市長から御挨拶を申し上げます。

＜市長のあいさつ＞

＜市長退室＞

事務局　：本日の委員会は、13 時 29 分現在、委員 13 名中 13 名全員の御出席をいただきました。

委員の出席者が過半数を超えておりますので、青梅市介護保険規則第 52 条の３により、この委員会が有効に成立していることを御報告いたします。

また、本日の傍聴者ですが、９名おりますことを併せて御報告いたします。

それでは議題に入る前に、事前に送付させていただきました本日の資料について御確認させていただきたく存じます。

＜配布資料の確認＞

事務局　：配布資料は次のとおりです。

次第(裏面委員名簿)

P1　資料番号１が「令和４年度第５回青梅市介護保険運営委員会議事要旨（案)」。

P12　資料番号２が、「要介護認定について」。

P15　資料番号３が、「介護保険料について」。

P16　資料番号４が、「受給者数および給付の状況について」。

P18　資料番号５が、「相談苦情受理状況」。

P20　資料番号６が、「市内介護サービス事業所数」。

P21　資料番号７が、「地域密着型サービスの利用状況について」。

この資料２から７はＡ４横になってございますが、こちらは青梅市の介護保険の実施状況に関する資料でございます。

昨年度から大きく資料の形を変えておりまして、見やすさと内容を精査し、全てＡ４横に統一して、内容を大幅に変更しておりますので、御承知おきください。

P25　資料番号８が、「青梅市地域包括支援センターの主な運営状況について」。

P27　資料番号９が、「青梅市地域包括支援センター事業運営業務委託者の公募スケジュールについて」。

P28　資料番号 10 が、「地域福祉計画および地域共生社会推進会議について」。

P30　資料番号 11 が、「第９期青梅市高齢者保健福祉計画・青梅市介護保険事業計画策定スケジュール（案)」。

P31　資料番号 12 が、「第９期青梅市高齢者福祉計画・青梅市介護保険事業計画の策定に係る調査結果について」。

P32　資料番号 13 が、「介護保険事務のデジタル化の取り組みについて」。

P34　資料番号 14 が、「定期巡回･随時対応型訪問介護看護事業の開設変更について」。

また、机上に参考資料　令和５年度の運営委員会開催予定と、介護保険条例等の抜粋を配布させていただいております。

過不足がございましたら、お申し付けください。

事務局　：それでは次に、今年度は初めての開催となりますので、委員の皆様に自己紹介をお願いしたく存じます。

恐れ入りますが、委嘱状の交付同様、座席の順番で土田委員、続きまして百瀬委員、田中委員の順に御起立いただき、所属とお名前と自己紹介をお願いしたく存じます。

お席にあるマイクの根元のボタンがマイクのスイッチになってございますので、発言の際はボタンを押していただくと、赤いランプがつきます。

これでマイクがオンとなりますので、御発言いただき、発言が終わりましたら、再度ボタンを押していただき、マイクをオフにしていただきたく存じます。

＜委員のあいさつ＞

事務局　：ありがとうございました。

続きまして次第の４、会長および副会長の互選に移ります。

介護保険運営委員会でございますが、青梅市介護保険規則第 52 条の２第２項により、

会長および副会長を置くことになっております。

第52条の３で、「委員会は会長が招集し、会長が議長」となりますが、委員の改選により、会長がおりませんので、会長の互選を行いたいと思います。

慣例では、指名推選となっておりますが、この方法でよろしいでしょうか。

＜異議無し＞

事務局　：ありがとうございます。

それでは御異議がないようでございますので、会長の指名推選をお願いいたします。

委　員　：会長には、医師会の代表であります土田委員を推薦いたします。

土田委員は現在青梅市医師会の会長であり、幅広い見識をお持ちである青梅市医師会の先生が適任ではないかと考えますので、御推薦申し上げます。

事務局　：ただいま、会長には土田委員をということで御推薦いただきましたが、いかがでしょうか。

＜異議無し＞

事務局　：それでは会長は土田会長に決定とさせていただきます。

続きまして、副会長の指名推選をお願いいたします。

委　員　：副会長には、小山委員を推薦いたします。

小山委員は高齢者代表という立場であり、介護保険と密接な関係のある市内49の高齢者クラブの代表でもありますので、今後の高齢者施策を考える上で適任と思い、御推薦申し上げます。

事務局　：ただいま、副会長には小山委員をという御推薦をいただきましたが、いかがでしょうか。

＜異議無し＞

事務局　：それでは、副会長は小山委員に決まりました。

土田委員、小山委員は、それぞれ会長席、副会長席への御移動をお願いいたします。

続きまして、会長副会長の順番で一言御挨拶をいただきたく存じます。

まず土田会長お願いいたします。

＜会長あいさつ＞

事務局　：続きまして小山副会長お願いいたします。

＜副会長あいさつ＞

事務局　：以後の議事につきましては会長の進行でお願いしたく存じます。

なお、御発言の際は挙手の上、会長の指名を受けてから御発言の方をお願いいたします。

＜議題＞

会　長　：それでは次第に沿って進めたいと思います。

議題（１）報告事項　令和４年度第５回青梅市介護保険運営委員会議事要旨について、事務局から説明をお願いいたします。

事務局　：令和４年度第５回の議事要旨につきましては、３月 17 日に原案をお送りし、確認および修正期日を３月 31 日に設けました特に修正はございませんでした。

本日、資料１として配付いたしました議事要旨について、改めて修正等ございましたら、御意見をいただければと思います。

会　長　：ただいまの説明について、御質問、御意見等がありましたらお願いいたします。

＜質問無し＞

会　長　：それでは次の報告に移ります。

介護保険の実施状況について、事務局から説明をお願いします。

事務局　：それでは、12 ページの資料２を御覧ください。

まず、（１）要介護度別認定者数の推移です。

表の各認定率について、令和５年２月 28 日現在での実績値は 16.0％であり、前年同月の 16.4％と比較して 0.4 ポイントの減となっております。

実績値の下の第８期青梅市介護保険事業計画の計画値における比較においては、令和４年度の認定率を 17.0％と推計しておりますので、2.0 ポイント下回っている状況であります。

右に移りまして（２）申請件数等の月別集計です。

一番上の申請件数ですが、新規・更新・区分変更別に表記しています。

令和５年２月の申請件数は 671 件であり、前年同月の 708 件と比較して 37 件の減となっております。

右の月平均では令和４年度は 613.0 件で、前年度の 594.4 件と比較すると 18.6 件増加しております。

おめくりいただき、13 ページの（３）審査関係内訳です。

令和５年２月の審査判定件数は 452 件であり、合計では 4910 件となっております。

介護度別では、要介護１が最も多く、次いで要支援１、要介護２の順となっております。

（４）の更新申請におけるコロナウイルス特例適用件数ですが、令和５年２月までの合計で 1454 件と、更新申請のうち 35.2％となっております。

おめくりいただきまして、14 ページ（５）、第１号被保険者における認定率です。

国や都と比較できるデータは、令和４年 11 月時点ですので、令和４年 11 月時点での比較とさせていただきます。

表の方、青梅市の合計は 15.8％であり、前年同月の 15.9％から、0.1％減少しました。

なお、全国 19.1％、および東京都 20.3％の比較では、それぞれ 3.3 から 4.5 ポイント下回っております。

（６）認定者構成比です。

こちらも国や都と比較できる、令和４年 11 月時点での比較とさせていただきます。

青梅市は、国や都と比べて、要介護３が４、５との比較比率において高くなっており

ます。

（５）の第１号被保険者における認定率の表記ですが、一番上の表の一番上が２月となっておりますが、こちらは11月の誤りですので、訂正させていただきます。

１の認定関係については以上となります。

それでは続きまして、介護保険料について御説明いたします。

15ページ資料３を御覧ください。

初めに、（１）令和４年度介護保険料の賦課収納状況ですが、こちらは令和５年２月末日現在の数字となっております。

まず調定額ですが、左の表の左から３列目が調定額となっておりまして、一番下の合計欄の計の部分を御覧ください。

下段の令和３年度の24億7100万円余に対しまして、上段の令和４年度は24億9800万円余となっており、2700万円程度上回っております。

また、収入済額につきましては、表の一番右の列、合計欄の一番下になります。

令和３年度の20億5400万円余に対し、上段の令和４年度20億7200万円余となり、昨年度を1800万円程度上回っている結果となっております。

次に（２）、督促状の発送状況ですが、一番右の合計欄のとおり、令和３年度の5833件に対し４年度は4491件であり、1342件の減という状況になっております。

続いて16ページ、資料４を御覧ください。

こちらは各介護サービス種別ごとの受給者数についてまとめた資料になります。

左側の表を御覧ください。

真ん中「計」という部分ですが、下段Ｒ３となっている部分は、令和３年度における年間の合計になります。

続いて上段Ｒ４となっている部分ですが、こちらは令和４年度の令和５年２月までの実績の合計となっております。

隣の列、月平均というところですが、こちらは月平均で見た場合の受給者数となりまして、概ね各サービスともに前年度より微増となっております。

また、一番下の受給者計の欄を御覧いただくと、同様に微増となっております。

なお、右側のグラフは、各月の受給者合計数をグラフ化したものになります。

続いて裏面17ページを御覧ください。

こちらは、介護サービスごとの給付状況についてまとめた資料となります。

資料の形式は先ほどの受給者数と同様となります。

左側の表の月平均という部分を御覧ください。

概ね各サービスの給付費とも横ばいとなっておりますが、令和３年度の制度改正により、一番下から一つ上の特定入所者介護サービス費のみ減となっております。

その影響によって、下の給付費計というところを御覧いただくと、前年度よりも、それに伴って減となっております。

右側のグラフは、同様に月別の給付費をグラフ化したものになります。

続いて、18 ページ、資料５を御覧ください。

こちらは、令和５年２月末までに受けた相談苦情をまとめたものになります。

左側の（１）月別受付件数というところの一番下、「計」という部分を御覧ください。

令和３年度の 15 件に対し、令和４年度は 31 件と増加傾向にあります。

内訳としましては、真ん中、（２）の１　分類という部分ですけれども、サービス提供、保険給付に関する内容が大半を占めております。

こちらの詳細については、右側（２－２）苦情内容というところですけれども、「管理者等の対応」が一番多く、「従事者の態度」、「サービスの質」と続いております。

続いて裏面 19 ページを御覧ください。

こちらは令和５年２月末までの事故発生時の報告状況になります。

左側の（１）月別届出件数を御覧ください。

令和４年度は、令和３年度に比べ、月によって偏りはありますが、ほぼ同数に近いペースで報告を受けております。

内訳については、真ん中の（２）分類別届出件数を御覧ください。

こちらは、１号の打撲、骨折等の怪我、また誤嚥等により医療を受けた場合による報告。

そしてその二つ下の３号の、新型コロナウイルス感染症を含めた感染症等の報告によるものがほとんどになります。

右側がその内訳の円グラフとなっております。

続いて 20 ページ、資料６を御覧ください。

こちらは、令和５年２月末までに市が把握している市内の介護サービス種別ごとの事業所数の一覧になります。

こちらの詳細については、後ほどお目通しください。

続いて、21 ページ資料７　地域密着型サービスの利用状況についてです。

こちらは、各地域密着型サービスの利用状況をまとめた資料になります。

左側の（１）が、認知症の方に手厚い対応のデイサービス「認知症対応型通所介護」の実績になります。

右側の（２）、こちらは 18 人以下の利用者を上限としたデイサービス「地域密着型通所介護」の実績となります。

こちらの地域密着型通所介護については、裏面 22 ページにも実績が続いております。

それぞれ圏域別に、第１・第２・第３地区に区切っておりまして、各事業所の欄に１日の平均利用者数を載せております。

事業所によって平均の上下は多少ありますが、概ね全て同数程度で推移をしております。

続きまして、23 ページを御覧ください。

（３）認知症対応型共同生活介護ですが、こちらはいわゆる「認知症対応型グループホーム」の３月１日時点の実績となります。

全体で 90 名の定員のところ、86 名の利用がありまして、充足率は 95.6％となっております。

最後に裏面、24 ページを御覧ください。

左側の（４）小規模多機能型居宅介護は、訪問と通所、宿泊を組み合わせて利用できる一体的なサービスとなります。

また、右側の（５）看護小規模多機能型居宅介護ですが、こちらは先述の小規模多機能型居宅介護に医療・看護機能が加わったものになります。

こちらも事業所により平均の上下がございますが、大きな変動等はございません。

介護保険実施状況についての説明は以上になります。

会　長　：ただいまの説明について、御質問、御意見がありましたらお願いいたします。

委　員　：12 ページ介護保険の実施状況について何点かお聞きします。

認定結果の平均日数について、令和３年度が 31 日、４年度が 35．３日ということで 4．３日遅くなったということですけれども、原因についてはどのような分析をされていらっしゃいますでしょうか。

事務局　：まず認定申請件数は新規も含めて基本的には増加傾向にあります。

新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う、いわゆる「コロナ特例」の取り扱いも、段階的に縮小して、通常の更新手続きをとられる方がかなり多く増えております。

そのため、認定調査の遅れや、認定審査会へかける件数も増加をしているというところで、認定結果通知を発送する期日が後ろ倒しになっているという状況があったというところです。

コロナ特例のことですが、要介護認定の申請をいただくと、通常は認定調査という訪問調査を受けていただき、その調査内容と、それから主治医意見書の内容に基づいて、審査会にて審査判定を行う形となりますが、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、国の通知にもとづき、認定調査を受けることが困難な場合に限り、この調査や主治医意見書を省略いたしまして、現在持っている認定の有効期間を 12 ヶ月まで延長できるという取り扱いがございました。

そしてこちらについては、例えば前回この特例を御利用された方は、原則として通常の更新手続きをとらせていただくというような取り扱いに、段階的に切り替えさせていただいたということもありまして、通常の更新手続きがかなり増えているというところがございます。

その様子になりますが、資料２の（２）申請件数等の月別集計の表の上から３番目、審査判定数のところを御覧ください。

審査判定数の一番右、月平均ですが、令和３年は月平均 313.8 件だったところ、令和４年度は 446.4 件と 130 件余り、月平均でも増えております。

こうした状況のため、認定結果通知の発送、通知の平均数が増加しているものと思われます。

委　員　：ただいま御説明いただいたとおり、コロナ特例の申請期間が終了したので、通常の更新申請になっているかと思います。

その中で、市内のケアマネジャーが利用者の要介護認定の進捗状況について市に確認した際、次のようなお話があったとのことです。

要介護認定の審査に必要な主治医意見書について、未だ対象の医療機関から市に回答が戻ってきていないものの、利用者（家族）から医療機関にこの主治医意見書を依頼してからまだ１ヶ月しか経っていないので、市から医療機関へ催促等の確認ができていませんと御対応いただいたとのことですが、その主治医意見書が市役所へ戻ってくるまでの期間を待つにあたり、依頼から何日経った段階で再依頼するなどといった決まりはあるのでしょうか。

事務局　：介護保険課での処理ですが、通常御申請いただいてから１ヶ月経っても、まだ主治医意見書が戻ってこない、いわゆる 30 日以内に認定決定できないというような状況になってしまった方については、医療機関の方に職員から電話連絡をして、進捗状況と催促をさせていただいているところです。

委　員　：基本的に、申請から 30 日ぐらいで認定が下りれば、利用者さんの不利益にはならないところと思います。

１ヶ月経ってもまだ医療機関から主治医意見書の戻りがないときに再度連絡をされるということですが、そこをもう少し早めていただくというのは難しいでしょうか。

事務局　御意見ありがとうございます。

こちらの方も事務体制を確認して見直しながら、もう少し早く催促の連絡や、確認事務処理を進めていけるように努力して参りますので、よろしくお願いします。

委　員　：続けて 16 ページ、受給者数の３・４年度のところで、４年度は今後も増加していくと思うのですが、要介護認定における認定調査員の確保というのは、現状足りている状況ですか。

そのあたりの状況を教えていただけたらと思います。

事務局　：市の認定調査員につきましては、会計年度任用職員として雇用させていただいて、現在 10 名になります。

申請件数の増加に伴い、調査員の不足が予想されますので、現在調査員の募集をかけさせていただいております。

委　員　：認定調査について、市内の認定調査を受託している居宅介護支援事業所等もあると思いますが、そういったところに現状を聞き取った際に、利用者が認定申請を行うタイミングは、更新申請であれば大体タイミングが同じなので、調査依頼を受けてから基本的に２週間以内に、市に調査結果を返却するといったところがあると思うんですけれども、この２週間という時間制限の中で、タイミングを同じくして多くの依頼が来るというこ

とを考えると、なかなか通常のケアマネ業務を行いながらこういった調査を行うというのは、業務的にかなり忙殺されているという御意見もありました。

現在認定調査員の募集もされていらっしゃるということですので、ぜひこういった事情も御理解いただいたうえで、調査員さんを増やしていただけたらと思います。

また、市内の居宅介護支援事業所には、市外の利用者の認定調査を行っているところも複数あると思いますので、そういった点でも、まずこの認定調査員の分母を増やさないと、市民にとっては不利益でしかありませんので、そういった市内の認定調査を行っている事業所にも調査への協力を依頼されてはと思いますので、御検討のほどよろしくお願いいたします。

事務局　：調査員の確保、それから調査委託先の確保については、今後も検討させていただいて、市民の方に不利益にならないような体制を構築していくよう努力してまいります。

委　員　：19ページの５番、事故発生時の報告状況について、令和３年・４年のところですが、令和３年の１月と２月の数が多く、他よりも目立って大きいので、御説明いただけますでしょうか。

事務局　：令和３年の１月・２月についてですが、こちらは３号の事故になります。

内訳としましては、１号に分類する骨折等の報告もございましたが、大半が新型コロナウイルス感染症の報告でございました。

委　員　：そうなりますと、この１月・２月を除きますと、令和３年よりも令和４年の方が事故発生件数も増えているように思います。

また、その前のページの４番の方の苦情処理も、令和４年の方が件数が増えていると思いますので、ここは今後精査しながら、状況の是正を図っていかなければならない点かと思います。

事務局　：御意見ありがとうございます。

相談苦情や事故報告については、内容を確認し、引き続き対応してまいります。

委　員　：15ページ資料３の介護保険料の徴収について、表の見方がよくわからないところがあるのですけれども、調定額と比較して合計の金額では全体としてやや低めになっているのですが、これが徴収上どのように関わってくるのか、あるいは問題点があるというふうにお考えなのか、またあるいはこれは例年通りで、順調な徴収が行われているというふうに見て良いのかどうか、お伺いしたく思います。

事務局　：徴収状況については、２月末現在ということでまだ４年度の確定値が出ていない状況でございます。

また、徴収の推移も、例年と特に変化はなく、４年度に突出した特徴は無かったものと捉えております。

委　員　：となると、３月まで含めると大体予定どおりの収納ができているというふうに考えてよろしいでしょうか。

事務局　：令和４年度の徴収につきましては、出納整理期間も含めて５月分までの収納が入りま

すので､今後の徴収も見込むと概ね例年どおりというようなことになるかと思われます。

委　員　：それから、表中の三角形は何を表しているものか、お教えいただけますでしょうか。

事務局　：こちらの三角形（マイナス）でございますけれども、収入に対して多額の還付がございまして、結果的に収納額の収入に対して還付の支出の方が大きく、マイナスが出ているという表現でございます。

委　員　：還付とはどのような還付を指しますか。

特別徴収ですので、年金から天引きをするというところから、何か会計処理上のものなのか、被保険者の方からの徴収額が多かったので還付するというのとは違うように見えまして、年金機構や何か会計上の関係ではないかとも思われますが、いかがでしょうか。

事務局　：この場では詳細は定かではないのですが、年金が２ヶ月に１回の支給となり、隔月でマイナスの金額が出てきているようです。

したがって、おそらく年金に関係しているのではと思われますが、この場では推測でしかないので、きちんと内容を確認させていただき、次回お答えさせていただければと思います。

委　員　：個々の被保険者の方の収納額を計算するという大変な作業をされていると思いますので、誤差が生じたところを調整されているのかなという感じもしたのですが、御確認いただければ幸いです。

委　員　：続いて、14 ページの認定者構成比についてです。

要介護度別の構成率で、要介護４と５が多く、特に要介護４が多いのですが、要介護４の方の状態像としては、経口摂取のできない寝たきりの方が多いと認識しているのですが、サービスの展開の仕方として、経口摂取維持の取り組みが、例えば全国の平均と比べて難しい状態にあるのか、そういうことを考えてしまうのですが、その辺については何かお考えはありますでしょうか。

会　長　：西多摩保健所が中心となってですね、摂食嚥下の取り組みというのはあるんですけれども、その点は歯科医さんとの関係もあるのですが、歯科医師会で何か御存知でいらっしゃいますでしょうか。

委　員　：特に青梅市で経口摂取について何かが悪いということを聞いたことはございません。

しかし、青梅市の場合は他地区から転入されてくる方が多いことから、そういった傾向の方も増えているのだろうとは思いますが、これを改善していくというのは、なかなか口腔だけの問題でない部分が多いので、意見としては難しいところでございます。

会　長　：まとめると、青梅市としての取り組みは、恐らくまだ無いのかもしれませんが、西多摩全体としては取組もあるというところだけ、御報告いたします。

では次に移らせていただきます。

青梅市地域包括支援センターの主な運営状況について、事務局から説明をお願いいたします。

事務局　：青梅市地域包括支援センターの主な運営状況について、資料８、25 ページを御覧ください。

まず地域包括支援センターですが、介護保険法で設置が定められている、高齢者の総合的な相談窓口で、青梅市は直営の地域包括支援センター、それから地域包括支援センターうめぞの、地域包括支援センターすえひろ、合わせて３ヶ所が設置されています。

地域包括支援センターでは、保健師、社会福祉士、主任介護支援専門員などの専門職が連携し、高齢者の様々な困りごとへの相談対応を始め、要支援１・２の方、また、介護予防が必要な方を早期に発見するための基本チェックリストによる事業対象者に対するケアプランの作成、高齢者の権利擁護支援、虐待の早期発見防止、地域のケアマネジャーの支援、介護予防、フレイル予防などを行っています。

資料８を御覧ください。

１の地域包括支援センター連絡会については、月に１回開催しており、３ヶ所の包括支援センターの合同での会議で情報共有や連携強化を図りました。

２の地域ケア会議は、医師、薬剤師、リハビリテーション専門職、地域の主任介護支援専門員などを構成員に加えて、事例検討会議を２ヶ月に１回開催しております。

介護予防、自立支援に重点を置き、記載の内容の事例で検討をいたしました。

３の総合相談支援業務は、高齢者の実態把握や認知症、介護サービス、家族に関することなど、高齢者の広い相談窓口としての取り組みです。

個々の地域包括支援センターによって、前年同時期に比べて増加、減少が見られますが、全体の件数としては前年度同時期に比べて増加しています。

４の権利擁護業務につきましては、虐待や成年後見支援拒否のケースなどへの対応です。

相談件数については、個々の地域包括支援センターによっては前年同時期に比べて増加減少が見られますが、全体の件数としては増加しています。

５の包括的継続的ケアマネジメント支援業務は、高齢者に対し、包括的かつ継続的なサービスが提供されるように、地域包括支援センターの主任介護支援専門員による、地域のケアマネジャーへの支援を行う業務です。

（１）ケアマネジャーからの相談件数、個別相談としては前年同時期より減少しています。

（２）勉強会等については、３ヶ所の地域包括支援センターの主任介護支援専門員が地域の主任介護支援専門員と連携し、市内のケアマネジャー支援の一環として、資料に記載の内容を行っています。

勉強会、意見交換会、また、７つのグループに分けた、毎月開催するケアプラン勉強会などによって、ケアマネジメントの過程を勉強したり、個別の相談、ケアマネジャーからの相談などに対応するものとなっております。

６の介護予防に係るケアマネジメント（１）は、２月時点で、各地域包括支援センタ

ーがそれぞれ担当する要支援者のケアプラン作成について、居宅介護支援事業所への委託事業者数、委託した件数、契約事業者数となっています。

（２）介護予防ケアマネジメント介護予防支援件数は、各地域包括支援センターのケアプラン作成数となっております。

26 ページを御覧ください。

７の任意事業（１）介護サービス相談員派遣等事業については、介護保険サービス利用者を対象に、施設や利用者宅を訪問し、サービス利用などについての話を聞き、相談に応じる相談員を派遣しています。

この期間の延べ派遣回数は、施設に 12 回、利用者宅に２回となっております。

（２）高齢者見守り支援事業は、令和５年２月からの新規事業です。

認知症などにより、行方不明になる恐れのある高齢者を介護する家族などへの支援事業として、高齢者の衣服や持ち物などに貼る二次元コード付きシールを交付するものです。

対象高齢者が行方不明になった際、発見者がシールのＱＲコードを読み取ると、あらかじめ登録してある家族などに瞬時に発見通知メールが届きます。発見者の個人情報は伝わりません。

ＱＲコード読み取りではなく、シールに記載のＩＤを市に伝えていくことといただくことで、台帳を確認して家族に連絡することも可能です。

８のその他（１）出張物忘れ相談会については、この期間、資料に記載の内容で開催いたしました。

（２）介護予防教室は、リハビリテーション専門職、管理栄養士などを講師に、講義やウォーキング指導、メール予防体操などを、この期間に延べ 10 回開催しました。

（３）趣旨普及および広報についてです。

これらはこの期間､広報おうめに掲載した高齢者関係の記事の一覧となっております。

地域包括支援センターの主な運営状況についての説明は以上です。

会　長　：ただいまの説明について、御質問、御意見等があればお願いします。

委　員　：25 ページ、２の地域ケア会議についてまず伺います。

今回１月に３事例行っていて、奇数月の開催で年間 18 例は行っており、既に 10 年来行ってると思うんですけれども、そこから見えてきた地域の課題といったものはどんなものがありますでしょうか。

事務局　：地域ケア会議の開催当初は、困難事例や地域で、ケアマネジャーがケアプラン更新の際などに、方針の検討を行うにあたっての事例なども含めて行ってまいりました。

そしてここ最近では、地域課題についての検討も取り入れております。

地域課題の抽出に向けた地域の強みなどについて、生活支援コーディネーターなどから提供される情報を地域ケア会議で共有させていただくといった状況になっております。

したがって、現時点で分析という段階まではまだ行っておりませんので、地域の状況

や地域課題について、どのように抽出を行っていくかというところに現在取り組んでいる段階でございます。

委　員　：今後これをどのように抽出していくかを検討されているというところですけれども、地域ケア会議というもの自体は、そこに参加した事例提供者だったりサービス関係機関だったり、オブザーバーの方たちがそこで話し合いを行っているといったところで、「地域ケア会議を開催した」という実績ではあるとは思うんですけれども、それを構成する検討材料が、周りには見えてこない部分があると思うんですね。

したがって、何が問題なのか分からなければ動けない部分もあるので、地域ケア会議のメンバーだけでなく、市内の主任ケアマネージャーであれば30人程度おりますので、そういったところも社会資源として巻き込んでいただきながら、一緒に地域の課題について学んでいくことができたらと思います。

特に主任ケアマネジャーには地域貢献が求められているところもございますので、どんどん主任ケアマネージャーを活用していただけたらと思います。

よろしくお願いいたします。

委　員　：続けて、同じ25ページ右下の介護予防ケアマネジメント支援件数のところで、直営地域包括と地域包括うめぞのの間で約２倍の件数の差があります。

当然地域によって、受給者数も違えばケアプラン作成者の人数も異なると思われますが、各地域包括支援センターでは、ケアプラン作成者担当１人当たりで何件担当されていらっしゃるんでしょうか。

事務局　：直営の地域包括支援センターでは、ケアマネージャーもおりますが、地域包括支援センター業務を含めて６名の職員が、専任あるいは兼任でケアプラン作成に携わっているところです。

委　員　：専任のケアプラン作成者としては、どのくらいの件数を担当されていらっしゃるんでしょうか。

事務局　：先に地域包括支援センターうめぞのとすえひろの順で報告させていただきます。

地域包括支援センターうめぞのでは、専任のケアプラン作成者は１人で、約50件ほど担当しています。

その他専門職については、職種ごとの割り当ては決めておりますが、現在は職員１人につき約20件程度担当しております。

次に、地域包括支援センターすえひろです。

こちらも同じく専任のケアプラン作成者は１名おります。担当件数も、約50件です。

それ以外の専門職に関しましては、１人につき15件程度を担当しております。

委　員　：居宅介護支援事業所のケアマネジャーが、大体１人当たり40件前後担当している中で、地域包括のケアプラン作成者は50件も担当されており、他の専門職の方々まで、通常業務の他に10件前後担当されているということを思うと、すごく大変だなと感じるところですが、それだけの件数を担当しなければならないのは、利用者の受け手となる

居宅介護支援事業所数が少ないからなのでしょうか。

何か課題のようなものがあれば、教えていただけますか。

事務局　：御指摘のとおり、地域包括支援センターの業務は多岐にわたっております。

本来であれば、厚生労働省もお示しの通り、地域包括支援センターの業務に専念できるよう、業務委託を行いましょうという流れになるかと思われます。

それに伴い、報酬についても委託連携加算等が新設されているところでございます。

地域包括支援センターとしても、できる限りセンター業務に専念をしたいところでございますが、ケアプラン作成を委託するケアマネジャーが、現在非常に少なくなっているというか、委託先となる居宅介護支援事業所のケアマネジャー自身も、自らが担当するケアプランの分でいっぱいいっぱいになっている状況なのだろうと推測しているところでございます。

したがって、本来であれば専任のケアプラン作成者が 50 件担当するというのは妥当な数であるのかなとは思いますけれども、それ以外の専門職に関しましては、業務上大変厳しいものがございます。

委　員　：続けて 26 ページの２番、高齢者見守り支援事業の二次元コード付きシールの件で伺います。

私もサービス事業者連絡会や、２月の広報おうめなどで確認させていただいたのですが、現在までに利用されている方はどのくらいいらっしゃいますか。

事務局　：現時点で 10 数名に交付しております。

委　員　：周知などはどのように行っていますか。

事務局　：周知につきましては、広報おうめ、それから居宅介護支援事業者連絡会、また見守り支援ネットワーク連絡会で行ってまいりました。

また、ホームページにも掲載をしておりますので、引き続き周知については継続、また拡大をしてまいりたいと思っております。

委　員　：現場レベルではまだまだ市民の方でこういったものを把握されていらっしゃらない方がいらっしゃいますので、ぜひ２層協議体等色々な場があると思いますので、どんどん広めていただけたらと思います。

また、このシールについては現在全国で広がっておりますが、簡単にスマホでその方を確認でき、個人情報をすぐに知れるというところはメリットであるとは思いますが、その点を逆に悪用されたケースというのはございますでしょうか。

青梅市ではまだ交付自体が 10 数件ということなので無いかもしれませんが、全国的に見てそういった事例というのはございますでしょうか。

事務局　：委託している事業所によれば、個人情報を介さず、伝言板でやりとりをする仕組みということですので、このような話は聞いておりません。

委　員　：最後に介護予防教室についてお聞きします。

介護予防教室は、介護予防リーダーが主体的に行って開催していると思いますが、介

護予防リーダーからなかなか施設の予約が取れなくて困っているというお話を伺っています。

市民の施設予約は３ヶ月前からであります。

介護予防リーダーも市民なので､同じように３ヶ月前に施設予約をされるわけですが、この介護予防リーダーについては、地域包括支援センターの業務の一環として、通常よりも早く予約が取れるなどの仕組みができないかと思うところではあります。

しかし、こういった各体育館や市民センターについては介護や高齢者支援の担当課ではなくて、市民活動推進課が担当部署になるので、この場でするお話ではないのかなと思うところもありますが、現場レベルで教室の場所を押さえることができないという声が上がっていたので、この場でお伝えしておきたく思います。

委　員　：ただいまお話にありました介護予防リーダーの講習について、私実際に受けさせていただいたのですが、出席された皆さんの意見を活かしていきたいと思っております。

先ほどの教室の件もそうですし、現在は個人情報への配慮もありますから、近所に住んでいて、そういう体操教室に来てくれる人がどれぐらいいるのかという情報の把握や周知に関して、現在はやはり個人的なレベルに頼っている状態であると思います。

26 ページの介護予防教室のところで、リハビリテーション専門職などを講師としてやった事例が出ておりますが､具体的にこういう市民センターの体育館で開催したときに、介護予防リーダー講習会に出席されたリーダーを呼んで､その後も続くようにするとか、何か行政の方で繋げられるような取り組みなどは考えていらっしゃいますか。

事務局　：まず、介護予防リーダーによる通いの場というのは、少し分かりにくいところではありますが、介護予防教室とは異なるものになります。

介護予防教室は、一般介護予防事業として市が行っている事業になります。

こちらにつきましては､仰るようにリハビリテーション等専門職の講師を招きまして、開催させていただいております。

その中で、これは 12 月からということになっておりますが、東青梅市民センターの体育館で行いましたのはウォーキング教室で、全３回のコースでございました。

その際にも、最後にやはり参加者の皆さんでグループになって、その後も活動しませんかというお声がありました。

あとはフレイル予防の事業の方で、２月に全３日間の教室を開催いたしましたが、そちらでもやはり、介護予防リーダーの活動グループなども御紹介いたしまして、ぜひこのグループにも始めてみませんかというような形だったり、介護予防だより等の冊子だったりで介護予防リーダーの周知をさせていただきました。

確かに周知が難しいところもあるかと思われますが、介護予防リーダーによる通いの場については、今後とも周知を続けてまいります。

会　長　：それでは次の報告事項に移ります。

地域包括支援センター事業運営業務委託事業所の公募スケジュールについて、事務局

から説明をお願いします。

事務局　：27 ページ、資料９を御覧ください。

こちらは、青梅市地域包括支援センター事業運営業務委託事業者の公募スケジュールについての資料となっております。

まず､直営地域包括支援センターの委託化の経緯について御説明させていただきます。

令和４年度第２回介護保険運営委員会におきまして、日常生活圏域および地域包括支援センター運営体制の見直しについて諮問をさせていただき、委員の皆様に御協議をいただきました。

協議の結果、令和５年１月 30 日の第５回運営委員会におきまして、日常生活圏域につきましては、現状の３圏域とすること。

地域包括支援センター運営体制につきましては、３圏域全ての地区で土曜日の開設を実施するため、第１地区の市直営地域包括支援センターを委託化するものとし、また、第２・第３地区は圏域が広大であるため、各地域において身近な相談場所が必要であることから、支援体制を充実させる観点において、それぞれ１ヶ所ずつ支所を設置するものとして答申をいただきました。

今回お示しした資料は、第１地区の市直営地域包括支援センターの委託化に向けた委託事業者の公募スケジュールとなります。

こちらのスケジュールに沿いまして、５月から６月にかけて、選定委員会において書類審査やプレゼンテーション審査を行い、７月上旬に委託候補事業者を選定し、令和５年７月 21 日の第２回介護保険運営委員会におきまして、改めて委員の皆様に、諮問をさせていただく予定としております。

青梅市地域包括支援センター事業運営業務委託事業者の公募スケジュールについての説明は以上となります。

会　長　：ただいまの説明について、御質問、御意見がございましたらお願いいたします。

委　員　：現在、青梅市で公募している中で手を挙げている事業所はどのくらいでしょうか。

事務局　：現在公募の受付期間中であり、選定前のため、回答は差し控えさせていただきます。

委　員　：あと支所の場所についてはまだ公表されていないと思うのですが、もう決まっているのでしょうか。

事務局　：支所の内容については、令和４年度の運営委員会でお示しした内容の通りでございます。

現時点で決まっていることとして、第２地区は河辺駅から、第３地区は大門地区内のバス停から徒歩圏内であるという点となっております。

会　長　：他に無いようなので、次の報告事項に移ります。

地域福祉計画および地域共生社会推進会議について､事務局から説明をお願いします。

事務局　：28 ページの資料 10 を御覧ください。

１、国の動向等でありますが、地域福祉計画は、平成 30 年の社会福祉法の改正によ

り、地域における高齢者、障害者、児童その他の福祉の上位計画として位置づけられることになりました。

さらに国は、高齢者、障害者、児童など全ての人々が地域、暮らし、生きがいを共につくる地域共生社会を実現するため、令和２年に社会福祉法を改正し、令和３年度から重層的支援体制整備事業を進めることとしております。

この流れを受け、２、市の取り組みでありますが、令和３年度に重層的支援体制整備事業移行準備自治体として申請し、地域共生社会の実現に向けて、地域福祉の各施策をさらに推進することといたしました。

また、事業実施に向けて、庁内関係各課が連携して協議を進めるため、昨年度に青梅市重層的支援体制整備事業移行準備庁内検討会を設置し、10回にわたる協議を重ねてまいりました。

庁内検討会が取りまとめた中間報告書の主な内容は、３に記載のとおりとなります。

一つ目が、（１）地域福祉計画の合本化であります。

社会福祉法の趣旨により、地域福祉の推進のため、地域福祉計画と他の福祉に係る計画を一体的な計画として策定することが求められていることから、第５期地域福祉計画は、他の福祉計画と合本して策定することとしております。

合本する計画は、「第９期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画」のほか、「第７期障害福祉計画、第３期障害児計画、第６期障害者計画」、新たに策定します「重層的支援体制整備事業実施計画」および「成年後見制度利用促進基本計画」であります。

二つ目が（２）地域共生社会推進会議の設置であります。

今年度策定する第５期地域福祉計画に当たっては、地域共生社会の実現を図るため、さらなる市民参画や専門的な知見等が必要不可欠であり、地域住民とともに計画を策定し、事業を推進することが求められていることから、市民や学識経験者等を委員とする、地域共生社会推進会議を設置することとしております。

三つ目としまして、（３）重層的支援体制整備事業に向けた市の実施体制でありますが、庁内に青梅市包括的支援体制整備等庁内検討委員会を設置しようとするものであります。

この庁内検討委員会につきましては、（４）今後の取り組みにありますとおり、従来の各計画を検討する委員会を統合するものであり、会議での御意見などをもとに、具体的な計画の策定について検討をしていこうというものであります。

以上３項目が中間報告書の主な内容であります。

この報告書に基づき、第９期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画のほか、５計画を第５期地域福祉計画に一本化しようとするものであります。

また、地域共生社会推進会議においては、地域福祉計画の策定について議論する会議体となりますが、高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画は、地域福祉計画の個別計画の位置づけとなり、介護保険運営委員会で協議を進めていただくこととなります。

地域福祉計画の基本的な理念や基本目標など、関係してくるところがありますので、

情報共有を深めながら進めていく必要があろうかと思います。

非常にタイトな策定スケジュールになりますが、御協力のほどよろしくお願いいたします。

説明は以上となります。

会　長　：ただいまの説明について、御質問、御意見等がありましたらお願いします。

委　員　：重層的支援体制整備事業実施計画については、地域福祉コーディネーターが中心となって地域のネットワーク作りを行っていくものであると思いますが、この地域福祉コーディネーターと別に、高齢者の第２層協議体というところでは、生活支援コーディネーターが中心となって地域のネットワーク作りを行っているところです。

ここについて特にお話がなく、地域福祉コーディネーターと生活支援コーディネーターの関わりがよくわからなかったので、お伺いします。

事務局　：御指摘のとおり、高齢者部門については、いわゆる第２層協議会を中心に地域作りの体制を敷いていただいているところでございます。

重層的支援体制整備事業における地域福祉コーディネーター、いわゆるコミュニティソーシャルワーカーですが、これは地域のあらゆる包括的な相談に対応し、地域作りをしていく､また困難事例に対し支援プランをもとに協働していく事業となっております。

青梅市はこの事業を進めるために、令和５年度、社会福祉協議会に委託しておりますけれども、３人の配置を進めておりまして、関係各圏域に１人ずつということで配置しまして、生活支援コーディネーターとともに、地域作りも含めて対応していくという方針で現在進めているところでございます。

会　長　：他に無いようなので、次の報告事項に移ります。

第９期青梅市高齢者保健福祉計画・青梅市介護保険事業計画の策定スケジュールについて、事務局から説明をお願いいたします。

事務局　：30 ページ、資料 11 を御覧ください。

こちらは今年度、高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の策定に当たり、委員会や調査について概ねの予定を記載させていただいたものです。

色がついている部分については、先ほど説明いたしました、上位計画である地域福祉計画に関係する部分になります。

まず一番上、地域共生社会推進会議ですが、地域福祉計画における会議体となりまして、現時点で年４回程度を見込んでおります。

続いてその下、こちらは介護保険運営委員会になります。今年度は５回を想定しております。

さらにその下、介護保険事業計画策定部会についてですが、こちらは介護保険運営委員会の各選出区分から２名程度選出いただき、合計８名で介護保険事業計画の内容、素案等について協議をしていただく部会となります。

協議いただいた内容については随時、運営委員会へ報告を行ってまいります。

こちらの部会については、次回７月の運営委員会で委員選出を予定しております。

なお、それぞれ予定している会議の日程を示しておりますが、隣に矢印があるものについては、それぞれの協議内容を、必要に応じて各会議体へ報告するものになります。

例えば、計画策定部会の第１回を８月 24 日に予定しておりますが、協議内容を第３回の介護保険運営委員会で報告するといった流れになっております。

続いて下の策定作業スケジュールですが、総論の作成から始まり、個別計画の整理、素案確定、パブリックコメントの実施といった流れになっております。

こちらは現時点での予定となりますので、今後の地域共生社会推進会議、地域福祉計画等の進捗状況次第で、時期等が変更になる場合がございます。

続いてその下、計画検討委員会ですけれども、こちらは計画に関係する庁内の関係部署で構成される委員会になりまして、地域福祉計画を中心に行い、介護保険事業計画の部分については、介護部会という形で進めてまいります。

内容につきましては、計画策定に必要な事項の調査、実施状況の検証等を行いまして、介護部会については、下の段、令和４年度進捗状況調査、さらにその下、第８期計画総括調査、続いて下から２段目の第９期計画事業調査等がございます。

続いて第８期計画総括調査の下、介護予防・日常生活圏域ニーズ調査、その下の在宅介護実態調査、さらにその下の事業所調査、こちらの３調査につきましては、令和４年度に実施した、計画策定の基礎資料とするための調査となります。

現在集計分析を進めておりまして、後ほど中間報告として報告をさせていただきます。

説明は以上です。

会　長　：ただいまの説明について、御質問、御意見等がありましたらお願いいたします。

＜質問無し＞

会　長　：次の報告事項に移ります。

第９期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画策定に係る調査結果についての中間報告です。

事務局から説明をお願いします。

事務局　：本日差し替えとして机上配付させていただきました、資料 12 を御覧ください。

こちらは第９期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画策定に係る調査結果について、中間報告の資料となります。

先ほどの計画スケジュールについての部分でも御説明させていただきました、介護予防・日常生活圏域ニーズ調査、在宅介護実態調査、介護サービス事業所調査の３つの調査の内容につきまして、令和４年度第３回介護保険運営委員会で、お認めをいただきまして、令和４年 10 月から令和５年２月の間にこれらの調査を実施いたしました。

この調査は、第９期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画策定に当たり、介護保険も含めた高齢者福祉施策のより一層の充実を図るため、御意見御要望などをお伺いするために実施した調査となっております。

まず一つ目、介護予防・日常生活圏域ニーズ調査について、こちらは施設入所者および要介護認定の要介護１から５までの被保険者を除く市内在住の 65 歳以上の高齢者のうち、3200 人を対象に、家族や生活状況、体を動かすこと、食べることなど、合計 18 項目について市民のニーズを調査するものとなっております。

調査方法は、郵送による配布回収を行いまして、回収数につきましては、前回３年前に調査を実施したときとほぼ同数となっており、今回の回収率は 80.5%となっております。

二つ目は、在宅介護実態調査です。

この調査は、要介護認定を受けている方で、更新申請・区分変更申請で認定調査を受けた在宅の方を対象に実施いたしました。

調査方法は、認定調査で訪問した際にアンケートを配布し、郵送にて回収を行いました。

配布数は 773 件で、419 件の回収がありました。回収率は 54.2%でした。

なお、前回の調査では、要介護認定における訪問調査とは別に、調査対象者の御自宅等を訪問して聞き取りにより実施しましたが､新型コロナウイルス感染症の拡大により、訪問ができなくなり、回収件数が 139 件に留まっております。

今回は、認定調査で訪問した際にアンケートを配布し、郵送にて回収する方法を採りましたので、回収件数が大幅に増えております。

三つ目は、介護サービス事業所調査です。

この調査は、市内の介護サービス事業者を対象とした、職員体制やサービスの現状、第９期介護保険事業計画に向けての意向等を調査するものとなります。

今回から、電子申請システムを主とした調査方法で実施しました。

回収の状況ですが、前回と比べ、若干の減はありましたが、ほぼ同数の回収率となっております。

続きまして、それぞれの調査内容について各担当より御報告いたします。

現時点でお示しできるのは、単純集計の結果のみとなりますので、今回は本調査の中間報告とさせていただきます。

分析結果につきましては、現在クロス集計等による分析を進めておりまして、次回７月の運営委員会で最終報告をさせていただきます。

それでは、まず介護予防・日常生活圏域ニーズ調査について、御説明をさせていただきます。

調査項目につきましては、資料 12 の左下の調査項目の部分を御覧ください。

調査項目として、「１　家族や生活状況」から「８　認知症に係る相談窓口の把握」までは、国から示されている統一の設問となっております。

そして、「９　介護サービスと住まいの意向」から「17　フレイル」までについては、青梅市独自の設問となっております。

この中で、今回新たに追加した項目がありました。

それは「12　介護ボランティア制度」と「14　移動支援」の項目になります。

介護ボランティア制度の設問については、ボランティアの担い手として活動してみたいかどうかの設問に加えまして、介護ボランティアの受け手側の視点で、ボランティアによるサービスを利用してみたいかどうか、また、やってもらいたい具体的な活動についての説明を入れることで、より深くボランティアに対する市民のニーズを把握できるようにしました。

また、移動支援につきましては、移動支援が必要な場面や移動支援を必要とする理由、地域で支え合うための移動支援で必要だと思うものを設問に入れることで、今後の支援施策のための課題が把握できるような内容といたしました。

それでは資料12別紙、第９期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画策定基礎調査を御覧いただければと思います。

資料12の別紙ですが、先ほど御説明しました３つの調査の集計結果となっておりまして、ニーズ調査の集計内容は、１ページから32ページまでの内容となっております。

こちらにつきまして、１ページ目右側の「１　前提」というところで、調査対象者の詳細について記載をしておりまして、先ほどの資料12の調査項目番号と比べて、一つずつ項目番号が後ろにずれていっておりますが、内容に相違はございませんので、御了承ください。

また、先ほども申し上げましたが、今後各設問ごとに性別、年齢、地区、家族構成などでクロス集計を行いまして、青梅市の課題について分析を進めていきます。

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の御説明については以上となります。

続きまして、在宅介護実態調査の説明をさせていただきます。

調査項目につきましては、資料12の真ん中の列の下段に示させていただいておりますが、概ね基本的には国から示された統一の設問となっておりますが、一部青梅市独自の設問を加えさせていただいております。

そちらについては、資料12別紙の33ページからを御覧ください。

33ページから41ページまでが在宅介護実態調査の集計となっております。

先ほども説明がありましたように、中間報告においては、単純集計となっております。

このうち、38ページ右の（15）介護サービスを利用しながら在宅生活を続けるために必要なサービスについては、あなたは介護を受けながら自宅で自分らしく暮らしていくためにはどのようなサービスが必要と思われるかについて問うものです。

39ページの左（16）介護サービス料の支払い方法では、あなたは介護サービスの料金を支払うとき、次のどの方法が望ましいと思いますかということで、ひと月の利用回数に応じて料金を支払う方法が良いのか、ひと月あたりのサービス費用が決まっており、何回利用しても同じ料金を支払う方がよろしいのか、その二つの設問を独自の設問としております。

現在、国から配布された集計分析ツールを利用して、要介護度や認知症高齢者の日常生活自立度ごとに分析を進めております。７月の委員会の際には、最終的な報告ができると思われます。

在宅介護実態調査については、以上となります。

続いて、介護サービス事業所調査について御説明いたします。

31 ページの資料 12 ですが、ここで一点訂正がございます。

調査項目の欄に１から 10 とありますけれども、その５番目、「第８期計画に～」というところですが、こちらは「第９期計画」の誤りです。訂正させていただきます。

こちらの調査は国の基準等はなく、全て市の独自設問となっております。

今回から、３つの調査項目を追加いたしました。

調査項目欄の８から 10 の部分になりますが、現在のサービスでは生活の維持が難しい利用者の実態を把握し、不足する介護サービスの検討をする「在宅生活改善調査」。

過去１年間の有料老人ホーム等の退去理由などを把握することで、住み慣れた住まい等で暮らし続けるために必要な機能等を検討する「居所変更実態調査」。

介護人材の実態を把握し、確保に向けて必要な取り組みを検討する「介護人材実態調査」と、この３つの調査項目を追加しております。

続いて集計結果ですが、資料 12 別紙の 42 ページ以降が集計結果でございます。

先ほどの説明と重複いたしますが、現時点では単純集計のみの結果となっておりますので、参考までに御覧いただければと思います。

なお今後、前回調査との比較や、サービス種別ごとの回答傾向等を含めて、クロス集計による分析を進めていきます。

次回の運営委員会で結果を報告する予定です。

説明は以上です。

会　長　：ただいまの説明について、御質問、御意見等がありましたらお願いいたします。

委　員　：今の御説明の中で、31 ページ③介護サービス事業所調査の回収率が 91.2％ということで、事業所からの有効な回答数を期待するには、100％でないというのは問題ではないかと思います。

何か特別な理由があって、残り 13 事業者の方が回答できていないのか、お伺いしたいと思います。

事務局　：こちらの回収数ですが、事業所の皆様には、メール等でリマインドを複数回お願いしておりましたが、最終的な回収結果としては、134 事業所に御提出いただいたというところでございます。

委　員　：市としては 100％にならないとおかしいと考えるのか、90％以上の回答があるので、非常によく回答していただいたかなというふうに考えるのか、どちらですか。

事務局　：市といたしましては、次期計画に反映するため、回収率 100％を目指していたところではありますが、電話やメールで複数回催促させていただいた結果、事業所の運営等の

事情によりまして、一部の事業所からは御回答いただけず、最終的な回答数となったというのが現状になります。

委　員　：なかなかペナルティを課すというのは難しいかもしれませんが、どこかで回答いただけてない事業所を公表するとか、ニーズ調査等とは趣旨が違うような気もしますので、ぜひその辺のことを未回収の事業者さんにもう一度申し上げていただいて、100％の回収をぜひ目指していただきたいという風に考えるところです。

会　長　：他にございますでしょうか。

委　員　：非常に詳細な調査で素晴らしいなと思って伺っておりました。

その中で、介護職員の人手不足というのはやはり深刻な問題かと思いますので、この調査の、特に介護従事者の不足状況の点について、どのようなことがわかったのか、簡単に教えていただけますでしょうか。

事務局　：今回は、単純集計の結果でしかお示しできていないところです。

今後のクロス集計によって、御質問いただいた人材不足の件に関連してどのサービス種別が足りていないのか、定着率がどのように変わっていっているのかなどについて分析を進めていきたいと思います。

委　員　：資料 12 別紙 59 ページを見ると、特に現場の介護職員の方が不足しているというふうになっていて、かなりここは関心が高くなっているのかなという感じがいたしますけれども、実際のところこの点については深刻であるというふうに考えて良いのかどうか、このデータは本当は我々委員の方で分析評価するべきものだとは思いますけれども、現時点ではいかがでしょうか。

事務局　：介護人材不足というのは全国的な社会問題でして、青梅市に限ったものではないというふうに把握をしております。

介護職員が不足している事業所が大半であるというデータもありますので、今後部会等でも御意見をいただきまして、課題解決に向けて市として何ができるのかというところを分析してまいりたいと考えております。

委　員　：今の質問に関連するものですが、青梅市の人口推計が絶望的な状況になっているというのは御存知だと思いますが、将来的に、特に 10 年 15 年先の人材不足というのは、手の打ちようが無い状態になってしまっているのではないかという気がしておりますが、現状こういった調査の活用方針のようなものはございますか。

事務局　：ただ今お話がありました課題につきましては、従来第８期計画以前から、市として課題と捉えているところです。

今後の９期計画策定に当たっては、そういった課題についても、皆さまの御意見を頂戴しながら、協議を進めていただければと思います。

委　員　：今後、高齢化が進んで人口が減っていく中では、地域資源をいかにして有効活用していくかということが課題であり、なおかつ 2025 年問題が目前に来ていることを考えると、おそらくこの運営委員会で議論することと、先ほど御説明があった地域福祉計画と

の調整も少し検討しなければいけないのかなという印象がありますけれども、つまり、介護保険の制度だけで議論できないところがここで出てくるのではないかと考えるところであります。

そう考えると、地域共生社会推進会議という会議体を作って検討をされるというのは、なかなか時代に即しているのではないかという印象を受けました。

会　長　：他に無いようでしたら次の報告事項に移ります。

介護保険事務のデジタル化の取り組みについて、事務局から説明をお願いします。

事務局　：32 ページの資料 13 を御覧ください。

介護保険のデジタル化の取り組みについて御説明申し上げます。

１の介護サービス計画等の作成に係る認定関係資料の情報提供の電子申請についてです。こちらは令和４年４月１日から開始をさせていただいております。

ケアマネジャーの方がケアプランを作成するために必要な認定関係資料の開示の手続きについて、電子申請による手続きが可能となっております。

電子申請による手続きの場合、窓口でお待ちいただく時間が短縮されますので、関係機関への周知も進めてまいります。事業所の皆様におかれましては、積極的な御利用をお願いいたします。

続きまして、２のマイナポータルぴったりサービスでの介護保険関係のオンライン申請開始についてです。こちらは令和５年５月８日に開始をさせていただく予定です。

介護保険関係の一部手続きがパソコンやスマートフォンから行えるようになります。

申請可能となる手続きは、２（２）アからサまでの 11 個の手続きとなります。

続きまして、３の介護認定審査会のデジタル化についてになります。

認定申請件数の増加により、介護認定審査会委員の負担の軽減と事務の効率化を図るため、従来紙で運用しておりました介護認定審査会の資料を、タブレット上で閲覧やメモ書きすることができるシステムを、令和５年３月から導入しております。

続きまして、４の「書かない窓口システム」についてでございます。

こちらは転居などの住民記録関係の異動に関する手続きですが、その手続き書類について、市民課からのお客様からの聞き取りにより、職員が異動届け出書の作成を支援する、「書かない窓口システム」を令和５年２月６日から開始しております。

市民課からのデータ連携により、介護保険課だけでなく、障害者や子供の手続きでも一部申請書が自動作成され、住所等を何度も書く必要がなくなりました。

介護保険事務のデジタル化の取り組みについては以上となります。

会　長　：ただいまの説明につきまして、御質問、御意見等がありましたらお願いいたします。

委　員　：デジタル化ということで、今月から始まった「ケアプランデータ連携システム」について、通所介護連絡会と通所リハ連絡会において、現在どこが導入しているのか確認しているところです。

このシステムについては、通所介護の方で導入したとしても、ケアマネジャーの事業

所が導入していないと連携が取れないという状況になっており、把握がとても難しくなっていくと思うのですが、市で開催される居宅介護事業者連絡会の方で、導入している事業所の把握について御協力いただければと思っております。

以上です。

会　長　：他に無いようでしたら次の議題に入ります。

議題（２）協議事項、定期巡回随時対応型訪問介護看護事業の一部変更について、事務局から説明をお願いします。

事務局　：34 ページ、資料 14 を御覧ください。

令和４年度において、定期巡回随時対応型訪問介護看護の公募を実施し、事業所を選定いたしました。

こちらの結果を介護保険運営委員会でお認めいただいたところです。

ここで、令和５年３月、選定された法人から、開設予定地を変更したい旨の依頼がございました。

同月、市が法人から聞き取りを行ったところ、理由といたしましては、資料 14 の記載のとおり、①物価高騰の影響により、新たに建築を計画していた費用が増額したことにより、建築そのものが難しくなったというところが主な理由となります。

変更後の予定地については、現在運営中である同法人の事業所内になりまして、事業所の一部を改築し、運営を行う予定となります。

今回は､こちらの事業所の開設予定地の変更について御審議いただくものになります。

なお、今後の開設までのスケジュールとしましては、裏面 35 ページになります。

こちらは、法人から提出された現時点での予定となります。

また、こちらには特段記載はございませんが、東京都で７月に行われる第１回の補助協議を踏まえて、第８期介護保険事業計画期間内である令和５年度中に開設を行っていただきます。

説明は以上です。

会　長　：ただいまの説明について、御質問、御意見等がありましたらお願いします。

会　長　：令和５年度内の開設ということで、スケジュールでは、事業開始は令和６年３月 31 日となっておりますけれども、この時期の変更で、スケジュールどおりに開始できると考えてよろしいでしょうか。

事務局　：こちらのスケジュールについては、予定としては資料のとおり日程が出ておりますが、建設から改修工事に切り替わりましたので、工期完了時期はこれよりも早まるだろうという旨、法人から口頭で報告をいただいております。

また、繰り返しにはなりますが、改修にかかる補助金については、補助が決定されないと工事ができないものになりますので、７月の第１回の補助協議に向けて法人と調整を図ってまいります。

会　長　：他に無いようでしたら、こちらは協議事項となりますので、賛成する方の挙手を求め

ます。

＜全員賛成＞

会　長　：全員賛成と認めましたので、承認といたします。

次に、次第の４その他　でございます。

その他、委員の方から何かございますでしょうか。

委　員　：本運営委員会の委員選出についてお聞きします。

前年度まで出席されていた、老人保健福祉施設代表の委員は、専門的な知識が豊富で、本委員会でも活発に意見をされていたかと思うのですが、今年度はなぜ、市民にとっても重要な会議であるこの運営委員会に出席されていないのでしょうか。

事務局　：まず、委員は２年任期で改選となり、その選出団体等についても、固定ではなく都度見直しを行っています。

令和４年度第５回の運営委員会でも御意見をいただきましたとおり、今回の選出団体等についても見直しを図りました。

自治会業務の負担軽減の観点から、新たに共生推進会議の委員となる自治体代表をなくしたことのほか、今後の地域包括ケアの推進等を考えたうえで、在宅サービスの関係者を増やすなど、構成を一部変えております。

また、学識経験者である大学教授を委員にお迎えしたのも、専門的な見地から御意見をいただきたいというところから構成を変更した次第であります。

委　員　：運営委員会当初から老人保健福祉施設の代表枠があった中で、今後もいらっしゃった方がより意見が活発になるのではという思いもありますが、事務局と会長の協議も行ったうえでのことかと思いますので、理解しました。

会　長　：それでは事務局から何かございますか。

事務局　：事務局からいくつか御連絡をさせていただきます。

まず一点目でございます。

今年度は計画策定年度になりますので、先ほどお話がありましたとおり、計画策定部会の設置を予定してございます。

部会員の選出につきましては、次回７月にあります第２回の運営委員会で行う予定となってございます。

また、次回の運営委員会から、現委員のほかに、専門的見地から臨時委員の参加も予定してございます。

次に二点目でございます。

今回補足する資料としてつけさせていただいた、日程の一覧表ですが、今後、国の政策や共生社会推進会議等の動向により、日程の変更が生じる可能性がございます。

変更が生じた場合につきましては、改めて御説明をさせていただきます。

本日の議事録につきましては、作成後、確認の依頼をさせていただきますので、御確認のほどよろしくお願いいたします。

次回の運営委員会でございますが、7月21日金曜日の13時30分から予定してございます。

事務局からは以上でございます。

会　長　：本日は、長時間に渡り、熱心に御討議いただきありがとうございました。これで終了させていただきたいと思います。

事務局では、本日の論議を踏まえまして、整理をよろしくお願いいたします。

それでは、これにて散会といたします。御苦労様でした。

資料6

イ　介護保険の実施状況について

１　要介護認定について

(1) 要介護度別認定者数の推移（令和５年４月３０日現在）

要介護・要支援等認定者数（青梅市）		4月		
		人数		
要支援1	R5	923	14.3%	
	R4	878	13.6%	
	増減	45	0.7%	
要支援2	R5	787	12.2%	
	R4	811	12.5%	
	増減	▲ 24	▲0.3%	
要介護1	R5	1,239	19.2%	
	R4	1,171	18.1%	
	増減	68	1.1%	
要介護2	R5	929	14.4%	
	R4	960	14.8%	
	増減	▲ 31	▲0.4%	
要介護3	R5	863	13.4%	
	R4	873	13.5%	
	増減	▲ 10	▲0.1%	
要介護4	R5	1,009	15.6%	
	R4	1,055	16.3%	
	増減	▲ 46	▲0.7%	
要介護5	R5	709	11.0%	
	R4	721	11.1%	
	増減	▲ 12	▲0.1%	
青梅市　計	R5	6,459	100%	
	R4	6,469	100%	
	増減	▲ 10	―	
認定率※1 実績	R5	16.2%		←前年同月比0．1ポイントの減
	R4	16.3%		
認定率※1 計画値※2	R5	17.6%		
	R4	17.0%		

(2) 申請件数等の月別集計（令和５年４月３０日現在）

			4月	合計※	月平均
申請件数（件）	R5	新規	165	165	165.0
		更新	311	311	311.0
		変更	93	93	93.0
		計	569	569	569.0
	R4	新規	172	1,976	164.7
		更新	441	4,435	369.6
		変更	78	892	74.3
		計	691	7,303	608.6
認定調査数（件）	R5		564	564	564.0
	R4		496	5,697	474.8
審査判定数（件）	R5		519	519	519.0
	R4		462	5,509	459.1
変更率（%）	R5		11.9%	―	―
	R4		10.0%	―	―
認定結果通知平均日数（日）	R5		42.6	42.6	―
	R4		35.1	35.7	―

※合計は、令和５年度は令和５年４月３０日末現在、令和４年度は年度計

コロナ特例（コロナウイルス感染防止の観点から、訪問調査を受けることが困難な場合に、要介護度の有効期間を12か月延長する取扱い）終了のため、認定調査数および審査判定数は前年同月と比べて増加、認定結果通知平均日数は30日を大きく上回る状況です。

※１　認定率＝認定者数（１号認定者数＋２号認定者数）／第１号被保険者数（令和５年４月３０日現在39,929人）

※２　認定率の計画値は、第８期介護保険事業計画における推計値（各年度とも９月末時点）

(3) 審査判定内訳（件）（令和５年４月３０日現在）

	4月	合計	構成比	構成比順
非該当	12	12	2.3%	⑧
要支援１	66	66	12.7%	⑥
要支援２	48	48	9.2%	⑦
要介護１	106	106	20.4%	①
要介護２	72	72	13.9%	③
要介護３	70	70	13.5%	④
要介護４	75	75	14.5%	②
要介護５	70	70	13.5%	④
計	519	519	100.0%	－

(4) 第1号被保険者における認定率（令和５年２月２８日現在）

第1号被保険者数			2月 人数	構成比	認定率
全国	R4	合計	35,837,202	100.0%	19.0%
		前期（65～74歳）	16,430,983	45.8%	4.3%
		後期（75歳以上）	19,406,219	54.2%	31.3%
	R3	合計	35,894,422	100.0%	18.8%
		前期（65～74歳）	17,219,392	48.0%	4.4%
		後期（75歳以上）	18,675,030	52.0%	32.2%
東京都	R4	合計	3,149,858	100.0%	20.2%
		前期（65～74歳）	1,393,411	44.2%	4.7%
		後期（75歳以上）	1,756,447	55.8%	32.4%
	R3	合計	3,155,344	100.0%	19.9%
		前期（65～74歳）	1,464,161	46.4%	4.8%
		後期（75歳以上）	1,691,183	53.6%	33.0%
青梅市	R4	合計	39,837	100.0%	15.6%
		前期（65～74歳）	19,039	47.8%	4.0%
		後期（75歳以上）	20,798	52.2%	26.3%
	R3	合計	39,601	100.0%	15.8%
		前期（65～74歳）	19,963	50.4%	4.2%
		後期（75歳以上）	19,638	49.6%	27.5%

※ここでの認定率は、第2号被保険者の認定者数を含まずに計算しています。
青梅市の合計は15.6%で、前年同月比（15.8%）0.2%減少しています。
全国（19.0%）および東京都（20.2%）から、それぞれ3.4、4.6ポイント下回っています。

(5) 認定者構成比（令和５年２月２８日現在）

介護度		２月		
		構成比		
		青梅市	国	都
要支援1	R4	14.3%	14.1%	15.3%
	R3	13.7%	14.2%	15.3%
要支援２	R4	12.5%	13.8%	12.7%
	R3	12.3%	13.8%	12.7%
要介護１	R4	18.8%	20.7%	20.9%
	R3	17.9%	20.7%	20.8%
要介護２	R4	14.7%	16.9%	16.4%
	R3	15.1%	16.9%	16.4%
要介護３	R4	13.2%	13.3%	13.0%
	R3	13.9%	13.3%	12.9%
要介護４	R4	15.6%	12.7%	12.8%
	R3	16.5%	12.6%	12.8%
要介護５	R4	11.0%	8.5%	9.0%
	R3	10.6%	8.5%	9.0%
認定率※	R4	16.0%	19.5%	20.6%
	R3	16.2%	19.2%	20.4%

※国と東京都の資料は2月28日現在が最新であるため、市も同時点のデータで記載しています。
ここでの認定率は2号被保険者も含みます。
分析としては、青梅市は国や都と比べて要介護4や5の比率が高い状況です。

イ 介護保険の実施状況について

資料7

2 介護保険料について

(1) 令和4年度介護保険料の賦課収納状況(4月末日現在)

(単位:千円)

区分			予算額	調定額(4月末日現在)	月別収入済額(月末値・抜粋) 4月	7月	10月	1月	4月	合計(4～翌4月)
現年度分	特別徴収	R4	2,249,010	2,232,604	0	376,324	△ 5,672	372,940	△ 1,755	2,235,323
		R3	2,221,758	2,193,315	0	354,917	△ 6,276	367,687	△ 1,648	2,194,630
	普通徴収	R4	210,664	243,047	0	25,460	24,180	22,071	5,552	227,137
		R3	197,783	256,129	728	25,668	25,819	24,764	4,466	244,369
	計	R4	2,459,674	2,475,651	0	401,784	18,509	395,011	3,797	2,462,460
		R3	2,419,541	2,449,443	728	380,584	19,543	392,451	2,818	2,438,999
滞納繰越分	普通徴収	R4	5,612	22,098	397	847	320	360	0	5,799
		R3	5,788	21,729	224	833	517	188	0	5,749
合 計	特別徴収	R4	2,249,010	2,232,604	0	376,324	△ 5,672	372,940	△ 1,755	2,235,323
		R3	2,221,758	2,193,315	0	354,917	△ 6,276	367,687	△ 1,648	2,194,630
	普通徴収	R4	216,276	265,144	397	26,307	24,500	22,432	5,552	232,937
		R3	203,571	277,858	952	26,501	26,337	24,953	4,466	250,118
	計	R4	2,465,286	2,497,748	397	402,631	18,829	395,371	3,797	2,468,259
		R3	2,425,329	2,471,173	952	381,417	20,060	392,639	2,818	2,444,747

※ 普通徴収は7月から第1期の納期がはじまるため、4月、5月、6月分は前年度相当分。ただし、財務会計上は当該年度の調定として処理します。賦課決定が新年度(4月以降)であるためです。対象となる者 ⇒ 3月以前に転入した者(所得調査を行ったのちに賦課決定します。)や遅れて税の申告をした者

※ 特別徴収(年金特徴)が市の収入となるのは奇数月のみですが、還付金については毎月処理しているため、奇数月はプラス、偶数月はマイナスとなります。還付金が発生する理由 ⇒ 課税更生のため過納となり還付が発生します。

(単位:千円)

区分			予算額	調定額(4月末日現在)	月別収入済額(月末値・抜粋) 4月	7月	10月	1月	4月	合計(4～翌4月)
延滞金	普通徴収	R4	200	19	0	2	0	0	0	22
		R3	200	114	2	0	4	0	0	117

(2) 督促状の発送状況(4月末日現在・抜粋)

(単位:件)

区分	-	-	3期	6期	随時	合計(1期～随時)
R4	-	-	646	625	31	5,186
R3	-	-	774	685	30	5,833

資料８

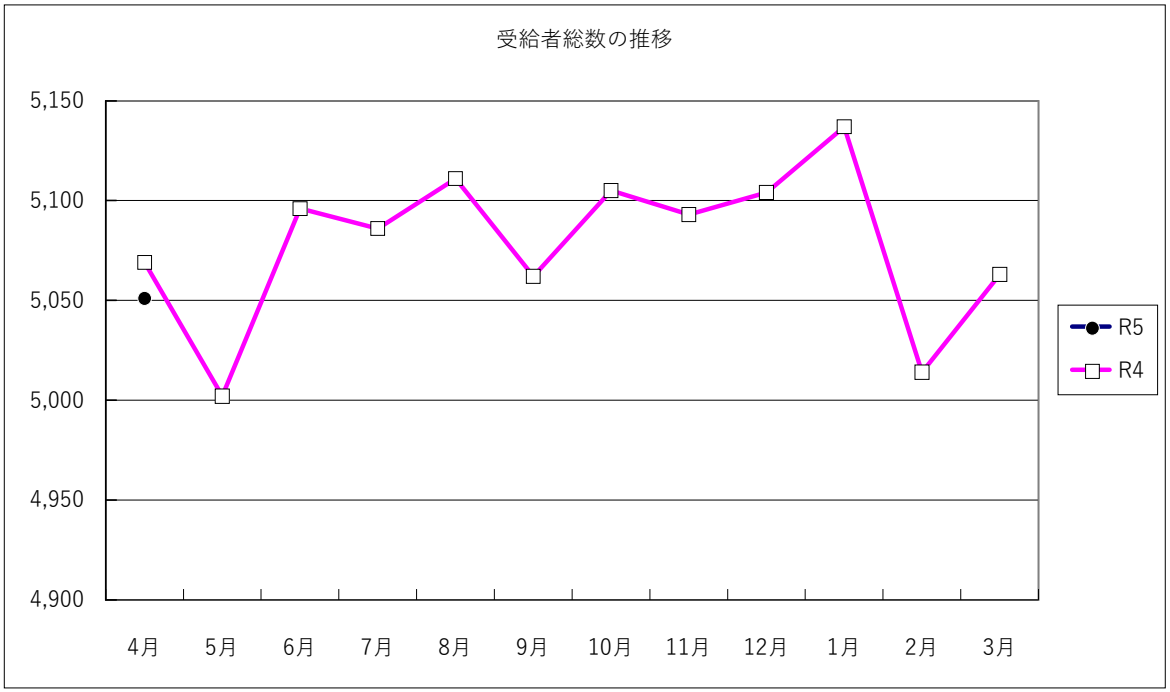
イ　介護保険の実施状況について

３　受給者数および給付費の状況について

(1)　受給者数　　（単位：人）

区　　分		4月	（※）計	月平均
居宅介護サービス受給者	R5	3,145	3,145	3,145
	R4	3,150	34,898	3,168
地域密着型サービス受給者	R5	541	541	541
	R4	539	6,022	546
施設サービス受給者	R5	1,365	1,365	1,365
	R4	1,380	14,959	1,365
介護老人福祉施設	R5	980	980	980
	R4	966	10,710	973
介護老人保健施設	R5	346	346	346
	R4	363	3,732	346
介護療養型医療施設	R5	16	16	16
	R4	30	226	20
介護医療院	R5	33	33	33
	R4	29	367	33
受給者　計	R5	5,051	5,051	5,051
	R4	5,069	55,879	5,079

※　Ｒ５については４月のみ、Ｒ４については４～３月までの合計を記載



前年同月比で受給者数は減少しています。主に介護療養型医療施設受給者数が減少しています。

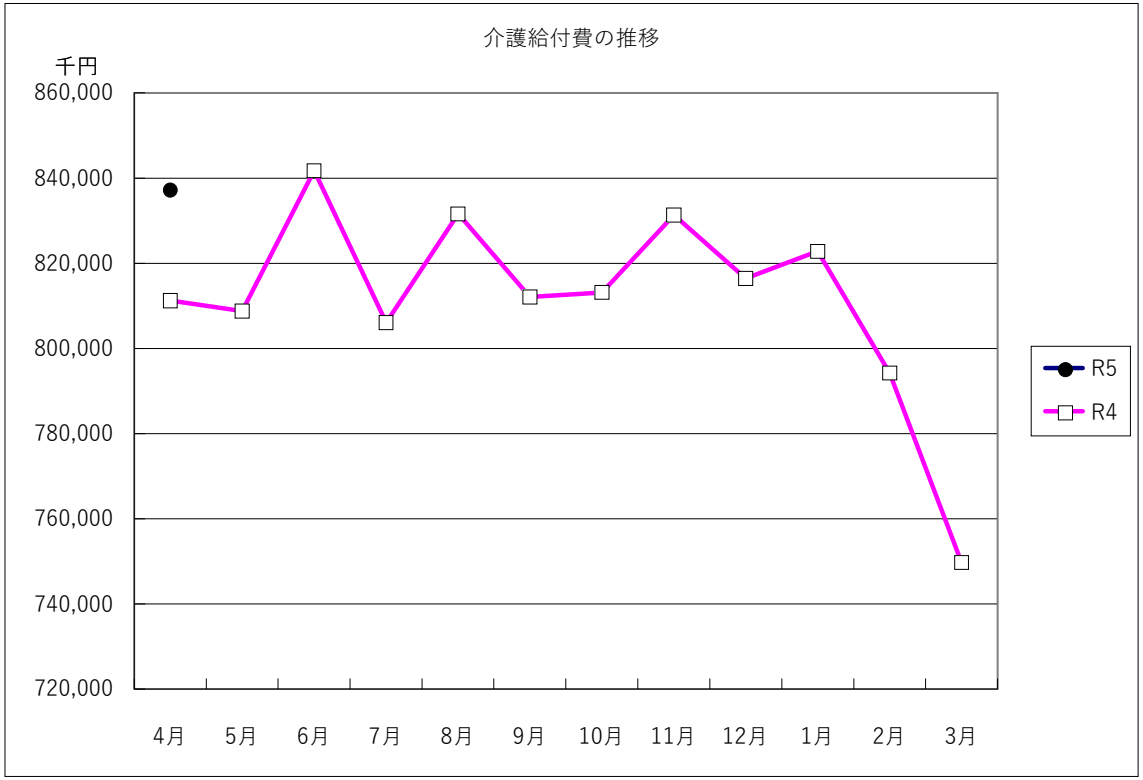
(2)　給付状況

（単位：円）

区　　分		4月	（※）計	月平均
居宅介護サービス費	R5	264,288,315	3,171,459,780	264,288,315
	R4	246,710,116	2,998,812,280	249,901,023
地域密着型サービス費	R5	74,589,192	895,070,304	74,589,192
	R4	75,456,391	889,551,917	74,129,326
施設介護サービス費	R5	406,244,226	4,874,930,712	406,244,226
	R4	400,681,978	4,713,430,477	392,785,873
福祉用具購入費	R5	2,134,872	25,618,464	2,134,872
	R4	2,193,448	13,345,435	1,112,120
住宅改修費	R5	4,142,498	49,709,976	4,142,498
	R4	2,613,696	35,286,010	2,940,501
サービス計画給付費	R5	40,393,868	484,726,416	40,393,868
	R4	40,525,662	488,186,629	40,682,219
審査支払手数料	R5	687,425	8,249,100	687,425
	R4	681,254	8,256,927	688,077
高額介護サービス費	R5	20,155,771	241,869,252	20,155,771
	R4	18,674,086	278,595,017	23,216,251
高額医療合算介護サービス費	R5	59,624	59,624	59,624
	R4	62,023	33,740,206	2,811,684
特定入所者介護サービス費	R5	24,501,014	294,012,168	24,501,014
	R4	23,622,479	280,058,249	23,338,187
給付費　計	R5	837,196,805	837,196,805	837,196,805
	R4	811,221,133	9,739,263,147	811,605,262

※　Ｒ５については４月実績計×１２で計上しています。

ただし､高額医療合算介護サービス費については４月実績計としています。



前年同月比で、受給者数は減少していますが、各サービスにおける給付費は増加していることから、１人当たり給付費は増加していることが分かります。
これは、１人当たりで１日に利用するサービスの量や種類について、より増加・重度化していることを意味しています。

イ 介護保険の実施状況について
４ 相談苦情受理状況（令和4年4月～令和5年4月）

資料９

(1) 月別受付件数 （件）

月	R4	R5	都全体(R3)
04月	2	9	220
05月	3		201
06月	5		289
07月	4		383
08月	3		567
09月	1		205
10月	5		200
11月	4		248
12月	3		227
01月	0		217
02月	1		219
03月	5		237
計	36	9	3,213

(2-1) 分類 （件）

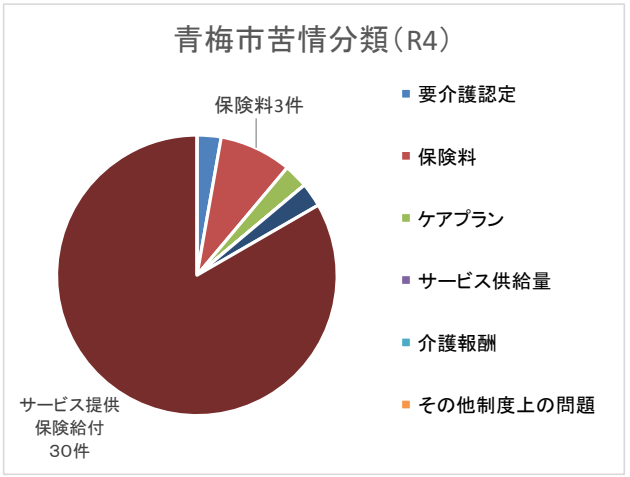
	R4	R5	都全体(R3)
要介護認定	1	4	69
保険料	3	0	728
ケアプラン	1	0	40
サービス供給量	0	0	4
介護報酬	0	0	21
その他制度上の問題	0	0	43
行政の対応	1	2	81
サービス提供、保険給付※	30	3	1,899
その他	0	0	328
計	36	9	3,213

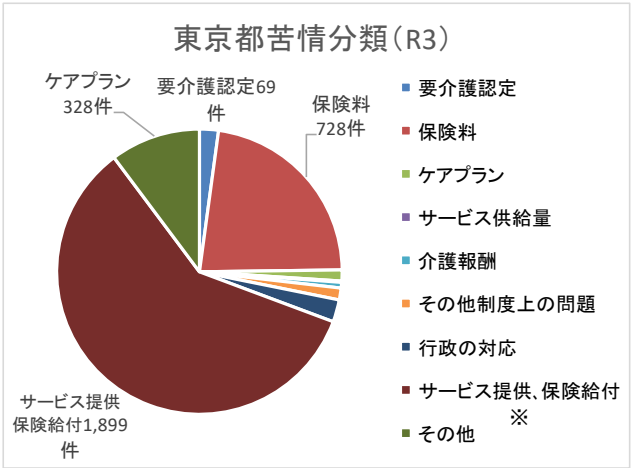
(2-2) 苦情内容 （件）

	R4	R5	都全体(R3)
サービスの質	5	0	514
従事者の態度	9	3	314
管理者等の対応	11	0	217
説明・情報の不足	3	0	363
具体的な被害・損害	0	0	168
利用者負担	0	0	49
契約・手続関係	0	0	128
その他	2	0	146
計	30	3	1,899

※2の分類がサービス提供、保険給付の場合の苦情内容

R4年度の苦情は36件でした。
課題としては、口頭受理に上がった対処困難な事例等のみを件数としてカウントしていたため、実際の苦情より件数が少なく計上されていることでした。
R5年度の主な苦情は要介護認定、次いでサービス提供、保険給付となっており、その内訳としては、介護サービス事業所の従事者の態度に対するものが全てを占めておりました。
令和4年度と比較して増加してきている





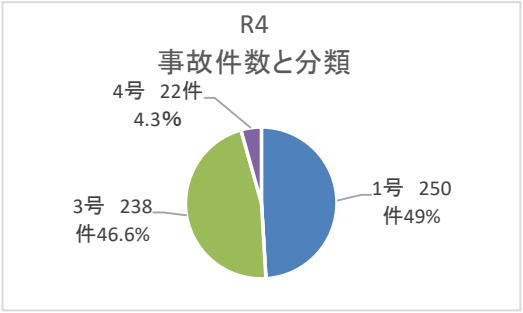
５　事故発生時の報告状況

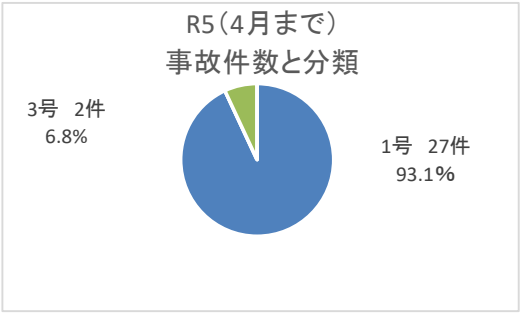
(1) 月別届出件数　　（件）

	R4	R5
04月	43	29
05月	34	0
06月	25	0
07月	31	0
08月	69	0
09月	48	0
10月	36	0
11月	55	0
12月	57	0
01月	54	0
02月	39	0
03月	19	0
計	510	29

(2) 分類別届出件数　　（件）

分類	R4	R5
１　号	250	27
２　号	0	0
３　号	238	2
４　号	22	0
計	510	29





＊ 分 類 ＊

【1号】
介護サービス利用者に対する介護サービスの提供により発生した死亡または重傷等の入院加療等を必要とする事故
①ケガ等で医療機関で入院や治療を受けたもの
②誤飲が原因等で医療機関で入院や治療を受けたもの
③利用者等のトラブルで医療機関で入院や治療を受けたもの

【2号】
利用者に対する介護サービスの提供に伴う業務遂行により発生し、請求された損害賠償にかかる事故

【3号】
食中毒、感染症等（結核、疥癬）で法令により保健所等へ通報が義務付けられている事由の事故

【4号】
その他市長が必要と認める事故
①従業員の法令違反
②不祥事等利用者の処遇に影響があるもの
③震災、風水害、火災等これに類する災害

R4年度は新型コロナウイルスの影響で分類3号が事故報告の約半数を占めています。
(参考：R3年度　分類3号　246件　全件554件）

R5年度4月時点では分類3号の事故報告は2件と減少傾向であり、1号の事故報告が大半を占めています。

イ　介護保険の実施状況について

６　市内介護サービス事業所数　　令和５年４月３０日現在

(1) 介護サービス　（ ）内は、令和５年２月２８日現在

居宅介護支援事業所が１か所新規設立となりました。

その他のサービスについては増減はありません。

区分 / サービス種別		
居宅介護支援（ケアプラン作成）	３３	（ ３２）
居宅サービス	９８	（ ９８）
訪問介護	１６	（ １６）
訪問入浴介護	３	（ ３）
訪問看護	１６	（ １６）
訪問リハビリテーション	６	（ ６）
通所介護	１６	（ １６）
通所リハビリテーション	４	（ ４）
短期入所生活介護	２４	（ ２４）
短期入所療養介護	３	（ ３）
特定施設入居者生活介護	２	（ ２）
福祉用具貸与	４	（ ４）
特定福祉用具販売	４	（ ４）
施設サービス	３０	（ ３０）
介護老人福祉施設	２４	（ ２４）
介護老人保健施設	３	（ ３）
介護療養型医療施設	２	（ ２）
介護医療院	１	（ １）
地域密着型サービス	２８	（ ２８）
地域密着型通所介護	１４	（ １４）
認知症対応型通所介護	４	（ ４）
小規模多機能型居宅介護	２	（ ２）
看護小規模多機能型居宅介護	１	（ １）
認知症対応型共同生活介護	７	（ ７）

(2) 予防サービス　（ ）内は、令和５年２月２８日現在

区分 / サービス種別		
介護予防支援（ケアプラン作成）	３	（ ３）
介護予防居宅サービス	６５	（ ６５）
介護予防訪問入浴介護	３	（ ３）
介護予防訪問看護	１６	（ １６）
介護予防訪問リハビリテーション	６	（ ６）
介護予防通所リハビリテーション	４	（ ４）
介護予防短期入所生活介護	２３	（ ２３）
介護予防短期入所療養介護	３	（ ３）
介護予防特定施設入居者生活介護	２	（ ２）
介護予防福祉用具貸与	４	（ ４）
特定介護予防福祉用具販売	４	（ ４）
地域密着型介護予防サービス	１３	（ １３）
介護予防認知症対応型通所介護	４	（ ４）
介護予防小規模多機能型居宅介護	２	（ ２）
介護予防認知症対応型共同生活介護	７	（ ７）

(3) 介護予防・生活支援サービス

（ ）内は、令和５年２月２８日現在

区分 / サービス種別		
介護予防・生活支援サービス	６１	（６１）
介護予防通所介護相当の通所型サービス	２８	（２８）
軽度者向けの通所型サービス	１１	（１１）
介護予防訪問介護相当の訪問型サービス	１０	（１０）
家事支援に特化した訪問型サービス	１０	（１０）
研修修了者による訪問型サービス	２	（ ２）

資料１１

イ　介護保険の実施状況について

７　地域密着型サービスの利用状況について

※　Ｒ４の計については４～３月までの実績を記載

(1) 認知症対応型通所介護

圏　域	事　業　所　名		定員		04月	計
第１地区	東青梅デイサービスセンター	R5	１日	営業日数	25日	25日
				延利用者	234人	234人
				電話連絡・訪問対応者	0人	0人
			12人	１日平均	9.4人	9.4人
	す　ず　ら　ん	R4	１日	営業日数	26日	308日
				延利用者	259人	3,034人
				電話連絡・訪問対応者	0人	0人
			12人	１日平均	10.0人	9.9人
第２地区	河辺デイサービスセンター	R5		営業日数	25日	25日
			１日	延利用者	265人	265人
				電話連絡・訪問対応者	0人	0人
			12人	１日平均	10.6人	10.6人
	わ　か　く　さ	R4		営業日数	26日	309日
			１日	延利用者	272人	3,212人
				電話連絡・訪問対応者	0人	0人
			12人	１日平均	10.5人	10.4人
	デイサービスセンター	R5		営業日数	20日	20日
			１日	延利用者	189人	189人
				電話連絡・訪問対応者	0人	0人
			12人	１日平均	9.5人	9.5人
	リバーパレス青梅	R4		営業日数	21日	257日
			１日	延利用者	196人	2,597人
				電話連絡・訪問対応者	0人	0人
			12人	１日平均	9.3人	10.1人
第３地区	木野下デイサービスセンター	R5		営業日数	25日	25日
			１日	延利用者	173人	173人
				電話連絡・訪問対応者	0人	0人
			10人	１日平均	6.9人	6.9人
		R4		営業日数	26日	310日
			１日	延利用者	195人	2,416人
				電話連絡・訪問対応者	0人	0人
			10人	１日平均	7.5人	7.8人

(2) 地域密着型通所介護

圏　域	事　業　所　名		定員		04月	計
第１地区	東青梅デイサービスセンター	R5	１日	営業日数	25日	25日
				延利用者	354人	354人
				電話連絡・訪問対応者	0人	0人
			18人	１日平均	14.2人	14.2人
		R4	１日	営業日数	26日	310日
				延利用者	336人	4,144人
				電話連絡・訪問対応者	0人	7人
			18人	１日平均	12.9人	13.4人
	デイサービス のぞみ	R5	１日	営業日数	25日	25日
				延利用者	71人	71人
				電話連絡・訪問対応者	0人	0人
			10人	１日平均	2.8人	2.8人
		R4	１日	営業日数	26日	306日
				延利用者	143人	1,203人
				電話連絡・訪問対応者	0人	0人
			10人	１日平均	5.5人	3.9人
	カラダラボとまりぎ青梅駅前	R5	１日	営業日数	20日	20日
				延利用者	262人	262人
				電話連絡・訪問対応者	0人	0人
			10人	１日平均	13.1人	13.1人
		R4	１日	営業日数	21日	258日
				延利用者	198人	2,901人
				電話連絡・訪問対応者	0人	0人
			10人	１日平均	9.4人	11.2人
	第１地区計	R5	１日	延利用者	687人	687人
			38人	１日平均	9.8人	9.8人
				電話連絡・訪問対応者	0人	0人
		R4	１日	延利用者	677人	8,248人
			38人	１日平均	9.3人	9.4人
				電話連絡・訪問対応者	0.0人	7.0人

第1地区　前年同月比で、延べ利用者数が1.5%増加しています。

第２地区

事業所名		定員		04月	計
デイサービスセンター たんぽぽ	R5	1日	営業日数	20日	20日
			延利用者	172人	172人
			電話連絡・訪問対応者	0人	0人
		10人	1日平均	8.6人	8.6人
	R4	1日	営業日数	20日	251日
			延利用者	149人	1,980人
			電話連絡・訪問対応者	0人	0人
		10人	1日平均	7.5人	7.9人
デイサービス ぬくもり	R5	1日	営業日数	25日	25日
			延利用者	172人	172人
			電話連絡・訪問対応者	0人	0人
		10人	1日平均	6.9人	6.9人
	R4	1日	営業日数	26日	305日
			延利用者	221人	2,301人
			電話連絡・訪問対応者	0人	0人
		10人	1日平均	8.5人	7.5人
リハビリデイサービス 足軽	R5	1日 午前10人 午後10人	営業日数	24日	24日
			延利用者	348人	348人
			電話連絡・訪問対応者	0人	0人
			1日平均	14.5人	14.5人
	R4	1日 午前10人 午後10人	営業日数	25日	288日
			延利用者	325人	3,760人
			電話連絡・訪問対応者	0人	0人
			1日平均	13.0人	13.1人
デイサービスセンター CLUB RIVER	R5	1日	営業日数	20日	20日
			延利用者	216人	216人
			電話連絡・訪問対応者	0人	0人
		15人	1日平均	10.8人	10.8人
	R4	1日	営業日数	21日	258日
			延利用者	251人	2,909人
			電話連絡・訪問対応者	0人	0人
		15人	1日平均	12.0人	11.3人
二俣尾幸廻堂	R5	1日	営業日数	25日	25日
			延利用者	219人	219人
			電話連絡・訪問対応者	3人	3人
		10人	1日平均	8.8人	8.8人
	R4	1日	営業日数	26日	309日
			延利用者	218人	2,547人
			電話連絡・訪問対応者	3人	30人
		10人	1日平均	8.4人	8.2人

事業所名		定員		04月	計
デイサービスセンター シエロ 青梅	R5	1日	営業日数	25日	25日
			延利用者	192人	192人
			電話連絡・訪問対応者	0人	0人
		10人	1日平均	7.7人	7.7人
	R4	1日	営業日数	26日	308日
			延利用者	206人	2,458人
			電話連絡・訪問対応者	0人	0人
		10人	1日平均	7.9人	8.0人
デイサービスセンター ほたる	R5	1日 午前10人 午後10人	営業日数	20日	20日
			延利用者	273人	273人
			電話連絡・訪問対応者	0人	0人
			1日平均	13.7人	13.7人
	R4	1日 午前10人 午後10人	営業日数	20日	232日
			延利用者	251人	3,034人
			電話連絡・訪問対応者	0人	0人
			1日平均	12.6人	13.1人
第２地区計	R5	1日 95人	延利用者	1,592人	1,592人
			1日平均	10.0人	10.0人
			電話連絡・訪問対応者	3.0人	3.0人
	R4	1日 95人	延利用者	1,621人	18,989人
			1日平均	9.9人	9.7人
			電話連絡・訪問対応者	3.0人	30.0人

第2地区　前年同月比で延べ利用者数が1.8%減少しています。
一方で、1日平均の利用者数は1.01%増加しています。

第３地区

事業所名		定員		04月	計
デイサービス やぎさん家	R5	1日	営業日数	25日	25日
			延利用者	194人	194人
			電話連絡・訪問対応者	0人	0人
		15人	1日平均	7.8人	7.8人
	R4	1日	営業日数	26日	308日
			延利用者	176人	2,207人
			電話連絡・訪問対応者	0人	0人
		15人	1日平均	6.8人	7.2人
トータル・ライフ・ヘア・サポート 華暖	R5	1日	営業日数	20日	20日
			延利用者	192人	192人
			電話連絡・訪問対応者	0人	0人
		14人	1日平均	9.6人	9.6人
	R4	1日	営業日数	26日	263日
			延利用者	271人	2,873人
			電話連絡・訪問対応者	0人	0人
		14人	1日平均	10.4人	10.9人
デイサービス さくら	R5	1日 午前10人 午後10人	営業日数	20日	20日
			延利用者	191人	191人
			電話連絡・訪問対応者	0人	0人
			1日平均	9.6人	9.6人
	R4	1日 午前10人 午後10人	営業日数	20日	241日
			延利用者	197人	2,373人
			電話連絡・訪問対応者	0人	0人
			1日平均	9.9人	9.8人
デイサービスセンター きぼうの里	R5	1日	営業日数	25日	25日
			延利用者	232人	232人
			電話連絡・訪問対応者	0人	0人
		10人	1日平均	9.3人	9.3人
	R4	1日	営業日数	26日	313日
			延利用者	196人	2,615人
			電話連絡・訪問対応者	0人	51人
		10人	1日平均	7.5人	8.4人
第３地区計	R5	1日 59人	延利用者	809人	809人
			1日平均	9.0人	9.0人
			電話連絡・訪問対応者	0.0人	0.0人
	R4	1日 59人	延利用者	840人	10,068人
			1日平均	8.6人	8.9人
			電話連絡・訪問対応者	0.0人	51.0人

第3地区　前年同月比で延べ利用者数が3.7%減少しています。

(3) 認知症対応型共同生活介護

R5.4.30現在

圏　域	事 業 所 名	定　員		利用者内訳（保険者）			利用者内訳（要介護度）						
		定員数	充足率	青梅市	他	計	要支援２	要介護１	要介護２	要介護３	要介護４	要介護５	計
第１地区	グループホームひだまりの家	9人	88.9%	8人	0人	8人	0人	1人	2人	3人	2人	0人	8人
	グループホームみんなんち	9人	100.0%	9人	0人	9人	0人	3人	4人	2人	0人	0人	9人
第２地区	グループホームはぴねす若草	18人	88.9%	16人	0人	16人	0人	2人	3人	6人	5人	0人	16人
	グループホームみんなんち第2	9人	100.0%	9人	0人	9人	0人	2人	2人	3人	2人	0人	9人
	グループホームともだ	18人	100.0%	17人	1人	18人	0人	3人	6人	6人	3人	0人	18人
第３地区	グループホームはぴねす新田山	9人	77.8%	7人	0人	7人	0人	2人	1人	3人	1人	0人	7人
	地域ケアサポート館　福わ家 グループホーム	18人	100.0%	18人	0人	18人	0人	2人	4人	8人	2人	2人	18人
合　　計		90人	94.4%	84人	1人	85人	0人	15人	22人	31人	15人	2人	85人

前年同月比で定員充足率に大きな変化はありません。
また、要介護度別利用者内訳は、重度認定者（要介護3以上）が全体利用者の60.5%から56.5%まで減少しています。

(4) 小規模多機能型居宅介護

圏域	事業所名							04月	月平均
第１地区	多機能ケアホーム みんなんち	R5	定員（基準）			営業日数		30日	－
			登録定員　29人			登録者数		22人	22人
			利用者数	通所	定員／日 15人	延利用者		353人	353人
						１日平均		11.8人	11.8人
				訪問	基準なし	延利用者		579人	579人
						１日平均		19.3人	19.3人
				宿泊	定員／日 9人	延利用者		72人	72人
						１日平均		2.4人	2.4人
		R4	定員（基準）			営業日数		30日	－
			登録定員　29人			登録者数		19人	22人
			利用者数	通所	定員／日 15人	延利用者		282人	404人
						１日平均		9.4人	13.3人
				訪問	基準なし	延利用者		426人	543人
						１日平均		14.2人	17.9人
				宿泊	定員／日 9人	延利用者		92人	112人
						１日平均		3.1人	3.8人
第３地区	地域ケアサポート館 福わ家	R5	定員（基準）			営業日数		30日	－
			登録定員　29人			登録者数		29人	29人
			利用者数	通所	定員／日 18人	延利用者		321人	321人
						１日平均		10.7人	10.7人
				訪問	基準なし	延利用者		563人	563人
						１日平均		18.8人	18.8人
				宿泊	定員／日 5人	延利用者		26人	26人
						１日平均		0.9人	0.9人
		R4	定員（基準）			営業日数		30日	－
			登録定員　29人			登録者数		29人	28人
			利用者数	通所	定員／日 18人	延利用者		361人	313人
						１日平均		12.0人	10.3人
				訪問	基準なし	延利用者		575人	573人
						１日平均		19.2人	18.9人
				宿泊	定員／日 5人	延利用者		30人	23人
						１日平均		1.0人	0.7人

(5) 看護小規模多機能型居宅介護

圏域	事業所名						04月	月平均
第２地区	青梅複合型 ケアサービスセンター	R5	定員（基準）			営業日数	30日	－
			登録定員　29人			登録者数	22人	22人
			利用者数	通所	定員／日 15人	延利用者	316人	316人
						１日平均	10.5人	10.5人
				訪問介護	基準なし	延利用者	348人	348人
						１日平均	11.6人	11.6人
				訪問看護	基準なし	延利用者	23人	23人
						１日平均	0.8人	0.8人
				宿泊	定員／日 9人	延利用者	137人	137人
						１日平均	4.6人	4.6人
		R4	定員（基準）			営業日数	30日	－
			登録定員　29人			登録者数	21人	19人
			利用者数	通所	定員／日 15人	延利用者	396人	325人
						１日平均	13.2人	10.7人
				訪問介護	基準なし	延利用者	242人	302人
						１日平均	8.1人	9.9人
				訪問看護	基準なし	延利用者	65人	78人
						１日平均	2.2人	2.6人
				宿泊	定員／日 9人	延利用者	182人	136人
						１日平均	6.1人	4.5人

第１地区　前年同月比で訪問利用者数が40.0%増加しています。
第２地区　前年同月比で訪問利用者数が43.8%増加しています。
第３地区　前年同月比で訪問利用者数が2.1%減少しています。

資料１２

青梅市地域包括支援センターの主な運営状況について

1　青梅市地域包括支援センター連絡会

回	開催日	内　容
168	３月８日（水）	・出張もの忘れ相談会について ・介護予防教室について　ほか
169	４月 12 日（水）	・地域ケア会議について ・対応困難等、事例の共有について ほか

2　地域ケア会議

開催日	内　容
３月 24 日（金）	３事例検討 ・不定愁訴によりサービスが利用できない方への対応について ・利用者本人の体にあった新しくチャレンジできる活動 ・地域での活動や行事がコロナウィルスの影響にて減少した為、活動量や意欲低下に繋がっているケースについて

3　総合相談支援業務　（延べ件数）

区　分	相　談　件　数	
	R５年３月～R５年４月	R４年３月～R４年４月
地域包括支援センター（市）	595	551
地域包括支援センターうめぞの	684	626
地域包括支援センターすえひろ	319	248
計	1,598	1,425

※令和５年４月 30 日現在　第１号被保険者数　39,929 人
（要支援１・２　1,710 人、事業対象者　62 人）

4　権利擁護業務　（延べ件数）

区　分	相　談　件　数	
	R５年３月～R５年４月	R４年３月～R４年４月
地域包括支援センター（市）	17	21
地域包括支援センターうめぞの	32	3
地域包括支援センターすえひろ	43	155
計	92	179

・成年後見制度の利用や申立てに関する相談等：28 件（３包括計）

5　包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

(1) 相談件数　（延べ件数）

区　分	相　談　件　数	
	R５年３月～R５年４月	R４年３月～R４年４月
地域包括支援センター（市）	13	23
地域包括支援センターうめぞの	22	17
地域包括支援センターすえひろ	11	13
計	46	53

(2) 勉強会等

開催日	名　称	参加人数	内　容
３～４月 各月７回 （計 14 回）	ケアプラン勉強会	229（延べ人数）	各グループの目標に沿った事例検討、自立支援のケアプランへの指導、地域のケアマネジャーからの相談　ほか

6　介護予防に係るケアマネジメント

(1) 介護予防支援委託にかかる居宅介護支援事業所

令和５年４月分

介護予防支援事業所名	委託事業所数	委託件数	契約事業所数
地域包括支援センター(市)	３０	１１９	６５
地域包括支援センターうめぞの	３０	１８８	６２
地域包括支援センターすえひろ	３７	１９０	６６

(2) 介護予防ケアマネジメント・介護予防支援件数　（延べ件数）

区　分	プ　ラ　ン　件　数	
	R５年３月～R５年４月	R４年３月～R４年４月
地域包括支援センター（市）	420	440
地域包括支援センターうめぞの	799	796
地域包括支援センターすえひろ	598	538
計	1,817	1,774

7　任意事業

介護サービス相談員派遣等事業

派遣期間	派遣回数	派遣施設等	
3月	3施設 延べ3回 介護サービス 利用者宅 1名 延べ1回	二俣尾幸廻堂	グループホームひだまりの家
		グループホームみんなんち第2	介護サービス利用者宅
4月	6施設 延べ6回	二俣尾幸廻堂	グループホームひだまりの家
		特別養護老人ホームあゆみえん	特別養護老人ホーム和楽ホーム
		特別養護老人ホーム第二青梅園	デイサービスセンターきぼうの里

8　その他

(1) 介護予防講演会

開催日	内　容	参加人数
3月23日（木）	人生１００年時代、運動を楽しもう「運動を始めるのに遅すぎることはありません」	35

(2) 認知症サポーターステップアップ講座

開催日	場　所	参加人数
3月17日（金）	市役所会議室	30

(3) 出張もの忘れ相談会

認知症に関する相談や相談窓口の周知のため、出張相談会を実施した。

開催日	場　所	参加人数
3月8日（水）	中央図書館　多目的室	20

(4) 介護予防教室

介護予防、フレイル予防等をテーマに、リハビリテーション専門職などを講師として、講義や体操、レクリエーションを実施した。

開催日	場　所	参加人数
3月22日（水）	市役所会議室	20

(5) ７５歳在宅高齢者調査票の送付

フレイルチェック等や既往歴を確認する調査票を送付し、郵送で回収を行った。

調査結果をもとに、訪問を行い、高齢者の状況把握に努めた。

調査票発送数	調査票返送数	電話・訪問等延人数	把握人数
1,611通	1,234通	2,366人	1,465人

送付対象者：令和４年４月１日時点で７５歳の市民（要介護認定者のうち居宅介護支援事業所との契約のある者と病院施設入所者は除く。）

(6) 趣旨普及および広報

広報おうめ

3月1日号	・高齢者等の見守り協定を締結しました ・寄りませんか「うめカフェ」 ・高齢者スマートフォン体験会 ・介護予防講演会「人生１００年時代、運動を楽しもう　運動を始めるのに遅すぎることはありません」
3月15日号	・介護サービス相談員の募集 ・いつまでも住み慣れた町で元気に過ごそう
4月1日号	・温泉保養施設の利用料を助成します ・おいでください地域サロン ・東京都シルバーパス
4月15日号	・地域包括支援センター（第一地区）運営業務委託事業者の募集 ・寄りませんか「うめカフェ」 ・人生１００年時代　お化粧の力でフレイル予防 ・認知症サポーター養成講座 ・健康寿命のび～る教室

※令和５年３月１日～令和５年４月末まで

資料１３－１

地域共生社会推進会議および地域福祉計画の進捗状況について

１　地域共生社会推進会議について

（１）第１回会議の協議内容

４月２０日に第１回会議を開催し、事務局より青梅市のこれまでの取組や国の動向、地域福祉計画における今後の策定スケジュール等の説明を行った。各委員からは、地域における現状や課題等について活発な意見が出された後、会長から各委員に対し、計画に盛り込むべき事項を検討すること、そして次回会議での報告が求められた。

第２回会議が８月７日に予定されていたところではあったが、８月の会議前に追加で協議を行うべきとの意見が多く、急きょ５月２６日に第２回会議を開催することとした。会長からの意見の求めに対し、事前に事務局において、各委員からの意見の集約を行い、第２回会議の開催前に各委員に集約結果を報告した。

（主な御意見）

・こどもができない家庭の福祉も計画に盛り込めないか。
・発達障害者グレーゾーンの方への支援が必要。
・社会福祉協議会が担うべき役割は大きい。
・高齢者、障がい者、こども等分けないワンストップの総合相談窓口をつくれないか。　ほか

※議事要旨は、市ホームページに掲載済み。

（２）第２回会議の協議内容

５月２６日に第２回会議を開催。事務局からは、アンケート調査における回収状況の中間報告や前回の議事要旨の報告等を行った。各委員からは、事前に集約した意見に対し、多くの意見が出された。最終的には、発言のあった意見を会長および事務局で集約することとした。

（主な御意見）

・自治会の加入率の低下を改善する必要がある。

・防災は地域のつながりを強化することが必要。
・８０５０問題や引きこもり問題など、どこに相談に行ったら良いかわからないという声が多い。総合相談窓口をつくるべき。
・国は、「重層的支援体制整備事業」の「包括的相談支援」を推進しているが、その窓口は市内にいくつあるべきか議論が必要。ほか

（３）第３回会議について

次回は８月７日に開催。事務局からアンケート集計結果の報告、検討中である計画骨子案の提示を行い、会議で協議いただく。

２　地域福祉計画について

（１）進捗状況

２回開催された地域共生社会推進会議の協議内容およびアンケートの集計結果等をもとに、共通理念等を含め、計画骨子案を現在作成中。８月７日の第３回会議において、計画骨子案等を提示し協議いただき、計画骨子の方向性が固まり次第、具体的な施策等の検討に入る。

（２）「高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画」との関連性

現時点における地域福祉計画の構成案は、資料１３－２のとおり。「第１編　総論」は、「地域福祉計画」、「高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画」および「障害者計画・障害福祉計画・障害児福祉計画」全てに関連する事項である。

「第１章　計画の策定に当たって」では、「計画策定の背景・趣旨」や「計画の位置づけ」等を掲げ、「第２章　計画改定の考え方」では、福祉分野の共通理念を掲載するとともに、「地域福祉」の定義や重層的支援体制整備事業等についても盛り込んでいく。福祉分野の共通理念は、青梅市における最上位計画である「第７次青梅市青梅市総合長期計画」の福祉分野と合わせ、「多様性を認め合い、みんなが健やかに暮らせるまち」とする方向性で調整中。

第３回地域共生社会推進会議の結果については、改めて介護保険運営委員会に報告させていただく予定。

資料１３－２

地域福祉計画構成案

現時点での計画書の構成案は以下のとおりです。

地域福祉計画　全体構成案

第１編 総論
- 第１章　計画の策定に当たって（背景・計画概要等）
- 第２章　計画改定の考え方（**地域共生社会の考え方**）
- 第３章　基本統計からみる市の現状
- 第４章　計画の全体像
- 第５章　計画の進行管理

第２編　地域福祉計画
（成年後見制度利用促進基本計画・再犯防止計画含む）
- 第１章　地域福祉を取り巻く現状と課題
- 第２章　計画の基本的な考え方と施策体系
- 第３章　取り組み内容

第３編　高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画
- 第１章　高齢者保健福祉・介護保険事業を取り巻く現状と課題
- 第２章　計画の基本的な考え方と施策体系
- 第３章　計画の取り組み内容
- 第４章　介護保険サービスの事業量見込みと介護保険料の設定

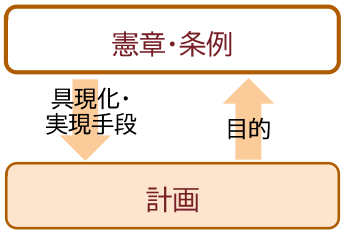
第４編　障害者計画・障害福祉計画・障害児福祉計画
- 第１章　障害者・児福祉を取り巻く現状と課題
- 第２章　計画の基本的な考え方と施策体系
- 第３章　計画の取り組み内容
- 第４章　障害福祉・障害児福祉サービスの事業量見込み

資料編

共通する統計情報のまとめや福祉分野共通の将来像を提示します。
また、計画の全体像として各計画の体系を提示することで**一覧性の確保**と**重複事項の整理**を行います。

重層的支援体制整備事業に係る事業は第３章の施策体系に散りばめるとともに、必要に応じて実施計画として再編します。

介護保険事業計画と**障害福祉計画**では、第４章にサービス事業量の見込みを掲載します。

市で新たに定めた「青梅市高齢者憲章」、「障がいのある人も障がいのない人もその人らしく暮らせる共生のまち青梅市条例」および「青梅市虐待・配偶者暴力の防止に関する条例」の内容を具現化する計画となるよう、憲章・条例の内容を整理した上で、施策体系との関連・整合性を確保します。

■憲章・条例と計画の関係